

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始





291  
1

# 日本地名 大辭典

第五卷

ヒーツ

日本書房

文部省圖書
會 22933
7-111
共 6 冊





裝幀 恩地孝四郎画伯

日本地名大辭典

第五卷





津市 三浦縣五市の一にて縣廳の所在地。伊勢平野の中部東側に在り、上古日本三浦の地なり。安濃津の地に在り、今の津市は南北に延伸し、南は瀬川によりて一帯を占め、西は安濃郡を、北は高島郡に接し、東は伊勢海に面す。その海濱の中部は即ち阿漕浦なり。東西五・七軒、南北八・三軒、面積約一八・七方軒を有す。西北部の一身田町(河島郡)・安東村(安濃郡)に接する部分、及び西南部の神戸村(安濃郡)に近き部分には、いづれも高さ三〇—四〇米程度の丘陵あるも、その他は至る處低平なり。市街は南北に貫く伊勢街道を中心にして發達し、中部を東に貫流する岩田川、そのヤ、北方を東北流する安濃川によりて市は橋内・橋北・橋南の三部に分たれ、中央の橋内は最も繁華の地とす。道路は伊勢街道を輻軸とし、これより分岐するものに伊勢別街道、伊賀街道あり。前者は市の北部より西北に通じ、關町(鈴鹿郡)に出でて舊東海道に連り、バスの便あり、後者は中部より西して伊賀の上野に達す。鐵道には省線參宮線西部を南北に走り、津・阿漕の二驛(前者は明治二十四年、後者は同二十

六年設置)を設け、社線參宮急行電鐵伊勢線は東部を南北に貫き江戸橋・參急電津・津新地・津海岸・阿漕浦・結城神社前の六驛を、また同電鐵の津線は參急電津驛より岐れて省線參宮線に沿ひて南下し參宮新町驛を設け、此外、社線中勢鐵道は市の中央部の岩田驛より起りその阿漕驛を経て久居町(一志郡)方面に向ひ、社線安濃鐵道は市の西部新町驛より河島郡明村に達し、何れも市の内外陸上交通の便を助く。海上は岩田川口に津港ありて内務省指定港なるも、海岸水淺くして大船の出入に適せず、古への安濃津の良泊も今はその價值大ならざるを憾とす。市は慶長十三年藤堂高虎が今の橋内の中央部に津城を改修して以來、三十二萬石の城下町として榮え、伊勢は津でもつ津は伊勢でもつとの俗語にもその繁華を歌はれしも、今は三重縣廳・安濃津地方裁判所・同區裁判所・津稅務署・津警隊區司令部・津憲兵分隊等の官衙及び三重高等農林學校・第二拓殖訓練所等をはじめ男女中等諸學校等ありて寧ろ縣の政治・司法・軍事・教育等の中心として重きをなすの觀あり。市の産業中第一位を占むるものは工業にして、特に紡織工業に屬する綿糸(一四二二萬圓)・金巾(九三二二萬圓)・綿縮(一七五萬圓)・タオル(一五二萬圓)等を最とし、外に小麥粉・木製品・醬油・清酒・菓子類等の工産品ありてその總價額三六七〇萬圓に近し(昭和

ツーツ

十一年)。農業は工業に次ぎ、米(約一五〇〇石)・麥(約二七〇〇石)を主に、蔬菜・果實等を産し、この外家禽・卵を出し水産また少からず。市は米の集散地として著はれ、また地方商業の中心たり。〔沿革〕仁徳天皇の三年安濃津を日本三津の一と定めらる。天延・貞元の頃出羽守平正度の子貞衡此處に住し、城府を東海の瀨に築き子孫數代知行せり。明應三年及び七年の二回に大地震あり、爲に市街地十有九町歩海中に陥落し、地形頗に一變せり。有名なる安濃松原も亦遂にその跡を失ふ。永祿年間、細野登政守藤敦此地に城壘を築く。同十二年織田信長その弟上野介信包に命じ此城に在りて守護の任に附らしむ。天正年中信包は津の町を現在の位置に移せりといふ。舊地は始め阿漕と稱し所謂阿漕平治の舊蹟一帯の地なり。豊臣秀吉朝鮮征伐の際、九鬼長門守軍船を監合し、此の津にて艦裝を整へ、威風堂々渡海の途に上りし事一書に見ゆ。越えて文祿元年富田信濃守知信ここに封ぜらる。慶長五年關ヶ原の役起るや知信の子信高は徳川氏に屬し、此城に據り西軍と戦ひて屈せず、木食上人の調停により開城す。亂平きて後、信高は増封せられて歸城す。當時籠城苦戦の慘境たる跡は今なほ古刹四天王寺建造物の一部に存す、其後、慶長十三年戊申藤堂和泉守高虎伊豫より移封せらる。當時津は東海道及び京都より伊勢神宮に參拜する

の官道に當り、海陸の交通至便にして、旅客の往來股賑を極む。高虎城郭を改造し、市域を擴張して大に住民を招來し城下市街の規模を整ふ。爾來二百有餘年徳川氏太平の治績に遺ひ藤堂氏歴代の所領たり。當時は南北三十餘町、民屋二千五百餘戸と稱す。王政維新に舊藩主藤堂高猷は版籍を奉還し津縣と稱し、之に知事たり。明治四年十一月安濃津縣と改め、同五年三月更に三重縣と稱し廳舎を四日市に移し、同六年再び津に復す。同二十二年安濃郡より分離し橋北・橋南とを合せ津市として市制を施行す。同四十二年安濃郡の塔世・建部の二村を合併し、昭和九年に安濃郡新町を、同十一年安濃郡藤水村を合併して今日に至る。〔津城址〕丸ノ内本丸にあり。永祿年中に細野登政守藤敦の創建にかゝり、慶長以後は藤堂氏の居城なりき。いま本丸・東丸・西丸址および城濠を存し、舊本丸の境域を存す。〔津公園〕舊藩主藤堂氏が安政年間の開創せし別荘を、明治十年に借樂園と稱せしもの。跡形に蟻まる丘陵に花木巖石を配置し、中央の凹地に加工せるハツ橋を構ふ。園内に櫻・紫陽花・藤・紅葉の名勝あり、傘の臺と稱する最高地點には象觀亭ありて、伊勢海を一望に收む。〔阿漕驛〕↓阿漕(明治天皇八幡御小休所)指定史蹟。大字津字八幡御小休所。明治十三年山梨・三重兩縣及び京都巡幸の際、七月九日御小休所となりたる處に

MIOR



して舊規模よく存す。「結城神社」八幡町に鎮座。別格官幣社。祭神、結城宗廣。文政十一年藤堂氏によりて建てられしもの。此地は宗廣の病歿せるところと傳へ始め墓側に小祠を建て、里人崇敬せしを文政七年藩主藤堂高兌社殿を改築、墳墓を修造し、祭典等の費を藩より支出せしむ。明治十三年明治天皇御巡幸あらせられし時、勅使御差遣ありて奉祀料を下賜の外、社殿造替の費あるを賜召され御下賜金あり。例祭、五月一日。「高山神社」丸之内に鎮座。祭神、藤堂高虎。もと津城内にありしが、明治維新後神祠建立の議起り、藤堂家及び舊藩主各々資財を獻じ、明治十年市内下部田に祠を創建、同十四年現地に遷座す。例祭、十月五日。「八幡神社」八幡町に鎮座。祭神、應神天皇・神功皇后外二神。別稱、巽社・安濃津八幡宮・藤方八幡宮。建武年中足利將軍家の宿願により山城男山八幡より勧請せるもの。のち藤堂氏の所領となりてよりその崇敬を受け、神領三百石を寄せられ同家の鎮守神と定めらる。例祭、十月十五日。「大市神社」大字岩田字宮前に鎮座。祭神、大市比賣命・天照大御神・大國主神等十四柱。もと石田川邊松樹下にあり、よつて川松明神と稱せられ、石田村の産土神として崇敬せらる。然るに社地は洪水を被ること多かりしため、のち現社地に移すといふ。例祭、十月二十一日。「寒松院」寺

町にあり。天台宗。慶長十三年藤堂高虎の創建に係り、累世、津・久居藩主兩藤堂家の菩提所にして、維新に至るまで輪王寺宮直轄院家寺なりき。明治十三年明治天皇御巡幸の際には行在所に充てられ、同二十年英照皇太后行啓の節また御泊所に充てらる。寺寶の絹本着色藤堂高虎像一幅は國寶。「觀音寺」大門町にあり。眞言宗東密派。恵日山。本尊聖觀世音は和銅二年阿漕ヶ浦にて漁夫の網に入りて出現せるものと傳ふ。藤堂氏累代の祈願所。堂宇中本堂は國寶。「西來寺」乙部にあり。天台宗眞盛派。龍寶山。阿山郡長田村西蓮寺と共に本山西教寺三末頭の一。延徳二年派祖眞盛伊勢巡錫の砌、道俗の請によりて念佛堂を建立せるに始原す。文政・天保の頃眞阿本寺の住持たり。國寶、奥殿・阿彌陀四尊像一幅(絹本着色)・聖徳太子勝鬘經講讀圖一幅(絹本着色)・法泥聚經卷第二・第十二の二巻及び大般若經第九卷一帖。「四天王寺」榮町にあり。曹洞宗。塔世山。推古天皇の勅願所にて、聖徳太子王城鎮護のため東西南北に各一寺を建立し給ひし其一と傳ふ。往昔は法相宗、中世は天台宗たりき。累代領主の崇敬を蒙り、寺領も多かりき。寺寶中、大日如來坐像一幅(木造)・藥師如來坐像一幅(木造)・阿彌陀如來坐像一幅(木造)・阿彌陀如來坐像一幅(木造)を始め外九點の國寶を蔵す。「上宮寺」寺町にあり。眞宗高田派。大樂山と號す。

聖徳太子行宮址にして、和銅年中の草創に係る。もと律宗なりしを、中興信西法師高田派に歸依して現宗に轉ず。のち本山三世顯智上人暫く此處に在りて宗祖親鸞の像を造立す。本尊は太子十六歳の像なりと。淨明院。乙部にあり。臨濟宗相國寺派。松林山長樂寺。俗稱達磨寺。延寶八年藩主藤堂高次の開基、開山を祖玄拙堂とす。藤堂家菩提所として永く一門の崇敬を蒙り、達磨堂には加賀の小島作左衛門の作に係る達磨坐像を安置す。高さ七尺五寸、日本第一と稱せらる。「大寶院」大門町にあり。眞言宗醍醐派。南郡西大寺の覺乘の開創に係る。堂宇中、本堂(阿彌陀堂)は國寶。「地藏院」中河原にあり。眞言宗醍醐派、子安山。天文年中の建立。本尊の地藏菩薩は安産守護の靈像として庶衆の信仰厚し。本尊地藏菩薩畫像(絹本着色)は鎌倉末期の作と推せられ國寶たり。「天然寺」乙部町にあり。淨土宗。慶長中の創立にして、露牛和尚を開基とす。住時は同宗の鎌司を兼掌せり。「蓮光院(初午寺)」下部田にあり。古義眞言宗。本宗御室末。寺寶の大日如來坐像一幅(木造、藤原末期作)は國寶たり。

む。大寶令また之に従ふ。延暦十二年これを廢して津國とし國守を復せしが、依然攝津の字を襲ひ而もツノクニと訓ぜしものならん。後世はセツツと音讀す。  
【津】 通口面 朝鮮江原道金化郡の東北隅、北漢江中流左岸にあり。大白山脈中に位置し、東境に舊斷髮嶺(一四四一)及び玉田峰(一四四一)聳立して東部、淮陽郡長楊面との境を劃し、西北境には清祈山(一〇八七)・九鶴山(九三〇)等聳え餘勢域内に及び山岳重疊し、之等の山地に發源せる北漢江の支流通口川は横谷をなして西南流し而境に近き地點に於て北漢江に合流し、該溪谷に僅かに低地を見る。産物、米は西南部の地域に限られ、大麥最も多く其他大豆・粟・葉煙草、大麻等あり。畜産多くして重要物産を成す。社線金剛山電氣鐵道西方より來り縣里(昭和四年開業)・桃坡(昭和九年開業)・花溪(昭和四年開業)・五兩(昭和五年開業)の各驛を経て、東境の斷髮嶺(八二四)を踰えて淮陽郡に入る外は、道路の改修未だ充分ならず、他地域への連絡は多く峠を控へ、其主なるものに前記斷髮嶺の外、德嶺谷嶺(六二二米)・千發吉嶺(七二八)・德時嶺(六三七)等ありて交通不便なり。西南部の縣里に面事務所・金融組合・小學校・市場等あり。  
【津】 通霄庄 臺灣新竹州苗栗郡の西部海岸。竹南郡後龍庄の南

に接し、西は臺灣海峡に面す。海岸沿線の一部を除く外は殆んど丘陵性の山地をなし、總面積の割合に平地狭小にして且つ水利の便に恵まれず、農耕地は僅少なり。米・甘蔗・西瓜・甘藷・落花生・茶を主要農産物とし、また帽蓆の原料たる大甲蘭を産す。畜産は畜牛(黄牛・水牛)・山羊・豚・家禽類(鶏・鶩その他)にして畜牛は専ら農耕及び運搬に使役せられ、豚及び家禽類は一搬農家に於て副業的に普く飼養せられ、管外に搬出するもの多し。林業は近來造林事業奨励の結果、漸次有用樹木の造林面積を擴大し、木炭の産出勢からず。家内工業としては該方面の特産たる帽子編織業を極め、帽蓆の生産高多し。沿岸地方にては漁業行はれ生魚を供給す。大字通霄は海水浴場を以て知らる。縦貫鐵道及び縦貫道路は共に海岸を南北に貫通し、前者は白沙屯・新埔・通霄の三驛(大正十一年設置)を置き、後者には乗合自動車を通じ、交通の主動脈を爲す。他に通霄を起點とし、縦貫道路より主要部落に至る保甲道路を分岐す。管内はもと總て苗栗二堡に包含せられ、清領當初平埔蕃族の一なるトンシアウ(春霄)通霄の地に屬し、乾隆初年粵人によりて南勢・北勢・梅樹脚等の開拓せらるゝに伴ひ、通霄の街肆成り、同八年に通霄灣、二十年には新埔の埔地開かれ、かくして濱海地方略々拓殖に就きしも、山地方面は尙ほ未だ土蕃の出没

加害を免れず、依然荒埔に屬せしが、十二年の頃、土城方面に防蕃施設をなして開拓に従事せし者ありしも、蕃害甚だしかりしため中道にて廢棄し、其後、嘉慶十一年に至り始めて成功せり。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、清領時代より存続せし堡は廢せられ、新たに通霄庄を建つ。  
【通津】 通津 月申面(朝鮮畿道) 通川 朝鮮江原道二十一郡の一。道の東北邊にありて、東及び北は日本海に面し、西は咸鏡南道安邊郡、西南は淮陽郡、東南は咸鏡道に接す。面積八二三方軒餘。西方の一帶は咸鏡道より來れる大白山脈連亘して、西境に黃龍山(一〇九六)・八米、南境には雨動山(一〇九六)・鷹山(二二三)・錦嶺峯(一一一三)等聳え、南方金剛山脈に迫る。河川の主なるものは北より油川・漢川・十二觀川・廣橋川等にして、その下流にはヤヤ廣き耕地横はる。海岸は蓮臺山(八六)・叢石山(七二)・興雲臺(九八)等の丘を核心とせる弓状の特色ある砂濱長く連なり、中央に庫底の良浦あり。その東角には玄武岩より成る叢石亭の奇勝あり。北部海岸には小洞庭・天鶴浦・江洞浦等多数の小湖群横はる。産物は米・大豆・雜穀類等の農産と、鱈・鯉・鮭・鱒・鱒

等の水産を主とし、特に鱈は近海に好漁場を有する爲めに漁獲高も多く、庫底・致弓里・金蘭里等はこれ等漁獲の根據地たり。その他、牛の飼養盛に行はれ、工業に麻布・窯業製品等あり。櫻井金礦よりは金・銀(約八萬)を出し、その他石灰・タンクステン等を産す。總督府鐵道東海北部線と元山・江陵間二等道路は東部海岸に沿うて並走し、後者は通川より南方嶺地嶺を踰えて淮陽郡に入る自動車道路を分つ。郡内を行政上、七箇面に分ち郡廳を通川面に置く。  
【通川】 朝鮮江原道通川郡の中央に位置し、東は日本海に面す。大白山脈の東斜面に當り、西境近く雨動山(一〇九六)聳え、餘勢域内に及び西牛部は山地を成せども、東南部は廣橋川の沖積地を成し土地低平にして耕地や廣く連る。海岸は單調にして概ね砂濱海岸を成し良泊に乏しきも、中央に九神嶺の顯著なる崖岸を見、ここに金蘭宮の奇勝あり。住民は主として農業に従事し、沿海の金蘭里・坪里・東亭里の部落民は漁撈及び製鹽に従事す。産物は米・大豆・雜穀・麻布・鱈・鮭・食鹽等あり。總督府鐵道東海北部線は南北に通川驛(昭和六年開業)あり、道路は通川邑を中心として北方元山、西南淮陽、南方襄陽に二等道路走り自動車を通じ交通便なり。通川邑は面の略中央に位置し、北方近く庫底港を控へ物資集散の中心を成し、郡廳・警察署・地

方法院支廳・道森林保護區・穀物検査所・郵便局金・融組合・小學校等あり。  
【通仙】 通仙面 朝鮮平安南道咸川郡の西端に位置し、郡邑咸川とは大同江の支流沸流江を隔てて相對す。狼林山脈に屬する鷲峰山(五一三)・文明山(五二八)等聳立して、南境及び西境を劃し、北方に向つて漸次低夷す。北境には沸流江流入蛇曲流を成して西流し、沿岸に河成段丘の發達を見る。耕地は緩傾斜面及び段丘上にその發達をみるも概して灌漑の利に乏しく、隨つて水田極めて少なし。産物は葉煙草最も著はれ其他大豆・玉蜀黍・棉花・絹布・紙等あり。明抽も亦市場に聲價高し。また東北部は東都金銀嶺山の嶺區の一部に當る。道路は元山への一等街道域内東部を南北に縱斷せる他は改修未だ充分ならず險坂・崎嶇途中に横たはり交通便ならず。聚落は散村型にて面事務所を徳岩里に置く。  
【通洞】 通洞 足尾嶺の一驛(大正元年設置)。栃木縣上都賀郡足尾町松原にあり。  
【津有村】 新潟縣越後國中頸城郡の中部。高田市の東に隣り荒川によりて境せらる。面積一八方軒餘。頸城平野の略中央部を占め、土地平坦肥沃、良質の上越米の産地なり。東西に縣道走り高田市へバスの便あり。古くは高土村と共に和名抄、頸城郡高津郷の地とす。居多社應永文書に津有郷の名見ゆ。蓋し當







ツカツキ

調月村 和歌山縣紀伊國那賀郡の中央西偏。貴志川が紀ノ川に合流する邊の東岸を占め、西北部は僅に岩出町に接し和歌山市の東方約一六軒にあり。西北より東西に細長く面積五・七方軒餘の小村。東南部には高さ三百米内外の山地あるも、西北部は平坦なる低地をなし、貴志川西境を北流し北部にて東隣安樂川村より来る柘榴川を合す。米・繭・柑橘を産し外に畜産・工業あり。西北方の岩出町へバスを通じ交通便なり。此地は和名抄、那賀郡神戶郷の内にして、中世貴志庄に屬す。調月大歳大明神縁起抄によれば、皇子吉仲廣なるもの此處に來り一字の幽屋を築き住居す。之を十景山と稱す。のち奇夢を感じ、その臣調月に命じ祠を建て大歳大明神と稱す。推古天皇六年皇子薨じ十景山に葬る。調月も次で卒す。皇子の居により其名を吉仲御莊といひ、其邑に調月と名づけしと。

ツカツミ

東積 伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄汗入郡に東積郷見ゆ。いま東伯郡上中山村の大字に東積あり、これ郷名の遺稱にして、從つて郷域は上中山・下中山二村に互る邊なるべし。

ツガネ

津金村 山梨縣甲斐國北巨摩郡の北部。韭崎町の北方約一六軒。鹽川支流の左岸に沿ふ。横尾山の西南嶺東境に連り、南境には斑山(一一一五米)を起す。地東北より西南に傾斜し、西南部に多少の平地ありて田畑拓け米・繭・桑。

ツガル

津輕・津刈・都加留 【津輕・津刈・都加留】青森縣東津輕・西津輕・南津輕・北津輕・中津輕の五郡の地の總稱。古へ時により其意味せる範圍には多少の相異あるべし。その最も甚だしき例としては今の弘前市の邊だけを津輕と云ひしことあり。されど大體に於て陸奥國(狹義)の西半、即ち同國を縱斷する奥羽山脈以西にして、その東北端を夏泊岬とすべし。而して南方の羽後國界は山嶺を以て米代川の流域を分ち、奥羽山脈の一支津輕山脈は半島の脊梁をなし陸奥灣に近く南北に連りす。從つてこの山脈の東部は平地に乏しく僅に青森市附近に小平野あるのみなるが、西部は平地北に潤け潤ゆる津輕平野をなし岩木川の本支これを灌漑す。西海岸には砂丘横はり概ね平滑にして僅に十三湯附近に舟着あるのみ。ツガルの地名の古書に見ゆる最初は、日本書紀、齊明天皇元年七月の條にして「仍授三橋養蝦夷九人、津刈蝦夷六人、冠各二階」とあり。橋養蝦夷は云はば夷地鎮護の御味方蝦夷なれば、或は津刈蝦夷も之に準ずる如きものか、少くとも御味方蝦夷たらしむる爲の懷柔策として冠を授けられしものとす。同四年四月の條には、阿倍臣(比羅夫)が船百八

ツカツツツカ

麥の産あり、山地よりは薪炭を出す。南方約六軒の若神子村に出づれば韭崎町へバスの便あり。此地は清和源氏、佐竹昌義の裔、對馬守某住し津金氏を稱せし所にして、村内に古宮城址・源太ヶ城址あり、共に津金氏一族の據りし所。「海岸寺」臨濟宗妙心寺派。津金山と號す。僧行基の開創と傳へ、天平九年聖武天皇より勅額を賜ふ。中興を石室とす。國寶に千手觀音坐像(木造)一軀あり。

ツガノ

都賀野 富山縣越中國射水郡の中部。庄川の右岸に沿ひ新湊町・大門町の略中間に位し、何れへも約三軒を距つ。面積は僅か六方軒餘に過ぎざるも土地低平にて肥沃、全村田地よく拓け米の産多し。新湊町・大門町へ縣道通じ、省線北陸本線越中大門驛へ約四軒、バスの便あり。此地古くは和名抄、射水郡川口郷に屬せしものゝ如し。近世は附近諸村と共に牛村庄と稱す。また康正二年造内引付に、「五百文、武田下條殿、越中國塚原保段錢」と見ゆるも此處とす。

ツカマ

東間 山梨縣(新瀉縣) 大枝村(京都府乙訓郡) 筑摩 筑摩 明治の初め長野縣松本に置きし縣。南信濃にありし伊奈・松本・飯田・高遠・高島の五縣と、飛騨國高山に

ありし高山縣と廢して筑摩縣を置き、南信四郡(筑摩・伊那・諏訪・安曇)と飛騨全國とを管せしが、明治九年八月に廢し飛騨國を岐阜縣の管下に移し、南信四郡は長野縣の管下とす。 【筑摩(郡)】信濃國(長野縣)の古郡名。書紀、天武紀に東間とあるは本郡を指せしもの。信濃國府の所在地。續紀、延暦八年紀に筑摩郡の名見ゆ。名稱はツカ即ち高き丘の間の地を意味するか。和名抄は豆加萬と註し良田・宗賀・辛犬・錦服・山家・大井の六郷を管す。延喜兵部省式に筑摩・西筑摩の二郡として今日に至る。 【ツカモト】塚本 大坂市西淀川區の町。東海道本線の塚本驛(昭和九年設置)を置く。

ツカヤマ

塚山村 新瀉縣越後國三島郡の南端。信濃川支流澁海川中流に沿ふ。小千谷町の西北方約一〇軒。東は北魚沼郡の北部に、南は刈羽郡千谷澤村に界す。東・西兩境は高さ二一三百米の丘陵によりて限られ、略中央を澁海川東北に貫流し、狭き平地開かる。米の産最も多し、次いで繭を産す。省線信越本線は西南境の廣田峠を経て來り中央の谷に沿ひて東北に走り、塚山驛(明治三十一年設置)を置く。南方刈羽郡上小國郷へはバスの便あり。

ツカヤマ

都賀山 近江國(滋賀縣) 益須(野洲)郡の古地名。書紀・持統紀の

十艘を率ゐて郡田・淳代(秋田・能代)に至れば、蝦夷等勢威に怖れて忠誠を誓ふ。かくて「定」淳代津輕二郡々領、連於三有馬濱(三粟渡島蝦夷等、大粟雨歸)とあり(右にある有馬濱は今の十三湯の邊なるべし)。翌五年三月の條にはまた阿倍臣は船百八十艘を率ゐて奥羽に至れること見え、此時も亦前同と同じく戦はずしてむしろ懷柔の策に出づ。即ち能田・淳代(秋田・能代)津輕・膽振組(北海道に居住せる夷か)の蝦夷の重だちたる者四百人餘を一所に招じ、彼等の面前にて蝦夷の神を厚く祀り且つ彼等を大いに饗する所ありき。これより先、四年七月の條には蝦夷二百餘京に出でて朝獻せしが、此際も當局より非常なる特別款待を受く。此際、等しく朝獻したる淳代郡大領及び淳足樗造の二人には小乙下を授けられしが、津輕蝦夷には大乙上を授け、その補佐役にすら小乙下を授けらる。別に津輕蝦夷には船旗廿頭・鼓二面・弓矢二具・鎧二領といふ土産物まで賜はる特別の待遇なりき。これ等の事情は、後代津輕六郡中の外三郡が彼の遠隔の地なるに拘らず、早くより京役(朝廷御領)なりしことと、或は一聯の關係を有するものか。それは兎もあれ、當時の津輕蝦夷につきて尙一つ貴重なる資料あり、即ち同じく齊明紀五年七月の條に、伊吉連博德書曰として石布・吉群の二人が唐に遣されし時、天子と彼等との問答あり。それによ

ツカツツツカ

八年に體泉この地に湧き、疾病者益須寺に滯留して療養するもの多きを記す。野洲郡守山町の禪利大光寺の寺記に體泉址は寺門の南にあり俗稱して甘香池といふとあり。輿地志略によれば、同郡小津村の大字三宅に體泉址と稱するものありとあるも詳かならず。

ツガユキ

都賀行村 島根縣石見國邑智郡の東部。江川の中流に位し、北は濱原村に隣り、南は都賀村を隔て廣島縣雙三郡の西部に近し。面積約六二方軒。西北境に石見山(六二九米)、西南境に唐溪山(六五九米)、東北境にも六百米臺の山脈連り殆ど山地をなし、江川中部を曲流北行し川筋に申狭き耕地を拓く。都賀行・高梨・長藤等の聚落は川沿に發達す。米・繭・木炭・木材等を産出す。江川は下流の那賀郡江津町方面へ舟楫の便あり。此地は和名抄、邑知郡都賀郷の内なり。

ツカリ

東荷村 山口縣周防國熊毛郡の東北部。田布施驛の西北約八軒、南は鹽田村・岩田村に隣り、東は玖珂郡高森町に界す。面積一〇方軒餘。東北部には高度二一三百米の低山性山地ありて西南方に傾き中部より西南部には低地あり、東荷川西南流す。物産に米・麥・繭・鶏卵・木材等を産し、また防長館置種製造所の設けあり。平生町・田布施町を経て西方徳山市方面への縣道通じ交通不便ならず。此地は和名抄、熊毛郡周防郷の内。東寺文書、安貞二年、修明門院御處

れば蝦夷に三種ありとし、遠きを都加留。次は龜蝦夷、近きを熟蝦夷といふ。なほ其處には五穀なく肉を食し、展合なく深山の中、樹木に止住すとあり。以上齊明紀以後、津輕の名は東鑑まで見え。即ち延喜式・和名抄・拾芥抄等に見えざるは、阿倍比羅夫の建郡以後、再び化外の地となりしものなるべし。平安時代より鎌倉時代までの間に、津輕の地は舊式な酋長制體より比較的近代的な因長制體に變化したるならん。即ち衣川を本據とし、浮因長として陸奥に蔓りし安倍頼時及び其子貞任は、源頼義及び其子義家に滅亡せしめられしが(康平五年)、其子孫として津輕に來り、のち安藤(安東)氏を稱すとす。安藤系圖によれば、貞任の末子則任は前九年役の難を逃れて津輕に來り、其子季任始めて安藤太郎と稱し爾來筋流は安藤太郎を繼承す。季任の子季俊は源朝頼の奥羽征伐に従ひて功あり、かくて其子季信は津輕守となる。津輕が出羽國より離れて陸奥國に入りしは此頃ならん。その子季村、孫季長は津輕守を繼承す。季長の子次郎季綱は秋田に移住む、これ秋田氏の祖なりといふ。秋田系圖によれば貞任の次男萬千代、前九年役に逃れて津輕に來り、成長して高屋と名乗り藤崎城を築き住み、其子の義恒始めて安藤太郎を稱す。曾孫愛秀(或は愛季)に至りて津輕の西海岸十三湯の邊に移るといふ。その裔に安藤太郎盛季あり。東

隣の南部義政は其女を娶りしが、偶々津輕を訪れ其優れたる地なるを見て垂瀝置か能はず、のち父守行と謀りて嘉祥二年安藤氏の地を奪ふ。同三年盛季は蝦夷地に渡れるが、再び津輕方面に歸れるや否や明かならず、されど其子孫は屢々津輕の故地の奪還を企てしが成らず、この最後の企が失敗に終りし際、安藤政季はなほ幼少にして南部氏の擁する所となる。その成長するや南部氏は其女を政季に娶はして優遇し、以て津輕の民政策に便せんとす。政季は側近及び津輕の民が彼に同情を持つを見、獨立を企てて失敗し、享徳三年武田若狭守信廣・相原周防守政胤・河野加賀守政通等を從へて北海道に渡る(信廣は其後松前氏の祖となる)。かくて津輕の地に全く安藤氏の跡を絶つ。なほ安倍貞任の子が津輕へ來りて安藤氏を名乗りしは如何なる理か。前九年役後貞任・重任と共に京師の獄門に晒首となれる藤原經清は安倍頼時の女を娶りしもの、從つて前九年役に貞任等と共同戦線を張りしが、彼は藤原秀郷五世の孫なりと傳へらる。されば安藤系圖に於ける則任、或は秋田系圖に於ける萬千代、この者の母はかの藤原經清の縁者にあらざるか。されど、こは全くの推測に過ぎず、江湖の歌を持つこと切なり。なほ安藤太郎盛季の弟に西關安藤二郎庶季(或は庶季・廉季と見ゆ)ありて秋田に移り住む。秋田系圖によれば彼を秋田氏の遠祖とす







の本流と本郡の北部より来る支流常浪と
は町の北端にて相會し西に流れる。また
常浪川の支流姥堂川は南隣の土條村より
北流し來つて、阿賀本支流の合流點近
くに常浪川に注ぐ。北方兩鹿瀬村との
境に麒麟山屹立し、南西部乃至西部は南
方より来る山脈の末端部にて二三百米の
山地をなす。北浦原方面より阿賀川の右
岸に沿うて来る縣道は、町の北境に懸る
麒麟橋を渡り當町を横斷して東方遠くは
會津方面に至る。本町は新潟市と會津若
松市のほぼ中間にあり。もとは越後と會
津との交通の一要地にして旅宿賑ひ、ま
た阿賀川舟運の河港として榮えしが、大
正二・三年に磐越西線開通せしより舟運
絶え、旅宿も全くなり。從來、新潟市
の商團にありし本町は鐵道開通後は東京
市の商團に屬するに至り、今なほ商業は
盛にして附近諸村は多く當町の商賈より
不足品を仰ぐ。省線磐越西線は當町の地
籍は通過せざるも、阿賀川を隔てたる對
岸(揚川村)に津川驛(大年二年設置)を置
く。されば當町は全戸數八十七戸の小さ
き町なるも商家は一五四戸あり。また日
屋を業とするもの二四二戸あるは、隣村
兩鹿瀬村に昭和肥料工場あるに因れど、
もと一商家に附隨する運搬其他の日屋
仕事多き爲とす。外に農業二八七戸、工
業七八戸、庶業五六戸あるが、當町には
僅に姥堂川の沖積地其他に發達せる約七
十町歩の田と、常浪川の沖積地其他に發

達する約七十町歩の畑とがあるのみなれ
ば、農家の過半は日雇を能營とす。元よ
り商業を主とする町とて生産物には乏し
く、主なるものとして米の約二萬七千
圓、杉・桐を主とする木材約二萬三千圓
を筆頭に、野菜・木製品・清酒等を舉
ぐべし(以上數字は何れも昭和十一年現
在)。なほ阿賀・常浪の兩川より獲る鮭・
鱒などの魚類も相當の額なるが如し。
次に氣象に就て述べんに、此邊は大體阿
賀川を挟みて兩側は山岳重疊たり、而し
て川に沿うて西北方より東方に吹く風を
下風と稱し冬期は殊の外多し、之は日本
海方面より来るものにて水氣を多く含み
之が山岳に遮られ、當町の如きは一米乃
至二米、時にはそれ以上の積雪を見る。
また川に沿うて東より西北に吹く風、こ
れを山風(阿賀出ともいふ)と稱し、春よ
り夏にかけてよく吹き、屢々非常に強し。
特に此風は水分を含まざるを以て非常に
物を乾燥せしむ、古來當町に大火多きは
殆ど此風の吹く時とす。例へば永祿四年、
慶長十年、延享二年、寛延四年、寶曆十
一年、明和元年、寛政六年、明治十三年、同二
十三年、昭和三年など全町大部、二分の
一、三分の一といふ如き大火は、何れも
出風の時とす。當町人口は別表(第一卷
初頭)の如きも、大正九・同十四年の間
は年平均千人に付九・三人の増加、大正
十四・昭和五年の間は二三・七人、昭和
五・十年の間は一四人の増加にて何れも

自然増加(出生と死亡の差)以上の増加率
なるが、特に大正十四・昭和五年の間の
増加率高きは、主として北隣兩鹿瀬村に
昭和肥料工場が設置せられたる爲なり。
なほ東浦原郡全體の一方軒の平均密度は
三〇人なるに當町は五一・六人なり。之の
みを以てするも當町が山間の中心都會な
ることを認むに足らん。「沿革」東浦原
郡の地はもと小川莊と稱し當町は治者或
は管理者の居りし處、また莊の成立する
以前より統治の中心をなしたる如し。古
く阿賀・沼垂に播置かるゝ頃、阿賀川の
河口は今より津川の近くにあり、而し
て蝦夷の防備や海上交通のため津川に管
船置かれたりし傳ふるも確證なし。また
齊明紀四年に見ゆる都岐沙羅橋の都岐沙
羅は津川の古名なるべしとの説あれど未
だ信するに至らず。此地方の最初の領主
は舊記に見ゆる限り深淵仲にして、其女
を源教に娶すと共に天慶六年此領を教に
與へ、教より其子綱に傳ふ。天徳二年船
道政事布かれ綱攝津渡邊を管して間もな
く其臣神崎五郎重永を當地に遣はして船
道の事を司らしむ。蓋して近海を廣く監視
したるもの、如く、而してその領所はい
ま船番所跡を傳ふる大船場なるや否や定
め難し。長徳元年には源頼光の孫多田頼
綱、當地方を領し子孫頼國二柱神社を撰
土神とせしこと舊記に見ゆれば、或は多
田氏津川の地に住せし事あらん。次で
寛治五年より城氏の領となりしが資長に

至り、伯父なる會津惠日寺の僧綱摩堪に
此地を與へてより明治維新に至るまで此
地は會津領となれり。壽永元年院宣にて
船道役人を裁許されし頃當地地方に上條仲
久・下條仲時なるもの勢力あり、船道の
事に付、神崎五郎某を添役となせしこと
舊記に見ゆ。之に依つて見るに神崎氏は
天徳頃より津川の地にありて代々五郎を
名乗り船道の事を司りしならん。建曆の
頃、渡邊仲遠は當地の本陣場なる地に曩
を築き、地蔵にありし小祠を改造して
厚く祀る。これ今の神明神社とす。之よ
り先、佐原義連(輩名氏の祖)會津を領し
次で其後、金上氏に當地方を與へしが、
建長四年金上盛弘に至りて麒麟山に城を
築く、之を狐辰城といふ。貞治二年に至
り附近より今の津川の市街をなせる地域
に多數の移民ありし如く、それまで此地
は松木谷地と稱せし如し。大永二年吉
見包廣平山に御小屋館を築き子忠親、
孫忠春これに居館す。いま住吉神社に合
祀せらるゝ平神社は此頃の創立か、然
らずとするも吉見氏によりて神威を新に
せられし如し。吉見氏は金上氏と對立す
るものと思はれず、此頃に至りて神崎五
郎の名見えざれば、金上氏に屬し船道の
専門家として神崎氏に代れるものか。蓋
し平の神は舟人の尊崇する神、吉見氏
が平山に館したる事に注意すべし。天
正十七年輩名氏伊達政宗に亡ぼさるゝ際
金上盛弘十四世の孫盛備奮戦して死す。

同十八年五月政宗の臣大波玄蕃本城に來
り治せしが、豊臣秀吉伊達氏の地を收め
て同年八月會津に蒲生氏郷を封ず。而し
て翌十九年氏郷は其臣北川土佐を一萬石
を以て狐辰城に分封す。之より渡邊氏本
陣場を以て、蒲生氏會津を領するに
及びその壓迫に堪えず天正十八年胤綱の
時賣川に退く。上杉景勝會津を領するや
鮎川帶刀を置きしが慶長五年九月堀秀治
の兵來り攻め狐辰城陥る。同六年蒲生秀
行會津を領するや其臣岡重政を狐辰城に
分封し三萬三千石を食ましむ。同十八年
重政罪ありて駿府にて誅せらるゝや蒲生
郷春これに代り、其臣本山豊前をして代
治せしむ。同十九年秀行の子忠郷は弟忠
知を狐辰城に封じ陸奥にある三郡と合し
五萬石を食ましむ。蓋し忠郷・忠知とも
に徳川家康の外孫にて二代將軍秀忠は忠
知に松平の姓を賜はしむ。忠知は幼少
なりしかば、蒲生郷春をして代り治せし
む。此時に至り始めて津川を町と稱す。
寛永三年忠知出羽上ノ山に移封、同四年
正月忠郷卒し、嗣なくして國除となり、
同年五月松山城主加藤嘉明會津に封ぜら
る。此年嘉明は狐辰城を毀ち其厨房を以
て後の郡役所々在地に代官所を建つ。金
上盛弘築城してより三七七年とす。同八
年保科(松平)正之會津を領するやまた津
川に代官所を置き、寛文初年まで代官を
常置せしも、後時々出張するのみとなり
明治維新に至る。同十二年福島縣東浦原

郡役所を當町に置き同十九年東浦原郡は
新潟縣に編入。「麒麟山」津川町の東北
端に位し、阿賀川東より來り常浪川南よ
り來り相會する所に屹立す。高さ三三四
百米なるも火山岩斷崖をなす。山の厚さ
底部と雖も百米内外にして頂上は狐すら
も越え得ざる處あり、依りて金上遠江守
盛弘の築く城を狐辰城と名附く。風光明
輝なるを以て近隣に聞ゆ。山名はその姿
麒麟に似る故といふ。北麓に麒麟山温泉
あり。「住吉神社」町の西北方下田町に
鎮座。祭神、表筒男・中筒男・底
筒男の三命。相殿に田心姫命等六柱を祀
る。敏達天皇の九年攝津住吉より勸請と
傳ふ。例祭、陰曆七月十九日。「古志王
神社」町の南部、古志王平の丘陵上に鎮
座。祭神、大毘古命外二神。大彦
命、會津に向はるゝ際當地にて休息せら
れしが、後人その徳を慕ひ之を祀ると傳
ふ。當社は當地方にて最古の創建なるが
如く、古へ玉泉寺別當たりしと云ふ。例
祭、陰曆六月十二日。「神明神社」宇伊
勢宮に鎮座。村社。祭神、天照皇大神・
豐受大神。相殿に少彦名命。正史は以仁
王を以て平等院にて薨去し給ふと云ふも
實は逃れて當地方中山(東山村の内)に潜
居せらる。王の薨去後、扈從し來れる渡
邊仲遠が本陣場に曩を築き、その南の隣
接地にありし小祠を改造して崇敬すとい
ふ。「新善光寺」町の中央にあり。佛光
山と號し淨土宗知恩院末。定尊信州善光

寺に參籠し靈告によつて等身阿彌陀佛を
鑄造して本尊とし、建久元年草創すとい
ふ。寺名これに因む。本寺は四箇村を所
領し殷盛なりしも、享保二年御小屋館主
吉見氏に寺領を奪はれしより衰退すとい
ふ。戊辰の役に桑名藩主松平定敬越後方
面の戦に敗れて津川に退くや、當寺を以
て本尊とし約二ヶ月滞在のち若松に退去
す。「密藏院」町の西部下寺町にあり。
高聲山と號し、新義眞言宗高野山明王院
末。大日大聖不動明王を本尊とし、大同
二年高聲山白寶寺密藏院不動房が本寺の
前身にて、當地の最古の寺なるべしとい
ふ。源義家が安倍貞任等を討伐の歸途、
安倍頼時(孫忠任)津川に據りて之を邀
撃せんとす、義家の軍これを攻め逃ぐる
を追ふ。此間、義家等は本寺に五日間滞
在すと傳ふ。「正法寺」町の西方下寺町
にあり、明海山と號し曹洞宗。本尊勝軍
地藏菩薩。元久三年の草創。器金存林の
開山。鶴川丹波(金山氏の家臣)の開基と
す。「玉泉寺」町の西部下寺町にあり、
寶珠山と號し新義眞言宗豐山派。延暦二
年西村の村主皆川權頭正次の開基にて、
もと西村(いま揚川村の内)にありしとい
ふ。住職良禪は學徳高く金上氏は當寺を
祈願所となせしといふ。

津川 磐越西線の二驛(大正二年設置)。
新潟縣東浦原郡揚川村にあり。阿賀川を
隔て、津川町に對す。
【津川村】 岡山縣備中國上房郡の西部。
南は高梁町に隣接す。西南は高梁川の中
流を隔て、川上郡高倉村に對し、北は川
面・互瀬の二村に界す。面積約一五・五
方軒。大部分高さ二百米臺の高原性山地
にて東・南・西の三境の最高處には五百米
に上る部分もあり。高梁川の支流有漢川
は北方有漢村に出で互瀬村を経て村の中
部を南流し、西南境にて本流に合す。兩
河川に沿ひて耕地拓け米・麥・蕎麥・柿
等の産あり、省線伯備線高梁川に沿うて
北上し、木野山驛(大正十五年設置)を置
く。道路また高梁・有漢兩川の低地に通
じバスの便あり。町村制施行の際、今津・
八川の二村を合し津川村を建つ。「木野
山神社」大宇今津に鎮座。無格社。祭神、
大山祇命二神。天曆元年の創建。疫病に
對する靈驗あらたかにて參拜者多く、崇
敬者二十餘萬人と稱せらる。
ツキ 月の浦 ↓萩濱村(宮城縣)
津木村 和歌山縣紀伊國有田郡
の西南部。湯淺町の東南に接し東と南は
日高郡西北部に界す。面積約四三方軒。
白馬山脈は東境より南境を圍み東境に長
者ヶ峯(六五一米)、南境に小山(四五八
米)あり。北境にも一山肢西方に延びて
三本松峰(五三三米)・地藏峯(四一一米)
等聳え概ね山地をなし、東境に發する廣
川中部を西北流し、その谷に巾狭き低地
ありて田畑拓け、米・蕎麥を産し山地は木
材・薪炭を出し、外に柑橘の特産あり。
西部に縣道走り湯淺町へバスを通ずる



ツキオ—ツキカ

も交通なほ便ならず。

【月岡】 富山縣越中上野郡の中部。富山市の南方約八軒、上灘町、大久保町の略中間に位置す。面積八・六方軒。富山平野の南端部、常願寺川扇状地の西部を占め、土地概ね平坦にて田畑よく開け、南境を神通川の支流兼野川西流す。米の産多く、其他、大根・大豆等の農産物あり、また酒の醸造盛なり。富山縣營鐵道(電車)は東北部を横断し、開發・月岡・大庄の三驛(共に大正十年開通)を置く。縣道四通し、上灘・大久保兩町へバスの便あり。和名抄に新川郡車持郷あり。大字西黒牧の黒牧は蓋し車持の遺稱にや。中世は大田庄に屬したり。

ツキオレ

【月影ヶ谷】 神奈川縣鎌倉市の西部にある鎌倉寺の境内西方にあり。そこに阿佛屋敷といふあり。阿佛は冷泉爲家の室にて、夫の歿後は出家し阿佛尼と稱し、紀行文十六夜日記を以て著はる。その中に「東にて住む所は月影ヶ谷とぞいふなる、浦近き山もにて風いと荒し、山寺の俗なればのどかにすこ

ツキカゲ

【ツキカゲ】 月影ヶ谷 神奈川縣鎌倉市の西部にある鎌倉寺の境内西方にあり。そこに阿佛屋敷といふあり。阿佛は冷泉爲家の室にて、夫の歿後は出家し阿佛尼と稱し、紀行文十六夜日記を以て著はる。その中に「東にて住む所は月影ヶ谷とぞいふなる、浦近き山もにて風いと荒し、山寺の俗なればのどかにすこ

くて浪の香松風たえず云云」とあり。阿佛尼は訴訟のため鎌倉に下りて久しく此處に住めり。

ツキカセ

【ツキカセ】 月瀬村 奈良縣大和國添上郡の東北隅。奈良市の東方約二〇軒、笠置町(京都府相樂郡)の東南約一三軒。東南は山邊郡に、西は柳生村に、北は京都府相樂郡高山村に、東は三重縣阿山郡に界す。笠置山脈の東、伊賀盆地西縁山地の西に挟まれし山地に位置し、西境にては四百米、東境にては約三百内外の高度を呈す。名張川(五月川)中部を刻み、峡谷をなして西北流す。川の兩岸に沿ふ傾斜地には聚落ありて農業を營み、米・蕎麥を産し、梅實・茶の特産あり。山地は木炭を供給す。北部には縣道近餘屈折して東西に走り、東北は上野町へ西北方笠置町へ何れもバスの便あり。この地は和名抄、添上郡楊生郷の内なり。【月瀬梅林】 指定名勝。本村内を横流する名張川の南岸の桃香野・月瀬・嵩、北岸の長引・尾山等の聚落間の溪谷にある梅林の總稱。文政の頃よりその名著はる。附近一帯は古來梅實を收穫せんため多く梅樹を植う。梅實は臘脂製造に必要な烏梅の原料なりしたためなり。然るに化學染料の輸入と共に臘脂の製造衰へしたため、梅樹を植うること漸次少くなり、昔日の觀なきも、なほ梅の名所の一としてその名あり。梅林は名張川の兩岸にあるを以て、先づ高きところより白雪の如き花を

賞し、やがて梅林の間を通りて清香を満喫するところに月瀬の特色あり。

ツキガタ

【ツキガタ】 月形 北海道空知支庁石狩國樺戸郡の南端。石狩川中流右岸に沿ひ、東南は川を隔て、空知郡美瑛町・北村なり。西は石狩郡常呂村と界す。面積一五二方軒。大部は隈根尻山(九七一米)三角山(七〇八米)の南斜面の山地にして、東南部と西部は石狩平野の一部に當る。須部郡川は北部山中より西南流し、後東折し東南境にて石狩川に注ぐ。この合流地點に月形の聚落ひらけ附近に耕地多し。米・馬鈴薯・粟・燕麥・木村・牛・馬等を産す。省線札沼線西南より東北に通じ、石狩月形・札比内(二驛)昭和十年設置)を置き、札幌・釧路間の道路またこれに沿ひ、月形よりは西北は厚田方面へ、東南は美瑛・岩見澤にも道路ありてバスの便あり。

【月形村】

福島縣岩代國安積郡の西部。猪苗代湖の東南岸に位置し、北は耶麻郡月輪村に接す。面積四〇方軒餘。東北境に額取山(一〇〇九米)、東南界に高嶺山(九六八米)ありて西方湖岸に傾斜す。中西部には舟津川北流し湖に注ぎ中部沿岸には平坦地ありて米・蕎麥を産す。道路は湖岸に近く南北に通じ、北方の省線磐城西線上戸驛(月輪村)と、西南赤津村へはバスの便あり。此地は和名抄會津郡葦方郷の内。藩政時代には二本松領にて會津郡

内なりき。のち安積郡の管轄となる。

【月形村】

群馬縣上野國北甘樂郡の西南部。下仁田町の西方約八軒にあり。南は多野郡の西隅上野村と隣す。面積二九方軒餘。鑄川の上支南牧川上流の地にて、北部は荒船山の東嶺なる大原山(一〇八一米)富士千間山(八九九米)、南境附近に烏帽子岳(一一八二米)ありて全村殆ど山地をなす。たゞ都合谷を流る、南牧川に沿ひ狭小の低地あり、蕎麥を産し、特産物には蕪蕎麥あり。縣道も川に沿ひ下仁田町に通ず。

ツキガタ

新潟縣越後國西蒲原郡の東部。三條市の北方約一二軒、中ノ口川左岸に沿ひ、河を境に東は中蒲原郡に對し、東北はその白根町なり。面積約九・四方軒。越後平野の中央部に於て全村土地平坦にして水田よく發達し、越後米・新潟梨の名産地なり。對岸には國道通じ、新潟市・三條市間のバス往來す。中ノ口川には舟楫の便あり。明治三十九年に曲通・妹津・中合の舊三村を合併して建てし村。附近は越後獅子(角兵衛獅子、蒲原獅子ともいふ)の發祥地としてよく著聞し、方俗には其伎を單に月湯とのみ呼ぶ。應永年間この地に角兵衛なる者あり、中ノ口川氾濫して田畑の被害絶えざるを憂ひ、その救済に子弟に獅子舞を教(農閑の時、諸方を勧進せしに始まりしものなり。今や越後は本邦第一の米産地として著名なるに至りしも、其陰には農

民の斯くの如き慘憺たる長年苦闘の歴史あるは見逃がすべからざるところなり。

ツキカド

【ツキカド】 撞鐘堂 江戸岡場所の一。本所入江町にて最下級の遊女屋のありし所。日本橋本石町の撞鐘堂と區別するため顛倒して呼ぶ。傾城買指南所「入江町のおすみに、撞がね堂のおしか」淫女皮肉論「あたけ直助つな打てば、よしだ町に入江町、撞鐘とぶに六けんばり」

ツキカミ

築上郡

ツキガミネ

月ヶ峰

月峰山

【ツキカワ】 槻川村 埼玉縣武藏國秩父郡の東北部。秩父町の東北約一〇軒、北は大里郡折原村、東南は比企郡大河村に接す。地南北に狭長にして面積二四方軒に近し。西境は大霧山(七六七米)、東境は堂平山(八七六米)、笠山の脈各南北につづき殆ど山地をなす。村内の水は槻川の上源をなし、東北境より東隣大河原村を経て大河村に出づ。森林多く林産あり。谷地には多少の耕地ありて米・麥を産し、養蠶と紙漉業行はる。秩父町より比企郡方面へ通ずる縣道に當る。

ツキキ

槻木

熊本

熊本

熊本

熊本

熊本

熊本

熊本

熊本

熊本

【ツキサカ】 築坂 大和國(奈良縣)の古地名。書紀、神武天皇紀に功臣道臣命に宅地を賜ひて築坂邑に居らしむとあり。延喜式には桃花島坂に作る、この地は皇居白樺原宮と相距る遠からざるを以て人これを異とせりといふ。その地いま高市郡萩町大字島屋の地に當り、身狭桃花島坂上陵・身狭桃花島坂墓あり。

ツキシ

【ツキシ】 築地 東京市京橋區の地名。京橋區の海に面する地域にて、地名は築地の新地の義なり。明暦の大火の後萬治元年木挽町地先の海岸低地湿地を埋立せる地なり。其内、明石町は明治三十二年外國人が内地雜居を許さるるまで東京に於ける居留地たりし所にして關東大震災前まではその面影を存せり。いま一丁目より六丁目に至る。西本願寺別院・聖路加病院・海軍經理學校・東京劇場等あり、また震災後は日本橋の魚市場がここに移轉し、市民に鮮魚を供給す。

ツキシマ

【ツキシマ】 月島 東京市京橋區の一町名。隅田川の河口佃島の南方に新たに築成せる島地。元來は一の洲渚に過ぎざりしものを、明治十八年、東京府技師倉田吉嗣の設計によりて日本土木會社に請負はしめて埋築し同二十五年竣工す。現時の地勢は東南一一新川を距てて埋立地第四號に接し、西北隅田川を距てて京橋區築地・小田原町・明石町に對し、南は新高川を距てて埋立地第三號に隣り、北は佃川を距てて新佃島町に接す。島地の中

央を貫く築島川の河北は明治二十五年十二月市に編入し、河南は二十七年十二月市に編入す。總面積約四九・九〇(ヘクタール)あり。大道は中央を南北に通じ月島通と稱し一丁目より十一丁目及び、市役所は相生橋より新佃島町を過ぎて八丁目に達す。月島渡は西河岸通四丁目と明石町との中間にあり。勝島渡は西河岸通九丁目と小田原町との交通に便す。この渡船は明治三十七八年戰役の記念に開通せしものにて斯く稱す。築成當初より明治末年の頃までは、潮干狩・釣魚・月夜の逍遙などにふさはしき場所たりき。月島とは築島の文字の代りに佳名を採用せしものと思はる。

ツキズ

【ツキズ】 月津村 石川縣加賀國江沼郡の北部。柴山湯に隣り、北は能美郡御幸村に隣り、大聖寺町の東北約一〇軒、小松町の西南約八軒に位置す。東部に低き丘陵地あるも、柴山湯の東岸に沿ひて平地ありて田畑よく拓く。他は農業・養蠶を主産業とし、工業・水産業等も行はる。東部を北陸道及び省線北陸本線貫通し、後者の栗津驛(能美郡栗津村地内)に近し。中世以降は北國街道の一驛たり。明治十一年明治天皇北陸東海御巡幸の御村内興宗寺に御小休遊ばされ、今その址は指定史蹟たり。「氣多御子神社」大字額見に鎮座。郷社。祭神、天照皇大神・菊理媛神。式内の氣多御子神社と云ふ。もと神明宮・額見社と稱せしも、明治十

ツキダ

二年現稱に改む。例祭、九月一日。「興宗寺」大字月津にあり。興宗大谷派、福井市興宗寺の分流。但馬行如の開創、中古に至りて分派して兩寺となる。

【ツキセ】 月瀬村 熊本縣肥後國玉名郡の中部。菊池川の西岸に沿ひ高瀬町の東北約六軒。これと玉名村を隔つ。面積約八方軒。北隣坂下村よりつづく丘陵性山地中部を南方に下り、東南部の菊池川右岸に低地、西部に傾斜地あり、田畑拓けて米・麥を出し薪炭も産す。川沿に道路ありて玉名村、東北隣川沿村に通ずるも交通なほ便ならず。

ツキダ

【ツキダ】 槻田 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄、神崎郡に槻田郷あり、風土記の多馳里にして、今の神崎郡田原村・八千種村・船津村・山田村の邊なるべし。

ツキダ

【ツキダ】 槻田 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄、神崎郡に槻田郷あり、風土記の多馳里にして、今の神崎郡田原村・八千種村・船津村・山田村の邊なるべし。古事記には槻田岡に作り、延喜式には桃花島田に作る。其の地いま高市郡萩町大字四條の地に當る。

ツキタカ

次高山

臺灣

臺灣

臺灣

臺灣

臺灣

臺灣

臺灣

臺灣

臺灣



ツキタ

ち、高さ三九三米にして新高に次ぐ本島第二の高山のみならず、全日本に於てもまた第二位なり。舊名をシルピヤ山と稱せしが、大正十二年大正天皇御遷渡の際、次高山と御命名せらる。西部平野より遠望すれば大雪山・小雪山等三〇〇〇米を超える雄峯を背景となし雄大な姿を示す。山形優美にして小池水等あり。積雪は新高より多く、且つその雪積期間も長きを以て、俗に「雪翁」の名あり。南方の斜面は大甲溪の源となり、北方よりは大安溪が流出し深き峡谷を穿つ。登山路としては南方に沿ひて明治温泉に達しついでシカヤウ峠を経て大甲溪の支流シカヤラン溪を縫ひつゝ、徒渉すること九回、シカヤウ峠在所を未明に發せば、夕刻その九合目の露磐地に達す。翌朝、頂上を極め再びシカヤウ社に下るを順路とす。外にビヤナン社を経由する羅東よりの道と、モギリ社を経由する太湖よりの登路あり。

ツキタテ

月館町 福島縣岩代國伊達郡の東部。川俣町と掛田町の中間に位置し、東南は相馬郡石橋村に接す。面積二九方軒餘。阿武隈山地の西縁部に當り、東境に三郷森・無垢路岐山、南境に太郎坊山、西境に御幸山等あり。大部分は高度三百米内外の高原状をなし、廣瀬川の上流小手川は西部を北流し、西岸に幅狭き平坦地をなし耕地あり。東西兩山地には木炭を産し、平坦地よりは米・麥・大豆、

馬鈴薯

馬鈴薯を産し、養蠶行はれて繭を出す。川俣・掛田を連ぬる道路は川に沿ひて通じバスあり。月館の聚落は此の道路に沿ひてほぼ中央部にありて街村形をなす。もと小手川村と稱せしが昭和三年町制を布き月館町と改稱す。

ツキタテ

築館町 宮城縣陸前國原郡の東南部。西は一迫町に隣り、高清水町の北方約八軒。面積二二方軒餘。陸前平野の西北部に位置し、南部は丘陵性臺地、北部は東流する一迫川流域の平地にて田畑拓け、米・藁・麥等あり。また工業・畜産・林産も少からず。築館の聚落は東部に位置し、陸羽・登米兩街道の交點をなし、街道はいづれもバスの便あり。郡木炭同業組合・郡農會・郡出荷組合聯合會あり。社線仙北鐵道ここに起りて、筑館驛(大正十二年設置)を置く。明治二十九年町制施行。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の際及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸、同三十四年仙臺行幸の際にこの地に御小休あらせらる。この地は和名抄、栗原郡清水郷の内なり。古くは月立驛にて、明治に入り郡役所の置かれし處。「伊治城」神護景雲元年に築き、坂東八國の民を移して陸前鎮所とす。桓武天皇延暦十五年、關東・越後・出羽諸國の民九千人を此處に移せり。爾後の興廢不明。「雙林寺」曹洞宗。國王山と號す。俗に杉葉師と稱す。孝謙天皇の勅願により天平寶字四年の開創と傳へ、の

ち衰頹せしを、承應三年に伊達忠宗、僧茂林を請じて再興す。藥師堂木尊藥師如来坐像(木造)一軀・二天王立像(木造)二軀は共に鎌倉時代の作にて國寶。

ツキナダ

月灘村 高知縣土佐國幡多郡の西南海岸。高知縣の西南半島部南岸の西部に位置し太平洋に面す。足摺崎半島の頭部なる清水町の西方約二〇軒、東は下川口村、西は奥内村に接す。面積約三九方軒。高度二百米内外の山地西北より東南に延び、其間の谷と海岸所々に小低地ある外は概ね山林をなす。海岸は小出入に富み所々に險崖あれど、其間に樫ノ浦・赤泊等の漁港を抱く。古來珊瑚採取を以て名高く、また鱈・鯖・鮪・鱈の漁獲あり。米・麥・藁・木材等をも産す。赤泊・小才角は沿岸汽船の碼頭にして、道路海岸と各地に沿ひて通ずるも、地僻遠にして交通便ならず。村内に珍奇なる植物やつこさう自生す。明治四十年始めて發見せられたるものにして、奴草科と稱さる。「住吉神社」大字才角に鎮座。郷社。祭神、三筒雄大神。創立年代詳ならずも、往古より當村尾浦の産土神にして、以前は住吉大明神と稱したり。例祭、十月五日。

ツキヌ

槻野之清泉 常陸國(茨城縣)の古地名。常陸風土記、行方郡の條に「倭武天皇巡幸天下、征平海北、當是經過此國、即頓幸槻野之清泉、臨水洗手、以玉落井、今存三行方里之中、

謂玉清井こと見ゆ。その地は今の新治郡玉川村の地なるもの如く、大字に井上あり。

ツキノ

月野 鹿兒島縣大隅國鴨鳴郡の中央部。岩川町の南に接し東南は志布志町との間に西志布志村を挟む。面積三四・五方軒。高さ二百米前後の臺地状の丘陵地にして菱田川上支前川は東境に沿ひて南下し、長江川は中央部を南流し瀬戸間川に合し東南境を東流し、相合して菱田川となる。沿岸には田畑よく拓け米・藁・麥を産し外に畜産・林産あり。志布志町より岩川を経て鹿兒島灣北岸の華人町方面への縣道東北部を貫きてバスを通じ、東境に近き松山村内には省線志布志線の大隅松山驛あり。もと志布志郷と稱せられ、明治二十四年志布志村を分ちて本村及び東志布志・西志布志の三村とす。

ツキノ

月居山 阿武隈山地の一峯。茨城縣久慈郡の北部、袋田村・生瀬村の境上に跨る。山體は第三紀層より成るが如し。南方鞍部は月居峠最高點をなす。この峠は常陸國より下野國へ越す一要路にて險阻なりしが、今は陸道通じ交通便となる。山の北麓を瀧川西流して久慈川に落ち、瀧川に四度ノ瀧(一名、月居瀧)懸る。山中に月居城址あり。※袋田村

ツキノカワ

調川村 長崎縣肥前國北松浦郡の東北部。北松浦半島の北岸に位置し今福町の西、志佐町の東に隣り、北は伊萬里灣口に臨む。東西兩境に小丘陵連互するも村内は概ね平坦にして耕地多く、海岸屈曲少く一般に岩石海岸をなす。米・麥・甘藷等の農産多く沿岸は漁業行はれ、また北松浦炭田の一部に當り大平・中島江口・田中の三炭礦ありて石炭の産出少からず。省線伊萬里線北部を東西に走り調川驛(昭和八年設置)あり、北岸に縣道通じ、東は伊萬里、西は平戸方面へバスの便あり。明治十五年志佐村と聯合戸長制を布きしも、同二十二年町制施行の際分離獨立す。「大平炭礦」村内約二十八萬坪に互る礦區を有し本邦重要礦山に屬す。昭和十年の産額は塊炭一〇・六九九萬噸、粉炭一、七七七萬噸、切込炭五、一二九萬噸、この總價額九萬四千餘圓にして同年六月末現在の礦夫數一三三人とす。「田中炭礦」村内約二十八萬坪に互る礦區を有し本邦重要礦山に屬す。昭和十年の産額は切込炭一三、五一〇萬噸(七萬餘圓)にして同年六月末現在の礦夫數二三六人とす。

ツキノキ

槻木町 宮城縣陸前國柴田郡の東南部。北と東は名取郡千貫村に接し、東南の一部は阿武隈川を隔て、互理郡逢隈村、伊具郡東根村に對す。地は四角形にて面積四一方軒餘。四周は高さ五十米より二

百米臺の丘陵地によりて圍まれ、中央部より東南部は低平にして耕地よく拓く。農産に米・藁・麥等あり、畜産に馬あり。槻木の聚落は町の東南部阿武隈川に近く古く陸羽街道の宿驛にていま省線東北本線槻ノ木驛(明治廿四年設置)あり。此地は和名抄、柴田郡衣前郷の内なり。明治九年奥羽御巡幸の際及び同十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際に明治天皇は此處に御小休あらせらる。「八雲神社」大字入間田に鎮座。郷社。祭神、速須佐甕命。社傳に、文治五年鈴木三郎重家の臣水原平兵衛重氏の勸請に保り、もと牛頭天王と稱したりと傳ふ。例祭、五月四日。「富澤磨崖佛」大字富澤宇岩崎にあり。丘陵の岩壁に阿彌陀如来の坐像を半円彫にせしものにして、高さ九尺、像の左右の壁面に「嘉元四年丙午卯月二日爲父檀那惠一坊藤五郎」「□□阿彌陀佛」の刻文を有し、鎌倉時代の造像銘記ある磨崖佛として、東北地方像有なるもの。「船迫阿彌陀堂佛」大字船迫の小丘にあり。小堂内に四軀の佛を安置す。坐像にて胸間に鐫出の銘文あり、磨崖せるも鎌倉時代の作にて珍重すべきもの。

【槻木村】大分縣豊前國下毛郡の西北隅。英彦山の東谷にて山國川の上源地。西南は日田郡小野村に界し、西及び北は福岡縣田川郡彦山村・京都郡伊良原村及び築上郡上城井村等に接す。面積四八方軒に近きも、西境に英彦山(一二〇〇米)、

北境には犬ヶ岳(一一三一米)、東南界に中殿摩山(九九一米)等聳えて村内は殆ど其等の斜面に當る山地をなす。山國川の上流中央の谷を南流して南隣海部村に出づ。河谷に沿ひ市狭き平地ありて田畑拓け米・麥を産し、木材薪炭をも出す。また海部村との境に金銀を産す旭嶺山あり。近年に至り事業活潑となる。交通概して不便なり。

ツキノモト

槻本 攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に西生郡槻本郷見ゆ。都支乃毛止と訓ず。其地いま詳かならざるも、大阪市西成區の元木津・元今宮の邊に當るか。

ツキノワ

月輪 福島縣岩代國耶麻郡の東南隅。猪苗代湖の東岸に沿ひ、東は安達郡高川村、東及び南は安達郡月形村に隣接す。面積三七方軒餘。東北境には水無山(九九七米)・鞍手山等の脈ありて西方湖畔に傾斜し、西北部には長瀬川湖に注ぎて三角洲をなして平坦地を作る湖水は五百川となりて南部を東流し、安積盆地に下りて阿武隈川に入る。西北部の平坦地と五百川出口附近には耕地拓け米・藁を産す。越後街道と省線磐越西線五百川に沿ひて湖岸に出で更に北上して千里村・翁島村を経て會津盆地に向ひ、省線には上戸・關郡の二驛(明治三十二年設置)あり。寛文風土記によれば、此地は古く月輪庄と稱せられし地なりと。また室町時

代に名高き連歌師猪苗代兼載の出身地なりと稱せらる。大字山湯は往古は民戸ありしが、その後荒蕪せしを、永正年中、下野國の浪人關加賀某なるもの安達郡玉井村より郎等を引具し來り廢田を起せしより再び民居となれりと云ふ。大字壺揚字壺下は二本松街道に當り藩政の頃に番所を置きし所と云ふ。また戊辰の際には戰亂のありし所なりと云ふ。大字關郡は往昔會津關のありし所ならんといふも詳ならず。「菅原神社」大字中小松に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。社傳に村上天皇天曆元年菅公を洛中北野に勸請するに際し、勅を奉じて五寸七分の神像を刻して觀覽に供せしが、形小なるを以つて更に刻せしめらる。依りて此の神像は工匠の店頭に置かれしが、のち數々の神異奇瑞等ありしに依り天曆七年宮殿を造營して之を奉齋するに至る。歴代領主の崇敬厚く社領を寄せらる。例祭、七月三十日。

【月輪庄】陸奥國(岩代、福島縣)の古地名。芭蕉の奥の細道に「月の輪のわたしを越えて瀧の上と云宿に出づ」と見ゆ。芭蕉は信夫里、即ち今の福島邊に泊して文字稻石を見物しやがて瀧上驛に出でしものなれば、月輪庄は阿武隈川または其の一支松川にありし渡ならんも、今何れなるか密かならず。

【月輪】京都市東山區今熊野町の地名。泉涌寺及び東福寺の東方の東山の一溪。四條天皇をはじめ奉り後水尾天皇以下孝



明天皇に至る帝陵は悉く此地にありて泉山と通稱す。九條金寶を月輪山と稱するもの、兼實の月輪山莊が此地にありし故の稱なり。

【ツギハシ 繼橋】伊勢國(三重縣)の古地名。古風土記に見ゆる土橋郷は繼橋の舊稱ならんといふ。神宮雜事記天平勝寶六年に度會郡繼橋郷と見え、和名抄にも同じく繼橋郷ありて都波波止と註す。其地は今の内城田・中川・七保村に互る地を稱せしものならん。

【ツキモシ 附馬牛村】岩手縣陸奥國上閉伊郡の西北部。遠野町の北方約八軒。東北は下閉伊郡の西部に、西北は神宮郡の東北に接す。面積二〇三方軒餘の大村。北上山地の中部に位し、北境の藥師岳(一六四五米)を最高に東境及び西境にも高度一千米内外の山頂あり内部は五十六米臺の高原状をなし、北部の水は集りて猿ヶ石川となり中央部より南流し、南部の沿岸に耕地拓く。大部分は森林・牧地をなし薪炭・馬を出し、農産に米・稗・麥・粟等あり。村道四隣に通ずるも交通なほ便ならず、東南隣松崎村を經、土淵村に出れば遠野町へバスの便あり。「東郷寺社」大字東郷寺にあり。建武年中僧無盡の開創に係り、當時は七堂伽藍を列ね、無盡の高徳を慕ひて駐留せる僧徒二百餘人に及びたりといふ。また當寺は南部守行以來、盛岡南部家の菩提所として二百石を賜はりしが、

のち盛岡北山に移轉したるを以て遂に廢墟となる。いまも猶ほ當時の礎石・開闢水・無盡の墓・南部守行墓等ありて昔日の壯觀を偲ばしむ。「火渡前址」大字上附馬牛字火渡にあり。阿曾沼氏の一族火渡中務の居跡たり。東北は山林に接し、西南は巖壁絶壁にして、これを種屋といひ、西南に面せる路傍の高處に舊館ありしとき水汲みしと言はる、半里の井戸あり、而して谷川、縣道その麓を環り、頂上は平坦にして眺望絶佳なり。

【ツキヤ 筑陽】出雲國(鳥根縣)の古地名。風土記意宇郡餘戸里に當る。のち郷となり筑陽神社(延喜式内社)の名稱によりて筑陽郷と稱せしものならん。和名抄にも郷名見ゆ。いま八東郡意東村・揖屋村の邊に當る。

【ツキヤマ 築山村】熊本縣肥後國玉名郡の中部。東南方高瀬町との間に彌富村を挟み西南隅は約五軒餘にて島原海灣に達す。北境にある小代山の一峰觀音山(約五〇〇米)の南面に北半は山地、南半は菊池川下流流域沖積地の一部を占めて低地廣し。灌溉の便よく米・麥を産し林産もあり。縣道三池街道南部を通じバスの便あり。省線鹿兒島本線高瀬驛に近し。中世、附近諸村と共に大野庄と稱せらる。

【ツキヨシ 月吉里】↓明世村(岐阜縣) 月讀森 三重縣度會郡四

【ツクシ 津久志村】廣島縣備後國世羅郡の略中央部。東北は大見村に、西南は小國村に隣り、面積二六・三方軒。全村高度三十四百米を有する高原狀の山地にて山林多きも、東部と西北部には南北に延びし巾狭き低地ありて耕地拓け耕作行はる。物産は米を主とし特産に松茸・茶を出す。豊田郡乃美村、雙三郡吉舎町の縣道西部を南北に通じ、吉舎町へはバスの便あり。この地は和名抄、世羅郡津口郷の内。東寺文書の平治元年寶莊殿院御庄園注進に「備後國津口庄忠能卿後家米三百石油四石三斗」とあれば、當時その領庄なりしものなるべし。往時は大田庄山中郷とも稱せりと。

【ツクシ 筑紫】九州島全土の總名にして、また筑前・筑後兩國の古名。古事記・上に次生三筑紫島、此島亦身一而有四面」と見え、更に四面の國名(筑紫國・豐國・肥國・熊襲國)を擧げれば、筑紫島は九州島全土の總名なりしは明かなり。筑紫の起源に就ては數説ありて詳かならざるも、萬葉集に「馬の爪都久志乃崎」とあるより、九州は我國の西端の故を以て「行き盡し」の意より出づとの説と、或は貝原益軒の如く異國來寇を防がむがために、上古に筑前北方の海邊に築石をなしたるによる等の説あり。のち筑紫の地は今の筑前・筑後二國の地、即ち太宰府を中心とせる地に局限されしも、猶ほ且つ

のち盛岡北山に移轉したるを以て遂に廢墟となる。いまも猶ほ當時の礎石・開闢水・無盡の墓・南部守行墓等ありて昔日の壯觀を偲ばしむ。「火渡前址」大字上附馬牛字火渡にあり。阿曾沼氏の一族火渡中務の居跡たり。東北は山林に接し、西南は巖壁絶壁にして、これを種屋といひ、西南に面せる路傍の高處に舊館ありしとき水汲みしと言はる、半里の井戸あり、而して谷川、縣道その麓を環り、頂上は平坦にして眺望絶佳なり。

【ツキヤ 筑陽】出雲國(鳥根縣)の古地名。風土記意宇郡餘戸里に當る。のち郷となり筑陽神社(延喜式内社)の名稱によりて筑陽郷と稱せしものならん。和名抄にも郷名見ゆ。いま八東郡意東村・揖屋村の邊に當る。

【ツキヤマ 築山村】熊本縣肥後國玉名郡の中部。東南方高瀬町との間に彌富村を挟み西南隅は約五軒餘にて島原海灣に達す。北境にある小代山の一峰觀音山(約五〇〇米)の南面に北半は山地、南半は菊池川下流流域沖積地の一部を占めて低地廣し。灌溉の便よく米・麥を産し林産もあり。縣道三池街道南部を通じバスの便あり。省線鹿兒島本線高瀬驛に近し。中世、附近諸村と共に大野庄と稱せらる。

【ツクシ 津久志村】廣島縣備後國世羅郡の略中央部。東北は大見村に、西南は小國村に隣り、面積二六・三方軒。全村高度三十四百米を有する高原狀の山地にて山林多きも、東部と西北部には南北に延びし巾狭き低地ありて耕地拓け耕作行はる。物産は米を主とし特産に松茸・茶を出す。豊田郡乃美村、雙三郡吉舎町の縣道西部を南北に通じ、吉舎町へはバスの便あり。この地は和名抄、世羅郡津口郷の内。東寺文書の平治元年寶莊殿院御庄園注進に「備後國津口庄忠能卿後家米三百石油四石三斗」とあれば、當時その領庄なりしものなるべし。往時は大田庄山中郷とも稱せりと。

【ツクシ 筑紫】九州島全土の總名として呼ばれたり。

【筑紫郡】福岡縣十九郡の一。筑前國の南部にて、縣の中部の西側に位し、北境の西半は福岡市に、東半は糟屋郡に、東北は嘉穂郡に、東南は朝倉・三井の二郡に、西は早良郡に、南は佐賀縣三養基・神崎二郡に隣接す。面積二四六方軒餘。西南部一帯は背振山塊の東北部に占めて南境上には石谷山・九千部山・權現山・基山等、高度四一八百米の山峯東西に連り、其等の山麓北に派出し西南部の山地をなし、東北部は三郡山塊南部の山地にして三郡山を始め寶満山・大根地山・砥上岳・大城山等の四一九百米の諸山あり。これら兩山地の間に御笠川西北流し、西南部山地より北流する那賀川と共に博多灣東南岸の平野を形成す。筑後川の支流寶満川は東南部の平地を南流し、其流域は筑紫平野の北端と連り、北流する御笠川との間に低き分水界を作る。これ等諸川の流域は土地平坦・地味肥沃にて農産物多く米・麥・菜種等を産し養蠶も行はる。鹿兒島街道は中央低地を西北福岡市より東南に向ひ二日市の陸路を過ぎて三井郡に出で、小倉より飯塚市を過ぎて來る舊鹿兒島街道は東南境の冷水峠によりて又これに合す。省線鹿兒島本線と社線九州鐵道電車は前者に、省線筑豊本線は後者に並行す。また鹿兒島本線の二日市驛に起る社線朝倉軌道は東南方に走り朝

郷村大字北中にあり。皇大神宮の別宮の一つなる月讀宮の鎮座の森。西行法師集「東見れば秋にかきらぬ名なりけり春おもしろき月讀の森」

【津具】愛知縣北設樂郡にありし村。明治二十三年、上津具・下津具の二村に分る。豊橋地方より信州に通ずる伊奈街道に當る。此地の水は南流して天龍川に入り、地形上は遠江國に屬す。

【津具嶺山】愛知縣北設樂郡の上津具村と下津具村とに跨る金銀・アンチモニ・鐵山。鐵區は九三五、五〇〇坪に互り現在我國主要鐵山の一たり。昭和十年第一番坑々口より一二七米の箇所にて、幅平均五〇〇釐、品位平均金二〇瓦といふ富鐵帶を發見す。同年の産額は金鐵三、七六五五、十四萬餘圓、また同年六月末の鐵夫は九一人とす。本鐵山は早く中世の發見に係り、三河河見によれば武田家は金掘奉行を置けりといふ。

【津久井郡】神奈川縣十郡の一。相模國の一部にて、縣の西北部に位し、東は高座郡、東南は愛甲郡、西南は足柄上郡と隣し、西は山梨縣南都留郡・北都留郡、北は東京府西多摩郡・南多摩郡に界す。面積二三八方軒餘。南部は丹澤山塊の山地にて、その主峰丹澤山(一五六七米)をはじめ蛭ヶ岳・大群山等、南西境上に聳え、北部も亦關東山脈の一脈に屬し、生

倉郡に至る。道路の多くはバスの運轉行はれて郡内交通甚だ便利なり。いま二日市・太宰府二町の外十二ヶ村を含む。本郡は明治二十九年四月に原田・御笠・那珂の三郡を合して立つ。

【築紫村】福岡縣筑前國築紫郡の東南部。西北は二日市町に近く、其間に山口村の東北部を隔て、東は朝倉郡夜須村に、南は三井郡三國村及び佐賀縣三養基郡基山村に接す。面積一五方軒餘。背振山塊東端の基山(城山・防住山、四〇五米)西南境に聳ゆるも、東北半は廣潤なる低地開けて筑後川の支流寶満川東南流し、田畑よく拓け米・麥・菜種等を産し養蠶も行はる。國道・縣道中央に交叉してバスの便あり。省線鹿兒島本線・同筑豊本線及び社線九州鐵道(電車)、西部を南北に走り朝倉軌道等また通じ、省線に原田驛(明治二十二年設置)あり。古くは和名抄、御笠郡長岡郷の地なるべし。延喜長部省式に長丘驛とあるは此地なるべく、大字永岡は蓋しその轉訛ならん。大字原田の西南に基山あり。盡坂の高峰にして太宰府の塞を置ける所なり。天慶中、太宰大監大觀奉實賊を撃ちて功あり、子孫土着して州家となる。その一族中、原田・秋月二氏最も著はる。原田氏は蓋し在名を負ひしもの。幕末の勤王家にして從五位を贈られし吉田重藏は此地の人とす。

【筑紫神社】大字原田に鎮座。縣社。祭神、白日別神・五十猛命外二神。式内大

縣山・陣馬峯・景信山等高度八一九百米の山地北境に連る。桂川は北部を、道志川は南部を共に峽谷をなして東に流れ、中部にて相會して相模川となり東流して高座・愛甲二郡の境をなす。郡内山地多く平地は河谷の段丘地に狭少のものあるに過ぎず。蠶業を主とし農産・林産これに次ぐ。また津久井郡の産あり。甲州街道は桂川の谷に沿ひ、省線中央本線また之に並行して西走す。郡内に中野・小原・奥野・吉野・四町の外十五ヶ村を含む。初めは甲斐國都留郡に屬せしが、延暦以後相模に入り愛甲郡に屬し、貞三保と號せり。江戸時代の初め津久井郡を置きしが後に之を廢し愛甲・高座に分屬せしむ。併しこれも永續せず、元祿年中津久井縣と稱せり。明治三年津久井郡を再興し初めは足柄縣に屬せしが、同九年神奈川縣に入る。桓武平氏、三浦氏の族、此地に津久井氏を稱せり。

【津久井】↓北下浦村(神奈川縣三浦郡) 津久井

【ツクオ 踞尾村】大阪府和泉國泉北郡の北部。堺市の南に近く西は濱寺町に接す。面積僅に二二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部を北流す。大阪府南部の工業地帯に屬し綿業その他の工業發達し工業額最も多く米・麥等の農産及び畜産額はこれに次ぐ。西部には父鬼街道走りてバスを通じ、社線阪和電線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

社にして往古は莫大なる神田を擁せしもの、如く、いま池田・宮司田・猿樂田・朱田等その他の地名殘る。中世衰頹、近世に至りて黒田氏の崇敬を受け社領三十五石を寄せられる。例祭、九月二十日。

【筑紫山塊】九州北部を東北より西南に斷續する山地の總稱。普通筑紫山脈とよばる。構造上西南日本の内帯に屬し中國高地(中國山脈)の延長と見るべきものなるも、著しく塊裂をなせる點に於てこれと異なるものあり。大別して筑豊・脊振・北肥前の三山塊とす。筑豊山塊は周防灘の西岸より、西南は博多二日市・甘木の線に達する部分に及び、地層頗る複雑なるも主として御荷鉾層・花崗岩・白堊紀層・古第三紀層及び珩岩等より成り、更に石峰山地帯・東部地塊・筑豊炭田・西部地塊・馬見山地帯の五小地形區に別けらる。石峰山地帯は洞海階層によりて生ぜる東西の地壘にして花崗岩と第三紀層の丘陵地と遠賀川口附近の殘丘を含み、洞海北岸にては高さ約三百米の斷層崖をなす。東部山塊の西界は古第三紀層より成る筑豊炭田にて限られ、南は彦山川の谷を境とし、北東—南西の斷層普邇するを特色とす。この地塊は(一)白堊紀層より成る門司半島、(二)御荷鉾層と花崗岩より成る行橋北方の高城山・水晶山より北西の平尾野カスト地壘を含み、高度は五百米以下なり。(三)八幡市中部の皿倉山を中心とする北東方向の連嶺にて中

【津久井】↓北下浦村(神奈川縣三浦郡) 津久井

【ツクオ 踞尾村】大阪府和泉國泉北郡の北部。堺市の南に近く西は濱寺町に接す。面積僅に二二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部を北流す。大阪府南部の工業地帯に屬し綿業その他の工業發達し工業額最も多く米・麥等の農産及び畜産額はこれに次ぐ。西部には父鬼街道走りてバスを通じ、社線阪和電線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

倉郡に至る。道路の多くはバスの運轉行はれて郡内交通甚だ便利なり。いま二日市・太宰府二町の外十二ヶ村を含む。本郡は明治二十九年四月に原田・御笠・那珂の三郡を合して立つ。

【築紫村】福岡縣筑前國築紫郡の東南部。西北は二日市町に近く、其間に山口村の東北部を隔て、東は朝倉郡夜須村に、南は三井郡三國村及び佐賀縣三養基郡基山村に接す。面積一五方軒餘。背振山塊東端の基山(城山・防住山、四〇五米)西南境に聳ゆるも、東北半は廣潤なる低地開けて筑後川の支流寶満川東南流し、田畑よく拓け米・麥・菜種等を産し養蠶も行はる。國道・縣道中央に交叉してバスの便あり。省線鹿兒島本線・同筑豊本線及び社線九州鐵道(電車)、西部を南北に走り朝倉軌道等また通じ、省線に原田驛(明治二十二年設置)あり。古くは和名抄、御笠郡長岡郷の地なるべし。延喜長部省式に長丘驛とあるは此地なるべく、大字永岡は蓋しその轉訛ならん。大字原田の西南に基山あり。盡坂の高峰にして太宰府の塞を置ける所なり。天慶中、太宰大監大觀奉實賊を撃ちて功あり、子孫土着して州家となる。その一族中、原田・秋月二氏最も著はる。原田氏は蓋し在名を負ひしもの。幕末の勤王家にして從五位を贈られし吉田重藏は此地の人とす。

【筑紫神社】大字原田に鎮座。縣社。祭神、白日別神・五十猛命外二神。式内大

縣山・陣馬峯・景信山等高度八一九百米の山地北境に連る。桂川は北部を、道志川は南部を共に峽谷をなして東に流れ、中部にて相會して相模川となり東流して高座・愛甲二郡の境をなす。郡内山地多く平地は河谷の段丘地に狭少のものあるに過ぎず。蠶業を主とし農産・林産これに次ぐ。また津久井郡の産あり。甲州街道は桂川の谷に沿ひ、省線中央本線また之に並行して西走す。郡内に中野・小原・奥野・吉野・四町の外十五ヶ村を含む。初めは甲斐國都留郡に屬せしが、延暦以後相模に入り愛甲郡に屬し、貞三保と號せり。江戸時代の初め津久井郡を置きしが後に之を廢し愛甲・高座に分屬せしむ。併しこれも永續せず、元祿年中津久井縣と稱せり。明治三年津久井郡を再興し初めは足柄縣に屬せしが、同九年神奈川縣に入る。桓武平氏、三浦氏の族、此地に津久井氏を稱せり。

【津久井】↓北下浦村(神奈川縣三浦郡) 津久井

【ツクオ 踞尾村】大阪府和泉國泉北郡の北部。堺市の南に近く西は濱寺町に接す。面積僅に二二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部を北流す。大阪府南部の工業地帯に屬し綿業その他の工業發達し工業額最も多く米・麥等の農産及び畜産額はこれに次ぐ。西部には父鬼街道走りてバスを通じ、社線阪和電線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

社にして往古は莫大なる神田を擁せしもの、如く、いま池田・宮司田・猿樂田・朱田等その他の地名殘る。中世衰頹、近世に至りて黒田氏の崇敬を受け社領三十五石を寄せられる。例祭、九月二十日。

【筑紫山塊】九州北部を東北より西南に斷續する山地の總稱。普通筑紫山脈とよばる。構造上西南日本の内帯に屬し中國高地(中國山脈)の延長と見るべきものなるも、著しく塊裂をなせる點に於てこれと異なるものあり。大別して筑豊・脊振・北肥前の三山塊とす。筑豊山塊は周防灘の西岸より、西南は博多二日市・甘木の線に達する部分に及び、地層頗る複雑なるも主として御荷鉾層・花崗岩・白堊紀層・古第三紀層及び珩岩等より成り、更に石峰山地帯・東部地塊・筑豊炭田・西部地塊・馬見山地帯の五小地形區に別けらる。石峰山地帯は洞海階層によりて生ぜる東西の地壘にして花崗岩と第三紀層の丘陵地と遠賀川口附近の殘丘を含み、洞海北岸にては高さ約三百米の斷層崖をなす。東部山塊の西界は古第三紀層より成る筑豊炭田にて限られ、南は彦山川の谷を境とし、北東—南西の斷層普邇するを特色とす。この地塊は(一)白堊紀層より成る門司半島、(二)御荷鉾層と花崗岩より成る行橋北方の高城山・水晶山より北西の平尾野カスト地壘を含み、高度は五百米以下なり。(三)八幡市中部の皿倉山を中心とする北東方向の連嶺にて中

倉郡に至る。道路の多くはバスの運轉行はれて郡内交通甚だ便利なり。いま二日市・太宰府二町の外十二ヶ村を含む。本郡は明治二十九年四月に原田・御笠・那珂の三郡を合して立つ。

【筑紫村】福岡縣筑前國築紫郡の東南部。西北は二日市町に近く、其間に山口村の東北部を隔て、東は朝倉郡夜須村に、南は三井郡三國村及び佐賀縣三養基郡基山村に接す。面積一五方軒餘。背振山塊東端の基山(城山・防住山、四〇五米)西南境に聳ゆるも、東北半は廣潤なる低地開けて筑後川の支流寶満川東南流し、田畑よく拓け米・麥・菜種等を産し養蠶も行はる。國道・縣道中央に交叉してバスの便あり。省線鹿兒島本線・同筑豊本線及び社線九州鐵道(電車)、西部を南北に走り朝倉軌道等また通じ、省線に原田驛(明治二十二年設置)あり。古くは和名抄、御笠郡長岡郷の地なるべし。延喜長部省式に長丘驛とあるは此地なるべく、大字永岡は蓋しその轉訛ならん。大字原田の西南に基山あり。盡坂の高峰にして太宰府の塞を置ける所なり。天慶中、太宰大監大觀奉實賊を撃ちて功あり、子孫土着して州家となる。その一族中、原田・秋月二氏最も著はる。原田氏は蓋し在名を負ひしもの。幕末の勤王家にして從五位を贈られし吉田重藏は此地の人とす。

【筑紫神社】大字原田に鎮座。縣社。祭神、白日別神・五十猛命外二神。式内大

縣山・陣馬峯・景信山等高度八一九百米の山地北境に連る。桂川は北部を、道志川は南部を共に峽谷をなして東に流れ、中部にて相會して相模川となり東流して高座・愛甲二郡の境をなす。郡内山地多く平地は河谷の段丘地に狭少のものあるに過ぎず。蠶業を主とし農産・林産これに次ぐ。また津久井郡の産あり。甲州街道は桂川の谷に沿ひ、省線中央本線また之に並行して西走す。郡内に中野・小原・奥野・吉野・四町の外十五ヶ村を含む。初めは甲斐國都留郡に屬せしが、延暦以後相模に入り愛甲郡に屬し、貞三保と號せり。江戸時代の初め津久井郡を置きしが後に之を廢し愛甲・高座に分屬せしむ。併しこれも永續せず、元祿年中津久井縣と稱せり。明治三年津久井郡を再興し初めは足柄縣に屬せしが、同九年神奈川縣に入る。桓武平氏、三浦氏の族、此地に津久井氏を稱せり。

【津久井】↓北下浦村(神奈川縣三浦郡) 津久井

【ツクオ 踞尾村】大阪府和泉國泉北郡の北部。堺市の南に近く西は濱寺町に接す。面積僅に二二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部を北流す。大阪府南部の工業地帯に屬し綿業その他の工業發達し工業額最も多く米・麥等の農産及び畜産額はこれに次ぐ。西部には父鬼街道走りてバスを通じ、社線阪和電線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

社にして往古は莫大なる神田を擁せしもの、如く、いま池田・宮司田・猿樂田・朱田等その他の地名殘る。中世衰頹、近世に至りて黒田氏の崇敬を受け社領三十五石を寄せられる。例祭、九月二十日。

【筑紫山塊】九州北部を東北より西南に斷續する山地の總稱。普通筑紫山脈とよばる。構造上西南日本の内帯に屬し中國高地(中國山脈)の延長と見るべきものなるも、著しく塊裂をなせる點に於てこれと異なるものあり。大別して筑豊・脊振・北肥前の三山塊とす。筑豊山塊は周防灘の西岸より、西南は博多二日市・甘木の線に達する部分に及び、地層頗る複雑なるも主として御荷鉾層・花崗岩・白堊紀層・古第三紀層及び珩岩等より成り、更に石峰山地帯・東部地塊・筑豊炭田・西部地塊・馬見山地帯の五小地形區に別けらる。石峰山地帯は洞海階層によりて生ぜる東西の地壘にして花崗岩と第三紀層の丘陵地と遠賀川口附近の殘丘を含み、洞海北岸にては高さ約三百米の斷層崖をなす。東部山塊の西界は古第三紀層より成る筑豊炭田にて限られ、南は彦山川の谷を境とし、北東—南西の斷層普邇するを特色とす。この地塊は(一)白堊紀層より成る門司半島、(二)御荷鉾層と花崗岩より成る行橋北方の高城山・水晶山より北西の平尾野カスト地壘を含み、高度は五百米以下なり。(三)八幡市中部の皿倉山を中心とする北東方向の連嶺にて中

倉郡に至る。道路の多くはバスの運轉行はれて郡内交通甚だ便利なり。いま二日市・太宰府二町の外十二ヶ村を含む。本郡は明治二十九年四月に原田・御笠・那珂の三郡を合して立つ。

【築紫村】福岡縣筑前國築紫郡の東南部。西北は二日市町に近く、其間に山口村の東北部を隔て、東は朝倉郡夜須村に、南は三井郡三國村及び佐賀縣三養基郡基山村に接す。面積一五方軒餘。背振山塊東端の基山(城山・防住山、四〇五米)西南境に聳ゆるも、東北半は廣潤なる低地開けて筑後川の支流寶満川東南流し、田畑よく拓け米・麥・菜種等を産し養蠶も行はる。國道・縣道中央に交叉してバスの便あり。省線鹿兒島本線・同筑豊本線及び社線九州鐵道(電車)、西部を南北に走り朝倉軌道等また通じ、省線に原田驛(明治二十二年設置)あり。古くは和名抄、御笠郡長岡郷の地なるべし。延喜長部省式に長丘驛とあるは此地なるべく、大字永岡は蓋しその轉訛ならん。大字原田の西南に基山あり。盡坂の高峰にして太宰府の塞を置ける所なり。天慶中、太宰大監大觀奉實賊を撃ちて功あり、子孫土着して州家となる。その一族中、原田・秋月二氏最も著はる。原田氏は蓋し

在名を負ひしもの。幕末の勤王家にして從五位を贈られし吉田重藏は此地の人とす。

【筑紫神社】大字原田に鎮座。縣社。祭神、白日別神・五十猛命外二神。式内大

縣山・陣馬峯・景信山等高度八一九百米の山地北境に連る。桂川は北部を、道志川は南部を共に峽谷をなして東に流れ、中部にて相會して相模川となり東流して高座・愛甲二郡の境をなす。郡内山地多く平地は河谷の段丘地に狭少のものあるに過ぎず。蠶業を主とし農産・林産これに次ぐ。また津久井郡の産あり。甲州街道は桂川の谷に沿ひ、省線中央本線また之に並行して西走す。郡内に中野・小原・奥野・吉野・四町の外十五ヶ村を含む。初めは甲斐國都留郡に屬せしが、延暦以後相模に入り愛甲郡に屬し、貞三保と號せり。江戸時代の初め津久井郡を置きしが後に之を廢し愛甲・高座に分屬せしむ。併しこれも永續せず、元祿年中津久井縣と稱せり。明治三年津久井郡を再興し初めは足柄縣に屬せしが、同九年神奈川縣に入る。桓武平氏、三浦氏の族、此地に津久井氏を稱せり。



生層・古期火成岩より成る。(四)南部一帯を占め、香春の東には御荷鉾層より成る東北東の飯岳の地層あり。筑紫炭田は主として古第三紀層の區域にて、花崗岩、御荷鉾層の地塊も總て北西—南東の方向を示し、それ等の丘陵乃至地塊は多くは遠賀川の西に發達せり。この地域の西界は福岡町—三坂峠—福丸(若宮村)—遠賀川支流の線によりて限られ、舊地塊は金山(四二二米)地塊にて北半は花崗岩、南半は御荷鉾層より成る。西部地塊は前者の西に位し御荷鉾層・花崗岩の地域にて、福岡市南東の古第三紀層の志免丘陵は南西に延ぶるも、古き層は皆北東の方向を示す。鉾立山(六六六米)・砥石山(八二六米)はその舊地塊なり。馬見山地塊は御荷鉾層より成り馬見山(九七八米)その南の根岳(六九四米)の地塊は東西性を示し、大いに開析を受く。春振山塊は筑前・肥前の境に互り大部分花崗岩なり。春振山塊・花崗岩の塊裂區域をなし、この上に可也山(筑紫富士、三六五米)の玄武岩堆あり。西端の大門峠は玄武岩の柱状節理を呈す。北肥前山塊は平均二—四百米の塊裂と開析を受けし丘陵地にて、古

第三紀層廣く發達しこの上に玄武岩を迭發す。また東部山塊・北松浦半島の二に分る。東部山塊は北部に東松浦半島の開析地あり。某盤の花崗岩上に玄武岩廣く分布す。然るに唐津市より南西に走る一線より南は殆ど古第三紀層にて、八幡山(七六四米)を最高點とし主に東西に延ぶる地塊多し。主なるものに鬼ノ鼻火山岩地塊・杵島山地塊及び虚空蔵山附近の火山性岩地塊あり。西縁有田川の構造谷に沿うては、南北方向の青嶺山及び兩子山の火山岩地塊ありて、頂上にメサ式の峰を頂く。標高二百米内外の壹岐島の玄武岩開析地も之に屬す。北松浦半島は古第三紀層の上を廣く玄武岩の被ひたる開析地なり。地塊は東西及び南北のもの主とし何れも玄武岩より成る。東西の地塊に隱居山地塊・小嶽岳地塊・白岳地塊等あり。南北の地塊は國見岳地塊・大野岳地塊なり。

經五〇〇米以上の曲率にて蛇行して緩流し、下流の三角洲には川中島を挟む。耳納山塊の南と西の縁邊には低き洪積臺地あり。米を主とし麥・菜種等の産多く、植の實の收穫も少からず。平野の中心都市は久留米・佐賀兩市なり。

【筑紫大郡】 書紀、天武紀に見ゆる筑紫の古地名。即ち天武天皇二年十一月、高麗・新羅の使臣等を筑紫大郡に饗し祿を賜ふこと各差ありと見ゆ。大郡は添大郡(大和)、難波大郡、筑紫大郡の三箇所あり、これ恐らくは外客接待の鴻臚館の名稱ならんか。従つて筑紫大郡は那大津にありし鴻臚館を稱せしものにて、大郡とは那那郡を稱せしものなるべし。

ツクシキ 都久斯岐城

都久斯岐城 筑足流城 書紀、雄略紀の八年に見ゆる新羅の地名。一に都久斯岐城ともいひ高麗國の境に近し。高麗王、兵を此城に集めて新羅を犯す。新羅は救を我任那日本府に乞ひ、我兵高麗兵を撃退せる旨書紀に見ゆ。其の地評かならざるも、いま慶尚北道醴泉郡龍宮面龍宮の邊ならんか。

ツクダジマ 佃島

佃島 東京市京橋區の地名。隅田川の河口にある小島(佃島)を占め、新佃島町・佃町に分る。名稱は徳川幕府が正保年間攝津國の佃村の漁民を移してここに居らしめたるより起るといふ。佃煮の産あり。佃島は寛永圖に三國島とあり、文龜年間の江戸圖には向島と呼べり。江戸時代の岡場所なる佃島は今の佃町にありて、佃・向土橋・あひる・海ともいへり。辰巳之圖「此ちよびり」とした所は、なんじやへ。是は八右衛門島と云、此向が佃島。ここにも有か。イヤ安は磯御斗居る、女郎の有は八幡の向のき」婦美車榮鹿子「深川佃。此浮土は三橋にならぶかみの結ふう、衣裳の着こなしおよばず、其うへ座鋪にて時花歌をうたふ人がらはよくなし」

ツクテ 作手村

作手村 愛知縣三河國南設楽郡の西部。新城町の北隣にて、北は北設楽郡段嶺村に、西は東加茂郡下山村及び額田郡宮崎村に接す。面積一—二方村餘。三河山地の中部に位し、四圍山嶺を

繞らし、中部には産場山の山嶺ありて、東南部は寒狭川の支流、西北部は足助川の支流の谷に分る。谷には幅狭き低地ありて米作・養蠶行はれ、山地には林産あり。其他に三州五等の蠶業も行はる。伊奈街道と足助街道を繋ぐ譽母街道西南部の谷に沿ひて通じ新城町へバスの便あり。此地は和名抄、設楽郡黒瀬郷の内か。明治三十九年、作手・田原・巴・保永・杉平・田代・荒原・高松・大和田の舊諸村を廢して新に本村を建つ。戦國時代、奥平氏・菅沼氏等の土豪あり。菅沼氏は清和源氏土岐明智氏の族にして、子孫は徳川氏に仕へ甲斐巨摩郡の切石にて一萬石を給せらる。奥平氏は平氏又は村上源氏、或は赤松氏の族と稱す。信昌の時、徳川家康に仕へ遂に諸侯に列し、昌成の時、豊前中津城に十萬石を領す。「白鳥神社」大字白鳥に鎮座。郷社。祭神、日本武尊・忍穂耳尊・熊野久須毘命外十柱。領主奥平氏の崇敬あり。例祭、九月一日。「甘水寺」大字鴨ヶ谷にあり。臨濟宗永源寺派。翔龍山と號し、應安二年彌天永釋禪師の開基、貞享五年春山智融禪師の中興に係る。天正三年安上。のも再建成る。

ツクバ 筑波

【筑波(國)】 國造本紀に見ゆる國名。成務天皇の朝、忍礙見命の孫阿閉色命を國造に定め給ふ。其地は今の茨城縣常陸國筑波郡の内にして和名抄の筑波郷の地、即ち今の筑波郡筑波町・田井村等の地なるべし。

【筑波郡】 茨城縣十四郡の一。常陸國の西南部を占め、東は新治・稻敷二郡に、南は下總國北相馬郡に、西は同國結城郡に、北は眞壁郡と隣す。面積約三—一方軒。東北境に筑波山塊連りてその主峯筑波山(八七六米)は東北隅に聳ゆ。櫻川はこの山塊の西を東南に流れ、小貝川は西境と南境を劃して流る。これら二川の流域は低地にして水田多きも、其中間の大部分は低き臺地は南北に延びて知地の間に林を交へ、また臺地間には樹枝状に低地ありて水田をなす。米・麥・大豆・野菜等の農産を主とし蠶業行はれ、また林産を出す。縣道よく發達し、社線筑波鐵道は東北部を掠め、東北部の北條町、中部の谷田部町は交通上の中心をなす。郡内に谷田部・筑波・北條の三町外二十四箇村を含む。本郡は成務天皇朝に國造を置き給ひし筑波國が、國郡制定の時郡となりしもの。和名抄は豆久波と註し大貫・筑波・水守・三村・栗原・清浦・清水・佐野・方穂の九郷を置く。文祿年中、東方の四郷を新治郡に分ち、南の信太・河内二郷の地を併せ郡域大いに移動す。明治二十九年に至り更に河内郡より一村を收め、新治郡より三村を收めて別に一村を與へ、北相馬郡より一村を入れて郡界を整理して今日に至る。

【筑波町】 茨城縣常陸國筑波郡の東北隅。筑波山(八七六米)の南西斜面を占め、東



ツクハ——ツクホ

には尾尾山、及び明治十七年の加波山事...

【筑波山】筑波山脈(山塊)の主峯。茨城...

0004

を示す。山中には食蟲植物のまうせんご...

を過ぎて女體山頂に至る。山頂よりは關...

0005

ツクハネ 築羽

愛知縣東加茂郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に...

ツクホ 都窪郡

岡山縣十九郡の一。備中國の東南隅、縣の南部中央に位置し、...

ツクマ 月間

伊豆國(静岡縣)の古地名。和名抄に賀茂郡月間郷あり、郡内に...

ツクマ 筑摩(縣)

筑摩國(兵庫縣)の古地名。和名抄に赤穂郡筑摩郷見ゆ。諸本訓...

ツクミ 津久見

大分縣豊後國北海郡の南部。津久見灣に臨み臼杵町の南に接す。

ツクマ——ツクモ

て南・西・北の三邊は山地によりて圍まれ...

木製品 千二百 石 灰 一千五百 炭酸カルシウム 二二〇 船舶車輛 五 煉瓦 四 其他 二六

年石清水八幡神の分影を拜請して創祀せ...

0006

ツクモ 九十九

群馬縣上野國碓氷郡の中央部。松井田町の北隣にあり。面積七・四...



ツクモ——ツケ

して、即ち國術の名を負へるならん。い  
ま大字に國術あり。  
【九十九灣】 ↓小木町(石川縣珠洲郡)  
【九十九山】 ↓高室村(香川縣三豊郡)  
【九十九島】 長崎縣北松浦郡鹿町村の西  
岸に近き島嶼群。北より數へて九頭島・  
島頭島・瀬尻島・田代島・丑ヶ島・大  
島・上中六島・成島・夢島・赤島等を主  
なるものとし、その間無數の小島嶼群布  
散在す。海岸の沈降によりて成れるもの  
にして何れも斷崖をなし松樹を頂き風光  
美をなす。佐世保・平戸間航路に當るも  
觀賞には地廻り船を利用するを便宜なり  
とす。

ツクモ 津久毛村

宮城縣陸前國栗  
原郡の略北東部。岩ヶ崎町の東方約四軒  
面積九・四方軒。陸前平野の西北部に位  
し、東北半部は高度五〇米内外の丘陵な  
るも、西南半部は平垣にして追川の支流  
三迫川はその南部を、夏川は中部東南に  
流る。丘陵地には森林・牧地あり。低地  
には田地・桑園あり、米・麥・繭を産し、  
畜産も少からず。岩ヶ崎町よりの道路は  
東南に通じ南隣津邊村に出でて陸羽街道  
に連りバスの便あり。此地は文治年間、  
源頼朝奥州征伐の際の古戦場にして村内  
の信樂寺址は藤原泰衡の陣せし所。三迫  
川に架せる江浦渡橋は肥原景高の「陸奥  
の勢は御方に津久毛橋渡して懸ん泰衡が  
頭」によりて有名なり。「勝大寺」新義  
眞言宗豊山派。樂峯山と號し、一に菩提

院ともいふ。大同年中、坂上田村麿の創  
建、清君法印の開山にして、奥州七處の  
一なりしといふ。永承年間には寺内に二  
十六坊を有せしと、明治二十六年頃は十  
四坊のみとなりと。

ツクラ 津倉村

愛媛縣伊豫國越智  
郡の中部。來島海峡の東北方に横はる大  
島の中央部に位置す。東は檜灘、西は安  
藝灘に面し、北は大山・宮窪二村に、南  
は龜山村に界す。面積八・六四方軒。東  
北部一帯と西南部は隣村と高さ二百米内  
外の山地なれども中央部と西北岸には平  
地あり。東岸は山地迫りて出入乏しけれ  
ど、西北岸には小灣を抱き津倉の良港あ  
り。耕作盛んにして米・麥・果實等を産  
し、近海には鯛・鱈の漁獲あり。各地へ  
汽船・發動機船の便あり。「大龜八幡大  
神社」大字八幡に鎮座。郷社。祭神、多  
岐都比賣命・市寸島比賣命・外四神。創  
建は後光嚴天皇延文元年久留島信濃守の  
家臣矢野主計光成の末孫加茂有以、字佐  
八幡宮を勧請し自ら社職となりしに始ま  
る。例祭、十月二日。

ツクリオカ 作岡村

茨城縣  
常陸國筑波郡の北部。北條町の西方にて  
之と田水山村を隔て、西は小貝川を隔て  
て結城郡豊加美村と相對す。面積約一五  
方軒。大部分は低き臺地をなし畑地多く  
所々林を交へ、小貝川沿ひと東部の明石  
池南北の低地には田地多し。米・大麥・小  
麥を産し特産物に南瓜あり。北條・下妻

間の縣道は北部を、北條・古河間のもの  
は東南部に通じてバスの便あり。古くは  
和名抄筑波郡水守郷の内に屬せしもの  
如し。中世小田氏の一族大字安食の地に  
居して安食氏を稱す。「一乘院」大字安  
食にあり。新義眞言宗豊山派。摩尼山龍  
福寺と號す。往時は山城醍醐報恩院に屬  
せしといふも、創建年代詳ならず。慶安  
二年徳川家光寺領六石を寄す。

ツクリミチ 作道村

富山縣越中  
射水郡の北部。放生津湯の南。小松町の  
北に接し、北は新湊町との間に牧野村を  
挾む。富山平野の一部にて全村土地平坦  
肥沃、水田よく発達し越中米の産多し。  
其他、附近町村と共に賣藥業盛なり。小  
松・新湊(縣道、バスを通ず。中世は大袋  
庄に屬す。江戸時代の算敷家にして且つ  
測量家たりし石黒藤右衛門(贈從五位)は  
此地の人とす。「作道神社」大字作道に  
鎮座。祭神、彦屋主田心命・大彦  
命。創建は社傳に據るに、崇神天皇御宇  
大彦命北陸巡按のとき此處に勸請せられ  
しものにして、古へは社殿壯麗美觀を呈  
し朝廷の崇敬も厚かりし社なりといふ。  
例祭、九月六日。「無量寺」大字鏡宮に  
あり。眞宗大谷派。弘法大師の直弟佐伯  
某の開基たり。某は草鳥往來の開墾者と  
して功勞ありし人。承元元年親鸞上人越  
後に流寓せられしとき、住僧道三法師船  
を同うし、遂に之に即し現宗に改む。因  
つて道三を今宗の開山とす。

BOOK

ツクリミチ 造道 青森縣東津輕郡  
にありし村。昭和二年濱館村と改稱。

ツグロ 津黒山 中國山脈の一峯。  
岡山縣苫田郡羽田村・眞庭郡中和村と鳥  
取縣東伯郡竹田村に跨る。標高一一八  
米。中國山脈は東西に連亘し、南西方に  
支脈出でて山栗山・入道山(一〇四〇米)  
を起す。

ツゲ 柘植 三重縣阿山郡の東北部の  
地名。油日岳の東南、加太峠の西麓に當  
り大和街道この地を通る。和名抄の柘植  
郷の内。主として上・中・下の三柘植の  
聚落に分る。省線關西本線の柘植驛(明  
治二十三年設置)は東柘植村上柘植にあ  
りて草津線此處より分岐し、新堂驛は西  
柘植村上柘植にあり。

ツゲ 都介 大和國(奈良縣)の古地名。  
上世の關西國の一部に屬し、和名抄に山  
邊郡都介郷あり。いま山邊郡都介野村は  
その遺稱なり。

ツゲ 都家 武藏國(埼玉縣)の古地名。  
和名抄、比企郡に都家郷ありて、都介と  
註す。其の地いまの平・明覺・玉川・菅  
谷諸村の邊なるべし。槻川これ等諸村を  
流る。槻は都家の轉訛なるべし。

ツゲ 關鷄(國) 上古大和國(奈良縣)  
の東北部にありし國名。何れの頃よりか  
國造を置きしが、允恭天皇の朝貶して稻  
置とす。東は伊賀國に接し南は宇陀郡に  
接し、往昔、水室を置かれし地として著  
はる。續紀・元明天皇の條に大倭國都部

の山道を開くと見ゆる都部も亦これに同  
じ。後世、大部は山邊郡に入り一部は添  
上郡に入る。和名抄山邊郡の都介郷は其  
遺稱にしていま都介野村にその名遺る。  
夫木・九「古のつげ野のみ狩それよりや  
水室のおもたて初めけん 中務親王」

ツケチ 付知町

岐阜縣美濃國惠那  
郡の北部。木曾川の支流付知川上流地に  
て、中津町の北方約二〇軒。東北部は長  
野縣西筑摩郡に、西南は加茂郡東白川村  
に隣り、面積七三方軒餘。飛騨山脈の南  
端部に當り、東境には井田ノ小路山・奥  
三界岳等海拔一八〇〇米臺の山岳聳え、  
西境にも新集山・高時山等一〇〇〇米前  
後の山峯ありて殆ど山地をなすも、西部  
に南流する付知川の谷ありて東西一軒餘  
南北約一〇軒の狭長の低地を作り、村民  
の過半は農業・林業に従ひ米・繭・麥・  
木材・木炭等を産し、約四分の一は工業  
に勤め絹織物を主とし、味噌・醬油等を  
出す。中山道と飛騨街道を結ぶ南北街道  
通じてバスの便あり、また社線北惠那電  
鐵は省線中央本線の中津川驛に起り、付  
知川に沿ひて大字野尻に達し、稻荷橋驛  
(昭和三年設置)・下付知驛(大正十三年  
設置)の二驛を置き交通の便よし。この  
地は和名抄、惠那郡繪下郷の地にして古  
來良材を出し、屢々將軍家の御用木を奉  
りしことあり。明治三十年町制を布く。  
元龜元年、付知領主遠山玄蕃は本家たる  
苗木城主遠山氏と戦ひしが矢柄坂に敗戦

ツケチ——ツシ

す。これを矢柄坂の戦といふ。また此地  
の庄屋田口忠左衛門は文政十三年三月、  
繪淵堰水(二里十五町五十間三尺)を開墾  
し次いで西股・宮津・北・花薮の四水路  
(その總延長八里三十二町四十七間)を開  
けり。「護山神社」縣社。祭神、大山祇  
命。天保年中江戸城修築に當り、當郷付  
知山奥田小路より其用材を伐採するに就  
き、同十一年山林の鎮守として、尾張領  
主徳川齊莊の發議により鎮齋せらる。現  
に御料林内にある奥社即ち是なり。同十  
四年に至り本殿・拜殿及び攝末社等を建  
立。爾來藩主の崇敬厚く、殿宇の修費・  
祭費等すべて藩庫より支出さる。例祭五  
月四日。「垂洞の杖垂橋」指定天然記念  
物。宇垂洞に所在。越道峠の森林中にあ  
り、根元周圍約一・五米、杖は下方に屈  
曲し完全に杖垂たり。野生の樹木に現れ  
たる著しき畸態として學術上有益なるも  
のとす。「彌藏蓮花ノ木」指定天然記念  
物。自生花の木中の代表的巨樹なり。

ツゲノ 都介野村

奈良縣大和國山  
邊郡の中部。西は丹波市町との間に福住  
村を隔て、西南は磯城郡上之郷村に、南  
は宇陀郡榛原町に界す。笠置山脈の中部  
都介野高原に位し、南境の東部に額井岳  
(八一六米)、西部に貝ヶ平山(八二二米)  
聳え、貝ヶ平山の東北嶺中部に延びて都  
介野嶽(六三二米)となるも、その東南と  
北方には低平の地ありて畑拓け、米・  
繭・麥の産あり、東南部には笠置街道通

じて南境の香醉峠をこえて榛原町に出で  
中部より岐れて西方生駒郡樺本町方面へ  
通ずる道路もあり、いづれもバスの便あ  
り。此地は上世の開關國の一部なる和名  
抄の山邊郡都介郷の地なるべし。「都部  
水分神社」大字友田に鎮座。縣社。祭  
神、速秋津彥命。式内大社。古來近隣五  
箇村の氏神たり。本殿は國寶。「都部山  
口神社」村社。祭神、大山祇命。大和  
十三年所山口神の一。式内大社。神封。大  
同元年一戸。神位、貞觀元年正五位下。  
別稱、小山戸明神。舊稱、豐受大明神。  
例祭、十月十八日。「來迎寺」大字來迎  
寺にあり。淨土宗西山派。本尊は善導大  
師自作の遺像にして、天平寶字七年我國  
に將來したるものなり。初め筑前博多極  
樂寺にありしが、建暦元年の騷亂に際し  
當寺に轉徙せるものといふ。

ツケン 津堅島

沖繩縣中城灣東口  
の島。勝連半島の南端より約四哩十町に  
浮ぶ。島周約八軒、島内殆んど低平にし  
て南部に聚落發達す。人口一千、島民概  
して體軀頑健偉大、男は殆んど漁業に従  
事す。南端に津堅島燈臺あり。燈質は不  
動白光にて光達距離は一四・五哩。

ツサカ 津峴驛

延喜兵部省式に見  
ゆる備中國(岡山縣)の驛名。和名抄に窪  
屋郡驛家郷あり。本郷が即ち津峴驛なる  
べし。其の地詳かならざれども、いま都  
窪郡山手村の大字に在り、これ驛亭の  
故址ならん。

ツサワ 津澤町 富山縣越中  
西瀨波郡の東部。小矢部川に沿ひ、いづれ  
の田町、東南の福野町と鼎立し、いづれ  
へも約六軒。東の一部は東瀨波郡野尻村  
に接し、面積五・五方軒。西南境に丘陵  
の末端部ある外は土地概ね平坦にして小  
矢部川西北に貫流し、水田拓けて米の産  
あり。その他藥品・繭も産し、地方的商  
業の一中心をなす。社線加越鐵道に沿ひ  
その津澤驛(大正十一年開業)あり。縣道  
四方に通じ、出町・福光町(いづれもバ  
スの便あり。この地は中世の野尻郷に屬  
す。

ツシ 都志町

兵庫縣淡路國伊名郡の  
西南海岸。播磨灘に西面す。東南洲本町  
とは約一二軒を隔つ。面積九方軒餘。東  
部・南部は百米臺の低き丘陵性山地なる  
も、都志川は東隣鮎原村より中部の低地  
を下りて海に入りその兩岸と丘陵地の傾  
斜面には耕地よく拓く。灌漑用の池塘多  
く、米・麥・果實等を産し、また養蠶行は  
れ、鱈・鯖等の漁利あり。都志の聚落  
は西海岸に沿ひて小箇地をなし、夏期は  
明石との間の小汽船の發着所となり、道  
路また四方に通じ鮎原・江井方面へはバ  
スの便あり。町名は和名抄、津名郡都志  
郷の遺稱にて、郷域は本町の外、鮎原・  
廣石・鳥飼の諸村に互るが如し。北海道  
千島海運の功勞者、高田屋嘉兵衛(贈正  
五位)の生地として知られ、町内にその  
記念碑あり。「八幡神社」大字宮元鎮

BOOK



ツシマ

座。郷社。祭神、應神天皇。創立年代詳かならず。例祭、九月十五日。

ツシ

【辻山】日本南アルプス鳳凰山塊の南方部に起る一峯。山梨縣中巨摩郡吉安村と北巨摩郡清野村との境上に位置す。標高二五八五米。北西稜には鳳凰山觀音ヶ岳(二七六〇米)續き、南方に大崖頭山(二一八六米)連る。南西方野呂川溪谷の彼方に雄峯白根三山を仰望す。

【辻町】静岡縣原郡にありし町。大正十三年安倍郡入江町(今は清水市の町)に編入す。

【辻町】徳島縣阿波國三好郡の中部。吉野川の中流南岸。池田町の東に隣り、北は吉野川を距てて養間町に對し、南は井内谷村に界す。南境に観山山脈の南山なる綱付山・天八山等の六〇〇米内外の山嶺は東西に連り、山脚は急崖をなして北境を東流する吉野川に臨む。吉野川地溝帯に沿ひ観山山脈の北麓はその斷層崖をなすものなるも、今は開析を受けその斷層崖は明かならず。中央構造線は吉野川の北岸を走り、また本町は吉野川の攻撃斜面に當るを以て平地に乏しく、井内谷及び中村川等の小支流あるも、何れも沿岸平地をつくらず、僅に吉野川岸に狭き岩石段丘あり。段丘は大字辻野津津後に最も明かに認めらる。かく平地乏しく段丘あるも、岩石段丘にして沖積層に被はること少く、基盤をなす結晶片岩の

四景

の櫻花、春・秋は美濃田の湖・高岡のつじ、夏は吉野川の站など景勝に富む。〔長樂寺〕古義眞言宗。寺寶中、楊柳觀音像一幅(絹本着色)は元朝初期の作と推せられ、現に國寶たり。

【辻村】香川縣讚岐國三豊郡の中部。財田川中流左岸に沿ひ、機津岸の觀音寺町を距る東南約八軒。北は財田大野村、西は豊田村に接す。面積僅に五方軒餘。讚岐山脈北斜面の末に、南境に善提山(三二二米)ありて南部半は山地、北半は三豊平野の東部に屬し耕地よく拓く。琴平・豊濱及び觀音寺町への縣道通じバスの便あり。物産に米・麥・蕎麥・鶏卵・果實・蔬菜・林産あり、特産物に銅像鑄物を出す。古くは和名抄、刈田郡山本郷の地ならん。村名は近江國(辻村)の鑄土、この地にて鑄物を業とせし故に起るといひ、また此地は往時道路四通八達せし故に起るといふ。〔若生神社〕郷社。祭神、遍々杵命・天種子命外四神。古來當村の産土神として村民の崇敬厚かりき。例祭、十月五日。〔大興寺(小松尾寺)〕古義眞言宗。小松尾山不動光院。同宗大覺寺末に屬し四國八十八所第六十七番札所たり。寺傳に弘仁十三年空海の草創に係り醍醐天皇の勅願所にして、もと東大寺に屬して台密二教を講じ、三十六僧坊を擁せし互利なりしと傳ふ。詠歌「植ゑおきしこまつを寺を眺むれば法の教の風ぞ吹きぬる」

ツジド

【辻堂】神奈川縣高座郡藤澤町の大字。東海道本線の辻堂驛(大正五年設置)あり。

ツシマ 津島

【津島村】福島縣磐城國雙葉郡の西北隅。北は相馬郡西南郡、西は安達郡東部に隣接す。面積九四方軒餘の大村。阿武隈山地の中部に位し、西境には北より高太石山・白馬石山・旭嶽等の高度八百一十米臺の諸峯ありて安達郡との分水嶺をなし、地は東方に傾き概ね高さ四一五百米の高原状をなし、四境の水集りて泉田川となり東南に流る。沿岸は津島盆地の名あり。物産に米・麥・大豆・薪炭あり。富岡街道は泉田川に沿ひて東西に通じ、西北は伊達郡川俣町、西南は浪江町にて陸前濱街道に連る。

【津島町】愛知縣尾張國海部郡の西北部。名古屋市の西北を距る西方約一〇軒、尾張平野の西南部を占めて地形極めて低平にして田よく拓け米産多し。毛織物工業甚だ盛にして大小の工場多くサージ類・セル類の産額多きを以て聞ゆ。名古屋よりの津島街道をはじめ東北は一宮市、東南は蟹江町、南方は彌富町等へ道路放射状に走りて多くはバスの往來あり、社線名古屋鐵道の尾西線は南北に貫き南津島驛(大正十三年開業)・津島驛(明治三十一年開業)・兼平驛(大正十三年開業)を置き、その津島線は東方名古屋より來りて津島口驛(大正四年開業)を経て津島驛

露出多し。町の生業は半農半商の形態を示し、農業は大字西井川及び大字辻の字中村・野津後・才長谷等に行はれ主に米麥を産し、中村には茄子を特産し、中村・野津後附近は養蠶も盛なり。また大字西井川字里川の山の斜面には葉煙草の栽培行はる。本町附近は阿波煙草栽培の核心地域にて才長谷にその煙草收納所あり。附近町村より葉煙草を收納する時は、この門前に臨時に飲食店其他の商店にて活況を呈す。商業は井内谷の溪口集落として發達し、大字辻最も盛にて主として井内谷村をその商圏とし密接なる商取引關係あり。嘗ては池田町をも凌駕せしことありしも、自動車交通の發達、池田町の發展等に伴ひ商業は次第に衰微し、いまは老年期の様相を呈し、その回春に努力しつつあり。省線徳島本線は吉野川岸に沿うて東西に走り辻驛(大正十三年設置)を置き、本線と土讃線との分岐點に佃信號場(昭和四年設置)あり。縣道また之に沿うて走り池田・川島間のバス通じ特に池田町との交通盛にて、井内谷村にもバス通す。此地は中世湯ノ河莊の一部、もと井内村と稱せしはこの轉訛なるべし。明治十八年三郷村字松尾村より里川を西井川村に合併、同年東井川・西井川・井内谷三ヶ村合併、同十二年井内村と稱し井内谷村を分離、同四十年町制を布き現在に至る。町名は阿波誌によれば井内いま分れて東・西二村となる。東村に坊あ

に連す。大藏省預金部資金局名古屋支局津島出張所あり。この地は和名抄、海部郡三宅郷の内か。舊郡役所のありし所。明治天皇、明治元年東京行幸の際及び同年京都還幸の際、此地に御小休あらせらる。此處と伊勢桑名との水路を津島渡といひ、のち桑名より熱田に渡るを津島渡と稱せられたり。〔奴野城〕大橋氏の居城。正慶元年、大橋三河守定高始めて此處に築き、定高の孫定省の時この城に良王君を隠す。良王君は後醍醐天皇の皇子尹良親王の子なり。〔津島神社〕大字向島に鎮座。國幣小社。祭神、素戔鳴尊。欽明天皇元年の創建といひ、初め居守の地にありしを、天曆二年勅によりて柏森の地に遷移。建徳元年正一位に叙せられ、弘和元年後圓融院の勅を奉じて大橋定省社殿を造營す。のち織田・豊臣・徳川氏等厚くこれを尊信し、江戸時代社領千二百九十三石を領せりといふ。中世牛王神宮寺を別當寺となし、諸坊整備して盛大を極めしが明治維新の際神宮寺は廢せらる。殿宇中、本殿は規模雄大にて裝飾華麗、我邦神社建築中有数の作といふべく、能く桃山時代初期の遺構を傳へ現に國寶たり。他に太刀一口(銘眞守)・劍一口(銘長光)また共に國寶たり。例祭は六月十四・十五の兩日にして俗に津島祭といひ、山車を乗せたる祭船五艘を天玉川に浮べ、華麗燦爛を極む。(成信坊)大字津島にあり。眞宗大谷派。久遠山と

り都懸と云ふと。慶長・元祿年間にもこの名見え、津路・辻・都懸等用ひられしも辻と記せるもの最も多く、いまは辻を用ふ。街道の十字に交又するよりこの名出づと。寛文年間、井内谷川に沿ひ現在の蓬萊橋を中心し兩側に茅葺の商店發達し、毎月市が立ち辻口の字にて呼ばれ、いま露口の名あるはその遺稱なるべし。享保九年十二月十七日、徳島の上司より「辻口で商賣御差止めだ、自今物の賣り買ひは池田か脇町の外一切相ならぬ」の御觸れあり。當時相當盛なりしを窺ふに足る。此地が嘗て榮えしは井内谷・祖谷・盡間等の後背地を控へ、且つ吉野川による河川交通の一大河港をなせしによる。即ち祖谷方面の各部落よりの出口たる要路に當り、延寶・元和年代よりこの方面の葉煙草は本町に出され、この外に井内谷・盡間・築藏・足代・三野・加茂・山城谷・半田等各町村の葉煙草は此地に毎日搬入せられ、刻煙草に製せられて讚岐・紀州・九州・阪神・北陸より遠く北海道まで吉野川を利用して盛に出さる。この煙草の民營時代は本町の最も繁榮せし時にて、明治三十一年葉煙草專賣法が實施されて、これが官營となりその工場が池田町に移り、また吉野川交通の河港集落として發達せし所も鐵道・自動車の發達に伴ひ、その中心は殆ど池田町に遷り昔日の面影を偲ぶに由なく衰微し、現は老年的溪口集落たり。春は金龍山・石光山

號し、一に津島坊といふ。もと天台宗なりしを、明徳年中現宗に改む。天正三年教如上人東國化導の歸途、織田氏の爲に危難に遭ひ、當寺禪念和尚に救はれし舊跡なり。〔瑞泉寺〕淨土宗西山派。鏡池山と號す。正二位大納言良王君の香華道場として明應元年創建せしものといひ、其法號に依りて寺號を附すといふ。永正年中住僧壽慶上人の中興なり。〔大龍寺〕淨土宗西山派。龜伯山と號す。大將軍尹良親王の爲めに、永享年中その子良王君の創建すといふ。本尊に慈覺大師作阿彌陀如来を安す。〔寶壽院〕向島にあり。新義眞言宗智山派。承和元年僧淨圓の創建。爾來牛頭天王別當職を奉ず。文和二年法印實到中興す。佛涅槃圖(絹本着色)一幅は國寶。

ツシマ 對馬

【對馬】佛前國(岡山縣)の古地名。和名抄に御津郡津島郡見ゆ。いま岡山市に入れる舊御津郡伊島村に津島の大字あり、郷名の遺稱とす。さすれば郷城は凡そ岡山市の一部と建部村に互る地を云ふか。【津島】愛媛縣北宇和郡にありし村。明治二十八年本村の大字は各々獨立して高近村・岩松村(今は町)となる。

ツシト

四景

鈴谷山脈の亞底灣に没する尖嶺にあり。西に亞底灣の支灣なる千歲灣を抱く。大泊港はこの岬の北にあり。岬端は岩礁多く、背後は海蝕臺地をなし無線電信局・亞底養蠶場等あり。岬名は日露戰役の際露艦ノグイック號を大泊にて擊破せし帝國軍艦對馬の名に因む。【對馬國】西海道十一國の一。この國は神代よりその名表はれ、大八洲國の中に數へらる。國造本紀によれば、神武天皇の朝に對馬縣を置き長官として直を任命されしこと見ゆ。神功皇后の兵を朝鮮に出し給ひし時には、この國の和珥浦を経由し給ふ。天智天皇の時、我國策轉換のため朝鮮の經營を抛棄せし際には、此國の下縣郡に金田城を築きて防備に努められ、なほ此地に防人を置き烽火をも設備せらる。文武天皇の朝この國より銀を獻じ尋いで文武天皇の朝には黄金を獻じ、ために大寶の年號を建てられしこと國史に著はる。この頃國府は下縣郡の府中即ち今の嚴原の地にありき。我が國に外寇の事あるや、その位置の然らしむるところ、第一に災害を蒙るはこの國にして、後一條天皇の御代刀伊の賊の入寇せし時にも、まづその侵略を蒙れり。鎌倉時代に至り、少貳氏この國を管せしが、此國の家族阿比留氏威を振ひてその指揮を奉ぜず。後醍醐天皇の寛元年間宗重尙は遂はに阿比留氏を滅ぼして國を統一し、筑前の少貳氏に屬して守護代となる。文永



十一年蒙古の侵入の際も此國はまづその侵略を蒙り、重尙の弟助國は奮戦して國に殉じ、國內甚しくその掠奪を蒙れり。建武中興の後、足利尊氏の叛するや宗氏はこれに屬し、のち正平年間助國の後なる經茂に至り始めて守護に補せられ、應永年中その孫貞茂の時北方に移り、上縣郡の佐賀に居る。この國が朝鮮國と貿易を始めしは嘉吉三年にして、貞茂の子貞盛の時なり。文明年中その孫の貞國の時南方に移りて府中に居る。爾後數代更に南方の奥良金岩に移り、數代の後義智に至る。義智は豊臣秀吉に従ひ朝鮮の役に功ありて國守に補せられ、なほ肥前國の地をも併領す。關ヶ原役には義智は西軍に屬せしが、役後、徳川家康は朝鮮との交渉の必要の爲にその舊領を安堵せしめし外、なほ肥前の一部をも領せしむ。義智の孫義眞に至り、寛文五年、府中棧原に移り明治維新に至る。明治二年殿原(府中)藩は殿原縣となりしが間もなく伊萬里縣に併合せらる。明治五年八月對馬全國は伊萬里縣を離れて長崎縣に屬し、以て今日に至る。

灣によりて兩分せられ、南部を上島(下縣郡)、北部を下島(上縣郡)とす。地質は殆ど白堊紀層より成り、僅の地域に石英斑岩の露出を見る。至る處丘陵性山地起伏して低地は所々の小河流の沿岸に狭小のものあるに過ぎず。沿岸出入多く島嶼少からず。近海は暖流東北に流れ魚族海藻に富み、特に鰯・鱒・干布の産多く水産業は島民の主産業たり。いま殿原町の外十二ヶ村を含み、人口五萬六千を越ゆ(昭和十年)。九州と朝鮮を繋ぐ飛石の觀あり。古來我國と朝鮮・支那との交通上の要點たり。上島東岸の殿原、下島西岸の鹿見、北岸の佐須奈は對馬の三港と呼ばれ、古く朝鮮との貿易の行はれし處。今も殿原は島廳の所在地、また開港にして石炭・亞鉛・鉛・漁獲物を輸出し食鹽・肥料等を輸入す。淺海灣南岸の竹敷は軍事上の要點にて、日露戦役には我が上村艦隊の根據地となりしを以て著はる。※對馬國

【對馬海峽】長崎縣の對馬と壱岐島との間の海峽。對馬と朝鮮との間の對馬西水道(朝鮮海峽)に對し東水道ともいふ。我國の國防上重要な海峽たり。【對馬西水道】朝鮮海峽

【對馬島】長崎縣の屬島。古く一國をなす。壱岐島の北西約三三哩、これと對馬海峽を挟み、西北は朝鮮慶尙南道に對しその間に朝鮮海峽を隔つ。島は南北に長く約七二浬、東西は廣き部分にて約一六浬、面積附近の小屬島を合せて約七〇三万軒を有す。主島は略中央部にある淺海灣によりて兩分せられ、南部を上島(下縣郡)、北部を下島(上縣郡)とす。地質は殆ど白堊紀層より成り、僅の地域に石英斑岩の露出を見る。至る處丘陵性山地起伏して低地は所々の小河流の沿岸に狭小のものあるに過ぎず。沿岸出入多く島嶼少からず。近海は暖流東北に流れ魚族海藻に富み、特に鰯・鱒・干布の産多く水産業は島民の主産業たり。いま殿原町の外十二ヶ村を含み、人口五萬六千を越ゆ(昭和十年)。九州と朝鮮を繋ぐ飛石の觀あり。古來我國と朝鮮・支那との交通上の要點たり。上島東岸の殿原、下島西岸の鹿見、北岸の佐須奈は對馬の三港と呼ばれ、古く朝鮮との貿易の行はれし處。今も殿原は島廳の所在地、また開港にして石炭・亞鉛・鉛・漁獲物を輸出し食鹽・肥料等を輸入す。淺海灣南岸の竹敷は軍事上の要點にて、日露戦役には我が上村艦隊の根據地となりしを以て著はる。※對馬國

【對馬島】長崎縣の屬島。古く一國をなす。壱岐島の北西約三三哩、これと對馬海峽を挟み、西北は朝鮮慶尙南道に對しその間に朝鮮海峽を隔つ。島は南北に長く約七二浬、東西は廣き部分にて約一六浬、面積附近の小屬島を合せて約七〇三万軒を有す。主島は略中央部にある淺海灣によりて兩分せられ、南部を上島(下縣郡)、北部を下島(上縣郡)とす。地質は殆ど白堊紀層より成り、僅の地域に石英斑岩の露出を見る。至る處丘陵性山地起伏して低地は所々の小河流の沿岸に狭小のものあるに過ぎず。沿岸出入多く島嶼少からず。近海は暖流東北に流れ魚族海藻に富み、特に鰯・鱒・干布の産多く水産業は島民の主産業たり。いま殿原町の外十二ヶ村を含み、人口五萬六千を越ゆ(昭和十年)。九州と朝鮮を繋ぐ飛石の觀あり。古來我國と朝鮮・支那との交通上の要點たり。上島東岸の殿原、下島西岸の鹿見、北岸の佐須奈は對馬の三港と呼ばれ、古く朝鮮との貿易の行はれし處。今も殿原は島廳の所在地、また開港にして石炭・亞鉛・鉛・漁獲物を輸出し食鹽・肥料等を輸入す。淺海灣南岸の竹敷は軍事上の要點にて、日露戦役には我が上村艦隊の根據地となりしを以て著はる。※對馬國

【對馬海峽】長崎縣の對馬と壱岐島との間の海峽。對馬と朝鮮との間の對馬西水道(朝鮮海峽)に對し東水道ともいふ。我國の國防上重要な海峽たり。【對馬西水道】朝鮮海峽

【對馬島】長崎縣の屬島。古く一國をなす。壱岐島の北西約三三哩、これと對馬海峽を挟み、西北は朝鮮慶尙南道に對しその間に朝鮮海峽を隔つ。島は南北に長く約七二浬、東西は廣き部分にて約一六浬、面積附近の小屬島を合せて約七〇三万軒を有す。主島は略中央部にある淺海灣によりて兩分せられ、南部を上島(下縣郡)、北部を下島(上縣郡)とす。地質は殆ど白堊紀層より成り、僅の地域に石英斑岩の露出を見る。至る處丘陵性山地起伏して低地は所々の小河流の沿岸に狭小のものあるに過ぎず。沿岸出入多く島嶼少からず。近海は暖流東北に流れ魚族海藻に富み、特に鰯・鱒・干布の産多く水産業は島民の主産業たり。いま殿原町の外十二ヶ村を含み、人口五萬六千を越ゆ(昭和十年)。九州と朝鮮を繋ぐ飛石の觀あり。古來我國と朝鮮・支那との交通上の要點たり。上島東岸の殿原、下島西岸の鹿見、北岸の佐須奈は對馬の三港と呼ばれ、古く朝鮮との貿易の行はれし處。今も殿原は島廳の所在地、また開港にして石炭・亞鉛・鉛・漁獲物を輸出し食鹽・肥料等を輸入す。淺海灣南岸の竹敷は軍事上の要點にて、日露戦役には我が上村艦隊の根據地となりしを以て著はる。※對馬國

【對馬島】長崎縣の屬島。古く一國をなす。壱岐島の北西約三三哩、これと對馬海峽を挟み、西北は朝鮮慶尙南道に對しその間に朝鮮海峽を隔つ。島は南北に長く約七二浬、東西は廣き部分にて約一六浬、面積附近の小屬島を合せて約七〇三万軒を有す。主島は略中央部にある淺海灣によりて兩分せられ、南部を上島(下縣郡)、北部を下島(上縣郡)とす。地質は殆ど白堊紀層より成り、僅の地域に石英斑岩の露出を見る。至る處丘陵性山地起伏して低地は所々の小河流の沿岸に狭小のものあるに過ぎず。沿岸出入多く島嶼少からず。近海は暖流東北に流れ魚族海藻に富み、特に鰯・鱒・干布の産多く水産業は島民の主産業たり。いま殿原町の外十二ヶ村を含み、人口五萬六千を越ゆ(昭和十年)。九州と朝鮮を繋ぐ飛石の觀あり。古來我國と朝鮮・支那との交通上の要點たり。上島東岸の殿原、下島西岸の鹿見、北岸の佐須奈は對馬の三港と呼ばれ、古く朝鮮との貿易の行はれし處。今も殿原は島廳の所在地、また開港にして石炭・亞鉛・鉛・漁獲物を輸出し食鹽・肥料等を輸入す。淺海灣南岸の竹敷は軍事上の要點にて、日露戦役には我が上村艦隊の根據地となりしを以て著はる。※對馬國

畿賀縣栗太郡及び甲賀郡に界す。面積一五六方軒。東半は笠置山脈に屬する山地起伏し、北境宇治川の南岸に大峰山(五〇六米)・花立ノ峰(三八七米)等あり、南境には鷲峯山(六八五米)聳ゆ。西境には生駒山脈の北部の丘陵性にて、甘南備山(二〇二米)・洞ヶ峠を経て、北端は男山(一四三米)となり淀川によりて斷たる。木津川は東西兩山地の間を西北流し、男山を北半に繞りて西南折し大阪平野に出づ。沿岸は山城盆地の南部にて低地廣く水利の便よし。農業行はれ米麥を産し、山麓斜面は茶・果樹の栽培盛なり。山地は木材薪・炭を出し外に畜産・水産あり。京阪新國道と東高野街道は西北部を奈良街道は中央低地を走り、省線奈良線・社線奈良電鐵及び省線片町線は奈良街道の東と西を縱走し、西北部に社線京阪電鐵京阪線は新京阪國道に沿ひて通じ交通の便よし。綴喜は書紀仁徳紀・繼體紀には簡城に作る。繼體天皇の簡城宮の在りし地。萬葉集卷十三に管木の原とあるも本郡を指せるもの。續紀和銅四年に綴喜郡名初めて見ゆ。和名抄は豆々岐と訓じ山本・多河・田原・中村・志磨・綴喜・大住・有智・甲作の七郷、餘戸一を管す。

【綴喜】山城國(京都府)の古地名。和名抄に綴喜郡綴喜郷あり、郡家の所在地にして、白鳳年中、天武天皇御創建の普賢寺あり、よりて中世には普賢寺莊と呼ばる。いま同郡に普賢寺村を存す。

【津澄村】茨城縣常陸國行方郡の東部。北浦西岸の中部に沿ひ、玉造町の東方約一〇軒。村の大部分は低き臺地にて畑地をなし林を交へ、中部より北浦沿岸にかけては狭き低地ありて水田をなす。米・麥を産し他に葡萄・甘藷等の栽培行はる。縣道南北に通じ、又これと分れ西走して霞ヶ浦沿岸に出づるものあり。また北浦の水運の便もあり。中世は大崎郷といふ。鹿島文書に大崎郷成井村と見ゆれば、大字繁昌は古く成井と稱せしものならんといふ。

【津田】津田郡の東部。北浦西岸の中部に沿ひ、玉造町の東方約一〇軒。村の大部分は低き臺地にて畑地をなし林を交へ、中部より北浦沿岸にかけては狭き低地ありて水田をなす。米・麥を産し他に葡萄・甘藷等の栽培行はる。縣道南北に通じ、又これと分れ西走して霞ヶ浦沿岸に出づるものあり。また北浦の水運の便もあり。中世は大崎郷といふ。鹿島文書に大崎郷成井村と見ゆれば、大字繁昌は古く成井と稱せしものならんといふ。

ツスキ ツタ

【綴喜】山城國(京都府)の古地名。和名抄に綴喜郡綴喜郷あり、郡家の所在地にして、白鳳年中、天武天皇御創建の普賢寺あり、よりて中世には普賢寺莊と呼ばる。いま同郡に普賢寺村を存す。

【津澄村】茨城縣常陸國行方郡の東部。北浦西岸の中部に沿ひ、玉造町の東方約一〇軒。村の大部分は低き臺地にて畑地をなし林を交へ、中部より北浦沿岸にかけては狭き低地ありて水田をなす。米・麥を産し他に葡萄・甘藷等の栽培行はる。縣道南北に通じ、又これと分れ西走して霞ヶ浦沿岸に出づるものあり。また北浦の水運の便もあり。中世は大崎郷といふ。鹿島文書に大崎郷成井村と見ゆれば、大字繁昌は古く成井と稱せしものならんといふ。

【津田】津田郡の東部。北浦西岸の中部に沿ひ、玉造町の東方約一〇軒。村の大部分は低き臺地にて畑地をなし林を交へ、中部より北浦沿岸にかけては狭き低地ありて水田をなす。米・麥を産し他に葡萄・甘藷等の栽培行はる。縣道南北に通じ、又これと分れ西走して霞ヶ浦沿岸に出づるものあり。また北浦の水運の便もあり。中世は大崎郷といふ。鹿島文書に大崎郷成井村と見ゆれば、大字繁昌は古く成井と稱せしものならんといふ。



南境より西北部にかけ二〇〇米程度の丘陵連なり、東北部には低地ありて田畑よく拓け米・蕎麦を産し、其他林産・畜産・工産等あり。省線紀勢東線相可驛に近く交通不便ならず。この地は和名抄、多氣郡相可郷の内。近長谷寺文書、天曆七年資財帳に「多氣郡相可郷、十六條三疋田里、四疋田里、相可里、津留里」とある三疋田、四疋田、津留等は皆本村の大字にその名遺る。

【津田村】 大阪府河内國北河内郡の東北部。大阪平野東部を占め枚方町の東方約五里。東南部に生駒山脈北部の高き約二百米内外の丘陵ある外は大阪平野東部の沖積地にして殆ど乾田をなし、農産に米・麦・野菜を出し、果樹栽培行はれ麥類の産も少からず。大阪に近く近時工業も年と共に多し。西部に東高野街道がすめ、これと連絡して中部を東西に走る枚方・田邊(京都府綴喜郡)間の道路等あり、省線片町線中部を南北に通じて津田驛(明治三十一年設置)あり。交通は便利なり。この地は和名抄、交野郡園田郷の内にして、紀州名所園會に交野郡津田城主周防守正信の息監物算長は砲術家なりし由見ゆ。「三之宮神社」大字津田に鎮座。祭神、天津神・大御食津命・須佐之男命等十六柱。創立年代詳かならず。豊臣秀頼社殿を再建し、大阪城鬼門除の社とす。例祭、十月十四日。

【津田】 鳥根縣八東郡にありし村。昭和九年松江市に編入す。

【津田村】 岡山縣上道郡の南部海岸。岡山市の東南約六里、兒島灣の東北岸に位置し、東は吉井川下流との間に金田村・九郷村を挟み、西北は光政村に接す。面積四・四七平方里。文祿年中、岡山藩家老津田左源太及び熊澤春山によりて干拓せられし地にて、所謂上道新田の中央部にあたり全村耕地をなす。米・麦・蕎麦の産多し。往古この地は一帯の海面なりしが藩主池田氏の開墾築せし所。即ち上道新田の一部なり。※採揚村

【津田】 岡山縣淺口郡にありし村。明治三十八年外二村と共に廢され鴨方村を置く。鴨方村は大正十四年町制を布く。

【津田村】 岡山縣美作國眞庭郡の南端。旭川の右岸に沿ふ。落合町の南に隣り、東は旭川を隔てて久米郡の西北部に對し南は御津郡の北部に接す。南境及び西・西北部には四百米内外の丘陵性山地連なり、旭川の一支出、中央を東流しその沿岸に狭長なる耕地ありて田畑開く。米麥を主産し蕎麦・干柿を特産し、養蠶も盛に行はれ、なほ木炭の産出も少からず。縣道は旭川沿ひに通じバスの便あり。本村は明治三十七年に船津村・上田村を廢して新たに置けるもの。

【津田町】 廣島縣安藝國佐伯郡の西部。廿日市町の西方約一六里を距て、木野川の上游地を占め、東は友和村、西北は四和村に接す。面積二・二四平方里。四周

は高さ四百米内外の山地に圍繞され、北部に高地ありて一小盆地をなす。木野川西北部に發し盆地を潤して西南に流れ西南隣淺原村に出づ。國道(中國街道)より岐れ周防の北部を経て石見の津和野に通ずる縣道中部を東西に貫通し、東方省線山陽本線の廿日市驛へバスを通ず。米・麦・蕎麦を産し、特産に柿・酒類・醬油・牛・馬等を出す。本町は仁和二年、津田某なる者、主となりて山野を開拓せるにより津田と稱す。元治二年、長州征伐の際には激戦のありし所、昭和四年に町制施行す。

【津田町】 香川縣讃岐國大川郡の東北海岸。東は播磨灘に面し、東南は鶴羽村、西北は鴨部村・小田村に接す。面積八・四四平方里。海岸は深く灣入して小灣を抱き砂濱の長汀をなす。縣立琴林公園と稱する松多き名勝あり。北部及び西境は高さ二一三百米の丘陵性山地なるも海岸に沿ひては平地あり。三本松より志度を経て高松に至る縣道東南より西北に通じバスの便あり。また省線高徳本線は同方向に走りて讃岐津田驛(大正十五年設置)を置く。物産に米・麦・甘藷・烟草・桑・大根等あり、漁業には鱈をはじめ各種の魚族の漁獲あり。古くは和名抄、寒川郡神崎郷の内なるべし。往古、此地は全く平地なかつた山麓に沿ふ一漁村に過ぎざりしもの、ち東讃海岸一帯の隆起に伴ひ、

これを開拓して田となし漁農相半ばするに至れりといふ。村名もこれに因みしならんと云ふ。明治三十一年町制を布く。【津田ノ松原(琴林公園)】 前は海に臨み後は巒岳その他の山を繞る。松は概ね黒松にて幹の大なるものは地上一米半に於て幹圍三米六あり。松原の西端海に面せるところに根上り松三十餘株あり、露出根は何れも低く唯だ横に延長す。この松原は縣營の公園にして琴林公園といひ、又その海濱は遠淺にして海水浴客を以て賑ふ。(石清水神社) 字琴林に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊・息長足姫尊・玉姬命。讃岐國名勝園會に、承和中の勸請創建、天正中兵火に罹り文祿中再興せし旨記さる。

【津田村】 熊本縣肥後國菊池郡の南部。白川の北岸に沿ひ西南境より熊本市東北境へは約四里を隔つるのみ。東西約一〇里、南北約一・五里の狭長なる村にして南境の東半は上益城郡白水村に、西半は他託郡合合・龍田二村に接す。阿蘇山西麓より西に續く黒石臺地の南部を占め、東方阿蘇山より流下する白川は南境を西流し中央にて東南折し熊本市方面へ向ひ其流域は田多く、他は畑地となし米・麦その他の農産多く畜産もあり。縣道と省線豊肥本線並行して中部を斜に横ぎり、後者の三里木驛(大正三年設置)あり。

【津田】 都田 神奈川縣都筑郡の村なりしが、昭和九年一月町制を布きて用和町と稱す。

【津田】 高知縣土佐國幡多郡の西北部。四萬十川中流の山地に位置し西北及び西は愛媛縣北宇和・南宇和二郡及び宇和島市に界し、東北は十川村・江川崎村、南は大川筋村・橋上村に接す。面積一九四平方里。西北境は鬼ヶ城山城の地にて、その山肢數條東南に延び目黒川・黒津川はそれら山肢間の谷を下りて村の東部を蛇曲南流する四萬十川に合す。面積廣大なるも至る所山地にて山林繁茂す。河谷に沿ひて多少の耕地あるも農産はいふに足らず。木炭・雜草、和紙等を産す。交通は便ならず。村内國有林山の父山に宿屋あり。地上一・三米にて幹圍六・四米、樹高一四米、推定樹齡は二百五十年。樹幹に二米の窓あり、人々は此窓より入りて雨宿をなし、或は獵夫など宿泊するより宿屋の赤檜といはる。「大宮神社」大字大宮に鎮座。祭神、日本武尊。一説に天文五年の創立といふ。例祭、七月二十八日・十一月三日。

【津田】 備前國(岡山縣)の古郡名。和名抄は豆太加と註し賀茂・津高・健部の三郷驛一を置く。明治三十三年御野郡と合して御津郡を立つ。↓御津郡

【津高】 備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に津高郡津高郷あり。郡家の所在地とす。當國一宮文書文永元年、東寺文書慶

永二十年の文書に夫々津高郷の名見ゆ。其地は御津郡の今・横井・平津の諸村に互る邊なるべし。

【津田】 廣島縣安藝國佐伯郡の西部。南北に稍細長く、面積二平方里。東北境に黒尾山(一〇二五米)ありて、その脈東境を南に連り、西境にも高さ五百米内外の山脈延び村内概ね山地をなす。北境に源流する排保川の一支出や西偏して中部を南流して山崎町に出でて本流に合す。この川の沿岸に稍低地ありて畑よく拓け米・蕎麦・裸麥・小麦・蔬菜・食用農産物等を産し、製茶・鶏卵の外、蕎麦芋・薯製品・果實等の特産あり、天兒屋鐵山よりは砂鐵を出す。中央河谷を道路通じ山崎町へバスの便あり。此地は和名抄、安栗郡高家郷の内なるべく、風土記の高家里は此地なり。「大倭物代主神社」大字下牧谷に鎮座。祭神、健甕名方神・事代主命外三神。式内小社に列すと雖も、その創建年月を詳にせず。例祭、十月十八日。

【津田】 廣島縣安藝國山縣郡の中部。太田川上流々城の山地にあり、加計町の東北に隣り、北に美和村・原村、南に吉坂村・安野村あり。面積五四方里。高度五―六百米の山嶺東西に波状に起伏し最高處は東北境にありて九二六米を示し、山地多きも、中部、東南部及び西部には中狭き低地ありて耕作行はれ、米・

【津田】 香川縣讃岐國大川郡の東北海岸。東は播磨灘に面し、東南は鶴羽村、西北は鴨部村・小田村に接す。面積八・四四平方里。海岸は深く灣入して小灣を抱き砂濱の長汀をなす。縣立琴林公園と稱する松多き名勝あり。北部及び西境は高さ二一三百米の丘陵性山地なるも海岸に沿ひては平地あり。三本松より志度を経て高松に至る縣道東南より西北に通じバスの便あり。また省線高徳本線は同方向に走りて讃岐津田驛(大正十五年設置)を置く。物産に米・麦・甘藷・烟草・桑・大根等あり、漁業には鱈をはじめ各種の魚族の漁獲あり。古くは和名抄、寒川郡神崎郷の内なるべし。往古、此地は全く平地なかつた山麓に沿ふ一漁村に過ぎざりしもの、ち東讃海岸一帯の隆起に伴ひ、

これを開拓して田となし漁農相半ばするに至れりといふ。村名もこれに因みしならんと云ふ。明治三十一年町制を布く。【津田ノ松原(琴林公園)】 前は海に臨み後は巒岳その他の山を繞る。松は概ね黒松にて幹の大なるものは地上一米半に於て幹圍三米六あり。松原の西端海に面せるところに根上り松三十餘株あり、露出根は何れも低く唯だ横に延長す。この松原は縣營の公園にして琴林公園といひ、又その海濱は遠淺にして海水浴客を以て賑ふ。(石清水神社) 字琴林に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊・息長足姫尊・玉姬命。讃岐國名勝園會に、承和中の勸請創建、天正中兵火に罹り文祿中再興せし旨記さる。

【津田村】 熊本縣肥後國菊池郡の南部。白川の北岸に沿ひ西南境より熊本市東北境へは約四里を隔つるのみ。東西約一〇里、南北約一・五里の狭長なる村にして南境の東半は上益城郡白水村に、西半は他託郡合合・龍田二村に接す。阿蘇山西麓より西に續く黒石臺地の南部を占め、東方阿蘇山より流下する白川は南境を西流し中央にて東南折し熊本市方面へ向ひ其流域は田多く、他は畑地となし米・麦その他の農産多く畜産もあり。縣道と省線豊肥本線並行して中部を斜に横ぎり、後者の三里木驛(大正三年設置)あり。

【津田】 都田 神奈川縣都筑郡の村なりしが、昭和九年一月町制を布きて用和町と稱す。

【津田】 高知縣土佐國幡多郡の西北部。四萬十川中流の山地に位置し西北及び西は愛媛縣北宇和・南宇和二郡及び宇和島市に界し、東北は十川村・江川崎村、南は大川筋村・橋上村に接す。面積一九四平方里。西北境は鬼ヶ城山城の地にて、その山肢數條東南に延び目黒川・黒津川はそれら山肢間の谷を下りて村の東部を蛇曲南流する四萬十川に合す。面積廣大なるも至る所山地にて山林繁茂す。河谷に沿ひて多少の耕地あるも農産はいふに足らず。木炭・雜草、和紙等を産す。交通は便ならず。村内國有林山の父山に宿屋あり。地上一・三米にて幹圍六・四米、樹高一四米、推定樹齡は二百五十年。樹幹に二米の窓あり、人々は此窓より入りて雨宿をなし、或は獵夫など宿泊するより宿屋の赤檜といはる。「大宮神社」大字大宮に鎮座。祭神、日本武尊。一説に天文五年の創立といふ。例祭、七月二十八日・十一月三日。

【津田】 備前國(岡山縣)の古郡名。和名抄は豆太加と註し賀茂・津高・健部の三郷驛一を置く。明治三十三年御野郡と合して御津郡を立つ。↓御津郡

【津高】 備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に津高郡津高郷あり。郡家の所在地とす。當國一宮文書文永元年、東寺文書慶

永二十年の文書に夫々津高郷の名見ゆ。其地は御津郡の今・横井・平津の諸村に互る邊なるべし。

【津田】 廣島縣安藝國佐伯郡の西部。南北に稍細長く、面積二平方里。東北境に黒尾山(一〇二五米)ありて、その脈東境を南に連り、西境にも高さ五百米内外の山脈延び村内概ね山地をなす。北境に源流する排保川の一支出や西偏して中部を南流して山崎町に出でて本流に合す。この川の沿岸に稍低地ありて畑よく拓け米・蕎麦・裸麥・小麦・蔬菜・食用農産物等を産し、製茶・鶏卵の外、蕎麦芋・薯製品・果實等の特産あり、天兒屋鐵山よりは砂鐵を出す。中央河谷を道路通じ山崎町へバスの便あり。此地は和名抄、安栗郡高家郷の内なるべく、風土記の高家里は此地なり。「大倭物代主神社」大字下牧谷に鎮座。祭神、健甕名方神・事代主命外三神。式内小社に列すと雖も、その創建年月を詳にせず。例祭、十月十八日。

【津田】 香川縣讃岐國大川郡の東北海岸。東は播磨灘に面し、東南は鶴羽村、西北は鴨部村・小田村に接す。面積八・四四平方里。海岸は深く灣入して小灣を抱き砂濱の長汀をなす。縣立琴林公園と稱する松多き名勝あり。北部及び西境は高さ二一三百米の丘陵性山地なるも海岸に沿ひては平地あり。三本松より志度を経て高松に至る縣道東南より西北に通じバスの便あり。また省線高徳本線は同方向に走りて讃岐津田驛(大正十五年設置)を置く。物産に米・麦・甘藷・烟草・桑・大根等あり、漁業には鱈をはじめ各種の魚族の漁獲あり。古くは和名抄、寒川郡神崎郷の内なるべし。往古、此地は全く平地なかつた山麓に沿ふ一漁村に過ぎざりしもの、ち東讃海岸一帯の隆起に伴ひ、

これを開拓して田となし漁農相半ばするに至れりといふ。村名もこれに因みしならんと云ふ。明治三十一年町制を布く。【津田ノ松原(琴林公園)】 前は海に臨み後は巒岳その他の山を繞る。松は概ね黒松にて幹の大なるものは地上一米半に於て幹圍三米六あり。松原の西端海に面せるところに根上り松三十餘株あり、露出根は何れも低く唯だ横に延長す。この松原は縣營の公園にして琴林公園といひ、又その海濱は遠淺にして海水浴客を以て賑ふ。(石清水神社) 字琴林に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊・息長足姫尊・玉姬命。讃岐國名勝園會に、承和中の勸請創建、天正中兵火に罹り文祿中再興せし旨記さる。

【津田村】 熊本縣肥後國菊池郡の南部。白川の北岸に沿ひ西南境より熊本市東北境へは約四里を隔つるのみ。東西約一〇里、南北約一・五里の狭長なる村にして南境の東半は上益城郡白水村に、西半は他託郡合合・龍田二村に接す。阿蘇山西麓より西に續く黒石臺地の南部を占め、東方阿蘇山より流下する白川は南境を西流し中央にて東南折し熊本市方面へ向ひ其流域は田多く、他は畑地となし米・麦その他の農産多く畜産もあり。縣道と省線豊肥本線並行して中部を斜に横ぎり、後者の三里木驛(大正三年設置)あり。

【津田】 都田 神奈川縣都筑郡の村なりしが、昭和九年一月町制を布きて用和町と稱す。

【津田】 高知縣土佐國幡多郡の西北部。四萬十川中流の山地に位置し西北及び西は愛媛縣北宇和・南宇和二郡及び宇和島市に界し、東北は十川村・江川崎村、南は大川筋村・橋上村に接す。面積一九四平方里。西北境は鬼ヶ城山城の地にて、その山肢數條東南に延び目黒川・黒津川はそれら山肢間の谷を下りて村の東部を蛇曲南流する四萬十川に合す。面積廣大なるも至る所山地にて山林繁茂す。河谷に沿ひて多少の耕地あるも農産はいふに足らず。木炭・雜草、和紙等を産す。交通は便ならず。村内國有林山の父山に宿屋あり。地上一・三米にて幹圍六・四米、樹高一四米、推定樹齡は二百五十年。樹幹に二米の窓あり、人々は此窓より入りて雨宿をなし、或は獵夫など宿泊するより宿屋の赤檜といはる。「大宮神社」大字大宮に鎮座。祭神、日本武尊。一説に天文五年の創立といふ。例祭、七月二十八日・十一月三日。

【津田】 備前國(岡山縣)の古郡名。和名抄は豆太加と註し賀茂・津高・健部の三郷驛一を置く。明治三十三年御野郡と合して御津郡を立つ。↓御津郡

【津高】 備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に津高郡津高郷あり。郡家の所在地とす。當國一宮文書文永元年、東寺文書慶

永二十年の文書に夫々津高郷の名見ゆ。其地は御津郡の今・横井・平津の諸村に互る邊なるべし。

【津田】 廣島縣安藝國佐伯郡の西部。南北に稍細長く、面積二平方里。東北境に黒尾山(一〇二五米)ありて、その脈東境を南に連り、西境にも高さ五百米内外の山脈延び村内概ね山地をなす。北境に源流する排保川の一支出や西偏して中部を南流して山崎町に出でて本流に合す。この川の沿岸に稍低地ありて畑よく拓け米・蕎麦・裸麥・小麦・蔬菜・食用農産物等を産し、製茶・鶏卵の外、蕎麦芋・薯製品・果實等の特産あり、天兒屋鐵山よりは砂鐵を出す。中央河谷を道路通じ山崎町へバスの便あり。此地は和名抄、安栗郡高家郷の内なるべく、風土記の高家里は此地なり。「大倭物代主神社」大字下牧谷に鎮座。祭神、健甕名方神・事代主命外三神。式内小社に列すと雖も、その創建年月を詳にせず。例祭、十月十八日。

【津田】 廣島縣安藝國山縣郡の中部。太田川上流々城の山地にあり、加計町の東北に隣り、北に美和村・原村、南に吉坂村・安野村あり。面積五四方里。高度五―六百米の山嶺東西に波状に起伏し最高處は東北境にありて九二六米を示し、山地多きも、中部、東南部及び西部には中狭き低地ありて耕作行はれ、米・

【津田】 香川縣讃岐國大川郡の東北海岸。東は播磨灘に面し、東南は鶴羽村、西北は鴨部村・小田村に接す。面積八・四四平方里。海岸は深く灣入して小灣を抱き砂濱の長汀をなす。縣立琴林公園と稱する松多き名勝あり。北部及び西境は高さ二一三百米の丘陵性山地なるも海岸に沿ひては平地あり。三本松より志度を経て高松に至る縣道東南より西北に通じバスの便あり。また省線高徳本線は同方向に走りて讃岐津田驛(大正十五年設置)を置く。物産に米・麦・甘藷・烟草・桑・大根等あり、漁業には鱈をはじめ各種の魚族の漁獲あり。古くは和名抄、寒川郡神崎郷の内なるべし。往古、此地は全く平地なかつた山麓に沿ふ一漁村に過ぎざりしもの、ち東讃海岸一帯の隆起に伴ひ、

これを開拓して田となし漁農相半ばするに至れりといふ。村名もこれに因みしならんと云ふ。明治三十一年町制を布く。【津田ノ松原(琴林公園)】 前は海に臨み後は巒岳その他の山を繞る。松は概ね黒松にて幹の大なるものは地上一米半に於て幹圍三米六あり。松原の西端海に面せるところに根上り松三十餘株あり、露出根は何れも低く唯だ横に延長す。この松原は縣營の公園にして琴林公園といひ、又その海濱は遠淺にして海水浴客を以て賑ふ。(石清水神社) 字琴林に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊・息長足姫尊・玉姬命。讃岐國名勝園會に、承和中の勸請創建、天正中兵火に罹り文祿中再興せし旨記さる。

【津田村】 熊本縣肥後國菊池郡の南部。白川の北岸に沿ひ西南境より熊本市東北境へは約四里を隔つるのみ。東西約一〇里、南北約一・五里の狭長なる村にして南境の東半は上益城郡白水村に、西半は他託郡合合・龍田二村に接す。阿蘇山西麓より西に續く黒石臺地の南部を占め、東方阿蘇山より流下する白川は南境を西流し中央にて東南折し熊本市方面へ向ひ其流域は田多く、他は畑地となし米・麦その他の農産多く畜産もあり。縣道と省線豊肥本線並行して中部を斜に横ぎり、後者の三里木驛(大正三年設置)あり。

【津田】 都田 神奈川縣都筑郡の村なりしが、昭和九年一月町制を布きて用和町と稱す。

【津田】 高知縣土佐國幡多郡の西北部。四萬十川中流の山地に位置し西北及び西は愛媛縣北宇和・南宇和二郡及び宇和島市に界し、東北は十川村・江川崎村、南は大川筋村・橋上村に接す。面積一九四平方里。西北境は鬼ヶ城山城の地にて、その山肢數條東南に延び目黒川・黒津川はそれら山肢間の谷を下りて村の東部を蛇曲南流する四萬十川に合す。面積廣大なるも至る所山地にて山林繁茂す。河谷に沿ひて多少の耕地あるも農産はいふに足らず。木炭・雜草、和紙等を産す。交通は便ならず。村内國有林山の父山に宿屋あり。地上一・三米にて幹圍六・四米、樹高一四米、推定樹齡は二百五十年。樹幹に二米の窓あり、人々は此窓より入りて雨宿をなし、或は獵夫など宿泊するより宿屋の赤檜といはる。「大宮神社」大字大宮に鎮座。祭神、日本武尊。一説に天文五年の創立といふ。例祭、七月二十八日・十一月三日。

【津田】 備前國(岡山縣)の古郡名。和名抄は豆太加と註し賀茂・津高・健部の三郷驛一を置く。明治三十三年御野郡と合して御津郡を立つ。↓御津郡

【津高】 備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に津高郡津高郷あり。郡家の所在地とす。當國一宮文書文永元年、東寺文書慶

永二十年の文書に夫々津高郷の名見ゆ。其地は御津郡の今・横井・平津の諸村に互る邊なるべし。

【津田】 廣島縣安藝國佐伯郡の西部。南北に稍細長く、面積二平方里。東北境に黒尾山(一〇二五米)ありて、その脈東境を南に連り、西境にも高さ五百米内外の山脈延び村内概ね山地をなす。北境に源流する排保川の一支出や西偏して中部を南流して山崎町に出でて本流に合す。この川の沿岸に稍低地ありて畑よく拓け米・蕎麦・裸麥・小麦・蔬菜・食用農産物等を産し、製茶・鶏卵の外、蕎麦芋・薯製品・果實等の特産あり、天兒屋鐵山よりは砂鐵を出す。中央河谷を道路通じ山崎町へバスの便あり。此地は和名抄、安栗郡高家郷の内なるべく、風土記の高家里は此地なり。「大倭物代主神社」大字下牧谷に鎮座。祭神、健甕名方神・事代主命外三神。式内小社に列すと雖も、その創建年月を詳にせず。例祭、十月十八日。

【津田】 廣島縣安藝國山縣郡の中部。太田川上流々城の山地にあり、加計町の東北に隣り、北に美和村・原村、南に吉坂村・安野村あり。面積五四方里。高度五―六百米の山嶺東西に波状に起伏し最高處は東北境にありて九二六米を示し、山地多きも、中部、東南部及び西部には中狭き低地ありて耕作行はれ、米・

【津田】 香川縣讃岐國大川郡の東北海岸。東は播磨灘に面し、東南は鶴羽村、西北は鴨部村・小田村に接す。面積八・四四平方里。海岸は深く灣入して小灣を抱き砂濱の長汀をなす。縣立琴林公園と稱する松多き名勝あり。北部及び西境は高さ二一三百米の丘陵性山地なるも海岸に沿ひては平地あり。三本松より志度を経て高松に至る縣道東南より西北に通じバスの便あり。また省線高徳本線は同方向に走りて讃岐津田驛(大正十五年設置)を置く。物産に米・麦・甘藷・烟草・桑・大根等あり、漁業には鱈をはじめ各種の魚族の漁獲あり。古くは和名抄、寒川郡神崎郷の内なるべし。往古、此地は全く平地なかつた山麓に沿ふ一漁村に過ぎざりしもの、ち東讃海岸一帯の隆起に伴ひ、

これを開拓して田となし漁農相半ばするに至れりといふ。村名もこれに因みしならんと云ふ。明治三十一年町制を布く。【津田ノ松原(琴林公園)】 前は海に臨み後は巒岳その他の山を繞る。松は概ね黒松にて幹の大なるものは地上一米半に於て幹圍三米六あり。松原の西端海に面せるところに根上り松三十餘株あり、露出根は何れも低く唯だ横に延長す。この松原は縣營の公園にして琴林公園といひ、又その海濱は遠淺にして海水浴客を以て賑ふ。(石清水神社) 字琴林に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊・息長足姫尊・玉姬命。讃岐國名勝園會に、承和中の勸請創建、天正中兵火に罹り文祿中再興せし旨記さる。

【津田村】 熊本縣肥後國菊池郡の南部。白川の北岸に沿ひ西南境より熊本市東北境へは約四里を隔つるのみ。東西約一〇里、南北約一・五里の狭長なる村にして南境の東半は上益城郡白水村に、西半は他託郡合合・龍田二村に接す。阿蘇山西麓より西に續く黒石臺地の南部を占め、東方阿蘇山より流下する白川は南境を西流し中央にて東南折し熊本市方面へ向ひ其流域は田多く、他は畑地となし米・麦その他の農産多く畜産もあり。縣道と省線豊肥本線並行して中部を斜に横ぎり、後者の三里木驛(大正三年設置)あり。

【津田】 都田 神奈川縣都筑郡の村なりしが、昭和九年一月町制を布きて用和町と稱す。

【津田】 高知縣土佐國幡多郡の西北部。四萬十川中流の山地に位置し西北及び西は愛媛縣北宇和・南宇和二郡及び宇和島市に界し、東北は十川村・江川崎村、南は大川筋村・橋上村に接す。面積一九四平方里。西北境は鬼ヶ城山城の地にて、その山肢數條東南に延び目黒川・黒津川はそれら山肢間の谷を下りて村の東部を蛇曲南流する四萬十川に合す。面積廣大なるも至る所山地にて山林繁茂す。河谷に沿ひて多少の耕地あるも農産はいふに足らず。木炭・雜草、和紙等を産す。交通は便ならず。村内國有林山の父山に宿屋あり。地上一・三米にて幹圍六・四米、樹高一四米、推定樹齡は二百五十年。樹幹に二米の窓あり、人々は此窓より入りて雨宿をなし、或は獵夫など宿泊するより宿屋の赤檜といはる。「大宮神社」大字大宮に鎮座。祭神、日本武尊。一説に天文五年の創立といふ。例祭、七月二十八日・十一月三日。

【津田】 備前國(岡山縣)の古郡名。和名抄は豆太加と註し賀茂・津高・健部の三郷驛一を置く。明治三十三年御野郡と合して御津郡を立つ。↓御津郡

【津高】 備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に津高郡津高郷あり。郡家の所在地とす。當國一宮文書文永元年、東寺文書慶

永二十年の文書に夫々津高郷の名見ゆ。其地は御津郡の今・横井・平津の諸村に互る邊なるべし。

【津田】 廣島縣安藝國佐伯郡の西部。南北に稍細長く、面積二平方里。東北境に黒尾山(一〇二五米)ありて、その脈東境を南に連り、西境にも高さ五百米内外の山脈延び村内概ね山地をなす。北境に源流する排保川の一支出や西偏して中部を南流して山崎町に出でて本流に合す。この川の沿岸に稍低地ありて畑よく拓け米・蕎麦・裸麥・小麦・蔬菜・食用農産物等を産し、製茶・鶏卵の外、蕎麦芋・薯製品・果實等の特産あり、天兒屋鐵山よりは砂鐵を出す。中央河谷を道路通じ山崎町へバスの便あり。此地は和名抄、安栗郡高家郷の内なるべく、風土記の高家里は此地なり。「大倭物代主神社」大字下牧谷に鎮座。祭神、健甕名方神・事代主命外三神。式内小社に列すと雖も、その創建年月を詳にせず。例祭、十月十八日。

【津田】 廣島縣安藝國山縣郡の中部。太田川上流々城の山地にあり、加計町の東北に隣り、北に美和村・原村、南に吉坂村・安野村あり。面積五四方里。高度五―六百米の山嶺東西に波状に起伏し最高處は東北境にありて九二六米を示し、山地多きも、中部、東南部及び西部には中狭き低地ありて耕作行はれ、米・



ツチ ツチウ

津民に鎮座。郷社。祭神、應神天皇、仲哀天皇外二神。社記に應永元年長岩城主野仲弘道、鎌倉鶴岡八幡宮を勧請創祀せるものと傳ふ。例祭、四月十五日。〔正平寺〕天台宗。檜原山と號し、人皇三十二代崇峻天皇元年の創建。百濟國の正覺上人の開創といふ。孝謙天皇より歴代の勅願所と定められ、また山上十二箇所の精舎は世々國府に保管せられ國家鎮護の道場として靈威莊嚴なりき。現に末寺十三を有す。

津知村 茨城縣常陸國行方郡の南部。潮來町の東北に隣る面積僅に四、四六方軒の小村。行方臺地の南端部に高さ二三十米の臺地多く、中部より南部に低地あり、米・麥・大豆・野菜等の農産あり。縣道南部に通じ潮來町につづきて街村發達し、牛堀・鹿島間のバス路線に當り交通便なり。〔妙光寺〕大字築地にあり。日蓮宗。本國山と號し池上木門寺末たり。文永二年創建、開山を日門上人とす。

都知 能登國(石川縣)の古地名。和名抄に羽咋郡都知郷見ゆ。中世には土田莊と呼ばれ、源平盛衰記に見ゆる土田氏は莊名を負ひてこの地に居る。其の地は東土田村・西土田村・上熊野村の邊なるべし。

都治村 島根縣石見國那賀郡の北東部。西北部は日本海に面し東は瀨摩郡波積村に界し、温泉津町の西南約五軒に位す。面積八・五方軒餘。村内低き丘陵に到る所に起伏するも中部と海岸には巾狭き低地ありて耕地拓け、中央部に都治本郷、海岸に後地の聚落發達す。米・藪・清酒・木材・牛馬を産し、また製陶工業行はる。省線山陰本線黒松驛(北隣黒松村内)・淺利驛(西隣淺利村内)に近く、共にバスの便を有す。この地は渡津村・淺利村・黒松村と共に和名抄、瀨摩郡津道郷の地にして、和氣氏の流裔、都治氏の居りし所。埋築に古城址あり。〔都治神社〕大字都治本郷に鎮座。郷社。祭神、譽田別命・足仲津彦命・息長足飯命等七柱。延文四年都治波積の領主佐々木行連この地に譽田別命を勧請せるに創まるといふ。佐々木氏の崇篤篤きものあり。

土村 千葉縣下總國東葛飾郡の中部。手賀沼の西南方に柏町の南隣にあり。面積一八方軒餘。中部より西南部にかけては低き臺地ありて畑地をなし所々林を交ふ。東部は低地にて畑地をなし東境は手賀沼に近く細き沼田の一部をなす。米・麥を主産し養蠶も行はる。道路は村の中央を北走して柏町に通じ同町にて陸前濱街道に合しバスの便あり、また社線武藏鐵道西北より東南に走り、増尾驛(大正十二年設置)・遊井驛(昭和八年設置)を置く。大字酒井根は一に境根に作る。文明十年太田道灌國府臺に築き白井の城主千葉孝胤を築ふや、同年十二月孝胤進みて道灌と境根原に戦ひしが敗れ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈和野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵北部の東縁にて、東北境に諏訪山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北部より西南に緩斜し概ね高臺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合一し、なほ西流して刈和野町に出て堆物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈和野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官賊こゝに戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲與し隱居せし地。大字杉澤に慶長十三年開墾せし鏡山あり。

土倉嶺山 下杉野村(蓋賀縣) 奥羽本線の一驛(明治三十五年設置)。秋田縣南秋田郡土崎港町にあり。

ツチカワ

土合村 埼玉縣武藏國北足立郡の西南部。浦和市の西隣にて西は荒川によりて志木町及び入間郡宗岡村と相對す。面積一〇方軒餘。全村平地にて中部と北部には田地よく開け、其中間と西部には畑地多し。米を主とし麥・藪を産し、また酒の醸造も行はる。縣道浦和市に通じてバスの便あり。此地は和名抄、足立郡浦和市の内。大字道場に山重忠の城址と傳ふる所あり、また附近に經塚・富士見塚等あり。〔土合の櫻草〕指定天然記念物。荒川沿岸の田島原に發生す。春の中頃野は一面にその紅色の花にて掩はれ、これに入り交りて數種の野花咲き出で一大花園の觀を呈す。本植物の先天的特徴は植物品種改良の研究材料として保存の要あり。

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

近年は米國産の原油をも輸入加工す。羽州街道は町の中央部を南北に通じ、秋田市へはバスの往來あり。省線奥羽本線また通じて土崎驛(明治三十五年設置)を置く。秋田市へは電車の便もあり。此地はもと安東氏(のち秋田氏)の城地たり。のち慶長七年佐竹義宣の城地となりしが、同九年佐竹氏城を今の秋田市に移してよりは單に秋田の外港となり、米穀積出の商港として榮ゆ。舊郡役所の所在地にて明治二十二年町制を布く。港は明治四十年指定重要港灣となり、大正六年堆物川改修工事の一部として修築決定し、昭和四年起工、同十四年竣工豫定なり。完成の曉には北部埠頭は水面積約二八ヘクタール、水深七・五米餘、三千噸級汽船三隻の接岸荷役可能となり、南部埠頭は水面一六ヘクタール餘、水深四・五米餘、一千噸級の汽船七隻の接岸荷役可能にして、更に臨港鐵道の敷設も計畫中なり。堆物川口北岸の土崎港燈臺は昭和二年の設置。不動白光、光達距離一二浬。明治十四年、明治天皇が山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御泊泊あらせらる。〔秋田城〕永享八年安東康季の創築。同慶長七年佐竹義宣代り領し、城を燒却して新に明神山(今の秋田市)に築く。〔神社〕縣社。祭神、天照大神。後陽成天皇慶長年間、藩主佐竹氏常陸より當國へ遷封の時、敷次郎なるもの藩主の舊恩を

ツチザリ

土澤 釜石線の一驛(大正二年設置)。岩手縣和賀郡十二箇村にあり。

土津村 神奈川縣相模國中郡の西南部。秦野町の東南約四軒、南は國府村に接し面積一・五方軒。大部分は丘陵地をなして、森林多く、東北部は畑地をなす。麥・甘藷・大豆・小豆・蕎麥・粟等を産し、養蠶も行はる。北方伊勢原より東海道に連る縣道は東部を縱走するも交通は極大いに便ならず。此地は和名抄、餘綾郡金目郷の内なるべし。大字土屋。吉澤の二部落の一字を取りて土津村となす。大字土屋は桓武平氏、中村氏の族、此地に居りて土屋氏を稱せし處。〔熊野神社〕大字小熊に鎮座。郷社。祭神、伊弉諾命・連玉男命・泉津事解男命。創建年代詳ならず。傳へ云ふ、古昔、村人某紀伊熊野に參詣し靈威に感じ、歸邑の後これを分祀せるに起ると。鎌倉時代領主土屋氏の崇敬あり、土屋宗光いまの地に奉遷す。

ツチサキ

土崎港町 秋田縣南秋田郡の西南部。堆物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は堆物川を隔て、河邊那新屋町に對し、其間に河港土崎港を抱く。港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチザリ

土澤 釜石線の一驛(大正二年設置)。岩手縣和賀郡十二箇村にあり。

土津村 神奈川縣相模國中郡の西南部。秦野町の東南約四軒、南は國府村に接し面積一・五方軒。大部分は丘陵地をなして、森林多く、東北部は畑地をなす。麥・甘藷・大豆・小豆・蕎麥・粟等を産し、養蠶も行はる。北方伊勢原より東海道に連る縣道は東部を縱走するも交通は極大いに便ならず。此地は和名抄、餘綾郡金目郷の内なるべし。大字土屋。吉澤の二部落の一字を取りて土津村となす。大字土屋は桓武平氏、中村氏の族、此地に居りて土屋氏を稱せし處。〔熊野神社〕大字小熊に鎮座。郷社。祭神、伊弉諾命・連玉男命・泉津事解男命。創建年代詳ならず。傳へ云ふ、古昔、村人某紀伊熊野に參詣し靈威に感じ、歸邑の後これを分祀せるに起ると。鎌倉時代領主土屋氏の崇敬あり、土屋宗光いまの地に奉遷す。

ツチカワ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈和野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵北部の東縁にて、東北境に諏訪山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北部より西南に緩斜し概ね高臺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合一し、なほ西流して刈和野町に出て堆物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈和野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官賊こゝに戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲與し隱居せし地。大字杉澤に慶長十三年開墾せし鏡山あり。

ツチサキ

土崎港町 秋田縣南秋田郡の西南部。堆物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は堆物川を隔て、河邊那新屋町に對し、其間に河港土崎港を抱く。港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

ツチカワ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈和野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵北部の東縁にて、東北境に諏訪山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北部より西南に緩斜し概ね高臺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合一し、なほ西流して刈和野町に出て堆物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈和野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官賊こゝに戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲與し隱居せし地。大字杉澤に慶長十三年開墾せし鏡山あり。

ツチサキ

土崎港町 秋田縣南秋田郡の西南部。堆物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は堆物川を隔て、河邊那新屋町に對し、其間に河港土崎港を抱く。港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

ツチカワ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈和野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵北部の東縁にて、東北境に諏訪山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北部より西南に緩斜し概ね高臺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合一し、なほ西流して刈和野町に出て堆物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈和野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官賊こゝに戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲與し隱居せし地。大字杉澤に慶長十三年開墾せし鏡山あり。

ツチサキ

土崎港町 秋田縣南秋田郡の西南部。堆物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は堆物川を隔て、河邊那新屋町に對し、其間に河港土崎港を抱く。港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

ツチカワ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈和野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵北部の東縁にて、東北境に諏訪山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北部より西南に緩斜し概ね高臺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合一し、なほ西流して刈和野町に出て堆物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈和野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官賊こゝに戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲與し隱居せし地。大字杉澤に慶長十三年開墾せし鏡山あり。

ツチサキ

土崎港町 秋田縣南秋田郡の西南部。堆物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は堆物川を隔て、河邊那新屋町に對し、其間に河港土崎港を抱く。港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

ツチカワ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈和野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵北部の東縁にて、東北境に諏訪山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北部より西南に緩斜し概ね高臺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合一し、なほ西流して刈和野町に出て堆物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈和野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官賊こゝに戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲與し隱居せし地。大字杉澤に慶長十三年開墾せし鏡山あり。

ツチサキ

土崎港町 秋田縣南秋田郡の西南部。堆物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は堆物川を隔て、河邊那新屋町に對し、其間に河港土崎港を抱く。港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

ツチカワ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈和野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵北部の東縁にて、東北境に諏訪山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北部より西南に緩斜し概ね高臺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合一し、なほ西流して刈和野町に出て堆物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈和野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官賊こゝに戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲與し隱居せし地。大字杉澤に慶長十三年開墾せし鏡山あり。

ツチサキ

土崎港町 秋田縣南秋田郡の西南部。堆物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は堆物川を隔て、河邊那新屋町に對し、其間に河港土崎港を抱く。港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

ツチカワ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈和野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵北部の東縁にて、東北境に諏訪山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北部より西南に緩斜し概ね高臺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合一し、なほ西流して刈和野町に出て堆物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈和野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官賊こゝに戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲與し隱居せし地。大字杉澤に慶長十三年開墾せし鏡山あり。

ツチサキ

土崎港町 秋田縣南秋田郡の西南部。堆物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は堆物川を隔て、河邊那新屋町に對し、其間に河港土崎港を抱く。港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

ツチカワ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈和野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵北部の東縁にて、東北境に諏訪山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北部より西南に緩斜し概ね高臺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合一し、なほ西流して刈和野町に出て堆物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈和野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官賊こゝに戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲與し隱居せし地。大字杉澤に慶長十三年開墾せし鏡山あり。

ツチサキ

土崎港町 秋田縣南秋田郡の西南部。堆物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は堆物川を隔て、河邊那新屋町に對し、其間に河港土崎港を抱く。港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

ツチカワ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈和野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵北部の東縁にて、東北境に諏訪山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北部より西南に緩斜し概ね高臺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合一し、なほ西流して刈和野町に出て堆物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈和野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官賊こゝに戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲與し隱居せし地。大字杉澤に慶長十三年開墾せし鏡山あり。

ツチサキ

土崎港町 秋田縣南秋田郡の西南部。堆物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は堆物川を隔て、河邊那新屋町に對し、其間に河港土崎港を抱く。港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

ツチカワ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈和野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵北部の東縁にて、東北境に諏訪山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北部より西南に緩斜し概ね高臺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合一し、なほ西流して刈和野町に出て堆物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈和野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官賊こゝに戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲與し隱居せし地。大字杉澤に慶長十三年開墾せし鏡山あり。

ツチサキ

土崎港町 秋田縣南秋田郡の西南部。堆物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は堆物川を隔て、河邊那新屋町に對し、其間に河港土崎港を抱く。港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鰻等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

ツチカワ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈和野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵北部の東縁にて、東北境に諏訪山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北部より西南に緩斜し概ね高臺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合一し、なほ西流して刈和野町に出て堆物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈和野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官賊こゝに戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲與し隱居せし地。大字杉澤に慶長十三年開墾せし鏡山あり。

ツチサキ

土崎港町 秋田縣南秋田郡の西南部。堆物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は堆物川を隔て、河邊那新屋町に對し、其間に河港土崎港を抱く。港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る欄川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦欄川堤防壊決するか、霞ヶ浦漲溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は欄川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、藪の取引も盛なり



ツチタ ツチヤ

江戸時代末印領五石を有す。

ツチタル 土樽村

新潟縣越後國南魚沼郡の南部。東と南は三國山脈を境に...

ツチハタ 土畑鑛山

↓湯田村(岩手縣)

ツチアチ 土淵村

岩手縣陸中國上閉伊郡の中部北偏。遠野町の東北約六村...

ツチヤ ツツイ

皇の奉幣に、和銅五年當寺を創建せしめ大般若經六百卷を奉納し給ふと傳ふ。寺...

ツチマル 土丸

↓大土村(大阪府泉南郡)

ツチムツ 土陸村

千葉縣上總國長生郡の南部。一宮町の西隣にあり。南は...

ツチヤマ 土山

滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流...

BOOK

の小屋節「ヤア此奴はほえをるか、何ちやこりや忌々しと、搦拳を二つ三つ、い...

便あり。本村は荒井村と組合町村をなし役場を荒井村に置く。

ツツ 豆蔵村

長崎縣對馬國下縣郡の南部。上島の南端を占め、東と北は久田...

ツツイ 筒井

青森縣陸奥國東津輕郡の中部。青森市の南に隣接す。面積一〇方軒餘...

此地は古代對馬の要津なりしため津々と呼稱せしに起りしものならん。一に天道...

【筒井村】

奈良盆地の西北部に位し、郡山町の南に接し東は佐保川によりて添上郡治道村に...

ツチヤ ツツイ

BOOK



和様兩式を混じり製作極めて優秀なり。
ツツイン 筒石 北陸東線の一驛(大正元年設置。新潟縣西頸城郡磯部村にあり。

ツツガ 筒賀村 廣島縣安藝國山縣郡の西南隅。太田川上流々城に屬し、加計町の西南方に位し、地西南より東北に長く、北は殿賀・上殿・戸内三村に接し、南は佐伯郡水内・上水内二村に隣り、面積五四方軒餘。南境には太田川と支流水内川の分水界たる天上山(九七三米)の脈東西に連り、村の大部分はその北斜面の山地なり。西北界にも高さ九百米内外の山脈延び、其間に太田川の一支流東北流し北境にて本流に合し、その流域と東境太田川の岸に僅少なる耕地あり。米・麥・蕎麥・木村・木炭・酒類・牛・馬を産す。正保の頃に上中下筒賀に分れしが、明治二十二年町村制施行の際、下筒賀は殿賀村に入り、上筒賀・中筒賀を合して筒賀村をなす。村内に龍頭瀧あり、高さ三十米、巾四米。

ツツカワ 筒川村 京都府丹波國與謝郡の北部。與謝半島の東北部に位し日本海岸を去ること遠からず。北西は竹野郡上宇川・下宇川兩村に界す。低山性の山地起伏し西部に高くして大鼓山あり、東部には東南流する小河ありてこれに沿ふ低地は田畑よく拓け米麥を産し、山地は木村・薪炭を出しまた畜産・工業もあり。村内の交通はなほ便ならず。こ

ツツキ 筒城 山城國(京都府)綴喜郡名の起りし所。往昔繼體天皇の皇居筒城宮は此處にありき。萬葉集には管水に作る。其地いま綴喜郡普賢寺村大字多々羅に當る。【筒城國】山城國(京都府)の古地名。書紀仁德紀に見ゆ。皇后磐之媛命の筒城宮の北にありし丘。綴喜郡普賢寺村大字多々羅・水取の邊の丘を稱せしもの。

ツツジガオカ 榴ヶ岡・躑躅ヶ岡 陸前國(宮城縣)の宮城野の地名。仙臺市の東部にあり、東岡又は東公園といふ。往昔この丘上に紅藪躑多かりしよ

の地は和名抄、與謝郡日置郷の内なり。釋紀所引丹後風土記に與謝郡日置里、此里有筒川村、此人夫日下部首等先祖、名云筒川綱子、爲人妻容秀美、風流無類、所謂水江浦嶋子者也云々と見ゆ。また日本書紀雄略天皇二十二年の條に秋七月、丹波國餘部郡筒川人、水江浦嶋子云々の記載あり。有名な浦嶋はこの地の人なりと。一説には竹野郡網野町の水江浦の人なりといふ。※網野町

ツツキ 津築 遠江國(静岡縣)の古地名。天平十二年遠江國租稅帳に濱名郡津築郷、戸三十八、口二百六十八とあり。和名抄に本郷を載せざるは恐らくは脱落なるべし。地は濱名湖の北岸にしていま引佐郡に入りたる三ヶ日町・東濱名村の邊に當る。東濱名村の大字郡築は郷名の遺稱なり。

ツツキ 筒城 山城國(京都府)綴喜郡名の起りし所。往昔繼體天皇の皇居筒城宮は此處にありき。萬葉集には管水に作る。其地いま綴喜郡普賢寺村大字多々羅に當る。【筒城國】山城國(京都府)の古地名。書紀仁德紀に見ゆ。皇后磐之媛命の筒城宮の北にありし丘。綴喜郡普賢寺村大字多々羅・水取の邊の丘を稱せしもの。

ツツジガオカ 榴ヶ岡・躑躅ヶ岡 陸前國(宮城縣)の宮城野の地名。仙臺市の東部にあり、東岡又は東公園といふ。往昔この丘上に紅藪躑多かりしよ

りかく名づくといふ。丘の中、北に釋迦堂、南に天神社(榴岡神社)あり。夫木・二「みちのくのつゝしか岡のくまつゝらつちしと君を今日そ知りぬる」奥の細道「宮城野の萩茂りあひて秋の氣色思ひやらるゝ、玉田、よこ野、つゝじか岡はあせびまきころなりき」

ツツジガサキ 躑躅崎 山形府市 石鏡山脈の一峯。主峯、石鏡山(一九八一米)の南東方約六軒に當る。高知縣土佐郡本川村・吾川郡富岡村・愛媛縣上浮穴郡河村の境上に峙つ。標高一八五九米。山委端正にして、東方に並ぶ長方形なる手箱山(一八〇七米)と面白き對照をなして聳ゆ。北西稜は岩黒山(一七四六米)を経て石鏡山に連る。

ツツミ 堤(村) 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年外三村と共に廢し高岡村を置く。【津積】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に海部郡津積郷あり。ツツミは即ち堤塘の意にして、鴨沼川の堤防より起りし地名。いま海部郡の富田村より蟹江町の一部に互る地を稱せしものならん。

ツツミ 津積 尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に海部郡津積郷あり。ツツミは即ち堤塘の意にして、鴨沼川の堤防より起りし地名。いま海部郡の富田村より蟹江町の一部に互る地を稱せしものならん。

ツツミ 菅見 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に長柄郡菅見郷あり。其地いま何處の邊なるか察かならず。菅見は即ち堤塘の義にして堰にも通ず。いま長生郡に關村あり、關はその菅堰に通ずるを以て或は此の地ならんか。

ツツミガオカ 堤ヶ岡村 群馬縣上野郡群馬郡の東南部。高崎市の北方に位し、其間に中川村を挟む。面積約六・五方軒の小村。榛名山東麓より利根川右岸の平地への漸移帯に當り、東南部には田地、其他は至る處桑畑をなし、米・麥・馬鈴薯等を産し、華嚴堂にて繭を多産す。三國街道南北に貫きてバスを通じ、また社線東武鐵道高崎線これに沿ひ交通便利なり。古くは和名抄、群馬郡

八木郷に屬せしものゝ如し。大字菅谷は中世は庄名に呼ばれ、東鑑、正治二年の條に見ゆる菅野庄は菅谷の誤にして、即ち是とす。【津名郡】兵庫縣二十五郡の一。淡路國(島)の東北の大部を占め、地南北に長く約四四軒あるも東西は廣き部分も一二軒餘に過ぎず。東は大阪灣に面し、東南岸の生石崎は友島の西端懸突ノ鼻と相對して紀淡海峽を挟み、その西岸は紀伊水道に濱す。北は明石海峽を隔て明石市と互に相望み、西は播磨灣に臨み、西南は三原郡と界す。洲本・由良・志筑・生穂・佐野・假屋・岩屋・富島・郡家・江井及び都志の十一ヶ町と外に十九ヶ村を含み、面積三四五方軒餘を有す。南部は略東西に連る讃岐羽山脈の東端に當り、東の和泉山脈に同じき白雲紀層より成り、柏原山麓えて南北に傾斜し、中部以北は瀬戸内海陷落の爲に生ぜし地盤にて、主として花崗片麻岩より成り、南北に連りて東西の分水界をなし、南部の先山、北部の常陸寺山(五一六米)を主要山峯とす。海岸は東西共に斷層海岸をなして出入少く、斷

岸直に海に迫る處あるも、また中央分水嶺より下る小流によりて形成せられし第四紀層の小低地所々に發達す。氣候溫和にて晴天多き瀬戸内海の氣候に恵まれ、また古來文化の中心たりし京阪地方に近く交通不便ならざりし爲か人文風く開け人口稠密にして至る處耕地よく拓け、低地は勿論、傾斜面も殆ど膳棚式乾田もしくは畑地に開墾され灌漑用の池塘多く築造せられ農業盛にして米を主とし麥・野菜・葉煙草・果實等の産多し。沿海魚族に富み鰯・玉筋魚・鰯・章魚の漁獲少からず。近時洲本町を始め工業勃興し、農村には乳牛の飼育、蠶工品の副業榮ゆ。國道四國街道東岸を南に走り洲本町を経て三原郡に進み、西岸には縣道縱貫し、所々に東西を繋ぐ道路あり、路面の殆ど全部はバスの便あり、また社線淡路鐵道は洲本に起りて三原郡福原に至る。海上にては東岸には大阪・神戸・明石等と、西岸にも神戸・明石・高松等との間に定期汽船の往來ありて交通甚だ便利なり。延喜式に郡名見え、和名抄は百奈と註し津名・志筑・賀茂・安乎・物部・廣田・都志・育波・來馬・郡家の十郷を管す。後世に廣田・賀茂二郷を三原郡に割き郡城縮少す。當國一の官なる官幣大社伊弉諾神社鎮座す。

【津名】淡路國(兵庫縣)の古地名。和名抄に津名郡津名郷あり、郡家の所在地なり。然るに諸本津名郡の外に郡家郷を載

するも高山寺本はこれを載せず。蓋し釋家郷を郡家郷と譯れるものなり。其の地いま郡家郷をばじめ多賀・大町・山田諸村及び江井町に互る地域なるべし。【津名村】廣島縣備後國世羅郡の西北隅。北及び西は雙三郎川・板木二村に接し、南は津久志・小國・吉川・上山の四村に隣る。面積三七・二方軒。全村三十四百米の高酸性の山地をなし、南境の明神山は標高五三五米を示す。山林廣きも、中央部と西部には巾狭き低地つづきて農耕行はれ、米・麥・酒・蕎麥・木炭等の産あり。交通なほ便ならず。(光源坊)大字長田にあり。眞宗本願寺派。御塔山。もと眞言宗なりしを、天文四年林語現宗に改む。寛永四年本山より寺號を眞教寺と賜はりしも、國主故ありて改稱を許さず、仍りて住職の姓を眞教寺と改め今日に及ぶ。

ツナウチバ 綱打場 江戸時代、岡場所の一、深川松村町の俗稱。正しくは綱打場。淫女皮肉論「しんちに新道、どふぼふ町、あたけ直助つな打ば」ツナキ 綱木 新潟縣東蒲原郡にありし村。明治四十一年に三川村と共に廢しその地域を以て新たに三川村を置く。ツナギ 津奈木村 熊本縣肥後國葦北郡の西部。南西は水俣町に、東北より東南は湯浦村に接し、西北は八代海に臨む。面積三二・五方軒。肥薩山塊西北斜面の一部にてその山肢村境に延びて八代海の沈降海岸に迫り、北に帆柱崎、中部

に大門崎、其南に陸瀨崎等の岬角をなし、小灣入・島嶼多し。中央部に低地ありて田畑拓けて米・麥を産し華嚴も行はれ、また林産・水産あり。鹿兒島街道東北境の津奈木峠(三太郎峠の一)を越えて中央部を横ぎり、省線鹿兒島線また略これに並行し、大字岩城に津奈木驛(昭和二年設置)を置き、西南は水俣町に、北は海岸に沿ひて平國に、東北は佐敷町に、いづれもバスを通ず。村名は古くは綱木にも作る。村内に築地あり。自然の巖を以て壁壘とし、道路はその阻を切割りて通ず。方俗岩城と呼ぶ。名和家の臣加悦基の創めしところにして、相良氏の兵を置きし處。また本村と水俣町との間に歌坂あり。豊臣秀吉征西の時、相良の老臣深水三河守宗方入道休庵は其居城水俣よりこの坂に來り調す。※歌坂

ツナシ 柘梨 備前國(岡山縣)の古地名。和名抄邑久郡に柘梨に作るも、いま高山寺本により柘梨となす。その地詳かならざるも今の邑久郡蒙掛村・鶴山村の邊に當るか。

ツナシマ 綱島 横濱市神奈川區の町名。古くは綱島にも作る。この地にラヂウム温泉あり。社線東京横濱電鐵の綱島温泉驛を置く。ツナツキ 綱付山 飯山山脈の一峯。主峯、劍山(一九五五米)の北北東方約九軒、徳島縣麻植郡木屋平村と美馬郡古宮村・一字村との境界に跨る。標高一二五

ツト—ツナツ



ツナト——ツネト

六米。北東稜に杖立峰最高點(一〇四八米)...

ツナトリ

綱取鑛山

↓横川目村

(岩手縣)

ツナワキ

綱別

筑前國(福岡縣)の古地名。

和名抄に嘉麻郡綱別郷あり。

また延喜式兵部省式に筑前國綱別驛々馬五疋とあり。

これ郷にして驛傳を兼ねるもの。この地、中世には綱別莊と稱す(宇佐大鏡)。

いま嘉穂郡の庄内村は綱別莊内の稱を傳ふるもの、而して同村の大字綱分は郷莊名の遺傳なり。

ツナワケ

綱分鑛山

↓庄内村(福岡縣)

ツナ角・都怒

【都怒(角)松原】

攝津國(兵庫縣)の古地名。萬葉・三・吾妹子に猪名野は見せつ

名次山角の松原いつか示さむ」とあり。その地いま詳ならざるも、西宮市内の今津町の邊ならんかといふ。

【角・都怒(國)】

國造本紀に見ゆる國名。仁徳天皇の朝、紀臣同祖なる紀都怒足尼の子田島足尼を以て此の國の國造に定め給ふ。國郡制定の時、都濃郡となりて周防國に隸す。↓都濃郡

ツヌオレ

肉折濱・角折濱

常陸國(茨城縣)の古地名。常陸風土記。入りしものなるべし。

ツネヨシ

恒吉村

鹿兒島縣大隅國嚙嗚郡の西部。岩川町の西に接し西は始良郡福山町を隔てて鹿兒島灣なり。地西北より東南に延び、面積五三方軒餘。全村高度二百米内外を示し東南に緩傾斜をなす。北に前川、西南に長江川あり。車何れも東南流す。低地は田畑よく拓け、米(約一五萬圓)・薩(三萬圓餘)・麥(一萬五千圓)を産し、飼畜行はれ木材・薪炭をも出す。北部には岩川・福山間の縣道あり。乗合自動車を通じ、其他、村道四通り交通なほ便ならず。明治二年文書に、恒吉六町は曾野郡の下に録さるを見れば、薪村たるを知るべし。明治維新の勤王家にして正五位を贈られし高津新八郎の生地なり。「投谷八幡神社」大字大谷に鎮座。郷社。祭神、仁徳天皇・應神天皇。神功皇后。創建年次詳ならざるも村民は和銅元年の創立なりといふ。例祭、三月中の卯日。

ツネガ

角鹿(國)

越前國(福井縣)の西部地方にありし國。今の敦賀港の地は往昔は筒飯浦といひ、朝鮮人來朝の一門戸たりき。日本書紀垂仁紀一書に崇神天皇の朝、朝鮮南部の意富加羅國の王子都怒我阿羅斯等といふもの筒飯浦に來泊せし記事あり。簡に角ある人來朝せるを以て角領(角鹿)と稱すと云ふ。角鹿國名はこの王子に關係あらんもいま明かにし難し。國造本紀に成務天皇の朝に角鹿國造を置き、孝靈天皇の皇子若武彥命の孫建功狭日命を國造に封じ給ふとあり。仲哀天皇の朝、天皇は皇后氣長足媛命(神功皇后)と共に角鹿に行幸あり、行宮を建てて此處に居たまふ。これを筒飯の宮といふ。既にして天皇は紀伊國に幸したまひしが、熊襲の叛を開きたまひ、直に穴門(長門)に向はれて、皇后は角鹿より海路穴門に至り給ふ。のち應神天皇が武内宿禰を奉りて角鹿筒飯大神(今の氣比神社)を拜せられたるも、新羅内服の報賽の意味もありしものと思はる。國郡制定の後は、この國は敦賀郡となり越前國に入りしものなるべし。

ツネ

津根村

愛媛縣伊豫國宇摩郡中部北岸。東は野田村、西は小富士村に接し、北は燧灘に面し、三島町より約八軒の西に位す。面積僅に三・五八方軒。南部は赤星山の麓なるも、村の大部分は關川の沖積平野に關し平坦にて耕地多し。海岸に砂嘴發達し小灣入を抱く。米・麥・野菜等を産す。國道と省線豫讃本線東西に横ぎり、後者の伊豫土居驛(西方土居村地内)へ約二軒にて、ベスの便あり。津根は古くは常に作り、河内西林寺文書和銅二年伊豫國宇摩郡常里と見え、のち當を改めて二字とし津根とす。和名抄にも津根郷と見ゆ。其地いま當村を始め小富士村・野田村・豊岡村に互る地を稱せしものならん。「村山神社」縣社。祭神、天照大神外二神。溫故錄に齊明天皇御駐蹕の時の創祀と傳ふ。式内名神大社。代々領主の崇敬を蒙り、仁壽以降その新額所となる。例祭、十月二十五日。

ツネ

都彌・常

【都彌・常】

備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に葦田郡都彌郷見ゆ。續紀養老三

年に、葦田郡常城とある當は即ち此地とす。いま廣品郡に當金丸村ありて大字常

は郷名の遺傳の轉せるもの。郷城は當金丸村及び藤尾村に互る地なるべし。

【常山】

↓庄内村(岡山縣兒島郡)

ツネカネマル

常金丸村

廣島縣備後國廣品郡の北部。新市町の北方約六軒、此間に綱引村を挟み、西南府中町と

ツネ

恒吉保の名あり。正應中、田十八町一段餘あり。

ツノ

角野

近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に、高島郡角野郷見ゆ。都乃と註す。中世は川上莊と稱す。いま川上村に津野神社あり、木角宿禰を祀る。よつて郷城は凡そ川上村の邊とすべし。

ツノ

津野

【津野】

讚岐國(香川縣)の古地名。紀角宿禰の裔の居りし所。和名抄に鶴尾郡に津野郷あり都乃と註す。いま綾歌郡川津村の西部に津ノ郷の地名遺る。蓋し津野郷は此の邊なるべし。

【津野村】

福岡縣豊前國田川郡の東南部。南と西南は彦山村、西北は添田町に接し、東は京都郡伊良原村に界す。英彦山の北谷にて地南北に長く面積三六・六方軒。東西兩境に英彦山の山肢南北に延び高さ五―六百米臺を示し中央は据合谷をなし行橋町にて周防灘に注ぐ。今川この縱谷を西北流し、河谷に田畑拓け、米麥を産し山地は薪炭を出す。添田町・彦山間のパスは西部の道路を走り交通不便ならず。もと上津野・下津野の二村なりしが、明治二十二年町村制施行の際相合して津野村となる。「高木神社」大字津野に鎮座。郷社。祭神、高皇產靈神・少彥名命外三神。聖武天皇天平十二年、宇佐法運神勅を奉じ豊前・豊後・筑前の三州に七ヶ所の鎮護の社を奉齋す。本社は即ちその一たり。例祭、五月四日。

ツネ

廣谷村

は廣谷村を隔て、北は神石郡父木野村に隣る。面積一六・三二方軒。東部は天神山(三八八米)・蛇圓山(五四六米)等の山地、西部にも二―三百米の山地あるも、中部には南北に延びし平坦地ありて耕地をなす。縣道東城街道(一)を南北に貫通し、新市町へ出づれば省線福勢南線の便あるも交通なほ便ならず。物産に米・麥・藁・木炭・柿等、また綿織物を出す。此地は和名抄、葦田郡都彌郷の内にして、續日本紀養老三の條に「停備後國葦田郡常城」とある當は此地なり。明治維新前は福山藩領に屬し、明治八年岡山縣に屬し翌九年廣島縣の管下となる。もと金丸村といひしが同年九月に常・藤尾の二村と合し、同十一年また三村に分離し、同二十二年町村制實施に際し常村・金丸村を合し常金丸村を建てて今日に及ぶ。

ツネトミ

恒富

宮崎縣東臼杵郡にありし村。昭和五年延岡町に編入し、同八年延岡町は市制を布く。

ツネト

常豊村

福岡縣警備國東臼川郡の中部。綱倉町の東南約六軒。面積二九方軒餘。阿武隈山地西南部の縁邊に位し、東部に高さ五百米臺の山地、西境に二百米臺の丘陵あるも中央と西南部久慈川沿に低地あり。久慈川の一支出瀧川南部を西流し西南部にて本流に合す。低地に耕地拓けて米・麥・大豆等を産す。西南の一部には茨城街道と、省線水郡線通じ、後者の警備城驛(昭和六年設置)あり。

ツノ

都農町

↓都農町(宮崎縣)

東北部。日向灘に面し美々津町の南西に接し西北部は東臼杵郡東郷村に界す。面積一〇二方軒餘。西北境に尾鈴山(一四〇五米)・北境中央には畑倉山(八四九米)あり、其等の山嶺南に延び西半部の山地深く、東半部は畑倉山の東南斜面にて東部海岸は傾斜極めて緩き平坦地をなし、南境に名貫川東流し、中央には都農川ありて兩岸に田地多く、緩傾斜地には畑地拓け米麥を産す。水産多く殊に都農鯛・都農雲丹の名産地とす。外に林産・畜産あり。國道東部を南北に至りてパスを通じ、省線日豊本線東岸に沿ひ都農驛(大正十年設置)あり。和名抄見揚都野郷とあるは當町及び川南村の邊なるべく、延喜式兵部省式に見ゆる都農野馬牧も亦當町邊に求むべきものならん。大正九年町制を布く。町内に觀音瀧(高一八米、幅三米)・矢研瀧(高五〇米、幅六米)あり。「都農神社」大字川北に鎮座。國幣小社。祭神、大己貴命。社傳に據れば神武天皇日向國宮崎宮を發して東征の途に就き給ふ時に齋を祀れるに創まるといふ。式内社。日向國一ノ宮。往古は神領三百町、近世は六十一町餘を有したりと。例祭、十一月五日。

ツノ

都濃

【都濃村】

鳥根縣石見國那賀郡の北部海岸。西北は日本海に面し、東北は江津町

り。此地は和名抄、白河郡常世郷の内なり。大字堀に羽黒館址あり、永正二年、佐竹氏の族、大塚氏、結城に屬して此處に居城す。近世には江戸より代官の來治したる陣屋のありし處。「八幡神社」大字常世北野に鎮座。郷社。祭神、譽田別命。創建年代不詳。口碑に依れば往古此地に一大湖水ありて毒蛇棲み人畜に危害を及ぼす。里人これを憂ひて大同元年湖中の小島に一祠を設け八幡宮を祀ると。社傳によれば天喜二年源義家、安倍頼時追討の時此地を過ぎ船を浮べて鳥八幡宮に詣づ。時に毒蛇現はれ供奉の青戸源八を奪ひ去る。義家大いに怒り湖水を切り開かして毒蛇を射殺す。依りて此處を弓張堂といひ、亦蛇頭の地名をも存す。義家小祠を改造して莊嚴ならしむ。のち長享・寛永の兩度に再建せらる。例祭四月十五日。特祭、九月十五日。

ツネミツ

常光村

廣島縣備後國石郡の南部。北の小島村、南の父木野村に介在する面積僅に一・八二方軒の小村。油木町へは北方約一二軒、廣品郡新市町へは南方一六軒を隔つ。南部は高さ五百米内外の山地なるも北方は低下し畑田も拓け、小領ながら木材の外に牛・馬・豚・雞等の畜産、米・麥・蔬菜等を産す。油木町・新市町方面へはベスの便を有す。此地は和名抄、神石郡神石郷の地にて、いま龜石村・上村・小島村・阿下村と組合町村をなし、役場を小島村に置く。

ツネミ

ツノ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ

ツネ



に、西南は都野津町に隣す。面積六・八方軒餘の小村。東南部一帯は高き百米臺の丘陵性山地に占められ、牧草地及び針葉樹林を存するも、西北半部には平地展開し耕地あり。海岸は極めて平滑なる砂灘なり。国道及び省線山陰本線は海岸近くを東北より西南に貫き、国道にはバスの運轉あり、省線都野津驛・石見江津驛へ各々村界より約一軒にて交通便なり。物産に牛・馬・繭・米・清酒・陶器及び鱈・柔魚・鯛等あり。萬葉集に見ゆる角里・角浦の角は蓋し此地を稱せしものならん。また和名抄に那賀郡都農郷あり。當村は即ち郷名の遺稱にて、郷域は當村の外に都野津町及び二宮・川波・有福・跡市等の諸村に互る邊とす。

【都農郡】山口縣十一郡の一。周防國の一部にて縣の東南部に位し、東は玖珂・熊毛の二郡、西は佐波郡、北は島根縣鹿足郡に隣り、南は中部に徳山市を圍みてその餘は瀬戸内海に面す。下松・富田・福川三町及び十八箇村より成り、面積五四三方軒餘。中國山脈主軸の南斜面に當り東部・西部にはその支脈各南方に延び、東境北部の馬糞ヶ岳は九八五米、南部の鳥糞ヶ岳は四一二米、西界北部の飯ヶ岳は九三七米、中部の大場山は約六百米、南部大平山は六三〇米を示し、大體に於て北より南するに従ひ漸次低下し、それらの山肢郡内至る處に起伏して、傾斜緩き中山性山地多く、北半は西北境に發し

て南流し次に東に、更に北に大曲流をなして玖珂郡に入る錦川の流域に屬し、南半は瀬戸内海に沿ふ海岸平野に屬す。海岸平野は郡内産業文化の樞部を爲し、福川・富田・下松等の都市相並びて發展す。海岸線は出入に富み、また笠戸・太華・仙・黒髪・大津等の島々を浮べ良港あり。北部山地には米・麥・繭・煙草・蔬菜・鶏卵・木材等を産し、海岸の都邑地には農村業の外に造船・農表・醸造・製菓・食鹽その他の工業行はれ、沿海には鱈・鯛・鮭の漁獲あり。国道(山陽街道)と省線山陽本線は南部海岸平野を東西に走り、後者はその東南部に柳井線と分ち、縣道は徳山市を中心に東は熊手郡、北は佐波郡の北部を経て津和野方面に通じ、その多くにはバスの運轉ありて交通不便ならず。都農或は郷乃にも作る。往昔の角國の内。和名抄は久米・都農・富田の三郷及び生屋・平野の二郷を管す。

ツノ 角

【角山】兵衛縣有馬郡有馬温泉の北方約七軒、三輪町・中野村の境上に位す。標高三七三米。山形、富士形の美峯なるに因り、有馬富士とも稱せらる。【角島】↓角島村(山口縣)

【角山】熊本縣天草郡の宮地岳・一町田、福連木の三村境上に位す。標高五二六米。下島第一の高山にして天草の展望臺として知らる。登山は多く熊本市より舟にて下島の北東岸本渡町に渡り、乗合自動車にて東麓宮地岳村に至り、それより約一時間にして達頂す。

ツノイ 津ノ井村

【津ノ井村】鳥取縣岩美郡の西南部。北は鳥取市と面影の小村に隔て、南は八頭郡賀茂村に接す。面積一〇方軒に近し。鳥取平野東南部を占め村内概ね平地なるも、南部に丘陵起伏す。耕地よく拓け米・繭・牛・馬等の農牧を主産業となすも、縣工業試験場窯業部も置かれ、一般に瓦の製造盛なり。国道若櫻街道は南北に貫通し海蔵寺等の街村これに沿ひ鳥取市へバス通じ、省線因美線街道に並行し、津ノ井驛(大正八年設置)を置き交通便なり。村名は和名抄、法美郡津井郷の遺稱にして、郷域は當村及び北隣而影村の地に互るが如し。延喜式に載る法美郡意上奴神社は本村大字香取にありて村社たり。【觀音堂】大字紙子谷にあり。三邊山と號す。創建年代不詳。弘仁以前は光雲寺六坊として繁昌の寺なりしといふ。その後衰頽、延徳中領主福田新三郎再興せしが、天正以後再び衰頽、今は僅に草庵に本尊觀世音のみ安置す。當國願禮札所第十八番。

ツノエ 都於

石見國(島根縣)の古地名。和名抄に那賀郡都於郷あり、

ツノクチ 津口

備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に世羅郡津口郷見ゆ。中世は津口莊と呼ばれしは、東寺文書平治元年寶莊殿領備後國津口莊米三百石と見ゆるによつて明かなり。いま世羅郡津久志村の大字津口は古名の遺れるもの。其地域は津久志村・津名村等に互る邊なるべし。

ツノゴ 津之郷村

廣島縣備後國沼隈郡の東北部。福山市の西に隣接し、北は蘆品郡宜山村に界す。南は瀬戸村、西は赤坂村なり。面積八・五方軒。北境に高嶺山(三九九米)ありて、村の北西半部は山地なるも、東南半部は蘆田川の沖積平野の西端部に屬し、土地平坦にして耕地よく拓け、米・麥・繭・粟を産し、農表の製織行はる。南部を省線山陽本線及び国道貫道し、別に福山市への縣道ありてバスの便あり、また西隣赤坂村内の山陽本線備後赤坂驛に近く交通便なり。村名は和名抄、沼隈郡津字郷の遺稱なるべし。

ツノシマ 角島村

山口縣長門國豐後郡の西北海上の角島を占む。油谷灣西口の南に近く、東は海士ヶ瀬の水路を隔てて神田村に對す。東西に長く面積四方軒餘。中部は縦れ東西に張り、東部の南に瀨崎、北に牧崎、西部の南に通瀬、北に夢崎突出して恰も胡蝶の舞へる狀をなし、山地多く半農半漁の村にて鱈・鯛・

ツノク—ツハキ

ツノズ 都野津町

島根縣石見國那賀郡の北部海岸。日本海に西北面し、江津町の西南約五軒、濱田町の東北約一五軒にあり。面積二・八七方軒。海濱につきて西部一帯は平地展げ、東北の後背地大部は低き丘陵起伏す。鱈・鯛・柔魚等の漁獲物及び米・繭・生糸・清酒・醬油の産出あり。省線山陰本線通じて都野津驛(大正九年設置)を置き、国道また鐵道に並行し、北は郷津(江津町)、南西は濱田町へ、東は跡市村へバスを通ず。この地は和名抄、那賀郡都農郷の地に於て、萬葉集第二卷の「石見のや高角山の木の間より我が振る袖を妹見つらむか柿本人麿」とある高角山は、村内の人丸神社の東北の山(海拔五六米)を指せしものなるべし。【西方寺】淨土宗。高木山と號し、慶長十五年勤皇上人の開創に係る。もと跡市村にありしを明治に至りて現地に轉す。

ツノダ 角田村

↓角田村(福岡縣築上郡) 津峯 德島縣那賀郡橋津北岸の見能林村にあり。縣下南方屈指の名山。海拔僅に二四八米に過ぎざるも海岸に屹立せる爲に濶上り見る山容美と、山頂より瞰下せる四國の松島ともいふべき多島の橋渡の風光は、陸前松島の富山の眺望にも相似たるところあり。津峯は橋の要津に臨めたるため其の名を得たるものにて、山頂に祀られたる津峯神社は海上守護神として船業業者の來賽者を以て賑ひ、一方長壽・厄除けの神として遠近各地より來賽するもの多し。

ツノミヤ 津宮

【津宮村】千葉縣下總國香取郡の北部。佐原町の東隣、香取町の北隣にて利根川に跨る。面積六・三方軒の小村なるも、南境附近の丘陵地を除けば全部潤ゆる水郷の一部にて、利根川北岸には奥田浦ありて殆ど水田をなす。米を主とし麥を産し養蠶行はる。利根川南岸を省線成田線東走して香取驛(昭和六年設置)を置く。佐原・銚子間の縣道にはバス通じ、利根川は水運の便よく佐原・鹿島間のモーター船寄航す。南隣香取町に通ずる道は、香取神宮への裏參道に當る。この地は和名抄、香取郡香取郷の内。古來香取宮の禊處、水路往來の埠頭として小驛市をなし津宮河岸とよばる。【津宮】伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名

調を缺くも河内國志紀郡井乃郷を井乃郷と訓ずる例に従ひツノへと訓むべきか。其地は都農郷の東に當り、江川河口の左岸の地を稱するか。いま江津町・川平村の邊をいふ。

ツノオトシ 角落山

淺間火山群の一峯。群馬縣碓氷郡島津村に屬す。標高一三九六米。鋭き岩峯なり。新第三紀層を基底とする截頭圓錐形消火山にして、輝石安山岩の集塊岩及び熔岩より構成せられ、山頂部に三箇の火口址を認め得らる。

ツノカワ 角川村

山形縣羽前國最上郡の西南部。新庄町の西南約一五軒、これと八向・古口兩村を隔て西南は東田郡立谷澤村に界す。面積一〇〇方軒餘。南境に高倉山(一〇五四米)、西境には安倉山(六一八米)等の出羽丘陵支脈の山地あり、諸水中部に下りて舟川となり、北隣古口村に最上川にて合す。村の東北部の角川筋には耕地よく拓け、米・繭を産す。省線陸羽西線の古口驛(古口村内)に遠かざるも、村内の交通未だ便ならず。本村はもと古口村の大字なりしが、明治二十五年に分離獨立せるものなり。【今神温泉】高倉山北面なる今熊山麓にあり。泉質はアルカリ泉にして山小屋風の旅館數棟あるも、冬は雪のため閉鎖す。

ツノガワ 角川

高山本線の一驛(昭和九年設置)。岐阜縣古城郡河合村に

ツノヤマ 角山村

岡山縣備前國上道郡の東部。吉井川下流の右岸に沿ひ瀬戸町を距る東南約六軒。北に御休村、南に津神村あり、東は吉井川を隔て、邑久那福田村に對す。面積七・六平方軒。所々に丘陵あるもその餘は概ね平坦地にして水利よろしく耕地よく拓け、米・麥・繭・葡萄の産出多く、また酒の製織行はる。国道山陽道に近く、縣道貫貫し、西北は省線山陽本線瀬戸驛へ、南西は四大寺町へ何れもバスの便あり。此地は和名抄、上道郡宇治郷の地に於て、村内に王子山城址・竹原城址等あり。

ツバキ 椿

↓小湊町(青森縣) 【椿】五能線の一驛(大正十五年設置)。秋田縣山本郡八森村にあり。【椿湖】↓椿新田 【椿峠】越前・若狭國境、福井縣敦賀市と三方郡山東村との境界に最高點を置く。古より要害の地として知られ、戰國時代には屢々戰場となる。即ち太平記には康安元年尾張左衛門佐氏頼朝川清氏と戦ひしこと見ゆ。また元龜元年織田氏と



ツハキー ツハク

朝倉氏の戦へるこの地なり。今この南  
方關峠に國道東西に通じ、西に降りて敦  
賀に至る。

【樺村】三重縣伊勢國鈴鹿郡の北端。鈴  
鹿山脈の東斜面に位し四日市市の西方約  
一四軒。北は三重郡水澤村、西は山地に  
よりて滋賀縣甲賀郡鮎川村に界す。西境  
上は八一九百米の高度を有し東方に急斜  
し、中部以東は緩傾斜をなす臺地となる。  
北境には内部川、南境には鈴鹿川の一  
支流各東南に流れ、それらの沿岸は水田拓  
けて米を産し裏作には麥をつくる。東半  
部中央の臺地は桑園・林野多く産物を出し、  
其他林産・畜産・鑛産・工業あり。東部  
には巡見街道南北に走り、南東隣深伊澤  
村、北隣水澤村に出づれば龜山・四日市  
へ定期バスあるも村内の交通は尙便なら  
ず。古くは和名抄、鈴鹿郡長瀬郷に屬せ  
るものなるべし。(一宮樺大神社)大字  
山本に鎮座。縣社。祭神、葦田比古神、  
木花咲夜比賣神外五神。垂仁天皇二十七  
年の創祀。式内小社。白河天皇の勅によ  
り社田五十町を寄せられ、當國一ノ宮た  
りしも近世は振はず。例祭、十月一日。  
【樺】東富田村(和歌山縣西牟婁郡)  
【樺村】山口縣大津郡にありし村。大  
正十二年秋町・樺東村・山田村と共に廢  
され萩町を置き、昭和七年市制を布く。  
【樺村】山口縣防府市の東方約八軒、佐  
波郡富海村より都濃郡戸田村に至る交通  
路に當る。永祿十二年大内輝弘豊後より

征め上りしが毛利氏の軍に破れ、富海村  
に來りし時、敵は樺村に固めければ今は  
これまでと、西方茶臼山に至りて切腹し  
て果てたりと。

【樺村】徳島縣阿波國那賀郡の東南端。  
北は橋町との間に橋津を挟み、紀伊水道  
に面す。西は福井村、南西は海部郡阿部  
村に界す。面積三四方軒餘。飯山山脈の  
東南端が紀伊水道に没する部分にて半島  
狀をなして東方に突出し、東部は更に南  
北二股に分れ、南は蒲生田崎、北は燈崎  
となりその間に樺浦の小灣入を抱く。蒲  
生田崎の東方には前島・棚子島・辨天島  
等の小島嶼を浮ぶ。概ね山地にして中部  
樺浦の西岸に狭小の低地あるのみ。特産  
梅油あり。沿岸漁業行はる。樺浦は良鐘  
地にて阪神及び沿岸航路汽船の寄泊地な  
り。蒲生田崎には明暗白光、明二秒暗二  
秒、光差距離一八・五哩の燈臺あり。

ツバキ

【樺木】長門國山口縣の古地  
名。和名抄に阿武郡樺木郷あり、都波岐  
と訓ず。その地今の萩市(もと)の樺・樺  
東・山田三村及び萩町)及び阿武郡三見  
村の邊に當る。

ツバキイチ

【樺市村】福岡縣豊前國  
京那郡の北部。東は周防灘沿岸の行橋町  
との間に延永村を挟み、西北は企救郡東  
谷村に隣りす。面積約一〇方軒。四周に  
高度二一三百米の丘陵性山地を繞らし、  
中央部と東南部に低地ありて耕地よく拓  
け、米・麥を産し薪炭も出す。行橋町へ

BOOK

バスの便あり。古くは和名抄、京都郡高  
來郷の内なるべく、大字高來は蓋しその  
遺稱なり。日本書紀行紀に「幸筑紫・  
到豐前國長峽縣興行宮二而居故號其  
所、曰高來也」と見え、この長峽行宮址  
は此地なるべく、郡名高來もこれより起  
りしものならん。(五社八幡神社)大字  
入聲に鎮座。郷社。祭神、仲哀天皇・應  
神天皇外三神。例祭、九月九日。(八幡  
神社)大字下崎に鎮座。郷社。祭神、多  
紀理姫命・多紀津姫命・市寸島姫命外七  
神。創建年次詳ならざるも、初め土民、  
景行天皇の御徳をしたひてこれに鎮祭せ  
しが、其後、貞觀三年旗家榮純なる者、  
宇佐の分靈を勧請して八幡社となしたる  
如し。例祭、三月十八日。

ツバキシンデン

【樺新田】千葉縣  
下總國東部の南海岸に砂丘發達せるも、  
その北にはもと匝瑛・海上・香取の三郡  
に互りて東西約一二軒、南北約六軒の樺  
湖と稱する潟湖ありき。これを干拓して  
生じたる新田を樺新田といふ。徳川幕府  
の初め、江戸の人杉山某が干拓計畫を立  
て、寛永末に白井次郎左衛門その志を嗣  
ぎしが幕府の許可を得るに至らざりき。  
寛文の頃に幕府の大功の棟梁辻内刑部左  
衛門漸く許可を得。辻内は即ち親戚なる  
村木野田田某・栗田某を金主となし之に  
著手し、寛文九年に起工し水を刑部川即  
ち新川によりて南方吉崎附近より海に導  
き、延寶二年に至り前後六ヶ年の日子を

費して工事全く成れり。爾後數年を経て  
干拓の業成り、耕地を得ること三三八〇  
町歩、草高二萬四百餘石。俗に干潟八萬  
石と稱せり。いま三郡九箇村に分屬す。  
即ち樺海・共和(以上匝瑛郡)、櫻鳴・浦  
郷(以上海上郡)、古城・中和・萬歳・東  
城・神代(以上香取郡)の九村に互る。總  
武本線ここを横斷し、干潟驛を設きて干  
拓地の意を寓せり。

ツバキヒガシ

【樺東】山口縣大津郡  
にありし村。大正十二年、萩町・樺村・  
山田村と共に廢され新に萩町を置き、萩  
町は昭和七年市制を布く。

ツバクラス

【燕巢山】日光火山群の  
一峯。栃木縣鹽谷郡栗山村と群馬縣利根  
郡片品村との境上に位す。標高二二二  
米。主として流紋岩より成る。東斜面よ  
り鬼怒川發源して東流し、溪谷に八丁の  
湯・川俣温泉等湧く。

ツバクロ

【燕岳】日本北アルプス常念  
山脈の北端部の一峯。ツバクラとも云ふ。  
長野縣南安曇郡有明村と北安曇郡平村と  
の境上にありて標高二七六三米。北東稜  
は臺原山(二七四〇米)・東臺原山(二四  
九四米)を経て、飯岳岳(二六四七米)に  
至り、南稜は大天井岳(一九二二米)につ  
づく。山體は花崗岩より成り、その岩塊  
と花崗岩の美はこの山の特徴にして、  
その爲に保松・高山植物園が美觀を呈  
す。西は北流する高瀬川谷を距てて鳥帽  
子岳(二六二二米)・三ツ岳(二八四五米)・

五郎岳

(一九二四米)・三俣連帯岳(二八  
四一米)等北アルプスの高岳巨山と對峙  
し、南は尾根續きに大天井岳・常念岳(二  
八五七米)を眺め、東は脚下に中房川上  
源の溪谷を瞰下し、遠く松本平の彼方に  
は八ヶ岳方面をも望み得られ、北は遙に  
針ノ木岳・白馬岳・立山等雲表に聳ゆ。山  
頂の南方鞍部にアルプス唯一の近代施設  
備を有する山小屋燕山荘ありて、その附  
近には「耳懸」と稱する高山植物及び駒草  
の群落あるを以て名高し。燕岳は比較的  
登山の安易なると、アルプス峯諸の大觀  
を恣にし得らるるとに因り、北アルプス  
中、白馬岳と共に登山者最も多く婦女子  
の登山する者も尠からず。登山路は省線  
大糸南線有明驛より中房川を廻行し中房  
温泉まで約一八軒、途中一ノ瀬迄自動車  
の便あり、中房より合戦澤小屋を経て燕  
岳迄約六軒、概ね森林帯の急坂にして約  
三時間にして達頂す。山頂より南走する  
高低の少き狭き尾根はリュックサックを  
背負ひて漫歩を試みる感ありとせられ、  
アルプス銀座とも呼ばる。大天井岳に至  
る間には蛙岩・爲右衛門吊岩・切通岩等  
あり。

ツバコ

【椿子】福岡縣浮羽郡にありし  
村。昭和四年本村及び浮羽村を廢して新  
たに御幸村と稱す。椿子は古くは郷名に  
呼ばれ、和名抄生葉郡にその名見ゆ。

ツバタ

【津幡町】石川縣加賀國河北郡の北部。

ツハコ—ツハツ

金澤市を去る北方約一二軒。面積僅に五・

六方軒。北陸街道と能登街道との分岐點。  
東北部に低き丘陵を負ひ、西南に平野開  
けて河北湯の東岸井上村につづく。津幡  
川西流し、水田多し。米の産多し。絹織  
物の機業盛なり。また葡萄酒・桑翁養・  
桑酒等の特殊産物あり。葡萄酒は白山に  
産する野生葡萄を、桑翁養・桑酒は桑の  
實を原料として作る。いづれも獨特の風  
味と野趣とを持ち食通家に珍重せらる。  
省線北陸本線と七尾線は南隣中條村地方  
の津幡驛にて分岐し、七尾線の本津幡驛  
(明治三十一年設置)は町内に設けらる。  
北陸街道・能登街道には共にバスの便あ  
り。此地は和名抄、加賀郡井家郷に屬せ  
しもの、如く、延喜兵部省式に見ゆる深  
見驛も蓋し當町邊に求むべきか。古くは  
都幡(東鑑)・津幡多(盛衰記)にも作る。  
北越軍談によれば、天正四年上杉謙信加  
州へ攻入の際、この地に陣すと。中世  
以降、能登街道と北陸道との分岐點とし  
て繁榮を極め、近世は郡役所を始め官衙  
多く河北郡の主邑として榮えしも、鐵道  
敷設以來は次第に寂れたり。明治十一年  
明治天皇北陸東海御巡幸の砌り、一月二  
日此地にて御小休遊ばさる。(白鳥神社)  
大字加賀爪に鎮座。郷社。祭神、日本武  
尊。貞觀十八年從五位下を授く。もと白  
鳥大明神また加賀爪社と稱せしを、明治  
十五年に現社に改む。

【津幡】北陸本線の一驛(明治三十一年

ツバメ

【燕町】新潟縣越後國西蒲原郡の南部。  
中ノ口川の左岸。三條市の西北方、吉田  
町の東南方、何れも四軒餘を隔つ。面積  
一二方軒餘。越後平野の中央部に土地  
平坦肥沃、概ね水田をなし、越後米の産  
額多き他、往時より銅器製造盛にして、  
近來は各種金屬製品を産著しく發達せる  
を以て聞ゆ。町の略中央を省線彌彦線貫  
通して、燕驛(大正十一年設置)を置き、  
社線新潟電鐵これに接続す。三條市・白  
根町・吉田町方面へはバスを通ず。また  
中ノ口川には舟楫の便あり。銅器製造の  
起源は文政十二三年の頃、此地の人玉井  
覺治郎(玉川堂と號す)、京師にて銅器の  
製造を修業し、當地に歸りて割烹用具を  
つくりにて販賣せしに創まる。明治維新の  
際、戦亂のため一時休業せしものち再び  
復興し今猶ほ盛んなり。昭和二年北隣太  
田村を合併す。

ツバエ

【燕】↓關山村(新潟縣中頸城郡)  
【粒江村】岡山縣備前國兒島  
郡の西北部。西北は倉敷市の東南に隣接  
し、西は福田村、東は藤戸町に界す。面  
積九・四二方軒。南半は兒島半島西北部  
の丘陵にしてその中央部に種松山(二五  
九米)あり。北半は古への阿知湯の地に  
て倉敷川の支流東流し、土地平坦、耕地  
よく拓けたり。米・麥・蘭・繭の産あり。  
この地は和名抄、兒島郡兒島郷の内なり。

津房村

大分縣豊前國宇佐  
郡の東南部。別府市の西北にて、その間  
に速見郡南端村・由布院村を隔つ。地南  
北に長く、面積三三方軒に近し。耶馬焙  
岩臺地の東南部に當り南境の鎌戸山は八  
三一米、中部の樺木山は五八六米、その  
西北の鳥帽子山は五七三米を示し次第に  
北方へ緩斜す。東北部には驛畑川の上支  
津房川西北流し、その低地に田畑よく拓  
く。物産に米・麥・薪炭等あり。また牧畜  
も行はる。村内の交通は未だ便ならず。  
此地古くは和名抄、宇佐郡深見郷の内な  
りしもの、如し。(若宮社)大字橋本に  
鎮座。郷社。祭神、大鷦鷯命。元正天皇  
靈龜元年の勸請なりと傳ふ。例祭、十月  
十八日。(元正寺)大字橋本にあり。眞  
宗本願寺派。龜甲山と號す。寛文元年の  
草創。地頭橋本佐四郎道西入道淨賢の開  
基。現堂宇は寛政六年の再建なり。

ツフリ

【津振川】奈良縣吉野郡龍門  
村を流れて吉野川に入る小河。往昔、大  
海人皇子(天武天皇)吉野より急に東國に  
到り給はんとて、駕を待たずして宮を出  
で給ひ此川の邊にて車駕に召さる。いま  
龍門村の大字に津風呂あり。津風呂は津  
振の轉なり。

ツベツ

【津別村】北海道網走支廳北  
見國網走郡の南部。美幌町の南隣にて、  
西は常呂郡東南部に、南は釧路國阿寒・

BOOK



ツホイ—ツマ

尾寄二郡の北部と界す。面積七二一方...

ツホイ 坪井

【坪井】 姫新線の一驛(大正十二年設置)...

ツホイ 壺井

【壺井】 新潟縣北蒲原郡にありし村...

ツホネ

伊賀山塊の一峯。松阪市の南西方約二三...

ツホフ

【坪井】 廣島縣備後國深安郡の東南部...

ツマ

【津万】 兵庫縣多可郡にありし村...

ツマ

【津麻・津摩】 紀伊國(和歌山縣)の古地名...

ツマ

【都万村】 鳥根縣鹽竈國鹽地郡の南部...

ツマ

【都萬】 薩摩國(鹿兒島縣)の古地名...

ツマ

ツマ

方軒餘。北境に横尾山(五七三米)聳え、その西南斜面に屬す...

ツマ 妻

【妻町】 宮崎縣日向國兒湯郡の東南部...

ツマギ 妻木町

【妻木町】 岐阜縣美濃國土岐郡の南部...

ツマ

【妻籠】 群馬縣上野國吾妻郡の西部...

ツマ

ツマ

ツマ















生産額一覽	昭和十年			昭和九年			昭和七年		
	農産	畜産	林産	農産	畜産	林産	農産	畜産	林産
合計	六三、四六一	四六、四三〇	四六、五〇四	六三、四六一	四六、四三〇	四六、五〇四	六三、四六一	四六、四三〇	四六、五〇四
一人當	一、〇〇〇	七、七二二	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七二二	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七二二	一、〇〇〇

六三%餘に當る。其他の工業物には清酒・蠶糸類・漆器・木製品・菓子類・織製品等を擧ぐべし。中央部の市街地域以下は土地平坦にして田畑よく拓け、米(五二萬圓)を主とし、蔬菜及び工業農産物、麥及び食料農産物の産少からず。市の工業の隆盛と附近農村の物産特に庄内米の集散市場として商業また活潑なり。市内に區裁判所・大藏省預金部資金局仙臺支局出張所・警署其他の官衙學校多し。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際此地に行幸あらせられ、いま明治天皇御同行在所として史蹟に指定せらる。また文藝評論家高山樗牛は此地の出身なり。「沿革」此地は和名抄、田川郡大泉郷の地にして、中世大泉庄の立つや其治所として郡司・庄司の居館ありし處なり。地頭大寶寺氏に居る故に城名を大寶寺または大梵宇と稱せり。經

營の始詳ならず。後三年の役には源義家ここに陣營を構へ、亂平ぎし後、其臣藤原光廣に賜ひ子孫三世に傳ふ。鎌倉時代武藤氏大泉地頭となり、此處に居て庄務を處理し兼ねて羽黒山別當を勤めたり。其季世尾浦城に移るに及び前森氏城代たり。天正十六年羽越職役に於て前森氏陣對するや武藤氏また尋いで亡び莊内悉く上杉氏に屬し、本庄繁長の部將木戸玄齋當城を守り、天正十八年檢地騷動あり、上杉景勝之を鎮定し大寶寺城を直江兼續に與ふ。兼續老臣穂村監物を城代とす。慶長六年最上義光、莊内を略し、大寶寺城を修して自ら之に居り以て退隱の處となし、大に修理を加へ市街を開き町名を改め山形より民を移し、慶長八年城名を鶴岡と改む。元和八年最上氏斷絶するに及び酒井忠勝、信州松代より封を此地に移され、更に本城を増築し市街の整頓を圖れり。爾來二百五十年、明君輩出し、特に明和年間、忠徳封を擧ぐに及び賢材を登用し學校を興して銳意文教の普及を計り盛に武事を講じ、また殖産興業の道を開けるを以て人文の發展、産業の興隆觀るべきものあり、文久三年忠篤功を以て三萬石加増せられ十七萬石を領す。明治二年酒井公版圖を奉還し、同年九月大泉藩と改む。同四年大泉縣を置き、尋いで縣を酒田に移せしが同八年再び鶴岡縣となり、同九年山形縣に合併し、城郭を毀ちて公園とす。大正七年稻生村を、同

九年大寶寺村を編入す。同十年八月赤川の水氾濫し、未曾有の大洪水を起し、四千の住家濁流に浸され慘禍を嘗め、之が復舊に多大の勞費を費せりと雖も、之が勢股勢を加へ、同十三年羽越線の全通を見るや、從來東海岸線等に依れる旅客及び貨物の輸送は俄に此線に依ることとなり、其の中間都市として本市の恩恵を享くこと尠からざるものあり。戸口も年々増加し、實業の發達と文化の進展また之に伴ひ大正十三年市制を施行す。「莊内神社」馬場町に鎮座。縣社。祭神、酒井忠次・同家次、同忠勝。明治九年舊藩民等深く舊藩主の二百年に亙る德澤を懐き、仰慕の情熱し難く、舊本丸に一字を創建しこれを鎮座す。例祭、八月二十八日。當日假裝の大行列ありて市中を練行くを以て著名なり。「太宰府神社」天神町に鎮座。縣社。祭神、菅原道真。始め城内にありしが慶長年中最上義光城郭修理の際三日町に遷座、のち現地に移す。例祭、五月二十五日、天神祭と稱し莊内三郡の老若男女雲集す。「日枝神社」荒町に鎮座。縣社。祭神、大宮大己貴命・二ノ宮山本之大主大神外七神。俗に下山王と稱して小眞木山王と對稱す。古社なりといふも創建年月を詳にせず。慶長十六年最上氏社殿を造營、次で元和年中酒井氏入國するや産土神と定めて厚く信仰し、社殿を再建、社地を寄せ、而して修繕費・祭費等悉く同氏より寄進せらる。

例祭、五月十四日。「日枝神社」郷社。祭神、大己貴命・山本之大主神・市杵島姫命。創建年次詳ならずも、社傳に據るに往古葛城を振ひし時東北鎮護の爲め時の國造これを勸請創祀せしものといふ。その後慶長・元祿等に再建、文化年中正一位の神位勸許を蒙り、社領六十八石餘を有したりと。「春日神社」大字天神に鎮座。郷社。祭神、建甍神社・經津主神、外二神。創建年次詳ならずも、舊記に據れば元來當社は和國より初め越前國に勧請せるを、のちここに奉遷せしものにして、歴代領主の崇敬厚かりし社なりといふ。例祭、五月八日。「本住寺」七日町にあり。日蓮宗。境内に加藤清正の子忠廣及び其母正應院の墓あるを以て著る。忠廣、事を以て肥後熊本五十餘萬石を沒收の上東田川郡丸岡に請せられ承應二年病歿す。家臣遺志を奉じて正應院の墳墓と共に丸岡より此地に移す。寺内に清正堂あり、寺寶として遺物數種を藏す。「大寶寺」新町にあり。淨土宗。長新山と號し、天正十八年創建、城主酒井忠次の開基、開山は覺圓上人なり。酒井家と共に各地を轉せしが元和八年忠勝と共に當地に來り寺領百五十石を受く。境内に酒井家代々の墓あり。「常念寺」南町にあり。淨土宗。鶴岡山。大永三年寂譽上人の開創に係る。最上義光これを菩提所とし寺領百三十八石餘を寄せ、酒井忠勝また之を再興す。伽藍宏壯にて地

方有数の名利。「大昌寺」與力町にあり。曹洞宗。證玉山と號す。慶長九年證岳徹大和尚の開山に係る。越後荒川伊豆守詮治最上家の臣となり一萬石を食み當地に在りしが、酒井家の入部するや返祿して永世水運と稱し當寺に居ると傳ふ。「總持寺」鍛冶町にあり。曹洞宗。興林山と號す。元和年間酒井忠勝信州松代より移封と共に轉せるものにして、爾來同宗の名利となり、安政年間に酒井家配下寺院四百八箇寺の録司として堂宇壯麗なりしが天保中炎上し、再建さる。「般若寺」日和町にあり。曹洞宗。大寶山と號す。草創年次不詳。藤原秀衡、先考の冥福を修せん爲に建立。鎌倉建長寺通寶獨逸和尚の開山に係る。のち酒井家の入るや、其菩提所となり五十三石の寺領を受く。「龍藏院」吉住町にあり。曹洞宗。寶雲山と號す。永正年中最上善思和尚の開創に係る。寺領七十三石餘を有せりと。

【鶴岡】大分縣南海部郡にありし村。昭和十二年佐伯町に入る。

【ツルオチタ】鶴岡市。青森縣上北郡にありし村。明治廿二年六月村と改稱。

【ツルガ】敦賀

【敦賀市】福井縣中部の港市。越前國の西南部、敦賀の南西に位し、東と南は敦賀郡東浦・東郷・中郷・栗野の四村に接し、西は若狭國三方郡山東村に隣る。東西廣き處八軒を超え、南北一四軒に近く、面積五二・二五方軒を有す。西方三方郡との境上には三内山(五二二米)・西方ヶ岳(七六四米)・螺ヶ岳(六八六米)等の山岳南北に連りその北端は立石岬となりて日本海に没し敦賀灣の西北口を限る。これら山嶺の山肢は東方に急斜して敦賀灣西岸に迫り辨天崎・小崎・鷺崎・明神崎等の小岬角となり、それらの間に小支灣を擁す。市の東南部に當る敦賀灣の南岸は開けゆる敦賀平野の一部にて土地平坦、田畑よく拓け、敦賀の市街はその東半部に建ち、東隣東郷村との境に天筒山(一七〇米)・越坂峠(約一四〇米)等の丘陵性山地を挟む。河川に筆ノ川・井ノ川あり。筆ノ川は東郷村の東部河ノ河内の山間に發し愛媛・中郷兩村を回流しその間處麻生川・五位川・黒河川等を合し、更に市域に入りて東郷村より來る木ノ芽川を容れ、北流して市街の略中部を貫き敦賀灣に注ぐ。井ノ川は栗野村の西北部野坂岳に發し平野の西部を北流

してまた敦賀灣に注ぎ、共に流程大ならざるも灌溉の便あり。此地は古代より大陸との交通上の要處たりしが、今も亞歐連絡上の一大門戸、日本海沿岸の重要開港の一として榮え、近時滿洲國建設以來更に交通・貿易上の重要性を加へ來れり。省線北陸本線は敦賀縣境の柳ヶ瀬驛道を經、ほぼ筆ノ川の谷に沿ひ、市の東南部を掠め、ここに敦賀驛(明治十五年設置)を置き、更に臨港線を岐ち敦賀港驛(明治十五年設置)・新敦賀港驛(昭和七年設置)を設けて敦賀港に集散する貨物の吞吐に便し、特に毎月亞歐連絡船日に日滿連絡船の發着日には東京との間に間は省線國際列車の運轉行はる。また省線小濱線は敦賀驛より岐れて西走し若狭の小濱を經て丹後の新舞鶴に至り舞鶴線によりて山陰本線に連り京阪に連絡す。柳ヶ瀬道は北陸本線に沿ひて東南に向ひ滋賀縣伊香郡に出でて北國街道に合し、その間琵琶湖西岸に出でて大津に達する西近江路、琵琶湖北岸の鹽津灣に至る鹽津街道を岐つ。更に敦賀道は東北に走り敦賀灣東岸を北上し武生に於て北國街道に繋がり、丹後道は小濱線と同方向に進みて舞鶴方面に至り、以上多くはバスを通ず。以上陸上交通路の外海上は敦賀港を起點若くは寄航地とする樺太北海道大連線・樺太北海道敦賀線・樺太敦賀線・雄基惠須取線・九州敦賀線・清津敦賀線・敦賀清津線・敦賀北鮮浦鹽線・朝鮮北海道大

連線・大連敦賀線等の定期又は臨時の航路ありて汽船の發着繁し。昭和十一年に於ける敦賀港の貿易に就きて見るに、内國貿易額は一千七十四萬圓に近く、農工品・磁石・和傘・セメント等移出し、海産物・魚肥料・石炭・セメント・木材等移入す。對朝鮮貿易額は七百五十四萬圓にして、陶磁器・ビール・蔬菜果實・漁網・綿糸布・雜貨類を主要移出品とし、大豆・魚肥・生豆粕・米糠等を主要移入品とす。また外國貿易額は一千九百五十萬圓に近く、主要輸出品には蜜柑・コ

昭和十一年貿易額(單位千圓)

地方別	移(輸)出	移(輸)入	計
内國	七五	一〇三	一〇三
朝鮮	三、八二	四、四六	七、五〇
外國	一、五八〇	三、四六	一、九四六
計	一、九八二	一、七〇五	三、六八七

ルター染料・人絹糸・綿布・織・銅・電線・電氣機械・その他の機械類、主要輸出品には大豆・飼料・豆粕・鹹魚・白金・石炭等を數へ、貿易總額は實に三千七百七十餘萬圓に上る。市の工業も近時著しく發展し、人絹糸・セメント・漁網・製氷・製材・製油・肥料・飼料等の工場工業をはじめ、石灰・和傘・竹・柳、藤の製品・加工昆布等の家内工業あり。漁業に鯛・鰯等の漁獲ありて主として京都方面に送らる。立石岬に立石岬燈臺あり。燈質は明暗白光(明三秒、暗二秒)



にして光達距離は二四哩に及ぶ。教賀は往昔、阿波浦と稱へ、太古より開けし港津なりしが、崇神天皇の御代朝鮮任那の皇子都奴賀阿羅斯等來朝せしとき此地に上陸し、のち永住して司となりしより地名を「角鹿」と改め、更に和銅年間教賀と改字し、奈良朝時代に之を「つるが」と轉訛して今日に及ぶといふ。降つて仲哀天皇は神功皇后と共に此地に行幸あり、韓國征討の御準備として皇后暫く止まり給へり。聖武天皇の朝より渤海國の使節常に来賀せるを以て館を設けてこれが接遇に當れりといふ。南北朝以來、教賀は京師より北國に至る咽喉部に在るの故を以て屢々戰亂の巷となり、新田義貞は尊良・恆良兩親王を奉じて教賀に入り、足利氏の軍に包圍せられて尊良親王は御自害あり、義貞の子、義顯は殉死す。其後朝倉氏代々の居城あり。織田信長これを亡ぼし、更に江戸時代の初、結城秀康の所領となり、のち京極氏を経て酒井忠勝に及び、爾來小濱藩として若狭一國と共に酒井氏の所領なりしが明治三年藩制改革に伴ひ隣藩福山藩を小濱藩に合し、同四年七月藩を廢して縣を置き、同年十一月小濱縣を廢して教賀縣を置く。同六年一月足羽縣を教賀縣に合併し、同九年八月教賀縣を廢して滋賀縣に合す。同十四年二月滋賀縣及石川縣の一部を分合して現今の福井縣を置かるに及び、教賀は福井縣の管轄に入りて今日に及ぶ。教

賀市はもと泉・津内・三島・教賀の四字より成り、教賀は更に二十四區に分劃せられたる市街地にして、他の三字は農業地域なりしが、明治十八年の二十七日町村制を聯合して一戸長役場を置き、同二十二年町村制の實施に際し之を一團として教賀町とし、のち町勢の發展に伴ひ行政區劃を三十區に分つ。昭和十二年教賀町及び松原村を廢し、其地域を以て教賀市を建つ。「金ヶ崎城址」指定史蹟。市の東方に在る半島部にあり。延元元年十月新田義貞、尊良親王、恆良親王を奉じて立籠りたる處にして、戰軍の攻撃を加はるに及び城兵險に據り奮戦力闘せしも衆寡敵せず、翌年三月城遂に陥り尊良親王は自刃し給ひ、義貞の子義顯は部下數百人と共にこれに殉じたり。城池の主要部は今官幣中社金崎宮の境内に屬し、其背面の高處には城戸、燧米出土地、月見御殿址等あり。ほゞ舊規を存す。「手筒山城」金崎宮の東南に聳ゆる手筒山の頂にある城址。また天筒山にも作る。永祿の頃朝倉義景、織田信長の侵入に備ふる爲築きしものといはる。元龜元年信長の爲に攻め落さる。「松原客館」王朝時代、教賀に設けし外客接待の官舎。奈良期の初め日本海の對岸に渤海國新に起り、元正天皇養老四年始めて我國に朝貢し、これより屢々來聘せり。よつて朝廷にてはこれ等蕃客のために教賀に松原客館を、能登に能登客館を設けて接待の便

に供せしめたり。松原客館の設置は明らかならざるも、能登客館は桓武天皇延暦二十三年に成りしより推せば、大體此頃置かれしものならん。而して教賀は日本海方面に於ける要津にて、北海に來著せし蕃客の上京の途に當れるために、特にこの地に客館を設けしことは、恰も彼の難波の津に鴻臚館を置きて、蕃客を接待せしと同様なり。この客館は松原驛に當れるため松原驛館とも稱せり。但し松原驛址及び館址共に今は詳かならず。延喜の制によれば、この館は氣比神宮司の檢校するところにて、ただ蕃客の安置供給等に關することは國司の掌るところなり。蓋し當時の國府は今の丹生郡武生に當り教賀との距離遠かりしかば、氣比神宮司の支配せしものならん。而して村上天皇の頃は鴻臚館も類廢せしかば、松原客館もまたこの頃に類廢せしものなるべし。「武田耕雲齋等墓」指定史蹟。松島にあり。元治元年十月水戸藩士武田耕雲齋の黨謀攘の大義を唱へ、西上の途次越前に入り十二月新保宿にて大雪に遇ひ遂に幕府の軍門に降る。翌年二月幕府は耕雲齋以下三百五十餘名を斬首す。今の墓地は當時の刑場にて遺骸を埋めたる所なり。土盛は方十二間、高さ八尺、西面して十五基の墓石を立て周圍に石柵を繞せり。「西福寺書院庭園」指定名勝。築造年代不詳なるも、或は徳川中期ならん。山庭にして中央山腹の窪には花崗岩の互巖簇

立し、西北には松樹、東北は雜木茂生し間々松樹を交へ、處々藤岡等の刈込物及び椎・楊梅等を植う。山麓に池を設く。池中に三嶋を置き橋を架く、池畔より山麓に涉りて石を配し北岸に小瀧を懸く。峻嶺の壯觀、泉石の雅美、山庭として特殊の佳趣あり。「氣比神宮」曙町に鎮座。官幣天社。祭神、伊弉沙別命・日本武命外五神。北陸の名社。式内名神大社。神封、天平三年二百戸、後更に四十四戸増加。神位、寛平五年正一位勳一等。その他遣使奉幣・神寶の奉納・遷宮日時の宣下等の事あり。武門武將の崇敬社。多數の攝末社あり。殿宇中本殿（慶長七年藩主松平秀康の建造）及び鳥居（正保二年の建立）は國寶。例祭、九月四日。「金崎宮」泉に鎮座。官幣中社。祭神、尊良親王・恆良親王。尊良親王は後醍醐天皇の第一皇子、恆良親王は第六皇子。延元元年新田義顯等と金崎城に據られしが、北條氏のため尊良親王は遂にこの地に薨せらる。本社は明治二十三年の創立。同二十五年恆良親王を合祀す。例祭、五月六日。「永慶寺」泉にあり。曹洞宗。勝藏山と號す。應永二十年東溪宗陽和尚開基す。慶應元年水戸浪士武田金次郎（耕雲齋の嫡孫）等百三十七人遠島に處せられ、翌年赦免に遭ひて一統を當寺に移さる。時に北野天満宮に納めんとして斷髮せしを今猶當寺に藏す。「永賀寺」境町にあり。曹洞宗。開通山と號し丹波國通

BOOK

寺末たり。開山武山和尚は開通寺十四世住持にして天正十九年本寺を開創す。境内に鎮主大谷吉繼の墓あり。「幸臨寺」曙町にあり。曹洞宗。上古此寺氣比神宮内にありしが、のち泰澄法師今の地に移すとすといふ。三朝の臨幸ありしに依り現寺號を稱するに至る。寺寶として朝倉教景の守護佛たりきといふ赤銅觀音像あり。「金前寺」泉にあり。眞言宗高野派。誓法山と號す。創建年次詳ならず。本尊は十一面觀音にして、宇治拾遺物語に禰羅觀音堂とあるは之なり。住時は寺内十一坊を有せし互利たりき。延元の亂に新田一族本寺に據りきといふ。「西方寺」神樂町にあり。時宗。もと天台宗にて開基は常照阿闍梨なりといふ。のち遊行二代眞教上人當地巡化の時より現宗に改む。芭蕉の奥の細道にこのこと見ゆ。「本勝寺」神樂町にあり。本門法華宗。日照山と號す。大同元年空海の弟子故圓の開創に係り、昔は東北卅三寺の末頭として、本能寺十六世日遠より北國本山の許狀を下附せらるといふ。堂宇の中にて祖師堂は長享二年の建立に係り郡内最古の建築なり。「本妙寺」大島町にあり。本門法華宗。瑞應山と號し京都妙蓮寺末たり。永和二年日教上人の草創に係り、住時は塔頭十一箇寺を有せしが今は悉く廢替せり。「妙顯寺」大島町にあり。日蓮宗。具足山と號し京都妙顯寺末。もと眞言宗にして氣比神宮寺中の一院なりしが、永

仁二年日俊上人此地に來りし時遂に之に歸して現宗に轉ず。「教賀郡」福井縣十一郡の一。越前國の西南部にて縣の中部を占め、北の一部は教賀灣に臨み、一部は教賀市に接し、東は南條郡及び滋賀縣伊香郡に、南は高島郡に、西は若狭國三方郡と界す。面積二四九方軒餘。東・南・西の三境は何れも山地によりて圍まれ自ら一境を成す。即ち東境北部には鉢伏山（七六二米）・木ノ芽峠（六二八米）ありて謂はゆる嶺北の南條郡と嶺南の本郡とを分ち、南部にはカラコ山・行市山（六六〇米）ありて余呉川の谷と界し、南境には三方ヶ岳・乗鞍岳ありて琵琶湖の北斜を限り、西境には三國山（八七六米）の脈、北方に長く延びて野坂岳・三内山・榮螺ヶ岳（六八六米）等を起し、北部は半島をなして日本海に突出し、東に教賀灣を擁す。灣の南岸には笹ノ川の沖積による平野ありて教賀市ここに發達す。平野は灌漑に富み水田開け、米の産多し。省線北陸本線は東南境柳ヶ瀬トンネルを経て教賀市に入り、東北界の山中峠を潜りて南條郡に出で、教賀市より西方に省線小濱線を分岐し關峠を越えて三方郡に向ふ。また柳ヶ瀬道は北陸本線に沿ひて進み、途中西近江路に合して教賀市に入り、教賀灣東岸を北上する教賀道となり武生町に向ひ、更に丹後道は教賀市より西してまた三方郡に進む。教賀市内の教賀港は裏日本主要の

開港として亞歐連絡の最捷路として世界交通の要點に當り、浦鹽斯德・滿鮮及び日本海諸港への定期航路船の起點また寄港地として榮ゆ。成務天皇の朝國造を定められたる角鹿國の大化改新の際郡となりしも、奈良時代の史上に教賀郡名見ゆ。和名抄は都留我と註し神戶・興津・津守・伊部・從省・鹿蘇の六郷を置く。明治二十二年町村制施行以來一町六箇村たりしも、昭和十二年教賀町と松原村を合して新たに教賀市を建つるや、郡内は五村となる。「教賀灣」福井縣教賀郡の北部の灣入。灣門北西に向ひ、南方に灣入し、西側及び灣頭は教賀市にして、東側は東浦村なり。而して其兩側は一般に石崖なれども立石崎より灣首に至る西側は岩崖・礫崖相交り、其間に浦底・當宮の二澳あり。灣頭は總べて低砂濱にして、二川ここに注ぐ。灣内は水深く教賀港は良港たり。「教賀新港」北陸本線の貨物驛（昭和七年設置）。福井縣教賀市にあり。「教賀港」北陸本線の一驛（明治十五年設置）。福井縣教賀市にあり。「ツルガオカ 鶴岡・鶴ヶ岡」地名。丘上に八幡宮ありて有名。鎌倉三代記・四「寄せては返る白波の、ふじが谷とはあれやらん、一はけきつと横雲は、誰が築めて限りて、四季の詠めも永久に、代々を重ねし鶴が岡、こはやれ

何處ぞと道人に問へば、此處は坂川津町ぢやとさ、心ばかりは由井が濱」。「鶴ヶ岡村」京都府丹波國北桑田郡の西北部。岡部町（船井郡）の東北約二五軒。西北は船井郡上和知村・何鹿郡奥上林村に接し、北は福井縣遠敷郡奥名田村と界す。面積七八方軒を占むるも、丹波高地の北縁にて高原性山地をなし、東境にては七百米、西界にては八百米をを示す。大野川の支流棚野川北部に發し中部を南流し、これに沿ひて幅狭き低地あり、聚落は皆この川筋に發達す。米・麥を産すれど産額多からず、材木・薪炭を主産物とす。河谷に沿ひて縣道走るも交通未だ不便なり。「諏訪神社」大字鶴ヶ岡に鎮座。郷社。祭神、武御名方命・大名持命。一に安永二年の建立といひ、また正徳二年の再建とも傳ふ。「ツルガサカ 鶴ヶ坂」青森縣東津輕郡新城村の大字。奥羽本線の鶴ヶ坂驛（昭和八年設置）あり。「ツルガシマ 鶴ヶ島村」埼玉縣武藏國入間郡の西北部。川越市の西北約六軒。北は坂戸町に隣接す。面積一八方軒餘。全村概して平坦にして畑地・林野をなし、養蠶行はれ、麥・甘藷・野菜等の農産あり。八王子より寄居方面への縣道は南北に、社線東武鐵道東上線は東北に走り、前者にはバスの便あり、後者は鶴ヶ島驛（昭和七年開業）の設ありて交通不便ならず。



ツルガタ

鶴形村 秋田縣羽後國山

本郡の中部。能代港町の東方約七軒。西南南扇湖村と組合村をなす。東南境に茂谷山(二四八米)、南境に横山(二二二米)の丘陵性山地ありて西北方に傾斜す。米代川は北西部を蛇行西流し沿岸に平野拓く。生業は農を主とし、土工・出稼も多し。米・大豆・蕎麥を産す。羽州街道と省線奥羽本線村の中央部を略東西に通じ後者の機織驛(西方柳村内)、富根驛(東隣富根村内)へは自動車の便あり。鶴形は一に釣方に作り、古城址数箇所あり。前記の如くいふ扇湖村と組合町村をなし役場を本村に置く。江戸時代に宿場のありし所にして、米代川による運搬船(人及び荷物)を取扱べし番所ありき。

ツルカワ

鶴川村 秋田縣

國南多摩郡の東南部。町田町の北隣なるが、その東南の一部は神奈川縣都筑郡西部の柳生・中里・田奈諸村の間に突出し西に岡上村の小村を挟む。面積二二方軒餘。多摩丘陵の中部に位し林野・畑地多きも、鶴見川の上流、西隣忠生村より中部を東に貫流し、之に沿ひて幅狭き低地あり田地拓く。物産は米・蕎麥を主とす。八王子・横濱間、府中・厚木間等の道路縱横に通じ、また社線小田原急行鐵道(電車)東部を斜に走りて鶴川驛(昭和二年開業)を置く。大字小野路は古く鎌倉より武藏府中に至る官道に當る。蓋し府中附近は往古の小野郷なればこれに至る路

ツルギ

劍

に當るより出でし名なるべし。

【劍崎】 南下浦村(神奈川縣)

【劍岳】 日本北アルプス立山連峯最北端の一峯。立山・劍ヶ岳とも云ふ。富山縣中新川郡立山村・白萩村の境上に跨り、標高二九九八米。穂高岳と共に北アルプス中峻峻を以て知られ、近代登山者の足跡を印してより既に約三十年、年と共に登山者數を増し、ロッククライミングの地としても知らる。花崗岩質片麻岩より成る山岳中日本第一の高峯なり。雪溪の發達著しく、東斜面の長次郎谷・平藏谷・三ノ窓・小窓の雪溪は急傾斜、且つ盛夏尙延長三軒餘に及ぶものあり、針ノ木岳・白馬岳・槍ヶ岳(三一八〇米)南斜面槍澤等に於ける雪溪と共に北アルプス中最も著名なるものなり。山頂部にはハツツ・源治郎屋根等の尖峯群立し、男性的なる山骨を示す。山頂よりは東方に白馬岳・鹿島槍ヶ岳・針ノ木岳等の後立山の連山、指呼の間に迫り、脚下に黒部の大溪谷南北に走る。北方は富山平野、日本海の眺め良く、南方は立山別山・立山本峯・北アルプスの雄峯悉く一眸に收る。西側斜面は早月川の上支流川・立山川源流す。登山路は黒部川方面よりするものと立山方面よりするものとあれど後者が便利なり。立山方面よりは至堂より立山本峯・別山(二八八五米)・別山乗越を経て別山平の劍小屋に至り、ここを根據として登

山する者最も多し。即ち劍小屋より劍澤の雪溪を凡そ一軒半下れば左に平藏谷の雪溪あり、之を登りて山頂に達し、歸路長次郎谷を下る。又は小屋より鶴ヶ御前と劍岳との鞍部に由り、尾根傳ひに山頂に達し、歸路いづれかの雪溪を下りて小屋に歸るもよし。いづれも約六時間を要す。山頂より東へ尾根を縦走し三ノ窓・小窓を経て東に下り、池ノ平なる池ノ平小屋にも至るを得。ここより北方黒部川支流小黒部川上源に沿ひて下り、黒部本流の奇巒峻嶺に至り、ついで鐘釣温泉に出づること可能なり。これ黒部口登山路の逆コースなり。

【立山山脈】 四國の主軸をなす石鏡山脈の南に並び、四國の中央を少しく彎曲しては西東に奔る山脈。主として御荷峰層及び上部古生層の岩石より成る。石鏡山脈との境は大體祖谷川・吉野川・歌川の上流を結び且つ本山・久萬・内子・大洲等の盆地を連ぬる線とす。※四國山脈

【劍山】 四國劍山山脈の主峯。ケンザンと音讀したる劍岳ともよばる。徳島縣美馬・麻植・那賀三郡界に跨り標高一九五五米、四國にては石鏡山に亞ぐ第二の高峯。上部は寒帯林ありて森林學上恰好の研究地なり。山頂部には岩石を見るのみ。頂上には東西に長き平坦面ありて俗に平家の馬場とよばれ、安徳天皇の御劍を收め來りきと傳ふる方形十六米の寶藏石あり。頂上よりの展望は雄大にして冬

季は樹木の美觀に接するを得べし。登山路は省線徳島本線の穴吹驛・貞光驛よりする二途あり。前者は穴吹川に沿ふものにて木屋平村谷口まで三八軒間は自動車の便あり、こより頂上まで約一〇軒。この間御前橋までは緩傾斜、それより急峻なる尾根傳ひに原生林の間を進むこと約一軒半にして富士池に着く、此處に劍山神社と龍堂あり、更に追分・一ノ森を経て山頂に至る。後者は貞光川谷に沿ふものにして一字・美徳等の葉落を経て達す。この外土讃線三繩驛祖谷川溪谷を廻行して至る登山路あり。

【劍村】 福國縣筑前國鞍手郡の東北部。南は直方市、東南は植木町に接す。西南と東南には丘陵地あるも、其他は遠賀川流域の平地に屬し、土地平低にて田畑拓け耕作よく行はれて米・麥を産す。新入鎮山の鐵區に屬す。直方・芦屋間の縣道東北部を通じバスの便あり、省線筑豊本線の筑前植木驛に近く交通不便ならず。關門海峽要地帯の西部を占む。「圓濟寺」大字中山にあり。淨土宗。慶長年間彈譽の開創に係り、明治二十一年彈譽現堂字を再興す。寺寶中不動明王及び二童子像の三軀は何れも藤原時代の作に係り國寶たり。

ツルギ

鶴來町

石川縣加賀國石川郡の中部西偏。手取川右岸に沿ひ、白山谷の谷口を占む。西南は手取川を境に能美郡山上村と對し、北は金澤市の南端に

ツルギオ

劍尾山

大阪市の北約三六軒。丹波高原に隆起する一峯。大阪府豐能郡西能勢村と京都府南桑田郡畑野村との境上にあり。標高七八五米。山體石英斑岩より成る。北西方に深山(七九一米)、南東方に小和田山(六一二米)續く。山頂は古への月峰寺の舊墟なりと傳ふ。因りて一月ヶ峰・月峰山とも云ふ。山頂よりの眺望頗る廣く、北東に比叡・愛宕等の京都北部の山々を望み、南方は大坂灣を眺む。この山古くは下槌山と云へり。

ツルギサン

劍山山脈

石川縣能登國鳳至郡の西南海岸。門前町の西隣にして、南は羽咋郡の西北部に接し、同郡富來町を去る北方約九軒にあり。面積四五方軒餘。鳳至山地の西部を占め、東境南部に桑原山、北部に切付山等、高さ三〇〇米臺の丘陵山地ありて西方に傾斜し、西岸南半は斷崖をなす。西岸の北部と南部に小平地あり、米・蕎麥の産あり、水産業も行はる。縣道海沿ひに走り、富來・門前兩町へはバスの便あり。此地、古くは仁岸庄の内とす。村内を流るる仁岸川はまた鶴石川にも作り、萬葉集・一七に「妹にあはず久しくなりぬ鶴石河清き瀬」とにみならは「へな家持」と見ゆ。明治四十一年劍地・仁岸・阿岸の舊三村を合して本村を置く。「本誓寺」大字南

ツルギ

鶴崎町

大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川河口近くの左岸に位し、北方は三佐村を隔てて別府灣に近く、大分市の東方約八軒にあり。東方は川を隔てて北海郡郡西部と對す。大野川三角洲の一部を占め、東境に大野川、西境には其分流乙津川北流し、水利の便よく、田畑よく拓け米を産す。大分・佐賀關間の國道と、南方戸次町方面への縣道との交又點に當りて發達し、省線日豊本線の鶴崎驛(大正三年設置)ありて地方的商業の中心をなし、大分市へはバスの往來繁く交通便利なり。今は大分市郊外の東縁をなせるも、舊藩時代は熊本藩に屬し、港町として繁榮せし都邑なりき。然るに大野川の沖積作用進行して町は次第に海より遠ざかり、且つ藩政廢止せらるると共に交通上の必要は減じ、その後は大分・佐賀關間の中間都市として、また大野川下流域農産物の中心都邑として

ツルサキ

鶴崎町

大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川河口近くの左岸に位し、北方は三佐村を隔てて別府灣に近く、大分市の東方約八軒にあり。東方は川を隔てて北海郡郡西部と對す。大野川三角洲の一部を占め、東境に大野川、西境には其分流乙津川北流し、水利の便よく、田畑よく拓け米を産す。大分・佐賀關間の國道と、南方戸次町方面への縣道との交又點に當りて發達し、省線日豊本線の鶴崎驛(大正三年設置)ありて地方的商業の中心をなし、大分市へはバスの往來繁く交通便利なり。今は大分市郊外の東縁をなせるも、舊藩時代は熊本藩に屬し、港町として繁榮せし都邑なりき。然るに大野川の沖積作用進行して町は次第に海より遠ざかり、且つ藩政廢止せらるると共に交通上の必要は減じ、その後は大分・佐賀關間の中間都市として、また大野川下流域農産物の中心都邑として

ツルサト

鶴里村

岐阜縣美濃國土岐郡の南部。妻木・笠原兩町の南隣。南は愛知縣西加茂郡の北部に接し、西は瀬戸市との間に東春日井郡品野村を隔つ。西南隅に三國山(七〇一米)あり、全村高度三百米内外の高原性山地多く、良質の陶土を産し陶業を主とする外、林業・耕作も多少行はる。一條の道路村内を東西

ツルキ

鶴來町

更生し、この地方の蕎麥の集散地となり製練工場もある大分市に餘りに近きため、大工場の出現を見ざる限りは、大都市への發展は不可能なるべし。町はまた大野川の鮎漁と鶴崎踊とによりてその名著はる。鶴崎踊は盆踊にして、別府及び大分よりの見物人のために臨時列車を發するほどの盛況を極め、踊子が思ひ思ひの假裝をなす華かなるものなり。江戸時代の儒者秋山儀右衛門(贈正五位)は此地の人とす。「劍八幡社」大字鶴崎に鎮座。郷社。祭神、譽田別命・比賣大神・大帯姫神。創建年代詳ならずも、領主細川氏歴代の崇敬厚かりし社なり。例祭、十月十五日。「法心寺」字國宗にあり。日蓮宗。靈龜山と號し京都本願寺末たり。慶長六年創建。開基は加藤清正の老臣加藤平左衛門、開山は常林院日榮上人なり。「龍興寺」三軒町にあり。臨濟宗。瑞雲山と號す。開基は地頭大友豐後守親繁、高嶽和尚を開山とす。もと海潮寺末なりしが、元祿四年花園妙心寺末となる。本尊に釋迦如來を安ず。



ツルシ—ツルマ

に貫き、惠那郡明知町・瀬戸市に通じ、北は妻木町を経て土岐津町へ、笠原町を過ぎて多治見町へバスの便あり。「白鳥神社」大字柿野に鎮座。郷社。祭神、倭健命。創建年次詳ならずも、美濃國神名記に土岐郡從五位下坂野明神と載せたものなりといふ。例祭、十月十日。

ツルシデン

鶴新田 岡山縣淺口郡にありし村。明治三十六年本村外三村を廢して連島村を置く。

ツルセ

鶴瀬

【鶴瀬村】埼玉縣武藏國入間郡の東南部。川越市の東南方約八軒にあり。面積七・二三方軒の小村なるも東半部には水田多く、其他は畑地よく拓け、米・麥・蕎麥等を産す。社線東武鐵道東上線は南西部を貫きて川越市に通じ、村内に鶴瀬驛（大正三年設置）を置き、東京・川越間の川越街道にも近く交通不便ならず。この地は和名抄、入間郡大家郷の内なるべく、いま鶴間・勝瀬の舊二村合併して鶴瀬村と名づく。

【鶴瀬村】山梨縣甲斐國東山梨郡の東南部。初鹿野村の西隣にて、笛吹川の支流日川上流に沿ひ、省線中央本線傍子隧道の西北口に近く、東南西は東八代郡日影村に圍繞され、面積二・八八方軒の小村なり。東北境を流る日川に沿ひ狭き平地あるのみ。養蠶を主生業として蠶を出し、外に麥類・野菜を産す。省線中央本線・甲州街道に沿ひ、前者の初鹿野驛に

近く、また西北勝沼町へは約五軒、バスの便あり。いま初鹿野村と共に組合村をなし役場を本村に置く。村内に關所跡・平石・鞍懸・血洗澤等あり。關所跡は日影村駒飼に渡る所にあり、享保九年創設、明治元年廢せらる。平石は村の西部舊道にあり、柏尾坂の戦の時に近藤勇の部隊が官軍に應戦せしところ。鞍懸は村の西端にあり、武田勝頼、岩殿山に據らんとし此處に至りし時、部下長坂大炊長閑、馬に鞍置き轡を促して遁走せしところ。血洗澤は長坂長閑遁走せしを土屋惣藏追尾して射殺し血を洗ひしところなりと。

ツルタ

鶴田

【鶴田村】青森縣奥陸奥北津輕郡の西南部。岩木川中流の右岸に沿ひて南北に狭長、五所川原町の南方約五軒。板柳町の北方約五軒。面積約一二方軒。津輕平野の中部にて土地平坦、殆ど水田をなし、米を主産し、北部及び南部の岩木川岸は林檎の産に富む。南方弘前市より小泊街道南北に通じ、十三道之より岐れ岩木川を越えて西隣津輕郡水元村に出で、また省線五能線は五所川原町より南下し村内に陸奥鶴田驛（大正七年設置）・陸奥龜田驛（昭和十年設置）を置き交通便なり。【鶴田】栃木縣河内郡妻川村の大字。日光線の鶴田驛（明治二十三年設置）あり、東武鐵道に接続す。【鶴田】大阪府泉北郡にありし村。昭和十年、北上神村と共に廢して福泉町を置

く。

【鶴田村】鹿児島縣薩摩國薩摩郡の北部。川内川中流を占め、宮之城町の東北に接し、北は出水郡大川内村及び伊佐郡羽月村に隣る。面積七・七方軒餘。紫尾山塊の東南部に當り全村三條の山股北境より南方に連り、北部は約五百米臺の高きを呈し、東西に二の谷を作る。川内川その東谷を流れ、後西南に曲折し、西谷を東南流する小支流を合せて宮之城町に出づ。村の南部の河川流域に耕地拓けて米・蕎麥を産し、林産・畜産・工業もあり。東南部には宮之城町と東北方大口町（伊佐郡）方面とを結ぶ縣道あり、バスの便あり。また省線宮之城線、南部を掠めて薩摩鶴田驛（昭和九年設置）を置く。古くは和名抄、高城郡志志郷に屬せしもの如し。村名鶴田は古くは水田田に作れり。村内に關白陣と呼ぶ臺地あり。天正十五年豊太閤太平寺陣よりの歸途ここに宿陣す。時に島津義弘飯野より來りて太閤に謁見せりといふ。また大谷四郎重茂の居城址あり。その裔鶴田氏を稱せしも、應永八年益谷及び相良の兵に攻められ敗つ。【紫尾神社】大字紫尾に鎮座。縣社。祭神、瓊瓊杵尊外二神。社傳に孝元天皇御宇の創祀なりといふ。古來領主・地頭の崇敬社として開え、近世社領三十石を有せり。例祭、九月二十九日。

ツルドマリ

鶴泊

五能線の一驛、大正七年設置。青森縣北津輕郡六郷村に

ツルノス

鶴巢村

宮城縣陸奥國黒川郡の東南部。吉岡町の東南約五軒。南は宮城郡利府村と界す。陸奥平野の西部に位し、村の南部は七北田丘陵に屬して四〇—五〇米の高度あるも北部は村の中部を北流する西川の合して東流する吉田川の流域にして水田多く米産を主とし、蕎麥を産し、南部丘陵地には林産あり。吉岡街道吉田川に沿ひて通じ、東は松島、西は吉岡町方面へバスの便あり。村内に黒川氏の故館、鶴巢城址あり。（玉泉寺）大字鳥屋にあり。臨濟宗妙心寺派。法寶山。佛統大圓國師の開山地たるも、その年代不詳。海岸和尙を中興の祖とす。【ツルノベ】鶴ノ邊 福島縣大沼郡にありし村。明治三十一年新田村と合併し新鶴村を置く。

ツルノユ

鶴湯

↓安平村（北海道）

ツルハギ

鶴脛

↓上山町（山形縣）

【ツルハギ】鶴橋 大阪府東成郡にありし町。大正十四年大阪市に入りて東成區を成す。いま區内東小橋南之町一丁目に城東線の鶴橋驛（昭和七年設置）あり社線大阪電軌に接続す。古くは鶴橋といへり。夕霧阿波鳴波（一年も鶴が橋のお歌婆へ、大きな鏡に目黒浴へてすゑられた）【ツルマイ】鶴舞町 千葉縣上總國市原郡の中部。養老川の上流にてその一支流に跨る。西北は牛久町に隣り、東は長生郡龜南町との間に内田村を隔つ。

面積一〇方軒餘。東北部と南部には丘陵地あるも、中部より西北部は低地長く緩き田畑よく拓く。米・麥・蕎麥を産し養鶏行はれ林産少からず。縣道は東部と北部に通じ何れもバスの便あり。鶴舞の乗落はこの道路の分岐點に發達す。また社線小湊鐵道は西北部を走り、大字池和田に鶴舞町驛（大正十四年開業）を置き、交通不便ならず。【鶴舞藩】明治元年遠江國濱松藩主井上正直此地に築城、鶴舞城と稱し六萬石を食み、のち鶴舞藩と稱す。同四年廢藩、一時鶴舞縣となりしが同年十一月廢して木更津縣に入る。藩校、克明館は明治元年藩主井上正直の創立せるもの、廢藩と共に閉づ。又、大字池和田に池和田城址あり、和田太郎正治の居城と傳ふ。大永年間は多賀氏居り、永祿七年北條氏康父子之を攻略す。正木時忠、大多喜城にありて之を窺ひ、のち屢々戦ふ。（光明寺）大字池和田にあり。天台宗。音信山と號す。永觀元年の創建、覺運法師開山の地、上總五箇寺の一にして九百年來の古刹なり。慶安二年徳川家光朱印十五石を寄す。（林祥寺）曹洞宗。平瀨山と號す。文明十三年の創建、開山は自山大和尙。天正三年池和田城主多賀彦七郎信繁を以て中興開基となす。慶安二年徳川家光朱印十石を寄す。

ツルマキ

鶴巻村

千葉縣下總國海上郡の中部。飯岡町の北隣にて、鏡子市の西界を距る約六軒。面積一二方軒に近

し。中部より東部にかけては丘陵性臺地にて森林・畑地あり。西部は九十九里濱沿岸平地の東端に當り田地・畑地多し。米・麥・蕎麥を産し養鶏行はる。縣道は村の中央を横斷し、省線總武本線これに沿ひ東走し、その飯岡驛（西隣磯崎村内）に近く交通不便ならず。大字見廣に島田三河守義弘の居城と傳ふる見廣城址あり。【鶴見川】横濱市東北部にて東京灣に注ぐ川。東京府南多摩郡忠生村の多摩丘陵中に發源し、東南に流れて神奈川縣都筑郡に入り新治村にて恩田川を合せ、横濱市の北境をなし、次いで神奈川區に入り綱島にて北より來る早濶川を容れ、鶴見區東部を南流し、生麥附近にて東京灣に注ぐ。中流附近には沖積平野を形成し、多摩丘陵を出づれば東北方を下する多摩川下流と共に大三角洲をつくる。下流地域は極めて低平にて埋積谷の地形を呈す。網島の如きは埋め残されし小丘阜の頭部なり。中流の沖積平野には水田よく發達し、下流三角洲の地域は鶴見工業地帯にて大小の工場分布し、川口附近の海面もまた次第に埋め立てられつつあり。

ツルミ

鶴見

【鶴見】神奈川縣橋本郡生見尾村の大字なりしが、大正十年生見尾村を鶴見町と改稱し、同十四年瀬田町と共に廢し鶴見町を設け、昭和二年横濱市に入りその一

部となりて鶴見區をなす。平坦部は横濱市の工場地帯をなし、丘陵部には曹洞宗の總持寺・花園園等あり。東海道本線の鶴見驛（明治五年設置）及び京濱電車・鶴見臨港鐵道の鶴見驛あり。元弘三年五月北條氏の將金澤貞時、新田義貞の軍なる千葉貞胤と此地に戦ひ、貞時敗北す。栗毛後駿足・初下ひやかしながら合せてゆくほどに、鶴見村にいたる、此所はよねまんぢうの名物にて、門並若き女、白あがりのひとへものにひぢりめん、紫玉子色ちりめん、おもひ／＼はなん／＼しき玉だすきをかけ、なかには顔とゆかたのみ白きもあり。

【鶴見臨港鐵道】社線。横濱市鶴見區より横濱灣岸に通ず。鶴見區鶴見町の省線東海道本線鶴見驛より川崎市扇町の扇町驛に至る七・〇軒を幹線とし、鶴見區小野町の辨天橋驛より同區末廣町一丁目の鶴見川口驛に至る一・二軒、同區安善町の安善通驛より同町の石油驛に至る一・〇軒、末廣町の淺野驛より同町二丁目の新芝浦驛に至る〇・九軒、川崎市白石町の武藏白石驛より同市大川町の大川驛に至る〇・八軒の支線あり。軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸。【鶴見】神奈川縣高座郡にありし村。明治二十四年大和村と改む。【鶴見岳】遠見火山群の一峯。大分縣別府市の西境に聳え標高一三七五米。基底は凝灰岩・浮石層・火山礫岩及び之等に伴

ツルヤマ

鶴山

岡山縣備前國和氣郡の西南隅。和氣町の南方約九軒。北は香登町、東南の三方は邑久郡に接す。面積五・四方軒の小村。吉井川下流沖積平野上に位置し、東部より中部に低き丘陵あるも、其



ツルヤ—ツワノ

他は平田肥沃にして耕地大に拓け米・麥・

【鶴山】岡山縣備前國邑久郡の東北部。

北西部は高さ二百米臺の丘陵性山地ある

も、中部東西は低平にして耕地よく拓け

【西善寺】大字鶴海にあり。真宗本願寺派。

大字に常名あり。貞享中の土浦城記に、

大字に常名あり。貞享中の土浦城記に、

交通不便ならず。往時は大内郡入野郷

に屬せしもの如きも、のち獨立村を成

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

常名城主菅谷正六とあるはこか。

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

【津和野】長野市の西南約二〇軒を隔て

頼に至る九代二百餘年間愛に居す。關原

役後坂崎直盛安に封ぜられしが元和二年

除封。同三年龜井政矩因幡の鹿野より安

承け明治維新に至る。明治四年一般廢藩

に先立ち藩主鼓屋上表し藩知事を辭す。

よつて藩を廢して濱田縣に合す。「養老

館」津和野藩の藩館。天明六年龜井直賢

の創設。初め儒學を主とせしが、後には

國學・兵學・醫學・數學をも教授す。館

内別に書々舎を設けて中士の嫡子十五歳

に達せるものに文武を修せしむ。「彌樂

神社」大字後田にあり。郷社。祭神、須

佐之男命・天之德日命、外八神。創建年

次不詳。もと瀧本祇園社と稱して同村字

大鼓谷の山上に鎮座せしを、正長中領主

吉見三河守弘信現地に遷座す。爾來代々

領主の崇敬厚かりき。例祭七月二十日。

テ

テ 手島 ↓廣島村(香川縣仲多度郡)

テ 弟騨 備中國(岡山縣)の古地名。

テ 出町 富山縣越中國東礪波郡の北

部。礪波平野の中央に位し、高岡市の西

南方約一三軒。北及び西は西礪波郡の東

北部に接す。面積約六方軒餘。土地平坦

肥沃、灌漑網の發達により美田拓け、米

の産多し。中級織布會社工場を始め、織

物業盛にして綿織物・麻織物の産額多く

また乾燥機の産額少からず。その他園藝

も行はれ、地方的商工業の中心地なり。

省線中級線貫通して出町驛(明治三十年

設置)あり。縣道また四通し北は高岡市、

南は井波町、西は津幡町、西北は石動

テ 出町 富山縣越中國東礪波郡の北

部。礪波平野の中央に位し、高岡市の西

南方約一三軒。北及び西は西礪波郡の東

北部に接す。面積約六方軒餘。土地平坦

肥沃、灌漑網の發達により美田拓け、米

の産多し。中級織布會社工場を始め、織

物業盛にして綿織物・麻織物の産額多く

また乾燥機の産額少からず。その他園藝

も行はれ、地方的商工業の中心地なり。

省線中級線貫通して出町驛(明治三十年

設置)あり。縣道また四通し北は高岡市、

南は井波町、西は津幡町、西北は石動

町へいづれもバスの往來あり、交通上の

一中心地をなす。町内に大藏省預金部資

金局大阪支局出張所・出町稅務署・出町區

テ 出町 富山縣越中國東礪波郡の北

部。礪波平野の中央に位し、高岡市の西

南方約一三軒。北及び西は西礪波郡の東

北部に接す。面積約六方軒餘。土地平坦

肥沃、灌漑網の發達により美田拓け、米

の産多し。中級織布會社工場を始め、織

物業盛にして綿織物・麻織物の産額多く

また乾燥機の産額少からず。その他園藝

も行はれ、地方的商工業の中心地なり。

省線中級線貫通して出町驛(明治三十年

設置)あり。縣道また四通し北は高岡市、

南は井波町、西は津幡町、西北は石動

町へいづれもバスの往來あり、交通上の

一中心地をなす。町内に大藏省預金部資

金局大阪支局出張所・出町稅務署・出町區

テ 出町 富山縣越中國東礪波郡の北

部。礪波平野の中央に位し、高岡市の西

南方約一三軒。北及び西は西礪波郡の東

北部に接す。面積約六方軒餘。土地平坦

肥沃、灌漑網の發達により美田拓け、米

の産多し。中級織布會社工場を始め、織

物業盛にして綿織物・麻織物の産額多く

また乾燥機の産額少からず。その他園藝

も行はれ、地方的商工業の中心地なり。

省線中級線貫通して出町驛(明治三十年

設置)あり。縣道また四通し北は高岡市、

南は井波町、西は津幡町、西北は石動

町へいづれもバスの往來あり、交通上の

一中心地をなす。町内に大藏省預金部資

金局大阪支局出張所・出町稅務署・出町區

テ—テ—サ











丸松諸驛を経て遠別驛に終り近時交通の便開け、開墾促進せられ、物産に木材・馬鈴薯・大豆・燕麥・糠・鮭・昆布等あり。

【天鹽町】北海道天鹽國天鹽郡の中部。留別支廳管下に屬し、南は遠別村に、北は天鹽川下流によりて幌延村に隣り、東は上川支廳管下の中川村に界す。面積三五六方呎。中部は天鹽山脈北端部に當る高さ百米臺の丘陵地南北に連るも、東部と西部は蛇行曲流を續けつゝ町の北境を限り、西方海岸の砂丘に沮まれてまた南折し日本海に注ぐ天鹽川下流の低平地に屬す。天鹽線西部の平地を南北に走り天鹽・北川口・振老の三驛(昭和十年設置)及び更岸驛(昭和十一年設置)を置き、幌延驛に於て宗谷本線に連り、道路またこれに並行し、別に中部丘陵を横断するものもありていづれもバスの便あり。米・馬鈴薯・大豆・燕麥・木材・鮭・鱈・鰻等を産す。此地は開拓以來、河津に海上に水運の便あるを以て夙に發達すべき地なりしも、此附近が鮭・鱈・鰻等もある大漁業なく、而して水産物販路規則の曳網距離の制限あり、また道廳拓殖の方針が石狩平野を先にするより、その發達他より遲る。

【天鹽平野】北海道天鹽國の北部、天鹽川下流の平野をいふ。天鹽川は上川支廳中川村附近に至りて東の北見山脈、西の天鹽山脈間の狹隘部を離るゝや急に蛇曲流をはじめ西北に向ひ、北より來るオンネベツ・サロベツ二川と合し、更に南折し天鹽町に至りて日本海に注ぐ。この下流々域は低平なる沖積平野にして面積一・三萬ヘクタールに及び、大部分はサロベツ原野と稱せられ、未墾の農業適地をなす。近時省線天鹽線開通して宗谷本線に連絡し、沿線は次第に開墾され馬鈴薯・大豆・燕麥等の産を増加せり。

【天鹽川】北海道第二位の大河にして、我國屈指の長流。天鹽岳の西南腹に源を發し北見・天鹽兩山脈の間を西北流し天鹽町にて日本海に注ぐ。延長三〇三呎。支流は上流に於て釧路川・名寄川下流に於てアベシナイ川・開塞別川・サラベツ川等あるも概して著しきものに乏しく、從つて流域は狭長を免れざるも河口附近に廣大なる天鹽平野展開す。譽平・音威子府間の約一五呎は狹隘をなし兩岸山脚相迫るも、再び膨大して美深・名寄・士別等の諸平野となる。上流の約六〇呎は奔瀾激流にして、河口より約一八〇呎の上流にある名寄町附近の海拔も九九米に過ぎず。狹隘部を除けば岩石の露出箇所も稀にして舟楫の便頗る大なり。往古に於ては天鹽沿岸と内陸とを結ぶ唯一無二の交通路たりしも、現今は本流に沿うて宗谷・天鹽の兩鐵道線が走り、僅に木材の流送に供せらるるに過ぎず。流域面積三五四方呎。

北は宗谷岬に起り南は石狩平野に没す。延長二五〇呎。山脈は主として中生層と之を不整合に被覆する古第三紀層より成る從順形の山地にて、南部には譽寒別火山群峰巒し、譽寒別岳(一四二九米)・群別山(一三七六米)・濱登嶽(二二五八米)等聳立し、中部にはピツシリ山(一〇三二米)等あるも、概して八〇〇米以上の山峯を缺き、山頂には平夷面の保存が極めて良好にして、その點にては北見山脈とよく類似す。勿論、モナドノツクの小突起は各所に見らる。北部にては侵蝕平夷面が海拔約三〇〇米、海蝕段面が二〇〇米に及びて識別困難なり。山地の東縁は斷層崖を以て中央陷落地帯に臨み、そこを北流する天鹽川は先行性と思はる峽谷を以てこの山地を貫き、日本海に注ぐ。山地の西側には連続的に海成段丘が發達し、その最高は實に七五〇米に及ぶ。山地は根松等の森林帯をなして木材を供給すること多く、古第三紀層には有望なる石炭層を埋藏し、宗谷炭田・苦前炭田・羽幌炭田・留萌炭田等著名にして含炭地層を被覆して海岸地方に分布する新第三紀層は石油を含み、最北端の聲間には村井鐵業會社の採油所あり。

【天鹽岳】北海道北見山脈の最高峯。網走支廳紋別郡瀬上村と上川支廳上川郡上士別村との境上に聳え立つ。南方は上川支廳上川郡愛別村に延ぶ。標高一五五八米。西麓より天鹽川、東麓より清川川、

南斜面より石狩川の一支出内川源流す。西方は士別御料地をなす。

【天鹽線】省線宗谷線の一。天鹽國天鹽郡にあり。幌延村の宗谷本線幌延驛より遠別村の遠別驛に至る三七・八呎。この線は將來海岸に沿うて南下し羽幌驛に接続すべきもの。

【テシカガ 弟子屈村】北海道釧路國支廳釧路國川上郡の北部。阿寒國立公園の東部屈斜路・摩周兩湖沿岸とその南部を占め、南は標茶村に接し、北は北見國斜里・網走二郡に界す。面積七七八方呎餘。山岳地帯に屬し、西北部に屈斜路火山群を包含し四周藻山・サマツカリヌアリ岳・ニタトルシケ山等の環壁に圍まる。また東部に海拔三五一米の火口湖摩周湖あり。湖畔絶壁をなし風光の美を以て知らる。屈斜路湖より發したる釧路川東南流し流域に河谷低地を開く。省線釧路線通じ南弟子屈・弟子屈・美留和・川湯の四驛(前二者は昭和四年、後二者は同五年設置)あり。温泉の湧出多く、硫黄を産し、木材も出す。夕染の瀧(高さ一五米巾三米)・釣瀧の瀧(高さ一五米巾二米)北海道拓殖實習場・帝室林野局旭支局出張所等あり。弟子屈温泉・川湯温泉附近は昭和十三年五月廿九日の大地震により道路崩壊し隨所に温泉湧出し、一時は交通絶せり。(弟子屈温泉)釧路川と遠別川との合流點にあり。泉質炭酸鹽

【仁伏温泉】屈斜路湖の東北岸に位置す。【鏡別温泉】弟子屈温泉を距る西南約七百米。鏡別川邊にあり。明治三十一年より浴場を開く。泉質アルカリ泉。

【川湯温泉】屈斜路湖の東北岸にある仁伏温泉の東方約三呎、硫黄山の北麓にあり。酸性泉。【和琴温泉】屈斜路湖南岸の湖中に突出せる和琴半島の頸部に湧出する露天風呂。浴槽は自然の岩盤を掘りしもの。

りて坂を、兵を率ゐて京都に攻上りしかば醍醐天皇は、叡山に行幸したまふ。既にして鎮守府將軍源頼家は命を奉じて奥州の新手を率ゐ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、頼家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが勝敗決せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、賊軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走る。

交通の要路を離れたる孤島なるため中世の記録全くなし。然し應神天皇御巡狩の際、本村唐櫃ノ瀧(御船を寄せられ、住民その御徳を慕ひ奉りてその瀧を王子ノ瀧といひ、同地に神社を創建して天皇を祀り。いま大宇家浦に鎮座する郷社八幡神社(例祭十月十五日)これなり。中世以降は幕領となりて貢米の制なく、たゞ事あるに方り船泊水主を出すを例とせしが、慶長十年に至り始めて貢米の制を施さる。明治二十二年町村制施行の際、家浦村・唐櫃村・甲生村を合して豊島村と稱す。

仲再建せしも、漸次衰頹、近時漸く復興せるに至る。例祭、六月一日。(安田春日神社) 大宇北安田に鎮座。郷社。祭神、武甕槌命・齋主神外二神。もと安田保大明神と稱せしが、醍醐天皇延長年間加賀國主たりし藤原某、大和奈良の春日明神を勧請し安田春日神社と稱す。例祭四月七日。(行善寺) 大宇北安田にあり。日蓮宗。日像の弟子妙林尼、一草庵を結びて日像より與へられし日蓮自作祖師像を安置せしに始まり、應永二十五年日海中興して現寺號を稱す。

テシカワラ 勅使河原

【豊島(郡)】攝津國(大阪府)の古郡名。織日本紀稱徳天皇神護景雲三年紀に郡名初めて見ゆ。和名抄は手島と註し秦上・秦下・豊島・桑津・大明の五郷及び驛家餘戸各一を置く。後世、桑津郷を河邊郡に割く。明治二十九年能勢郡と合して豊能郡を建つ。

【豊島村】香川縣讚岐國小豆郡の一部。小豆島の西に位する豊島一島を占む。面積約一五方呎。東に近き小豊島を隔てて小豆島西部の土庄町に對し、西に香川郡直島村の井島を望む。西南部は花崗石、東北部は第三紀層より成り、中央部に安山岩よりなる横山(三四〇米)聳え四方に傾斜す。概ね傾斜地なるも南岸・西北岸及び東北岸に小低地ありて農業行はれ、麥・甘藷等を産し、沿海は漁業盛にして鯛・鮭の漁利あり。また豊島石の産名高し。村内の神子ヶ瀧は彦波瀲武鸕鷀草薙不合尊の御聖蹟地にして、其御母君の豊玉姫尊は古く村内に齋祀せらる。豊玉神社これなり。村名及び島名豊島は蓋し之に因めるものといふ。かくて三千年の昔に於て既に開けたることは證すべくも、

【鐵山】大峯山脈の一峯。奈良縣吉野郡天川村に峙つ。標高一五六九米。南麓は彌山に連る。この山と北西方に繋ゆる戸笠山との中間を川迫川の一支出が連綿せる瀧となりて奔流す。その瀧のため谷白く見ゆるに因り、この溪谷を白子谷と呼ぶ。

テシカ

【豊島河原】大阪府豊能郡南豊島村の邊より兵庫縣河邊郡園田村に亙る猪名川沿岸の古戰場。延元元年足利尊氏鎌倉にあ

【鐵山】朝鮮咸鏡南道安邊郡衛益面と江原道淮陽郡下北面とに跨る嶺。大白山脈の北部に位し、風流山(一〇二四米)東麓の一鞍部にして、最高點六八五米。南流する北漢江上支と、北流して日本海に注ぐ安邊南大川との分水界をなす。京城・元山間の一等道路こゝを通じ、北麓の總督府鐵道京元線高山驛に發するバスは此嶺を踰えて東南方淮陽邑へ至る。南麓に鐵嶺山あり。※下北面(江原道)

【鐵山】朝鮮咸鏡南道安邊郡衛益面と江原道淮陽郡下北面とに跨る嶺。大白山脈の北部に位し、風流山(一〇二四米)東麓の一鞍部にして、最高點六八五米。南流する北漢江上支と、北流して日本海に注ぐ安邊南大川との分水界をなす。京城・元山間の一等道路こゝを通じ、北麓の總督府鐵道京元線高山驛に發するバスは此嶺を踰えて東南方淮陽邑へ至る。南麓に鐵嶺山あり。※下北面(江原道)



テツオ——テツサ

テツオ 鐵釜山 朝鮮平安南道孟山郡智德面・東面と咸鏡南道永興郡横川面とに跨る山。北大峰山脈中の一峰にして標高一〇九五米に過ぎざるも、山勢秀拔、古來孟山邑(西方六軒)の鎮山として聞ゆ。平安南道・咸鏡南道の分水界をなし、北麓を文倉江、南麓を東面江流れ、兩江は山の北西麓に合して馬灘江となり次で大同江に注ぎ、また東斜面の水は龍興江となりて日本海に朝す。

テツカイ 鐵楞山 神戸市須磨區の西部、明石郡垂水町との境上にあり。標高約三〇〇米。鐵楞峯ともいふ。花崗岩より成る。この山の北方は鴨越にして南麓は一ノ谷なり。いづれも源平の古戰場として名高し。山腹に須磨より垂水に至る山道通じ、道側に扇ヶ松あり。ひらがな盛衰記・五ノ搦手の大將義經、平家の本陣、須磨の城を攻めんと有つて、鐵楞が嶺、鴨越、一ノ谷の逆落し、手ばしなき謀知らせ申す。

テツゲン 鐵原 朝鮮江原道の鐵原及び平康の兩郡に跨る熔岩臺地。表裏兩朝鮮を連絡する唯一の通谷にして、鐵道京元線は此通谷に沿ひ敷設せるものにして此通谷は一大構造線をなし、世に謂はゆる竹窟嶺地溝帯と稱するものにして、鐵原高原はこの構造線に沿ひ流動性に富む黒色玄武岩の噴出流動により覆はれ、真高三〇〇米内外の熔岩大平原を形成せるものなり。

のなり。鐵原の名は實に黒き玄武岩塊の累累たる平原の意より命名す。高原地帯は四面花崗岩山地に圍まれし中に展開せる一大熔岩平原にして、南は京畿、江原兩道の界より、北は平康郡高擲面洗浦に至る四〇軒、幅は平康邑中心地帯最も大にして約二〇軒、鐵原中心地帯これに次ぎ北の洗浦中心地帯最も小にして全面積實に約六五〇〇ヘクタールに達す。全面平にて僅かに西に傾き西縁には無数の湖沼横はり、濕原をなし蘆荻叢生す。平原面を流るる幾多の溪流は西南端に流路を求めて臨津江となり、一は東南隅に流路を求め熔岩臺地を深く切つて幼年期の侵蝕峽谷を造り漢灘川をなし、のち臨津江に合す。高原は一帶に草原をなし久しく放棄されしが、最近土地改良及び水利事業盛となり内地農民の移住する者少なからず。耕地としてまた牧野として利用さるゝに至る。

【鐵原郡】朝鮮江原道二十一郡の一。道の西北部に位置し、北は平康・伊川の兩郡に、東は金化郡に、西南及び南は京畿道に接す。面積八四一方軒餘。海拔二〇〇—五〇〇米の玄武岩より成る熔岩臺地にて、竹窟嶺地溝帯中にオーグアフロイせるもの。高原上には曉星山(五九六米)を始め高臺山(八三二米)・金鶴山(九四七米)・高岩山・寶蓋山(八七七米)等々、高く聳ゆ。平原の最大なるは仙昌野、大也澤坪にて、耕地面積は道中の首位にある。

【鐵山面】朝鮮平安北道鐵山郡の東部。北境に雲暗山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え滄浦川の灌漑ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・粟・麻・煙草等あり。鐵山邑(中部洞)は面の西端に位し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車籠館驛(驛面)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登串洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲暗山は幽奇を以て聞え、附近に石蜂薬水・雲暗山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

テツサ——テニア

テツタ 哲多(郡)

【鐵原郡】朝鮮江原道二十一郡の一。道の西北部に位置し、北は平康・伊川の兩郡に、東は金化郡に、西南及び南は京畿道に接す。面積八四一方軒餘。海拔二〇〇—五〇〇米の玄武岩より成る熔岩臺地にて、竹窟嶺地溝帯中にオーグアフロイせるもの。高原上には曉星山(五九六米)を始め高臺山(八三二米)・金鶴山(九四七米)・高岩山・寶蓋山(八七七米)等々、高く聳ゆ。平原の最大なるは仙昌野、大也澤坪にて、耕地面積は道中の首位にある。

【鐵山面】朝鮮平安北道鐵山郡の東部。北境に雲暗山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え滄浦川の灌漑ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・粟・麻・煙草等あり。鐵山邑(中部洞)は面の西端に位し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車籠館驛(驛面)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登串洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲暗山は幽奇を以て聞え、附近に石蜂薬水・雲暗山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

テツチン 鐵砧山

【鐵原郡】朝鮮江原道二十一郡の一。道の西北部に位置し、北は平康・伊川の兩郡に、東は金化郡に、西南及び南は京畿道に接す。面積八四一方軒餘。海拔二〇〇—五〇〇米の玄武岩より成る熔岩臺地にて、竹窟嶺地溝帯中にオーグアフロイせるもの。高原上には曉星山(五九六米)を始め高臺山(八三二米)・金鶴山(九四七米)・高岩山・寶蓋山(八七七米)等々、高く聳ゆ。平原の最大なるは仙昌野、大也澤坪にて、耕地面積は道中の首位にある。

【鐵山面】朝鮮平安北道鐵山郡の東部。北境に雲暗山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え滄浦川の灌漑ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・粟・麻・煙草等あり。鐵山邑(中部洞)は面の西端に位し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車籠館驛(驛面)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登串洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲暗山は幽奇を以て聞え、附近に石蜂薬水・雲暗山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

テツボーズ 鐵砲洲

【鐵原郡】朝鮮江原道二十一郡の一。道の西北部に位置し、北は平康・伊川の兩郡に、東は金化郡に、西南及び南は京畿道に接す。面積八四一方軒餘。海拔二〇〇—五〇〇米の玄武岩より成る熔岩臺地にて、竹窟嶺地溝帯中にオーグアフロイせるもの。高原上には曉星山(五九六米)を始め高臺山(八三二米)・金鶴山(九四七米)・高岩山・寶蓋山(八七七米)等々、高く聳ゆ。平原の最大なるは仙昌野、大也澤坪にて、耕地面積は道中の首位にある。

【鐵山面】朝鮮平安北道鐵山郡の東部。北境に雲暗山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え滄浦川の灌漑ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・粟・麻・煙草等あり。鐵山邑(中部洞)は面の西端に位し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車籠館驛(驛面)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登串洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲暗山は幽奇を以て聞え、附近に石蜂薬水・雲暗山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。

【鐵山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。咸鏡南道の北部にあり。咸鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て遮湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礦石は遮湖驛に送り遮湖港より内地に船載す。



テノ——テミヤ

場ありてサイパン島の千二百英噸を遙に凌駕し常に南洋第一位を占むるの盛況なり。これに次いで澱粉工業、酒精製造、製氷業等また見るべきものあり。産業の發達は自ら目撃しき人口の増加を來し、大正十四年に於けるサイパン支廳全體の人口三五八七人なるに對し、昭和四年、即ち製糖工業の興りし翌年には本島のみにて一躍四〇七一人となり、同七年にはテニアン町設置せられ、同八年には八九九四人、同十二年には一五一二人、即ち四年毎に殆んど二倍或はそれ以上の人口増加を示せしことは、如何に産業の發展が目撃しきものなりしかを容易に知るを得。いま島内に小學校、巡査駐在所、支廳出張所、郵便局等あり。

テノ 手野

【手野村】 熊本縣肥後國天草郡下島の北部。本渡町の西北約四・五軒。北は二江川を距て、天草灘あり。西境に二百米、東境に百米内外の丘陵性山地連立し、中部を二江川北に流れ、沿岸にや、廣き低地ありて耕地開け土地肥沃、氣候溫和にして農耕に適し米・麥・甘藷を産し、特産に松茸・鵜卵・蒲葎・木材あり。中部二江川に沿ひ縣道走り本渡町にバス通ず。明治維新前、手野村は井手・下内野の二村に分れ、附近四村と共に井手組と稱し井手村に大庄屋を置かる。明治二十三年町村制施行の際、井手・下内野の二村を合し各その一字を取りて手野村と稱す。

【手野】 ↓古城村(熊本縣阿蘇郡) 川村の大字。米坂線の手ノ子驛(昭和六年設置)あり。

テノシヨ

【手野】 ↓古城村(熊本縣阿蘇郡) 川村の大字。米坂線の手ノ子驛(昭和六年設置)あり。

【手野】 ↓古城村(熊本縣阿蘇郡) 川村の大字。米坂線の手ノ子驛(昭和六年設置)あり。

の謬なるべし。和名抄には會見郡天萬郷と見ゆ。いま西伯郡に手間村あり、古名の遺れるものにして其地城は本村及び天津村の邊ならんか。古事記神代卷に天間山とあるは、此邊の山なるべし。

テマ 呈妹

和名抄に下道郡呈妹郷見ゆ。刻本は吳妹に作りクレセと訓ずるも、高山寺本には呈妹に作り氏末と註するによりこれに従ふ。後世また呈妹郷ともいふ。いま川上郡の玉川村の大字に玉あり、玉は即ち呈妹の轉訛ならんといふ。さすれば郷城は玉川村の外、成羽町・落合村の各一部に互る地をいひしものならん。

テマル 出丸村

熊本縣武藏國比企郡の東南隅。川越市の東北約四軒餘にあり。東は荒川によりて北足立郡川田谷村・大石村・平方町に界す、面積約七・二方軒。東境の荒川、南境の入間川に挟まれたる地域に當り、全村平坦にして畑地多く、西部には水田あり。麥を主産し他に米・藪を産す。この地は和名抄、比企郡渭後郷の内。

テミヤ 手宮

【手宮】 北海道小樽市の町。手宮線の一驛手宮(明治十三年設置)を置く。驛の北方約一軒に手宮公園あり。園内の手宮洞窟は異様の文字あるを以て著明なり。

【手宮線】 省線函館線の一。小樽市永井町の函館本線南小樽驛より同市手宮町の手宮驛に至る二・八軒。明治十三年北海

【手野】 ↓古城村(熊本縣阿蘇郡) 川村の大字。米坂線の手ノ子驛(昭和六年設置)あり。

テハラ 手原

滋賀縣栗太郡栗山村の大字。草津線の手原驛(大正十一年設置)を置く。

テマ 手間・手万・天萬

【手間村】 鳥取縣伯耆國西伯郡の西部。米子市の東南約六軒、東北は五千石村に隣接す、面積六・五方軒餘。西南境と東部に高度二百米程度の丘陵地ある外は日野川下流々城の平野にて概ね肥沃なる平地をなす。水田よく拓け農産に米・藪、畜産に牛馬、工業に生絲及び足袋・假綿等の産あり。社線伯陽電鐵中部と南西に通じ大字天萬に手間驛(大正十三年開業)を設け交通不便ならず。この地は和名抄會見郡天萬郷の内か。「賀茂神社」大字宮前に鎮座。郷社。祭神、阿遲祖高彥根命・別雷命。創建年代詳ならざるも、貞觀十三年の棟札を載せるを以て其古社たるを知るべし。古來、舊星川の庄十一ヶ村の總社にして賀茂大明神と稱せり。例祭、十月九日。「大安寺」大字天萬にあり。曹洞宗。壺岳山と號す。永祿の頃尾高城主相原盛重の開基に係り、本尊は觀世音。境内に大五輪塔あり。俗に大將家と稱し一梵字を刻す。開基盛重の供養塔ならんといふ。

【手間・天万・天萬】 伯耆國(鳥取縣)の古地名。出雲風土記意字郡の條に手間と見ゆるは、此地より出雲國意字郡に越ゆる處にありし刻なるべく、三代實錄元慶九年に伯耆國天乃神と見ゆるも天乃神

り、安政五年、始めて此地に九谷燒を製作したる齋田伊三郎を祀る。例祭、九月二十四日。「即徳寺」大字寺井にあり。眞宗大谷派。寛永九年祐乘法師の開創に係る。寶曆九年春、三道の山奥深く年古りたる白狐棲めり。本寺住職の恩徳に報いんとて國綱作の短刀を寄す。今に什寶として藏す。

テラウチ 寺内

【寺内町】 秋田縣羽後國南秋田郡の南西部。秋田市と土崎港町との間に介在し、西は雄物川を隔て河邊郡新屋町に對す。面積約八方軒。雄物川に沿ふ西部は高清水丘陵をなし、東部及び北部は平坦にして水田拓け米を産す。高清水丘陵には旭川油田あり。各油井よりは送油鐵管によりて土崎港町の製油所へ輸送さる。羽州街道は東南より西北に通じ、秋田市・土崎町間のバスの便あり。また町の東部には此兩都市を繋ぐ電車通じ交通便なり。

テライ 寺井

【寺井】 ↓強戸村(群馬縣新田郡) 賀國能美郡の西北部。小松町の東北方約四軒。面積約八・五方軒。全村概ね土地平坦にて東部に少しく傾斜地あると北部に小丘あるのみ。水田廣く拓けて米の産最も多く、藪も多少産す。また絹織物・九谷燒の製造行はる。東部に湯ノ谷温泉あり。省線北陸本線寺井驛(根上町内)に起る社線能美電鐵は町を東に貫き、寺井西口・本寺井・末信牛島・加賀佐野・湯ノ谷石子の五驛(大正十四年開業)及び自動車連絡線(昭和十年開業)を置く。北陸道は西北部を掠め、小松・松任兩町へバスの便あり。古くは和名抄、能美郡山下郷に屬す。明治四十年長野・寺井・湯野三村を合して寺井野村とし、大正十五年町制を布く。「狭野神社」大字佐野に鎮座。祭神、素戔鳴尊。延喜式に能美郡狹野神社と記載せらる。能美誌に神龜二年の勳請にかゝり、嘉祥三年正六位上を授けらるゝと傳ふ。境内に祖靈社あり。

テライノ 寺井野町

【寺井野町】 石川縣加賀國能美郡の西北部。小松町の東北方約四軒。面積約八・五方軒。全村概ね土地平坦にて東部に少しく傾斜地あると北部に小丘あるのみ。水田廣く拓けて米の産最も多く、藪も多少産す。また絹織物・九谷燒の製造行はる。東部に湯ノ谷温泉あり。省線北陸本線寺井驛(根上町内)に起る社線能美電鐵は町を東に貫き、寺井西口・本寺井・末信牛島・加賀佐野・湯ノ谷石子の五驛(大正十四年開業)及び自動車連絡線(昭和十年開業)を置く。北陸道は西北部を掠め、小松・松任兩町へバスの便あり。古くは和名抄、能美郡山下郷に屬す。明治四十年長野・寺井・湯野三村を合して寺井野村とし、大正十五年町制を布く。「狭野神社」大字佐野に鎮座。祭神、素戔鳴尊。延喜式に能美郡狹野神社と記載せらる。能美誌に神龜二年の勳請にかゝり、嘉祥三年正六位上を授けらるゝと傳ふ。境内に祖靈社あり。

テラ 寺島

長崎縣西彼杵郡の西北部にある島。本土とは呼子ノ瀬戸を以て隔

テテラウ

てて西に大島浮ぶ。南に狭長にして周回約七・二軒。いま大島村の屬島とす。

テテラウ

てて西に大島浮ぶ。南に狭長にして周回約七・二軒。いま大島村の屬島とす。

の謬なるべし。和名抄には會見郡天萬郷と見ゆ。いま西伯郡に手間村あり、古名の遺れるものにして其地城は本村及び天津村の邊ならんか。古事記神代卷に天間山とあるは、此邊の山なるべし。

テマ 呈妹

和名抄に下道郡呈妹郷見ゆ。刻本は吳妹に作りクレセと訓ずるも、高山寺本には呈妹に作り氏末と註するによりこれに従ふ。後世また呈妹郷ともいふ。いま川上郡の玉川村の大字に玉あり、玉は即ち呈妹の轉訛ならんといふ。さすれば郷城は玉川村の外、成羽町・落合村の各一部に互る地をいひしものならん。

テマル 出丸村

熊本縣武藏國比企郡の東南隅。川越市の東北約四軒餘にあり。東は荒川によりて北足立郡川田谷村・大石村・平方町に界す、面積約七・二方軒。東境の荒川、南境の入間川に挟まれたる地域に當り、全村平坦にして畑地多く、西部には水田あり。麥を主産し他に米・藪を産す。この地は和名抄、比企郡渭後郷の内。

テミヤ 手宮

【手宮】 北海道小樽市の町。手宮線の一驛手宮(明治十三年設置)を置く。驛の北方約一軒に手宮公園あり。園内の手宮洞窟は異様の文字あるを以て著明なり。

【手宮線】 省線函館線の一。小樽市永井町の函館本線南小樽驛より同市手宮町の手宮驛に至る二・八軒。明治十三年北海



テラウ——テラシ

に芭蕉翁・五明の句碑あり。「全良寺」大字八橋にあり。臨濟宗妙心寺派。大智山。承應三年、澁江宇衛門隆光の草創にして、新洲祖嶺を閉山とす。舊寺領五十石。戊辰役に際し官軍墳墓の地となり、明治九年、東北巡幸の勅使御差遣あり、爾來官修墳墓の地と稱せらる。

テラオ 寺尾

【寺尾村】栃木縣下野國下都賀郡の西北隅。栃木市の西北方約七軒にあり。北は上都賀郡の粕尾村、西は安蘇郡葛生町、常盤村に隣る。面積三六方軒餘。尾尾山塊東南部の一支脈の東谷永野川中流の谷地を占む。西境には三峰山(六〇五米)、東境には矢倉山(五九九米)の山地連りて共に東南に低下す。山地は森林多く川沿ひの狭き平地は耕地をなす。米・蕎麥を産し、又石炭の産地として有名なり。縣道は川沿ひに走りて栃木市に通じバス便あり。古くは和名抄、都賀郡秀文郷(委文郷の誤ならん)の内に屬せしもの、如し。大字田流に石灰洞あり、千手院の境内にして俗に出流山奥院靈窟といふ。洞窟は觀音堂の背後西約三〇〇米の間に開口し、東にあるを大師の窟または獅子ノ窟といひ、次を奥院ノ窟、西なるを大日ノ窟と稱す。「満願寺」大字出流にあり。新義真言宗智山派。出流山千手院。

文武天皇朝、役小角遊化して當山の靈窟に觀法し、行基菩薩また來りて此處に修練す。天平年中勝道上人來り始めて本寺を開創す。弘仁十一年弘法大師此處に留錫し、本尊千手觀音を刻みて安置す。本寺は日光山との關係深きを以て徳川氏に優遇され、朱印五十石を附し、守護使不入の地として十萬石の格式を與へ、且つ司法行政の執行權を與へらる。寺地は出流山腹にありて、坂東三十三箇所第十七番の札所。景勝を以て名高し。境内の大御堂は坂東札所第七番たり。詠歌「ふるさとをはる／＼こゝに立出る。我行末はいづこなるらむ」

【寺尾】新潟縣西蒲原郡坂井輪村の大字。越後線の寺尾驛(大正元年設置)あり。

【寺尾】山梨縣東八代郡にありし村。明治三十六年本村ほか四村を廢し境川村を置く。

【寺尾村】長野縣信濃國埴科郡の北部。千曲川右岸に沿ひ、松代町に北隣す。東は上高井郡に、北及び西は川を隔て、更級郡に對す。面積一〇方軒餘。東南隅に奇妙山(一一〇〇米)ありて山側西北に傾斜し、概ね山地をなし平地は北部と西部の河岸に開く。養蠶を主とし、生絲を産し、米作また行はる。村の北部に温泉湧出す。社線長野電鐵は山麓に沿ひて村を貫通し、大字柴に金井山驛(大正十一年開業)を設く。縣道また中部を斜に走りて南は松代町、東北は須坂町(上高井郡)

【寺田村】富山縣越中中新川郡の西北部。五百石町の北に接し富山市の東方約八軒。面積四・六方軒に過ぎず。富山平野の東部に白岩川の支流これを測し土地平坦、灌漑の便よく水田多し。米作を主とす。社線富山電鐵の寺田驛(昭和六年設置)ありて立山山麓岩崎寺方面へ支線分岐す。東は上市町、南は五百石町、西は富山市へ縣道ありてバスの便あり。此地は中世以降に高野郷と稱せられ、いま大字に高野の名遺る。(照名寺)大字浦田新にあり。眞宗本願寺派。往昔行基菩薩北國巡錫の時、此地に留まり、山王二十一社の内獅子頭を作り以て本村の鎮護となす。のち佛性寺城主細川氏この地に七堂伽藍を創建し、十二坊を置く。明治二年現宗に轉ず。

【寺田村】京都府山城國久世郡の南部。木津川の右岸に位し東北部は宇治町の東南に接し東西に細長く東境及び西境は綴喜郡に接す。東境に高さ二百米の山地あり

【寺田村】山形縣羽前國東村山郡の北部。天童町の西方約五軒。西は西村山郡寒河江町に隣る。面積三・三三方軒の小村。山形盆地の中央に位し、最上川は村の西部に近く北流し、支流須川は南部を西流

【寺田町】城東線の一驛(昭和七年設置)。大阪市東成區南生野町にあり。

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

テラキ

照來村 兵庫縣但馬國美方郡の略中央部。日本海岸にある濱坂町の南方約一〇軒、東北は温泉町に、東南は射派村に隣接す。面積二四方軒餘。四境山地を繞らし、東南境にての最高處は八七〇米を示す。中央部に低地ありて葉落發達し、農を主として米・蕎麥を産し、また木炭・牛等を出す。國道山陰街道に近きも、村内の交通は未だ便ならず。

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

テラタ

沿ふ西南半部は低地にて田畑よく拓け、米・蕎麥を産し、桑葉・茶・綠肥用作物、菜種の産もあり。林産少からず。川に沿ひ拓植に至る縣道走り大字深川市場・寺庄等の街村型聚落あり、またこれより分れて東方に走り舊東海道に連絡するものあり、各自動車を通ず。省線草津線また拓植街道に並行して深川驛(明治二十三年設置)ありて交通便なり。村名は蓋し飯道寺(北栢村)の寺領たりしに因るものならん。「矢川神社」大字森尻に鎮座。縣社。祭神、大己貴命・矢川枝姫命。人皇以前の鎮座と傳へらる。往古より世の崇敬篤く、延喜式内小社に列せらる。例祭、五月一日。「淨願寺」大字深川にあり。天台宗。金光山。寺傳に延暦年間、最澄の觀山根本中堂創建の礎、當山に入りて十一面觀世音像を刻みて安置すといふ。本尊十一面千手觀音坐像(木造)一軀は藤原末期の作にて國寶たり。

ならず。本村は町村制施行の際、寺田・帷子・上國・荒木田の四村を合して寺田村と稱す。本村白坂にある白坂觀音は聖武天皇の神龜五年の創立といへば、古く拓けしことを知るべし。聖武天皇御製と傳ふる「紫の雲を染田の觀世音と、十念のおこたらぬ身を」とある染田は、今の寺田の古稱なるも、その寺田と改稱せし年代詳かならず。たゞ染田川と稱する川名にその名遺るのみ。

【寺田村】富山縣越中中新川郡の西北部。五百石町の北に接し富山市の東方約八軒。面積四・六方軒に過ぎず。富山平野の東部に白岩川の支流これを測し土地平坦、灌漑の便よく水田多し。米作を主とす。社線富山電鐵の寺田驛(昭和六年設置)ありて立山山麓岩崎寺方面へ支線分岐す。東は上市町、南は五百石町、西は富山市へ縣道ありてバスの便あり。此地は中世以降に高野郷と稱せられ、いま大字に高野の名遺る。(照名寺)大字浦田新にあり。眞宗本願寺派。往昔行基菩薩北國巡錫の時、此地に留まり、山王二十一社の内獅子頭を作り以て本村の鎮護となす。のち佛性寺城主細川氏この地に七堂伽藍を創建し、十二坊を置く。明治二年現宗に轉ず。

【寺田村】京都府山城國久世郡の南部。木津川の右岸に位し東北部は宇治町の東南に接し東西に細長く東境及び西境は綴喜郡に接す。東境に高さ二百米の山地あり

【寺田町】城東線の一驛(昭和七年設置)。大阪市東成區南生野町にあり。

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

【寺田】寺田

テラサ

【寺田】寺田

テラジマ

【寺田】寺田

テラサコ

【寺田】寺田

テラサワ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テラシヨ

【寺田】寺田

テ



テラト——テラハ

す。舊稱大川神社。例祭、十月十五日。
(養國寺) 大字寺津にあり。淨土宗西山派。金藏山と號す。應永十五年(1418)上人の開創。十一世顯如上人は後陽成天皇の勅命にて參内し阿彌陀經を授講し、金藏山養國寺の勅額を賜ふ。のち徳川家康來山し之を賞し寺額朱印二十一石を寄す。(常福寺) 大字刈宿にあり。淨土宗西山派。傳公上人(享徳元年九月寂)の創立。上人は多田左近將監當福公の三男、滿國寺傳長の弟。現に末院二ヶ寺を有す。
テラドマリ 寺泊町 新潟縣越後國三島郡の北部。西は一帶日本海に面し、東北は西蒲原郡の西南部に界し、南西方約八軒に出雲崎町あり。面積約三七・五方軒。南半は西山丘陵の北端部に高き約百米内外を示し西は海岸に向つて急斜し、東面に緩く傾き島崎川北流し土地平坦にして水田拓く。北半は北境に聳ゆる彌彦山(五八六米)の山地にて西方に急斜し、海岸に狭長の低地あるのみ。中部の低所は東隣大河津村大川津より分岐せられたる信濃川分水路に利用せらる。東部の聚落は農業に従ひ米産多し、西岸には漁業行はる。西岸の寺泊は古く舊北陸道の一驛、また佐渡への渡頭として發達せる所にして典型的の街村聚落をなす。今は社社長岡鐵道の終點寺泊驛(大正四年開業)あり、東隣の大河津驛(大河津村内)にて省線越後線に連絡す。北陸道にはバス通じて南は出雲崎、北は彌彦への

交通便利なり。また海上は佐渡・新潟・出雲崎・直江津諸港へ舟運の便あり。北陸道の舊驛にして古來佐渡への航津として名高く、古名を伊神の渡戸津といふ。弘仁十三年國分寺の尼法光、布施屋を古志郡渡戸濱に建て往還の人を濟度したるより寺泊の名起るといふ。古書多く寺泊浦となす。鎌倉の初期より民家漸く開け漸次繁盛に赴きしが如し。承久三年七月順徳上皇佐渡遷幸の朝、此地の驛長菊屋が館に御駐蹕あらせらる。また吉野朝の時、宗良親王此地に來り附近の豪族を招き給ひし時も亦菊屋が館は其御陣營となりしものならん。文永八年十月僧日蓮、佐渡へ配流のとき此地の石川吉廣の家に寓す。法福寺(俗に法華堂といふ)は其事蹟を傳ふ。幕末の勤王家本間精一郎(贈從五位)は此地の人とす。好色一代男・三「いかに北國のはてなればとて、あなどりたまふな、寺泊といふ所に、傾城町あり、いざ見せ申さばやと、暮方よりそこに行て見るに、隔子局といふ事もなく、軒まばらなる板屋に、或は五人三人居ながれて、其さま笑し」(寺泊鐵泉)大正十一年日本石油會社が鑿井の際發見せしもの。泉質アルカリ性食鹽泉。溫度稍低きため地中より噴出する天然瓦斯を利用して加熱す。「明治天皇寺泊行在所趾及建物」指定史蹟。明治十一年明治天皇北陸東海巡幸の際、九月十五日御晝餐を召されたる處にして、建物は同二十一年取除

き養泉寺境内に移して保存せらる。陸地には同年建設に係る陸運之碑と題する碑あり。(西生寺) 大字野積にあり。新義眞言宗智山派。海雲山。俗に弘智さまと稱し、北越前指の靈場として衆庶の信仰をあつむ。神龜年中行基の開創に係り、往時は北條貞時、蒲原の豪族水阿彌氏等の尊崇厚く、近世は寺領二百五十石を有せり。(圓福寺) 曹洞宗。醫王山と號し文治年間佐藤忠信の宅跡を佛宇となせしといふ。本尊釋迦牟尼佛。境内に忠信・嗣信兄弟追福の塔あり。(照明寺) 新義眞言宗智山派。如意山と號す。永承二年高野山龍光院の榮秀法印、弘法大師作正聖觀音の木像を護持し來りて草創せし所にして、もと寺内に六坊ありしが、今は二坊を残すのみ。境内の觀音堂は當國三十三番の札所たり。詠歌「越の浦なみの夜ひる世を照す佛のちかひたまはななし」(法福寺) 日蓮宗。寺泊山と號す。もと天台宗にして、泰澄法師の開創に係り、傳教大師法華修業の舊蹟たり。のち日傳和尚、日蓮上人に歸依して改宗す。往時は五ヶ坊ありしも、今は一坊のみ僅かに寺跡を存す。「生福寺」淨土宗。八木山と號し、嘉祿三年の開創に係る。本尊は三尊の阿彌陀如來なり。
テラニシ 寺西村 廣島縣安藝國賀茂郡の北部。西條町の西に隣接し、面積約一二方軒。東北境に高き五百米臺の山地あるも、中部より南西部は西條盆地の

一部にて土地平坦、耕地よく拓く。山陽道及び縣道と省線山陽本線とは共に南北に走り交通便利なり。農産に米・麥・粟、特産に松茸あり。舊藩時代は寺家區・西條東區の二區なりしが、町村制施行の際兩區を合併して寺西村と改稱。寺家區には寺院頗る多かりしため此名ありと。今は寺跡塔石等あり。西條東とは西條盆地の東邊に位するよりかく呼びしもの。
テラノ 寺野
【寺野村】新潟縣越後國中頸城郡の東部。新井町の東南方約六軒、長野縣下水内郡との境上に聳ゆる黒倉山(二二八九米)の西北麓にあり。面積一七方軒。東南半部は黒倉山西斜面の山地、西半部は緩く西北方に傾くも水田よく拓け米産を主とし山地よりは林産を出す。中部を西北に下る荒川の支流に沿ひ道路通ずるも、交通未だ便ならず。
【寺野】愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年本村ほか二町一村を廢し新川町を置く。
テラノウチ 寺之内通 京都市上京區の横の通りの一。天正年間の開通。上立賣通の北に並び東は室町通より起り西は衣笠に至る。豊臣秀吉、京都の復興を行ふに當り、市内に散在せる寺院を此の通と東京橋とに移轉せしむ。故に寺之内の名あり。※寺町
テラバヤシ 寺林 岩手縣碑谷郡の地名。南、北、中の三寺林に分れ、何れも

四六

今大字となる。右の内、北寺林は石鳥谷町に入り中・南の寺林は八幡村に入る。中寺林には中世河野通重の居りし館址あり。その地に通重の子通次が入道して建立せる時宗の光林寺あり。
テラハラ 寺原村 茨城縣下總國北相馬郡の中部。利根川・小貝川の中間地帯の一部を占め、南は井野村及び取手町に隣る。面積五・四方軒。西部は臺地なるも他は低地にて水田多し。米を主産し他に大麥・小麥等を産す。取手町・水街道間の縣道通じてバスの便あり。また社線常總鐵道線は西部を西北に走りて寺原驛(大正二年開業)あり。村名は明治二十二年寺田・桑原二村を合して一村を建つる際、各その一字を取りて寺原村とす。(東漸寺) 大字寺田にあり。天台宗。天正二年の開創に係る。本尊阿彌陀如來。寺寶に傳中將版作蓮絲曼荼羅を藏す。
テラベ 寺部 愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年本村ほか七村を廢し高橋村を置く。
テラマエ 寺前村 兵庫縣播磨國神崎郡の北部。姫路市の北約二五軒。東北の生野町(朝來郡)へは約一〇軒を隔て、西南は飾磨郡の北部に、西北は宍粟郡の東邊に界す。面積五三方軒に近し。西南の郡境には高度七百乃至一千米の山嶺連り、北境にも同程度の山嶺あり概ね山地をなす。市川東部を南流し北西部より來る支流を入れて東隣栗賀村に出づ。

これらの河谷に沿ひて巾狭き低地ありて耕地ありて、農産に米・藁・粟・小麥・蔬菜・食用農産物・鶏卵・果實・蒟蒻等もあり。また工業に紙・醬油の産額多し、菓製品・双物・墨表等をも出す。また下三方村・長谷村にも互る球美鐵山よりは亞硫酸を産出す。姫路・出石間の縣道、省線播但線は共に東部市川筋を南北に走りて後者は大字鍛冶に寺前驛(明治二十七年設置)を置き、前者にはバスを通じ交通不便ならず。村内に太田淵あり、高さ一六四米、幅三米。
テラマチ 寺町
【寺町通】京都市の縦の大通の一。凡そ平安京の東京極大路を通り、北は鞍馬口通に起り、南は五條通に至り新寺町通に接続す。天正年間に豊臣秀吉京都を復興するに當り、市内に散在せる佛刹を此の通の東側に移轉せしむ。故に寺町の稱あり。烏丸通・河原町通と共に京都の縦の賑かなる大通の一。
【寺町】大阪府東區の町名。谷町六丁目

の南に隣接し、東に南桃谷町、西に谷町七丁目烏町と並行す。但し北區にも同名の町あり。曾根崎心中、これ長藏、おれは後から往のほどに、其方は寺町の久本寺様、長久寺様、上町から屋敷方廻つて、さうして内へ往にや」
テラヤマ 寺山 河内國(大阪府)の古地名。日本後紀延暦十八年三月の條に見ゆ。即ち菅原眞道等の祖葛井・船・津三

氏墓地は河内國丹比郡中寺の南にあり名づけて寺山と云ふ云々とあり。野中寺は名所圖會に従へば野上村にあり、野上はいま南河内郡植生村の北部にある大字なり。さすれば寺山は植生村の地に求むべけれど、また葛井氏の墓地の葛井寺は野中寺の東北に當り、津氏の祖神大津社も亦野中寺の西北にあり、船氏の祖廟も遙に東方なる國分村にあれば、後紀記載の方位は或は誤りならんか。従つて寺山の位置詳かならず。後考を俟つ。
テリフリチヨ 照降町 東京都日本橋區の江戸橋の北詰より東に折れて親父橋に至る大通を稱す。もと此處には傘・足駄・雪駄等、晴雨兩様の必需品を賣る店軒を列ね居りしにより、かく稱せりと云ふ。登美賀遠住「名にしあふてりふり町と芳町の中にかけたる橋の名も、六ツかしそなやじ橋、しあんざかりとむだ盛り、ふたりつれ立町とせんが、顔をふんだりさしやつたり、下駄傘の商賣づく、てりふりなしにしておが、どうらくものさ」
テロカ 光岡村 大分縣豊後國日田郡の西北部。日田町の西に隣り、南は筑後川上流を隔てて五和村に對す。面積一〇方軒餘。西半は日田盆地の西を限る高度約三〇〇米の山地なるも、東半は日田盆地に屬し土地平坦、筑後川その南境に沿ひて西流し、田畑拓けて米・麥・

粟等を出す。縣道と省線久大線は共に東西に走り、前者は東隣日田町より南隣夜明村へのバスの往來あり、後者は東部の大字友田に光岡驛(昭和九年設置)を置き交通便なり。古くは和名抄、日高郡日理郷の内に屬せしか、大字渡里は其遺稱ならん。大字友田に星隈公園あり。日田三限山の一にして四時積翠を湛へ、山脚は江に臨み風光明媚の小丘なり。山上に星隈神社、山腹に數十の横穴古墳、山麓に高塚式の三郎古墳あり。(若八幡神社) 大字友田に鎮座。郷社。祭神、足仲彥尊。大鷲鷲命・鳥長帶姫命。社傳に延喜十一年日田の郡主大藏大夫の勸請創祀せしものといふも詳ならず。例祭十月十七日。
テルカク 照岳 熊本縣球磨郡人吉町の北方約六軒。同郡山江村と中原村との境上に位する一峯。標高五〇六米。人吉街道の要衝なるを以て、西南の役の際賊軍これを死守せしが、遂に山田少將の率る別働隊に陥落せらる。北西稜に白岩山(一〇〇二米)續き、南方脚下に球磨川の清流を賦下す。
テワ 出羽 奥羽の西部日本海方面の地。いま分れて羽前・羽後の兩國となる。もとは今の北陸道諸國より出羽・津輕・北海道までを籠めて漠然と越の國と汎稱し、古志人即ち蝦夷の住所として知られしが恐らく天武天皇の御代の頃に、越の國を分ちて前中後の三國となすに當りて、今

テラハ——テワ

四六



の越後の西四郡は越中國に屬し、信濃川以東、出羽・津輕・北海道までは、すべて越後國の管する所となる。出羽の國名、古くは之をイデハといふ。越の出端の義なりと解せらる。元明天皇和銅元年九月越後國に出羽郡を置く。今の山形縣庄内地方、最上川以南の地なるべし。是より先、天武天皇十一年四月、越の蝦夷伊高鼓那等、俘人七十戸を以て一郡となさんと請ひて許さる。こゝに俘人とは熟化したる蝦夷にして後の俘囚に當る。皇化次第に僻陋の地に及び、こゝに出端の地に於て、熟蕃の新郡が據置せられたるものなるべく、蓋し後の出羽郡の基礎となせしものか。出羽郡こゝに置かれて、日本海方面夷地經營の策源地となる。大化四年磐丹橋を治して以て蝦夷に備へ、越と信濃との民を選んで始めて瀬戸を置くことあるは、當時なほ越後の北部に於て、蝦夷の侵略を警むる要ありしことを示す。其後、五十餘年を経て文武天皇四年に至り、更に之に修理を加ふ。ついで大寶二年に至り、越中の東半四郡を割いて越後國に併す。蓋し夷地經營に對して國力の充實を圖れるものと解すべく、こゝに出羽郡の設置を見たるは、此の方面に於ける經營の業の大いに前進せるを示せるなり。かくて和銅二年三月、征越後蝦夷將軍の任命あり、同七月、諸國をして兵器を出羽郡に運送せしめ、ついで越前・越中・越後・佐渡の四國をして、船一百

艘を征狄所に送らしむ。斯くの如くにして其の經營着々進捗し、和銅五年九月に至り、遂に出羽國の設置を見る。當時太政官の議奏に曰く、國を建て疆を辟くに武功の貴ぶ所、官を設け民を撫するは文教の崇ぶ所なり。其の北道の蝦夷遠く險阻を憑みて、實に狂心を縱にし、屢々邊境を驚かす。官軍の雷擊より、山賊霧消し、狄部晏然として皇民擾るゝ事なし。誠に望むらくは便りに時機に乗じ、遂に一國を置きて式んで司宰を樹て、永く百姓を鎮めん」と。以て其の事情を觀るべし。此の頃最上川上流地方は夙に福島縣方面より皇化進展して、既に最上・置賜の二郡あり。中にも置賜郡の設置は持統天皇の御代以前にありしもの、如く、同天皇の三年陸奥の備前郡の城峯の蝦夷出家入道の事見ゆ。こゝに至りて此の二郡を陸奥より割いて出羽の國に屬す。されば當初の出羽國の管する所、主として今の山形縣地方にして、其の以北秋田縣より、津輕・北海道に至るまでは、漠然此の國の中に收められたりしものとす。養老二年出羽の渡島郡の蝦夷を買するの事あり。渡島は今の北海道なり。其の所屬以て觀るべし。かくて越後は地を西方に増し、東北に失ひて、今の國境をなすに至れるなり。夷地の經營は内地人を夷地に移して地を拓き、民を教導するにあり。又一方には夷人を内地諸國に移し、二代間糧食を供給する程の優待條件を以

て之を日本民族化せん事に努力せり。和銅七年尾張・上野・信濃・越後の民二百戸を出羽郡に配り、聖德太子年、出羽の蝦夷來朝の事あり、二年更に上野・信濃・越前・越後四國の民各百戸を出羽國に移し、養老元年また信濃等四國の民各百戸を出羽郡に配し、同三年にも東海・東山・北陸三道の民二百戸を出羽郡に配すとあり。斯くの如くにして内地の農民種々夷地に進出し、日本海方面の拓殖大いに進捗す。出羽郡は蓋し置かれたる出羽郡の地にあり。大寶令に、夷地に近き諸郡の民居は城堡の中に安置し、農繁時にのみ出でて田家に宿舎すべき事を規定す。蓋し夷人の襲撃より之を保護するもの。出羽郡は蓋し其の一なるべし。出羽郡後に廢して田川郡に入る。今の東田川郡の城は是に當り、標址は之を最上川の南、藤島町附近に求むべきに似たり。然るに先年河北鹿海郡本村に於て一大柵址を發見す。方柱に作成せる巨材を密接して樹て立てて方形の地域を限る。其の四面各約六町、各面に大門址あり。世間或は之を以て出羽柵址に擬す。而も位置到底相當せず。中に國分寺址あり。蓋し國分寺境内の外柵なるべし。天平五年に至りて出羽柵を秋田の高清水側に遷す。是れ後の秋田城にして、海岸傳ひに夷地の經營の大いに進出せるもの。蓋し我が國は海國として海路による内地文化の進出は由來頗る古し。日本海方面にありては既

に齊明天皇の御代に於て、越國司阿倍比羅夫、舟師を率ゐて船田(秋田)・津代(能代)・津輕等の蝦夷地を徇へ、遠く北海道に及ぶとあり。而して當時すでに津代・津輕の住民には、蝦夷と稱との區別ありき。唐はトリコにして、前記の俘人、即ち後の俘囚に當り、蓋し既に相當日本文化に觸れて、熟蕃階級に進歩せしものなるべく、以て海岸傳ひの進展の案外に早かりし事を觀るに足らん。出羽柵の進出と相呼應し、陸路により夷地の經營も之に追隨して進捗す。天平五年雄勝村に郡を建て、民を置くことあり。蓋し比羅夫許山を越えて山北に出づるもの。同九年陸奥の多賀柵(後の陸奥國府多賀城にして當時陸奥鎮所あり、太平洋方面に於ける夷地經營の策源地)より出羽國最上郡に出で、山を越えて、新に山北雄勝に通ずる道を開く。陸奥賀美郡より比羅保許山まで百五十里(六町一里)、更に雄勝まで五十里とあり。天平寶字年間に至り、陸奥桃生城と共に盛んに出羽雄勝城を築き民を移し、兵器を貯ふ。東西相呼應して經營進展するなり。雄勝は御物川上流にあり。江北平鹿・山本二郡と共に山北三郡と稱す。是より後、出羽方面に於ては夷人の著しき活躍あるを見ず。然るに元慶二年に至り、秋田地方の蝦夷亂を起して秋田城及び郡院・屋令・城邊の民家等を燒く。其の勢猖獗、官軍容易に之を鎮定する能はず。米代川流域地方すべて賊地

に歸し、陸奥・上野・下野等の援兵を發して尙功を奏し難く、遂に常陸・武藏の出兵をまで求むるに至る。當時賊の軍使來りて、秋田河(御物川)以北を以て己が地となさんと請へるに見ても、以て其の形勢を察すべし。然れども是れ他意あるにあらず、たゞ當時秋田城司の慮政の餘りにも甚しきに堪へ兼ねたる窮鼠の、却つて猫を嚇めるに外ならず。されば當時地方官として令名ある藤原保則を出羽權守に任じ、之を慰諭するに及びて、さしもの大亂忽ちにして平げり。先年仙北郡高梨村柵田に一大柵址を發見す。前記本柵より規模更に大にして、延長約三十六町、ほぼ楕圓形をなして丘陵を取り圍み、其の所用の木材亦大ききに於て前者に勝る。而して其の北面には柵木燒損の形迹あり。蓋し大寶令に所謂農民安置の城堡なるものにして、此の際賊の燒打にかゝりしものか。由來日本海方面の蝦夷は、太平洋方面なる陸奥の蝦夷に比して柔順なりしもの、如く、此の元慶の大亂と後の後三年役とを除いては、史上殆ど著しき事柄なく、彼等は土着のまゝに日本民族に同化融合して、其の民族的存在を失ひしもの多かりしが如し。前九年役、山北の俘囚長清原武則、官軍に黨して安倍貞任を滅ぼす。武則功を以て鎮守府將軍に任ぜらる。之より陸奥藤原の鎮守府に移りて其の勢力出羽を兼ね、前代

の安倍氏に勝る。かくて子武貞を経て孫眞衡の代に至り、偶々清原氏内訌あり。陸奥守源義家之に干渉して、遂に清原氏を滅ぼす。所謂後三年役なり。而も當時朝廷之を以て私闘となす。義家の此の役に勝つや、是れ亦武貞の養子にして、自ら東夷の遠裔、俘囚の上頭を以て任ずる藤原清衡が、義家に黨して是を授けたるによる。是より清衡奥州平泉に根據を構へ、其の勢更に安倍・清原二代の當時に勝りて、陸奥・出羽兩國を風靡し、傳へて子基衡を経て、孫秀衡に至る。されば前九・後三の兩役は、安倍・清原の二氏を滅ぼせしむるに於て、遂に夷人の手より其の地を奪ふこと能はざりしなり。されば當時心あるものは、清衡王地を押領すと嘆じ、基衡を「何奴」と罵るも、亦これを如何ともする能はず。嘉應元年秀衡の鎮守府將軍に任ぜらるゝや、當時の右大臣藤原兼實嘆じて曰く、奥州の夷狄秀衡鎮守府將軍に任ぜらる。亂世の基なり」と。ついで養和元年其の陸奥守に任ぜらるゝや、是は名實共に奥州を以て彼に委するものとして、兼實更に嘆じて曰く、「天下の恥何事か是に如かんや、悲しむべし、悲しむべし」と。以て當時の狀勢を見るべし。源賴朝平家を滅ぼして後、更に兵を奥羽にすゝめ、平泉の藤原氏を滅して、始めて奥羽二州を平定す。即ち置賜・村山の二郡を大江廣元に、田川郡を武藤資頼に、平鹿郡を小野寺重道に與ふ。後足利尊氏その一族兼實を遣はして

山形に置き、出羽の國事を管せしむ。子孫最上氏と稱す。當時出羽北部地方にありては、津輕の豪族安東氏南下して米代川流域地方を取り、其の族兩家に分れて土崎派にあるものを淡氏と稱し、楡山にあるものを下國氏と稱す。後に下國實季淡家を併せ、秋田城介と稱す。米代川流域より今の秋田地方すべて其の領する所となる。是れ秋田氏の祖なり。大江廣元の高は置賜郡長井庄にありて長井氏を稱し、傳へて戰國時代に至りしが、後伊達氏の爲に滅ぼされて其の地を奪はる。又山形の最上氏は最上・村山の二郡を、田川の武藏氏は最上川を越えて莊内地方の全部を、又平鹿の小野寺氏は始んど仙北三郡を、それら併合し、其外、仙北六郷に六郷氏、角館に戸澤氏あり。由利郡地方は所謂由利十二黨之分領す。中に最上義光最も勢あり。北に小野寺氏を壓し西に武藤氏の莊内を奪ひしが、やがて莊内は越後の上杉景勝の爲に奪はる。かくて天正十八年、豊臣秀吉小田原の北條氏を滅ぼして關東地方を平定するや、其の餘威を以て翌十九年奥羽に臨み、其の來る事遅きものは多く之を國除して、大いに諸將の入れ替へを行ふ。先づ以て伊達政宗の所領が仙道米澤に涉りて奥羽地方の關門に當るが故に、之をさきに沒收せる葛西大崎の故地に移して、其の跡に腹心の蒲生氏郷を據ゑ、本國置賜郡その所領となる。のち秀郷死して子秀行、

年少以て奥羽の押へとなすに遺せず。即ち之を下野宇都宮に移し、其の跡を上杉景勝に與へて越後の地と交換す。こゝに於て上杉氏は奥州會津・仙道より、米澤・莊内に涉りて所領百三十萬石と稱せらる。關ヶ原役後、徳川家康大に賞讃を行ひ、上杉景勝の所領を削りて僅に奥州伊達・信夫の二郡と、本國置賜郡のみを残し、所領三十萬石となる。後寛文四年に至り、上杉綱勝死して子なく、高家吉良義央の子綱憲を嗣とするに及び伊達・信夫の二郡も削られて、僅に本國置賜一郡、米澤十五萬石となる。次に最上義光は、景勝の封を削らるゝや其の舊領莊内と共に由利郡を與へられて、一躍五十七萬石(或は五十二萬石といふ)の大大名となる。又仙北三郡を領せし小野寺義道は其所領を沒收せられ、秋田實季亦封を削られて常陸穴戸五萬石に移され、(後秋田氏奥州三春に移り五萬六千石となる)六郷の六郷政盛、角館の戸澤政盛、亦それれ常陸に移されて、其舊地は常陸水戸の佐竹義宣に與へ、秋田二十萬六千石を領せしむ。かくて出羽に於ける諸侯の所領始めて定まりしが、其後、元和八年に至り最上義光の孫義俊に至りて、國政宜しからざるの故を以て國除せられ、其の舊領莊内十三萬八千石は酒井忠勝に、山形二十萬石は鳥居忠政に、上ノ山三萬石は能見松平重忠に、新庄六萬石は戸澤政盛に、由利郡龜田二萬石は岩城吉隆に、



同じく本庄を六郷政来に、それ／＼分與せらる。後に山形の鳥居氏嗣なくして絶え、其跡には山形に保科正之二十萬石、天童(初め高島)に織田氏二萬石、長瀨に米津氏一萬五千石等の諸藩立つ。其後、上ノ山と山形とは種々の變遷あり。上ノ山は元祿十年藤井松平氏に復歸してより、又山形は最後に老中として天保の改革に失敗せし水野忠邦の子忠精五萬石を以てこゝに移されてより、孰れも傳へて幕末に至る。外に佐竹・酒井・上杉の諸氏それ／＼支藩を立て、幕末に於ける出羽一國の大名すべて十三家。外に由利郡矢島には、生駒氏寛永十七年譜岐十七萬石より減封してこゝに移され、一萬石を領せしが、後封を弟に分與して故に大名の地位を捨て、更代寄合に列せらるるあり。維新後、上杉・酒井・松平(上ノ山)・織田・岩城等の諸氏、官軍に抗してそれぞれ封を削られ、又長瀨の米津氏は上總大郡(後常陸龍ヶ崎)に、山形の水野氏は近江の朝日山に移り、上杉氏の分家米津新田は宗家に合併し、矢島の更代寄合生駒氏は所領の實高五萬石以上なりしを以て新に藩を立つ。こゝに於て出羽には秋田(佐竹氏もと久保田)・鶴岡(酒井氏)・米澤(上杉氏)・新庄(戸澤氏)・天童(織田氏)・上ノ山(松平氏)・松嶺(酒井氏)・もと松山(本莊(六郷氏)・龜田(岩城氏)・岩崎(佐竹氏)・矢島(生駒氏)の十一藩あり。明治四年廢藩置縣後大いに廢合を行

ひ、置賜・山形・酒田・秋田の四縣となりしが、のち置賜・酒田の二縣を山形縣に合せ、今の如く山形・秋田の二縣となる。此國は延喜式載する所、置賜・最上・村山・出羽・田川・飽海・雄勝・平鹿・山本・河邊・秋田の十一郡あり。置賜・最上の二郡は出羽建國當初陸奥より移管する所、最上川上流にあり。仁和二年最上郡を割き其の北部に村山郡を置く。最上氏この二郡を兼領するに及び村山郡の名廢す。然るに後之を復舊するに當り、誤つて其の位置を顛倒し、もとの最上郡と村山郡一部の地を以て村山郡となし、もとの村山郡の北部を最上郡となす。現代なほ之に従ひ、村山郡を東西南北の四郡に、置賜郡を東西南北の三郡に分ち、合せて八郡となる。出羽・田川・飽海の三郡は最上川の下流にあり、大泉莊内の義を以て莊内三郡と稱す。後に出羽郡の名廢して其他は田川郡に入る。現代之を東西二郡に分ち、舊出羽郡の城は東田川郡に屬す。飽海郡の設置亦天平以前にあるべし。由理郡はもと飽海郡の中。寶龜十一年由理掃の名見ゆ。之を郡とせし年代詳ならず。東鑑に其の名初見す。雄勝・平鹿・山本の三郡は御物川の北流にあり。もと陸奥國府多賀城より秋田なる出羽に通ずるには鳥海山の西麓を迂回して海岸路による。天平九年雄勝を征して直路を開き、天平寶字三年雄勝・平鹿の二郡を置く。後更に其の北に山本郡を建て、併せて三郡。

比羅保許山の北にあるを以て山北三郡と稱す。或は單に仙北郡と稱す。寛文四年郡名を復舊して雄勝・平鹿の二郡は舊によるも、山本郡の名を以て誤つて古への淳代地方に宛て、舊山本郡の城に當つるに仙北郡の俗稱を以てす。現代なほ是による。河邊・秋田の二郡は御物川の下流地方にあり。秋田郡は延暦二十三年秋田城を廢して置くところ、其の城は今の南秋田郡の地に當る。秋田城また後に復興し、國司の介なるもの城守を兼ね。之を秋田城介といふ。秋田郡以北の諸郡は延喜式に載せず。蓋し能代川流域以往の地は當時夷地に没入せるもの。其の上流地方は古へ上津野・火内の名あり。元慶四年秋田の蝦夷叛亂の際の記事に見ゆ。上津野は即ち鹿角郡にして、後世、奥州南部氏の領する所となり、陸奥國(いま當陸)に編入せらる。火内の地方は戰國時代比内郡の稱あり。後秋田郡に入る。今の北秋田郡是なり。其の下流地方は古への淳代(能代)にして、戰國時代に楡山郡の名あり。或は山本郡と稱す。寛文年間郡名復舊の際、誤つて之に宛つるに山北の山本郡の名を以てし、もとの山本郡の地を仙北郡と名づく。今之に従ふ。津輕の地はもと出羽國の中。鎌倉時代末津輕蝦夷の暴動あり。當時之を出羽の蝦夷の亂と記す。室町時代奥州の南部氏之を併合してより、陸奥國に屬する事となる。明治維新、出羽を分ちて置賜・村山・

最上・田川の四郡を羽前となし、飽海・由理・雄勝・平鹿・仙北・河邊・秋田・山本の八郡を羽後となす。飽海郡は莊内の一部として、之を羽後に屬するは地の理に合はず。蓋し當時石高を案じ、國力の平衡を求むるを主としたる爲なり。廢藩置縣後大に從來の諸縣を廢合し、羽前全國及び羽後の飽海郡、即ち最上川全流域地方を以て山形縣となし、其の以北、飽海郡以外の羽後の諸郡と、陸中の鹿角郡、即ち主として御物・米代兩河の流域地方を以て秋田縣となす。其の管區始めて地理の自然に適合す。(註)

【出羽(郡)】出羽國の古郡名。凡そ今の山形縣羽前國東田川郡の地に當る。和銅元年、越後國の北部に置きしに始る。同五年出羽國を建つるや本郡は飽海・田川二郡と共にその管下に入る。初め出羽權や國府も本郡にあり。和名抄は大窪・河邊・井上・大田の四郷及び餘戸一を管せり。中世、私に攝引郡と稱し飽海・田川二郡と共に庄内三郡などと稱せり。寛文年間、攝引郡を廢して田川郡に併せ郡名を失ふ。

【出羽(國)】山形縣羽前國東田川郡の中部南偏。山形市の北方約五折。その間に千歲村を隔つ。面積六・四万軒。山形盆地の中央部に位し、土地概ね平坦なり。最上川の支流谷川は北境を、白川は西南境を流れ、西半部には水田多く東半部には

桑畑拵け、米・藪を出し、縮緬の織物を産す。羽州街道と省經奥羽線並行して中部を縱走し、後者の漆山驛(明治三十五年設置)は村の中央にあり。前者にはベスの便ありて南の山形市、北の天童町方面とは交通の便よし。此地は和名抄、最上郡芳賀郷の内にて、村内の漆山館は最上三代修理大夫滿直の三男、右馬頭滿頼住居の跡なるべし。義光の代には鈴木備後の居り、江戸時代は此址に陣屋あり。(吉野院) 大字千手堂にあり。天台宗。寺傳に聖武天皇天平九年勅を奉じて行基これを草創すといふ。當時國內惡疫流行し、行基拔除祈願して驗あり、茲に於て堂塔成り數百町歩の寺領を附せられ國家鎮護の道場となる。爾來歷朝を始め、藤原氏・最上氏累代の歸依篤く寺運隆盛たりしも、維新後漸く衰頹す。

は半島をなせし部分にして、今は壯年期の削削を受け、其代表とも見るべき秋田市附近の太平山塊の如きは最高點一七〇米に達す。然し是等の核心山塊は奥羽山脈に比すれば遙に少なく僅に太平山塊と青森・秋田の縣界をなす白神山塊(最高一二三二米)を有するのみなり。隨つて周緣山地がこの丘陵の大部を構成す。周緣山地は概ね海拔四〇〇米以下の丘陵地にして、生々しき海蝕段丘の認められるところと、青年期の削削を受けて複雑なる谷を刻み、其山頂線が略同一高度を示すことによりて、漸く窪地狀の原形を想像し得るところとあるも、是等の分布は現在の海もしくは河とは何等の關係なく、専ら陸塊隆起の時期の前後に原因するものと考へらる。地質は主として第三紀中新世乃至鮮新世の海底に堆積せし頁岩にて、砂岩・礫岩・凝灰岩等を挟み、所々安山岩及び流紋岩の岩類等に貫かる。火山にはコニイデ型のものに岩木山・田代岳・駒岳・鳥海山等、トロイデ型のものに燒山・本山、アスピーデ型のものに月山・寒風山等あり。これ等は何れも出羽丘陵の海上隆起後に噴出せるものにして、鳥海火山帯の名の下に包括せらる。盆地は奥羽山脈に於けるが如く構造盆地を所々に見る。即ち津輕平野・八郎湯・庄内平野等にして、出羽丘陵の未だ完成せざるため、其一側はなほ隆起せず、平野のまゝ海に通ず。隨つて地形上完全なる

盆地の形態を成さず。

【出羽三山】出羽國(山形縣)内なる羽黒山・月山・湯殿山の總稱。勝れたる靈場に於て、修験者の行道所として普く世に知らる。山頂にはそれ／＼羽黒神社・月山神社・湯殿神社ありて賽者多し。三山中月山は秀峰なれど、他の二山は丘陵形なり。※羽黒山・月山・湯殿山

【出羽丘陵】一出羽山脈ともいふ。奥羽山脈の西側にありてこれと並走す、南は山形縣米澤市の西方より北は津輕半島の西南部に至り延長約三二〇軒、奥羽山脈との間には毛馬内・角館・横手・村山の地帯帯を隔つ。高度は平均約四〇〇米なる丘陵性の地帯なり。主に第四紀(敷島期)に入りてより海面上に表はれしものにして、その西縁部は今なほ充分隆起するに至らず。核心山塊は奥羽山脈のそれと同じく砂岩及び閃綠岩より成り、一部に花崗斑岩・閃綠片麻岩等を有し、奥羽山脈と殆ど同時に海上に隆起して高、或

【出羽村】埼玉縣武藏國南埼玉郡の南部。越ヶ谷町の西南隅にあり。南と西は綾瀬川を隔て、北は足立郡新田村・戸塚村と隣す。面積七・一方軒餘。東北境の元荒川と西南境の綾瀬川とに挟まれ、全村平坦にて殆ど水田をなす。米を主産し他に麥を産す。越ヶ谷町により西南方越ヶ谷町を連ねる縣道は南部を横きりてバスを通じ、越ヶ谷町の社線東武鐵道線越ヶ谷驛にも近く交通便利なり。

【天山】アマガヤマとも讀む。筑紫山脈背振山塊の一角。佐賀市の北西方約一六軒、佐賀縣小城郡南山・北多久の二村と小城町との境に聳え立つ。標高一〇四六米。山中の溪水美しく所々に瀝かかす。筑紫山脈第二の高峯にて雄大な山容を有し、山頂は平坦なる臺地狀をなし、準平原面の好例を示す。山頂には郷社天山神社あり。また吉野朝の忠臣阿蘇昭直の墓あり。山頂より北西方に壹岐・對馬を雲烟の間に望見せられ、北東方には筑紫山脈の連嶺を望み、眺望極めて美し。登山

【天安郡】朝鮮忠清南道一府十四郡の一。道の東北端に位し、西は牙山郡、南は公州・燕岐の二郡、北は京畿道の安城・振威二郡、東は忠清北道の鎮川・清州二郡に接す。面積六三・四万軒。大白山脈の支脈なる車嶺山脈域内を東北—西南に走り、東境に萬籍山(六二二米)・歡喜山・東林山等、中央に聖居山・黒城山、西南境に廣徳山(六九九米)・車嶺等を起し、此等山地は花崗片麻岩より成り老年期の地貌を呈す。概して丘陵勝ちなるも、中央山地を分水界として北に安城川支流、西に曲橋川、東に錦江一支の並川流れ、此等の流域には何れも稍々廣き平地拵け殊に北西部の安城川流域平地は京畿道の平澤平野に連り、道内主要農業地帯の一をなす。住民は農業を主生業とし、米・麥・豆類及び棉の産多く、また蔬菜栽培盛にして、殊に成數甜瓜は有名なり。北部は開ける稷山砂金地帯にして、砂金・金・銀を出すこと多く、主要鑛山の鑛種と、その昭和十年中産額を擧ぐるに次の如し。清堂鑛山(金、九萬圓)。忠南金鑛(金、銀、六萬圓)。恒同鮮興鑛山(金、銀、六萬圓)。栗金鑛山(鑛區は牙山郡に跨る、金、銀、九萬圓)。浩美鑛山(金、二二萬圓)。前井鑛山(砂金、六萬圓)。珠南鑛山



(金・銀、八萬圓)。中央鐵山(金・銀、三七萬圓)。大成金礦(金・銀、一三萬圓)。大員金礦(金・銀、九萬圓)。三和砂金礦(砂金、一五萬圓)。稷山砂金礦(砂金、七三萬圓)。馬場砂金礦(砂金、二六萬圓)。三星鐵山(砂金、六萬圓)。青橋鐵山(鐵山は京畿道安城郡に跨る。金・銀、八萬圓)。右のうち成興業會社の稷山砂金礦は最も有名にして、既に大正六年以來ドレッチャ一を以て採金を開始し木邦新業の先驅をなせり。郡の西部を總督府鐵道京釜本線と京城本浦間の一等道路南北に並走し、前者に成興、稷山、天安の各停車場あり。天安を起點として東北方長湖院、西南方長項方面に朝鮮京南鐵道線通じ、交通不便ならず。行政上、一邑十三面に分ち、郡廳を天安邑に置く。本郡の人口密度は一方村當り一九四人にて、道平均一八八人より多く、全縣平均一〇四人に比して著しく高位にあり。本郡は古く百濟の地にて歡城と稱し、高麗太祖この地を相して三國要衝の地となし天安府と名づけ鎮營を置き、のち寧州・寧山等と稱せしも次で天安郡となる。大正三年郡廢合に際し木川・稷山の二郡を合せ今日に至る。【天安邑】朝鮮忠清南道天安郡の中部西偏。東北境に聖居山(五七九米)、東南境近く黑城山(五一九米)等聳え餘脈域内に及び、東半部は丘陵起伏し濠地狀を成せるも西半部は低く、地味肥沃にて農産に富む。産物は米・麥・大豆・小豆等の農産

を主とし、甜瓜・胡桃の特産あり。また天輝(三宅・新月(鐵山の一部))・三家(天山(一部)・安田の諸金礦ありて金・砂金・銀を出す。鐵道京釜線は面のほぼ中央を南北に縱貫して天安驛(明治三十八年設置)あり、社線朝鮮京南鐵道は天安驛を起點として東北に京畿線、西南に忠南線を出し、道路は天安市街を中心として京城本浦間の一等街道南北に縱走し、其他西方瀋陽・洪城方面に二等道路其他を放射狀に岐ち交通頗る便なり。また航路標識の設けあり。天安は實に交通の要衝たるのみならず郡政・商政の中心にして之等諸官廳を始め、地方法院出張所・穀物検査所・農蠶學校・朝鮮京南鐵道株式會社・倉庫會社等あり。また天安神社(無格社、祭神天照大神)鎮座す。市場は陰曆三・八の日に開き取引活潑なり。【テノオ】天應(天應) 吳線の一驛(明治三十六年設置)。廣島縣安藝郡大屋村にあり。

テノオン 天恩

【天恩鎮山】朝鮮咸鏡北道にある鐵山。鎮山は富寧郡觀海面と慶興郡豐海面とに跨る。昭和十年五月、砂金採取を目的として採掘し、なほ銀・銅をも出す。鎮山一帶の地質は黑雲母花崗岩によりて構成せられ、鎮山は該岩中に胚胎せる合金石英脈にして走向北三〇度西、傾斜北西七〇度、脈幅〇・三米を示し、下盤に珪岩の噴出を見る。鎮山は酸化鐵。砂金は鐵

區の北東より南西に亘る溪谷中に賦存せるものを採取す。昭和十年度の産額金二八八〇瓦、銀七二〇〇瓦、その價格八萬九千圓餘、同年六月末現在使役人員一九〇人。【天恩山】朝鮮咸鏡南道の山。道の東北部、赴城嶺山脈中の一峰にして、豐山郡安水面内に聳え、標高二〇五八米。山稜西北に延びて玉蓮山(二二六四米)・白山(二三七九米)等につづく。南斜面に黃水院江發源す。【テノカ】天火嶺(天火嶺) 朝鮮咸鏡南道東北部の嶺。赴城嶺山脈の東端部に位置し、錫川郡北斗日面と甲山郡鎮東面とに跨る。最高點一六九六米。東に北大川、西に南大川を分つ分水界。日本海岸の城津港方面より奥地の甲山・惠山嶺方面に至る重要交通路にして、二等道路通じ、バスの運轉あり。

テノカ 天加面

朝鮮慶尙南道昌原郡の東南海上に横はる加徳島及び馬島三神島・赤馬島より成る。加徳島は周圍約二〇料、加徳水道を距て、本陸と相對し北岸を除きては大部分岩海岸を成す。島内平地極めて少なく耕地は丘陵の緩斜面を利用して、灌漑不利なるを以て水田殆んどなし。産物は大豆・棉花・甘藷・粟等にして自給自足の域に達せず、釜山及び馬山地方より移入す。水産物には牡蠣・鱈・太刀魚・石首魚・鰻・鰺・海苔等あり。聚落は總て海岸に沿ひ北岸の加徳里

最も大にして而事務所・警察官駐在所あり。訥次里は島の東北端に位置し良泊を成し、漁業組合あり、その漁獲高一萬八千圓(昭和十年)。

テナカ 殿下村

福井縣越前國丹生郡の北部。村内始と山又山、村民多く農業を營み僅に數戸の商店あるのみ。山地なれば木材の産多く薪炭をも出せども、村民の主生業は養蠶にして、なほ山麓至る所に植培して得るキノコ(キノコ)の原料)楮皮は繭に次ぐ本村の重要な産物とす。大字別畑より産する別畑石は耐火力ありて窯等の耐火方面に重要せらる。當村の二ツ屋に武周池あり周圍約二六二〇米、郡内第一の湖。こは文祿三年頃陥没によつて成るといふ。縣道清生街道は東隣志津村より來る大字白湖・宿堂・風尾等を経て西隣越前村の浦生に至る。この街をバス走る。「勝鬘寺」大字風尾にあり。眞宗高田派。大同元年空海の草創。齋藤實盛討死の後その玄孫景忠は先祖の國を訪來住す。建長元年高田顯智上人巡國の節、歸依して唯明と號し勝鬘寺を再興す。永正の亂の時寺僧は朝倉に從ひ一向一揆には本願寺に敵對す。同寺に職工匠作と傳ふる四足門ありしが文化八年九月焼失す。本尊は三國傳來にて齋藤實盛の守本尊と傳へ名あり。「西雲寺」大字武周にあり。眞宗佛光寺派。高田派專修寺(後の法雲寺)が一向一揆のため本村中村に逃れし頃、其の末寺として

テナガジャヤ 天下茶屋

高田派に屬せしが、寛文三年法雲寺が佛光寺に轉派するやまた佛光寺派に轉す。正徳の頃佛光寺別院の稱號を許され、文化十四年には佛光寺門跡の舍弟入寺する等の事あり。現在縣下佛光寺派唯一の古刹にて門徒數二百戸と號す。

テナカワ 天川村

奈良縣大和國吉野郡の中部。十津川上流天ノ川の水源地を占むる山村にして東西約二〇料、南北六一二料、面積一七五方料餘の大村。東境には大峯山脈連互して北より勝負塚山・大善賢嶽・國見嶽・行者還嶽・佛經ヶ嶽(一九一五米、縣下最高峯)・明星ヶ嶽等並び、其西に大天井ヶ岳・山上ヶ嶽・龍ヶ嶽・稻村ヶ嶽・觀ノ峯山・戸笠山・朝鮮嶽等あり。北には扇形山・天狗倉山・武士ヶ嶽・乘鞍嶽等、南境には天和山・瀧山・唐笠山等東西に連りて共に村界を劃す。東境の山上ヶ岳の南谷に發する川追川南西流して戸笠山の北谷に出で、北方洞川より南下する溪水と合して天ノ川となり南西流して西南隣大塔村阪本に出づ。村内山岳重疊し調ゆる吉野杉をはじめ林産多く、低地は乏しきも天ノ川谷に沿ひて農耕も行はれて多少の米・麥を産し養蠶も行はれ、外に賣藥・銅(天和鐵山)の特産あり。天ノ川河谷に沿ひて道路通じ聚落點在し北方下市町方面と、大塔村阪本よりは宇智郡五條町へはバスを通ずれば

テナカ—テンコ

交通概して不便なり。大峯山の西側、天ノ川の上流に阿古湖あり、高さ八百米、巾九米。村名は水名に因む。水名は古くは「あまのかは」とも云ひ、夫木集に「吉野山花やちるらん天ノ川雲の堤をあらふしらなみ」と見ゆ。寛正四年六月山田義就、紀州岡の城を忍び出で天川より末々の人をば暇賜はり三十餘人計りにて深山を凌ぎ北山とやらに忍び給ふと長祿記に見ゆ。「おほやまれんげ自生地」指定天然記念物。本植物は朝鮮・北支に廣く分布する植物にして、本邦にては四國・九州に産するも、本地は特に此の樹の群生するところあるを以て名あり。「天川神社」大字坪内に鎮座。郷社。祭神、市杵島姫命・藏王彦命・若一王子伊弉玉命。創建年代詳かならず。吉野朝の頃、後醍醐・後村上・後龜山各天皇の御崇敬篤し。足利義滿・豊臣秀吉等武將の崇奉あり。天正五年炎上、寛永年中再建す。古來天川莊二十一ヶ村の氏神たり。社地は吉野の奥、天川峽谷の中に位置し、四面森林鬱蒼たり。例祭、六月七日・十月亥日。「藏王堂」藏王權現及び役小角像を安す。堂は大峯山峰中の主峰山上ヶ嶽頂上に位置し、標高一八八一米あり。古來修験道の靈地として名高く、天台宗聖護院に屬する當山派は吉野より移入し、眞言宗三寶院に屬する本山派は金峯山より移入す。毎年四月十日に山を開き、十月十日山を閉づ。

テナガシロ 天狗ヶ城

久住山塊の一峯。主峯久住山(一七八八米)の北東方に接し、大分縣直入郡都野村に屬す。標高一七五〇米。山は疊々たる巨巖より成り、恰も城塞の如くなるに因り山名出づ。東麓に御池あり。キャンプサイトに

テナガシロ 天狗ヶ城

久住山塊の一峯。主峯久住山(一七八八米)の北東方に接し、大分縣直入郡都野村に屬す。標高一七五〇米。山は疊々たる巨巖より成り、恰も城塞の如くなるに因り山名出づ。東麓に御池あり。キャンプサイトに

テナグタナ 天狗棚山

關東山地秩父山塊大菩薩連嶺の一峯。大菩薩嶺(二〇五七米)の南方約一料餘、山梨縣北都留郡七保村・小菅村と東山梨郡神村との境上に峙つ。山頂二峯に分れ、北峯は一九二〇米、南峯は一九四〇米を算し、その中間に石丸峠を挟む。石丸峠は舊小菅大菩薩路に當る。北西稜は熊澤山・大菩薩峠を経て大菩薩嶺に連り、南稜は小金澤山・黒岳山に續く。山頂は茅ヶ山、山體は熊笹にて蔽はれ、西面のスロープを狼平と稱す。山名は東側に天狗棚と呼ぶ譯のあるに因る。

テナグハラ 天狗原山

富士火山帶妙高火山群の一峯。妙高山(二四四六米)の西方約九料、新潟縣中頸城郡杉野澤村と長野縣北安曇郡中土村との境界に峙つ。標高二一九七米。北東麓に金山・燒山・火打山嶺、南麓は藥師岳・乙見山峠等を経て遠く戸隠山に連り、東方妙高山との裾合より眞川發して南東流す。緩やかな圓頂を有し、山中に神の田圃と稱する原あり、また瀧地・池塔あり、高山植物の咲き亂る、草原もあり。なほ佛岩等の奇岩横はる。山頂より妙高山塊の大觀、戸隠連山の遠望、日本海の展望あり。登山は南西麓笹ヶ峯牧場方面より、又は西麓小谷温泉方面より行ふ。【テナコク】天谷面 朝鮮平安南道中和郡の東南部。郡邑中和を距る東南東約



二〇軒。地東西に狭長にして、東西約一八軒、南北四一八軒あり。東南境や、高...

テンコク 點谷面

朝鮮慶尙北道義城郡の東北部。郡邑義城に東隣す。城内は老年期の丘陵地帯を成し、中央を洛...

テンジン 天神

【天神川】 東京市本所野川と源森川とを南北につなぐ川。一名、横十間川。龜戸...

テンセンツツ 天宜勿山

朝鮮咸鏡南道長津郡上南面・西面と平安北道江界郡龍林面とに跨る山。臥礫峰山脈中...

テンソウ 田倉面

朝鮮平安北道昌城郡の北部。郡邑昌城の東方約一〇軒。蓋馬嶺岩臺地の西北縁に當り、東北...

テンチュウ 天柱面

朝鮮黃海道黃州郡の東北部。郡邑黃州の北に隣す。馬鼻嶺山脈の支脈及び、南境に三峯...

テンシ——テント

テンシ 天童

十二年鐵橋に架け替ふ。此の橋附近は毎年七月廿五日の天神祭(天滿祭)に殷盛を...

テンドー 天童町

山形縣羽前國東村山郡の北部。山形市の北方約一一軒。北は北村山郡西部に隣接し、楢岡...

テント 天幕

大豊線の一驛(昭和九年設置)。樺太留多郡留多加町にあり。年設置。樺太留多郡留多加町にあり。

テントー 天道

福岡縣嘉穂郡穂波村の大字。筑豊本線の天道驛(明治三十四年設置)あり。

テンドー 天童

山形縣羽前國東村山郡の北部。山形市の北方約一一軒。北は北村山郡西部に隣接し、楢岡...

テンジンヤマ 天神山

千葉縣上總國君津郡の西南部。湊町の南隣にあり。南は安房郡保田町と隣す。面積二四方軒餘。東・南・西...

テンジンマチ 天神町

靜岡縣濱名郡にありし村。大正五年一部を濱松市に編入し、更に同十年残部を濱松市に編入す。

テンシ

東方約一〇軒、西北は内子町に界す。面積約一三方軒。東半は高度三百米の山地にして西方に傾き、西境には小田川(畷川の上流)南流し、それに沿ひて小盆地あり、耕地よく拓く。農産に米・麥・蕎麥等を出し生糸の製造あり。内子町に出づれば大洲街道ありてバスを通ずるも、村内の交通は未だ便ならず。村名は村民の天神社(村社天滿神社)を氏神とし、これを信仰の中心として村を立てし故に起るといふ。



時宗。弘安元年源頼直の開基。一週上人高弟一向俊聖の開山。近年に至るまで時宗十二派中天童派の本山たりしが、いま一向派に合してその中本寺たり。

テンドー 田頭村 岩手縣陸中  
國岩手郡の西北部。岩手山(二〇四〇米)の東北斜面に位す。西南半部は針葉樹多き森林なるも、東北半部は傾斜極めて緩き平坦面をなし、松川とその支流東に貫流し田地よく拓け、農業主として行はれ米・大豆・神・蕎麥・馬鈴薯を産す。盛岡に起る津輕街道と省線花輪線は東境に近く東隣大更村を南北に通じ、後者は大更驛に近く交通不便ならず。

テナン 天南面 朝鮮咸鏡南道豊山郡の東端。南北六〇軒、東西一五軒乃至二五軒の廣大なる地區を占め、東境は檢徳山(二一五〇米)・萬塔山(二〇〇三米)・大徳山等の連嶺により端川郡と劃し、東北端には天火嶺聳え、西北及び西には白茅峯(一九〇九米)・靛峯・黄土嶺・希砂峯(一七六〇米)・頭雲峯・秋洞山等、南境には大徳山(一四四七米)・劍徳山等連なる。而して東西兩山地の間に縱谷南大川ありて南流し、西方より來る虛川江水力電氣の貯水池の逆流水路ほと前者と並流し、洪君里、魚坪里に大發電所設けらる。耕地は主として南大川沿岸及び比較的緩傾斜地に之を見る。氣候沍寒にして冬季積雪一米近くに及び、嚴寒の際には氷點下一七度に達することあり。産物に

は大麥・燕麥・大豆・粟・玉蜀黍・蕎麥・馬鈴薯等の農産、木材・蜂蜜・生牛等あり。また鐵産に富み、中央部の洪君里を中心としてマグネサイトの豊富なる埋藏あり、また豊南嶺山・通里金銀等より金・砂金・銀を出す。道路は端川・甲山間の三等道路域内を縦貫すれど險坂多く交通便ならず。本面はもと甲山郡に屬し、大正三年豊山郡新設に際しその管轄となる。

テンネー 天寧 根室本線の貨物驛(大正十二年設置。北海道釧路市にあり。

テンノー 天王 秋田縣羽後國南秋田郡の中部。土崎港町の西北約一二軒。西は船越町に接す。面積約三四方軒。八郎湯の東南部に突出せる砂洲の地を占め、西方男鹿半島東南部の船越町とは細き水路を以て隔てらる。地形、西北より東南に長く、東北部は八郎湯に、西南は日本海に面す。日本海岸は屈曲なく、砂濱をなし、八郎湯に面する部分は沼地多く、水田拓く。米を産す。船川街道と省線船川線中部を東南より西北に通じ、省線に二田驛(大正二年設置)あり。この地は和名抄、秋田郡方上郷の内なり。船越町との間に未だ八龍橋の架設せられざりし時は舟渡なりしかば、本村をも往昔は船越と稱せしが近世、兩村同名により混同し易きを以て牛頭天王の稱號に依り天王村と改む。

〔立野牧〕和歌の名所。本村の邊を稱すといふも詳ならず。古歌、みちのくの秋田る古墳あり、養和元年八月祭主大中原定隆源氏誅滅の勳説を奉じ、伊勢神宮參詣の途次、病みて卒し此處に葬るといふ。テンビ 天妃山 磯原町、茨城縣)テンボ 天保山 大阪府)テンボ 傳法村 靜岡縣駿河國富士郡の南部。東南は吉原町に、西南は澗井川に依り富士町に界す。面積約六、五方軒。北部は富士山南麓裾野の末端にて緩傾斜をなし、林野・畑地あり、南半は平坦にて田地多し。物産は米を主とし茶を出し、また江東製藥富士工場在りて藥品の産額多し。駿州中道往還、吉原町にて東海道より岐れ中部を西北に貫通し大宮町へバスを通じ、社線富士身延鐵道の入山瀨(瀨岡村)・立堀(富士町)兩驛に近く、また省線東海道本線富士驛(も)ベスの便ありて交通比較的便なり。村内淺間神社の左側後方より火災に罹りし布目瓦を出すこと夥し。彼の貞觀五年六月定頼寺に列せられし富士郡法照寺の遺址にあらざるか。此附近にはまた古墳あり。中にも伊勢塚(圓墳)は最大にして基周一五・三米。高さ六・七米、當初は二段に築成せられしが如し。その附近には墳輪の破片散亂す。もと郡役所所在地にして、いま吉原區裁判所あり。〔富知六所淺間神社〕大字傳法に鎮座。郷社。祭神、大山祇命。相殿に木花立佐久夜比賣命等五柱を祀る。一説に式内富知神社これなりといふ。今川・武田・豊臣の諸氏これを

の山は秋霧の立野の駒も近つきぬらし」〔鞍掛森〕字下出戸にある森。昔、秋田城介實季が脇本を攻めし時、此處にて乗馬の鞍を卸して大暑を避けて休息したる故の稱なりと。〔東湖八坂神社〕大字天王に鎮座。縣社。祭神、健甕素佐之男大神。桃園天皇寶曆二年勸請といふ。また桓武天皇延暦十二年坂上田村麿勸請とも傳ふ。その沿革詳ならずれど古代民族移動研究の一好資料たるべき神社なり。例祭、七月七日。

〔天王〕靜岡縣濱名郡にありし村。昭和二年、北隣市野村と合併して新に長上村を建つ。

〔天王山〕大山崎村(京都府)

テンノージ 天王寺 大阪府十五區の一。市の東南部に位し、東は東成區、北は東・南の兩區、西は浪花區、南は住吉區に相對す。面積四・四平方軒、十五區中の第四位の面積廣なり。地形は市内を南北に縱走する地壘式臺地上に位し、比高約二〇米、茶臼山(二一・八米)等ありて高燥なり。古來この形勝の位置により、或は國府廳が設けられて政治上の中心たりしことあり、或は四天王寺が設けられて、信仰の中心をなし、或は大坂各陣に家康が本陣を置きしが如き、軍事上にもこの地形を利用せしこと少からず。其他、官幣大社生國魂神社、夕陽丘の勝鬘院あり。天王寺公園には音樂堂・動物園・市民博物館等あり。またこの聖

地は教育の中心として利用され、大阪商科大學・外國語學校・天王寺師範・府立高津中學・夕陽丘高女その他の公私立中等學校あり。大阪市内に於ける便利且つ最も閑靜なる理想的住宅區を形成す。

テンノーションデン 天王新田 新潟縣北蒲原郡本田村にあり。

テンノツジ 天辻峠 奈良縣吉野郡大塔村と宗檜村との間に在る峠。吉野または賀名生より十津川郷に入る要路に當り、十津川と丹生川(吉野川の一支、黒瀧川ともいふ)との分水界をなす。海拔八九七米。元弘年間、藤原親王が十津川に隠れ給ひし時此處を通られ、近くは文久三年天誅組の浪人も亦この峠によりて諸藩の兵を防ぐ。

テンパイ 天拜山 筑紫山脈春振山塊東端部の一峯。福岡市の南東方約一六軒。福岡縣筑紫郡二日市町と山口村との境上に聳ゆ。天列山とも云ふ。古名あま山。花崗岩より成る。山上に天滿神社ありて菅公の靈を祀る。延喜式神名帳に見ゆ荒穂神社はこれなりと云ふ。菅公の山に登りて冤罪を天に訴へ給へりと俗説す。山中に小瀑布あり。又近くに大僧都信聰の碑あり。

テンバク 天白 愛知縣尾張國愛知郡の西部。名古屋市の東に隣り、南は鳴海町、東は日進村に接し、面積約二三・五方軒。愛

知丘陵の東端部に位し、西北の名古屋市と、南の鳴海町との間には共に低き丘陵あるも、中部は平坦にして日進村より來る天白川西南に流れ名古屋市の東南境をなして伊勢海に注ぐ。耕地よく拓けて米・蕎麥・野菜等の農産に富む。また高針礦山の礦區の一部を占め亞炭を産す。飯田街道をはじめ名古屋市の間に道路よく改修せられて交通便利なり。この地は和名抄、山田郡加世郷の内か。明治三十九年、平針村・鳥野村・植田村・彌富村を廢し本村を置く。村内に明治天皇八事御野立所あり、史蹟に指定さる。

〔天白川〕愛知縣愛知郡にある川。源を郡の西北山地に發し西南流して鳴海町の西を過ぎ伊勢海に注ぐ。流程約二〇軒。鳴海町まで舟楫の便あり。

〔天白村〕三重縣伊勢國一志郡の東部。伊勢海に沿ひ、松坂市の北方約四軒。面積約五・六方軒。地形極めて平坦にして北及び南は共に入江によりて限らる。田畑よく拓けて米・蕎麥を産し蕎麥も行はれて蕎麥を出し海岸は水産に富み、また工業あり。參宮街道、省線參宮線及び參宮急行電鐵伊勢線並走して南北に貫き、參宮線に六軒驛(明治二十六年設置)、伊勢線に天白驛(昭和五年開業)ありて交通便なり。古くは和名抄壹志郡須可郷の内に屬せるもの如し。大字會原に塞址あり、北畠國朝の將天花寺氏の居處なりと。また字上之郷に勅使塚、或は御門塚と稱す

る古墳あり、養和元年八月祭主大中原定隆源氏誅滅の勳説を奉じ、伊勢神宮參詣の途次、病みて卒し此處に葬るといふ。

テンボ 天保山 大阪府)テンボ 傳法村 靜岡縣駿河國富士郡の南部。東南は吉原町に、西南は澗井川に依り富士町に界す。面積約六、五方軒。北部は富士山南麓裾野の末端にて緩傾斜をなし、林野・畑地あり、南半は平坦にて田地多し。物産は米を主とし茶を出し、また江東製藥富士工場在りて藥品の産額多し。駿州中道往還、吉原町にて東海道より岐れ中部を西北に貫通し大宮町へバスを通じ、社線富士身延鐵道の入山瀨(瀨岡村)・立堀(富士町)兩驛に近く、また省線東海道本線富士驛(も)ベスの便ありて交通比較的便なり。村内淺間神社の左側後方より火災に罹りし布目瓦を出すこと夥し。彼の貞觀五年六月定頼寺に列せられし富士郡法照寺の遺址にあらざるか。此附近にはまた古墳あり。中にも伊勢塚(圓墳)は最大にして基周一五・三米。高さ六・七米、當初は二段に築成せられしが如し。その附近には墳輪の破片散亂す。もと郡役所所在地にして、いま吉原區裁判所あり。〔富知六所淺間神社〕大字傳法に鎮座。郷社。祭神、大山祇命。相殿に木花立佐久夜比賣命等五柱を祀る。一説に式内富知神社これなりといふ。今川・武田・豊臣の諸氏これを

の山は秋霧の立野の駒も近つきぬらし」〔鞍掛森〕字下出戸にある森。昔、秋田城介實季が脇本を攻めし時、此處にて乗馬の鞍を卸して大暑を避けて休息したる故の稱なりと。〔東湖八坂神社〕大字天王に鎮座。縣社。祭神、健甕素佐之男大神。桃園天皇寶曆二年勸請といふ。また桓武天皇延暦十二年坂上田村麿勸請とも傳ふ。その沿革詳ならずれど古代民族移動研究の一好資料たるべき神社なり。例祭、七月七日。

〔天王〕靜岡縣濱名郡にありし村。昭和二年、北隣市野村と合併して新に長上村を建つ。

〔天王山〕大山崎村(京都府)

テンノージ 天王寺 大阪府十五區の一。市の東南部に位し、東は東成區、北は東・南の兩區、西は浪花區、南は住吉區に相對す。面積四・四平方軒、十五區中の第四位の面積廣なり。地形は市内を南北に縱走する地壘式臺地上に位し、比高約二〇米、茶臼山(二一・八米)等ありて高燥なり。古來この形勝の位置により、或は國府廳が設けられて政治上の中心たりしことあり、或は四天王寺が設けられて、信仰の中心をなし、或は大坂各陣に家康が本陣を置きしが如き、軍事上にもこの地形を利用せしこと少からず。其他、官幣大社生國魂神社、夕陽丘の勝鬘院あり。天王寺公園には音樂堂・動物園・市民博物館等あり。またこの聖

祭、五月三日。

テンボ 傳法 大阪府)テンマ 天滿 大阪府北區の南、淀川の右岸の稱。北は長柄・豊崎、東は川崎、西は北野・曾根崎・堂島に接す。この邊はもと渡邊と稱せしが、この地に祀られし天滿天神より天滿の稱起る。天滿はもと大阪三郷の一にして、大河(淀川)の南にある大阪城附近の上町と稱せし大阪や、その西の船場と對立して早く繁華の地となれり。いま天神橋筋を境として東天滿・西天滿といふ。城東線の天滿驛(明治二十八年設置)は北區南錦町にあり。好色二代男・二、常には虫もふまぬかた様なれども、世渡りとしてすばん突になつて、天滿におはしけると云。

〔天滿橋〕大阪市の淀川(大川)に架したる三大橋の一。東區谷町一丁目より對岸の北區天滿の空町一丁目に架す。天神橋の上流にあり、長さ約二一七米、幅一米。明治十八年の大洪水により天神橋と共に流され、同二十一年鐵橋となる。近年淀川の改修工事により河幅を減じ南側の一部陸橋となる。橋の南詰に京阪電車の起點あり。毎夏天神祭(天滿祭)には

祭、十月十五日。

〔天滿村〕奈良縣大和國高市郡の西部。畝傍町の西方に近く、西は北葛城郡東南部に、南は南葛城村東部に接す。面積約二・九方軒の小村。奈良盆地の南端部に於て東境に一小丘ある外は全村極めて平坦にして西境に沿ひ葛城川北流す。水利よく田畑拓け米・蕎麥を産しまた蕎麥行はれて蕎麥を出す。外に寶藥の特産あり。



東北の今井町と西南の御所町を結ぶ縣道ありてバスを通ず。西は省線と歌山線新庄驛に、北は社線大阪鐵道の坊城驛に近く交通不便ならず。古くは和名抄に高市郡巨勢郷とある地に屬す。村名は天満宮あるに因る。「天満神社」大字根成柿に鎮座。祭神、菅原道真。古來當村の産土神たり。例祭、九月十五日。

【天満村】愛媛縣伊豫國宇摩郡の西北隅。西は新居濱市との間に新居郡多喜濱村・神郷村を挟みて、北は燒津に面す。面積八・二方軒餘。西半は地質上讃岐山脈の餘波をなす高さ二百米臺の山地にて、その北肢は海に迫りて徳崎をなすも、東半部は東隣蕪崎村に連る低平の地にて田畑よく拓く。農産に米・麥・繭の産あり。交通には南隣土居村の省線豫讃本線土居驛に出づるを便とす。村名は村社天満神社に因むと。明治二十二年町村制施行の際蕪崎村と合して満崎村と稱せしが、同二十八年分離開立す。「八雲神社」大字天満に鎮座。祭神、奇稻田姫命・手摩乳命・素戔鳴命。神代、素戔鳴命の地に假殿を營み御逗留あらせられ、のち御立退ありし後、假殿を修補し尊を祭祀しに創まるといふ。推古天皇御宇社殿を建立、正保三年更に舊社の下に一社を建立す。例祭、十月十二日。

テンマ 天摩

【天摩而】朝鮮平安北道龜城郡の西北部。郡邑龜城の西方約一五軒。蓋馬嶺岩臺地

新傳馬町と稱せり。四谷驛町も寛永十五年大傳馬町の代地となり、大傳馬町町に準じてこの稱を用ふ。殊に日本橋區に在るもの最も有名。日本永代藏・四「本町の呉服棚それぞれ錦を飾り、傳馬町の絹屋綿屋も同じ棚つき、佐久間の面は萬の紙賣」舊觀帖・中、花の江戸の町、馬喰町より立出て、横山通、鹽町の唐にもかかる町並は、まだありあけの油町、傳馬町より横切れに、堺町へと曲り角

テンマバヤシ 天間林村 青森縣

陸奥國上北郡の中部西側。七戸町の北に隣り西は東津輕郡東津輕に接す。東西約三一軒、南北六一三軒、面積一九八方軒餘の大村。西半は奥羽山脈の山地にて、火山岩によりて蔽はれ、西北境に三角嶽(七四八半)、西境に折紙山(九二二米)、西南境に八幡嶽(一〇二〇米)等あり、東半は三本木原の北に連る原野なり。坪川は西境の清水を併せて東流し東南部にて中部山地の東側よりの中野川を合して東境にて七戸川となり、小川原沼に注ぐ。西部には森林、中部には牧地、東部には水田あり。米・林檎を産し、牧馬行はる。軍馬補充部七戸支部は中東部にあり。陸羽街道は中部を南北に通じ、北方東北本線の乙供驛・千曳驛(共に北隣甲地村内)に遠からず。みなバスの便あり。本村は壺の碑のありし地として知らる。今の村社千曳神社は其址なりと。「花松神社」大字花松に鎮座。祭神、保食命。

の西縁に位置し、天摩山(一一六九米)北境に屹立し、山脚二派に岐れて東境に銀倉山(九三一米)、青龍山(九二〇米)・徳峰(七九九米)等を崛起し、西境に楸山(八一九米)・剣岩山等を起して西隣の館西面と劃し、之等周縁山地に發源せる天倉江は面の中央を南流し沿岸僅少の低平地を見る。産物は米・粟・稗・大小豆・玉蜀黍・蕎麥・大麻等の農産の外、鑛産多く、龜城金山(金・銀・銅・鉛・黒鉛)・三成鑛山(金・銀)・橋洞鑛山(金・銀)・但し鑛區は湖州郡外南面に跨る。天摩金山(金・銀)・西鮮鑛山(金・銀)・寶倉金銀鑛(金・銀)・安倉里鑛山(金・鉛)等あり。特に龜城金山は古河石炭鑛業會社の經營に係り産額金七三三八五、銀六六二九五、金銀鑛七七四三(七萬二千圓)。使役人員約三百、昭和十年以下に準ず。三成鑛山は三成鑛業株式會社經營にて金一六〇二二〇瓦、銀六〇九七九瓦、金銀鑛六九六五、四萬八千圓、使役人員約五百。安倉里鑛山は鹽田鑛山株式會社經營にて金銀鑛四一六三、七萬四千圓、また橋洞鑛山は橋洞金山株式會社の經營にて金一四六四六〇瓦、銀五四一七一瓦、金銀鑛一五七六瓦(七一萬一千圓、使役人員約八百)を出す。道路は東南方龜城より來る二等道路中部を横斷して西方永山市・義州方面に出で、また南方宜川に至る道路を岐ち、何れもバスの便あり。中央部天倉江左岸の塔洞は聚落中最も大きく、

社傳に慶長二年の創立勸請と記すも、その由緒起等を詳にせず。例祭、五月十九日。(壺の碑)大字天間館の坪村といふ所にありしと傳へらる古碑。古く袖中抄に「石文や希婦の袂布はつはつに逢ひ見てもなほ飽かぬ今朝かな。顯昭が云、石ぶみとは陸奥の奥に、つもの石文あり日本のほとと云へり。但田村將軍征夷の時、弓の弭にて石の面に日本の中央のよしを書き付たれば石文といふといへり。信家侍従の申ししは石の面長さ四五丈ばかりなるに文彫り付けたり、其の處をばつぼと云ふ。それをつもとは云ふなり。私云陸奥の國に東のはとと思へど、えぞの鳥は多くて千鳥とも云ふは陸地を云はんに、日本の中央にても侍るにこそ」と見え、また、古歌にも「思ひこそ千鳥の奥を隔てねどえぞ通はきぬ壺の石ぶみ顯昭」「石文や津輕の遠にありと聞くえぞ世の中を思ひ離れぬ 清輔」「陸奥の奥ゆかしくぞ思はゆる壺の石ぶみそとの濱風西行」「みちのおく壺の碑ありと聞く何れか戀の境ひなるらん 寂蓮」等詠まれ、陸奥の奥、津輕の果に考へられしこと明かなり。而して坂上田村麿建碑説は、田村麿の征夷の業は志波城を以て北限となせるが如く、若し眞に建碑の事實ありとせば弘仁の頃、武蔵殿(二戸郡金田一村)都母・幣伊村(從來、陸中閉伊郡に比定するも當らず、思ふに一戸・二戸の戸はこの幣伊に由来せしものにしてほぼ今の

前記鑛業地帯の中心聚落を成し、郵便所及び市場あり。【天摩山】朝鮮平安北道の西部、湖州・龜城・義州の三郡に跨る山。飛來峯山脈の西縁に聳え、標高一六九米。東斜面に大寧江、西斜面に三橋川の支流天摩江發源す。【天摩山】朝鮮京畿道開豐郡の北部に聳ゆる山。馬鼻嶺山脈の南縁にして、開城府を距る北方約一〇軒。標高七六二米。頂上の東に大興山城址あり、周回凡そ一〇軒に近く、城壁の跡今に存す。山城内の水は朴淵瀑布となり北流して鏡成江に注ぎ、また東面には沙尾川、南面には砂川發流し共に臨津江に入る。山中に大興寺を始め寺刹多し。【天摩山】石北線の一驛。昭和四年開設。北海道石狩國上川郡上川村にあり。

テンマチヨ 傳馬町

市日本橋・四谷兩區の町名。昭和の帝都復興前には京橋區にも南傳馬の町名を存し、明治五年以前には赤坂にも表傳馬・裏傳馬の町名ありしが、その起原は一なり。天正十八年八月徳川家康が江戸入國の當時、城下寶田村・千代田村に傳馬を業とせる者あり、その住地が後の傳馬町の起原をなせるものなり。南傳馬町の名主高野氏の撰要永久録によると寶田村は後の奥服橋門内、千代田村は常盤橋門内なりといふ。慶長十一年築城の際、この

一戸町または福岡の附近の一部落なるべし)の夷を伐ちし文室繪等之事蹟に考ふべきやうに思はる。しかし事實は石文なる地名のありしところより和歌等に詠ぜられ、之により眞に碑のありし如く信ぜられ、種々なる説を生ずに至りしものならん。一説には南部對内郷村志に「石文の里は古昔公家方何の中納言やらん、奥州此處に配流の節京都の事を思出し泉水にて平石に心中を書き、都の妻庭へ出て見るに、石にありありと文字あらはる。よりて石文といふ、後世其石は澤へ落ちたりと、公家屋しきの跡今はなし」等の傳もあり。碑はのちに土中に埋め上に祠を建て千曳神社として崇拜せらるることとなれり。また彼の多賀城碑の世に宣傳せらるるや往々壺の名を負へるは、要するにこの地名傳説に由来せる所在不明の名所を己の郷土に引きつけ、附會の説をなすに至りしものなり。

テンマン 天満山

岐阜縣不破縣關ヶ原町にある小丘。關ヶ原町

テンモク 天目山

木賊村にある山。吉野時代の頃僧業海、元より歸朝し此山に棲雲寺を開き、彼地の天目山に倣ひて木賊山を改めて天目山と號せしといふ。應永二十三年、上杉禪秀鎌倉に亂を作すや、武田信滿これに黨す。既にして足利持氏、上杉憲宗をして之を伐たしむ。信滿力及ばず、同二十四年二月此地に自殺す。天正十年、武田勝

兩村は移されて郭外に出で、日本橋に轉せしものが大傳馬町・小傳馬町となり、京橋に移りしものが南傳馬町となる。小傳馬町は、慶長年中郭内の傳馬町を外に移せし時その代地に給せられたる所にて、往時しり繩町と稱せしは獄舎の役夫をこの町より出したるに由るといひ、大傳馬町はもと大傳馬町に屬し、入堀がありて壺を隨揚せしをもつてこの町名あり。小傳馬町はまた慶長中の移轉、名主宮邊又四郎が驛遷の事を司りしによりての稱あり、この地は昔時六本木と呼ばれて、奥州街道の驛站なりといふ。大傳馬町も慶長十一年の移轉、名主馬込勘解由が驛遷のこと司りしをもつてこの名あり、一丁目に木綿店、二丁目に書店の俵あり。南傳馬町は慶長十一年奥服橋内より移轉し、驛次の公役夫を出してこの稱あり、南の字を加へしは、大傳馬町・四谷・赤坂傳馬町と區別せん爲なりき。赤坂の表傳馬町は寛永十三年南傳馬町の傳馬役高野新右衛門等三人に給せし土地にして、同十五年赤坂新傳馬町と稱せしが、後分ちて五箇町とし、表傳馬町一・二丁目、裏傳馬町一・二・三丁目と呼び、明治五年七月表傳馬町一丁目を改稱して表一丁目とせり。表二丁目は元の表傳馬町二丁目にして、裏一・二・三丁目は元の裏傳馬町一・二・三丁目の改稱にして、何れも明治五年七月に於て變更せり。四谷傳馬町は寛永中大傳馬町を移し、當時

續、織田・徳川の軍に敗られ、三月新府を燒き、岩殿城に至らんとし、駒澤に至る。小山田信茂叛して笹子峠に在り。故に道を轉じて天目山麓なる田野に達す。十一日、瀧川一益・河尻鐵吉等の追及急なり。勝頼、夫人北條氏及び其子信勝と自刃す。其從者三十三人、侍妃十六人、僧二人も殉死す。武田氏二十八世にして技に滅ぶ。

テンラン 天覽山

飯能町(埼玉縣)

テンリユ 天龍

【天龍川】中部地方の巨流の一。長野縣中央部の諏訪湖の水は西岸の岡谷市に流出して天龍川となり、赤石・木曾二山脈間の縦谷を南流し、爰に伊那盆地を作り、總て赤石山系を斜に刻みて缺流をなし、靜岡縣磐田郡掛塚町附近に於て鈍角に發達せる三角洲を擁しつゝ、遠江灘に入る。その支流數二〇二、流域面積四八九〇方軒、長さ二一六軒。比較的急傾斜を流下するを以て激流奔瀾をなす處多し。岡谷より高尾山の東麓を南流して著しき峡谷を造り大城山の麓なる中央本線辰野驛附近にて辰野盆地に出で、西北よりの横川を合流し此處に若き平野を造る。辰野より伊那町(六四三米)を経て飯田市の(五一六米)の稍南方に至る間は狭長なる伊那谷の地溝盆地をなす。伊那谷は南北四〇軒、東西五十六軒。兩岸には第四紀層の中狭き平野あり。田切と河成段丘のよ



く發達せるはこの河谷に於ける二特徴なり。田切とは右岸の木曾山脈東側に著しく發達せる扇狀地が、木曾山脈中より流下する支流に刻まれたる溪谷にて、その支流は大田切川・中田切川・與田切川等の名あり。下諏訪にて中山道より岐るる三州街道は伊那町・赤穂・飯島・飯田市に至る。扇狀地の末端なる段丘上を通じ田切の部分に遭遇する毎にその中腹に上下するを常とす。此間、宮田・赤穂・飯島・片桐・大島等の街村が發達し住民は何れも斯かる扇狀地上に水害を見ぬ安全なる高原生活を營む。山麓線に沿うて集村あり、都市型聚落は扇狀地の中央部又は三峯川の谷口を扼する伊那町の如く伊那山脈よりの大支谷の合流點を占め、山麓地帯は養蠶・薪炭業を營み、扇狀地には桑園拓け、その末端には養蠶・米作行はれ、沖積地は水田發達す。河成段丘は伊那町附近より下流に見らるゝも飯島・飯田間に於て最も顯著なり。最高最舊の段丘は西岸の三州街道に接近して保存せられ海拔七百米以上に位置し、最低最新なる段丘の崖は天龍川床即ち約五百米の邊にありて此の差約二百米の間に一段乃至五段の段丘の發達せるを見る。一段のものは飯田市の北方大島村近傍に、二段又は三段のものは飯田市附近より北方約八軒の間に發達し、五段のものは飯田市の南方にあり。段丘崖の高さは何れも五米以上にして最高一四〇米に及ぶ。斯かる

段丘の成生せるは天龍川の本流、又は支流が谷底に廣き沖積平原を造りたる後、新たに天龍河谷一帯の上昇運動を起し、又は天龍川の下流が新たな流路を開鑿して再び谷底の浸蝕を開始し、谷底内に更に幼年期の峽谷を生じ兩岸に階段地を存せしよる。段丘を構成せる岩層は主として花崗岩及び古生層の諸岩より成る。支流には西岸に大田切川・中田切川・與田切川等、東岸に三峯川・小湫川等もあるも皆長大ならず、其他、多くの小支流は悉く殆ど直角の流路をとり本流に合す。天龍川の峽谷は飯田市の南八軒なる時又は始まり、花崗岩・片麻石・結晶片岩等の赤石山脈を刻み天龍峽附近にて百米以下の斷崖をなし、更に下流八軒の大島村附近(三四一米)に於ては三百米に達し、岩石裸出して幼年谷の特徴を示す。著名なる天龍峽は時又より下流十餘軒の峽谷に名付けしものにて花崗岩より成る勝景の地なり。謂ゆる天龍下りとは時又より鹿島に至る間の約百軒、其間、樹木に蔽はれし兩岸切迫し、斷崖直立し急湍奔騰す。此間、天龍兩岸間の交通は殆ど不可能にて大島村の渡船を除けば天龍峽の姑射橋の下流十二軒間は横斷するを得ず。之より以南の峽谷は次第に壯年の谷に變ず。天龍川は下流久間村中部に至るまで紆餘曲折しつつ南に向ひて急流をなすも、中部より久根銅山附近まで急に東に流路を變じ、久根銅山附近よりまた南方に轉

じ山香村西渡より龍山村瀨尻に至る間もまた急流を以て名高く、數十米乃至數百米の斷崖聳立す。此間、中部より西南方豊川の谷に延ぶる一直線の一大斷層谷ありて、大千瀧川この谷を東北に流れ天龍川に注ぐ。天龍川は衝上斷層谷中を約三軒流れ従つて此部分にては流向を東に取る。即ち中部久根銅山間の河谷なり。西渡にて東北背嶺近傍に發源し本流と並行の縱谷を流下する水窪川に入る。龍山村戸倉附近より川は大蛇行をなしつゝ二俣町に達す。此間東岸に氣田川を合す。要するに天龍川は日本に於て最も著しき先行性流路をとり赤石山脈に横谷を刻むものなり。天龍川は二俣町に於て初めて山地を離れ第四紀層の平原に出で掛塚町の南約三軒に於て海に入る。此間は自由に蛇行して見事なる扇狀の荒川を形成し壯年期河川の特徴を呈し或は分派し或は合流し、西方の三方原、東方の盤田原の洪積層の臺間に廣き沖積層の氾濫平野を造る。此の汎濫平野にても更に浸蝕作用を續け兩岸に宮口・濱松市間及び中泉町附近の段丘を造り、且つ豫來に基づく砂礫層の發達著しく、本邦に於ける有名な「荒れ川」として治水を困難ならしめたり。また古來流路の變遷甚しく濱松市の臺地にもその河跡を存し、其後、河道は東に移り舊河道は細流馬込川となりて保存せる。東西の臺地は過去の海岸低地の隆起せるものにて、天龍川が横出せし

砂礫より成り、その山間を出で海岸に堆積せし扇狀地なり。爾後河線次第に下降し天龍川の扇狀地浸蝕起りて新に扇狀地を作り海岸線は前進し古扇狀地は海岸より退却し盤田原・三方原となる。三方原臺地は最高百二十米内外、その末端に濱松市あり、盤田原臺地は高さ百二十米内外にて壯年期の開析をあらはし、末端に見附・中泉あり。本流は大なる鈍角三角洲の頂點に於て海に流れ込み、平野の南方は均齊に發育せる砂濱によりて遠江灘に臨み數條の砂丘發達せり。中流以下の山地には植林行はれ、本流及び大千瀧川、水窪川・氣田川・阿多古川の兩岸には主に杉植栽され、二俣以南の流域平野の畑地には松・杉等、苗木の栽培盛にて特殊農業の景相を示す。静岡・長野兩縣下に亘る天龍川流域の製材工場數は約百を算し其製材能力甚だ大なり。製材業の地理的要因として、水量豊富、落差大にして動力たる水力發電に適する事、及び急流なるため流筏は短時間内に中流の林業地より下流の平野に下し得べき事の二を挙げ得る。池田・中野町・天龍等は沿岸の製材部邑にて、河口には砂洲發達し船舶の出入を妨ぐを以て、製材は天龍川驛に於て東海道本線の貨車に積替らる。流域平野は生薑・絲瓜・落花生・甘藷・切干等の特産物あり。この遠州生薑は全國産額の約九割を占め、絲瓜は約八割を産す。その代表産地は濱名郡赤佐村なり。「天龍川

の渡」静岡縣磐田郡池田村の南に於ける天龍川の渡。渡しは古く數箇所に存在せしものと考へらる。即ち今の濱名郡赤佐村大字於呂の於呂神社、積志村大字大瀨の邑勢神社、豊西村大字羽鳥の聖母神社、芳川村大字都盛の津毛利神社、蒲村の浦太神社等はいづれも延喜式の神名帳に見え、嘗ては渡津の近くに所在して附近部落民の崇敬を受けしものならん。殊に津毛利神社の如きは津守の意より出でたる社號なるべく、明かに渡津の神といふべきなり。かるる見解の下に延喜以前に於ては、凡そ現在の磐田郡廣瀬村を東西に通ずる線、濱名郡笠井町を東西に通ずる線、磐田郡池田村のや、南を東西に通ずる線の三線に於て、渡津のありしことを想像し得べし。元龜三年三方ヶ原合戦の時、武田信玄が野邊の陣營を發して、三方原に出たるは第一線の渡津により、建武二年、新田義貞が矢矧川に高師泰を破りて駿河に逐ひし時、また永享四年、足利義教の富士見物の時にも第二線の渡津によりしものなり。而して第三線の渡津即ち池田村の南のものは江戸時代に於て武士には船賃なく、商人百姓よりは錢六文を取り、將軍通行の際には浮梁を架せしことなど、東海道名所記・羅山文集等に見ゆ。なほ諸國道中抽鏡によれば、船賃は十六文、大水の時にはこやすの森、宮の前より舟に乗りとあり。

テニリー——テニレ

一年設置。静岡縣濱名郡和田村にあり。【天龍峽】天龍川中流の一峽谷。飯田市の南方、龍丘村時又の下流十餘軒の間をいふ。時又の南隣川路村の小盆地を過ぐれば、兩岸忽ち逼仄し、斷崖折裂急湍奔騰、圍繞する鬱蒼たる樹林の美と渾然融合せる絶境に入る。この地は古來「ホッキ」と稱せられしが、弘化四年阪谷朗盧翁これを探勝し、天龍峽之記を作りてより天下に紹介され、越えて明治十五年日下部鳴鶴またこの地に遊びてその勝景を歎賞し、在來の名稱に漢名を充當し、自ら筆を揮ひて岩盤に刻みしもの即ち垂筆・烏帽子岩・姑射橋・歸鷹崖・浴鶴岩・燭々潭・仙林岩・樵麻洞・龍角峯・芙蓉洞の所謂龍峽十勝なり。嘗て英人ロッケもこの美觀を探り故國に歸りて、凡そ世界に於て見る限りの河川美は、悉く集まりて天龍川にあり、ライン河・ダニュープ河の美と雖も及ばざること遠きものあり」と激賞し、大正元年九月には英國皇子コンノート殿下も親しく天龍峽の探勝を試み給ひ、一層その名が喧傳するに至れり。附近の地質は主として片狀花崗岩にて、微粒片狀花崗岩の岩脈の進入、準片麻岩たる黒雲母片岩等もまた至る所に挟在す。この片狀花崗岩は直方狀の節理完全に發達し、この地方の地盤隆起の個體への浸蝕よりも節理に従ふ下刻作用が著しく進み、遂に現峽谷を生成せし

ものにして、節理によりて劈開されし狀態は垂筆・浴鶴岩・歸鷹崖・芙蓉洞等に到る處に展開す。天龍の巖谷美は蝸蝓として信濃兩國に跨るも、通常探勝を志し得るは、社線伊那電鐵の終點なる天龍峽驛附近より、これに連絡する三信鐵道第一鐵橋に至る約一軒の間にて、姑射橋より輕舟に身を托して探勝し、俚語伊那節にいふ「天龍下れば飛沫に濡れる、持たせやられたや椅笠」の境地を味ふも可なり。春は山櫻・山吹・鶯園等、秋の紅葉は一層景趣を添ゆ。西岸には阪谷翁天龍峽の碑の建てられし金屋羅山、山鷹園にて知られし富士山、櫻の名所新公園等あり、天龍峽ホテルの前を過ぎて姑射橋を渡れば展望に富む浴鶴岩・龍角峯・天龍地の靈場・弘法小舎・今村公園等あり。この峽谷の天龍峽を更に南に下ること約二〇軒、南宮橋・湯久久保あたりは兩岸の山は愈々高く、樹は更に密に、水は一層の勢を加へて、鏡子の瀧、大島の橋瀧等の急瀧に心膽を寒からしむる所多く、峽中第一の勝地と稱せらる。

【天龍村】静岡縣遠江國磐田郡の西南部。中泉町の南隣にて面積僅に四・七五方軒の小村。天龍川下流の沖積平野に位し、全村土地平坦にして耕地よく拓け、米・麥等の農産多し。中泉町に接し、また西南は掛塚町にも近く交通便利なり。古は天龍川の河道に當りしより村名起るといふ。「十輪寺」曹洞宗。開創年代不詳。徳川家康嘗て武田信玄と當國一言原に戦ふ。時に當山の本尊船師の形を現はして天龍川を渡してその急難を救ふ。爾來渡船延命菩薩と稱す。小本寺格にて十ヶ寺の末寺を有する郡内有数の巨刹たり。【田寮庄】田寮庄は、遠州高嶺州岡山の東北。岡山の東に隣り、西は旗山郡旗山街に、北は遠州新縣郡關廟庄に隣接す。東部には臺灣香葉山縣の一山脚、旗山郡より連りて丘陵性をなし、西部にも大岡山(三三三米)の丘陵南北に走る。此の中間なる北部・中部に低地あり、北部を二層行溪、西に流れ低地を潤す。農業は産粟の大宗にして農産物には米・甘藷・甘藷・苧麻等を主要なるものとし、其他に蔬菜類・豆類・黄麻等あり、副業として養豚・養鶏も行はる。昭和十一年末現在の統計によれば、内地人は僅に九人にして本郡中に最も少く、殆ど本島人なるを以て農業經營も未だ幼稚なるを免かれず。聚落は東部丘陵性山地の西麓に發達する田寮・南安老、二層行溪の岸なる狗氣氣を大なるものとし、各中心の邑をなす。岡山街及び旗山街に道路通ずるも交通概して便ならず。

テニレ——天嶺山

一峯。伊豆下田の北方約八軒。静岡縣加茂郡下河津村と稲梓村との境上に峙つ。標高四五九米。山頂より海を望む南方景観は美し。東麓谷津温泉と共に近時東京方面よりの遊覽者を増すに至る。



ト 十村

福井縣若狭國三方郡の西南隅。北は八村に接し、西は遠敷郡島羽村、瓜生村等に隣り、東は滋賀縣高島郡三谷村と界す。東境に三十三間山(八四二米)の山嶺南北に連り、南境より西境にかけても高さ三百米内外の丘陵延互し、中部は廣潤なる平地開けて北隣八村の中部に連り田畑よく拓けて米・藪を産し、製絲盛に行はる。丹後街道中部を南北に貫通して自動車を通じ、西北部には省線小濱線走りて十村驛(大正六年設置)あり。古くは和名抄、三方郡能登郷の地とす。中世以降は専ら倉見庄と稱したり。大正井崎に大倉見城址あり、武田氏の麾下奥谷某の居せし所とす。天正中大膳亮直之あり、出でて豊臣秀次に屬し邑五萬石を食みしも、文祿四年秀次の敗にあたり直之また罪を被りて自刃し籍没せらる。〔開見神社〕大字成願寺に鎮座。郷社。祭神、沙木之大關見戸賣神・菅原道眞。弘化六年七月當社出火のため社殿及び書類悉く烏有に歸し、その創建年代沿革等を詳かにせざるも延喜式神名帳に載せられし古社なり。祭神は當郡の彌美神社(耳村、縣社)祭神室屋古玉の御母に在し、室屋古玉は若狭耳別の祖なれば、當社も耳別の氏人が祀れる祖廟なるべし。菅原道眞は後に合祀せるもの。明治四十二年七月、同村の諏訪・愛宕・賀茂・熊野・山・日吉・住吉・八幡の八社を合祀す。例祭、四月五日。(弘誓寺)大字黒田にあり。曹洞宗。大同二年の創建に係る。のち豊臣秀吉の側室たりし江州佐佐木高五の女數千金を報養して修補に充つ。正保二年酒井忠勝祈願のため更に堂宇を修造す。

ト 戸島

熊本縣天草郡久玉村の屬島。久玉村の東南海上約一・二軒。東西約一軒、南北約〇・五軒の小島。最高處は一四七米にしてその山脚直ちに海に迫り沿岸殆ど海崖を成す。東岸に燈臺あり、昭和五年の設置にして、燈質は不動白光、光達距離は八・五哩とす。

ト 利島

朝鮮咸鏡北道の略中央、朝鮮アルプスの一峰。鏡城郡朱南面と茂山郡延社面とに跨り標高二三三・五米。冠帽峰の西南一二軒餘に位し、一帯の山嶺は豆滿江一支なる延水面と、東南流して日本海に入る漁郎川との分水界をなす。

ト 觀峯

日向國(宮崎縣)の古地名。和名抄に兒湯郡觀峯郷あり。中世以後遷りて郡(戸郡)と稱す。建久岡田帳には「郡部百五十町、地頭土持太郎宣綱と見ゆ。いま郡部村あり、郷名の遺稱なりとす。なほ郷域は同村及び近町の一部に亘るか。

ト 斗意

備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に奴可郡斗意郷見ゆ。中世は東莊と稱せしもの如く、のち東條または東城に謬りしものなるべし。いま比婆郡東城町の大字に戸字あり、郷名の遺稱とす。而して郷域は東城町及び久代村の邊に當るべし。

ト 東

朝鮮咸鏡北道明川郡の東北端。郡邑明川の東北約一〇軒。北は鏡城郡に接し、東は日本海に臨む。東部は七寶山地の北縁にて北境に江陵山(七六八米)を崛起し西方に向ひ緩傾斜し、中央を貫流する同潤川以西は中央の老人峰(二〇七米)を中心として四方に展開する極めて平坦なるメーサ状臺地を形成し、東南縁には明潤川、北縁には漁郎川の峽谷發育す。海岸は山脚直ちに海に没してリヤス式海岸を形成し耕地乏しく、東方日本海沿岸に多津川の漁港あり。地面の形の關係上、西部は農業を主業とし東部は漁業及び林業に従事す。産物は農業に米を筆頭に粟・大豆・大麥、馬鈴薯等あり。工業に朝鮮釜・麻布あり。水産物は鱈を第一とし、明太魚・甘藷・若布・昆布・大口魚・鮑・海蔘等あり。道路は西方奉川邑より東方寧邊に通ずる三等道路、西南部低地を横斷してバスを通ずるも、交通未だ便ならず。聚落は東北部の盆地周縁及び西南部低地に主として分布す。香積山の西南麓には古刹陽和寺あり、景勝を以て聞ゆ。

南部は概ね低平にして殊に大寧江沿岸には稍廣き低地横はる。住民の多數は農業を業とし傍ら養蠶を行ふ者尠からず。産物は米・大豆・粟を主とし、工業品には白布・明紗・蠶表等あり。道路は西方奉川邑より東方寧邊に通ずる三等道路、西南部低地を横斷してバスを通ずるも、交通未だ便ならず。聚落は東北部の盆地周縁及び西南部低地に主として分布す。香積山の西南麓には古刹陽和寺あり、景勝を以て聞ゆ。

は一帶に砂濱海岸を成す。耕地は主として東大川河谷及び西南部の丘陵地に發達す。氣候は同緯度の地に比し比較的溫暖なり。物産は大豆・大麥・燕麥・大麻・生牛・明太魚・鱈其他食糧等あり。陸路は利原及び東方端川に通ずる一等道路及び鐵道咸鏡本線海岸沿ひに並走し、後者に諸驛ありて交通便なり。群仙は近海航路の寄港地にして漁港を兼ね、人口約三千、鰯油・鰯控船の産地にて此等製造品の外大豆等を海路元山・釜山方面に移出す。昭和十年中貿易額移出二三一、三六四圓、移入一四四、五五七圓。附近の海岸は松原の美を以て夙に聞ゆ。谷口は東大川左岸平地に位し、魚油肥製造また盛なり。谷口驛の北約四軒、鶴峰(萬徳山)中の福興寺は郡内第一の巨刹にて詣者多く、同驛の南方二軒の日本海岸には學士寮の景勝あり。

朝鮮平安北道楚山郡の北東部。郡邑楚山の東南約一〇軒。蓋馬臺地の西北縁に當り、城内殆んど玄武岩を以て被覆され、中央に高山徳峰(八七二米)のメーサを初め城内八〇〇米高度の幾多のメーサの發達を見る。鴨綠江の支流楚山川其間を蛇曲流し、沿岸に狭長なる河岸段丘の發達を見る。住民は農耕を以て生業とし、傍ら採薪日稼に従ひ又養蠶をなす者あり。産物は大豆・粟・麻・蘆葦・煙草・山蔘・蜂蜜・鮑及び黒鉛等あり。

道路は楚山より来る二等道路の西部を縱貫し南方雲山に通ずるも交通未だ便ならず。聚落は火田民の名残多く概して散村形態を成し、聚落密度小なり。龜龍洞を主邑とす。

朝鮮平安北道楚山郡の略中央。郡邑照川の北東に隣接す。妙香山脈に屬する温谷山(九八五米)・大岩峰(九七五米)等東南境に聳え、北境には角峰(八二〇米)等聳えて域内大部分は山地を成し、東部に清川江、西部には其支流照川江、何れも西南方に流れ照川面に至りて合流す。兩河共に嵌入蛇曲甚しく沿岸に河成段丘の發達を見る。耕地も亦多く段丘上に發達す。住民は農業を主とするも養蠶・機械を副業とする者少からず。産物は粟・大豆を主とし、牛・豚等の家畜及び綿・麻布等あり。また東羽・照川・大浦・新嶺等の鐵山の鑛區に當り、金・銀を産す。總督府鐵道滿浦本線は照川江に沿うて北上し、草上驛(昭和十年設置)あり。道路は前記兩河に並行して南北に縱貫し、一は江界地方に、一は館洞・柔院驛を経て北方江界に通じ、後者には乗合自動車の便あり。

朝鮮平安北道奉川郡の東部。大寧江の東岸に位置し、郡邑奉川とは江を隔てて相對す。妙香山脈に屬する香積山(七八二米)・祈雨山・地靈山等北境に聳えて江東面と對し、餘勢東・南部に及び山地域を形成し、中に小盆地を擁す。西

朝鮮平安南道孟山郡の東南部。郡邑孟山に東隣し、南は鳴徳郡、東は咸鏡南道永興郡に接す。妙香山脈に屬する雲峰(一一三六米)東南境に聳え、北境に

朝鮮咸鏡北道茂山郡の東北部。郡邑茂山の東方五軒。四圍は山地を繞らす。即ち東境に民事峰・東險嶺、北境には加羅支峰、南境には敏峰・棍杖徳山、西境には閔峰山・大閔峰等の諸嶺連り、中央に鶯峰聳え、城内山岳重疊し平地極めて乏しく、之等周縁山地に發達せる諸水は城川水となりて面の中部を北西に流れ茂山邑を経て後豆滿江に合流す。此沿岸僅に耕地を見るも水田極めて少し。氣候は寒氣酷烈にして一年の過半は結氷し殆ど米作は行はず。山地は茂山營林署所管に屬する森林地帯にして樺・赤松・落葉松等の美林に富み林業は此地の重要産業を成す。農産物は大豆及び小麥を主とし玉蜀黍・稗・粟・馬鈴薯等あり、又蜂蜜を産し、西北部は茂山鑛山の鑛區の一部にして鐵・金・銀・銅を出す。社線朝鮮鐵道咸鏡北線は北鮮西部線古茂山驛より分岐し、車輪嶺を経て面の中部を横斷し西方茂山に達し、域内に金鳳・新站共に昭和二年設置、西豐山・珍貨共に昭和四年設置の四驛あり、茂山・清津間二等道路は鐵道と並走し一部バスの便あり。

朝鮮咸鏡南道利原郡の東部。郡邑利原の東に隣り、北は端川郡に接し、南は日本海に面す。北境に鶯徳山(一〇〇一米)及び鴨峰聳立し急傾斜を以て南方に下り、山麓縁に沿ひ東大川東流し頗る興味ある構造物を呈し、西南部一帯は丘陵を成す。海岸は西南の一部を除きて

朝鮮平安南道安州郡の東北隅。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)、面の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五一米)ありて安州邑と對し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。従つて耕地は臺地面及び其傾斜面に發達を見、灌漑不便の關係上知地卓越す。地味一般に膏腴にして農産物豊富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大麥を主とし米・棉花・煙草・牛・馬・明油・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の鑛區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し域内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは域内に更に數條の路線を岐ち、交通比較的便なり。聚落は散村形態を成

朝鮮平安南道安州郡の東北隅。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)、面の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五一米)ありて安州邑と對し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。従つて耕地は臺地面及び其傾斜面に發達を見、灌漑不便の關係上知地卓越す。地味一般に膏腴にして農産物豊富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大麥を主とし米・棉花・煙草・牛・馬・明油・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の鑛區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し域内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは域内に更に數條の路線を岐ち、交通比較的便なり。聚落は散村形態を成

朝鮮平安南道安州郡の東北隅。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)、面の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五一米)ありて安州邑と對し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。従つて耕地は臺地面及び其傾斜面に發達を見、灌漑不便の關係上知地卓越す。地味一般に膏腴にして農産物豊富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大麥を主とし米・棉花・煙草・牛・馬・明油・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の鑛區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し域内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは域内に更に數條の路線を岐ち、交通比較的便なり。聚落は散村形態を成

朝鮮平安南道安州郡の東北隅。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)、面の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五一米)ありて安州邑と對し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。従つて耕地は臺地面及び其傾斜面に發達を見、灌漑不便の關係上知地卓越す。地味一般に膏腴にして農産物豊富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大麥を主とし米・棉花・煙草・牛・馬・明油・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の鑛區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し域内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは域内に更に數條の路線を岐ち、交通比較的便なり。聚落は散村形態を成

朝鮮平安南道安州郡の東北隅。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)、面の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五一米)ありて安州邑と對し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。従つて耕地は臺地面及び其傾斜面に發達を見、灌漑不便の關係上知地卓越す。地味一般に膏腴にして農産物豊富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大麥を主とし米・棉花・煙草・牛・馬・明油・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の鑛區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し域内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは域内に更に數條の路線を岐ち、交通比較的便なり。聚落は散村形態を成

朝鮮平安南道安州郡の東北隅。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)、面の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五一米)ありて安州邑と對し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。従つて耕地は臺地面及び其傾斜面に發達を見、灌漑不便の關係上知地卓越す。地味一般に膏腴にして農産物豊富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大麥を主とし米・棉花・煙草・牛・馬・明油・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の鑛區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し域内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは域内に更に數條の路線を岐ち、交通比較的便なり。聚落は散村形態を成

朝鮮平安南道安州郡の東北隅。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)、面の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五一米)ありて安州邑と對し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。従つて耕地は臺地面及び其傾斜面に發達を見、灌漑不便の關係上知地卓越す。地味一般に膏腴にして農産物豊富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大麥を主とし米・棉花・煙草・牛・馬・明油・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の鑛區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し域内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは域内に更に數條の路線を岐ち、交通比較的便なり。聚落は散村形態を成

朝鮮平安南道安州郡の東北隅。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)、面の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五一米)ありて安州邑と對し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。従つて耕地は臺地面及び其傾斜面に發達を見、灌漑不便の關係上知地卓越す。地味一般に膏腴にして農産物豊富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大麥を主とし米・棉花・煙草・牛・馬・明油・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の鑛區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し域内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは域内に更に數條の路線を岐ち、交通比較的便なり。聚落は散村形態を成

朝鮮平安南道安州郡の東北隅。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)、面の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五一米)ありて安州邑と對し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。従つて耕地は臺地面及び其傾斜面に發達を見、灌漑不便の關係上知地卓越す。地味一般に膏腴にして農産物豊富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大麥を主とし米・棉花・煙草・牛・馬・明油・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の鑛區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し域内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは域内に更に數條の路線を岐ち、交通比較的便なり。聚落は散村形態を成

朝鮮平安南道安州郡の東北隅。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)、面の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五一米)ありて安州邑と對し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。従つて耕地は臺地面及び其傾斜面に發達を見、灌漑不便の關係上知地卓越す。地味一般に膏腴にして農産物豊富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大麥を主とし米・棉花・煙草・牛・馬・明油・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の鑛區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し域内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは域内に更に數條の路線を岐ち、交通比較的便なり。聚落は散村形態を成

朝鮮平安南道安州郡の東北隅。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)、面の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五一米)ありて安州邑と對し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。従つて耕地は臺地面及び其傾斜面に發達を見、灌漑不便の關係上知地卓越す。地味一般に膏腴にして農産物豊富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大麥を主とし米・棉花・煙草・牛・馬・明油・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の鑛區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し域内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは域内に更に數條の路線を岐ち、交通比較的便なり。聚落は散村形態を成

朝鮮平安南道安州郡の東北隅。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)、面の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五一米)ありて安州邑と對し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。従つて耕地は臺地面及び其傾斜面に發達を見、灌漑不便の關係上知地卓越す。地味一般に膏腴にして農産物豊富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大麥を主とし米・棉花・煙草・牛・馬・明油・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の鑛區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し域内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは域内に更に數條の路線を岐ち、交通比較的便なり。聚落は散村形態を成



し、地形の關係上普遍的に分布す。雲興里附近の清川江には鮎の名産あり。

【東面】朝鮮江原道楊口郡の東部。郡邑楊口の北約一〇軒。大白山脈中の山間村にして、東境に加七峰(一二四二米)を初め大愚山・兜率山・大巖山(一三二六米)等相連り、餘勢域内に及びて山岳重疊し漸次南方に低夷し南部は稍低平なり。住民は農及び牧畜を主業とし、副業として養蜂を行ふ者あり。産物は粟・大豆・大麻・大麻・生牛等なり。南北に楊口・内金剛間三等道路通ずるも交通未だ便ならず。聚落は多く街道に沿ひ、林塘里には面事務所・市場あり。その東北、兜率山麓に三韓時代の創立に成る深谷寺あり。

【東面】朝鮮江原道伊川郡の東南隅。郡邑伊川の東南一五軒餘。馬島嶺山脈に屬する靈影山(六八三米)・大城山等南境を劃し、西境には修清徳山(六八一米)、北境には鳴星山ありて周縁山地を以て圍繞し、中部を臨津江の支流平安川西南に貫流し、沿岸に河成段丘の發達により耕地を見出すも灌溉不便にして畑作農業卓越す。住民の多くは農を業とし、傍ら養蠶を行ふ者少からず。物産は大豆・粟・大麻・米・麻・煙草等あり。位置偏在せるを以て交通概して不便なり。聚落密度極めて疎にして東部の月岩里には水利組合及び陰曆一・六の日に開く市場あり。

大白山脈の西斜面に屬する加里山(一〇五一米)東境に聳え、大龍山(八九九米)南境を劃し餘勢域内に重疊し一般に山地帯を成し、北境には北漢江の支流に屬する昭陽江西流するも峡谷を成して沿岸殆んど平地なく、西方北漢江と合する附近に於て僅に低地を見る。産物は棉花・大豆・薪炭等の外、東昌金山より金・銀を、大當嶺山よりタングステンを出す。城内大部分山地を成すを以て道路の改修充分ならず交通不便なり。聚落密度疎にして西部の低地及び中部の溪谷に其分布を見るに過ぎず。面邑枝内里の東、月谷里に紹國王子の墓と傳ふる陵山あり。

【東面】朝鮮江原道旌善郡の東南部。郡邑旌善の東南約五軒。大白山脈に屬する大徳山(一三〇七米)・成白山(一五七三米)等東境に、南境には白雲山(一四二六米)・斗閣峰(一四六六米)、西境に芝億峰、北境に高陽山等何れも壯年期の峻々たる峻嶺を以て圍繞し、道中に於ける山間僻地の山村にして漢江の支流なる東面河の溪谷ありて沿岸僅に低地を見る。一般に土地瘠せ收穫少きも大豆・煙草・大麻等の産あり。材木・薪炭・蜂蜜等をも産し、また栢田(鐵礦の一部)・素金・石谷・徳元(同一部)・沒雲の諸鐵山ありて金・銀を出す。僻遠のため道路改修行はれず、加ふるに險峻路観等多く運輸交通頗る不便なり。面邑畫岩里は北部の溪流に臨み、附近は小金剛を以て稱せらるる勝地にて、下流の石谷里には石門の佳景あり。東南部の成白山中に新羅時代の創建に係る淨岩寺(葛來寺)あり、堂宇宏壯にして當時の寶塔(新羅燕藏律師造)を存す。中部の虎村里には定期に開く市場あり。

【東面】朝鮮江原道洪川郡の南部。郡邑洪川に東隣す。大白山脈中に位し周縁山地を繞らし、東境の髮枝山(九九八米)、北境の孔雀山(八八七米)、南境の糖岱山、五音山(九三〇米)等の山麓線の極まる所に一盆地を形成し、周縁山地に發源せる諸溪流は樹枝状に盆地床を灌溉し、北西部に出口峡谷を成して洪川江に合流す。農産物は米と棉花を主とし大麻・粟・蜂蜜等あり、南部は豪儀山金鐵の鐵區に當り金を出す。郡邑洪川に隣接せるも交通未だ便ならず。聚落は殆ど盆地に集團し多くは散村形式を成す。

【東面】朝鮮京畿道開陽郡の東端。開城府の東方約一〇軒。北部に小丘陵あれど其他は土地極めて低平にして地味肥え、臨津江の支流砂川これを灌溉し農産に富む。産物は特産たる人蔘を初め米・小麦・大豆・小豆・粟・煙草・桃・林檎等あり。白菜も亦此地の特産にして京城方面に移出せらる。總督府鐵道京義本線は面の南境を東西に通じ、近く風車驛(通風面)ありて交通の便に浴し、北境には京義一等街道ありて開城より乗合自動車通じ交通便なり。北東隅の鉢山里には陰曆二・七日に開く市場あり。

湖川との合流點に位置せるを以て土地低平、地味亦肥沃にして農業盛に行はる。

近時養蠶をなす者著しく増加の傾向あり。農産物には米・小麦・大麦・大豆・煙草・繭・生牛等あり。鐵道京釜線は面を縦貫し、内板の簡易驛(大正十三年設置)あり。烏致院驛(烏致院邑)、美江驛(忠清北道清州郡芙蓉面)に近く、錦江も亦舟運の利ありて運輸交通便なり。聚落は美湖川・錦江の氾濫原を避けて中央臺地の邊縁部に分布し、内板里を中心となす。

【東面】朝鮮忠清南道大徳郡の東部。大田府の東約五軒。東方に小白山脈に屬する環山(五八一米)、西境に鶴尾山(四二五米)相對峙し、中間に南北に狭長なる低地横はりて重要な農耕地を成し、北は錦江によりて忠清北道と界す、米・大豆・大豆等の産額多く棉花・煙草・生牛等もあり。鐵道京釜本線南部を横斷し細川驛(大正十五年設置)ありて大田へ七・四軒、京釜一等街道また之に沿うて通じ交通概して便なり。聚落は南部及び東北部の錦江沿岸に多し。

【東面】朝鮮忠清南道舒川郡の西北部。郡邑舒川の北方約七軒。車嶺山脈の末端部に屬する丘陵性山地を以て圍繞し小盆地を成し、地味肥沃にして耕地利用比較的高度の發達をなす。住民は農業を主とし副業よく發達し、殊に婦女子の苧麻の製織に従事する者多く、韓山苧布として

半島各道に名高し。産物は米・小麦・大豆・煙草等なり。東部を社線朝鮮京南鐵道線南北に通じ板橋驛(昭和六年設置)あり。また道路は面の中央亭山より南方舒川、東北方鴻山、西方庇仁に各三等道路を通じ、路面平坦にして車馬の交通運輸便なり。聚落密度大にして、亭山里を主邑とす。

【東面】朝鮮慶尙南道梁山郡の南部。梁山面に東南隣す。北境に近く大白山系の第四山脈に屬する元峴山(九二二米)、南境に金井山聳え、城内大部分山地を成し西南部に僅に低地を見る。灌溉不便のため耕地は概ね畑地を成す。産物は米・大豆・大豆其他の雜穀、生牛・陶磁器等の産あり。道路は梁山邑より南方東萊・釜山府に至る一等街道、面の略中部を縦貫し、東地を蔚山街道走り何れもバスの便あり。聚落は概ね一等街道沿線及び西部に分布す。南部の金井山西麓に伊達城址あり、文祿の役に伊達政宗、富山浦(釜山)に上陸し、直ちに金海に於ける淺野長政父子の急を救ひ、更に蔚山に向ふ途次、此處に陣營を設けて韓兵と激戦せし所なり。洛東江に臨みて風景頗る雄大な

【東面】朝鮮慶尙南道昌原郡の北東部。昌原面の北東に隣接す。南境に大白山脈に屬する精兵山を除きては著しきものなく、北半部は中央に湖沼多く濕潤地をなし、東南部は稍廣き沃野を成す。産物の

主なるものは米・小麦・大豆等何れも品質優良にして殊に米は所謂昌原米と稱し内地米に比し尠も遜色なく市場高値高し。其他大豆・野菜等の産あり。西部の白月銅山より銅・金・銀・亞鉛を出す。鐵道慶全南部線は三浪津より南境を横斷して西方昌原・馬山に通じ、城内に徳山驛(大正十一年設置)あり、當驛を中心として馬山・三浪津(各一等道路を通じ、また金海へバス路線あり、交通便なり。聚落は大部分東南平野に密集し、面事務所を新方里に置く。

【東面】朝鮮全羅北道南原郡の東北隅。南原東方約二〇軒。小白山脈中にありて西北隅の阿英面と共に一盆地を形成し、中央を貫流する灘川を境として其東半部を占む。而して東部の慶尙南道との境に小白山脈の主脈走り、南境に徳頭山(一五〇米)等聳え、急傾斜を以て盆地に下る。畑作農業卓越し、産物は大豆を第一とし、大豆・棉花・煙草・乾柿・木炭等あり。咸陽・南原間の二等道路、面の略中部を横斷し、定期乗合自動車の便あり。聚落は盆地の周縁山麓線に沿ひて分布し、主邑引甲里に市場あり。

【東面】朝鮮全羅南道和順郡の略中央。和順面に東隣す。南境に天雲山(六〇二米)の聳ゆる外は著しきものなく、概して丘陵性にして緩斜面を開墾して耕地發達す。産物は米・大豆・大豆及び小豆其他棉花・煙草等の特殊作物、蜂蜜・竹細

工等あり。道路は和順より來たる二等道路、面の略中部を東西に横斷し、途中棧橋邑に至る道路を岐れ何れもバスの便あり、交通不便ならず。聚落の主なるものは前記幹線道路に沿ひて分布し、中央の壯東里は面の中心をなす。

【東川】朝鮮全羅南道東南部の川。順天郡西面の北部、小白山脈の支脈中に發源し、南流して順天邑を過ぎ、川口に近く伊沙川の長支を容れ、汝自灣に注ぐ。流域約三五軒。舟運の便を缺くも、流域は廣潤なる平野にして農産に富む。

ト

塔

【塔ヶ岳】關東山脈丹澤山塊の一峯。主峯丹澤山(一五六七米)の南方に續き、神奈川縣愛甲郡地籍、中郡北奈野村・西奈野村・足柄上郡三保村の境上に位す。標高一四九二米。北西方に姫ヶ岳(一六七三米)を望む。三角點より西北方へ六、七十米下れば、尊佛様と稱する巨岩あり。奈野方面にては早敷の際之に向ひて雨乞をなす。尙ほ石上に生ずる苔を御衣と稱し之を煎じて飲めば病癒ゆと云ふ。但しこの岩は關東大震災の際谷底に轉落して今は無し。奈野方面には右の岩に因みて此山を尊佛山とも云ふ。山頂の北側に不動の清水と稱する清水あり、清水の傍に不動石像立つ。

【塔山】臺灣阿里山の一峯。大塔山の西方、對向山の西北方に峙つ。標高二四八〇米。山體は砂岩と頁岩との互層より



成る謂はゆる阿里山層にして大斷崖を成す。其山容は宛も塔の如きを以て塔山と稱せらる。頗る雄壯なる景觀にして阿里山觀光の一名所とす。

ト一 遠山 久慈理岳(茨城縣)の別名。

ト一 道面 朝鮮黃海道瑞興郡の東北端。郡邑瑞興の北方約二〇軒。馬島嶺山脈に屬する鐘鐸山(六五二米)南境に屹立し、東部遼寧郡との境には甘朴山(六二六米)等聳え餘勢域内に及びて平地に乏しく丘陵起伏す。禮成江の支流陵里川北部を東西に貫流し沿岸稍低地を見る。生業は粟を主とし、近年養蠶をなす者増加す。産物の主なるものに小麥・大豆・粟其他雜穀・棉花・人参・油・木炭等あり。道路は西方黃州より遼寧に通ずる三等道路域内を東西に横斷しバスを通ずるも交通未だ便ならず。

ト一 東安山 秋田縣雄勝郡院内町と由利郡種子村との境上に位置す。大仙山とも云ふ。標高九二〇米。粒狀安山岩より成る。東麓には院内銀山あり。北方に松ノ木峠・姥井戸山嶺き、南方に飯峠・大森山連る。

ト一 道安面 朝鮮忠清北道槐山郡の北西端。郡邑槐山の西方一五軒。車嶺山脈中の一支部内に位置し、西境に頭陀山(五九五米)聳え、西半部は山を成せども東半部は低平にして清州平野の北部をなし地味肥沃、加ふるに灌溉

の便よく農業盛に行はる。住民は農を主とし、傍ら養蠶をなす者少からず。産物は米・小麥・大豆・大豆燻草等あり、また南部の不夜鐵山よりは金・銀・銅を、紫陽金銀より金・銀を出す。中部を社線朝鐵忠北線通じ道安驛(昭和三年設置)あり、道路網よく發達し清州・鎮川・忠州へ何れもバスの便あり。

ト一 頭園庄 臺灣臺北州宜蘭郡の最北部。龜山島・龜明島の屬島あり。東は太平洋に面し、北は基隆郡、西は文山郡と界す。地勢は概して西部高く山嶽重疊し、海に面する地帯及び南に若干の平地を有す。河川には南なる平地に頭園溪ある外若干の小流あれども水量少くして灌溉の用をなさず。主なる産業は農・畜・水・林・工業にして、殊に農業は最も盛なり、主産物は茶・菜・甘藷・落花生・甘蔗なる他に柑橘類・蓮霧・桃・李・柿・芭蕉・龍眼・鳳梨等の生産も農産の重要部分なり。畜産は主として農家に於て副業的に營まれ豚・牛・家禽の飼育多し。南北に長き海岸線を有し海また魚族に富むを以て水産業は農業に亞ぐ重要産業なるも、海岸に良港なく、従つて小型船舶を以てする小規模のものなるゆゑ、其漁獲高も年十萬圓程度に過ぎず。林産には木材・薪・木炭・竹材・生荷あり。工業に於ては粗摺・精米・煉五・木製品・竹細工・下駄等多岐に互れども、何れも其規模大ならず、年工業約

四十萬圓なり。交通は東部海岸地方に於て最も好く開く。即ち宜蘭線は東部海岸に沿ひて本庄下を南北に貫き、北より大里・大溪・龜山・外澳・頭園の五驛(大正九年設置)を設け、又之と並行して基隆・宜蘭道ありて自動車の便あり。本庄の地は清領當時建てられたる頭園堡にして、大字頭園はもと頭城と稱して、陸路臺北より宜蘭に入る要路に當るを以て、早くより開けたり。即ち清の嘉慶元年福建漳州の人吳沙、宜蘭平野の開拓を企つるや初めて土園を築きて根據となせる所なり。其第一に築きたる土園にかゝるを以て名づけて頭城といひしが、後に噶嗎蘭城の建置と共に城宇の冒用を避けて頭園と改稱す。烏石港は其近くの海岸、頭園溪の河口にあり、往時は海水深くして砂堤海波を防ぎ船舶輻輳せしも、後洪水のため海底隆起して現今港としての用を爲さず。「草嶺」基隆・雙溪道路間の基隆郡と宜蘭郡との郡界にある一嶺。眺望絶佳にして古來蘭陽八景の一に數へらる。「大里海岸」海濱一帯に奇岩怪石起伏し、海上遙に龜山島を望み風光絶佳なり、近年海水浴場開設せられ、夏季ここに遊ぶ者多く漸く繁盛を加へつあり。(龜山島) 龜山島より海上五里東方にあり。その形状龜の海上に浮遊するに似たり。火山質の丘阜にして、海岸に硫氣孔あり、附近の海中よりは盛に硫黄を噴出す。住民五百餘、漁業を以て生計を維持

す。「北關址」大溪驛と龜山驛との中間にあり。山嶽海に迫る所に僅に通路を開鑿せり。往昔土障もしくは蕃人に備ふるため天險を利用して關門を設け守備に當りしもの如し。嘉慶二十四年の建設に係る。「湖底嶺」臺北・宜蘭道坪林尾の宜蘭郡と文山郡との郡界にある一嶺。眼下に宜蘭平野及び太平洋を望み眺望壯大なり。(眞武廟) 大字頭園にあり。北極眞武七宿を祀る。清の嘉慶初年の建置に係る。廟内に宜蘭平野開拓の祖吳沙の木像を安置す。

ト一 東雲面 朝鮮黃海道海州郡の東北端。郡邑海州の東方約二五軒。海嶺山脈に屬する雲連山(六〇〇米)北境を劃し、餘勢域内に及び北半部は山地帯をなせども南半部は土地一般に低平にして耕地よく拓げ農業よく行はる。東南部に延白郡の牧丹・掛弓面に跨る黃海水利組合の大貯水池あり。物産は小麥・米・大豆・小豆・粟及び梨・栗等の果實あり、南部の徳連嶺山、北部の屏岩金山より金・銀を出す。道路は西方海州より二等道路を通じ乗合自動車の便あり。葉落は山麓線に沿ひて發達し徳連里をその中心となす。

ト一 頭雲峰 朝鮮咸鏡南道の北部。豊山郡雉耳面と長津郡東下面とに跨る山。熊耳江支流と赴賊江支流との分水界をなす白頭山支脈中の一峰にして標高二四八七米。

ト一 東榮村 山形縣南

國東田川郡の北部。鶴岡市の東約九軒。藤島町の東南に接す。面積二五方軒餘。東半部は羽黒山の北方に連る高さ二百米臺の丘陵性山地なるも西半部は庄内平野の東南部に於て平坦なり。被川は南方より來り、平地の中部を北流す。物産は米を主とし、外に木材・木炭あり、また蕎麥を産す。東南部山地に笹澤鑛泉あり。一に手向の湯といひ硫黄泉にして切羽・胃腸・リウマチスに效ありとて浴客常に絶えず。道路は中部を南北に通じ、北方省線陸羽西線狩川驛、南陸手向村間のバス付來す。省線羽越本線藤島驛は西方約四軒にあり交通不便ならず。村内に添川館址あり、梅津中將(上旬殿)の居りし處。

有餘の島嶼より成り、北に鎮海灣を擁して呂原郡を望み、東南は朝鮮海峡を隔てて對馬と相對す。面積六五方軒餘、その十分七は島嶼部なり。半島部は北方岡城郡の巨流山より派生せる餘脈、半島の脊梁をなし、ために平地乏しく、半島末端部は一たび海中に沈降して、南方海上に岡山・彌勒・欲知・龍草・蓮華・每勿等幾多の大小島嶼を存す。更に西北部には蛇架島・樹牛島あり。而して岡山島より西方麗水に至る閑麗水道はその發源、内地の瀬戸内海に彷彿し且つ又傳説に富み、朝鮮八景の一に推さる。東部の巨濟島は濟州島・江華島に亞ぐ朝鮮第三の大島にして、面積三七九方軒、その最高海拔五五五米に達し、丘陵性にして、これまた平地に乏しく、海岸線延長は二八五軒に及ぶ。此島の東南部一帯は要塞地帯に編入せらる。郡民の主生業は農業及び漁業にして、總戸數の六一%は農、一三%は漁業、八%は商業及び交通業、三%は工業に従事す。耕地面積は約一萬三千ヘクタールにて、うち水田稍卓越し、米(七萬石)・大麥(三萬六千石)・粟麥(六萬五千石)・棉(二百萬斤)・甘藷の産多し、その他小麥・大豆・大麻・苧麻・除蟲菊・果實(梨・葡萄)等を出し、また青刈大豆・ヘアリベツチ等の栽培盛なり。副業として吠・筵・繩の製造、牛・豚・山羊の飼養、養蠶など行はる。山地より薪材・木炭を出し、また竹材の特産あり。

り。鐵産には半島部に金・銀・高嶺土・明礬石等、巨濟島に金・銀・銅等あり、その他西部諸島にも金・銀・高嶺土等を出す。水産業は道内に於て最も盛にして、水産業者七一〇〇戸(うち内地人約四百戸)を超え、巨濟・長承浦・廣島嶺網・欲知・山陽面(以上の漁獲高各四〇萬圓以上)その他四箇の漁業組合あり。片口嶺の一六三萬圓を第一とし、餘・鯉・鱒・鱈・眞鱈(何れも各三〇萬圓以上)・鯛・穴子・鱒・針魚・海鼠・章魚及び和布・布苔・天草等の産多し、漁獲高合計六二一萬圓(昭和十一年)に達す。従つて水産製造も盛にして、煮干鱈は最も著しれ一八一萬圓、櫻干は三三萬圓、其他鹽鱈・海鼠湯・蒲鉾・海苔及び鱈船類(一五萬圓)・鱈油等を出す。工業は諸種の工場工業行はれ、昭和十一年現在の工場數七〇、その年産額一六三萬圓、主なる工産物は織物(一萬八千反)・製糸(五千疋)・漆器・金屬製品・船舶(二二隻)・薬加工品・酒類・肥料・木製品等なり。交通は半島部に大邱・統營間二等道路通じバスの便あり、巨濟島にては城浦・巨濟・長承浦・河清・松原浦を連絡する周回道路ありて之にもバスを通じ、また海上は統營・長承浦・城浦・河清・東港里の諸港ありて沿岸各地との間に日航の汽船あり、交通の便よし。本郡を行政上、一邑十五面に分ち、郡廳を統營邑百野町に置く。人口密度は一方軒當り二六三人

にして、道内各郡中の首位にあり、總人口一七二三五九中、内地人五五四八(昭和十一年末)を算す。本郡はもと慶尙・全羅・忠清三道の水軍統制管が置かれ、その初代統制使は名將李舜臣にして、この制度は明治二十八年まで及びたり。同二十九年には鎮衛隊置かれ、三十三年岡城より分都して鎮南郡となり、四十二年龍南郡と改め、大正三年三月巨濟郡を合併して統營郡となし今日に至る。統營邑附近及びその東方、見乃梁海峽は文祿二年我が海軍と李舜臣の率ある水軍との激戦ありしを以て聞え、いま太閤堀其他遺蹟の存するもの少からず。日露戦役には本郡の東北部海上に於て東郷提督我が海軍の精兵を蒐めてバルチック艦隊との遭遇を待機し、松原浦(長水面)には當時防備隊ありて一策源地をなせり。いま松原浦及びその西方海上なる加助島の屬島上に日本海海戦記念碑建てらる。※巨濟島【統營邑】朝鮮慶尙南道統營郡の邑。統營半島の南端に位し、馬山を距る西南三〇哩。東南は統營海灣に臨む。前面は巨濟・彌勒・岡山等の諸島によりて保護され、港内波靜かにして水深く、大船巨船の出入に適し、商港及び漁港を兼ねし良港なり。釜山・馬山・鎮海・木浦・麗水の諸港と定期航路あり。移出品の主なるものは鮮魚・煎鱈・鹽魚・乾魚・魚油・海藻・漁網及び肥料等にして移入品の主なるものは穀物・鐵器・石炭・綿絲・木

ト一 桃榮 愛知縣西春日井郡にありし町。明治三十三年西堀江・須ヶ口の兩村を合併して本町を置き、同三十九年他の一町二村と共に廢し新川町を置く。

ト一 統營 朝鮮慶尙南道二府十九郡の一。道の南端に位し、岡城郡の東南に突出せる統營半島と、巨濟島を初めとし百二十

ト一 桃榮 愛知縣西春日井郡にありし町。明治三十三年西堀江・須ヶ口の兩村を合併して本町を置き、同三十九年他の一町二村と共に廢し新川町を置く。

ト一 統營 朝鮮慶尙南道二府十九郡の一。道の南端に位し、岡城郡の東南に突出せる統營半島と、巨濟島を初めとし百二十



村、カーバイト等にしてその貿易額、移出七六八萬圓、移入九二二萬圓に達し逐年激増の趨勢あり。邑の産業は水産業を第一とし工業これに次ぐ。統督は實に郡中水産業の中心にして、また各種の水産加工業盛に行はれ、従つて公立水産學校・統督水産物製品検査所・慶南水産會出張所・慶南漁業組合聯合會出張所等の諸機關設けらる。工業は製網・造船業・水産物製造・製材・精米等を主とし、主要工業には織物・製絲・漆器・船舶・魚油肥・木製品等あり、特に螺鈿細工は内外に有名なり。また統督・統陽・貞梁の諸嶺山ありて金・銀を採掘す。市街は北に山を負ひ、南は海に面し風光明媚、氣候頗る溫和にして昔時全羅・慶尙・忠清三道の統督使駐屯の要地にして南鮮に於ける軍事・行政の核心たりき。文祿・慶長の役には李舜臣の策源地として防戦大いに努め、我が水軍諸將の大いに苦戦せし所なり。市街の西南端に近き彌勒島との間の狹窄部を太閤堀と稱へ、文祿の役に際し秀吉の部下の水軍の開鑿に成りしものと傳ふ。いま統督運河を通じ海底道路を以て對岸と交通す。郡廳・地方法院支廳・稅務署・稅關出張所・郵便局等をはじめ、水利組合・統督漆器株式會社・殖産銀行支店・統督海産株式會社(魚市場)等あり。昭和十一年末人口二二三六一、うち内地人二九三二。大和町に洗兵館あり、初代統督使の牙營にして、その

名は「干戈止息浣河洗兵」の古語に出づといふ。萬曆三十一年(一六三三)統督使李慶海の創建にして、規模宏壯、南鮮有数の建物なり。明治四十二年修復し、いま公立小學校の校舍となる。市街の西端明井里に忠烈祠あり、三道統督使李舜臣を祀り、都督印・東刀・寶劍等謂はゆる皇朝八賜の寶物を堂内に陳列す、春秋二季祭典を行ふ。邑内に統督神社あり大正五年の創立にして天照大神を祭る。例祭十月十六日・十七日

【統督半島】朝鮮慶尙南道南部の半島。大白山脈の支脈が南方日本海に延びてつくれる半島にて、東南は統督海灣及び其北麓なる見乃梁海峽を隔てて互濟島を望み、南端は統督運河を以て彌勒島と隔つ。地形頗る複雑にて、中央南偏に於て幅約一軒の地峽部を成し、その東に鎮海灣の南支灣なる鞍門浦を、西に東島灣を擁し西北には固城灣を地き、其他小出入に富み、餘勢沿海に數多の小島嶼を基布せしむ。北部の碧芳山を最高とし漸次南方に低夷す。統督海灣に臨み良港統督あり。【統督運河】朝鮮慶尙南道統督郡統督邑と彌勒島(山陽面)の間にあり。全長一・四二軒、河底幅員四二米乃至五五米、水深最大干潮時三米。此處はもと統督半島の地峽にして、一に太閤堀といふ。文祿役に我が海軍は統督沖の海戰に於て朝鮮水軍の將李舜臣に破られ、遂にこの地峽まで達し、進退谷まり止むを得ず夜陰に

乘じ此地峽を掘削りて西方に脱出するを得、太閤堀の名これに起るといふ。而して太閤堀は從來アーチ型石橋により、統督・山陽間の交通に便せしが、昭和二年五月より同七年十二月に互り總工費三〇萬圓を投じて運河を開通せり。また同六年七月より同七年十一月に互り總工費一八・五萬圓を以て運河の下に全長四六一米、幅五米、高さ三・五米の海底道路を掘鑿し兩地間の交通に便す。

【桃園郡】臺灣新竹州一市八郡中の一。州の北端に位置し、東は臺北州下新莊・海山二郡、西は中壢郡、南は大溪郡にそれぞれ境を接し、北は臺灣海峽に面す。地勢は東より西南北三方に傾斜し、東南部に山岳及び桃園臺地と稱する丘陵性臺地ある外は謂はゆる桃園平野をなし、南溪・老街溪の二河川北流して之を灌溉す。農産は米を第一とし、年收三十一萬三千餘石、價格七百五十七萬六千餘圓、殊に桃園丸糖の名産地として著はる。之に次ぐものを茶とし年産三十五萬餘圓、龜山庄之が大部分、即ち二十七餘萬圓を占む。蔬菜類及び甘藷の産額も亦小ならず、前者は三十八萬餘圓、後者は二十五萬餘圓に上る。其他甜瓜(番瓜)・甘蔗・西瓜・落花生・黃麻・苧麻等の重要農産物あり。果實類は柑橘を第一とし、特に高橋柑の主産地として知らる。また畜産は養豚を以て聞え、畜産産額中首位を

占むるものにして、飼育頭數三萬六千頭を超え、その地方的に勝れたる養豚は古來桃園豚の名に依りて人口に膾炙し、米作農家の最も有利なる副業として隆盛を極め、且つ地理的に臺北・新竹等の如き大消費都市を控へ、島内有数の養豚地たり。鶏十七萬八千餘羽、鶩八萬七千餘羽、鶩七千餘羽は主要なる家禽にして豚に次ぐ生産を有し、農家經濟の有力なる一支柱をなす。畜牛は水牛・黄牛・雜種牛の三種にして、前二者は専ら農耕及び運搬用に使役せられ、後者はその數少く、乳牛として飼育せらる。林業は地勢の關係上殆んど見るべきものなく、林産物は薪炭・竹材・用材・副産物等合せて年産六萬圓の程度に過ぎざるも、海岸地帯に於ては砂防造林・耕地防風林造成せられ、産業・衛生・保健・風致等の見地より重要な役割を演ずるものにして注目し値す。水産業は地理的に甚だ有利なる位置を占むるも、漁港及び漁業者の經濟的施設を缺く等のため産額頗る多からず、漁獲に依るもの及び養殖によるもの各五萬餘圓程度なり。工業は農産物の加工たる製糖精米を主なるものとし、之が小工場各地に散在す。其他製糖・竹笠・洋傘・農表・陶磁器・煉瓦・肉脯等の製造行はれ、年生産額七十五萬餘圓を算す。尙ほ桃園街には製氷工場あり。道路網は殆んど完備し、縱貫道路を初め主要道路は桃園の市街を中心として放射線狀に四通八

達し、縱貫道路に臺北・新竹間の局營バスある外、民營バス及び手押車(軌道)は桃園街を起點として大溪・大園・竹園・中壢等近隣各主要地との間に通じ交通至便なり。縱貫鐵道は縱貫道路と並行して桃園街を東西に貫通し桃園驛を置く。【桃園街】臺灣新竹州桃園郡の中央南部。東は龜山庄、西は蘆竹庄及び中壢郡中壢街、南は八塊庄、北は龜山・蘆竹二庄にそれぞれ境を接す。東北の一小部分が桃園臺地の端部をなす外は土地總て平坦、謂はゆる桃園平野の一部を占め、南溪・本支流は各東部及び西部を北流して北隣蘆竹庄に入る。地勢上農耕地多く、農作物は米作を主とし、年産百五十萬圓を超ゆ。米に次いで蔬菜類多く、年産十六萬餘圓あり、甘藷は三萬圓、鹹瓜(番瓜)一萬餘圓の外、甘蔗・西瓜・落花生・苧麻・黃麻等の重要農作物及び柑橘を主とする果實類あるも産額多からず。工業にては製氷を除き大規模の工場なく、農産品の加工たる製糖精米及び落花生油製造の小工場各地に散在する外は殆んど家内工業の域を脱せず、麵類・洋傘・竹笠・農表・豚肉脯・陶器・醬油等の工業品あり。畜産は古より桃園豚の本場として知られ、肉豚及び仔豚の搬出せらるるもの多く、勞役用の水牛・黄牛及び少數の搾乳用雜種牛の外、鶩・鶩を主とする家禽類亦尠からず。本街は郡下交通の中心をなし縱貫鐵道及び縱貫道路並行して

東西に貫通し、前者は桃園驛(明治二十九年設置)を置き、後者は臺北・新竹間の局營バスを通じ交通上の二大動脈をなす。其他の道路は市街地を中心に放射線狀に四通八達し、近隣各主要地との間にバス又は軌道(手押車)の便を有す。郡役所・稅務出張所・臺北地方法院出張所・總督府米穀検査所出張所等あり。管内はもと總て桃園臺地に包含せられ、清領當初、康熙・雍正年代の頃には、到る處叢樹鬱蒼として麋鹿群をなせりといふ。東南部に今猶ほ大樹林の地名を遺存するは之に因る。乾隆二年に至り粵人薛啓隆なる者、墾戶數百名を率ゐて北隣蘆竹庄の南溪港より上陸し、驛を設けて蕃害を防ぎ、現在の市街地を中心として大に拓殖の業を起し、終に四隣の開墾に成功せり。當時之を總稱して虎茅莊といひ、十二年の頃には現市街地に草屋の小店舗を結びて東隣龜山庄の龜嶺に住する平埔蕃クルル(龜嶺)社と交易を行ひ、漸次に市街の基礎を築かれ、且つ張敦仁なる者に依り東南の三角湧(現海山郡三峽庄)に至る道路を開通せらる。此頃移住民によりて桃園を植栽せられ、滿開の候には紅雲搖曳せしり桃園の地名起り、三十年に及び、店屋増加し、閩粵兩籍の民衆移住を企てしが、嘉慶十一年三月、淡水廳下に於て漳泉人の間に分類械鬥を醸すや、當時桃園の街肆に多く居住せし漳州人は一敗して店屋の過半を燒毀せられ、

十四年に至りて初めて周圍に土壁を構築し、以て防禦に備へ、店屋を再建せり、此時草屋變じて瓦店となり、市街自ら一新せりといふ。十八年景福宮を建て、漳州の土神開漳聖王を奉祀し、且つ公議會の所となす。道光十四年、淡水廳下に閩粵人の分類械鬥あり、匪賊亦隙に乗じて各所に蜂起す。土地の富豪姚蓋有なる者、地方民と謀り、土壁を築築して石壁となし、以て守禦を嚴にせり(我が領臺後市區改正に依りて取除かれたり)。初め地名を桃園と呼びしが、漳州人は桃を桃仔と稱するを以て普通には桃仔園と呼ばれ、乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)に桃仔園庄と見ゆ。同治九年に成りし淡水廳志には或は桃園、或は桃仔園とあり、一定せざりしが光緒十四年土地清丈の際調製せし魚鱗冊(土地臺帳)に桃園と記したるを以て、我が領臺後、明治三十六年土地査定の際桃園と一定せり。粗製茶の集散地として漸次發達し、明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷と共に、時により廳・辦務署・支廳等の所在地たり。

【ト一エ】頭屋庄 臺灣新竹州苗栗郡の東北部。東は大湖郡獅潭庄に連り、西は後龍溪を隔てて苗栗街と相對し、南は公館庄、北は竹南郡下三灣・造橋二庄にそれぞれ境を接す。地勢高燥、海拔最低四五米、最高五四〇米にして、到る處山岳丘陵起伏し、甚だ平野に乏しく、西方後龍溪畔に僅かの田園散在するに過ぎず。河川は西境の後龍溪の外、老田寮溪及び沙河溪あり。前者は東隣獅潭庄より入りて北部を東西に貫流し、後者は南隣公館庄より入りて西南部を北流し、共に頭屋部附近に於て後龍溪に合す。この二溪は峽谷をなして殆んど灌溉の便なし。土質は第四紀層に屬し、丘陵一帶は表土豐富にして各種園藝作物に適し、茶の栽培行はる。老田寮より天花湖一帶は錦水油脈貫通し、將來有望なる鑛業地帯として注目せらる。主要農産物は米・粗製茶・甘藷・果物類にして、林産としては大炭の産出多く、工業は製茶注目に値す。地勢上交通便利ならず、加ふるに後龍溪・老田寮溪には完全なる橋梁なく、夏季増水の際には交通絶するを常とす。されば文化の程度他地方に比して甚だ低く、教育の普及また遅々として進まず、學校出身者尠し。管内はもと總て苗栗一堡に屬し、開拓は西方なる諸街庄に比して遙かに後れ、未化平埔蕃の巢窟なりしが、今より百餘年前、苗栗より粵人進入して開墾に従事し今日の基礎を築けり。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に、清領時代より存續し來りし堡を廢せられ、頭屋を頭屋と改稱し、庄制を布く。「龍潭の夜月・墨硯の春雲」前者は頭屋部落の西、約五〇米の處、山澤に突き出で龍の水を飲む



勢をなし、潭は老田寮溪に合流する地點にありて碧水鏡の如し。後者は南隣公館庄との境界にある巖山にして往時は山形巖に似たりしを以て名付けらる。いづれも古くより苗栗の名勝として讚へらる。〔石觀音〕二岡坪字天花湖にあり、海拔五百米の高峯の頂上に天然の岩窟あり。今より五十餘年前、現今の廟守たる羅普雲此處に來り、岩窟内に清水滾々と湧出し、天然の觀音佛に似たる石塑を發見し、石觀音と名付たり。羅普雲その清水を試飲するに疲勞忽ち消失し、元氣倍加す。これ觀音佛の賜ひたる靈泉なりと稱し、遠近に宣傳したるため、忽ち名を知られ、參詣者絶えたることなかりきといふ。

トイカ 十日

【十日町】新潟縣越後國中魚沼郡の略中部。信濃川右岸にて南は川治村、北は中條村に接し、西北は川を境に千手町に對し、東南は魚野川谷の南魚沼郡六日町と界す。面積二三・五方軒餘。東南隅に中城嶽(六八二米)聳え、西北に向ひ緩く傾斜して信濃川の一支流を源流し、その谷間と西北部信濃川沿岸の平地とに耕地拓け、農産に米・生絲、林産には木炭を出す。町は山麓に發達し、明石縮を初め絹織物の産地として著はれ、織物・木炭・蠶絲・畜産等の組合・検査所等ありて本郡商工業の中心をなす。省線十日町線の十日町驛(昭和二年設置)あり、社線飯山

鐵道との連絡驛たり。縣道四方に通じ、松代・小千谷・六日町及び長野方面へバスの便あり。古く妻有庄の大邑とす。吉野朝時代は新田氏の所領に屬し、のち上杉氏これに代り更に會津領となり、隣接諸村を統べて十日町組と稱したり。又古來越後美人の本場として喧傳せらる。この地は機業盛んにして透綾の名産地なり。元來小千谷町邊よりこの地方にかけは丘陵地多く、土地高くして冬は寒き嚴しく、越後にも特に雪の多き地方なるため、毎年凡そ五箇月は家の内に閉ぢ籠めらる。これがために農家の副業として必然的に織物業起りしものなり。而して此地は古くより越後上布の産地たりしも、仁孝天皇の文政七年京都西陣の織工宮本茂十郎なるもの此地に移り住み、經に絹絲、横に麻絲を用ひて始めて透綾を織り出せり。その後全部絹絲織の透綾を織出し、次第に世の流行につれて絹・明石など夏向優等衣服地を産出するに至れり。〔來迎寺〕時宗。正應元年一通上人の創建に係る。長尾家代々の祈願所。上杉氏五十四石、徳川幕府四十石餘の寺領を寄す。現に總本山清淨光寺末の準檀林たり。

トイカ 東海

【東海炭礦】元泊村(津太元泊郷)【東海炭山】勿來町【東海道】我國八道の一。畿内の東、東山道の南、主として海に沿へる地方をいひ、伊賀・伊勢・志摩・尾張・三河・遠江・駿河・甲斐・伊豆・相模・武蔵・安房・上總・下總・常陸の十五箇國を含む。單に東海ともいふ。この地方は崇神天皇の朝四道將軍の一人なる武渟河別れの巡視せし東道なり。東海道の名の國史に現はれたるは、崇峻天皇の二年穴人臣雁を東海道の遺はし東海濱海の諸國を視察せしめられしを最初とす。この頃東海道は幾何の國より成りしかは不明なるも、扶桑略記には天武天皇の九年に伊勢の四郡を割きて伊賀の國を置き、駿河の二郡を割きて伊豆國を置かれし記事あり、また文武天皇の大寶年間全國を分けて五十八國三島とせし時は、東海道に十三箇を配したり。その後、元正天皇の養老二年上總の四郡を割きて安房國を置き(天平元年にはこれを復興せり)。光仁天皇の寶龜二年に武藏國を東山道より割きて

トイカ 冬火面

朝鮮黃海道金川郡の北西隅。郡邑金川の北二五軒。妙香山脈延びて東北境に鶴峰(四〇一米)を隆起せる外著しきものなく漸次西方に向ひて緩傾斜し、終に西境を南流する禮成江に達す。禮成江は面積を成すこと約二〇軒、嵌入蛇曲流を成し沿岸河成段丘の發達著しく、城内に於ける重要農耕地域を決定す。ただ灌漑の便を以て畑作農業發達し、水田は比較的少し。産物は大豆を主とし、人参・小麥・粟・蕎麥等にして、家畜及び柘蠶の飼育も行はる。郡の偏境に位置するを以て郡邑との連絡不便なり、寧ろ西隣平山郡との交通便にして鐵道京義本線南川驛よりは新溪街道(二等道路)を通じ、之による便多し。禮成江は水量乏しく舟運便ならず。

トイカ 東下

【東下面】朝鮮咸鏡南道長津郡の東北部。熔岩臺地蓋馬高原上を占め、郡邑長津の東方約三〇軒にあり。東境は蓋馬高原の東縁部を成し高峻なる山嶺南北に連る。即ち南より大岩山(二〇五米)・頭雲峰(二四五七米)・高嶺城山等、西境には蓮花山(二三五五米)・白山等あれども前者に比し一般に低し。而して南方より來る赴城江はこれ等山地の水を集めて高原上を北に緩流し、東部より來る大通氣江を容れ長津江に合流す。南部には赴城江の水を堰止して造れる朝鮮製肥料會社の大貯水池あり、水力發電に利用せらる。

赴城江は境内の農耕地及び居住地帶並に交通路を決定す。産物は蕎麥・馬鈴薯・大小豆・粟・蕎麥・蜜蝋・砂金・金・銀等なり。而内の幹線路三等道路は南方赴城嶺を越え江に沿ひて北上し、聚落の大部分亦此沿線に分布す。【東下面】朝鮮平安北道龍川郡の中央より稍北、新義州及び龍岩浦の略中間にあり。龍岩山(四七七米)の餘脈東南境に及び丘陵を成せるも其他は土地頗る平坦にして水田多し。不二農場の經營にかかる大正水利組合の水路は東南部を貫流す。産物は米・小麥・大豆・粟等にして殊に米の産額は郡中首位を占め、道中重要な米産地域をなす。また双鶴嶺山より黒鉛を出す。龍岩浦より來る道路は郡の南部を横斷し、その他バス路線數條あり、交通便なり。

トイカ 東化面

朝鮮全羅南道長城郡の中南部。郡邑長城の西南約七軒。嶺嶺山脈に屬する水蓮山(五四一米)の聳立する外は著しきものなく、花崗岩質山地の割刺による老年期の丘陵性山地にして平地極めて少く、丘陵面及びその緩斜面を耕地とし、従つて灌漑不利にして水田乏し。住民の多くは農業に従事し傍ら兼業・採薪に従事する者あり。産物は小麥・大麥・大豆・穀穀・烟草・紙・漆・笠等あり。鐵道湖南線は面の東境に沿うて南下し境に近く北に長城驛(長城面)、南に林谷驛(秋谷面)あり、前者よりは三

等道路を通じバスの便あり。聚落は普遍的に分布し、龍岩山を主邑となす。

トイカ 桃花

【桃花嶺山】朝鮮平安北道宣川郡東部の嶺山。嶺區は宣川邑及び東面に跨る。嶺は金・銀。三成鐵業株式會社の經營に係り、その産額は昭和十年、金・銀・鐵一一四萬(十七萬二千圓)、使役人員同年六月末二〇〇。

【桃花面】朝鮮黃海道谷山郡の西南隅。谷山面に南隣す。此地域は半島に發達せる東北より西南方に走る構造谷に當り、此構造線上に噴出せる玄武岩に被覆され高度三五〇米内外の一大熔岩臺地を形成し、遠く遼安・新溪二郡に及び、内にはその最も美事なる平坦面を有す。臺地は僅に西北に傾斜しその臺地面を幾多幼年期の溪流靜かに流れ、北半部のものには谷山川、南部のものは禮成江となり、其間微妙なる分水嶺をなす。一大平原なるも地質的關係上開墾進まず、農産は僅に大豆・燕麥等あるのみ。道路は北方谷山より南方新溪に通ずる二等道路東部を、谷山より西方遼安に通ずる三等道路西部を各縱貫し比較的よく發達す。

トイカ 道化面

朝鮮全羅南道高麗郡の南端。北西境に天霞山(五五五米)屹立し、東北境には馬伏山の餘勢延びて北部は山地を成し中部に稍廣き平地横はる。西南部海岸には楡朱山(四一七米)屹立し、航路上好標識をなす。海岸は頗る

出入に富み灣内比較的深く良泊を成す。産物の主なるものは大麥・米・粟・大豆・棉花類にして海産物には食鹽・淺草海苔・鱈・鯖等あり。中央低地の堂島里は面事務所の所在地に於て、また交通上の要衝をなす、定期に開く市場あり。

トイカ 東海

【東海炭礦】元泊村(津太元泊郷)【東海炭山】勿來町【東海道】我國八道の一。畿内の東、東山道の南、主として海に沿へる地方をいひ、伊賀・伊勢・志摩・尾張・三河・遠江・駿河・甲斐・伊豆・相模・武蔵・安房・上總・下總・常陸の十五箇國を含む。單に東海ともいふ。この地方は崇神天皇の朝四道將軍の一人なる武渟河別れの巡視せし東道なり。東海道の名の國史に現はれたるは、崇峻天皇の二年穴人臣雁を東海道の遺はし東海濱海の諸國を視察せしめられしを最初とす。この頃東海道は幾何の國より成りしかは不明なるも、扶桑略記には天武天皇の九年に伊勢の四郡を割きて伊賀の國を置き、駿河の二郡を割きて伊豆國を置かれし記事あり、また文武天皇の大寶年間全國を分けて五十八國三島とせし時は、東海道に十三箇を配したり。その後、元正天皇の養老二年上總の四郡を割きて安房國を置き(天平元年にはこれを復興せり)。光仁天皇の寶龜二年に武藏國を東山道より割きて

東海道に入れ、ここに現在の如く十五箇國となる。元來武藏國は今の東京灣が更に一層深く關東平野に入込みしため、相模より上總地方に至るには直ちに海を渡ることの便利なりしことは、日本武尊の東夷御征伐の際走水の海を渡りて直に向ひ給ひしことによりても知り得る如く武藏は東山道に屬せしめられたり。東海道地方は近畿地方に次ぎて早く文化の進みし地にて、伊勢には夙に皇大神宮が鎮座ましまし、尾張國は熱田宮の所在地にして、其他沿海地方は云ふに及ばず、關東地方の如き折衝大いに進み、淳和天皇の朝には上總・常陸は東山道の上下と共に親王の任國と定めらる。源賴朝が府を鎌倉に開き天下の權を握るに及び、東海道は俄然重要な交通路となれり。されど當時の東海道は鎌倉街道にして近江・美濃を経て尾張に至り大體海岸を通り足柄路を経て鎌倉に至りしもの。徳川家康征夷大將軍となりて幕府を江戸に開くや、海道的美濃に迂回するを避け尾張より伊勢・近江を経て江戸より京都に至る街道を定め、ここに五十三箇の宿驛を置く。これを東海道五十三次といふ。「次」とは各驛にて傳馬・飛脚の輓立を行ひしことより起りしものなり。ついで慶長九年二月には大久保長安以下に命じて、街道の幅員を五間とし、路傍には松樹を植ゑ、一里を三十六町と定め、一里ごとに一里塚を設けこれに榎樹を植ゑ、以て旅人の

慰安と里程の目標とし、且つ各驛の駄賃を定め、更に寛永十年には傳馬・飛脚の制を定め、東海道は五街道中驛制最もよく整ひ、各驛に大馬百人、馬百匹を常備して幕府及び大名等の往來に供し、これを百人百匹の制と稱へ、寛永以後引續き行はれしが、天明三年品川驛東某の建議を容れ、各驛百人百匹の定員中より公用その他不時の準備として人夫三十人、駄馬二十四匹を除き置き、七十人、八十四人を平時行人(武家武人及び公卿稱神を指す)の用に供することとせり。之を「人馬七八遣」の法と稱す。右定めの人馬は御朱印傳馬のみにして、此等行人は各驛にて強制的にこれ等の人馬を徵發し得たり。この外に一般庶民が備役し得る人夫及び駄馬、毎驛二百五十人と二百匹を常備する定めなりき。尙、飛脚の備へありしをもつて、幕府は特に各驛の田租を免除し飼馬の地若干を與へ、また飛脚脚料米及び問屋給米を支給して大いに保護を加へしが、元祿年間には各驛附近の地に定助地・加助地の制を定め、宿驛の人馬を補助せしめたり。されば各驛にはこれ等の事を扱ふ問屋・問屋場あり、宿役人あり、大名等の宿泊する本陣、脇本陣あり、庶民のための旅籠屋・茶屋あり、飯盛女あり、街道中にも箱根及び今切には嚴重なる關所ありて、關を通過するには必ず手形を要し、忍びて通行したる者には重刑を課し、案内者もまた同罪なり



トリーカ トリーカ

き。酒匂・興津・安倍・大井の四川には舟を置か、徒渉せしめたり。されば名だたる大井川の如きは、往來の人々、島田・金谷の川越所に至り、刺符を取りて八人懸の運葉に乗る者、肩車にて渉る者などにて頗る混雑を極めたり。諸大名の参觀交替は、身分に應じて多数の人数を従へ、鎗・薙刀・挟箱・豪弓・鐵砲・茶辨當・米馬等華美を競ひし所謂大名行列なるものにて、各驛の商工業者は之によりて潤ふところ多かりき。されどまた一面、人馬發達過超のために宿場及び近村の負擔の重課となり、定助郷・加助郷に對する愁訴絶ゆることなかりき。これ等東海道五十三次の各驛頭的情景は歌川廣重の東海道五十三次、十返舎一九の東海道中膝栗毛に遺憾なく描寫さる。今當時の五十三次の名稱・里程、現今所在地を表示すれば左表の如し。なほ東海道を本とする脇往還と稱せられたるものは、四日市より伊勢山田に至るものを伊勢路、尾張の岩塚より佐屋へ出、桑名を渡りて東海道の連絡するものを佐屋路、名古屋より大垣へ出、中山道の垂井に連絡するものを美濃路といへり。

東海道五十三次 (宮(熱田)より、海路驛名に至るを普通と(し)岩塚・佐屋を離るるを伊勢路といふ) 驛名 現政官所在地 日本橋 東京市(武藏國)日本橋區 (1)品川 同 品川區

Table with 3 columns: Station Name, Location, and Notes. Includes stations like 神奈川, 沼津, 富士原, etc.

Table with 3 columns: Station Name, Location, and Notes. Includes stations like 白須賀, 二川, 吉田, etc.

道本線・横濱線・横須賀線・御殿場線・伊東線・二俣東線・二俣西線・武豊線・西成線・福知山線・有馬線の總稱。 【東海道本線】 省線東海道線の幹線。東京市麹町區丸ノ内の東京驛より横濱・熱海・沼津・静岡・濱松・豊橋・岡崎・名古屋・岐阜・大垣・大津・京都・大阪の諸都邑を経て神戸市湊東區相生町の神戸驛に至る五八九・五九二と横濱市鶴見區鶴見町の鶴見驛より中區海岸通の横濱港に至る一〇・九軒、横濱驛(横濱市神奈川區高島通)より中區櫻木町驛に至る二・〇軒、大垣市高屋の大垣驛より岐阜縣不破郡赤坂町の美濃赤坂驛に至る五軒、神戸市灘區灘北通の東灘驛より神戸區新湊町の神戸港驛に至る四・九軒、東京市芝區高輪南町の品川驛より同區汐留町の汐留驛に至る四・九軒、汐留驛より同區日之出町の芝田驛に至る二・八軒、汐留驛より京橋區築地の東京市場驛に至る一・一軒、品川驛より鶴見驛に至る一七・八軒、川崎市堀川町の川崎驛より同市市川町の濱川崎驛に至る四・一軒、横濱市神奈川區東神奈川町の東神奈川驛より同區千若町の海神奈川驛に至る二・〇軒、東神奈川驛より同區表高島町の高島驛に至る二・五軒、横濱市神奈川區守屋町の入江驛より鶴見區地立地の新興驛に至る二・七軒、入江驛より神奈川區千若町地立地の瑞穂驛に至る二・八軒、高島驛より神奈川區山内町の山内町驛に至る二・

六軒、高島驛より表高島町地立地地の表高島驛に至る一・三軒、沼津市上土皆方の沼津驛より同市蛇松の蛇松驛に至る三・二軒、清水市水町の清水驛より同市日之出町の清水埠頭驛に至る二・五軒、名古屋西區佐屋町の名古屋驛より南區瑞穂町の堀川驛に至る九・九軒、名古屋驛より熱田區熱田西町の白鳥驛に至る四・九軒、大津市馬場の膳所驛より同市港町の濱大津驛に至る二・二軒、京都市下京區八條歡喜寺町の梅小路驛より同區朱雀分木町の丹波口驛に至る二・八軒、大阪府三島郡吹田町の吹田驛より尼崎市長洲外ヶ濱の神崎驛に至る一〇・七軒の支線とを含む。本邦省線中の主要線にして主要列車に國際列車が運轉され、特別急行列車三往復、外に多数の急行旅客列車あり。なほ歴史的にも重要な線路にして、日本最初の鐵道は明治五年十月この新橋・横濱間に營業開始さる。線路には丹那(我國第二位、七八〇四米)、泉城(我國第十七位、二四五七米)、新邊坂山(我國第二十位、二三二五米)のトンネルあり。

老川の扇狀地にして土地平坦、田畑よく拓け、米・麥・野菜等を産し、養蠶・養鶏も行はる。縣道千種村との境を略南北に通じ、また省線房總西線の五井驛・姉崎驛にも達ならず。この地は和名抄、海上郡島穴郷の内に於て後に海保庄と稱せし地。大字海保の海保城址は長元年中、平忠常の城きしものか。(島穴神社)大字島野に鎮座。縣社。祭神、志那都比古命。景行天皇四十年日本武尊東夷を御討伐あらせられし時海上にて暴風起り御船危かりしかば、風神志那都比古命を祀り給ふ。神位正五位下。式内小社に列し、當國五座の一。高倉天皇治承四年源頼朝神領として三十六石を寄す。文政六年松平定信當地附近の海防事業成就を祀り自筆の扁額を納む。これよりのち毎年幕府より幣帛を奉るを例とす。例祭、七月二十五日。

交通不便ならず。此地は和名抄、夷語郡慶道郷の内。(釋迦谷寺)大字釋迦谷にあり。天台宗。創建年大開山名等不詳。往古此境内に大なる釋迦堂あり、地名、寺稱これに因由せりといふ。本尊藥師如来を安す。 【東海面】 朝鮮咸鏡北道吉州郡の南端。郡邑吉州の南方二〇軒、東は明川郡、西は城津郡に接し、南は日本海に面す。冠帽山山脈に屬する冠峯(六二二米)、葦芝峰・馬乳山・平徳山・城内山等連りて北境を劃し、西南境は南大川流れ、沿岸は所謂東海平野の一部にしてやや廣き低地帯はる。海岸は長き弓狀の砂濱をなし、海上七軒に洋島嶼はる。東海平野は道中屈指の農作地にして、産物は大豆・粟・大麥・米・麻布等あり。また洋島は好漁場をなし春より秋に互り鱒・鱒・鱒・鱒・鱒・明太魚等の回游頗る多く好漁場をなす。道路は吉州・城津間の一等街道面の西南境近く縦走すれども直接城内に觸れず、交通やや不便なり。棄落は概して平野に多く龍原洞には定期に開く市場あり。

主畑作農業行はる。産物は大豆を主とし、麥・梗草・蕎麥・粟等あり。特産として葡萄は有名にてミツウ浦項農場あり、葡萄園の總面積一八〇ヘクタール、産額約四〇萬貫、農場に於て醸造をも行ひ、製品はミツウ葡萄酒と稱し品質の優良を以て鳴る。水産物には鱒・鱒・鱒・鱒・鱒等あり。道路は海岸道路を以て舟により對岸浦項等と連絡す。面邑は西隣の都邱洞にして、陰曆二・七の日に開く市場あり、市日には隣接の兄山面・烏川面・延日面等より來集し頗る活氣を呈す。 【東海面】 朝鮮慶尙南道固城郡の東方鎮海灣に向ひて突出せる半島部を占む。半島頂部に互流山聳えて喉口を扼し、東部には鷹岩山屹立し、東部及び西部はリヤス式岩石海岸を成し、南岸及び西北岸は砂濱を成し、低地は海岸に沿ひ僅に帶狀に分布するに過ぎず。住民の多数は農業または漁業に従事し、少數の製鹽業者あり。産物は大麥・粟・大豆を主とし、米は釜山又は馬山より移入の状態にあり。水産物は鱒・鱒・鱒等にしてまた食鹽を産す。道路は海岸環狀道路の外に南北横斷路あるに過ぎず、面内相互の連絡は舟によるを便とす。棄落は總て臨海部落にして、東岸には尾浦の泊港あり、漁業の一中心をなす。 【東海面】 朝鮮總督府鐵道東海北部線・東海南部線及び東海中線の總稱。此三

トリーカ トリーカ











を除く地域に多く工場地帯を形成すれど、三多摩・鳥嶺には工場地帯と稱すべきものなく、僅に八王子及び青梅地方が製絲・織物工業の中心をなす。農業は東京市の年々著しき膨脹により耕地は住宅地・工場敷地化のため年々狭小となり、農家戸数も比年減少す。従つて農業經營は漸次集約的となり多角化され、米麥の耕作は減少し蔬菜・花卉・果實等は年々増加を示す。更に近年は硝子室・木框・窓等の利用による高級園藝の發展著しきものあり。また數年來の繭價の暴落により桑園を整理し果樹を栽培するもの續出し、府下の果樹栽培は益々盛んならんとす。耕地總面積は四九〇八八町歩、田は一〇一三〇町(二%)、畑は三八九五七町(七九%)にして沖積地狭く、武蔵野臺地は多く畑地をなすに由る。農業戸数は六一一六〇戸、農業人口は三三三九八八八なり。農産物總額は三五〇八六千圓、うち米麥を除く食用農産物額は總計一四六二〇千圓を占め、遂に米麥價額を凌駕す。之を地域別に見れば東京市新市域の八八七二千圓を以て第一の産地とし、北多摩郡の三〇二九千圓に次ぎ、甘藷・大根・茄子・漬菜・胡瓜・馬鈴薯・里芋等を主なるものとす。臺地の西半は桑畑多く關東山麓養蠶地帯の一部をなし、製絲業もまたこの地帯に盛んなり。即ち南多摩郡・西多摩郡之に次ぎ、以上三郡の牧畜高は總數の九七・九%を占む。畜産

物は牛・馬・豚・緬羊・山羊・養兔・養蜂・養鶏・鶯・鶏卵・牛乳・煉乳・バター・人造バター・ハム・ベーコン・ソーセイチ等にて、總價額二三七九八千圓、屠肉の一五五六八千圓が主なるものにて牛乳の二九九九圓、産卵二一六二千圓、乳肉製品一六〇五千圓等に次ぐ。水産業は有用水族の發生・成育場として、また貝藻類の養殖場として、天賦の恩恵に浴せる東京灣に面せるのみならず、伊豆七島・小笠原諸島の近海には好漁場點在し、且つ多摩川・江戸川・中川・荒川等の流域ありて水産業は盛んなり。水産總價額は一九九七五千圓にて府縣中にも北海道・静岡・山口・千葉・長崎の各縣に次ぐ。「交通」東京は我國鐵道交通の一大核心にて放射狀にそれぞれ幹線を出す。府下を最も長く走るは中央本線にして、既に新宿驛は府下の玄関口となる。その他、社線に武蔵野鐵道・西武鐵道・京王電氣は市と府下とを連絡し、青梅電鐵・五日市鐵道は省線中央線の補助をなし、八王子よりは横濱に結ぶ省線横濱線あり。海上は島嶼部と東京港を結ぶ重要線あり。航空路の發着地點としては市内に羽田、府下に立川あり。「沿革」上古の武蔵野は奈良・京都が我國政治文化の中心地として王朝文化を咲かせし頃、草深き東の一部の草莽の原野たり。武蔵野の原始時代は大部分は森林たりしものなるべく、无邪志國造の置かれし頃は半農

半牧の状態なりしは、人口稀薄にしてその開發に歸化人を用ひしによりて知るを得。即ち天武・持統兩朝の頃より百濟・新羅の僧尼及び男女百姓を此地に移し田地を授けて生業に就かしめ、更に元正天皇の御代には高麗人一七九九人を武蔵に移し、高麗郡を置かれしこと史に見ゆ。彼等は朝鮮獨特の火田の耕作法により森林を焼き畑を作りといふ。かくして茫茫たる草原武蔵野に牧場の發達せるは、延喜式に石川牧・山比牧・小川牧・立野牧・檜前馬牧・神崎牛牧の名目あるによりて知らる。武蔵野が歴史のとなりしは、關東武士が我國政治文化の擔當者として鎌倉に幕府を開きしに由る。當時武蔵國には江戸氏・豊島氏・澁川氏・葛西氏・村山黨・由比氏の諸豪族割據し、幕府の有力なる應下として活動せり。殊に江戸が歴史のとなりしは關東管領扇ヶ谷上杉定正の家臣太田道灌が江戸の地を關東・奥羽の咽喉を扼する要衝地なりとし、江戸城を築くに至りしに由る。道灌によりて江戸は草莽の一葉落より關東樞要の都市となりしが、文明十八年に道灌歿し、北條氏の有に歸するに及び、繁榮を小田原に奪はれ、昔日の面影を失ふに至る。然るに豊臣秀吉の海内統一成り、徳川家康が關東八州を領するに及び、一路喪亡に向ひつつありし江戸は、再び關東の主都として再生し、謂はゆる江戸八百八町の街衢次第に形成せられ、今日の

大東京の基礎確立せり。舊江戸を除く現在の東京府の地は古くより開發せられしが、全般的開發は江戸時代に入りてより後に屬す。即ち徳川氏は江戸に政權を確立すると共に府外の開發に意を致し、新田の開發を奨勵し、沼澤・蘆荻は漸次沃野と化し村落形成せらる。然るに幕末に至り黒船の襲來により鎖國の夢破れ、他方幕王攘夷は叫ばれ三百年の幕府の基礎も崩壊し、全國に君臨せし大江戸の地位も失墜の憂目を見るに至り、王政維新の大業成就し、明治新政府樹立されて、明治元年七月十七日東京府都の大詔が下され、江戸は東京と改稱され、同時に東京府設置さる。開設當時の地域は朱引内と稱せられし範圍なり。朱引とは幕府時代地圖に朱を以て府内・府外を別つ境界線を引きしに起りし名稱にして、當時の朱引内は品川・高輪・三田・白金・目黒・澁谷・四谷・牛込・巢鴨・駒込・谷中・淺草・本所・深川・龜戸の廣範圍なりしが、その大半は寺社地及び武家地にして支配權は及ばざりしが、やがてその支配權を得、明治元年武蔵國縣事より朱引外百數十箇町村を移管するに至り。次いで同四年廢藩置縣が斷行され、舊東京府は一且廢せられ、新に東京府が設置され、荏原・豊島・足立・葛飾・多摩のうち大體現在の東京市に當る地を管轄下とせり。後には根柢の飛地たる荏原郡世田谷村以下二十一個村、多摩郡本村以

下九箇村もその所管とせり。次いで明治十一年伊豆七島を靜岡縣より、同十三年小笠原島を内務省より移管せられ、同二十六年西多摩・南多摩・北多摩三郡を神奈川縣より移され、昭和七年には東京市に隣接する五郡八十二箇町村の市域編入あり、同十一年北多摩郡千歲村・砧村を世田谷區に編入し以て今日に至る。

【東京市】

我國の帝都、我國第一の大都市。東の都、東の京の意にて京都の西京に對す。太田道灌の江戸城を開きしに發し、徳川家康が天正十八年八月ここに入城してより目覺しく發展す。爾來この地は江戸時代約三百年間幕府政治の中心地となり、明治元年に至りて明治天皇ここに帝都を定め給ひてより帝國の首都となる。京都の美術工藝・宗教の中心として觀光都市、大阪の經濟都市たるに對し、本市は政治・學術都市として重きをなし、更に之より起る商工機關の設置により生産都市としても東日本の中心をなす。また本市は我國の最大人口都市にて、一國の最大人口都市即ち帝都たる點に於ては英・佛・獨の諸國と等しく、また京都を即位地とせる點に於ては、帝政時代のロシアがペテログラードの首府に對し戴冠式地としてモスコウを有せしと同型なり。更に政治的なると共に經濟的一中心をなすを以て、北米合衆國が經濟都市ニューヨークを避け閉靜なるウォシントンに首府とな

すものとは大に異なる。

一 位置・面積

〔位置〕東京府の東部に位し、舊東京天文臺(麻布區飯倉町)を標準とすれば、東經一三九度四四分一秒、北緯三五度三九分一六秒にして、その四極は極西東經一三九度三三分五秒、極東東經一三九度五五分二秒、極北北緯三五度四八分四七秒、極南北緯三五度三一分五九秒とす。市の東南部は太平洋に續く東京灣に臨み、背後には我國第一の平野たる關東平野を控ふ。而も關東平野を中心とする關東地方は我國のほぼ中央に位すれば、本市は帝都として且つ世界的大都市として發展するに頗る好適なる地理的位置を占むといふを得べし。されど我國人口密度の重心として既に文化地帯に於ける交通勢力圏の中心としては、京阪に比し東方に偏在す。この東偏は對支の場合には顯著なれども、對美的には好位置となる。「面積」明治二十二年市制施行當時の本市の管轄區域は、舊江戸のそれを承け継ぎしものにして、明治初年以來殆ど擴張を見ず、僅に明治二十四年以來埋立てたる海面の地積百數十萬坪と、大正九年に舊豊多摩郡の一部を編入せしに過ぎざりき。然るに、明治以來本市の急激なる發展は市外の發展を招來し、殊に大正十二年の關東大震災以來は必然的に市外町村の發展を促したり。その上に、都市計畫法の發布に伴ひ大都市の建設計畫が

トキヨ 東京市 位置 面積

進められ、又交通機關の發達に伴ふ市民生活の改善、國力の伸暢に伴ふ帝都の威容顯揚の必要など諸種の事情より市域擴張の機運急速に熟し、遂に昭和七年十月一日を期して市外五郡、即ち荏原郡・豊多摩郡・北豊島郡・南足立郡・南葛飾郡の八十二箇町村を合併して待望の大東京市の實現を見るに至る。この擴張に依り一躍五五〇方村に達し、舊市域の八一一方村に比すれば正に六・六倍に及べり。ここに於て面積よりすれば、ロサンヂェルス・上海・ベルリン・ニューヨークに次ぎて世界第五位の大都市となるを得たり。昭和十一年に至り更に北多摩郡の一部を世田谷區に編入せしを以て現在の本市の面積は五七二・八一方村(陸地測量部調査)にして、これに水面の埋立地を加ふれば五七七・九五方村に達す。現在三十五區中面積の最大なるは板橋區にして、全市の一四%を占めて舊市域全體に西敵し、世田谷・足立・江戸川・葛飾の各區これに次ぐ。また最小は神田區にして全市の〇・五三%に過ぎず、日本橋・四谷の兩區これに次ぎて小なり。東京市調査に據る各區面積は左の如し。

東京市	五七二・九五	芝	九・九
麹町區	八・三	麻布區	四三・九
神田區	三〇・九	赤坂區	四三・三
日本橋區	三・三	四谷區	三二・四
京橋區	五八・八	牛込區	五三・二

二 地形

本市は地形上山ノ手臺地と下町低地とに分つことを得。山ノ手臺地は武蔵野臺地の東の部分にして、高度二〇米乃至四〇米を示し、本市の西の部分を含む。之に對して下町低地は隅田川・中川・江戸川の沖積低地にして、山ノ手臺地の東に連り、千葉縣國府臺の臺地の間に横がり、高度二〇米以下、概ね五米に満たず。山ノ手臺地と下町低地とは北より南へ互る忍ヶ岡(上野公園)・駿河臺(神田)・大内山(麹町)・愛宕山(芝)・高輪臺(同)の線にて相接す。下町低地には下谷・神田兩區の各一部及び淺草・日本橋・京橋・荒川・向島・本所・深川・城東・王子・足立・葛飾・江戸川の各區が横はる。また山ノ手臺地の下町低地に臨む縁邊部には下谷・神田兩區の一部及び麹町區・芝區

小石川區	六・六	澁橋區	一〇・〇
本郷區	四・八	中野區	一四・一
下谷區	五・四	杉並區	一三・〇
淺草區	五・五	豊島區	一三・六
本所區	六・九	池野區	五・三
深川區	二・六	荒川區	一〇・五
品川區	一・七	王子區	一五・八
目黒區	一七・三	板橋區	八〇・六
荏原區	五八・〇	足立區	五三・六
大森區	三三・四	向島區	七・八
蒲田區	三二・四	城東區	二〇・八
世田谷區	三三・六	葛飾區	三六・八
澁谷區	二五・四	江戸川區	四六・八



等あり、これに續いて本郷・小石川・牛込・四谷・赤坂等、舊市域の山ノ手の各區横はり、更にその外側には澗野川・豊島・澗野・澗谷・目黒・荏原・品川・板橋・中野・杉並・世田谷・大森・蒲田等、新市域の各區並ぶ。(山ノ手臺地)山ノ手とは「山の方」といふ意味にして、武蔵野臺地の東の部分なり。武蔵野臺地は多摩川と荒川及びその支流なる越邊川との間の洪積の波狀臺地にして小起伏多く、複雑を極むるも、その表面はローム、即ち通稱赤土に蔽はれ關東地方に特有なる赤土臺地の代表をなす。ローム層の厚さは舊市域に於て三米乃至七米にして本郷區に最も厚く、小石川・麹町・四谷・麻布の各區これに次ぎ、赤坂・牛込・芝の各區に最も薄し。ローム層の下部には臺地の基盤をなす洪積世の厚き粘土及び砂礫の累層あり。その中には化石石・有孔蟲を埋藏し、往時に於て臺地が淺海もしくは海岸に堆積せし三角洲なることを示せり。即ち山ノ手臺地はロームの堆積の終了後水底より漸次に隆起して乾燥となり、今日に及ぶるものなり。而してこの三角洲の頂點は、青梅町(西多摩郡)にありて荒川・多摩川・東京灣にその三方を圍まれ、長さは四五軒、幅は二〇軒に達し、高度は大體三〇米より一九〇米にまで達し、西端の關東山地に接する方面最も高し。即ち、武蔵野臺地は關東山地の縁邊をなす所謂ビーモントプラトーの最

も幼稚なるものなり。武蔵野臺地が水底より隆起せし後、臺地の表面は、古くより關東山地より流れるたる河川及び臺地面に新に發生せし後生河川によりて創制せられしかば、今日に於ては各河川はそれぞれその大きさに應じて大小の浸蝕谷を作り、臺地面は幾つかの地域に分割せらる。更にこの各地域も雨谷の發達せるため複雑なる波狀起伏を呈す。されど雨谷と雨谷との間には平坦面が残存し、總じて武蔵野臺地は幼年期の地形を呈すといふべし。斯くの如く、山ノ手臺地は武蔵野臺地の東部に方り、その表面はかなり浸蝕開析せられ、俗に谷戸と稱せらるる窪地の谷が軒餘曲折せるを山ノ手地形の特色となす。武蔵野臺地の谷は成因上二つに分つことを得。一は多摩川・荒川・江戸川の如く、山地より發して海に注ぐ大河の浸蝕が明瞭に示す如く、謂はゆる延長河の浸蝕に因るものなり。されどこれは山ノ手臺地の谷の形成には直接關係せざるべく、却て崖端より浸蝕し始めて次第に後退せる、所謂崖端浸蝕谷及び古延長河が嘗ての臺地上に形成せし浸蝕谷の中に源を發せし河川が以前の幅廣き谷の中に更に谷を刻みしもの方を重要とす、即ち名殘川が重要ななり。而もこれ等の河川は山ノ手臺地の中心ともいふべき田無・吉祥寺附近を中心として西方を除く周圍の地に放射狀に流れ、自然の傾斜に對して必從(Consequent)河川を形成す。山ノ手臺地の下町低地に臨める所はいづれも斷崖、又は急斜面をなす。赤羽・上野公園の崖、湯島・神田明神間の崖、愛宕山の崖、高輪の崖等は其の著しき例とす。これ等の崖はいづれも斷崖にして、その東側の崖はローム層の堆積せし後に陥没して海となりしものなれども、中には更にこの崖の脚部が海波の侵襲を受けて後退せし所もあり。山ノ手臺地東端の崖の方向を見るに、赤羽・上野公園間の崖は西北より東南へ一直線をなし、鶯谷・駿河臺間の崖はこれと直交して東北より西南へ向ひ、また宮城・愛宕山間の崖、高輪・品川間の崖は鶯谷・駿河臺間の崖と平行す。この事實により本市域は、西北・東南行と東北・西南行との二斷層が交叉して地形を支配せることを知る。而して臺地の間を流るる河川のうちに、この孰れかの系統の斷層に流路を求むるものあり。即ち根津・荒川・日黒川・澗谷・澗谷川・池尻下流の澗谷、板橋下流の千川・澗谷、赤坂・澗池・澗谷等は西北・東南行の斷層に滲ふ斷層谷と見られ、和田堀・落合間の神田川中流、大和川・板橋間の千川・澗谷、四谷坂町・飯田橋間の澗谷、澗谷川上流の千駄ヶ谷澗谷等は東北・西南行の斷層に滲ふものと考へらる。斯くの如き地形の山ノ手臺地は地形上次の如く分つことを得。一、上野・湯島山臺地、東は上野・田端・赤羽線を以て區切られ、西は荒川

III

區は之に屬せるも、この兩區の接觸面には人工的の谷ありて兩區を限る。麹町は概ね二五米乃至三〇米、永田町附近は二七・五米、四谷は概ね二五米にして、高所は三二米乃至三五米なり。三年町より紀ノ國坂までと、飯田橋より九段坂邊までは二二米乃至一六米の斷崖をなす。六、麻布・赤坂臺地、麹町・四谷臺地の南に位し、南と西とは澗谷川を以て限らる。開析進み、起伏複雑にして所謂谷戸よく發達す。高度は大體二五米なるも、青山より麻布本村町邊までは三〇米以上なり。七、芝白金臺地、澗谷川と目黒川との間の臺地にして芝區を主とす。開析は諸臺地中に最も進み、頂上は白金・高輪・三田・伊達跡の如き小區劃に分たる。高度は概ね二五米にして四周には斷崖よく發達す。以上は舊市域の臺地なるも、更に新市域の臺地は次の如くに分たる。一、新河岸川地域、市の最北部に位し、大泉地方の外は概ね東上線(社線東武鐵道の一)以北の狹長なる斜面なり。赤塚臺地・赤羽臺地ここにあり。これ等の臺地の北端は荒川の河蝕に因る急崖然として、多數の小澗谷を形成す。赤塚は三四・七米、赤羽は二四・七米、大泉地方は五〇米内外の高度とす。二、石神井川地域、大體東上線と千川上水との間の丘陵地にして、到る處に若く淺き谷地が見られ、また石神井・練馬・江古田・池袋等の臺地横はる。高度は上板橋方面

でも海浸を受けたり。然るにその後、これ等の地域は徐々に隆起し、また澗川が土砂をもたらし漸次に埋立してしを以て現在の如き沖積平野の發達を見たり。而もこの沖積作用は山ノ手の澗谷より始り、漸次に臺地沿ひの平野部に及び、利根川・多摩川の吐口には今日なほ三角洲が作られつあり。かくて下町低地は次の如く海面上僅か數米に過ぎざるも、その地下には更に低き臺地澗谷及び舊河床の埋藏せるあり。いま下町低地の標高を見るに、月島南端一・二米、兩國橋河畔一・八米、龜戸下水神一・二米、洲崎海岸二・五米、吾嬭町一・五米、砂村東南四・八米、千住町中央二・七米、下小岩一・九六米、龜有二・一四米、荒川放水路上〇・九九米、葛西〇・八米なり。尙この下町低地の生育には人工埋立も重要な役割を果せるものなり、即ち慶長以來行はれし埋立工事のうち重要なものは次の如くにして、今日もこの埋立工事は引續き行はれ、益々新開地の増加を見つあり。一、慶長八年神田山を切崩し、南の入海四方三〇餘町を埋立。一、寛永の頃永代島と稱へたる蘆荻地を伊勢の人深川八郎右衛門なる者開拓(今の深川の地)。寛永元年更に淨土宗の僧雄譽靈巖上人、海汀を埋立て靈巖寺を建立す。のちこれを靈巖島と稱す。一、寛永十年南傳馬町三丁目の北川を埋立。一、寛永年間攝津佃村の漁人に鐵砲洲・向千鶴百間

III

の谷によりて割されし狹長なる丘陵にて東北部に絶壁をなすも、西北部は緩傾斜をなす。高度は上野公園附近にて五米、谷中にて八米、筑波臺にて二二・五米、澗野川の飛鳥山にて二五米あり。二、本郷・巢鴨臺地、東は荒川谷、西は千川の谷、即ち板橋・巢鴨新田・大塚・米川町・戸崎町・水道橋の線を以て限られ、本郷區の大部分、小石川・巢鴨兩區の各一部に屬す。駿河臺もこの一部なるも人工的に神田川によりて切放さる。低地に臨む所は概ね斷崖をなし、高度は駿河臺二〇米、宮本町二〇米、彌生ヶ岡附近二三・五米。三、小石川臺地、千川の谷と神田川との間の臺地にして、小石川區の大部分と豊島區の一部とが之に屬し、神田川に面する所には一〇米乃至一五米の斷崖を露呈す。高度は傳道院附近二〇米、小日向臺・豊島ヶ岡・學習院附近は三〇米なり。四、牛込臺地、小石川臺地の南方に位し、神田川によりて之と境され、南は外濠・澗谷川等によりて限られたる臺地にて、練馬は大體二五米線を以て圍まれ、若松町及び豫科士官學校附近は三〇米、最高所をなす。戸塚町附近は斷崖緩かなるも他は七米乃至一二米の斷崖諸所に存在す。五、麹町・四谷臺地、牛込臺地の南方に位し、南は虎門・澗池・赤坂見付・田原町・明治神宮外苑の北をなす。西方は澗谷川、東方は宮城・九段の線に限らる。麹町・四谷の兩

四方の地を賜ひ、正保元年佃島の漁村成る。一、萬治元年木挽町海手・赤坂・小日向等を埋立。一、萬治二年仙臺侯、命を受けて神田川割削を行ひ、牛込・御茶ノ水大川に通じ、小日向・小石川に新生地を作る。一、同年深川鐵砲洲の地を開拓。一、元祿十一年深川海手一萬坪を埋立てて洲崎と稱す。一、元祿十三年永代島・築島六萬坪成る。一、明和二年平井滿右衛門なる者洲崎の東方に汐除土手十七町(高さ十二尺、幅六間)を築き二十萬坪を作る。翌三年製鹽をなす。平井新田即ちこれなり。一、明和三年靈巖島埋立成る。藁藪島といふ。一、明和八年靈巖島埋立成る。一、安永元年大川の中洲成り、同四年に至りて町家全く成る。一、安永八年小網町・甚左衛門町間を埋立。一、天明五年三股中洲(養生地)出來す。〔海岸〕本市の面する海面は東京灣の大黒頭巾形に變入せし一部にして、東は江戸川三角洲の突出部、南は多摩川三角洲のそれとによりて區劃せられ、大體、品川灣と稱せらるる海面に當る。灣内は頗る淺く、五米等深線以下なり。特に江戸川三角洲の地先の三枚洲、多摩川三角洲の地先の羽田洲は水深〇・五米の河川排澗の土砂より成る泥堆にして、干潮時にはこの泥堆が遠く一連沖まで露出し、貝類及び淺草海苔の養殖に利用せらる。東京靈岸島の潮汐恆数は大潮差一・三米、小潮差〇・五米なり。浦賀水道より進入す



る潮流は第二・第三海堡を流して東北の方向に進路をとりて盤洲沖に達し、江戸川口を目標として進むものと見られ、この間に左右に分力、東方に出づるものは千葉沖に、西方に出づるものは品川灣に向ふものと見らる。また落潮時には大體西方海岸に沿うて流出するを常とす。品川沖の表面水の温度は冬季六度内外、比重一・〇一七内外、平均水面は三月に最低、八月に最高にしてその差は約〇・二米とす。水色はフオーレル標準液の帯黄色なり。また海水停滞して赤潮の現象を生じ易し。赤潮は海水が河口又はその附近に数日乃至十日一進一退してその上に淡水が重り停滞する時、この淡水中に發生する浮遊微生物のために生ずるものにして通常錆色を呈し、魚類には極めて有害なるため、その死滅又は逃走を促し水産業上の大問題を惹起す。

三 地質

市域は前述の如く山ノ手臺地と下町低地とに分せらるるを以て、地質もこの二つの區域に分けて述ぶることとすべし。〔山手臺地〕臺地の最上層は赤土といはるるロームとす。厚さは三米乃至一・二米の水平層をなし、臺地の表面を一律に蔽ひ、大體東北部に厚く、南部と西南部とに薄し。ロームは洪積層にて色は茶褐色乃至黄褐色にて極めて脆く、多孔質粗鬆にして乾けば土塵となりて飛び易く、雨に遭へば水を含みて軟化し、道路は泥濘とな

り、冬は霜柱を生じ易し。七〇％は粒径〇・〇一耗以下の粘土より成り、その餘は大部分粒径〇・〇一乃至〇・〇五耗の微砂と粒径〇・〇五乃至〇・二五耗の細砂とより成り、填土の一種と見らる。主に紫蘇輝石・斜長石・磁鐵礦・火山玻璃より成り、また角閃石・普通輝石・黒雲母・石英の晶片を有することあり。ローム層の下部には一般に厚さ三層乃至八層の黄色浮石片の薄層を挟有す。更にその下に粘土と多少の石英砂とを含む異性赤土存在せるも、その厚さは一定せず。更にこの異性赤土の下には褐色・黄色または灰白色の粘土砂の互層あり、その厚さは薄き所にて〇・五米乃至一・五米、厚き所は六米乃至七米に達す。以上ローム層と粘土砂互層とを一括して關東ローム層と稱す。このローム層の下には之と不整合をなして成田層と稱せらるる黄褐色の砂礫層存す。海棲貝化石を含むことあり、海成層又は海岸成層といはれ、その地質時代は洪積世と見らる。厚さは田端附近にて六米、巢鴨にて一米乃至三米、雜司ヶ谷にて五・五米、戸塚にて五・九米、上目黒にて二・六米、北品川にて三・六米とす。臺地の牛込北部・目黒川間の地域には分布を見ず、又は分布を見るも甚だ薄きものとせらる。尚ほ山ノ手臺地の溪谷には第四紀の沖積層の分布も見らる。これは概して泥炭層にして、千駄木町・指ヶ谷町・溜池・古川等に分布す。

含み、砂は暗灰色・褐色又は帯青暗灰色を呈し中粒乃至粗粒にて豆大の礫を混へ、礫は灰色にして主に磁岩・粘板岩・砂岩の圓礫なり、尙ほ砂・礫は普通粘土を含有したる貝殻を埋藏することあり。粘土質砂層は主に暗灰色の細粒乃至中粒の砂より成り、常に多少の粘土を雜へ、また貝殻を埋藏す。淺草北部・本所・深川に廣く分布し、厚さは三米乃至五米にして時に七米乃至八米に達する所あり。粘土層は沖積層の上部をなすものにて暗灰色・帯青暗灰色又は黒灰色の柔軟なる粘土より成り、時に細砂を雜へ砂礫粘土に移化せる所あり。また貝殻を埋藏す。淺草北部・本所・深川・不忍池南方・丸ノ内等に最も厚く、厚さは普通一五米乃至二五米、深川南部にては五〇米に達する所もあり。砂礫層は沖積層最下部に沈積し、砂は暗灰色又は稀に帯青暗灰色にして普通細粒又は中粒なるも、時には粗粒又は豆大の礫を雜ふることあり、礫は暗灰色・帯青暗灰色又は黒色を呈する磁岩・砂岩・粘板岩の圓礫とす。淺草北部より月島に互り地下に伏在せる第三紀臺地の東縁及び丸ノ内・溜池・古川の如き第三紀溪谷の各床に分布し、厚さは普通一〇米内外なれども個所に於ては一五米に達す。以上の沖積層の下部の基盤としては第三紀層あり、これが臺地の場合の如く上部層・中部層・下部層の三層より成れるものなることは取て言を俟たず。

〔地下水層〕臺地にては大體五層の地下水層が認めらるるも、何れも浸潤水が不透水性の粘土層の上に停滞せしものにして概ね砂礫層中に含まる。第一帶水層はローム層の下部にあり、水道敷設前山ノ手の汲井戸は概ねこれを利用して、第二帶水層は第四紀層成田層の砂礫層なり。御茶ノ水切羽北側崖壁に湧出する清水はこれなり。次に第三紀層の上部層の砂礫層、中部層の砂礫層及び下部層の砂礫層に三層の帶水層を見る。低地の沖積層にありては、上部の粘土質砂層又は粘土砂礫互層と下部の砂礫層とに帶水層を認むれども、水質は一般に不良にして飲料に適するものは稀なり。

四 氣候

本市の氣候はその位置によりて示さるる如く、良好なる温帯性氣候なり、また表日本型の氣候といふを得べし。次に各要素に就きて述ぶべし。〔氣温〕東京の年平均氣温は攝氏一四度にして、これを世界の主要都市、例へばモスコの三・七度、ベルリンの八・六度、パリの一〇・四度、ロンドンの九・七度、ローマの一五・三度、ニューヨークの一・四度、ブエノスアイレスの一六・三度、シドニーの一七・二度等に比較すれば稍高き方なり。我が内地にては京都の一三・九度最も近し。されど本市は東京灣に臨み太平洋に近きを以て氣温は海洋性を帯び、京都に比して一日中及び一年中の氣温の

厚さは一・五米乃至二米、稀に一〇米に達する所あり。主に粘土と泥炭とより成り、粘土は黒色にて頗る軟く、泥炭は若類又は蘆葦の遺根より成り褐色を呈し粘土を多少含む。而して溪谷が臺地を離れば本所・深川に於けると同じく粘土層厚く、泥炭層突減す。上述の成田層の下部には第三紀層基盤をなす。この層は東京層と稱せられ凝灰質粘土・砂礫等の互層より成り、地層全體が青灰色を呈する所多し。而してこの東京層は上部より上部粘土層・上部砂礫層・下部粘土層・下部砂礫層・凝灰質粘土層の順序とす。上部粘土層は黄褐色、又は灰色の粘土より成り、往々砂質粘土に移化せるものあり。これは臺地の北部に廣く分布し、厚さは普通三米乃至四米とす。上部砂礫層は灰色又は褐色の砂或は礫の累層より成り、薄き粘土層を數層挟有す。礫には磁岩・砂岩多く、また時に貝化石を含むことあり。臺地の中部に最も厚く、厚さは一〇米乃至三〇米に達す。これ等の二層が第三紀層の上部層をなす。下部粘土層は灰色又は青灰色の粘土より成り、一般に凝灰質にて細砂を混ざることあり、又往々細砂の薄層を挟む。厚さは五米乃至二〇米とす。下部砂礫層は灰色又は褐色の砂礫より成り、數枚の粘土層を挟む。礫は上部に多く、主に磁岩・砂岩・粘板岩等とす。下部は細砂を主とし、貝化石を含むことあり。厚さは五〇米乃至一〇〇

米に達する所あり。この二層が第三紀層の中部層をなして殆ど全市域に分布し、上部層とは不整合關係にあり。凝灰質粘土層は第三紀層の下部層をなし、主に青灰色の凝灰質粘土より成り、細砂を混ざることあり、また數層の砂層を挟有す。月島にては海面下九一米にして厚さ二米の化石層あり、貝化石のほかに數種の有孔蟲を含む。されど一般に地表に露出を見ず、中部層に對しては不整合關係にありとせらる。〔下町低地〕下町低地の最上層は沖積又は盛土なり。この沖積層は臺地の溪谷にも分布せるも、下町は一度海浸を被り後に河川と海との沖積によりて陸地となりしものなるを以て沖積層に蔽はれたる事勿論なり。これを構成する物質は粘土砂礫にしてその中には海棲貝類の殻多く埋藏し、淺海の堆積層なることを示す。通常は多量の水を含み、凝結度は極めて低く、従つてその厚き所は地盤脆弱にして、大地震の時には震害を被ること大なり。沖積層の厚さは一〇米より五〇米位なるも、これを上部より〔一〕粘土砂礫互層・粘土質砂層、〔二〕粘土層、〔三〕砂礫層に區分す。粘土砂礫互層は淺草東部・神田・日本橋等に互りて地下に伏在する第三紀臺地の縁邊又はその上に沈積し、厚さは普通五米内外なるも、本所小梅町附近にては一・一米より二〇米に及ぶ。粘土は暗灰色又は黒灰色にして、時に砂又は少量の小礫及び貝類を

較差は小なり。尤も同じ東京市内に於ても西部の新興市が海岸寄りよりは此の較差の大なることは云ふまでもなし。氣温上昇の時は通常七月下旬より八月初旬にかけて現れ、一年中の最高もこの間に現るるを普通とす。時としては七月上旬及び九月初旬に突然高温の現るることあり。これまでの最高氣温は明治十九年七月十四日の三六・六度とす。月別平均にては八月の二五・六度が一年中の最高とせらる。又一年の最寒期は一月の下旬より二月初旬にて、一年の最低氣温もこの間に出づるを普通とす。時には氣壓配置の關係その他の事情のためにその前後に突然低温の現るることあり。昭和二年一月二十四日の零下八・六度は東京に於ける最低氣温なり。月平均にては一月の三・一度が最低なり。尙ほ本市に於ける平均氣温は次に示すが如し。(單位攝氏度)

Table with 2 columns: 月別 (Monthly) and 平均氣温 (Average Temperature). Rows list months from January to December with corresponding temperature values.



大記録は昭和十三年六月二十九日の二七・八・三耗なり。雪・霜・本市の初雪は十一月中旬にも見られることあれども、平均にては十二月二十四日にして、終雪は四月十日頃のことあるも、平均にては三月二十日頃なり。又初霜は十月二十一日頃にもあれど、平均は十一月十二日、終霜は平均にては四月六日なるも、時として五月中旬のことあり。尚ほ本市の雨量・降水日数・快晴日数・曇天日数は次の如し。

Table with 4 columns: 月別 (Monthly), 雨量 (Rainfall), 降水日数 (Precipitation days), 快晴日数 (Clear days), 曇天日数 (Overcast days). Rows for months from January to December and annual totals.

五 産業

【農業】 市域の擴張以來、本市には農業も相當に行はれることとなり。これは同じ東京市内にても都心より遠隔の地域にては、未だ都市化せず、猶ほ農村とし

なりつつあり。

【水産】 市の沿海は魚族豊富とは云へざるも、海藻・貝類の養殖を主とする水産業は、水産物六百二十萬圓、水産製造物一千七百七萬圓、合計年産一千八百四十萬圓外をあげ。また水産業者は本業約六千二百人、副業約一千八百人、同業者は本業一萬七千人、副業四千人、漁船は約八千隻あり。舊市域にても行はれるも新市域の方途に盛大にして水産總額の四分の三は新市域の生産にかゝる。漁場は品川御台場以西、多摩川口沖に至る一帯の海面を主とし、漁獲物は鰯・鰯・鰯・白魚等を主とす。水産養殖の盛大なることは東京市水産業の特色にして、アマノリ・鯛・金魚・鰻等を主とし、その價額は五百萬圓内外に達す。殊にアマノリは東京の名物ともいふべく、養殖場數約二百二十、養殖面積百六十萬坪、生産額四百二十萬圓(四百五十萬圓内外)に達す。深川・品川兩區に於ても産すれども、主として大森・蒲田・江戸川の三區にて行はれる。金魚の養殖は主として江戸川・城東の兩區にて行はれ、養殖面積約十萬坪、生産額は約八萬圓に達す。また鯛の養殖は遠淺の海面を利用するものにしてその年産額約十萬圓とす。水産製造には乾海苔・蒲鉾・竹輪・佃煮等あり。蒲鉾・竹輪は年産額百五十萬圓に達するも、原料は市内にて産せず。また佃煮の年産額は百六十萬圓内外にして古き歴

て残存せる處多きが故なり。尤も最近所謂郊外居住者の年々増加するにつれ、耕地の漸減しつつあることは言を俟たず。現在に於ては市域の農業世帯數は約一萬八千戸、農産總額は約一千四百萬圓に及ぶ。

Table showing agricultural statistics for 昭和八年, 同九年, 同十年, 同十一年. Columns include 農家戸數 (Total, New, Old), 農業人口 (Total, New, Old), 耕地 (Total, New, Old), and 農産物 (Total, New, Old).

主なる農産物を見るに、米九萬八千石、大麦七萬四千石、小麦一萬九千石、粟一萬六千石、甘藷百二十萬圓、甲芋三十七萬圓、馬鈴薯四百萬圓、大根六百二十萬圓、牛蒡百萬圓、人参三十萬圓、漬菜四百五十萬圓、甘藷二百八十萬圓、茄子四百八十萬圓、胡瓜三百萬圓、西瓜五十六萬圓、越瓜二百萬圓、南瓜百萬圓、葱六十萬圓等なるも、これ等農作物中特色あるは野菜とす。大都市の周圍に必ず行はれる野菜栽培は大東京成立以前の郊外たる新市域にて古くより行はれしものに

して、その作付面積は約一萬町に及ぶ。板橋・足立・杉並・江戸川・葛飾の各區が盛にて、東京市需要の野菜の約四分の一は市内より出づ。而して例へばアスパラガス・山東菜・京菜・小葱菜・小燕・胡瓜・茄子等の最も新鮮を必要とするものは都心に近き内域に多く栽培せられ、大根・人参・牛蒡・西瓜の如きは都心より遠き外域に多く栽培せらる。尚ほ新市域には養蠶も多少行はれ、收購額は年四百萬圓を示すも都部に比すれば甚だ僅少な

四 畜産

【畜産】 家畜も主として新市域に飼育せらる。主なる家畜は牛の七千二百頭、馬の二千五百頭、豚の一萬七千頭、山羊の三百頭などなり。牛乳の大消費地たるだけに乳牛斷然多く、その數三千八百頭に及び、牛乳の年産も八萬八千石内外に達し、所謂搾乳業者の多きことは特色をなせり。また豚肉の産額も多し。屠殺は専ら新市域にて行はれるものにて、一箇年の屠殺數は牛四萬一千頭、馬一萬五千頭、豚二十一萬頭、羊七百頭内外にして、その肉量は牛百八十萬圓、馬五十萬圓、豚二百三十萬圓、羊三千五百圓内外とす。而してこれ等の屠殺業者は勿論市域内に自給するものにてはなく、殆ど全く各地よりの移入に俟つ状態なり。家禽としては雞の約五十六萬羽、鶯の約一萬五千羽はその主なるものとす。産卵數は雞約三千五百萬個、鶯約十九萬個なり。また煉乳・バター等の乳製品が約六十萬圓、ハム・ベーコン等の肉製品が約七十五萬圓に上り、これ等すべての畜産總額は一千八百萬圓内外に達す。

【林産】 新市域には千町歩内外の林野あり、年約十萬圓の林産物を出す。林産には杉その他の用材及び薪炭材あるも、その過半を占むるは竹なり。目黒の物の如く古き傳統をもちしものもあり。されど最近にては新市域の都會化が進むにつれ林野面積は次第に減少し、林業は不振となり、古き傳統をもつ林産も次第に無く

史をもちし水産製造物とす。嘗てはこの地産の原料を用ひしも、今日に於ては全く他地方に依存す。乾海苔は専ら淺草海苔の名を以て古くより人口に膾炙せらる。昔は淺草川、今は大森區に最も多く産し、本市の年産額は六百五十萬圓内外にして日本全國の約二分の一を出す。

の本市の地位向上に大なる貢獻を果せるものといふべし。今日本市が大版市を凌駕して、一つの市としては本邦最大の工業都市となることを得たるは、これに負ふところ大なるものあり。斯くの如く本市の生産業は殆ど全く工業生産なり。然らば市域内にある工場數は如何、本市が商工省の委嘱によりて行ひたる工業調査に從へば、昭和七年末現在の工場數は次表の如く、約八萬四千、従業員は男三十七萬人、女八萬人、合計四十五萬人、投下資本は十二億四千萬圓なり。

Table of industrial statistics by district (工場數各區別) for 昭和七年末現在. Columns include 區名 (District Name), 工場數 (Number of Factories), 法人 (Corporations), 個人 (Individuals), and 計 (Total).

これに對して官設工場、使用職工五人未満にして原動機を使用せざるものを除ける各種工場數は次頁の表の如く昭和十一年末現在にて約四萬二千、従業員は三十七萬人を數ふ。これによりて、本市には小規模なる工場四萬以上も存在することを知る。この小規模なる家内工場は特に舊市域に多く、その従業員は十五萬人を越ゆ。之を事業別に見れば飲食食品工場最も多く、機械器具工場・雜工場・染色工場・化學工場等に次ぐ。此等小規模なる家内工業は特殊の技術作業を必要とす



市内工場及職工推移 (昭和十一年末)

Table showing the number of factories and workers in Tokyo from 1934 to 1936. It includes columns for total factories, total workers, and sub-categories like manufacturing, construction, and services.

るが、或はまた機械による大量生産が非経済的なる物品を作りつつあるものにして、大規模なる工業時代の今日にて

も猶ほ特殊の存在理由をもつものなり。また工業生産額を業種別に見れば、右表の如く、機械器具工業最も多く、化学工

業・金屬工業・紡織工業・食品工業等にこれに次ぐ。これを新市域と舊市域とに分ちて見れば、舊市域にては機械器具工業を第一とし、瓦斯及電氣業・食品工業・印刷製本業・金屬工業・化学工業・紡織工業・製材及木製品工業・窯業等に次ぐ。これに對して新市域にては化学工業斷然多く、機械器具工業・金屬工業・紡織工業・食品工業等がこれに次ぐ。一工場の分布) 東京市の工場分布を概観する時、次の如き傾向が認めらる。第一に工場の位置は比較的低位地域に選ばれる。即ち原料・製品の運搬に便利なる沖積の低位に密集し、臺地上には特殊のもの或は歴史的意味をもつもの以外には甚だ少し。第二に工場は河海の沿岸に密集す。即ち江東・江北の兩地域、芝浦以南の沿岸地、古川・目黒川の流域、神田川の流域等はこれにして、三角洲平野か河川の浸蝕面か乃至は人工的埋立地等なり。之等の地は概して低濕地にして住宅地としての價値は乏しきも、地價低廉にして且つ汚水の排泄自由等の理由の下に工業地帯の發達を促進せしむるものなり。第三に大工場の位置決定には陸運より水運が重要視せらる。最も低廉なる貨物運送法が水運なることは勿論にして、現在本市消費貨物の六割は水運にて移入し、本市生産物資の四割は水運にて移出せらる。かくして大工場は可航水路の岸より三百米、海岸より五百米以内の地帯

が工場を集中せしめ、市南部の地域は目黒川の沖積地にして東京灣に面し、京濱運河に沿ひ、舟運の便大なる上、横濱に近く輸出入に都合なる事情が工場を集中せしむる主要なる原因をなせり。これ等の工業区より離れて、下町の商業区内にも多少の工場あるも、大工場は少く、更にこれを北より西に取巻く山ノ手の住宅区に至りては一層工場少し。また新市域の山手線沿線の石神井川・谷端川・神田川・澁谷川等の浸蝕谷に小工場分布せらるも、山手線沿線を離れ市の外側地帯に至れば殆んど工場が存在を見ず。以上は工場一般の分布状況なるも、工業の種類によりてその工場の分布に多少の差別を生ずるを以て、更に工業部門別の分布を見るに、紡織工場は概ね江東・江北地域に集中す。紡織工場には大規模なる近代的工場多く、向島・葛飾・足立・瀧野川等隅田川の沿岸に設けらる。これに對して懸絲工場は板橋・豊島の兩區に、製絲工場は荒川・豊島・向島・品川・足立・城東・深川・淀橋の各區、織物工場は荒川・足立・豊島・瀧野川の各區、莫大小工場は本所・豊島・向島・目黒の各區、染色工場は川水に晒す必要よりその便のある向島・葛飾・江戸川・豊島・本所の各區に多く設けらる。機械器具工場にては電氣機械器具工場は品川・芝・蒲田・大森・澁谷・豊島・荒川・瀧野川の各區に、電球は在野・品川・大森・澁谷・目

黒の各區、精密機械は荒川・瀧野川・豊島・本郷・本所・向島の各區、自動車・自轉車の車輛は芝・蒲田・淺草・品川・豊島・荒川・城東・本所等の諸區に、農具・土木建築用機械・紡織機械工場は江東一帯に、時計工場は本所區、活字工場は神田區、計器類は品川區に多し。金屬工業のうち金屬製鍊並に材料品工場は江東地域に最も盛大なるも、板橋・品川・蒲田等の各區にも行はる。鑄物は江東の諸區と品川・蒲田・大森・芝・豊島の各區に多く、又鐵工場は江東の諸區並に品川・蒲田の兩區に、鍍金工場は本所その他江東一帯と品川・淺草・芝・下谷等の諸區、製鐵工場は京橋・本所・品川等の諸區に盛んなり。窯工場は城東・本所・深川・向島等の諸區に多く、これに次いで豊島・品川・蒲田・京橋・芝・下谷等にも行はる。江東の小名木川・堅川の流域に殊に密集す。化学工業にては肥料工場は城東・深川・荒川・王子の各區、製紙工場は江東地域に、製薬・顔料・塗料工場は江東一帯及び豊島・澁谷・品川・蒲田・芝の各區に、油脂工場は江東一帯に、ゴム工場は向島・荒川兩區に、エボナイト・セルロイド工場は葛飾・向島・荒川の各區に多し。製材・木製品工業にては、製材は深川・城東・本所の各區、木製品工場は本所・深川・豊島・淀橋・芝の各區に多し。食品工業にては、醸造工場は目黒・本所の大日本麥酒工場著

しく、製糖工場は城東・深川兩區に、製菓工場は本所・豊島・京橋・下谷の各區に多く、又製氷は市内の各區に散在す。その他の工業にては、新聞社は丸ノ内を中心として日本橋・芝・京橋の各區に、印刷工場は神田・牛込・小石川の各區に多く、製本工場は仕事の關係上印刷工場の中心地に多し。ガス工場は新市域の接觸地附近の水運・鐵道の利便なる所に設けらる。又官立の工場にては、大藏省專賣局の煙草工場は舊市域の外縁に、陸海軍の工場は王子區に多く、また鐵道省の大井工場も著しきものなり。最後に東京市に多数存在する小規模なる家内工業の分布を見るに、都心地域に最も多く、外域に激減す。また工業地域に最も多く、住宅地域・商業地域に少し。

六 商業・交通

【商業】本市は一大消費都市なり。故に國內は勿論世界の各地より大量の物資流入し、又この地にて作り出されたる物資も間斷なく國內は勿論世界の各地に流出す。従つてこれ等の物資の配給を目的とする商業の發達は頗る自然といふを得べし。加ふるに、帝國の首都たる關係上、日本銀行を初めとし帝國の金融機關設けられてその中樞を成す故に商業は自然發達せざるを得ず。昭和五年國勢調査の結果によれば、現在の市域の有業者二百十五萬人中、商業に従事するものは六十五

に多く設置せらる。隅田川・堅川・目黒川流域及び田町・芝浦・月島附近の如きはこれが實例なり。第四に工場は舊市域の場末地帯に密集する傾向あり。都市よりやや離れたる地帯に多く、又餘りに遠隔なる地帯にも少し。即ち山手線一帯或は江東地域に多し。第五に工場によりては自然的條件の絕對的支配を受く。染色工場が使用水と特殊の關係をもち、製材工場が河海沿岸に位し、造船工場が相當の水深の河海沿岸にあるが如きは此の例なり。第六に工場によりては經濟的條件に強く支配せらる。印刷工場・製本工場が商業地域に密集するが如きはこれが例なり。第七に工場によりては普遍的に分布するものと、或地域にのみ密集するものとが認めらる。精米工場・製氷工場の如きは前者の例なり。要するに、東京市の工業地域は低平なる河海に面する地帯にあり。東京市の都市計畫にて工業區とせられたる地域は大體隅田川以東と芝浦以南、多摩川沿岸までの地域とを中心とす。工場の最も稠密なるは荒川放水路と隅田川との間の所謂江東地域にして、これに續き隅田川の西岸に沿ふ千住・瀧野川・王子に至る江北地帯も亦工場稠密なり。別に月島・芝浦等より澁谷川に沿うて白金臺地を経て大崎・品川・大井・蒲田に至る市南部の地域にも工場密集す。江東・江北の地には隅田川と之に連絡する多数の運河とが水運の便を與ふること



社があり、昭和十一年末現在に於ては本店五、支店七にて、約十二億圓の資産を運用す。又保険会社には二七の生命保険、二九の損害保険が市内本店をおき、前者は約二十二億圓、後者は約五億圓の資産を擁す。このほか一千五百の質屋、二十二の無盡會社等あり。斯くの如く、市内にはあらゆる金融機關あり、金融市場としての本市の機能は遺憾なく發揮しつつあり。「取引所」取引所は本市の商業上の機關として重要な役割を果す。本市にある取引所としては、東京株式取引所・東京米穀商品取引所・東京砂糖取引所・東京米穀商品取引所・東京砂糖取引所あり。株式取引所は日本橋區兜町にあり、明治十一年の創立にして、全國株式取引所中最も古き歴史を有す。現在の建物は昭和六年の竣工にして、同十一年の株式長期清算取引は四百七十萬株、三十億圓、短期清算取引は五千三百萬株、五十八億圓、公債清算取引は五億七千七百萬圓にして、ほかに貨物取引にて株式三十七億五千萬圓、公債七億八千萬圓を數へたり。實に東京株式取引所は全國第一の取引所にしてその公定相場は全國相場標準となる。米穀商品取引所は三部に分れ、第一部は日本橋區船場町にありて米の取引を行ふ。昭和十一年の長期清算取引高は二千二百五十萬石、七億一千二百萬圓にして、大阪の堂島取引所に次いで全國第二に位す。第二部は日本橋區堀留町に設けられ俗に杉之森市場と云はれ、

綿絲取引を行ふ。昭和十一年の綿絲清算取引高は百四十八萬圓、三億圓とす。また第三部は深川區佐賀町に設けられ、大豆の清算取引はれしも、商況不振のため現在は中止せらる。その代り第四部が第二部と同じ所に設けられて人絹の取引はれ、十一年の清算取引は六千六百萬圓を示す。尙ほ米穀商品取引所には正米部が附屬し、深川區佐賀町と神田區佐久間町とに市場設けられ、全國より畑集する正米はここを通じて市内に配給せられ、砂糖取引所は日本橋區小網町に設けられ、昭和三年の創設とす。十一年の清算取引高は四百八十萬圓、八千七百七十萬圓なり。「市場」上述の清算取引を行ふ市場の外に、日用品の賣買を行ふ市場も各地に設けらる。このうち卸賣市場を見るに、これは原則として市管に統一せらる。そのうち古き歴史をもち、最も有名なるは魚市場なり。徳川初期以來三百年の間、日本橋區日本橋の袂に設けられしも、大正十二年の大震災を機として築地に移轉し、今日にては東京市中央卸賣市場の一部となる。この中央卸賣市場は一千萬圓の巨費を以て建設せられたるものにして、昭和八年に完成し、今日にては魚類部のほか、鳥卵部・青果部あり、昭和十一年に於けるその取引高は、魚類部四千五百萬圓、鳥卵部四十萬圓、青果部一千萬圓、合計五千六百五十萬圓に達す。このほかに中央卸賣市場は神田・江

東・荏原の三分場をもち、それぞれ一千八百八十萬圓、五百九十萬圓、三百五十萬圓の青果の取引を行ふ。更に青果市場として豊島・足立・淀橋の三分場開設せらる。斯くの如く、魚類・鳥卵・青果の卸賣市場は中央卸賣市場に統一せらるるも、獸肉は未だ統一されず、専ら中央卸賣市場築地本場の肉類部として經營せられ、市内の内問屋名を收容す。尙ほ現在市内の屠殺場は市管一、民管五なり。その他の卸賣市場としては生花市場と古着市場とあり。生花市場は大正十二年に麹町區有樂町に設けられしを以てその初めとし、その後諸所に設けられ、昭和十一年末現在に於て二九、市場取引高は一億年三百萬圓乃至四百萬圓とす。また古着市場は神田區岩本町にありて組合員約三百三十人、その取引年額は七百萬圓乃至八百萬圓とす。卸賣市場とは別に小賣市場も多く設けらる。市内小賣市場の数は市設一〇、府設三四、私設五三〇、合計五七四(昭和十一年)にして、一箇年の賣上高は公設八百萬圓、私設四千三百萬圓、合計五千百萬圓内外とす。公設市場の設けらるは日用品の市價を調節し、その標準價格を示すとともに社會政策的の意味をも含むものとす。「小賣商」大東京市六百萬市民を相手とする物品販賣店数は昭和十二年七月末現在に於て舊市域七四、四八五、新市域八七、〇一八、合計一六一、五〇三に達し、従業員数は五十數萬

Table with 2 columns: 品別 (Category) and 店舖數 (Number of shops). Categories include 菓子・麵包類, 酒・調味料・清涼飲料類, 米, 蔬菜・果物類, etc.

人を示す。これ等小賣店數と一店當市内世帯數は次表の如し。(昭和十一年末)

Table with 2 columns: 卸 (Wholesale) and 小 (Retail). Rows include 小賣, 小賣, 百貨店, 計 (Total).

但し舊市域は昭和五年七月始より翌年六月末、新市域は同六年七月始より翌年六月末の一箇年の実績とす。前表によりて知る如く百貨店の賣上高が一般小賣商のそれに比較して頗る多きことあり。この調査時に於ける百貨店三六店の賣上が二億三千五百萬圓にして全額約二割五分を占む。殊に織物・絹物・玩具等は百貨店が全市賣上の五割以上を占む。百貨店は木材・竹材・セメント・石材・土管・煉瓦等のほかは殆んど常備し、一箇所に於て何にても買ふことができ且つ多分の好樂的雰圍氣を醸し得る等の事がよく時代の要求に應じ、かくて大發達を遂げしものなり。現在の主要なる百貨店は三越・白木屋・高島屋・松屋・松坂屋・伊勢丹・東横等に於て、一箇年の入場人員は約八千五百萬人の多數に達すといふ。斯くの如き百貨店の通出が一般小賣商に大打撃を與へたることは茲に云ふまでもなく、市當局に於てはこれ等小賣商救済策を種々講じつつあり。「貨物の動き」上述の商取引の對象たる物資は何處より來るか。勿論そのうちには市内にて生産せらるるもの多きも、原始産業の不振なる市域にありては食料品・原

料品を自給することは不可能なり。従つて市域内に於て取引の對象となれる食料品・原料品は多く外部よりの供給に仰がざるべからず。昭和十一年中に本市に入貨せし貨物は一千五百萬圓、これに對して出貨は四百八十萬圓、即ち入貨は出貨の四倍以上に達し、消費都市としての大

Table with 4 columns: 入 (In), 出 (Out), 數量 (Quantity), 割合 (Ratio). Rows include 鐵道, 河川, 海, 計 (Total).

かくの如き経路をとりて本市に入荷する貨物の大部分は農林牧水産等の原始産業の生産物にして、工業生産品は二割に満たず。これは如何に本市が食料品・原料品の需要地なるかを如實に示すものとす。特に入貨のうち第一に位するは米なり。本市の人口六百萬、一人一箇年の消費を約一石として、全體にて六百萬石となり、日本第一の米消費地たることは勿論なり。昭和十一年の米穀の入貨は鐵道にて六十三萬石、船舶移入五十二萬石その他を合して百二十三萬石を示し、主として山形・秋田・宮城・新潟・茨城・千葉・岩手・福島等の諸縣及び朝鮮・臺灣等より移入せらる。また噸數より見て最も大なるは砂利にして、十一年には鐵道

東京市の姿をよく示すものといふべし。入貨噸數の四八%は鐵道により、三七%は船舶による内地取引にして、入貨の大部分はこの兩者に占めらる。又出貨の七四%は鐵道により、殆んど獨占的地位を占む。尙ほ昭和十一年に於ける本市入出貨物の内譯は次表の如し。

驛を起點として南方に、中央線は新習を起點として西方に向ひ、東北線は上野を起點として北方に向ひ日暮里にて常磐線を分岐し、總武線は兩國を起點として東に向ふ。これ等の幹線鐵道は多數の支線を出し、本支線を通じて全國の貨物が本市に集り、又本市の物資が全國に仕向けらる。更にこれ等の幹線は謂はゆる山手環狀線をもつて相互に連絡す。尙ほ山手線の外、周圍の放射狀線にも電車の運轉を見る。いま省線電車區間を擧ぐれば次の如し。



トキョー 東京市 商業交通

と循環電車運轉せらる。以上省線電車は専ら都心のビジネスセンターへの通勤者運送の中心にして、毎日の省電乗客は平均百萬人位と見らる。通勤者の殺到するラッシュアワーは午前七時より九時まで、その最高時は七時

驛名	乗車人員又ハ貨物發送總數	降車人員又ハ貨物到着總數	旅客貨物收入
東 京	七、五九五人	七、八七五人	四六、〇七二圓
新 橋	四、〇七五人	四、〇、〇七五人	七六、〇三三圓
品 川	一、八、七九人	三、八、八八人	八、〇〇八圓
沙 留	六、七三三	四、九三三	一、三三〇圓
飯 田	一、九、二二	三、九、九三	一、三三〇圓
新 宿	四、四、五五	九、四、八八	一、三三〇圓
秋 葉 原	七、〇、〇七	七、〇、〇七	一、三三〇圓
上 野	一、二、四九人	七、〇、〇七	一、三三〇圓
隅 田 川	一、一、五七	一、七、〇〇人	一、三三〇圓
兩 國	一、一、〇〇	一、三、七三	一、三三〇圓
錦 糸 町	一、〇、七〇	一、〇、七〇	一、三三〇圓
遊 樂 谷	三、九、六二	三、九、六二	一、三三〇圓
有 樂 町	四、六、六八	四、六、六八	一、三三〇圓
神 田	三、八、三〇	三、八、三〇	一、三三〇圓
御 茶 水	三、六、五〇	三、六、五〇	一、三三〇圓
池 袋	三、四、九四	三、四、九四	一、三三〇圓
田 町	三、四、八四	三、四、八四	一、三三〇圓
蒲 田	三、四、八四	三、四、八四	一、三三〇圓

省線電車は上述の如く専ら旅客の運輸にあたるものなるも、省線鐵道は貨物の運送に最も大なる貢獻をなす。鐵道による貨物入出賃總數の約八割は省線鐵道による。昭和十一年には省線が出貨五百八十六萬噸、入貨三百四十萬噸、私線が出貨百五十萬噸、入貨四十六萬噸なり。省線にては東海道線・常磐線・東北本線・山手線・總武本線・中央本線の順とす。私線にては東武鐵道が歴史的に多く全體の約八割を占む。貨物集積量の最も多き驛は隅田川驛にして、入出賃合計百五十四萬噸。沙留驛の入出賃百五十萬噸、秋葉原驛の九十二萬噸これに次ぐ。更に品川・飯田町・新宿・兩國・錦糸町・小名木川等も有力なり。また私線にては東武鐵道の業平驛が八十三萬噸をもつて歴史的なり。入貨のうち重量に於て最大なるものは砂利の百三十五萬噸にして、これに次ぐものは木材の七十三萬噸、米の六十三萬噸、石炭の五十九萬噸、木炭の四十二萬噸、石材の二十七萬噸、洋紙の十四萬噸、鮮魚介の十三萬噸等なり。出賃に於ては肥料の五十三萬噸最も多く、石炭の二十八萬噸、鐵鋼及び同製品三十五萬噸、米の二十萬噸、食鹽の十萬噸等がその主なるものなり。更に私設の出賃のうちにて石炭の九萬噸、肥料の七萬六千噸はその著しきものとす。「郊外電車」本市の陸上交通機關の一として郊外電車あり。この電車は本市と本市外とを連絡す

るものなれども、また同時に専ら新市域の交通にも役立てり。新市域の内容充實につれてこの地域の住宅は飽和し、次第に郊外に向ひて住宅地膨脹す。これは都府と縣界との巷を越えて郊外の地に慰安を求めんとする人心の機微にも基くものとす。これ等郊外よりの通勤は時間に頗る制限せらるるを以て、郊外住宅地の發展は必然的に交通機關の發達に制約せらる。然るに最近郊外交通機關は漸次完備し、或は高速度となり或は急行制を實施し、これに依る時間の短縮著しく、これ等は郊外住宅地の遠距離發展を可能ならしめたり。市域内の郊外電車は次表の如く省線電車の驛或は市電の驛がその始發驛となりて四方に放射す。されど東部に少く西部に多きを以て郊外住宅地は郊外電車の密なる西部により多く發達す。市内に通ずる私設郊外電車は左の如し。

京濱電氣鐵道 品川・日ノ出町間。京濱浦田・穴守間。  
目黒蒲田電鐵 目黒・蒲田間。蒲田・五反田間。大井町・二子玉川間。  
東京横濱電鐵 澁谷・櫻木町間。  
玉川電氣鐵道 天現寺橋・澁谷・溝ノ口間。澁谷橋・中目黒間。三軒茶屋・下高井戸間。玉川・砧間。  
帝都電鐵 澁谷・吉祥寺間。  
小田原急行鐵道 新宿・新原町間。小

田原間。京王電氣鐵道 京王新宿・多摩御陵前間。調布・京王多摩川間。西武鐵道 新宿驛・荻窪間。高田馬場・川越間。武藏野鐵道 池袋・飯能間。練馬・豊島園間。王子電氣鐵道 早稻田・三ノ輪間。王子驛前・赤羽間。京成電氣鐵道 上野・京成成田間。押上・京成金町間。東武鐵道 淺草雷門・伊勢崎間。淺草雷門・東武日光間。淺草雷門・龜戸間等。東武鐵道東上線 池袋・寄居間。水城東武電氣鐵道 錦糸町・西荒川間。水神森・洲崎間。東荒川・今井間。

昭和十一年末の營業路線延長は八九二軒に達し、そのうち本市内の方は二三九軒なり。又同年度の旅客數は三億四千七百四十七萬人にして、そのうち本市内の方は二億八千八百萬人なり。旅客數の最大なる驛は目黒蒲田電鐵の六千三百七十萬人にして、之に次ぐは京濱電氣鐵道の四千七百萬人なり、その他に於ては東京横濱電鐵・東武鐵道・京王電氣鐵道等その有力なるものとす。斯くの如く郊外電車は主として旅客の運輸に従へるも、荷物運輸にも貢獻せることは前述の如し。而して貨物運輸にては上述の如く東武鐵道

が歴史的に有力なれども、玉川電鐵・京王電氣鐵道・武藏野鐵道も若干の貨物を輸送す。更に私線の貨物驛としては上述の業平橋の外に、鐘淵・池袋（東武・武藏野）・新宿（京王）・澁谷（玉川）等あり。以上の外に又市内の私設鐵道として地下鐵道あり。大都市に於ては諸種の地上交通機關の發達に伴ひ、相互に速度の遲減を來し、且つ交通事故を惹起し易きを以て、高速度にして而も安全・正確なる交通機關としての地下鐵道の發達を招來するものなり。本市に於て高速度地下鐵道建設の模唱せられたるは大正八年なり。これが建設に着手せしは同九年八月にして、昭和二年十二月淺草・上野間が開通し、更に同五年一月に上野・萬世橋間、同六年十一月に萬世橋・神田驛間、同七年四月に神田驛・室町間、同八年一月に室町・京橋間、同九年三月に京橋・銀座間、同九年六月に銀座・新橋間が開通せり。現在の路線延長は八軒、一箇年の旅客數は二千七百萬（昭和十一年）なり。「市營電車」本市の特に舊市域の大衆的なる交通機關として大なる意義をもつものは市營の電車なり。市内の路面に鐵道を敷設し乗客を運送せしは明治十五年六月に開業せし新橋・日本橋間の馬車鐵道を以てその初めとす。これが電車に改められしは同三十六年なりしも最初は民營にして同四十四年に至り市營に移管せられたり。當時の軌道延長は約一二〇軒な

りしも、爾來擴張せられ、昭和十一年末には三四七軒を示す。されど大東京の發展に比較する時、さして大なる擴張とも云ひ難し。電車賃は市營以來片道五錢、往復九錢（通行税一錢を含む）なりしも、大正五年七月に片道六錢、往復十錢（通行税共）となり、更に同九年に片道八錢、往復十五錢（通行税共）となりしが、同十四年に至りて通行税廢せられ、現今の如く片道七錢、往復十四錢となる。本市市營電車は大正十一年の好況時を絶頂として以來漸増の一路を辿りし乗客は次第に減少しつつあり。これは省線及び郊外電車の進出、乗合自動車・タクシの盛行に因るものにして、之に加ふるに市民の職場と住居とが分離し、都心地域の人口の減少を來せしこと、及び市民のスピード意識の尖鋭化等に原因する所大なるものあり。斯くの如き關係上、最近に於ては路線延長は増加せるにも拘らず、車輛・乗客數は減少せり。例へば昭和三年にては車輛一、六三〇、乗客數四四、五〇〇萬人なりしに、十一年には車輛一、三〇二、乗車人員は三一、〇〇〇萬人に減少し、同年の乗車料收入は一、九〇〇萬圓を示せり。市營電車は宮城を中心として大體環狀・放射狀に敷設せられ、特に山ノ手に於てその特色著し。停車場數は四〇二、その終點驛は概ね舊市域界附近にあるを以て、市電は短距離の交通機關なることが首肯せらる。「自動車」本

トキョー 東京市 商業交通



業は一時著しく發展せしも、大震災後東京市これに進出せしを以て頗る壓迫を被り、東京乗合自動車乗合自動車は青バスの名を以て知らるるも、最近東京

地下鐵道會社の經營となれり。尙ほ同社以外に市内には三十七社の私營乗合自動車會社あり。これ等の私營會社は、大正五年以來開設せられしものにして、舊市域

内三社、新市域内十三社、舊新兩市域にわたるもの六社、市内外にわたるもの十四社を數ふ。市營乗合自動車の最近に於ける經營狀況は左の如し。

營業線路	昭和六年					七年					八年					九年					十年					十一年				
	乗車人員	乗車料	乗車人員	乗車料	乗車人員	乗車料	乗車人員	乗車料	乗車人員	乗車料	乗車人員	乗車料	乗車人員	乗車料	乗車人員	乗車料	乗車人員	乗車料	乗車人員	乗車料	乗車人員	乗車料	乗車人員	乗車料						
在籍車輛	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八						
運轉車輛	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八						
乗車人員	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八						
乗車料	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八	一、八三、七六八						

次に謂はゆる青バスの路線延長六七軒、乗車人員は七、一一八萬人、乗車料金は四三〇萬圓とす。その他の私設バスの路線延長九五三・八軒、乗車人員は一三、二一七萬人、乗車料金は七八七萬圓(いづれも昭和十一年)なり。乗合自動車の形態に遊覽乗合自動車あり。學生その他東京見物に上京する者を目的とするものにして、大正十四年十二月東京乗合自動車會社の創始にかゝる。出發地は、最初は上野・新橋兩驛前なりしも、のち東京・新宿兩驛前を加へ四地點とす。その路程八〇軒、所要時間約八時間、料金は大人三圓五十錢、小人二圓三十錢なり。東京驛前發の遊覽コースは次の如し。東京驛前發—帝國ホテル—市政會館—霞ヶ關官廳街—櫻田門—宮城—二重橋(補公銅像)—中央氣象臺—神田書局街

一九段靖國神社—青葉通—三宅坂—議事堂—赤坂離宮—青山御所—明治神社—神宮外苑(記念繪畫館)—乃木神社—泉岳寺—芝公園増上寺—愛宕山(放送局)—日比谷公園—勸業銀行—日本銀行—三越—國技館—震災記念堂—淺草公園—上野公園—須田町—日本橋—銀座通—歌舞伎座—新橋驛—東京驛—尙ほ遊覽乗合自動車には郊外乗合自動車あり。市内より奥多摩・三浦・三崎等市外の遊覽休養地に行くものにして、大正十五年に開始せられたり。その後利用者も増加し營業者も増え、今日にては東京地下鐵道に合計四社これを經營す。また本市を取巻く郊外電車も概ね自社の線と連絡して乗合自動車を經營し、そのうち、の或者は市内の交通機關として活躍しつつあり。荷積用自動車は所謂トラック

にして、市内の普通自動車の約半數を占む。最近貨物輸送に於けるトラックの進出は頗る目覺しきものあり、市内に於ける貨物運送に於ては斷然これを壓倒す。更に近郊との近距離輸送に於ても近年鐵道を壓して活躍し、トラックによる入出貨は莫大なる數量に昇るものと見らる。例へば神田市場に入る青果物にては近郊の牛蒡・大根等の全部、神奈川・千葉兩縣の柿の全部、茨城の柿の七割、群馬の馬鈴薯二千三百石、福島の馬鈴薯二百五十石等は何れもトラックによりて運送せらるる状態なり。今日のトラック利用の限界は東海道線は静岡、中央線は山梨縣一圓、信越線は篠ノ井・長野、東北線は白河・福島、常磐線は相馬中村に及び、その距離三百軒以内にて片道六、七時間、即ち往復一日行程とす。トラック營業者

のうち大和運輸會社の如きは全關東に定期路線を有し、急行などまで運行し、東京を中心として水戸・宇都宮・兩毛地方などは日歸り運轉を行ふ。トラックの運賃は一軒十五錢位にして、鐵道の小口扱よりは高きも、小口扱は譯まで持參する必要あり、輸送時間も長く且つ荷造にも費用を要するに對し、トラックは庭前まで積取に來る上、その時刻も自由にして輸送時間も少く、荷造費用も僅にてす。上運賃も月末拂等の便利あるを以て、トラックの利用は必然的に促進せられ今日の盛況を呈せり。但しトラック輸送は距離に制限ある上、輸送貨物も主に地方よりの野菜・鮮魚等に限らる。

一軒の市道あり。昭和十一年末現在の明細は次表の如し。

區	舊市域	新市域	合計
國道	三五・六軒	五七・七軒	九三・三軒
府道	五八・八軒	七四・六軒	一三三・四軒
市道	二九・九軒	六三・三軒	九三・二軒
總數	一二九・三軒	一九五・六軒	三二四・九軒

これ等の道路の面積は約四八方軒に達して、本市總面積の八・四%に當る。道路の發達は文明の程度を示す一標準と云はるるも、本市のこの道路面積の割合は歐米の大都市、即ちニューヨークの約三五%、ワシントンの約五四%、ベルリンの約三〇%、パリの約二五%等に比すれば甚だ少し。舊市域の道路面積は震災後著しく増加し、大體舊市域面積の約一七%となり、殊に震災に因る焼失區域は約二六%に上り、歐米大都市の水準に達したりし關係上、市の道路網は不規則なりき、即ち舊市域の道路網は江戸城を中心として設けられ、専ら市街戦に備へん事を第一條件として作られしを以て殊更に紆曲せられたり。明治維新の際に大名・旗本の大邸宅は荒廢し、やがて東京の發達につれて徐々に延長せらるるに委せたり。又舊郊外に都市が膨脹するに際しては概ね無計畫的に延長せしかば道路は錯

雑を極めたり、而もその道路も多くは無鋪裝にして、謂はば一種の踏分路に過ぎざる有様なりき。然るに、市當局に於ては、明治三十四・五年の間に市内主要道路を幾分擴張せしを除けば、明治年間市の區改正は殆んど行はれず、漸く大正九年に至りて市に道路局が設けられ、同年より資金一億圓餘をもつて道路を新設し、又主要道路を擴張し改裝することとなれり。而してや道路の改裝進行せし時、大正十二年、かの大震災起り、下町一帯は燒失したり。ここに於て計畫を根本的に立直し、新にこれが事業に着手せしを以て本市舊市域の街路の面目は全く一新するに至れり。即ち街路網は第一に東京を東北より西南に縱貫する街路、即ち品川八ツ山より銀座の東裏側を経て上野驛前を通り、千住に至る延長一三軒、幅員三三米乃至四四米の街路(昭和通)を第一號幹線とし、これと直交して市を東西に走る、即ち九段より兩國橋を経て龜戸に至る幅員一五米乃至三六米の街路を第二號幹線とし、これ等の二大幹線を基準として、爾餘の街路を不規則格子形に配置したり。この幹線街路は五三線にして、その幅員は二二米乃至七三米、延長は一・一九軒、これに連絡する補助街路は一・二三線にして、その幅員は一・一米乃至二・二米、延長は一・三九軒、又幅員三米乃至二・七米の區劃整理街路四九二軒設けられたり。更にこれと並びて市内各道路の

鋪裝を進め、昭和六年には舊市内道路の大部分の鋪裝を完了したり。かくて東京市内の道路は面目を一新し、街路の方向も本所・深川・下谷等にては大體東南西北、神田・日本橋・京橋等にては斜行し部分的には井然と整理せられたり。されど全市を大觀すれば宮城を中心として放射狀街路を成し、而も街衢の不規則を免れず。殊に震災にて燒残りたる舊市域の山ノ手及び新市域にその傾向著しきものあり。尙ほ市内の道路の鋪裝方法としては木塊・アスファルト・ブロック・ソリデティット・クリンカー・小鋪石にて行ふ六方法あり、且つ鋪裝道路には簡易鋪裝道と剛質鋪裝道との二種あり。又道路には鋪裝道路の外に砂利道あり。道路に美觀を興へ、空氣を清淨にし、冷涼の氣分を生ぜしむるために街路樹植ゑらる。本市に初めて街路樹の植ゑられしは明治四年なるも、本格的に植ゑらるるに至りしは同四十年頃とす。現在約六萬六千本の街路樹植ゑらるるも、その種類は、スズカケ・イテフ・アカシヤ・サクラ・タウカヘデ・アヲギリ・ヤナギ・ボブラ・イヌエンジュ・マツ・トチ・トネリコ・ケヤキ・エンジュ等とす。また街路には約二十萬本の電柱林立す。この現象は世界の何れの大都市に於ても全く見られざることとす。「橋梁」河川多き本市には橋梁またおのづから多く、大震災前に約六百の橋梁ありしも、昭和十一年末現在に

ては舊市域五四〇、新市域四、六六七、計五、二〇七に達す。而して震災前の橋梁は大部分木造なりしも今日に於ては耐震・耐火のもの大部分を占む。橋梁の種類別は、舊市域にては石橋一三、鐵橋三〇六、木橋一四三、鐵筋コンクリート橋七八、計五四〇なり。また新市域は石橋一、一八、鐵橋二二一、木橋一、八五九、木鐵混合橋五、煉瓦橋五、コンクリート橋四五七、鐵筋コンクリート橋九八二、計四、六六七となる。これら橋梁の延長は舊市域一五・四軒、新市域二九・〇軒、合計四四・四軒、その面積は舊市域二四二、一四九平方米、新市域一六九、一九六平方米、合計四一一、三四五平方米なり。これを舊市域のみにつきて見れば、現在の橋梁面積は震災前に三倍し、一方橋梁數は殆んど變化なければ、舊市域の各橋梁が著しく改善せられたることを知るべし。特に隅田川に架せられたる相生橋・永代橋・新大橋・清洲橋・兩國橋・藏前橋・鹿橋・駒形橋・吾妻橋・言問橋等の橋梁はそれぞれ獨特の型式を備へ都市に美觀を加ふ。「橋梁」自動車以外に諸車として荷車は舊市域二四、五九八、新市域三五、一一一、計五九九、七〇九、自動車は舊市域三三二、六五二、新市域四二一、九四八、計七四四、六〇〇、又荷臺付自動車は舊市域四七〇、新市域四〇八、計八七八、而して自動車荷臺は舊市域五九、八九二、新市域七一、



トキョー 東京市 商業交通

三十四、計一三一、二〇六(以上何れも昭和十一年)あり。トラクタの盛行の結果、荷車の数は最近には漸減の傾向にあるも、その他の諸車は近年益々増加を示し、殊に自轉車の数は頗る多く、人口約八人につき一臺の割合なり。(交通量)以上陸上の各種交通機関を利用する乗客数は次表の如く昭和十年に約十三億七千萬人に達せり。

線	實數	割合
市電	三八二、六四五	二七・九%
地下鐵	二九四、一九〇	二一・四
市電	二八、九五七	二・一
社線	二一四、三八二	一五・六

市内國道交通量(昭和八年六月内務省調査、三日平均 △印ハ自動車總數の内の乗車數を示す)

場所	歩行者數	自轉車數	自動車數
京濱國道	二四、九七三	一四、九六一	一〇、七九一
芝濱松町一丁目	六、五三二	一九、七七一	一〇、五六七
芝區田町五丁目	四、九五五	二五、六三一	九、四七四
品川區大井町	二、六五九	一五、〇七六	一〇、九七二
蒲田區新宿町	六、六二五	一三、三七六	六、五四九
東京仙臺國道	七、七九五	四〇、五六〇	一六、五七八
淺草區御藏前片町			一四、八六五

千石の醬油、四萬一千石の土砂、四千五百石の米及び砂利等にして、出賃の主なものは一萬五千石の鐵鋼、二萬八千石の石炭、五千石の肥料、二千六百石の食鹽等なり。斯くの如く東京の河川運は至つて便なり。徳川氏が幕府をここに設けし一因も河川による物資の輸送が容易なる點にありしものと考へらる。従つて隅田・江戸・利根等の河川は江戸時代より修理せられてあり、これを連絡するため運河さへも作られたるものなり。今日江東地帯が東京の工業區となり、大小の工場數多く設けらるるも河川運の便利なることに負ふところ多し。かくて大正十年以來、市内の河川・運河の改修工事續けられ、清瀬・淺瀬・護岸工事等も行はれ、河岸地には共同物揚場も造らる。現在の共同物揚場數は約二五〇、その大部分は京橋・日本橋・本所・深川の四區に設けらる。「海上運輸」本市の海上運輸は東京港にて行はる。東京は横濱を外港とせるも、それ自體一大生産・消費地帯なるを以て、東京港を築港せんとする計畫は早くも明治十三年に起り、その後種立案せられしも實施せらるるには至らず、僅に東京港の前提として、隅田川口改修工事を明治二十一年より二十八年頃までの間行ひ、その結果、月島を得たり。又明治三十八、九年頃より永代橋より淺場沖を淺瀬し、月島・芝浦に埋立地を造れり。然るに大正十二年の大震災の

トキョー 東京市 商業交通

即ち著しき入超なり。東京港は大東京の

東京宇都宮國道	東京千葉國道	本所區綠町二丁目	東京甲府國道	四谷區新宿一丁目	東京前橋國道	神田區松住町
七二七	一一、二七九	一一、二七九	一三、八一七	一三、八一七	七、一五五	七、一五五
一八〇	二二、九一九	二二、九一九	二〇、〇一四	二〇、〇一四	一七、七三三	一七、七三三
六二〇	七、〇二三	七、〇二三	一四、三五六	一四、三五六	八、〇二三	八、〇二三
一六一	五、五四一	五、五四一	一二、九三二	一二、九三二	七、〇三六	七、〇三六

〔河川・運河〕本市には一七一の河川、五、三三二の水路、二の運河あり、その總延長は二、二八〇軒、總面積は三七・五方軒、市内道路面積の四八方軒の約八割に當る。本市は本邦にては大坂に次ぐ水の都にして、これ等の河川は交通上少からず實益をなす。殊に鐵道・自動車等のなかりし時代に於てはこれ等の河川・運河は交通上甚だ重要ななりしこと言ふまでもなし。而して今日河川・運河は市内の運輸に利用せらるるのみならず、又同時に市と外部との運輸にも貢獻す。主に市内の乗客運輸としては一錢蒸汽の舊名にて知らるる乗合船あり。最も古きは隅田川汽船會社にして明治十八年の創業に屬し、最初は一錢の料金を以て開業したり。今日市内には同社ほか六社の乗合船經營者あり、隅田川及びこれに連絡する水路に活躍し、三五隻の船を以て

地方別	出 貨		入 貨	
	數量	價 額	數量	價 額
關東地方	一六、一〇〇	二、一七一	一一、五五九	一、三四〇
東海地方	一六、七六一	二、八五六	五五、九〇八	二、六二七
北陸地方	七六、〇〇五	五、九二一	一七四、八〇二	一、二一七
近畿地方	一四四、四四六	二二、六五〇	二五二、〇二四	二七、二〇〇
中國地方	三、六九二	三、七九	三五八、四一〇	一、三二一
四國地方	九、五七八	九、二一	八三、八〇八	三、二一五
九州地方	七〇、四一〇	一〇、八二〇	一、三二八、一三一	六九、八二九
北海道	一九七、一四五	三一、四八七	一、〇九二、五八六	六三、二七四
朝鮮	三六、四九九	六、〇七七	四二七、五九四	三七、九〇九
臺灣	一五九、三五四	二七、七〇三	七〇一、七九三	六六、九七三
其他ノ港	八四、四八四	一五、七〇三	八二一、八六九	二二、二七二
總計	八一四、八七四	一一六、七三〇	五、六六一、一九九	五、六二九

東京港の特色の一は荷役の盛大なることなり。港の荷役總量の九割二分は沖又は埠頭に於て本船より船又は船より本船に積込まる。これは本市の工場は隅田川又はこれと連絡する水路の岸に多く設けられ、船を使用して工場より港へ、また港より工場へ製品・原料を容易且つ有利に運ぶことを得るが故なり。芝浦にて陸揚







Table showing population distribution by district in Tokyo. Columns include districts like 深川, 品川, 目黒, etc., and rows for total population, male, and female counts.

人口分布を概観すれば、下町の商業區に最も稠密にして、工業區これに次ぎ、住宅區に至りては比較的少し。淺草・神田・日本橋・京橋・下谷等の商業區に本市中の最稠密地帯の現出せるは之等の地

域が江戸時代以來商業區として江戸の中心をなし、明治維新以後は更に諸種の商業機關ここに設けられ、従つて商家益々ここに集中せしが故なり。本所・深川の兩區より城東・向島・荒川等の諸區にか

間人口に比較して甚だ多きものと想像せらる。昭和五年の國勢調査に従へば本市舊市域の晝間人口・夜間人口の對比は次の如し。

Table comparing day and night population in Tokyo districts. Columns for district, day population, night population, and their ratio.

けて之に次ぐ人口稠密帯を現出す。之等の地域は東京市の工業地帯にして大小の工場密集せるが故なり。特に本所・深川兩區に多きは、この兩區は工業區なると同時に商業區にして、且つ江戸時代以來の歴史をもてる故なり。本市に於ける第三の人口稠密帯は舊市域の山ノ手諸區に之を見る。之等の諸區は住宅區にして、これに商業區の交れるが爲なり。ただ都心の麹町區に少きは、大會社・銀行及び官衙公署等密集し、殆んど住居を構ふる人なきが爲なり。これに匹敵する人口稠密帯は市の南部、即ち品川・荏原・大森等の諸區に見出さる。之等の諸區は住宅區なるも、同時にまた工業區にてもあるが爲なり。中野・杉並・目黒・世田谷等の諸區の人口密度の少きは之等の諸區が新しき住宅地にして、未だ住宅地化せられざる土地多きが故なり。また板橋區の人口密度が本市各區中最低なるは此區には今猶ほ農村的要素の多分に殘存せるが爲なり。更に江戸川・葛飾・足立等の諸區も同様の理由より密度少きものと解せらる。『晝間・夜間人口』本市の人口は晝間と夜間とに著しき差別を見る。蓋し都心地域に於ては人口は既に飽和點に達し外延の住宅地域に移動しつつあり。即ち職場と住宅とが分離し、閑靜なる外延地帯に住居を構へ、こゝより晝間のみ都心地域の職場に通勤する者、近時殊に甚だ多し。従つて都心地域の晝間人口は夜

して男子は二十二萬人以上を示せることによりても首肯せらる。斯くの如き晝間の増加人口は何處より來るか云ふに、舊市域の郊外、即ち新市域及び近縣より來るものと考へらる。昭和五年の國勢調査によれば新市域の晝間人口は二、六〇八、六八四人、夜間人口は二、八八八、六七四人なり。即ち舊市域とは反對に、夜間人口約二十八萬人も多し。然るに、この數は舊市域に於ける晝間人口増加の二十六萬人よりも一萬九千人程多し。即ち現在の本市全體としては夜間人口は晝

間人口よりも約一萬九千人多き譯なり。これは本市域内の住民にして市域外に通勤するものがあるがためなりと解せらる。『性別』本市人口の男女別を見るに次表の如く男が全人口の五二%、女が全人口の四八%なる男子過剩にして、即ち女一〇〇人につき男一〇九人、舊市域は一七七人、新市域は一〇五人なり。全國平均の女一〇〇對男一〇〇・一人と比較すれば、本市の男子過剩が如何に大なるかを知らる。尙ほ現在の市域に於ける最近の本市男女別人口は次表の如し。

Table showing population statistics by year and gender. Columns for year, male, female, and total population.

註一昭和十二年は推計人口、他は國勢調査の結果

更にこれを區別に見るに、舊市域にては四谷區、新市域にては澁谷區のみが女超過にして他の諸區は何れも男超過なり。殊に神田・日本橋兩區の如きは女一〇〇人につき男一三八人に達し、また本所・京橋兩區も一二〇人以上を、京橋・芝・牛込・下谷・淺草・深川・荒川・城東の各區は一〇人以上を示す。斯くの如く本市の男子人口が女子人口よりも遙に多

きは、地方より男子が職を求めて移住するが爲なりと解せらる。本市は帝國の政治的・經濟的中心なるを以てその職場たるや甚だ多し。故に農村の農業労働需要に對する過剩なる人々の職場を求めて本市に移住するは頗る自然の事なりとす。而して田舎より集る者は青壯年の男子多し。本市の人口にては廿歳より五十歳までの青壯年級の人口が五五%を占め、他

の都市の四〇%乃至四五%よりも遙に高し。本市が生産的なる都市なることはこゝにも之を知ることを得べし。昭和五年

現在の出身地別の東京府下の人口を示せば、次表の如く、全国各地より來住せることを知る。

Table showing population by prefecture and age group. Columns for prefecture name, population, and age group.

また昭和五年國勢調査による大東京成立當時の市域の年齢別人口は次の如し。 年齢別 人口(人) 總人口との割合



トキョー 東京市 人口

Table showing population statistics for Tokyo, including age groups (60-64, 65+), sex (male, female), and marital status (single, married, widowed, divorced). It includes data for various years and a comparison with national averages.

「世帯数」本市の世帯数は、昭和十年國勢調査の結果にては舊市域四三、七、一三〇、新市域七五八、五四四、計一、一九五、六七四、更に昭和十二年推計世帯数にては舊市域四三、〇〇〇、新市域八二二、八〇〇、計一、二七五、八〇〇なり。即ち全市世帯の三六%は舊市域に、六四%は新市域にありて、一世帯の人口は舊市域五・一人、新市域四・八人、全市域平均四・九人なり。舊市域の平均の世帯人口の新市域よりも多きは日本橋その他商工業區の世帯は傭人の多きが爲と解せらる。尙ほ最近の本市(市域は現在の分)の世帯数は次表の如し。

Table showing population statistics by district (e.g., 花原, 大森, 浦田, etc.) and by industry (e.g., 農業, 水産, 工業, etc.). It includes data for various years and a comparison with national averages.

本市職業別人口を男女の性別より見れば男子人口の六三%は有業者にして、無業者はその三七%に過ぎず、また女子人口の七〇%は無業者にて、有業者はその三〇%に過ぎず、これを別の方面より見るに、本市有業者人口の七八%は男子にして、女子の有業者は全有業者の二二%に過ぎず。又本市無業者人口の六六%は女子にして、男子の無業者は全無業者の三四%に過ぎず。これによりて職業を有して働く者は主に男子なることを知る。本市有業者人口中最も多きは工業にして、全有業者の三四%を占め、これに次ぐは

Table showing population statistics by marital status (未婚, 有配, 死別, 離婚) and sex (male, female). It includes data for various years and a comparison with national averages.

「人口増加」本市の人口は最近著しく増加せり。尤も舊市域の人口は大正九年より同十二年に至る間に八・二%の減少を示せしも、新市域はこの間に七八・七%の増加を見たり。更に大正十五年以降に於ては新舊兩市域共増加せしことは下表

トキョー 東京市 人口

Table showing population statistics by district (e.g., 品川, 小石川, 本郷, etc.) and by industry (e.g., 農業, 水産, 工業, etc.). It includes data for various years and a comparison with national averages.



トキョー 東京市 財政及び諸施設

六四人にして舊市域は頗る低く、新市域に割合に高し。人口一千人中の死亡者は舊市域一・三四人、新市域一・三・九二人、全市平均一・三・三三人にして新市域は稍高きも、新市域の出生率の高きことはこれを補ひて餘りあり。これを區別に見れば、自然増加の最も高きは江戸川區にして人口千人中一五・七三人なり、王子區の一五・〇一人これに次ぎ、蒲田・葛飾・向島・目黒の各區は何れも一三・〇〇人以上なり。これに對して最低は赤坂區にて、人口千人中四・三二人、芝・淺草・下谷等の諸區これに次ぎ、六・〇〇人以下なり。而して舊市域の諸區は何れも一〇・〇〇人以下なるに對し新市域の諸區中一〇・〇〇人以下なるは澁谷・瀧野川・澁橋・品川・豊島の五區に過ぎず。

大東京市人口自然増加數

年次	出生	死亡	差増	差増率
昭和二年	五,五七二	三,三三三	二,二三九	一〇・七%
三年	五,二〇二	三,五七〇	一,六三二	一〇・六%
四年	四,九六三	三,七〇七	一,二五六	七・八%
五年	四,三三三	三,七五三	五八〇	一〇・一%
六年	三,三三〇	三,五七六	二四四	九・四%
七年	三,八七九	三,八七九	〇	一〇・九%
八年	四,五七〇	三,九五一	五九九	七・三%
九年	四,四三三	三,二四三	一,一九〇	五・六%
十年	四,六三三	三,一八五	一,四四八	八・三%

〔新市内〕

年次	出生	死亡	差増	差増率
昭和二年	三,六九二	二,七〇二	九九〇	一四・〇%
三年	三,四三三	三,〇四三	三九〇	一四・三%
四年	三,七二一	三,三九〇	三三〇	一三・八%
五年	三,四三〇	三,四三〇	〇	一三・八%
六年	三,三〇〇	三,三〇〇	〇	一三・八%
七年	三,三〇〇	三,三〇〇	〇	一三・八%
八年	三,三〇〇	三,三〇〇	〇	一三・八%
九年	三,三〇〇	三,三〇〇	〇	一三・八%
十年	三,三〇〇	三,三〇〇	〇	一三・八%

〔舊市内〕

年次	出生	死亡	差増	差増率
昭和二年	一,八八〇	六,〇三一	四,一五一	一〇・七%
三年	一,五〇九	五,八三七	四,三二八	一〇・七%
四年	一,二三二	五,三三〇	四,〇九八	一〇・六%
五年	一,〇〇三	五,〇二三	四,〇二〇	一〇・一%
六年	一,〇〇〇	四,八〇〇	三,八〇〇	九・四%
七年	一,〇〇〇	四,八〇〇	三,八〇〇	一〇・九%
八年	一,〇〇〇	四,八〇〇	三,八〇〇	七・三%
九年	一,〇〇〇	四,八〇〇	三,八〇〇	五・六%
十年	一,〇〇〇	四,八〇〇	三,八〇〇	八・三%

〔財政〕

財政膨脹は近年國家及び公共團體に例外なく認めらるる現象なり。社會の進展とともに國家及び公共團體の活動範圍擴大せしが故なり。本市の財政もこれが例外をなすものにはなく、寧ろ市の財政の膨脹は他に比較すれば甚しきものあり。明治三十一年を基準とすれば、國家の財政は昭和十二年の豫算にては十三倍、地方財政は十一年度豫算にては十

四三三

九倍なるに對し、本市財政は十二年度豫算に於て實に七十一倍となる。昭和十二年度豫算に於ては、歳出入共に三六九、九二六、五二六圓なるも、重複其他の金額を除くると純計豫算にては歳入二二九、七二八、七八〇圓、歳出二二八、四五五、〇九六圓なり。十二年度豫算にて純歳出中最も金額の多きは市債費にして金額の二七・七%を占め、公企業關係費の二三・七%、土木費の一七・三%、教育費の一四・一%、保健費の六・七%、庶費の五・五%、社會事業費の二・五%、貸付金の二・五%、産業費の〇・七%に次ぐ。又同年の純歳入にては市債収入の三〇・一%最高にして、使用料・手数料収入の二八・一%、市税の二五・一%、補助金・交付金等の四・〇%、貸付金返還金の一・九%、財産賣拂代の一・三%、受益者負擔金の一・二%、報償金の一・二%、財産収入の〇・九%等あり。之等の市財政の外に區財政あり。三十五區の歳出入總額は

區名	總額	直接	間接	世帯	世帯
四谷	三,三六六	一,〇〇三	一,四八八	六八	六八
牛込	四,四〇〇	三,三三三	一,〇六六	〇	〇
小石川	五,三六六	三,八〇〇	一,五六六	〇	〇
本郷	四,四〇〇	三,三三三	一,〇六六	〇	〇
下谷	三,〇〇〇	二,三三三	六六六	〇	〇
淺草	四,七六六	三,三三三	一,四三三	〇	〇
本所	四,九一〇	三,三三三	一,五七七	〇	〇
深川	三,八六六	二,三三三	一,五三三	〇	〇
小計	三,八六六	二,三三三	一,五三三	〇	〇

昭和十二年度豫算にては、一五、二七九、六八五圓なるも、純歳入は一三、五四一、一六〇圓、純歳出は一四、六八四、一四〇圓なり。歳出の七五・二%は教育費、歳入の五九・五%は税収入なり。本市は全國の富の集中する所に於て、富豪の多き所なり。従つて、市内の税金は莫大なるものあるわけなるも、昭和十一年度の直接國稅負擔額は一億四千二百萬圓に達し全國直接國稅の約五分の一を占む。一世帯當りの直接國稅は平均一五圓なるも舊市域の平均は實に二五六圓を示す。特に麹町區の如きは實に一世帯當り四千圓を超す、日本橋區の一千五百圓以上、赤坂區の三百圓以上、京橋・芝・麻布各區の二百圓以上は流石に全國の經濟的中心たるの實績を示せり。赤坂・麻布兩區の國稅負擔の多きは此等兩區が上流階級の住宅地たることを物語るものなり。尙ほ區別の市内稅負擔額は次表の如し。(昭和十一年度)

品川	七,七七	三,八四七	三,九三〇
目黒	五,三〇〇	二,八四〇	二,四六〇
荏原	一,四四五	五七	一,四〇〇
大森	四,九七〇	二,七五	二,二〇〇
蒲田	一,八五五	六四	一,七九〇
世田谷	二,五九	九九	二,六〇〇
澁谷	六,八五	三,七	三,一八〇
澁橋	三,三	一,四	一,九〇〇
中野	二,三	八〇	二,四〇〇
杉並	二,三	八〇	二,四〇〇
豊島	三,四	一,三	二,一〇〇

瀧野川	一,五	五	三〇
荒川	二,六〇〇	七〇	二,五三〇
王子	三,八	一,七	二,一〇〇
板橋	一,五	五〇	一,六〇〇
足立	一,七	六	一,七六〇
向島	二,五	六	二,五六〇
葛飾	二,九	〇	二,九〇〇
江戸川	一,〇〇	九	一,〇〇九
小計	五,一	三	五,一三三
總計	二七,八	一三	二七,九一五

又明治三十一年以來の本都市稅收入は次表の如し。

年次	稅收入額(千圓)	指數
明治三十一年	一,〇〇	100
三十六年	三,五	三三三
四十五年	二,九	二九〇
大正二年	二,七	二七一
七年	四,五	四五〇
十一年	三,三	三三〇
十二年	一〇,一	一〇一〇
十三年	一六,八	一六八〇
十四年	一八,二	一八二〇
昭和一年	一八,五	一八五〇
二年	一七,五	一七五〇
三年	一六,八	一六八〇
四年	一五,三	一五三〇
五年	一八,四	一八四〇
六年	一六,三	一六三〇
七年	一八,九	一八九〇

トキョー 東京市 財政及び諸施設

昭和八年 三,八五三  
九年 三,九八三  
十年 三,七〇五  
十一年 三,六九  
十二年 三,六九  
【上水道】本市の上水道は最初江戸時代より市民を潤せし玉川上水を改良せしものなるも、明治二十五年に起工し、三十二年に神田・日本橋兩區に給水せり。この工事は明治四十四年まで續行せり。その後市當局は水道工事の擴張を行ひ、又現在の新市域には民營の水道會社、又は水道組合創設せられしも、市場擴張後はこれを市に統一せしを以て、現在は本市の大部分は本市水道の給水區域となれり。本市水道の水源は多摩川・江戸川及び鑿井とす。殊に多摩川は最も重要にして、羽村及び世田谷區の砦上・砦下・調布にて取入れられ、二流となりて市民に

利用せらる。即ち、一は江戸時代に開設せられたる玉川上水路によりて澁橋淨水池に送り、ここに沈澱濾過せし後市内諸所に給水せらる。他の一流は村山貯水池・山口貯水池に出入して増淨水池に送られ、更に和泉給水池を経て配水せらる。江戸川の水は金町にて取入れられ、市の東部の諸區に配水せらる。また鑿井は杉並區の善願寺の池畔と澁谷區代々木町にあり、共に附近に配水す。本市市營水道一箇年の送水量は二億九千五百萬立方、一日平均八十一萬立方なり。尙貯水池には上述の山口・村山兩貯水池のほか、目下小河内貯水池を工事中なり。これが完成の暁には一億八千四百萬立方米の貯水を得。この貯水池は東京府小河内村、山梨縣小菅村・丹波山村を水底に没する大人工湖なり。市營の淨水・給水・貯水池は次の如し。

和泉給水池 六,八〇〇  
澁橋淨水池 三,〇〇〇  
武蔵野貯水池 三,〇〇〇  
澁橋淨水池 三,〇〇〇  
金町貯水池 二,〇〇〇  
調布淨水池 一,八〇〇  
世田谷淨水池 六,三〇〇  
杉並淨水池 三,六〇〇  
澁谷淨水池 六,〇〇〇

四三三

【電氣供給事業】本市に於て組織的に電氣事業を開始せしは明治二十年、水力電氣を始めて供給せしは明治四十年なり。即ち桂川(山梨縣甲斐國)駒橋の水力發電所より五萬五千ワットの高壓送電せしに始る。其後市内に火力發電所の設けられしのみならず、東北・信越・山梨・北陸方面より水力電氣の供給あり。現在本市に送電する水力發電所を有する河川としては、(一)猪苗代湖・阿賀川、(二)鬼怒川上流、(三)香妻川上流、(四)信濃川中流及び其支流の中津川・高瀬川・千曲川・犀川、(五)桂川、(六)笛吹川・釜無川・早川、(七)田代川、(八)酒匂川、(九)黒部川及び其附近の河川等とす。本市の電力消費は冬季に於て一日平均約五十萬キロワットにしてその五〇%は電燈用、二五%は電車用、二五%は動力用と見らる。而して本市電燈取付戸數は百十



五萬、取付電燈数は七百五十萬燈なり。  
 【公園】本市に初めて公園の設置せられたるは明治六年にして、太政官布告を以て今日の淺草・芝・上野・深川・飛鳥山の五公園が設置せられたり。されど近代の公園は明治三十六年に當時練兵場たりし日比谷公園の地を市が陸軍省より譲り受け公園とせしを以てその最初とす。その後引續き公園設置せられ、大正十二年の大震災前市管理の公園は二十八箇所を算せし、人口に對する公園面積はロンドン・パリ等に比較すればその約十分の一に過ぎざりき。然るに、大震災に際して公園が防火上・避難上大なる効果を顯せしを以て公園の大擴張を斷行することとなり。即ち政府は隅田・濱町・錦糸の三公園を復興事業の一部として建設し、更に市當局は小學校に隣接して五十一の小公園を設置せり。此間皇室におかれられては、大正十三年上野公園・芝離宮・猿江御料地を長くも市に御下賜あらせられ、また高松宮家におかれられても有栖川宮記念公園として麻布の大庭を御下賜遊ばされたり。更に岩崎・安田その他民間の寄附もあり、公園は著しく増加し、その數は約百二十、坪數は八十六萬坪となれり。そのうち約百(七十五萬坪)は舊市域にあるもその全面積の約三分に過ぎず。尙ほ市經營の主なる公園は次の如し。  
 【麹町公園(麹町區永田町)】、日比谷公園(同區日比谷)、外濠公園(麹町區・牛

込區・四谷區)、濱町公園(日本橋區濱町一、二丁目)、新月島公園(京橋區月島四號地)、芝公園(芝區)、舊芝離宮恩賜公園(同區海岸通一丁目)、臺場公園(同區品川沖)、有栖川宮記念公園(麻布區盛岡町・廣尾町)、後樂園(小石川區)、上野恩賜公園(下谷區)、下谷公園(同區竹町)、淺草公園(淺草區)、舊安田庭園(本所區橫網町)、錦糸公園(本所區錦糸町四丁目)、橫網町公園(同區橫網町)、隅田公園(本所區・淺草區)、深川公園(深川區富岡町一丁目)、濱園公園(同區濱園町)、猿江恩賜公園(同區住吉町二丁目)、清澄公園(同區清澄町三丁目)、碑文谷公園(目黒區三谷町)、戸越公園(荏原區戸越町)、飛鳥山公園(王子區王子町)、井ノ頭恩賜公園(市外武藏野町)、狹山公園(市外東村山村・大和村)  
 尙このほか準公園として明治神宮外苑あり。面積約五千アール(約十五萬坪)、明治大帝を記念し奉る聖徳記念繪畫館のほか陸上競技場・野球場・水泳場・相撲場等設けられ、日本のオリムピアを成す。又市内の諸所に風致地區を設け、都市美を構成充實せんがため適當なる保護制を加ふることとなり。現在指定せられたる風致地區は明治神宮外苑・洗足池附近・石神井附近・善福寺附近・江戸川小島附近・多摩川畔一帶・和田塚大宮八幡附近・野方哲學堂附近・大泉及び上練馬の九箇所とす。

【都市計畫】本市に都市計畫區域の設定を見たるは大正十一年にして、之により東京驛を中心とする半徑略一六料の圓内に入る地域を大東京とし、この範圍を都市計畫區域とせり。この範圍は大體現在の本市の範圍なり。而して土地發展の沿革・現狀・地形・氣候・水陸交通等の自然的或は人為的各條件を考慮に入れ、住宅地域・商業地域・工業地域・未指定地の設定に著手し、昭和十年にこれを完成せり。これによる工業地域は計畫區域の二七%を占め、本所・深川兩區、荒川放水路の西岸、江東の水運の便よき諸地、芝區田町の埋立地、多摩川下流の蒲田區より大森區を経て目黒區の目黒川一圓等はこの工業地域とせらる。商業地域は計畫區域の一〇%を占め、隅田川以西の低地略これに當り、京橋・日本橋・神田、下谷・淺草の五區これに含まる。住宅地城は上述の兩地域を除ける山ノ手臺地一帶これに屬し計畫區域の六〇%を占む。未指定地は何れにも決定し難き土地、即ち飯橋以南の月島に至る河岸、芝浦埋立地の大部分、芝區田町より品川に至る市電線路以東の地、目黒川中流、日暮里・神田川・高田馬場附近などなり。  
 【墓地】本市には寺院に附屬する墓地あるほか、市經營の共同墓地設けらる。現在市營の共同墓地は青山・谷中・雜司谷・染井・龜井・多磨・入柱の七箇所あり。

その面積は七十萬坪とす。このうち最も市民に歡迎せらるるは多磨・入柱の兩墓地なれども、この兩者は何れも市外に設けらる。  
 九 宮城・官廳及び學校  
 【宮城】本市の中心、山ノ手臺地と下町低地との接觸面に位せし江戸城の一部なり。江戸城は長祿元年太田道灌の創業に係るものにして、その後天正十八年徳川家康入りて居城とす。文祿二年に西丸を設けてより層々増築し、三代家光の時代に規模整ふ。徳川氏が天下に號令する城郭として、規模頗る壯大なり。明治維新後ここに皇居を移されたるも明治六年に皇居炎上せしを以て同十七年再建工事に著手し、同二十一年落成す。この間皇居は一時、現在の赤坂離宮に移されしも、翌二十二年春、主上御移あらせられ今日に至る。現在の皇居は舊江戸城の西丸跡にして、正門は舊西丸大手門に相當す。宮城正門より參謀本部前の城濠に臨む一帯の城嶽と城門・櫓等の建築物は壯大なりし江戸城の面影を傳へ、昔ながらの松の緑と石垣の白とは崇高と優美の極致にして、帝都最大の誇りたり。皇居の御建物は全部檜材を用ひ、古式の御殿造、屋根は銅瓦を以て葺かる。正殿・聖明殿・御學問所・風風間・千種間等の表御殿と奥御殿とより成り、崇嚴極りなし。二重橋は宮城より正門に通ずる所に架せられたる橋にて舊西丸下臺橋なり。この橋は

もと橋梁上に二重に架せられし橋なればこの名あり。舊橋は木橋なりしも今は鐵橋なり。宮城正門外の橋は舊名を西丸大手橋と稱し、もとは木橋なりしも、今は鐵橋となる。宮城前の廣場は舊馬場先門内にありて諸侯の邸宅のありし所、楠木正成の銅像ここに立つ。  
 【離宮・御所】赤坂離宮・青山御所・高輪御所・濱離宮・新宿御苑あり。  
 赤坂離宮 赤坂區にあり。もと紀州侯の邸地、明治五年離宮とす。明治六年皇居炎上の後、同二十一年まで假皇居と定めらる。ルイ十四世の御館は明治四十一年の御遊營にかかる。曾ては英國皇太子殿下、近くは滿洲國皇帝陛下御來朝の際その御宿舎に當てらる。  
 青山御所 赤坂區にあり。明治七年御所となり、大正天皇東宮におはせし頃、ここに御住ひ遊ばされし處。秩父宮御殿・三笠宮御殿はこの御所内にあり。  
 高輪御所 芝區にあり。舊細川侯中屋敷址にて泉岳寺の北方。赤穂義士大石良雄以下十六人の切腹せしは此御所内なり。いま高松宮御殿ここに造營せらる。  
 濱離宮 京橋區にあり。承應三年、甲府宰相松平綱重幕府よりこの地を賜り、海を埋めて別邸を設け甲府御濱屋敷と稱へしも、その子綱豊將軍世子となるに及び西丸御用邸となり御濱御殿と稱す。維新後海軍所となり、同三年宮内省に移管せられ離宮となる。庭園は江戸時代の名園

として名高し。  
 新宿御苑 四谷區にあり。維新前は内藤氏の邸地たり。苑内は泉池樹木多く、春は觀櫻御會、秋は觀菊御會の御催あり。  
 【皇族・王公族】皇族・王公族の方々に本市内に御住ひ遊ばさる。その御殿の所在地を列記し奉れば次の如し。  
 赤坂區表町御殿 秩父宮  
 芝區高輪西臺町 高松宮  
 赤坂區青山御殿 三笠宮  
 麹町區永田町 閑院宮  
 同 紀尾井町 伏見宮  
 同 富士見町 昌德宮李王  
 同 三番町 山階宮  
 芝區白金臺町 朝香宮  
 同 高輪南町 北白川宮  
 同 同 竹田宮  
 麻布區市兵衛町 東久通宮  
 澁谷區常盤松町 東伏見宮  
 同 宮代町 久通宮  
 同 美竹町 梨本宮  
 同 常盤松町 李健公  
 同 同 李錦公

【官廳】本市は帝國の首都たる關係上、中央政府の諸官廳は悉くこの地にあることとす。概ね宮城を中心とする地域に密集し、ここに所謂官衙街を形成す。而も從來この中央の官衙街より離れたる官廳もここに移動する傾向あり。即ち官

廳の求心的傾向と謂ふを得べし。これは勿論行政效率を考慮せし結果なるも、同時にこの地域が宮城に近きこと、舊幕時代の城内又は大名屋敷にして、廣大なる土地のありしこと等もこれが要因と考へらる。而して官衙街は大體丸ノ内の大手町附近を一中とし、ここに大藏省・選信省・農林省及び同省關係の諸官廳あり。東京驛附近も一中心にして鐵道省關係の官廳あり。日比谷及び櫻田門外より霞ヶ關にかけての地方は最大の中心をなし、海軍省・内務省・司法省・拓務省・文部省、其他の官廳密集す。これに續きて永田町・三宅坂附近は陸軍關係の官廳多く、又陸軍關係の官廳は宮城の北の代官町及び青山にも設けらる。各省中に商工省のみこの官衙街を離れ、京橋區内にあり。尙ほ市内の主なる官廳とその所在地を擧ぐれば次の如し。  
 内閣(宮城内)外務省(麹町區霞ヶ關一丁目)内務省(同區外櫻田)大藏省(同區大手町二丁目)陸軍省(同區永田町)海軍省(同區霞ヶ關三丁目)司法省(同區西日比谷町)文部省(同區三年町)農林省(同區大手町一丁目)商工省(京橋區木挽町)通信省(麹町區大手町三丁目)鐵道省(同區丸ノ内一丁目)拓務省(同區西日比谷町)厚生省(同區大手町一丁目)官省(宮城内)樞密院(同上)會計検査院(麹町區三年町)行政裁判所(麹町區紀尾井町)專賣局(同區大



地、麻布區東島居坂町、赤坂區表町三丁目、四谷區内藤町、牛込區筑前町、小石川區同心町、本郷區龍岡町、下谷區北稻荷町、浅草區雷門二丁目、本所區横綱、深川區白河町二丁目、品川區北品川三丁目、目黒區中目黒四丁目、荏原區戸越町、大森區大森六丁目、蒲田區蒲田町、世田谷區若林町、澁谷區神宮通一丁目、澁橋區柏木五丁目、中野區宮前通四丁目、杉並區阿佐ヶ谷一丁目、豊島區池袋三丁目、瀧野川區西ヶ原町、荒川區三河島三丁目、王子區下十條町、板橋區板橋町五丁目、足立區千住一丁目、向島區寺島町二丁目、城東區大島町二丁目、葛飾區本田町、江戸川區小松川三丁目。

【大・公使館】本市は帝國の首都たる故に、帝國の修交國は何れも本市に大・公使館を設置せるも、皆山ノ手豪地に集中す。これは山ノ手が住宅地としてすぐれたるが故なること勿論なるも、また我國の關係官廳が山ノ手もしくはこれに接近せる所に存在せるが爲なり。而して大・公使館は次に列擧せる如く麻布區に最も多く、麹町區これに亞ぎ、澁谷・赤坂・芝等の諸區にも一、二設けらる。尙ほ東京駐在の外國大・公使館及びその所在地は次の如し。

滿洲國大使館(麻布區櫻田町)・支那大使館(同區飯倉町六丁目)・ソ聯大使館(同區狸穴町)・トルコ大使館(澁谷區代々木山手町)・獨逸大使館(麹町區永田町)

町)佛蘭西大使館(麻布區富士見町)・白耳義大使館(麹町區下三番町)・英吉利大使館(同區五番町)・伊太利大使館(芝區三田二丁目)・米國大使館(赤坂區榎坂町)・伯利西大使館(同區表町三丁目)・波蘭大使館(芝區三田綱町)・暹羅公使館(赤坂區豪町)・アフガニスタン公使館(澁谷區青葉町)・イラン公使館(麻布區材木町)・瑞典公使館(同區西町)・芬蘭公使館(同區築箭町)・ノルウェー公使館(赤坂區青山高樹町)・デンマーク公使館(麹町區丸の内通)・チェコスロヴァキヤ公使館(麻布區築箭町)・スイス公使館(麹町區下二番町)・オランダ公使館(芝區豪町)・西班牙公使館(麻布區市兵衛町一丁目)・葡萄牙公使館(永田町二丁目)・キューバ公使館(同區内幸町)・コロムビヤ公使館(同區丸の内二丁目)・ベル公使館(麻布區廣尾町)・ボリビヤ公使館(澁谷區青葉町)・智利公使館(芝區白金堂町一丁目)・ウルグアイ公使館(麻布區新龍土町)・アルゼンチン公使館(麹町區五番町)。

【學校】本市は全日本學術の中心なり。されば最高學府帝國大學を初めとし、官立大學四、私立大學二十二、高等學校は官公立三、私立三、専門學校は官公立八、私立五七、高等師範學校二など、高等專門學校級以上の學校のみにも百校に達し、陸海軍・農林・通信省管轄の學校も少からず、中等學校・小學校等も數多く、これ等を合する時は本市の學校數は下表に示す如く約一千八百校に近し。

Table with 2 columns: School Type and Count. Includes categories like 幼稚園, 小學校, 高等學校, etc.

市の大體は次の如く二十一校に達し、別に市外にある東京商科大学を加ふる時は二十二校に達す。その所在地次の如し。東京帝國大學(本郷區本郷三丁目)・東京商科大学(市外谷保村)・東京工業大學(目黒區大岡山)・東京文理科大學(小石川區大塚窪町)・慶應義塾大學(芝區三田二丁目)・同慶學部(四谷區信濃町)・早稲田大學(澁谷區戸塚町)・明治大學(神田區駿河臺南甲賀町)・中央大學(同上)・日本大學(同區三崎町)・同工學部(同區澁谷)・國學院大學(澁谷區若木町)・東京慈惠會醫科大學(芝區愛宕町)・駒澤大學(世田谷區深澤町)・上智大學(麹町區紀尾井町)・立正大學(品川區東大崎四丁目)・大正大學(豊島區西巢鴨)・東洋大學(小石川區原町)・日本醫科大學(本郷區駒込千駄木町)・法政大學(麹町區富士見町)・専修大學(神田區神保町)・立教大學(豊島區池袋)・拓殖大學(小石川區茗荷谷町)・東京農業大學(澁谷區常盤松町)。

とを得ず。これ等の學校のほかには幾多の研究所・天文臺・氣象臺・博物館等も山ノ手方面に設けられ、それぞれの機能を發揮しつつあり。圖書館としては上野に官立の帝國圖書館あり、また市立には日比谷・駿河臺・深川・京橋等二十六を算するも、その設備は一般に未だ完全なりと云ふを得ず。

一〇 沿革 (一) 江戸時代

「都市としての江戸の特質」江戸は城下町、即ち軍事的都市として經營せられたるものなり。然もこの軍事的都市は、歐洲もしくは支那・朝鮮等に於けるそれとは甚しくその趣を異にし、その軍事的施設は、外敵より都市そのものを守護するにあらずして、都市の支配者、同時に全國の支配者たる將軍の住居を守護するを以て目的とせるものなり。即ち歐洲並に支那・朝鮮等の都市は市街の周圍に城郭を有すれど、江戸は將軍の住居を以て城郭とし、市街はこの城郭の周圍に經營せられ發達せるものなり。勿論この城郭はこれを完全にせんがために外郭を必要とし、その外郭の内に市街を取り入れしも、然もその外郭は決して市街を外敵より防禦せんがためにあらず、依然として將軍の住居を守護せんがためなり。されどここに注意を要するは、近世の初頭に於ける戦術の變改なり。城郭はその本質として防備のために交通を顧みず、多くは山岳・沼澤の險要に築かれしものなる

が、武器の變化に伴ふ戦術の改革は、集團的行動を招來し、富の蓄積と人口の集中を必要とし、貨物の集散・人馬の交通を便利とする平野に築かることとなれり。近世初頭(十六世紀末)に築かれたる我國の城郭は、何れも交通の便利を考慮の中に容れしものにして、大阪はその代表的なるものにして江戸もまた大阪と並び稱せらるべきものなり。即ち江戸は、その初めにありては關東八州の首府として經營せられ、南は海に臨み、東・北及び西に八州の平野を控へ、河流東邊を周るといふ地勢にして、當時の交通機關の上より考ふれば最も便利なる地點たりしものなり。而してまた軍事的見地より云ふも、その要害たるは論を俟たず。かくの如くして江戸は防備といふ軍事的見地と、交通といふ經濟的立場と、この相矛盾せる二つの條件の下に、經營せられ發達せるものなり。

「家康入國以前の江戸」天正十八年(二二五〇)徳川家康が關東に入國する以前の江戸は、僻陬の一小城下町に過ぎざりき。従つてその歴史につきても甚だ詳ならず。江戸の名稱は、普通には江灣の關門の意とせらる。この解釋は必ずしも當らずと雖、しかく解釋し得らるる地勢たりしは事實なるべし。即ち江戸は武蔵平野の東南端に位し、古くは利根川(今の荒川)を以て下總と接し、東部即ち後の下町方面は平坦なる汎湖の地にて、西部

即ち後の山ノ手方面は丘陵起伏す。而してこの所謂汎湖の地は往々入江をなし、廣洲・荻窪處々に點在し、海水これに入りしものと思はれ、現今發達せる石器時代の遺物は、山ノ手の丘陵がこの汎湖の地帯に臨む所に發見せられ、往古に於ける村落の所在、人口の分布を大略推察するを得。この時代の住民は大體に於てアイヌ族なりと考へて太過なきも、本郷區彌生町の貝塚より天孫族系のものなるべき彌生式土器の發見を見たるは注目すべき事實なり。江戸の名の文獻に見えたるは東鑑の治承四年(一一三三)九月の條を最初とす。されどこの江戸といふ名は、庄名か將又郷名なるか頗る判然せざるものあり。建武四年(一一九九)の圓覺寺文書等には江戸郷の文字あれば郷名かとも思はるれど、建武頃には既に庄郷の制度の亂れし地方多く、従つて莊園にあらざるとは斷じ難し。次に遙か後世のものなるが、寛永江戸圖以下には豊島郡江戸庄とあり。曾て庄號を稱せし名殘ここに残りといふべきならん。但し豊島郡江戸庄といふ呼び方は古實を離れたるものにして、本來ならば武蔵國江戸庄、或は武蔵國豊島郡江戸郷と稱すべきものなり。

何となれば郡と庄とはその行政系統を異にするを以てなり。即ち郷は元來國衙領にして郡の管下なれども、庄は權門勢家の私有地にして郡の管下にはあらず。されど、江戸が庄號なりとするも、その廣

表は固より、領家も地頭も共に明瞭ならず。普通に江戸庄は江戸重長の所領なりといはるれども、勿論確證なし。ただ東鑑に、源頼朝の頃、江戸太郎重長といふ者見え、それが武蔵國の人なるより多くの人々によりてかく想像せられしに過ぎず。管見を以てすれば、當時の制度に當てはめていへば、重長は恐らく江戸庄の開墾者の子孫にして、この庄の下司なりしなるべく、更に頼朝の時よりは、その地頭となり、また東鑑治承四年十月の條によれば、武蔵國は頼朝の知行國たりしを以て、その代官を勤めしものなるべしと推論すべきなり。因に、この江戸氏は世々この地に居住せしが、重長十世の孫駿河守重廣の時に北多摩郡喜多見に移り住み、小田原北條氏に仕へ、孫勝忠は家康の入國に際して之に仕へ、その孫重政は將軍綱吉に仕へて二萬五千石を食み、元祿二年(二三四九)一族の事に坐してその家亡ぶ。現在の東京市の前身たる江戸は、この江戸と、豊島郡の驛家郷とを基礎としてその周圍に發展せしものなり。豊島郡の驛家郷は即ち豊島郷にして、延喜式によれば、驛馬十疋を置くことを定められ、武蔵國の府中と下總の國府とを連絡するために、神護雲雲二年(一四二八)に始めて置かれしものにして、これがために、三年の後寶龜二年には、武蔵國は東山道より東海道に屬することとなり。即ち從來東山道の驛路は上野國邊



樂都より五驛を経て武蔵國府中に到り、東海道の驛路は相模國夷參驛より海路直に下總國に通せしものなりき。此の如くして豊島郷は奈良時代よりは東海道の驛家として發達せしも、その後國司制度の敗類に伴ふ驛傳制度の弛廢と共に全く僻陬の一村落に過ぎざるに到りしもの如し。豊島の驛家の所在地につきては、或は中世以降の江戸が即ちそれにして、現今の龜町區平河町附近の地なりとし、或は北豐島郡の豊島、即ち現今の王子區豊島町を以てこれに當つる説あるも、慶長見聞集に豊島の洲崎に町を建てんとして神田の山を切崩し、南の海を埋めさせ陸地となす、とあるより考ふれば、今の大手町附近にあらずやと思はる。江戸が重要地點となりしは長祿元年(二二一七)以後にあり。初め、室町幕府は足利基氏を鎌倉の主として關東を管領せしめしが、基氏の曾孫持氏の時に至り、將軍義教と争ひ、つひに執事上杉憲實のために滅され、憲實持氏に代りて關東管領と稱す。持氏の子成氏は享徳三年(二二一四)憲實の子憲忠を誘殺し、ついで古河に走りて關東公方と稱す。この時に當りて關東は兩分の勢を示し、安房・上總・下總・常陸・下野及びその以東は成氏に屬し、伊豆・相模・武藏・上野より越後に互り、その以西は上杉氏に屬せり。而して成氏は古河を本據とし、上杉氏は鎌倉を本據として兩勢力相對峙するに至り、江戸は上杉

氏勢力の右翼第一線據點として、太田道灌の築城を見たり。道灌は扇谷上杉定正(當時上杉家は山内・扇谷の兩流に分る)の老臣として、衆望を負ひ、大小の事に當り、またよく兵を用ひしが、江戸の重要性を認め、長祿元年この地に築城して居住す。道灌の江戸城は大體今の本丸の地といはる。靜藤軒記及び江戸記等によれば、城地はさして廣潤ならざるも、既に子城・中城・外城の三郭あり、東に平川の流を帯び、船泊之に出入し、城下には多少の商店街と漁師町とあり、ここに毎日市場開かれ、房總の米・常陸の茶・信濃の銅・北越の竹箭・相模の旗施、さして和泉堺の珠翠異香までも盛に取引せられ、既に一小都會を形成せしもの如し。其後江戸城は上杉氏の手より小田原北條氏の手に移り、北條氏はその家臣遠山・太田等をして之を守らしめ、永祿二年(二二一九)の小田原役戦によれば、遠山丹波守綱景を首領とし、富永・太田・島津・大胡等の諸氏がこれに配屬せられて城を守りしもの如くなるが、この頃に於ては既に關東の形勢は一變し、小田原の前線據點としては、玉繩・鉢形・岩槻等最も重要視せらるるに至り、江戸もその一據點には相違なきも、要重性は漸く減少し、從つて棄落したるもまた幾分の衰退を見しにはあらざるかと思はる。

徳川家康北條氏の後を襲ひて關東に入國するに及びて、家康は江戸を以てその居城と定めたり。家康は何が故に江戸を居城として選びしか。江戸は關東平野の東京灣に臨む始ど中心に近く、而も河川の便多く、所謂四通八達之地たるに因る。家康の入國するや、城は僅に少許の外郭を擴めたる程度なりしが、城下の經營に著手し、平川・牛込・局澤・芝崎等にある社寺を神田の臺其他に移轉せしめ、現今の常盤橋以東日本橋の地に新市街を營み、船入場を普請し、大小の溝渠を開鑿せり。この頃和田倉門より常盤橋に通ずる道三堀附近には市街を形成し、海潮は龍の口まで差入り、兩岸を舟町といひ船泊之に繋留し、村木商其他河岸に軒を並べたりといふ。かくてその後、文祿元年(二二五二)江戸城西丸の増築を始め、翌二年一旦之を中止せしが、この間城濠の掘土を以て日比谷の入江を埋立てたり。芝口一丁目附近はこの時に出来しものと考へらる。然るに慶長五年(二二六〇)關ヶ原の役によりて、天下の實權徳川氏に歸し、ついで同八年家康征夷大將軍に任ぜらるるに及び、江戸は名實共に天下の別都となり、諸大名は争ひて邸宅をこの地に營み、幕府もまた、大名に課して城郭並に城下の經營に當らしめたり。即ち慶長八年以後同十二年に互りて、近畿・四國・中國・九州並に關東・奥羽及び信越の諸大名に課して、石材(主として伊

豆より)木材、その他を江戸に運送せしめ、以て城郭の修理増築と城下町の普請とを行はしめ、天主以下内濠及び外濠の一部成りて所謂江戸城の規模ここに定ると共に、神田の臺を崩して豊島の洲崎を埋め立て市街を擴張せり。現今の濱町以南新橋附近に至る一帯の土地はこの時に成りしもの如く、日本橋も亦この時に築せられしなり。その後慶長十五年には東國の大名に課し、同十九年には西國の大名に課して、主として石垣の修築を行へり。ついで元和二年(二二七六)に至り家康駿府に薨去せしより、家康に附屬せし駿河衆を收容するために、駿河衆の經營、御茶ノ水の開鑿を行ひて小石川の水を神田川に通せしむ。その後また元和四年、同六年、同八年にも枅形・石垣其他の普請行はれしも、二代將軍秀忠は概して消極的の政策を取りしために大なる發展を見ざりしもの如し。三代將軍家光の代に至れば、寛永五年諸大名に命じ、諸方の石垣を修理すると共に虎の門より日比谷門・數寄屋橋・鍛冶橋・吳服橋・神田橋・一橋を経て雉子橋に至る外濠を普請し、同十三年更に大に工を起して外郭を修築せしを以て、江戸城の總構は全く成り、江戸市街も亦この時に至りてその規矩を殆ど完成せり。

「江戸の市街」かくの如くして江戸の市街は、江戸城本丸を中心とし、螺旋形に三重の水濠を繞らし、高川口・田安口・

神田口・淺草口及び舟口の五口その他によりて、外部との交通路を有し、郭内はこれを武士の居住地に宛て、而も將軍との關係の親疎輕重に依りて中心より漸次遠方に及び、商工市街は外郭の東方日本橋を中心として今日の下町一帯に區劃せられたり。而もこれらの市街は、各町毎に皆大戸を有し、各町は各職業により、同職業者によりて構成せられ、例へば大工町といへば大工が居住し、鍛冶町といへば鍛冶屋が居住するといふ如き有様なり。江戸總庶子には、金銀兩替座以下、錢屋・米屋・炭薪屋・酒屋・鹽屋・呉服屋等九十八種の商人が、各々その居住區域を異にし、店舗を連ねて居りし町名を記せり。尙この外、例へば龜町通の如く前掲五口その他外郭に通ずる諸口の内部及び外部には商工市區が發達し、交通不便なる丘陵地帯、及び下町にありても要衝を離れたる地帯には社寺を集め、その間に下級武士の居住地を置くの有様なりき。これらの社門前及び侍町の住民は大部分農民なり。然るに明暦三年(二三一七)の大火に遭ひて、市區の改正を行ふと同時に市域の擴張も行ひ、本所・深川方面を開きて武士の邸宅を營ましめたり。かくて江戸の市街は一口に八百八町といはれたるが、それは勿論、大體を示したるものに過ぎず、既に寛永の頃よりこの言葉はありしも、正徳三年には九百三十三町、享保七年には千六百七十二

町、家數十二萬八千五百七十二戸といふ有様にして、その後に至りては大なる増減を見ざりしもの如し。而してこれ等の町は江戸町方書上によれば(主要部分なる日本橋及び神田の一部を除く)その起立は大部分分明ならざれども、その明かなるものに就きて云へば、寛文・元祿の起立が最も多く、慶長・元和の起立これに次ぎ、以て江戸市街發展の經過を窺ひ得べし。されど江戸の市街は前に述べし如く、決して町人が主なるにあらず、武士が主にして神社佛寺のこれに附隨せしこと勿論なり。されば市街の大部分は武士の住宅地たるに論なく、神社佛寺の占據せし地域もまた相當に廣し。江戸雀(延寶の頃)によれば、大名の邸宅凡そ五百二十箇所、小名の屋敷凡そ二千八百七十箇所、寺院凡そ八百五十、神社凡そ二百二十餘にして、これに對して町数は九百餘なりといふ。以てその當時に於ける市街の大勢を窺ふべきなり。次に市街の景観は如何といふに、明暦の大火以前に於ては、江戸城を初めとして、諸大名の邸宅は豪壯を極め、現今參謀本部の在る所ありし加藤清正の第の門の上なる金の虎は遠く品川の海上まで輝きたりといはれ、その他諸大名の邸宅も門扉に定紋を畫き、之に金飾を施せりといふ。然るに明暦の大火起りて後は、これら大名の邸宅はその資金の缺乏より著しく小規模となり、これに反して、神社佛寺はその

建築壯麗となり、町家には二階・三階家も出来たりといふ。即ち明暦の大火以前の江戸は所謂植民地風にして、荒涼たる原野に、一時に大都市を出現したるが如き有様なりしが、これが明暦大火後に至り落著きたる市街となれりといふ。所謂府内たる江戸の市街と郊外との區別につきては、勿論、判然たる區別あるにあらず。即ち江戸の町數を數へたればとてそれは府内をいふにあらずして、ただ町奉行の支配下なる町民の居住地といふに過ぎず。この府内と府外との區別の判然せざるは一見不思議の如くなれども、これがために敢て市政執行上不便を生ずるものにあらず。これ市民は町奉行の支配下にあれども、武士及び寺社はその支配外にあり、この支配外の武士及び寺社並にこれらのまた支配下にある農民が市の外縁に居住せしめられたり。されど市街の擴張に伴ひ、本所・深川の如き關東郡代の支配地が江戸の武士及び商工業者の居住地となり、更にまた江戸拂なる刑罰の生ぜし等のことにより、法制上にも、江戸市と江戸市外との區別を必要とするに至れり。即ち明和二年(二四二五)には曲輪より四里以内といふ甚だ漠然たるものなりしが、天明八年(二四四八)の評定所の定書には、江戸拂は品川・板橋・千住・本所・深川・四谷より内といふことになり、更に文化十三年(二四七六)には神社の動化に當り、寺社奉行は府内を以て、

東は砂村・龜井戸・木下川・須田村、西は代々木・角筈・戸塚・上落合、南は上大崎・南品川、北は千住・尾久・淺野川・板橋といふことに解釋したり。而してこの兩者の府内に對する解釋の相違は、江戸拂といふ目的と、動化といふ目的、即ち目的の相違によりて、各便宜的の解釋を下し、必ずしも當時市民の有せし江戸府内の概念と一致するものにはあらざれどもこれが解釋の不一致といふことは當事者としては漸く不便を感ずるに至りしものと見え、文政元年(二四七八)に至り、勘定奉行より建議して、品川・板橋・千住・本所・深川・四谷以内を以て府内と定めんことを請へり。仍て幕府は町奉行支配場を以下限定することとし、江戸拂の例同様、品川・板橋・千住・本所・深川・四谷大木戸以内を府内と心得よと指令せり。されど幕府には別にまた朱引といふ言葉あり、自ら別個の解釋を探り、品川・大崎は朱引外、目黒は朱引内、鳴子は朱引外、千駄谷・柏木・大久保は朱引内、また高田・雜司谷・巢鴨・染井は内、中里・西ヶ原・田端・金杉は外、寶輪・龍泉寺・橋場は内といふ有様なりき。朱引といふは、もと江戸の地圖に朱線を以て府内・外の區劃をなせしに起るものなり。

「江戸の市民」江戸の市民は、廣義には上は將軍を初めとして幕僚及び大名旗本以下の武士並に神社佛寺の神官・僧侶、ついでこれら支配階級の下にある農民



及び商工業者より成る。而して商工業者即ち所謂町人は、その初期にありては、武士の需用を満たす供給者として、その存在を認めらるるに過ぎざりしが、我國經濟界の發展に伴ひ、城下町たる江戸がその都市性を變改し、漸次經濟都市へと推移するにつれて、町人は勢力を獲得するに至り、武士に對して壓迫を加ふるに至れり。これらの商工業者のうちにて、主なる者は、家康の入國後間もなく、或は關ヶ原役後間もなく、他より移住し來りし者にして、その出身地は、當時既に都市を形成せる京都・大坂・堺・伏見、又は曾て家康の領國なりし伊勢・遠江・駿河、及び從來關東の首府たりし小田原が多く、この外別に古來商人の出身地として特殊の色彩を有せる近江・伊勢等之に次ぎ、更に尙ほ全國に亘れるが如し。これ等の商工業者が如何なる職業に従事しむるか、元祿三年の増補江戸鹿の子に依りて諸職名匠諸職人間屋大抵とあるものを左に掲ぐ。

- 町年寄 金座 銀座 常是包 朱座
- 呉服所 大工頭 分銅彫刻師 針口師
- 茶師 櫛皮屋 櫛物師 冠烏帽子並裝束師 簾師 鐵炮師 壺師 鏡師 土圭 (時計)師 香具師 太刀屋 唐本屋 書本屋 書物屋 屏風屋 組糸屋 琴三味線師並糸 鼓屋並しらべ忍緒 而打楊弓師並矢師 笛簾師同尺八 箏屋 最所 經師 金銀箔屋 大佛師 菓子

- 所 繪師 蒔繪師 描師 唐木細工師
- 白粉屋 針所 金銀打針師 名酒屋
- 表具師 佛具並佛物師 繪師 茶人 織師 茶人袋師 茶入蓋師 茶湯道具直 幅紗所 笠屋 銅人形師 繪具屋 額形屋 彫物師 具足屋並著込櫛所 弓師並矢 鞍打 鐵師 堆朱彫刻師 靱屋 鑽屋 漆師 鷹漆師 弦指 釘金物鍛冶 柄卷師 剃手師 鐘木師 鑿師 小細工印刷師 淨瑠璃木屋 青漆 合羽屋 錫道具師 唐木屋 唐草印傳屋 茶臼直 鐵燭屋 御簾屋 伽羅油屋 花露屋 製藥屋 地張きせる屋 花や 作花師 同京下り 張子屋 並簾類 甚樂師 鼓屋 地唐紙師 葛羅屋 漆屋 鑄子 銅師並象眼 傀儡人形師 針金師 銀細工師 刀磨屋 精細師 目貫 切付縫掛師 切付屋 採皮屋 玉細工師 眼鏡 銀屋 唐物屋 古筆屋 珠數屋 大鼓塗師 繪物屋 金魚屋 からくり人形師並ぜんまい かざり細工師 繪馬屋 髮結水入師 石筆屋 棕桐帶 繩打 能裝束師 並儀裝束 京都染物屋 硯屋 紺屋 傘並挑灯屋 具足羽織並仕立物 旗天蓋仕立屋 萬福圓 腹藥 保童圓 外郎透頂香 延命散定齋 美清香 牛黃圓 國分散 錦袋圓 目藥 膏藥屋 齒の藥並はぬき 地黄丸 皮膚膏藥 藥敷屋 疝氣藥 五香湯 つりはり師 刺香や 白味噌屋 長崎餅師 大佛

- 餅 饅頭屋 豆腐屋 京下り菓子屋
- 白箸屋 唐館屋 打栗 ふいご焼 米まんぢうや 櫻あめ ちんちんふ 黍 秋巻櫻 刺糖草 饅頭そばや 籠素麴しほから類 飯饅頭 餅並食すしこんにやくや ふのやき 太心草 見頼屋 同提重 奈良茶 手打そば切 芳飯 食見頼 芥子の粉屋 あさびら煎餅 めりやち煎餅 葛煎餅 諸色問屋 米油問 諸國問屋 大坂船問屋 鐵問屋 紙問屋 木綿問屋 茶問屋 墨筆問屋 人參問屋 橋問屋 鐵問屋 藥種問屋 きせる問屋 小問物問屋 土人形問屋 魚問屋 唐人宿 京大坂 飛脚宿 日用札揚 しかた咄 けだ物 藝仕付

以上によりて明かなる如く、所謂近代工業たる重工業・機械工業は勿論これを見ることが得ざれども、手工業としては、紡織を見ることを得ざる外、主要なるものは殆ど全部揃へりといふも過言にあらず。又右のうち食料に關する商人は、當時江戸市民の食物を窺知し得る興味ある事實といはざるべからず。次に江戸の人口状態は如何といふに、慶長十四年(二二六九)上總國の海岸に漂著し、のち江戸に來りて二代將軍秀忠に謁し、尋で駿府に赴きて家康にも謁せし呂宋の太守ドシ・ロドリゴ・デ・ベイロの記すところによれば、當時の江戸の人口は三十萬、駿府の人口は十五萬なり。元和二年以後

ありしものを加ふる時は、その人口は僅に百萬を突破せしものと思はる。即ち武士以外のこれら人口に就きて見るに、享保七年(二二八二)には、僧侶三萬六千九十六人、修驗者六千五百人、社人九百三十三人、百人あり、元文二年には、僧侶三萬六千九百五十五人、山伏六百七十五人、社人九百三十三人、百人あり、寛保三年(二四〇三)には僧侶三萬六千六百九十九人、修驗四千二百七十七人、尼五千八百三十一人、大神樂以下六千七百二十三、百人あり、新吉原八千六百七十九人といふ状態なりき。因に、新吉原は町奉行の支配下にあらずして、若年寄の支配下にありしものなり。次にまた男女の比例につきては、享保七年には男二十二萬五千七百七十九人、女三十三萬五千五百一十一人、同八年には男三十三萬五千五百一十一人、女三十三萬五千八百八十八人、元文二年には男三十三萬五千五百一十二人、女三十三萬五千七百七十九人、寛保三年には男三十三萬五千七百七十九人、女三十三萬五千七百七十九人といふ割合なり。この享保七年の割合は或は男女別を反對に誤りしものかと思はるるも、大體に於て、男の方著しく多きこと明かなり。以上述べしところによりて享保以後に於ては江戸の人口の大なる増減を見ざりしこと明かにして、米價その他の事情によりて推測する時は、この大勢は寛文・延寶の頃に於て既に定りしにあらざるかと思はる。

(江戸の市政) イ、地域の區劃 江戸は前に述べし如く、本來武士中心の都市にして、その地域の區劃は大體に於て、武士の屋敷、神社佛寺の敷地、及び百姓町人の居住たる町地の三様に區分さる。武士の上層階級たる大名の江戸に於ける屋敷は如何なる状態なりしかといふに、大名は自己の住居たる上屋敷の外に下屋敷・添屋敷・倉庫敷等を有せり。この下屋敷といふは、主人退隱後、もしくは居第の火災・修繕等の時の居住に充つるものにして、中には子弟の居所とせるものあり。また添屋敷といふは屋敷に添地のあり。また倉庫敷といふは即ち倉庫地なるものあり。更に抱屋敷といふは如きものもあり。この中屋敷は下屋敷と同じ様なるものなるが、抱屋敷といふは有税地を買入れしものにして地子を含む義務を有せり。因に大名の屋敷以下武士の邸宅は無税地なりしものなり。このほか旗本以下の屋敷あり、更に下級武士の所謂町並屋敷といふものもありて、これ等武士の屋敷の数は勿論正確に知るを得ざれど、延寶五年(二三三七)の江戸雀によれば、大名の屋敷凡そ五百二十、上級旗本の屋敷凡そ二百八十ありきといひ、安永二年(二四三三)の江戸圖説によれば、大名の屋敷は上屋敷二百六十五、中・下屋敷四百六十六と見ゆ。而してこれら武士の屋敷の面積は明治二年(二五二九)九月現

在にて千六百六十九萬二千五百九十一坪といひ、舊江戸全面積の約六割程に當る。次に神社佛寺の敷地なるが、これには朱印地及び除地等の所謂寺社領の外に、門前町なるものあり。この門前町を形成するものは百姓町人にして、これらの百姓町人は原則的には神社佛寺の支配下なれども、事實は町奉行の支配する所たり。而して寺社の敷地は延寶年中(二三三三頃)には神社凡そ二百二十、佛寺凡そ八百五十といひ、享保十五年(二二九〇)には、佛寺凡そ九百四十、この外にその寺院凡そ八百ありきと云はるるが、明治二年の調査によれば、神社凡そ四百九十三、佛寺千二百三十六といひ、また神社佛寺の敷地は同年の調査によれば、神社七萬九千九百五坪、佛寺二百五十八萬千七百四十七坪、合計二百六十六萬千七百四十七坪にして、全市の約二割に當り、また門前町の敷地は享保二年(二三三七)には四百七十四箇所ありきといふ。また町奉行支配の下にありし百姓町人の居住地即ち町地につきては、その大略を前に市街の條に於て述べたる如くなるも、その面積は、明治二年の調査によれば、二百六十九萬六千坪にして、全市の約二割に當れり。口、市政大體 前に述べし如く江戸の市民は武士及び百姓町人より成る。従つてその市政はこれらを統轄する行政ならざるべからず。然るに武士と百姓町人とはその支配系統を異にせり。武士の上層階

級たる大名、即ち一萬石以上の武士は老中の支配下にあり、それら各大名の家臣たる武士はまた各々その大名の支配下にあり、更に等しく幕府直轄の下にある武士にても一萬石以下の武士たる所謂旗本もしくは家人は若年寄の支配下にあり、神官僧侶は寺社奉行の支配下に置せしものにして、江戸町奉行の支配下にあるものは、所謂町人たる商工業者及び町奉行支配地に居住する百姓に過ぎざりき。されば町奉行の行政は大名・旗本には及ばず、その居住地は支配の權外にありたり。大名の屋敷、即ち邸宅は宛も今日の外國の大・公使館の如く一種の治外法權地にて、町奉行の司法警察權はこれに及ばず、犯人がこれに逃入すれば町奉行は老中に上申し、老中より改めて大名に交渉をなすといふ立前であり、その實際に於ては全く獨立せる地域たり。而して若年寄の支配下にありし旗本・御家人たる武士、及びこれに準ずるもの邸宅、更に神官僧侶の支配下にある神社佛寺等の境内支配地もまた、これに準ずべきものなり。以下これらの支配組織につきて少しく述べし。先づ武士の支配組織なるが、第一は大名なり。大名は老中の支配下にあるが、各大名はまた各自の家族・家臣及びその家族等を支配し、地域的には上中下の三層階級に倉庫敷・抱屋敷等を支配せり。これらの屋敷は無税地なれども、ただ抱屋敷のみ地子を負担せり。



尚ほ大名は各家によりてその制度に相違あるが、大體に於て在國と江戸詰との二つに分れ、江戸詰は江戸の市民の一部を成せり。されどこの江戸詰はまた定府と勤番との二つに分れ、所謂江戸家老ありて一家の事を執り、奏者番・留守居等がこれに屬して定府となり、側用人或は物頭といふものは、大名の参觀に隨從して江戸に勤番せしものなり。次に旗本なるが、これは大名と異りて常に在江戸するものにして、領地には代官を遣してその事を行はしめしものなり。家臣もまた大部分が江戸にあり、旗本自らは若年寄の支配の下にあり、家族家臣を支配することとは大名と同様に、地域的にはその屋敷を支配せしものなり。但し、その江戸市中に於て拜領せる町家の住民は町奉行の支配の下にありき。次に神社佛寺の支配組織は、神社佛寺及び神官僧侶は總じて寺社奉行の支配の下にあれど、神社佛寺の領地に居住する百姓町人は町奉行の支配下に屬せり。されどこれを地域的にいへば、神社佛寺の敷地は普請奉行の支配下にあり、更に所謂地子町屋、即ち有税地は代官の支配の下にあり、またその造替は作事奉行・小普請奉行の支配の下にありたり。次には町の支配組織なるが、これは江戸町奉行の支配下にあり、その下に町年寄・町名主等ありて自治をなせり。この町奉行及び町年寄の外に、町の支配に代官支配の地域あり。代官の

支配地といふは、元來は所謂郭外、即ち市外の地にして、江戸の膨脹と共にこれらの地域が市街となるに従ひ、即ち寛文(二三二)頃・正徳(二三七)頃の兩度に町奉行の支配地に移管せしめ、それは單に司法及び警察權に過ぎずして、それらの土地の租税は依然として代官の徴收することとなり。即ち、郭外なりし淺草の場末及び下谷・本所・深川・小石川・牛込・市谷・四谷・麻布・赤坂等は多くはこの種の地にして、後には所謂府内となりしも、郭外たることは依然たるものなり。因に、この代官は即ち關東郡代にして勘定奉行に屬し、代々伊奈氏の世襲する所なりしが、寛政に至り伊奈氏改易のことありてこれを廢し、一時勘定奉行の兼任する所となりしが、同四年(二四五二)に至り五名の代官をして分治せしむることとなり。ハ、町奉行所 江戸町奉行は初めは代官と稱して定員はなかりしも、慶長年中(二二五六)より二人となり、いつの程にか二人を定員とし、月番を定めて政務を行ふに至れり。即ち南北の町奉行これなり。南町奉行所は数寄屋橋内にあり、北町奉行所は吳服橋内にありたり。而してその職掌とするところは、江戸府内の町民及び因獄・養生所の役人、江戸町役人、竝に江戸寺社領の町民等を支配し、兼ねて火災の消防を指揮し火付・盜賊等を吟味し、道路・橋梁・上水等に關する事なり。府内町民の訴訟

を聞くには、月番の宅に於て行ひしも、その事が他の支配に關聯する時は、評定に於て合議裁決せり。その職は、普通には三千石高にして從五位下に叙せられ、役料千俵を給せられしが、天和(二三四)頃以後は屢々沿革あり、或は役料七百俵、役所金二百兩などといふ有様なりき。而して町奉行の關係としては與力と同心あり、與力は定員五十人、高二百石、役料三十石、別に養美手當等あり。南北奉行所に各二十五人宛分屬せしめられ、而もこれが十組に分れ、各組は五人より成り、内一人を兼頭と稱し同心を支配せり。同心は初めは二百人なりしが、後に八十人を増して二百八十人となり、南北奉行所に各百四十人宛分屬し、これも亦十組に分れ、各組は二十八人より成り、内上席五人を年寄同心、次の三人を物書同心といひ、平同心は二十人にしてこの内八人を増人と稱せり。同心の高は三十俵二人扶持を普通とし、年寄同心は五俵を、物書同心は三俵を増し、増人は高二十俵二人扶持なり。而して同心も與力と同様、この外に手當養美あり。たゞここに注意すべきは、與力五十人の内にて四人は町奉行の家臣を以て補する定めなりしことにて、これを内與力と稱す。然らばこれ等の與力同心は如何にして事務を分擔せしかといふに、(一)年番方(南北各與力二人、同心六人)は役所の取締、同心の監督、金銭の出納を掌り、(二)吟

町奉行

味方(南北各與力八人、同心十六人)は民事刑事の審理及び執行を掌り、(三)市中取締掛(南北各與力六人、同心十二人、年番方吟味方より兼務)は市中の取締に關する諸事を掌り、(四)帳帳方、(五)撰要方(南北各與力三人、同心六人、兩方を兼務す)は帳帳の取調、撰要集の編纂及び市中の人別改めを掌り、(六)例證方(南北各與力二人、同心六人)は刑律の先例取調を掌り、(七)用部屋手付(南北各同心十人)は町奉行の手元を以て、用人が刑律を調査する際に書記の役を勤め、(八)當番方は、與力(人數不定)は日々二人宛役所當番所に宿直して訴訟の受付に當り、手すきのものは檢使に出で、その他の所謂出役に當り、年寄同心(十五人)は日々三人宛役所に宿直し、檢使に出で、出役に當り、物書同心(十五人)は日々三人宛宿直し當番與力の下にありて書記を掌り、増人同心(人數不定)は毎日十一人宛、これまた役所に宿直して自洲に踴躍し、奉行の交通使に當る、而して與力以下何れも各所属の南北奉行所に出動す。(九)本所見廻(南北各與力一人、同心三人)は本所及び深川に關する諸般の事務を見、道路・河岸地・建築物・橋梁の事竝に名主の進退を掌る。(十)養生所見廻(南北各與力一人、同心三人)は小石川養生所の取締及び金銭出納に當り、(十一)牢屋見廻(南北各與力一人、同心二人)は小傳馬町の囚徒の取締、處刑、その他

事を監督し、(十二)定橋掛(南北各與力一人、同心二人)は官費造營の橋梁の見廻及び普請の事を掌り、(十三)町會所掛(南北各與力二人、同心三人)は町會所に於ける積金・貸金、窮民の救助、又圍ひ裡に關する事を監督し、(十四)猿屋町會所見廻(南北各與力一人、同心二人)は淺草藏前札差の業務執行を監督し、(十五)古銅吹所見廻(南北各與力一人、同心一人)は本所横川の古銅吹替の業務を監督し、(十六)高積改(南北各與力一人、同心二人)は市中の新炭其他高積制限違反者の取締に當り、(十七)箱館會所取締掛(南北各與力一人、同心二人)は箱館奉行管轄地の物産賣捌の事を監督し、(十八)硝石會所掛(南北各與力一人、同心二人)は硝石採集、彈藥製造に關する事務を掌り、(十九)町火消人足改(南北各與力三人、同心六人)は出火の際に於て町火消の防火を指揮し、(二十)隱密廻(南北各同心二人)は町奉行に直屬して秘密探偵の事に當り、(二十一)定廻(南北各同心四人)は法令の施行を視察し、非違を勸査し、又犯罪の捜査及び逮捕に關する事を掌り、(二十二)臨時廻(南北各同心六人)は主として犯罪者の逮捕に當り、(二十三)人足寄場掛(南北各同心二人)は石川島無宿罪人懲治場の事務を監督すといふ仕組なり。されどこれらの分課及び役人の配置は必ずしも一定せず、時代によりて多少の相違を免れず、古ければ古き

程、その分課の数は少かりしものなり。尙この外(二十四)烈風廻、(二十五)晝夜廻等ありて、市中を巡廻して非常を警め、(二十六)市中取締、(二十七)諸色調掛、(二十八)諸問屋組合再興掛などありて、市中の取締に關する事を掌り、市民の經濟生活に關する監督に當りしこともありたり。要するに奉行所は現今の市役所・警視廳・裁判所・刑務所等の事に互りてその事務を執りしものにして、その廣汎なる權限と、而して執務の簡捷なる點とは、蓋し驚くべきものと云ふべし。二、町役所 江戸の市政は町奉行の下に町役人ありて自治を行へり。江戸の町役人には町年寄・地割役・名主等あり。町年寄は三人ありて、榎屋(後權と改む)・奈良屋(後館と改む)・喜多村の三家がこれを世襲し、宅地及び町屋敷を給せられ町奉行の支配を受け、その宅を役所に宛て月番を以て神田・玉川兩上水の事を掌り、また總町を代表して府内の令達の事に當り取締に任ぜり、榎屋は特に町屋敷の地代取立・拵改め・河造橋改めの事をも掌れり。その身分は名字帶刀を許され、役料をも給せらる。因に、年寄といふは中世に於ける刀禰なるべし。刀禰自治體に於ける代表者なり。地割役といふは、町方の地割、即ち測量及び交附の事を掌るものにして、初めは木原氏がこれを世襲せしが、その失職するに及びて榎屋の一族がこれに代り、地割頭梁と稱し、町

屋敷を給せられ、或は扶持をも與へられたり。名主は即ち各町に長たるものにして、町年寄の指揮を奉じ、自宅を以て町役場に宛て、家屋敷の質入證文、或は訴訟の願書に加納するなど、總て各司配町内の公務を行へり。名主の数は享保八年(二三八三)には二百六十四人、外に新吉原四人、寛政三年(二四五二)町法改正の時には二百四十三人あり、明治二年(二五二九)改職の時には二百三十八人ありたり。名主の役料は幕府より制限を設けて各その町より支出せしめたるが、少きものは二兩二分、多きものは二兩一分、銀十二匁といふものもあり。安政年中(二五二四)の調には全名主の役料は一萬六千七百七十五兩一朱、錢百二十二文なりきといふ。またこの名主は少きは二、三町、多きは數十町を支配せしものにしてこれに大體四種類あり。即ち(一)草分名主といふは、徳川氏の初より、その人々が自ら開拓せる町の名主にして、中世の莊園に於ける所謂開發者なり。而してこれには、家康入國(天正十八年、二二五〇)前よりの居住者あり、また三河・遠江等より家康に隨伴して來れるものあり、爾來世襲して名主中成權最も重く、その初めには二十九人程もありしが、後には漸く減少して二十三人となれり。次に(二)古名主といふは草分名主に次ぐものにして、文化年中(二四六四)には七十九人ありしが、後には七十五人とな

町奉行

れり。これは草分名主と共に、町年寄同様、年頭及び大禮節の際には、將軍に物を獻じ、謁を賜はる格式なり。次は(三)平名主にして、代官の支配下より町奉行の支配下に移れるものにして、新江戸の新名主なり。この外(四)門前名主といふものあり。これは神社佛寺の門前町の名主とす。因に、名主といふ名稱は、中世に於ける名田の所有者たる名主よりその稱出でたるものにして、名田といふは開發者の名を冠せる私有の田地なり。而して名主は日本橋南組・中組・芝組・神田組、いふに如くに、幾人かの名主が集りて組合を作りしが、享保八年(二三八三)名主の組合を設けてこれを十七組及び番外一組とし、更に寛延年中(二四〇八頃)には二十一組及び番外二組とし、更にこれを南十二組・北十一組とし、北の一番組・二番組、南の四番組を小口といひ、小口名主中に年番を定め、町觸又は尋物等の場合には、町年寄より小口年番に達し、以て一般名主に通過する仕組なりき。尙ほ名主の無き町もあり、かかる町には月行事といふものありて名主の事務を行ふ。かくの如くにして江戸の市民は町年寄及び名主によりて自治を行ひしが、この外更に五人組といふものもありてこの自治をして一層鞏固なるものとせり。五人組の制度は古く氏族制度の時代にその源を發すといはる。然るにその後大陸に於ける五保の制が輸入せられ、



これが中世に長く行はれしものといふ。されど江戸の五人組の制度は、慶長二年(一六二五)豊臣秀吉が定めし侍五人組、下人十人組の制度より起れるものと見るべし。江戸の五人組制度の創設は何年の頃か詳かならざるも、寛永三年(一六二六)以前なることは明かなり。江戸の五人組制度は、家並五軒を以て一組とせしもの如くなるも、必ずしも一定せず、所謂向う三軒兩隣といふが有り、中には六軒・七軒・八軒以上に及ぶものもあり、要は土地の状況により、組合を組織し易き状態に於て、且つ有効に使用せしむべき状態に於て、これを組織せしものと見るべし。但し、江戸にありてはその單位は家にあらずして家主たりしなり。抑も江戸の庶民階級は、地主・家主・地借人・店借及び奉公人より成り、地主は即ち有産階級にしてその町の代表者なるが町を構成する單位にあらず。町を構成する單位は家主にして、これが町の實際事務に當れるものなり。即ち家主は地主より委託せられて、地借・店借等の監督支配に當れるものなり。ここに江戸が都會にして、既に農村とその性質を異にせし情態を窺ふを得。地主にて同時に家主なるものを居付地主といひ、また家持ともいふ。また地を借りて家を持つものを地借人といひ、家を借りて住へるものを店借といひ、他人の雇傭となるものを奉公人と稱せり。因に、奉公人といふは古

くは武士の奉公するものを指せし稱なるが、この意義は漸次に稀薄となりて、いつの程にか庶民階級の雇傭の稱呼となりしもの。五人組の事務は月番を定めてこれを執り、これを月行事と稱し、その事務は冠婚葬祭より、命令の布達・犯罪者の取締・租税の徴収・貧困者の救助・公事の勤務等日常生活諸般の事に互れり。木、警戒と消防 江戸の市政は、武士を中心とする城下町たりしことに變りはななく、市中の警戒に當りては、幕府の官吏たる大目付・目付等の武士階級の監督視察に當るものは固より、町奉行をして市民居住の地域の警戒に任せしめしものなるが、その下には大名・旗本を初めとして百姓町人總べて之を分擔せり。即ち武士の居住地には辻番を置き、町人の居住地には自身番・木戸番を置き、以て各自に市街の取締に當らしめたるものなり。辻番は寛永の初め(一六四四)府内に辻斬多かりしため、六年(一六二九)諸所に番所を設けてこれが警戒に當らしめたるに起るといふ。これには(一)公儀辻番、(二)大名・旗本辻番の二種あり。公儀辻番といふは幕府自らの設けたるものにして、大名・旗本辻番といふはその名の示す如く大名及び旗本の設けたるもの。されどこれには一手持辻番及び組合辻番といふものあり。一手持といふは、一手にて持つものにして、大名の辻番なり。組合辻番といふは、数手にて共同して持つ

ものにして、旗本の辻番なり。前者はその受持の大名が各自の中間・小者等をして番をせしめ、後者は數家の旗本が頭取及び年番を定めてこれを管し、借人を以て交替に番をせしめたるもの。番人は公儀辻番は晝四人、夜六人、大名辻番は晝三人、夜五人、旗本辻番は晝二人、夜四人、番所は間口二間、奥行九尺、突棒・指文・もち棒・松繩・早繩・提灯等を備付けて以て非常を警め往來を檢閲せしもの、その數八百九十餘に及べりと云ふ。また自身番は市街地市民の負擔せるものにして、その制度は辻番に準じ、大體各町内に一箇所宛あり、初めは地主自身にて番屋に勤めしより此名ありといふ。これは既に慶安の頃(一六六〇)にありきと云ふ。嘉永三年(一八二〇)にはその數九百九十箇所に達せり。自身番には番人の外に番役といふものあり、町内の繁華の事を掌る。次に木戸番といふは、各町の入口に設けたる木戸の番をなすものにして、午後十時を以てこれを鎖し、通行者を監視し、盜賊などあれば木戸を鎖して往來を絶てり。更に消防につきて云へば、早く幕府に定火消役あり、大名はこれが助役を命ぜられし後に定火消・大名火消・町火消の三種となり、各自治的に消防の事に従ひたり。(一)定火消は十組より成り、城廻り十箇所に役屋敷を設けて組毎に定火消役一人、與力十人、同心三十人を屬せしめ、ガエンと稱する

れは嘉永五年(一八二二)に設けたるものなり。へ、上水及び下水 江戸は下町は所謂汎湖の地を埋立てし所多く、水質よろしからず。爲に早くより上水道の設備を見たり。即ち神田上水を井ノ頭の池より、また玉川上水を遠く多摩川より引けり。神田上水は、天正十八年(一五九〇)家康入國の時その命によりて、大久保主水の布設せしものにして、即ち北多摩郡武蔵野町吉祥寺井ノ頭の池より流出するものを本流とし、杉並區井草の善福寺の池より流出するものを合せ、關口に至りて二派に分れ、一は江戸川となり、一は目白臺白堀に入りて上水となれり。その給水範圍は、南は京橋川以北、東は永代橋より大川以西、北は神田川を限り、西は大手町より一橋の外に及び、樋管の延長凡そ三萬六千四百五十二間、全體の約四分の一の給水を行へり。玉川上水は玉川清右衛門兄弟の經營せし所なり。初め三代將軍家光、町奉行神尾元勝に命じて新に上水を經營せしめたるに、その頃、玉川村の清右衛門・庄右衛門兄弟頗る水利に長じ、多摩川の流を引きて上水に充てんと案を立つ。仍て元勝は之を家光に上申し、將に採用せられんとせしが、家光薨じたるため、一時中止せり。然るに四代將軍家綱その遺志を承けて、この計畫を行はしむ。ここに於て清右衛門等承應二年(一六三三)その工を起し、つひに市内に給水するに至れり。この上水は

多摩川の水を引用せるものにて、西多摩郡羽村に於て河水を堰止め、これを分流して四谷の西邊に至り、大木戸の水門より支管を通じて麹町に入る。給水區域は東は江戸城より大手町まで、北は番町・富士見町・飯田町、南は平河町・永田町に及ぶ。而してその本管は四谷傳馬町より南に轉じ、紀ノ國坂を下り、赤坂表町より沼池に出で、虎ノ門より更に分派を起し、南は芝金杉、東は築地・靈岸島、北は京橋川以南、西は内櫻田水樂町以南に及ぶ、樋管の延長は凡そ四萬九千九百五十二間、全體の約四分の三の給水を行へり。尚ほ江戸の上水は飲用者及び配水區域内に居住する者の自營する所にて、武士の居住地域及び商工地域に分れ、各組合を設けて之を經營せり。されど全體に互る修理・普請等は幕府の手にてこれをなし、十箇年或は八箇年毎に清算して工費を全員より徴集せしが天明二年(一七四二)以來は、定請負人を設きて一箇年の金高を豫定し、武士方は領地の石高に、商工方は小間に割合ひてこれを徴集と稱してこれを納め、幕府も亦組合の一員にして、大名・旗本以下市民等は小組合を設けしものなり。次に江戸の下水は如何といふに、その普請・修理は幕府の負擔せしは勿論なるが、そのほかに武士の居住區域はそれらの武士が、商工地域にありてはその居住者たる商工業者が、

トキヨ 東京市 沿革 (一) 江戸時代

大なり小なり、いづれもこれを負擔せしものなり。即ち上水道と同様、一人持あり組合持あり、組合持にありては、頭取年番を定めてこれが事務執行の責に當り、武士は大名以下石高に、商工業者は小間に應じて各その經費を徴せしものとす。

〔交通〕イ、市内の交通 江戸は武蔵國豐島郡の南部、丘陵の一端に城郭が築かれ、この城郭の周圍に、螺旋形に三重の城濠を設け、以て外部と截然たる區劃を立てたり。これらの城濠は主要道路に於てのみ出入口即ち城門を有し以て外部と交通せり。日本橋を起點とする五街道、即ち東海道(品川口)・東山道(神田口)・甲州街道(田安口)・水戸街道(淺草口)・日光街道(神田口)〔單に五街道といふ時は東海道・東山道・北陸道・奥州街道・日光街道を普通とす〕に通ずる道路の外は概して道幅狹隘にして且つ屈曲多し。これ一つは軍事的必要なるべけれども、又一つには山ノ手は丘陵起伏多くして直線を通じ難く、下町は汎湖の地にして漸次築立を行ひしため、統一ある計畫を樹つること能はざりしためならん。明暦の大火(一六五七)の後は道路の幅員を増大せり。例へば日本橋通りは田舎間十間・本通りは京間七間、その他主要なる道路は京間五間又は六間といふことに更改せられ(從來の幅員は分明ならざれども、海道幅員三間、三間半乃至五間といへ

消防夫を置きたるが、大火に際しては若年寄總指揮を採れり。(二)大名火消は寛永六年(一六二九)十數家に命じ、一萬石に三十人の割にて人数を出さしめ、やがて四隊に分ちしが、享保四年(一七三九)に駆付制の定めが出来、屋敷廻り三、四町内の出火には諸大名何れも人数を出して消防に従事せしむることとせり。また(三)旗本にも組合飛火消の設けあり、これは享保九年(一七三四)には六十三組あり。されど江戸が誇るべき消防組織は何といふも、(四)町火消とす。町火消は享保年中に整備し、元文三年(一七三九)に改正せるものにて、その組織は河西いろは四十八組(内へ・ひ・らの三組には百千萬の字を用ふ)を八組に大別し、河東即ち本所・深川には一三三等十六組を三組に大別せり。而してこれら人足の合計は一萬三百五十九人の多きに上り、高の者と稱し、平日は土木工事の手傳ひに従ひ、火災に際し轉じて消防夫となりしものなり。また各組には頭取あり、その下に各小組ありて、これに頭あり、その下にまた繩持・梯子持・平人足ありていづれもその分擔を定む。尚ほ繩持は各組の旗幟ありて、これを重んずること宛も軍旗の如きものなり。この外(五)町内火消といふものあり、これは一町内に於ける自衛的消防組織にて唐人足を以て當つ。唐人足といふは、各町各戸の家族及び雇傭の壯者を以てし素人消防夫の謂にこ



商工業地域か、然らずとするも幕府又は幕府に仕ふる重要な任務を有する大名の邸宅か或は倉庫地域とせり。これら運河は交通上頗る重要な意味を有せり。口、外部との交通 徳川氏は關ヶ原役の後、天下の實權を掌握するや、奈良屋市右衛門・榊屋三四郎の二人をして驛路の事を掌らしめ、公用の傳馬・駄馬等皆、この二人の發行する朱印を以てこれを出さしめ、また五街道の制を設けてそれぞれ宿驛を置き、慶長九年(二二六四)には諸國の道路を修築して幅五間となし、日本橋を中心として三十六町毎に五間四方の塚を築き、これを一里塚と稱し、以て路程を明瞭ならしめたり。同十六年には傳馬の令を出して駄賃・人夫賃を定め、十九年には五味彦九郎を御宿奉行として道路の取締に任じ、元和三年(二二七七)には東海道路次の木賃を定め、寛永十年(二二九三)には傳馬・繼脚の制を定め、更に萬治二年(二二九九)には大目付高木守久を道中奉行に擧用し、爾來大目付又は勘定奉行をして必ずこの職を兼ねしめ以て交通の便を圖らしめたり。元禄年間(二三五五頃)に至り繼脚脚給米及び問屋給米、地子免除の外に助郷・加助郷の制を設けて、五街道の沿道一、二里の諸村に賦役を課し、五、六里の諸村をして之を助けしめ、以て宿驛の傳馬人夫に助役せしむる等、驛傳の保護に力を盡し、延いて明治に至れり。されど幕府の交通運

輸に對する盡力は多く人馬の方面に限られ、自然の險要に對しては力を用ふるに甚だ少かりき。思ふに、百萬の人口を有する江戸の都市としての生活に關する交通運輸問題は、陸路よりも寧ろ水路にありしが如し。江戸の市民は陸路に依りて周囲と交通すれども、その消費に對する供給の大部分は之を漕運に俟てり。江戸の水路に依る交通は、河水と海上との二路に分つことを得。海上の交通に就きては、江戸と西南諸國との漕運は、元和頃(二二八〇頃)既に相通じ、阻滯の患なかりしものなるが、奥羽二州との海運は未だ開けずして、この地方の米穀を江戸に輸送すること能はざりしが、寛文十年(二二三〇)、河村瑞賢この航路を開くに至りて、東北地方の生産を以て江戸市民の需要に充つことを得たり。而して江戸・大坂間にありては海上の往來頗る頻繁となり、菱垣廻船は元禄五年より、楳廻船は享保十五年(二二九〇)より共に行はれ、その盛時に於ては前者は一年に千五百七十艘を江戸に入津せしめ、後者は百五十艘を所有し、幕末に至るまで、江戸の消費に對し物資を供給したり。次に河川の交通に就きて云へば、關東八州には利根・渡良瀬・人間・荒川の四大川がその中を流れ主要なる交通路を成す。この交通路を利用して八州の荷物は江戸に運送せられたるなり。さればこれら四大川に對しては、幕府は屢々開鑿・浚渫を

行ひ、堤防を築く等、多大の費用を投じて、これを保護し、水害を除き、新田を開きてひたすら功利の増大を圖るに努めたり。更に交通運輸機關につき一言すれば、江戸の交通は輿・駕籠・馬・大八車・牛馬及び馬車等なりき。輿は駕籠の原始的なるものにして漸次衰へたり。駕籠は身分・男女によりてその製作にそれぞれ規定あり。市民一般の使用は最初は禁止せられしも後漸次禁令は弛み、享保十一年(二三八六)に至り登記を撤廢し、從來江戸市中三百挺に限りし辻駕籠の規定を廢し、市民の主要なる交通機關として幕末に至る。馬は最初の間は主要なる機關にして、馬喰町に馬市立れ、その法規までも設けられしが、明暦元年(二三三〇)一五) 備馬の市中の主要なる部分に於ける乗用を禁ずるに至り漸次衰替せり。大八車は明暦大火後の發明なりといはるるが、寛文頃(二二三二五)にはその積載量に制限を加へ、これを登記せしむることとせしめ問もなくその課税を廢せり。牛車は寛永四年(二二六六)に多敷引續きこれを牽引することを禁じ、積載量に制限を加へたり。また馬車は以上の諸機關とは遙に遅く、慶應二年(二二二六)に至り始めて使用せられたり。然も交通機關としてにあらざりて、運輸機關としてのみ許可せられたり。更に船隻を見

に、運河並に河川に使用せしものは現在のそれと大差なかりしが海上のものは、當初に於ては、或は八十噸、或は百二十噸等の西洋型も造られ、和船にも長き二十間、乗員三百九十人の大船を浮べるといふ有様なりしが、寛永十三年(二二九六)外國渡航を禁止して以來、五百石以上の建造を禁止するに至り、構造に於ては頗る衰退するに至り、海運上の一つの異變を見たり。

III

一 沿革 (明治以後)

「東京の誕生」 明治維新と共に幕府は倒壊し、江戸繁榮の母體たりし三百諸侯はその封土に去り、市民も亦社會の不安と混亂とに脅え逃亡する者相踵ぎ、その結果は人口の半減を來せしのみならず、その社會的機能殆んど停止し、加ふるに維新政府の命令未だ徹底せず、さしにも殷盛を誇りし江戸も全く昔日の面影を失ふに至れり。されど維新の大業いよいよ成るに及び、三百年の長きに互る幕政は終りを告げ、王政再び舊に復し、ここに明治元年正月二十五日の新政府參與大久保利通が藩都建議(大阪藩都説)となり、同年四月十一日の江戸城明け渡し、五月十一日の江戸府開設、同十九日の江戸鎮臺設置となり、七月十七日には

朕今萬機ヲ親裁シ億兆ヲ統撫ス江戸ハ東國第一ノ大鎮四方輻輳ノ地宜シク視臨以テ其政ヲ視ルヘン因テ自今江戸ヲ稱シテ東京トセン是朕ノ海内

一家東西同視スル所以ナリ矣此意ヲ體セヨ 辰七月

との大詔下り、江戸は東京と改稱され、同時に江戸府廢せられて東京府となり、關東府亦廢せられて鎮將府を置かる。同年十月十三日車駕東京に臨幸あり、この時江戸城は東京城と改稱せられ、十二月一旦京都へ還幸あらせられしも、一方に大木喬任等の東京貧都説盛にして、遂にその翌明治二年三月二十八日車駕再び東京に行幸あらせられ、ここに江戸は新しく帝都として更生す。かくて維新政府の政策着々行はるるに及び、衰勢漸く挽回せられ、新しき建設の諸事業は日と共に進み、ここに都府の特色を全く一新するに至る。爾來東京市は新興日本の首都として、將又泰西文明移入の關門として發達す。

〔關東大震災〕 明治維新以來、營々として築かれたる帝都五十餘年の文化は、大正十二年九月一日午前十一時五十八分關東一帯を襲へる大震災のため、殆ど全滅に等しき打撃を蒙れり。即ち本市の中核地をなす市街は一朝にして、見渡す限り荒廢たる燒野が原と成し、加ふるに主要なる經濟・交通・通信等の諸機關は悉く停止し、全市を覆ふ不安と混亂とは一時帝都の前途をして全く暗澹たらしむ。今その被害の跡を回顧するに燒失區域は牛込を除く十四區に互り、面積約三千四百六十萬平方米、全市面積七千七百四十八萬

トキョー 東京市 沿革 (明治以後)

平方米に對し實に四割三分五厘に當り、燒失建物數は二十一萬九千棟、その延面積百二萬千平方米にして、震災前市内總面積の六割一分に相當し、燒失戸數三十六萬六千戸、この罹災人口は百四十八萬四千人にて總人口の五割九分を達し、損害額概算三十七億圓と稱せらる。その如何に戦慄すべき數字なるかを見るべし。此の未曾有の大禍難に遭遇せる市民は戰々兢兢と殆ど適從する所を知らず。斯る秋に際し、當時攝政に在はせし、今上陛下には早くも九月三日、山本内閣總理大臣を赤坂離宮に召され、優渥なる御沙汰を賜はり、超えて十二日畏くも帝都復興に關する詔書を頒發せられ、東京は一朝不慮ノ災害ニ罹リテ今ヤ其ノ舊形ヲ留メテ依然トシテ我國都タルノ地位ヲ失ハス是ヲ以テ其ノ善後策ハ獨リ舊態ヲ回復スルニ止マラス進ンテ將來ノ發展ヲ圖リ以テ巷衢ハ面目ヲ新ニセサルヘカラス

と宣はせ、以て民心の歸趨を一にし、併せて帝都復興の根基を示し給ふ。一方慘報各地に傳はるや、全國の同胞は之を國難として一致帝都救援の爲に起ち、世界各國亦深甚なる同情を寄すと共に、競ひて救援物資を送り、政府も優渥なる聖旨を奉體して、國都百年の理想を基礎とせる復興計畫を樹立し、俱に帝都再建の大事業に着手す。爾來日夜携む事なき朝野一致の努力は、年を経ること僅に七星霜

に於て、世界に未だ類なしとまで稱せられたる此の大事業を見事に完成せり。昭和五年三月二十四日、畏くも 聖上陛下には復興帝都を御巡幸遊ばされ、親しく帝都の再興を見せ給ひ、越えて二十六日には復興完成の式典に臨御あらせられ、

IV

々各村飛地、巢鴨村・高田村の各一部、下駒込村の大部、日暮里村の飛地、谷中村の全部、金杉村・三輪村の各一部、下谷龍泉寺町・龍泉寺村の各全部、千束村の一部、坂本村の大部、地方山谷町・地方今戸町の各全部、地方橋場町の大部、南葛飾須賀崎村の大部、本所出村の飛地、押上村・小梅村の大部、請地村の一部、中ノ郷村の大部、柳島村の一部、龜戸村・深川本村の各飛地、六間堀出村の一部、猿江村・大島村の飛地その他毛利新田・海邊新田・八右衛門新田・永代新田・千田新田・石小田新田・平井新田・久左衛門新田等の各一部を市域に編入し、之に反し、從來東京に屬せし芝區白金猿町の各一部、麻布區麻布廣尾町及び澁谷上廣尾町の各一部、澁谷下廣尾町・澁谷廣尾町・澁谷神原町・赤坂區青山南町七丁目・同青山北町七丁目・澁谷宮益町・下谷區下谷通新町・三輪町の飛地、小石川巢鴨町一・同二・同三・同四丁目の各全部、小石川區大塚辻町・高田老松町・高田豊川町及び雜司谷の各飛地、本所區龜戸町・本所區瓦町・本所區五ノ橋町の各全部、本所區松代町四丁目・深川區深川上・下大島町の各一部等は、市域を離脱しそれぞれ郡部へ編入せられたり。翌廿三年に至り、更に前記廢置分合中に追加更正行はれし結果、南葛飾郡龜戸村の一部、深川田村・毛利新田・大島村の各飛地が市域編入を見るに至れり。明治二十二年の



市制施行以後、大東京實現に至るまでの市域の擴張は、大正九年の豊多摩郡内藤新宿町の四谷區編入と、明治二十四年より始まる埋立地編入とに止る。豊多摩郡内藤新宿町の四谷區編入は、明治二十二年並に翌二十三年に行はれし行政區劃の變動と全く其趣を異にし、監督官廳の自發的處分にはなく、自治體たる市及び町の相互間に於て直接交渉の結果行はれたるものにして、其面積は三三五、一六三坪なり。この内藤新宿町編入以外に、隅田川口改良並に市内枝川改修工事に伴ふ海面埋立により生じたる所屬未定地にて市域に編入されたるものあり。其の面積は明治二十四年より昭和七年まで實に一、二八六、二五四坪に達す。市制施行後以上のほか市域の變遷は絶えざりしも東京市内外の發展膨脹は停止するところを知らず、市域擴張の必要は漸く輿論となれり。

- 大森區 大森町・馬込町・池上町・東調布町・入新井町
蒲田區 蒲田町・矢口町・六郷町・羽田町
世田谷區 世田谷町・松澤町・玉川村・駒澤町
澁谷區 澁谷町・代々木町・千駄ヶ谷町
淀橋區 淀橋町・戸塚町・落合町・大久保町
中野區 中野町・野方町
杉並區 杉並町・和田堀町・井荻町・高井戸町
豊島區 巣鴨町・長崎町・高田町・西巣鴨町
荒川區 南千住町・三河島町・尾久町・日暮里町
王子區 王子町・岩淵町
板橋區 板橋町・志村・中新井村・上板橋町・練馬町・上練馬村・赤塚村・石神井村・大泉村
足立區 千住町・伊興村・江北村・舎人村・梅島町・綾瀬村・花畑村・淵江村・東淵江村・西新井町
向島區 善福町・隅田町・寺島町
城東區 龜戸町・大島町・砂町
葛飾區 金町・水元村・新宿町・奥戸町・本田町・龜青町・南

江戶川區 松江町・小岩町・葛西村・瑞江村・鹿本村・篠崎村・小松川町
【飛鳥山】王子區南部にある小丘。瀧ノ川を隔てて王子神社に對す。名稱は中世領主豊島氏の飛鳥祠を置きしより起り、其祠は寛永十年王子神社の境内に移さるといふ。江戸時代より櫻の名所として名高く、明治六年公園となる。西北に傾斜すれども丘上より東面すれば眺望頗る廣闊、花時は雜香を極む。園内には佐久間象山の「櫻賦」碑、勸業家船津傳次平の石碑等あり。北側には省線東北本線及び王子電車の王子驛、また南側には東京市電の飛鳥山停留場あり。面積約四五三、一〇〇、〇〇〇坪と云ふ。
【淺草】名高き淺草觀音(金龍山淺草寺)を中心として發達せる東京市第一の民衆的娛樂の盛場。銀座のやや取り澄したる感あるに對し、淺草は誰にも親み易く大衆的といふ點にその特長を置く。淺草寺の門前町として鎌倉時代早くも相當の賑を呈せるものの如く、江戸時代に入り觀音の信仰流行し參詣者群をなすに至り、大いに發達し、それに吉原を日本橋より此處の田圃に移され、又天保の改革以後、本

挽町・塚町・荏原町にありし芝居は猿若町に移轉鼎立し、それ等は相俟ちて娛樂の中心地區として繁榮し、謂ゆる奥山氣分を醸成するに至る。明治に入りて觀音堂を中心とする周圍は公園となり益々盛大に向ひ、雷門より仁王門に至る間を伸見せし晝夜の別なく參詣人雜沓し、兩側は土産物・玩具店軒を並ぶ。奥山の地は六區と共に一大興業區を形成し映畫館・劇場・客席多く、何れも朝十時頃より開場す。江戸時代には神事舞太夫の田村八太夫、獨樂劇しの松井瀧水、居合拔きの長井兵助、講釋師の深井志道軒、楊枝店の柳やおふぢ、水茶屋の稻屋お六、紅助、伊賀感兄弟などが人氣の中心をなし、淺草の發展に貢獻せしものと傳ふ。
(淺草寺は佛閣の項を参照) (淺草公園) 淺草觀音堂を中心として、その附近面積約二一〇、〇〇〇坪を占む。雷門より露店の櫛比する參道を進めば仁王門に達す。門に接して向つて右方に迷子しらせ石標及び久米平内の堂立つ。これより右方に折れ觀音の彌佛附近を進み、小丘に上れば辨天の祠あり、その傍に存する鐘樓に元祿五年の銘を有する有名な鐘あり。仁王門に入りて北進すれば數多の公孫樹(指定天然記念物)に取まかれて本堂ありこれに向ひて右方に五重塔婆及び經藏あり、その後方に淺草神社あり。本堂の東北隅に近きあたりに九代目團十郎の「櫻」の扮装をせる銅像あり。また山東京傳の

書案の碑立つ、その表面に赤京山の筆にたる京傳の歌を刻し、裏面に太田南畝の撰に成る京傳の傳記を刻す。本堂の背後に林泉あり、西方に西佛の板碑及び六地藏の石燈籠立つ。これより西方六區と稱する部分に入れば劇場・映畫館等多く、市内娛樂場として隨一なり。本堂の西南方に傳法院あり、その泉池頗る風致に富む。
【愛宕山】芝區愛宕町にある丘。市内名所の一。いま愛宕公園といふ。高さ二六米の小丘に過ぎざるも平地に峙つを以て眺望に富む。頂上に愛宕神社あり。社前の急坂表坂(一に男坂)の石段は曲垣平九郎の騎乗登山せるを以て名高し。
【上野】下谷區の地名。凡そ上野公園を中心とする臺地一帯の稱。内に不忍池を含む。東京驛が關西方面に對する東京の表支關たるに對し、東北・信越方面に對する裏支關たる位置を占むる上野驛の所在地。上野は一に忍ヶ岡とも云ひ、低地なる下谷に對して上野といふに至りしものか。廣小路より上野公園へ夜のそぞろ歩きも面白く、ここには百五十餘の露店が大通りの兩側に出て繁華なる商店街に一段と景氣を添ふ。また春より秋にかけて不忍池畔の散歩は詩趣に富み、山上の西郷銅像の邊よりは東京の夜景を一時に收め得らる。(上野公園・上野驛参照)
【霞ヶ關】麹町區南部の地域。日比谷の

西に接し、土地西方に隆起して永田町に連る。霞ヶ關一帯には官衙立ち並びて官廳街と呼ばれ我國政治の中心地をなす。即ち外務省を初め内務省・警視廳・大藏省・文部省・特許局等並ぶ。これと道一つ隔てて拓務省・司法省・大審院・控訴院・裁判所・海軍省あり。外務省の西方臺地永田町には白聖の新帝國議事堂兼えまた首相官邸を初め各大臣官邸、各國の大・公使館多く、議事堂に續く三宅坂方面には陸軍省・參謀本部あり。
【銀座】東京の一大盛場。京橋區の目抜きにして、銀座通は帝都に於て最も繁華なる街をなし、高級流行品・化粧品・舶來品販賣の商店多く、松屋・三越・松坂屋・伊東屋等の大百貨店、著名なる大商店軒を並べ、飾窓華やかに、街衢も清潔快適にして散歩によく、晝夜をおかず往來する人々の流れは絶えず、日本の流行は一に此街より出發すと云ふも過言ならず。また表通・横丁には大小のカフェー・喫茶店等揃ひしてネオンサイン眩く、新橋附近には教坊に絃歌さざめき、一大歡樂境を成し、夕方より鋪道に連る夜店、「昔戀しい銀座の柳」と俗語にうたはれし柳の並木も銀座の情緒をつくる。名稱は慶長十七年駿府の銀座を移せるに起り、明治五年京濱間の鐵道開通後、新橋驛に近き銀座は洋館と煉瓦の鋪道を以て帝都の表支關たるの威容を備へ明治文化發祥の地となり、大正大震災を受けて復興の

後には舊に倍する美觀を呈し、發展に次ぐ發展を以て今日の繁華街となれるもの。
【小石川植物園】小石川區白山御殿町にあり。昔は白山御殿と稱せられ、館林侯綱吉の下屋敷なり。のち江戸幕府ここに藥園を開き明治初年まで藥學の栽培所たり。現在は東京帝國大學理學部附屬植物園として、面積一六〇、〇〇〇坪(約四萬八千坪)を有し、樹木類七百餘種、草木類千餘種に及び温室には熱帶植物約二千種を培養し、有料にて一般に公開す。
【芝公園】もと三線山増上寺の境内にありしが、明治六年大政官の布告にて初めて上野公園・淺草公園等と共に公園となす。面積約五一八、〇〇〇坪。西の一半は大古墳の丸山にて、自然の風致を保存せし森林公園たり。東の一半は低地にして松林あり。中央に増上寺あり、南に徳川氏靈廟・東照宮・五重塔・丸山古墳等、北に徳川氏靈廟、西に金地院・紅葉山・蓮池等あり。(丸山古墳群)芝公園内徳川二代將軍靈廟の南にあたり、丘陵の上には圓形墳一箇及び圓墳約十箇存す。圓形墳は丘陵の東南の突端に近き所に築營せられ、略ぼ南北に横はり、規模壯大にして中軸の長さ一〇〇米、前方部の高さ六米、後圓部の高さ一〇米を算す。後圓部上に伊能忠敬記念碑あり。周圍の土中より埴輪破片發見せらる。圓墳は圓形墳の西方及び北方に散在し、直徑二〇米を超えず。曾て學術的發掘を経て内部より、

武土器・直刀・鉞身・小刀子・鐵鏟・骨製鐵・勾玉・管玉等の玉類及び金環・銅製鏡・馬具金具等の諸遺物、外部よりは埴輪圓筒・土偶等の破片發見せらる。各圓墳上に出土品目を誌したる方形の石材置かる。
【新橋】新橋は元來、京橋區と芝區との間の汐留川に架せる橋の名にして、寛永の頃今の銀座の邊が埋立てられ、日本橋より芝口への大道路が出来、京上りの第一番目の橋を京橋と命名、次を新橋と名づけしものといふ。而して今は川の北岸即ち銀座の南部及び南岸の島森を含む地を汎稱して新橋といふ。古くより待合・茶屋などあり、安政の頃より藝者屋軒を連ね、日本橋に於ける柳橋と共に新橋二橋と稱はれ東京の二大藝者街として今も橋名を博す。また彼の「汽笛一聲新橋を」は現在の汐留驛なりといふ。
【新宿】四谷區角管。中央の銀座に次ぐ盛場にして、一に山手銀座などと呼ばれるも實際はこれを凌駕する賑ひを呈し、省線新宿驛は我國の鐵道中、省線・社線を通じて昇降客第一(昭和十二年に於ける全年乗降者數三〇、四一九、二一九人に達し、一日乗降者數一六七、〇三三人に及ぶ日もあり)を示す事實がこれを雄辯に物語る。日本橋・丸ノ内・銀座一帯を第一の都心とせば、新宿一帯は西郊へ大膨脹せし大東京の殆んど中央に位し、



第二の都心と見るべきものにして、省線の中央線・山手線、それに小田原急行鐵道・京王電鐵・西武電鐵・市電・バス等がこの新宿に集り、百貨店・大商店・映画館・劇場・カフェー・バーが續々と建てられ、盛場としての今後の發展は大いに期待せらる。この地も昔は甲州街道と青梅街道の分岐點たる一宿場に過ぎず、元祿十一年新驛を立て内藤氏の邸ありしに因み内藤新驛と名づけしものと云ふ。大正の震災後地理的状況に恵まれたため急激に發展して今日に及び、なほ今後一層の發展を期待する。

【隅田川】隅田川は江戸時代時客の間に之を漕水と稱し、都心より一日行程より行樂地にして、今も春は向島の櫻、夏は兩國の川開きに打上ぐる花火に往時の名残を留め、春秋二回のボートレースは東京名物の一に數へらる。川口に架せる相生橋・永代橋・清洲橋・兩國橋・藏前橋・辰橋・駒形橋・吾妻橋・言問橋・白鬚橋の十大橋はそれぞれ特色ある様式を備へ、之に新大橋及び千住大橋を加へ共に帝都の近代都市美を代表し、隅田川を巡航する汽船を利用してこれら諸橋見物も亦一興なるべし。川堤を利用せる隅田公園は、ロンドンのテームス、パリのセームに比すべきリヴァーサイドパークとして好箇の散策地なり。

【日本橋】日本橋區日本橋にあり。お江戸日本橋とうたはれし此の有名なる橋は

市内の繁華街日本橋通りにあり、慶長八年の創建と傳ふ。往時この橋が國內里程の元標と定めらる。現在の橋は明治四十四年の建設にして、今も橋の中央に東京市の道路元標を建てし。

【日比谷】麩町區の地名。北は丸の内、東は銀座、西は霞ヶ關に連る。日比谷公園を中心とし、東京市日谷公會堂・日本勸業銀行・帝國ホテル・東京寶塚劇場・有樂座等を初めとし大建築群立し、今や全く第二の丸の内なり。日比谷公園は東京市大小八十八公園中最も位置的に恵まれたる第一流の公園にして、面積の一六五〇アールは上野・芝・井ノ頭及び隅田の諸公園に比して遜色あるも、公園としての利用價值は第一位を占め一日の入園者十萬人を超ゆること少からず。この地は江戸時代には毛利・南部・鍋島等の諸大名の屋敷なりしが、明治の世となり日比谷ヶ原といはるる兵衛の練兵場となり、明治天皇の觀兵式行はる。明治三十四年東京市は陸軍省よりこの地を讓受け石黒忠憲氏を委員長とし、本多静六氏その他の設計により近代的趣味の公園を營み、明治三十六年に至りて工を竣ふ。公園は全く西洋式の設計にして、園内に大小の池・音樂堂・花壇・グラウンド・兒童遊園等あり、四季いづれにもよき散策地たり。園内に市の公會堂及び日比谷圖書館等あり。

【丸の内】麩町區のうち東京驛を中心とする附近一帯をいふ。東京のビジネスセンターにして、鐵道省・東京鐵道局・中央郵便局・東京府廳・東京市役所等の官衙と、丸ビル・海上ビル・郵船ビル・三菱銀行・第一銀行・臺灣銀行・正金銀行・興業銀行・昭和ビル・明治生命・工業クラブ・商工會議所・東京會館・帝國劇場・丸の内會館・有樂館等の諸建築群立し、その近代都市景観は道一つ隔てて全く古典的なる宮城風景と美しき調和を保ち、そこに新しき都會美を創り出し、謂はゆる東京の顔と稱せらるる丸の内風景を展開す。朝夕のラッシュアワーは頗る雑沓を極むるも、日中は比較的往來緩慢にして清楚なる雰圍氣を湛へ、夜は全く閑寂境と化す。

本來は御輪曲内とも稱し、宮城の東面をなす外郭にて、以前は今より遙に廣く、今の大手町・日比谷等をも含みしが、現在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、地域的には狭くなれり。この地はもと大名及び幕府御用部屋出仕の譜代の藩邸多く、明治維新以後は、凡て官地となり、官衙が設けられ、一部は練兵場となり、陸軍關係の官衙が他へ移轉するに及び、雜草生ひ茂れる、謂はゆる三菱ヶ原となりしが、位置が帝都の中心、皇城の直前なるために漸次發展を加へ、特に大正三年東京驛の營業開始と共に急激に發展せるものなり。

所屬に至る街路橋を日本橋側が武藏國、本所側がもと下總國なりしために兩國橋と名づけ、これより轉じて橋の兩側を兩國と汎稱す。橋の東即ち本所區東兩國に國技館あり、この地は舊幕時代より相撲場にして現在の建物は大正八年工費百五十萬圓を以て竣工せるもの。直徑約二〇米、高さ約四〇米の圓形大鐵索は市内の小高き所ならば何處よりも見え、優に一萬六千人の觀衆を容納し、一月と五月兩場所以外に季節によりて納涼會・菊花大會が催さる。また有名なる兩國川開きは享保十八年八代將軍吉宗の時五月廿八日に隅田川にて水神祭を行ひしがその初めとされ、明治六年以後六月二十八日に改められ、更に四十五年以後七月の第三土曜日に改めらる。現在にては川開きと云へば花火の打揚を意味し、午後三時より九時頃までに打揚花火五百本、仕掛花火二十五組餘を點火し、觀衆は陸上・水上を合して數十萬人を算し、夏の年中行事の豪華版たり。

【淺草公園ノ公孫樹】指定天然記念物。淺草區淺草公園第一區五重塔と經藏との間にあり。源頼朝の挿せし箸より生長せりと傳へ、一株の雌株にして目通幹圍約六米、推定樹齡七百年、乳柱多し。※淺草(名所)

【淺野長矩墓及赤穂義士墓】指定史蹟。

一三 指定史蹟・名勝・天然記念物

芝區東町の泉岳寺にあり。この寺は淺野家の菩提寺にして、四十七士の墓は石玉垣を廻せる中に並び、その奥に長矩の墓あり。※泉岳寺(佛閣)

【荒川堤の櫻】指定名勝。荒川左岸の堤防中舊江北村、即ち今の足立區の南部にある一帯の並木にて江北櫻といふ。明治十九年の植栽になり、樹種は早櫻を主とし、これに染井・吉野を交へ、種植品種は約七十種を算し、中に珍奇なるもの多し。荒川の改修工事のため舊堤防の或部分は櫻並木と共に取拂はれ、現今の櫻並木は新堤防のために斷たれし處あれど、並木の南部は沼田に起り北端は埼玉縣境の鹿濱に達し延長約三軒半。

【安藤稻荷址ノ公孫樹】指定天然記念物。小石川區大塚町、東方文化學院の前にあり。一株の雌株にして、根元の周圍約九・七六米、目通幹圍五・三米、枝下約三・六米、西方の枝張約一〇米、樹高二七米。

【上野恩賜公園二本杉原ノ樺】指定天然記念物。下谷區上野公園の東京府美術館南面の階段と運動場との間にあり。根元の周圍約八・六米、目通幹圍約四・九五米。枝張は北方に最も長く、約一〇・一五米。地方的巨樹として有數のもの。※上野(名所)

【榮松院ノ樺】指定天然記念物。本郷區駒込蓬萊町榮松院境内の北部にあり。幹根境界部の周圍約九・四米、それより六〇

根上の幹圍約八・五米、幹は地上三米の處にて六本の太枝に分る。樹高約一九・七米、枝張は南方約一二米なり。推定樹齡六百五十年。

【延命寺の樺】指定天然記念物。境内南側にあり。幹の下部約六米の間に瘤多きため瘤癭の名あり。樹高約一八米。根元の周圍約一四米、目通幹圍約一〇米。主幹は根元より約六米の高處まで太く、上方は扁平となり、更に急に細くなりて二本の上直支幹を出す。幹の基部北側よりは板狀根多く出づ。古來大木として著名なり。

【大塚先儒墓所】指定史蹟。大塚坂下町にありて護國寺に接す。一に儒者捨場と稱せらる。室鳩巢を葬りしを以てその初めとし、のち樂野栗山・尾藤二州・岡田寒泉・古賀精里・古賀洞庵・古賀茶溪等相次いで葬られ、また池上より木下順庵の墓をも此處に移す。

【海軍大學校正門前ノ樺】指定天然記念物。芝區白金臺町二丁目海軍大學正門前の小丘上にあり。二株ありて、一は根元の周圍約五・五米、目通幹圍約三・一五米、一は根元の周圍六・四五米、目通幹圍約三・四二米とす。地方的巨樹として有數のものなり。

【賀茂直淵墓】指定史蹟。品川區北品川にあり。直淵は遠江濱松の人、荷田春滿に學び、國學者四大人の一に數へられ、明和六年歿す。維新後從三位を贈らる。

【泉子母神ノ公孫樹】指定天然記念物。豊島區練馬ヶ谷の法明寺、泉子母神の境内にあり。根元の周圍約一四・五米、目通幹圍七米、樹高約二九米、推定樹齡六百年。地方的巨樹として有數のものなり。一に子育公孫樹とも呼ばる。應永の頃に日宥僧正の植ゑしものと傳ふ。※法明寺(佛閣)

【龜甲山古墳】指定史蹟。大森區田園調布にあり。多摩川に浴びたる丘陵上に築かれし前方後圓墳にして北面し、全長一〇〇米あり。

【舊芝蔭宮址】指定史蹟。芝區濱松町にあり。元祿年間老中大久保忠朝の經營せるものにして江戸時代の代表的名園たり。明治九年離宮となる。大正十三年攝政宮殿下御成婚記念として東京市に御下賜、いま舊芝蔭宮恩賜庭園と稱す。

【光圓寺ノ公孫樹】指定天然記念物。小石川區久堅町光圓寺本堂の南にあり。目通幹圍約八米、高さ約二六米、推定樹齡七百年、雌性公孫樹にして、一の枝に雌花を生じ結實するものにして性の變異を起せる點は學術上有益なるものなり。僧行基の手植と傳へ、乳の出ぬ女はこの木の乳の皮を削りて吞めば效ありと。

【小石川後樂園】指定史蹟・名勝。小石川區小石川町にあり。水戸藩主、徳川頼房・光圀父子が徳大寺左兵衛に命じて造營せしめしものにして、築山泉水庭に屬し、江戸庭或は大名庭の稱ある型體の名



番砲臺までのうち第三番は適當なる復舊工事を加へられ、豪塲公園と稱し、市内唯一の海上公園として公開せらる。 ※御臺場

【芝東照宮ノ公孫樹】指定天然記念物。芝區の東照宮境内、社殿の北、社務所の前にあり、徳川家光の手植と稱せらるる雄株にして、目通幹圍六米、推定樹齡三百年、家光の手植と稱するもの附近に尙ほ一株ありしが大正六年の暴風に倒れ、いま葉これより發生す。

【志村一里塚】指定史蹟。板橋區志村町にあり。慶長九年の定に依り日本橋より三里の地點に築きしものにして、中山道の一里塚なり、道路の兩側東西にありて塚上に榎樹を植う。西側のものは大正九年枯損伐採せり。

【善福寺ノ公孫樹】指定天然記念物。麻布區山元町にあり。周圍に鐵柵を繞らし、觀音聖人御杖銀杏樹と刻せる石碑立つ。親鸞上人の地に挿せし杖の生長したるものと傳へ、杖公孫樹または逆公孫樹の名あり。推定樹齡七百五十年、地上一・五米の幹圍約九・四米、幹の上部は枯損せり、樹高約一九・七米ありといひ、乳柱多し。

【高輪大木戸址】指定史蹟。芝區車町にあり。寶永七年江戸東海道口に營造せられ木戸を設けて出入を警備せし址。また享保年中伊能忠敬の全國測量の基點となる。道路の東側の石礎今に存す。

【深澤墓】指定史蹟。品川區北品川東海寺境内にあり。禪僧深庵和尚の墓にして方形の石を疊み、その上に謂はゆる深庵石の大なるものを置く。その境内には碑石・經塔・拜石及び石燈籠二基を存す。 ※東海寺(佛閣)

【東京美術學校門内ノ樵】指定天然記念物。下谷區上野公園、東京美術學校西校舎(本校舎)支那館の廣場にあり。幹は上方折れ、基部より數枝に分る。根元の周圍約九米半、地上一米半の幹圍約五・一三米、枝張東南西南の三方各一〇米。地方的巨樹として有数のものなり。

【常盤橋門址】指定史蹟。麹町區鐵瓶町より日本橋區常盤町に亘る。江戸城大手門筋の外郭正門なり。門は明治維新後取壊され石疊のみ現存するも、舊規見るべきものあり。外部に架せられし常盤橋は明治十年洋式石橋に改造せらる。

【西ヶ原一里塚】指定史蹟。澁野川區西ヶ原町にあり。東西の二塚あり。いまだ道路の中央に存し電車線左右兩側を通ず。東塚には榎の老木繁茂し、西塚には二本榎保存之碑と題する記念碑あり。

【林氏墓地】指定史蹟。牛込區市ヶ谷山伏町にあり。林羅山・同春齋・同風閣・同述齋等の墓並び立つ。林氏は羅山以來世々大學頭となり、江戸幕府の文教を司れり。

【堀切小高園】指定名勝。葛飾區堀切町にあり。開闢の年代不詳なるも天保に至り著名となる。栽植の品種は當時花菖蒲の愛宕家松平左金吾の園に出づといひ、よく古來の品種を傳ふと。造園頗る妙にして、近く花園を觀、遠く郊野を望みて景緻佳なり。江戸時代最初の花菖蒲園として著聞す。

【松平定信墓】指定史蹟。深川區靈岸町靈岸寺境内にあり。墓石に故白河城主樂翁公之墓と刻せられ、昭和四年の修築に係る。また夫人松平氏、藩祖定綱、同夫人等同一墓域にあり。

【向島百花園】指定名勝。向島區寺島町にあり。一に花屋敷と稱す。文化年間佐原菊場の開くところ。園内多數の野草を栽植し、殊に秋の七草の美觀は著聞す。舊趣をよく保ち、開闢當時の家屋の存するものあり。いま江戸時代の花園として堀切の小高園と共に著名なり。

【明治天皇萩窪御小休所】指定史蹟。杉並區萩窪にあり。明治十六年四月十六日及び廿日飯能行幸の際、また同年同月廿三日小金井行幸の際御小休せられたる。【明治天皇行幸所蒲田梅屋敷】指定史蹟。蒲田區蒲田町にあり。明治元年十月十二日東京行幸の際、本陣梅屋敷梅林久三郎宅御小休、同年十二月八日京都還幸の途次、同二年三月廿七日東京再幸の際、同六年三月六日蒲田行幸の際、同十七年三月十九日小向井行幸の際等に御立寄せられたる。

【明治天皇行幸所對馬莊及舊址】指定史蹟。淺草區橋場三丁目にあり。明治六年十二月十九日、三條實美邸(對馬莊)に實美の病氣御慰問に行幸。【明治天皇行幸所寺島邸】指定史蹟。芝區白金臺町にあり。明治十三年六月九日工部省工作分局に行幸の途に臨幸。【明治天皇行幸所徳川邸】指定史蹟。澁谷區千駄ヶ谷町にあり。明治二十年十月卅一日徳川家達邸に行幸。【明治天皇行幸所水戸徳川邸舊址】指定史蹟。本所區小梅町にあり。明治八年四月四日徳川昭武邸に行幸。祖先の功を賞し御製を賜ふ。同十五年十一月二十一日

り著名となる。栽植の品種は當時花菖蒲の愛宕家松平左金吾の園に出づといひ、よく古來の品種を傳ふと。造園頗る妙にして、近く花園を觀、遠く郊野を望みて景緻佳なり。江戸時代最初の花菖蒲園として著聞す。

【松平定信墓】指定史蹟。深川區靈岸町靈岸寺境内にあり。墓石に故白河城主樂翁公之墓と刻せられ、昭和四年の修築に係る。また夫人松平氏、藩祖定綱、同夫人等同一墓域にあり。

【明治天皇行幸所對馬莊及舊址】指定史蹟。淺草區橋場三丁目にあり。明治六年十二月十九日、三條實美邸(對馬莊)に實美の病氣御慰問に行幸。【明治天皇行幸所寺島邸】指定史蹟。芝區白金臺町にあり。明治十三年六月九日工部省工作分局に行幸の途に臨幸。【明治天皇行幸所徳川邸】指定史蹟。澁谷區千駄ヶ谷町にあり。明治二十年十月卅一日徳川家達邸に行幸。【明治天皇行幸所水戸徳川邸舊址】指定史蹟。本所區小梅町にあり。明治八年四月四日徳川昭武邸に行幸。祖先の功を賞し御製を賜ふ。同十五年十一月二十一日

【湯島聖堂】指定史蹟。本郷區湯島二丁目にあり。元祿年中、徳川綱吉、忍ヶ岡よりここに移し孔子を祀りて大成殿と稱す。その後敷度炎上し寛政十一年徳川家齊明制によりて建築せしも大正十二年大震災にて焼失し、僅に入徳門、左右の扉及び水屋を残せしのみなりしが昭和十年悉く舊規によりて再建せらる。

【穴守稻荷】蒲田區羽田穴守町にあり。文政年間鈴木彌五衛門が開墾せし以來この地に稻荷の小社ありしが、明治十八年同家の土蔵に住む狐、病人を癒せしより著名となり参詣者増加す。祈願のため鳥居を獻ずるもの多く、その數一萬有餘に及ぶ。

【鎮戸神社】城東區鎮戸町三丁目に鎮座。府社。主祭神、天滿天神、相殿神、天菩日命。明曆三年九州太宰府天滿宮の神人菅原信祐の勸請に係る。寛文二年徳川家綱より社地を賣けて同三年社殿を營み、その規模太宰府に擬したれば東宰府と稱す。元祿十五年菅公八百年の神忌として寛元上皇宸筆和歌懷紙を賜ふ。延享二年炎上せしも同四年再建せらる。明治元

【芝大神宮】芝區宮本町に鎮座。府社。祭神、天照皇大神、豐受姫命。相殿、源頼朝・徳川家康。一條天皇寛弘二年伊勢大神宮の御分靈を鎮座し奉ると傳ふ。舊稱を飯倉大神宮と稱し、増上寺の鎮守たり。源頼朝執領千三百貫を寄せ當時社運隆盛なりしもその後荒廢し、江戸時代に至りて徳川氏の崇敬を受け舊觀に復す。

【芝大神宮】芝區宮本町に鎮座。府社。祭神、天照皇大神、豐受姫命。相殿、源頼朝・徳川家康。一條天皇寛弘二年伊勢大神宮の御分靈を鎮座し奉ると傳ふ。舊稱を飯倉大神宮と稱し、増上寺の鎮守たり。源頼朝執領千三百貫を寄せ當時社運隆盛なりしもその後荒廢し、江戸時代に至りて徳川氏の崇敬を受け舊觀に復す。

【芝大神宮】芝區宮本町に鎮座。府社。祭神、天照皇大神、豐受姫命。相殿、源頼朝・徳川家康。一條天皇寛弘二年伊勢大神宮の御分靈を鎮座し奉ると傳ふ。舊稱を飯倉大神宮と稱し、増上寺の鎮守たり。源頼朝執領千三百貫を寄せ當時社運隆盛なりしもその後荒廢し、江戸時代に至りて徳川氏の崇敬を受け舊觀に復す。

【芝大神宮】芝區宮本町に鎮座。府社。祭神、天照皇大神、豐受姫命。相殿、源頼朝・徳川家康。一條天皇寛弘二年伊勢大神宮の御分靈を鎮座し奉ると傳ふ。舊稱を飯倉大神宮と稱し、増上寺の鎮守たり。源頼朝執領千三百貫を寄せ當時社運隆盛なりしもその後荒廢し、江戸時代に至りて徳川氏の崇敬を受け舊觀に復す。

【芝大神宮】芝區宮本町に鎮座。府社。祭神、天照皇大神、豐受姫命。相殿、源頼朝・徳川家康。一條天皇寛弘二年伊勢大神宮の御分靈を鎮座し奉ると傳ふ。舊稱を飯倉大神宮と稱し、増上寺の鎮守たり。源頼朝執領千三百貫を寄せ當時社運隆盛なりしもその後荒廢し、江戸時代に至りて徳川氏の崇敬を受け舊觀に復す。

【芝大神宮】芝區宮本町に鎮座。府社。祭神、天照皇大神、豐受姫命。相殿、源頼朝・徳川家康。一條天皇寛弘二年伊勢大神宮の御分靈を鎮座し奉ると傳ふ。舊稱を飯倉大神宮と稱し、増上寺の鎮守たり。源頼朝執領千三百貫を寄せ當時社運隆盛なりしもその後荒廢し、江戸時代に至りて徳川氏の崇敬を受け舊觀に復す。



て、父の死後東國にありて朝敵討滅を圖る。後村上天皇正平十三年鎌倉執權北條時義これを恐れて、義興を矢口渡に於て謀殺せしむ。明治四十二年九月三位を賜ふ。例祭、十月十日。

【根津神社】本郷區根津須賀町に鎮座。府社。祭神、素戔嗚命・大山咋命外三柱。もと駒込千駄木園子坂に鎮座ありしが文明年中太田道灌社殿を再建せりと傳ふ。徳川家宣、境内に己が胞衣塚あるを以て當社を氏神とし、寶永三年千駄木村元根津の地より池の端舊徳川中納言綱豊邸内に移して府内の大社となす。當時朱印地五百石を領し、別當寺二院を有せしも、維新の際廢せらる。明治元年勅祭社に列せらる。本殿・幣殿・拜殿・東門、及び太刀二口（一は銘長光、一は銘備州長船秀光）はいづれも國寶たり。例祭、九月二十一日。

【乃木神社】赤坂區新坂町に鎮座。府社。祭神、乃木希典。配祀、乃木壽子。大正十二年十一月、乃木夫妻の遺徳を欲仰し有志等相議して創建す。社寶中、太刀一口（銘備前國住長船次郎左衛門尉勝光、子次郎兵衛尉治光一期一屢作之佐々木伊豫守、附毛利元雄寄進狀一通）は國寶。例祭、九月十三日。

【八幡神社】牛込區市ヶ谷八幡町に鎮座。市ヶ谷八幡ともいふ。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・比咩大神。文明十一年、太田持登、江戸城鎮守として相模

國爲阿八幡宮を勧請せるに始るといふ。享保年中徳川吉宗深く當社を崇敬し、紀州高野山より別當職を徴して東圓寺と號す。例祭、九月十五日。

【日枝神社】麹町區永田町に鎮座。官幣大社。祭神、大山咋神、外三柱を相殿に祀る。古來日吉山王權現、江戸山王權現、又は山王社とも稱し、文明年中、太田道灌江戸城内に勧請したるに始るといふ。爾來城内の鎮守として郭内北の曲輪、梅林中に鎮座せられしが、天正十八年徳川家康入城後、紅葉山に遷し、更に社地を牛蔵門外に定めて移し、社殿の造營をなしてその規模大いに備はり、三代將軍家光の時より六百石の朱印を寄せられ、府内第一の名社として歴代將軍の尊崇極めて篤く、明暦三年の大火に殿宇烏有に歸するや、直ちにこれを赤坂池の現社地に新造す。いまの社殿即ちこれにして、現に國寶に指定せらる。本社は將軍家の産土神として重きをなし、慶長以來屢々將軍及び世嗣・子女、諸大名の社參秘ゆることなく、毎年正月・六月には必ず使遣はして例幣を奉る。殊に六月の大祭には神輿城内に渡御あり、將軍吹上に出でて親拜し、大手に於て奉幣の儀を行ふを習とす。世に山王祭禮とも、御用祭とも、天下祭とも稱せられ江戸第一の盛儀とせらる。社寶中、明治天皇御寄附に係る御太刀一口（備前長光作を始め、十三口の太刀はいづれも國寶たり。例祭、六月十五日）。

【水川神社】赤坂區水川町に鎮座。府社。祭神、素戔嗚命・大己貴命外二柱。天武天皇初めて神祭を行はせ給ひきと傳ふ。或は云ふ、もと一ツ木村（今の一ツ木、丹後・臺・新坂・新・仲之の各町に分かる）にありしを、享保十五年現地に移すと。また他に二説あれど定説なし。徳川氏朱印地二百石を寄せ、明治二年勅祭社に列せらる。例祭九月十五日。

【深川八幡宮】一に富岡八幡宮といふ。深川區富岡町に鎮座。府社。祭神、天照大神・天兒屋根命外三柱。天平寶字年間右大臣藤原豐成の創むる所にして、源頼政・足利氏累代・太田持登等の尊崇厚かりき。明治元年勅祭社に列せらる。例祭八月十四・十五・十六日。

【明治神宮】澁谷區代々木に鎮座。官幣大社。祭神、明治天皇・昭憲皇太后。大正四年四月神宮奉建の議定り、同年十月地鎮祭を行ひ、六箇年の星霜を閲して同九年十一月竣工、同時に鎮座せらる。その資金は一切國庫より支出す。造營に際し、規模大なりしに拘らず舉國若生の熱烈なる奉仕によりて造營の工事の進捗比類なく速かなりし事は特筆すべく、これ洵に全國民赤誠の結晶に外ならず。明治天皇は不世出の大英主にましまして維新の大業を成就し國威を海外に宣揚し給ひき。その聖徳は傳無く、その御治績は限無し。實に明治の大御代は、赫々たる我

國史上に更に一段の光輝を放てるものなり。天皇神去り給ひてより、月去り年経る毎に國民の御徳追慕の念いや増すばかりにして、その熱情の終にほとばしるところ聖帝の神靈奉祀は國民の輿論となり、大正四年四月神宮奉建の議ここに定れり。これより先、大正三年不幸にして國民は昭憲皇太后の崩御に遭ふ。皇太后は坤德彌高くましまして日夜萬民を慈しませ、明治聖代を内より助け給ひし御勳は、國民の共に欲仰し尊崇し奉るところなり。社殿は本殿・拜殿・樓門等その主なるものとす。その様式は古雅なる流造にして、莊嚴實朴を旨とせらる。御敬地は祭神が屢々行幸啓あらせられし御由緒あり、且つ樹林泉池の幽邃、東京市内稀に見る代々木の御料地を選定せられしものにして社境の總面積約七千三百五

【乃木神社】赤坂區新坂町に鎮座。府社。祭神、乃木希典。配祀、乃木壽子。大正十二年十一月、乃木夫妻の遺徳を欲仰し有志等相議して創建す。社寶中、太刀一口（銘備前國住長船次郎左衛門尉勝光、子次郎兵衛尉治光一期一屢作之佐々木伊豫守、附毛利元雄寄進狀一通）は國寶。例祭、九月十三日。

【八幡神社】牛込區市ヶ谷八幡町に鎮座。市ヶ谷八幡ともいふ。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・比咩大神。文明十一年、太田持登、江戸城鎮守として相模

【湯島神社】本郷區湯島梅町に鎮座。府社。祭神、天之手力雄神・菅原道眞。別稱を湯島天神社といふ。雄略天皇の御代天之手力雄神を祭ると傳へ、菅原道眞は文和四年の勸請に係るといふ。往時は社運大いに振ひしといふも、文久三年の大火に遭ひて舊記を失ひしため今にして詳細を知るに由なし。社頭に梅樹多し。例祭、十月九日。

【淺草別院】淺草區淺草町にあり。眞宗大谷派。信淨山と號し俗に淺草門跡と稱す。天正十九年東本願寺十二世教如、徳川家康より神田西福寺前の地を寄せられ一字を創せしに始る。明暦三年江戸大火に罹り、仍て徳川氏より同年六月現地に寺地を受けて堂宇を再建す。明治年間天皇御臨幸あり。舊末院三十五寺を數へしが現在二十四寺を存す。大正十二年大震災の厄を喫り假本堂のままなりしが近時漸く再建成る。

【海晏寺】品川區南品川五丁目にあり。曹洞宗。補陀落山と號し三田功運寺末。建長三年當地附近の漁網に入りし大鯨の腹中より出でし聖觀音の木造を、北條時頼一字を建てて奉安し建長寺の遺蹟を開山とす。これ當時の草創にして、鯨の死

【同向院】本所區兩國二丁目にあり。淨土宗。國豐山無緣寺と號し芝増上寺末。明暦三年江戸大火（俗に根柢火事）の際の死者十萬八千人を、幕府、増上寺二十三世遊譽貴展に命じて一坑に埋葬して供養せしめ、本所牛島新田に方二町の寺地を與へて一寺を建立せしむ、これ當寺の草創なり。寛治年間半死者茲に刑死者のため三佛堂を新設。安政二年の大震災に死者二萬五千人の精靈を寺内の供養大佛に合葬す。大正十二年の關東大震災に大佛を除き諸堂悉く烏有に歸す。此時の殉難者十餘萬の靈骨をも大佛に合葬す。寛政以後境内に勸進角力を行ひ、爾後漁網として續き、今の國技館の隆盛を見るに至る。墓地には加藤千藤・山東京傳・同京山・鼠小僧次郎吉の墓あり。

【同向院】荒川區南千住五丁目にあり。淨土宗。寛文二年兩國同向院の別寮として建設せられしものにして、小塚原刑場にて刑せられし者及び江戸の大地震にて壓死せし者を供養す。院内に橋本左内・吉田寅次郎・梅田雲濱・佐野竹之助・小田彦三郎・相馬大作等志士、烈士の墓多し。

【海晏寺】品川區南品川五丁目にあり。曹洞宗。補陀落山と號し三田功運寺末。建長三年當地附近の漁網に入りし大鯨の腹中より出でし聖觀音の木造を、北條時頼一字を建てて奉安し建長寺の遺蹟を開山とす。これ當時の草創にして、鯨の死

【四谷・赤坂の兩區間に跨り、神宮内苑に北邊道に依りて連る。總面積約五、〇〇〇アール（十四萬五千餘坪）。大正六年起工し同十五年竣工。その大部分は青山練兵場たりし處にて、明治天皇の葬場殿その北部に造營せられしが、のち明治神宮代々木に鎮座せらるるにあたり、その附近の地を含めてここに外苑造營せらる。苑内に聖徳記念繪畫館・憲法記念館を初め陸上競技場・野球場・相撲場等設けられ、また日本青年館の巨館築ゆ。外苑の經營は實に神徳を慕ひまつる爲の構築にして、林泉を配し、以て聖徳を永へに偲び、大業を無窮に記念し奉る。苑の過半は清緑なる芝生によりて明朗廣潤なる氣分を漲らせ、これに最新の公園的設備を施しあり、神靈を齊きまつり最も神聖なる聖殿莊重の地域たる内苑とは趣を異にすれども、その根本精神に至りては兩者これを同じうするものにして、内苑の森嚴・外苑の雄偉相俟ちて大神域を成す。「聖徳記念繪畫館」明治神宮外苑内にあり。鐵筋コンクリート花崗岩表装、延坪二五アール、近代式の大建築なり。明治天皇・昭憲皇太后の御事蹟を彰せし繪畫を陳列するために建設されしものなり。即ち御事蹟中より畫題八十を選び、日本畫・西洋畫各四十題を現代一流の畫家に描かしめしものにして、繪畫は日本畫を左翼の二室に、西洋畫を右翼の二室に配置す。第一號より第四十號までは日

本畫、第四十一號以下は西洋畫なり。【靖國神社】麹町區富士見町三丁目に鎮座。別格官幣社。祭神、明治維新前後以來の殉國者尊靈。明治二年、明治天皇の宸慮によりて建立せられ、同年六月軍務官知事仁和寺宮嘉彰親王勳を奉じて祭主となり、鳥羽・伏見より函館の役に至る戦死者を鎮祭せられしを以て起原とし、幕末の際國事に奔走して歿れし志士も合祀せられ、その後佐賀の役・臺灣の役・西南の役・日清の役・日露の役・日獨の役・支那事變・臺灣事變、近くは滿洲事變・上海事變・支那事變等に戦歿せられし將士の靈を次ぎ次ぎに祀り、現在まで（昭和十三年六月）の合祀五十二回、祭神十三萬五千四百柱に及ぶ。初め招魂社と稱せしが明治十二年靖國神社と改稱す。社殿は東に面し巨棟高檜上古の風を模し清淨森嚴なり。社城廣潤。社前に天下無比の大華表あるは人の知る所なり。中央に大村益次郎の銅像あり。社側に遊就館ありて、古今の武器・戦利品・乃木將軍夫妻の遺品等を陳列す。その他能樂堂・相撲場等の設備あり。例祭（四月三十日・十月二十三日）には勅使の參向あり、次で陸・海軍參拜の擧式あり。餘興として相撲・能樂等あり。舊競馬場には見世物・露店等連り、前後數日に互りて立錫の餘地なきまで雜沓し繁賑を極む。（遊就館）靖國神社境内にあり。明治十四年創設、現在の建物は鐵筋コンクリート二



後海上安穩となりたれば海晏寺と稱すと云ふ。門前に北條時頼の古塔及び俳人春秋庵白雄の墓、寺後の墓域に松平春嶽・岡茂昭・岩倉具視等の墓あり。

【寛永寺】下谷區上野公園地にあり。天台宗。東叡山圓頓院。寛文年間江戸城鎮護のため天海僧正(慈眼大師)の創建に係り、元禄年間に至りて堂塔伽藍全く備はり當時上野全山三十三萬三千餘坪(一萬一千百アル餘)を境内とし朱印地一萬二千石、芝増上寺と並稱して江戸兩山といふ。初め天海僧正、川越喜多院に住し徳川家康の信任を受けて其處を東叡山と稱せしが、寛永二年藤堂高虎、その別業なる上野一帯の地を獻じて寺地となすや幕府即ち前將軍秀忠の舊館及び銀五萬兩を下附して着工せしめ、また諸侯に課役して諸堂を建立せしむ。慶安元年後水尾天皇第三皇子守禮法親王を迎へて第二世とし、明暦元年後西院天皇の詔によりて天台座主となり、比叡・日光・東叡の三山を管領し給ひ輪王寺宮の號を賜る。明治維新前は全山神祠堂會三十二字、支院三十六坊、將軍靈廟七所等處を連ね輪奐壯麗を極めしが、明治元年彰義隊の據る所となりて其兵火に罹り清水堂・東照宮・兩大師・辨天堂・將軍靈屋等を除く外悉く焼失。明治八年に至り上樂寺本堂を移して舊大慈院跡(慶喜齋居の處)に中堂を再建す。昔の三十六坊は今三十五院となりて櫻木町に點在す。上野公園屏風坂上

にある慈眼堂(兩大師)は破風形銅葺にし、て慈惠・慈眼(天海)の兩大師を安置す。堂の西側後方には守禮法親王、後西院天皇皇子天眞法親王・東山天皇皇子公實法親王など歴代輪王寺門跡の御墓あり宮内省の管理に屬す。靈廟は博物館の裏手にあり、四代將軍家綱の第一靈屋と稱し、元禄十二年の再建、第一靈屋に隣りて第二靈屋あり、五代將軍綱吉を祀る。いま東京博物館のある處は、以前本坊、即ち法親王常住坊舎たりし處なり。五重塔は東照宮の前にあり。寛永十六年土井利勝の再建にして三間五層塔婆、屋根第五層銅板葺、他は本瓦葺、外部總丹塗りにて形意よく上野の森に風致を添ふ。

【鬼子母神】→法明寺  
【豪徳寺】世田谷區世田谷三丁目にあり。曹洞宗。大稻山洞春院と號し高輪泉岳寺末。寺傳に文明十二年、吉良左京大夫政忠その母弘徳院菩提のためこれを開し、馬堂昌譽を請じて開山となすと云ふ。寛永十五年井伊掃部頭直孝本寺の檀越となりて大に堂宇を修築し、これより寺門大に振ふ。  
【護國寺】小石川區大塚坂下町にあり。新義眞言宗豐山派。神前山悉地院。徳川五代將軍綱吉の生母桂昌院の新願所として元禄十年の創建、開基は亮賢上人。本尊は天然の瑪瑙石像にして帝都七觀音の一。昔は寺領千二百石を有し坊舎十數字を支配す。明治初年に常陸波山護持院

(元祿寺)を併す。國寶、本殿・月光殿・尊勝曼荼羅圖一幅(絹本着色)・五銖鈴一口(金銅製)。境内に豊山中學校あり、隣接の豊島ヶ丘には小松宮・有栖川宮・北白川宮その他皇族の御墓あり、また護國寺墓地には三條實美・中山忠能・山縣有朋・大隈重信及び俗に儒者捨場と稱する處に室鳩巢等儒者の墓あり。

【三寶寺】板橋區上石神井町二丁目にあり。新義眞言宗智山派。龜頂山密樂院。智山關東十一檀林の一。應永元年幸尊の創建するところにして、文明九年太田道灌豊島氏を滅せし後其城址に當寺を移せりといふ。天文十六年後奈良天皇より勅願所の繪旨を賜ひ、北條氏の崇信亦厚かりき。境内に三寶寺池あり、その植物群落は指定天然記念物なり。※三寶寺池沼澤植物群落(天然記念物)  
【品川寺】南品川三丁目にあり。眞言宗醍醐派。海照山普門院。もと金華山大圓寺といひしが、承應年中弘法法印再興して現號に改む。東海道三十三箇所第二十一番の觀世音靈場。また江戸六地藏の第一番にして、寺門の前に巨大なる丈六の青銅像を安ず。寺寶として昭和五年瑞西のヂェネーグのアリアナ博物館より還り來れる大鉢あり。本鐘は約三百年前本寺に奉納され、明治維新の擾亂の際海外に搬出せられ行方不明なりしものにして周圍に佛像を浮彫せし珍しきもの。  
【榮文帝釋天】→顯經寺

【淨眞寺】俗稱眞淨九品佛。世田谷區五川奥澤町三丁目にあり。淨土宗。九品山と號し増上寺別院たり。河原上人六十一歳の時上人の高徳を慕ひて當地の人々其來化を求めしため、延寶六年大平出羽守の館址に草庵を建て深川靈巖寺存住の時彫刻せし九品佛及び彌迦佛等を遷座し、九品山念佛院淨眞寺と名づけしを以て當寺の濫觴とす。

【青松寺】芝區愛宕町一丁目にあり。曹洞宗。江戸三箇寺の一。萬年山。文明八年太田道灌、雲崗受徳を開山として創建す。當時は現在の麴町區平河町にありしが慶長五年徳川家康自ら現地を相し移す。また藝州・長州・土州等の諸侯の菩提寺として寺運隆盛なりき。  
【泉岳寺】芝區車町にあり。曹洞宗。萬松山。古の關府六箇寺、江戸三箇寺の一なり。慶長十七年徳川氏、宗廟に命じて創建せしめしもの。寛永十六年現地に移る。舊播州赤穂城主淺野氏の菩提所にして、元禄十四年淺野長矩を此處に葬る。次で復仇の事あり四十七士の墓を置く。爾來當寺の名著はれ賽者接踵し、香華の絶ゆることなし。四十七士の墓は石玉垣を繞る中に並び、その奥に長矩の墓あり、共に史蹟に指定さる。墓門はもと霞ヶ關淺野邸の小門にして明治廿三年ここに移せるもの。墓の附近には遺物館・木像堂・大石良雄の銅像などあり。毎年四月六日より五月五日まで義十祭あり、十

二月十四日の討入の日及び二月四日切腹の日には法要行はれて特に賑ふ。また寺後の墓域には賤ヶ嶽七本槍の一人平野長泰の墓あり。

【淺草寺】俗稱淺草觀音。淺草區淺草公園地にあり。天台宗。金龍山。坂東三十三所第十三番札所たり。本尊は長さ一寸八分の聖觀音黃金佛にして古來秘佛として寶龜を啓くを許さず。本像は古傳に推古天皇三十六年土師臣申知なるもの其臣二名と共に宮戸川に於て漁網にかけたものなりと傳へ、仍て主従一字を替みてこれを安置す。これ當寺の開創なりと傳へ、現在馬道六丁目の俗稱藝堂を以て其舊跡となす。大化元年海勝上人當地に來遊して寶塔を建立す。因りて海勝を以て開山となす。その後天安元年中興開山慈覺大師堂宇を増建し一尺八寸の觀音像を安置す。天慶年中平將門の亂に兵火に罹りて炎上、同五年平國香の弟公雅現地に諸堂を興し、田園數百町歩を寄す。これより靈名遠近に振ふ。鎌倉時代源頼朝田園廿六町を寄せ、降りて延元年間足利尊氏寺領五十町を寄す。天文八年小田原城主北條氏綱大伽藍を再興す。徳川氏江戸入城の際寺領五百石の朱印を受く。寛永寺建立後は同寺輪王寺の兼帶所となる。維新後寛永寺と分離し、總本山延暦寺の直轄となる。明治六年寺域の全部を淺草公園となせしが、近年政府に請ひて公園の半を寺地に復す。各種の娯樂機關公園

に設けられ賽者日夜雲集す。※淺草(名所)大正十二年關東大震災にその難を免れしより、近時愈々信徒の尊崇厚きを加ふ。いま一山の事務は子院傳法院にて取扱ふ。國寶に、本堂(元禄五年建立)・五重塔(慶安二年建立)・法華經十卷(紙本墨書)・大藏經(元版、五千四百二十八卷)あり。

【善福寺】麻布區山元町にあり。眞宗本願寺派。麻布山。弘仁元年弘法大師紀州に高野山を建立後、東北巡錫の時天長九年當寺を建立し高野山と稱す。第八世了海上人の時、親鸞上人東國に來化して此寺に入り念佛往生の理を論じ、了海は親鸞の弘法に歸依し宗風を眞宗に改む。寺はアメリカ公使館舊址として知られ、安政六年六月三日アメリカ使節の宿館を命ぜられ、公使ハリス及びヒュウスケン等來宿す。文久三年四月六日夜出火して太子堂・庫裡・太鼓堂、その他焼失し、同年當時の住職、幕府並にアメリカより出資し現在の庫裡等を再建して米人に貸與せしが、明治六年六月十二日、米國使節等は本國へ引揚ぐ。尙ほ境内に公孫樹あり、天然記念物に指定さる。※善福寺ノ公孫樹(天然記念物)  
【總持寺】西新井大師。足立區西新井町にあり。新義眞言宗豐山派。五智山遍照院と號し山城醍醐報恩院末。弘法大師の創建と傳へ、川崎大師と併稱さるる北郊第一の大伽藍たり。天文二年將軍徳川吉

宗放鷹の途次本寺に立寄り、爾を將軍遊獵の際勝所となる。大師堂の弘法大師像は一に厄除大師と稱し衆庶の尊信厚く一年間の賽者百五六十萬人に及ぶといふ。  
【増上寺】芝公園地にあり。淨土宗。三線山廣慶院。淨土宗四箇本山の一にして同宗關東十八檀林の冠首たり。江戸時代を通じて徳川氏の菩提所として寺運隆盛を極めしは周知の事なり。もと空海の法弟宗叡の開創に係る。寺領は初め千石なりしも、のち加増して一萬五百四十五石、外に蔵米三千七百俵、門前十五箇町を有せりといふ。維新の際寺領を返上、城内亦芝公園となる。江戸時代には寛永寺と相對して勢威を張り諸堂宇・徳川靈廟等隣立して頗る宏壯を極めし徳川幕府の滅亡と共に寺勢自ら衰替し、諸堂亦明治四十二年火災のため焼失、僅に山門及び經藏を残す。その後漸次再建せられ現在に至る。國寶、三解脱門・東照宮本殿、二代、六代及び七代將軍廟・法然上人傳二卷(紙本着色)・大藏經宋版五千八百四十七卷・同元版五千九百三十一卷・同高麗版六千五百三十一卷。三解脱門は寺の正面を占め、慶長十年の建立、五間三戸の樓門、屋根入母屋造、本瓦葺、總て朱塗、江戸時代初期の禪宗三門風の建築。

二代將軍東方靈屋は本堂の南方に位し裏方崇源院を祀る。寛永五年竣工、芝靈廟中の最古のものなり。東照宮本殿は五間五面單層、屋根入母屋造、銅板葺、内外

二陣に分る。二代將軍靈廟は前者の南隣にあり、寛永十二年竣工、建築様式は佛殿式と神社建築の様式とより成る複合式にして江戸時代に發達せる廟建築の代表的なるものと稱せらる。六代將軍靈廟は本堂の北方にあり、正徳三年の建築にして、その後方に寶塔・拜殿及び唐門を備へたる墓所あり。七代將軍靈廟は前者の北にあり、享保二年の造營なり。

【顯經寺(榮文帝釋天)】葛飾區榮又町一丁目にあり。日蓮宗。經榮山。俗に榮又帝釋天と稱し關東屈指の名刹。中山法華經寺末にして、正保元年法華經寺第十九世釋那院日忠創建し、法華經の寶藏中より帝釋天を遷座勸請して創建す。本尊は日蓮の自作なりと傳へ、庚申の日は賽者雲集す。  
【築地別院】京橋區築地三丁目にあり。築地門跡築地御坊。本願寺とも稱し京都西本願寺別院たり。本願寺第十二世准如上人は東西本願寺分離の後を承け關東に根據地を定むる必要を感じ、元和七年三月淺草濱町(今の日本橋濱町)に一字を建立し、當時これを江戸海邊坊舎といひ、又俗に濱町御坊とも稱せり、これ當院の濫觴たり。第十三世良如上人の時災害を蒙り、幕府より八丁堀海邊の濱を給せられ輪番光瀨寺を以、對岸佃島に門徒並に府内の信徒を督して土地を築きしを以て築地の稱起る。十四代寂如上人の時に淺草殿造の本堂完成、然るにその後數度災害



を蒙り一旦舊に復せしが大正の大震に遭ひて灰燼に歸せり。その後伊東忠太博士の設計に成る印度風の石造大伽藍を復興し昭和十年落成す。本寺は古來寛永・増上二寺及び淺草別院と共に兩山兩寺と呼ばれ幕府の崇教自ら異れり。現に東京教區三百寺・奥羽教區五百寺を管し、その信徒を崇教門末とす。境内に酒井抱一の墓・九條武子の歌碑あり。

【傳通院】小石川區表町にあり。淨土宗。無量山壽經寺。應永廿二年了譽聖阿の開創に係る。慶長七年徳川家康の母傳通院伏見城に歿するや遺骸を江戸に迎へて此處に葬る。同十九年傳通院殿十三回忌に際し寺領三百石を寄せられ、關東十八山林の一に加へらる。舊寺領六百石を有せり。

【天王寺】下谷區谷中天王寺町にあり。天台宗。護國山護法院。延暦寺末。日蓮東國往來の時、當地の關長謙に自像を刻して與ふ。仍て草庵を結び尊像を安置せしが本寺の濫觴なり。應永年中日蓮の再興。往時は寺中に十二坊ありて盛觀を極む。寛永寺を比叡山に擬するに對し本寺は鞍馬山に擬し、比叡山横川圓乘院に安置せる宗祖傳教大師自作の毘沙門天を勸請して之を本尊とす。明治元年戊辰の役に兵火に罹り本坊・五重塔の外悉く炎上し、今は往時の盛觀を留めず。

【東海寺】北品川町二丁目にあり。臨濟宗大徳寺派。萬松山と號し本宗別格寺たる

り。寛永十五年の開創にして開基は徳川家光、開山は澤庵宗彭なり。澤庵は初め京都大徳寺にありしが事に坐して出羽國に謫せらる。のち赦されて江戸に出づるや、家光深くこれに歸依して本寺を建立す。堀田・酒井・細川・小田の諸氏亦各子院を造る。當時寺領五百石、塔頭十七院を有せしも、いまは衰微す。然も名刹たるを失はず。境内に澤庵の墓あり、史蹟に指定さる。※澤庵墓(指定史蹟)

【東禪寺】芝區高輪にあり。臨濟宗妙心寺派。佛日山と號し本宗別格寺。慶長十五年の開創、開基は日向低肥藩主伊東祐慶、開山は嶺南和尚なり。その後伊東家廿二代の菩提所となり堂宇壯麗を極む。安政・萬延の頃徳川氏本寺を以て外人の宿所となし、又英國公使館を寺内に設置す。文久元年水戸藩浪士十八名、英國公使アルコックを擧たんとして寺内に亂入し堂宇を燒く。今は子院も僅に二院を存するのみにして往時の隆昌を見るに由なし。境内に大槻支那の墓あり。

【梅照院(新井藥師)】中野區新井町にあり。新義眞言宗豐山派。松高山藥王寺と號し中野實仙寺末。天正十四年、梅原將監(法名行春)の開創と傳ふ。中興開山は第六世朝雲にして、此頃より本尊藥師の靈驗四方に喧傳せられ子育藥師と稱せらる。寛永元年徳川秀忠女和子(東福門院)眼病不癒の效驗ありとて寺田若千及び松高山梅照院藥王寺の號を與ふ。

【靈雲寺】本郷區湯島新花町にあり。古義眞言宗。寶林山佛日院。高野山金剛峯寺末。元祿四年新安流開祖淨嚴、柳澤保明の歸依を受け壽命によりて本寺を創建す。幕府本寺を以て關東眞言律宗の本寺として寺領百石を附す。寺寶中、諸尊集會圖一幅(絹本着色)・吉野曼荼羅一幅(絹本着色)・羅漢圖十六幅(絹本着色)・彌勒曼荼羅一幅(絹本着色)・天帝圖一幅(絹本着色)はいづれも國寶。

【靈巖寺】深川區海邊町の所謂靈岸島にあり。淨土宗。道本山東海院。淨土宗關東十八種林の一にして、檀運社雄譽松風靈巖の開創に係る。寛永四年、徳川秀忠の請によりて幕府に法文を説き、寺地六町四方を寄せられ、諸堂を増築して景観大に整ふ。中興は大譽珂山。爾後數度の火災に遭ひて今は往時の盛觀を失ふ。墓域に本多忠純・松平定信・松平外記等の墓あり、また子院成等院には紀伊國屋文左衛門の墓、正覺院には並木五瓶の墓等あり。

【東京驛】我國鐵道幹線の一たる省線東海道本線の重要驛。東京市麹町區丸ノ内一丁目にあり。大東京の表玄関をなす中央停車場をなすも、明治五年我國に初めて敷設された新橋(今の汐留驛)・横濱(今の櫻木町驛)間省線の起點驛新橋驛が大正三年に此地に移され東京驛となり、

【深川不動尊】深川公園内にあり。千葉縣成田山新勝寺の出張所にして下町人の信仰甚だ厚く、毎月二十八日の縁日は勿論、通常にても參詣者頗る多し。堂の創立は明治十四年なれども本尊不動明王は古く、はじめ日本橋坂本町にありしが、のち三轉して現地に移れるもの。

【寶仙寺】中野區宮前町にあり。新義眞言宗豐山派。明王山無動院。天平年中良辨の開創と傳へ、往昔は大刹なりしものち衰替、永享年中高野山の聖永中興す。賢秀住職の頃徳川家康の崇教甚だ厚く、のち將軍御膳所に列せらる。いま末寺三十二箇寺を統ぶ。

【法明寺(鬼子母神)】小石川區雜司ヶ谷町にあり。日蓮宗。弘仁元年慈覺大師の開創、もと眞言宗にして稻荷山威光寺と稱し源家の祈禱所たりしが、のち日蓮上人の時に日蓮宗に轉じ威光山法明寺と改む。徳川三代將軍家光以下諸將軍放鷹の際の休息所たり。境内鬼子母神堂安置の鬼子母神は俗に雜司ヶ谷鬼子母神と稱し安産子福一切の祈願成就すとて一般庶民の信仰甚だ厚し。毎月八日は縁日、一月十六日は歩射祭、十月十二日より十八日まで會式を行ふ。十七日の夜は殊に賽者密集し東都名物の一たり。境内の公孫樹は指定天然記念物。※鬼子母神(公孫樹)(指定天然記念物)

【本門寺】大森區池上本町にあり。日蓮宗四大本山の一にして長壽山・大向院と號す。東北本線・中央本線の起點驛をも兼ね。されど専ら關西方面に對する表玄関にて東北信越方面に對する上野驛及び中央本線に對する新橋驛に對す。構造は鐵筋煉瓦造三階建、建坪二八八五坪餘、延綿面積七二四二坪、敷地總面積約六五、三〇〇坪、工費約一、九九六、八八二圓餘を費し明治四十一年三月起工、大正三年十月竣工落成す。設計は故辰野金吾博士及び葛西萬司博士。建物の左右に八角形の高塔あり、これは各乗車口と降車口との上部に當る。高さ各地上約五〇米、全工事に使役せし職工人夫總數七〇餘萬人。本屋一階を全部停車場用に供し、二階はホテル用、三階は事務所等に當てらる。一階中央に貴賓用昇降口あり。屋根は銅板葺にて黒色を帯び、外部壁體は赤色煉瓦を基調とし、要所に白色御影石を混用し色彩的に強き魅力をもち、附近の中央郵便局・海上ビル等の白色、丸ノ内ビル等

す。文永十一年日蓮に歸依せし幕府の工匠池上宗仲の開創に係り、寺號は日蓮の撰名にかかるといふ。弘安五年十月日蓮病み宗仲の邸に入りて歿す。日蓮その遺命によりて當寺と鎌倉妙本寺を兼帯し、文保五年堂宇の造修成るや東國有数の巨刹となる。徳川家康は寺領百石を寄せ、秀忠亦歸依して山門及び五重塔を建て、當時一山の當十五萬石と稱せらる。加藤清正の崇信亦厚く四十間四面の祖師堂を造修す。結構壯麗を極め、金剛峯寺・圓城寺と共に日本三大堂の一に數へらる。寶永七年火災の爲に諸堂宇燒失せしが、徳川吉宗によりて現在の釋迦堂・祖師堂等再建せらる。往時は子院三十六坊を有せしが、現今は十八院を残すのみなり。國寶、五重塔(徳川秀忠の寄進)・仁王門(同上)・日蓮坐像(木造)一幅。境内の日蓮聖人茶毘所址多寶塔附近、子院南之院の墓地に妙法蓮華經あり。

【妙法寺】杉並區堀の内一丁目にあり。俗に堀の内御師廟といふ。日蓮宗。日圓山。もと眞言宗なりしを元和年中日蓮の時現宗に改む。元祿十一年、碑文谷の法華寺、天台宗に改めし時日蓮像及び妙符を本寺に移す。此の日蓮像は俗に厄除祖師といひ弘長年中日圓の刻せるものにして靈驗顯著を稱せられ賽者夥し。

【目黒不動】↓瀧泉寺

【本住寺】向島區隅田町二丁目にあり。天台宗。新橋山開山院。貞元元年の開創

と傳ふ。同年、延暦寺の童子権若丸、好惡の者に欺かれて東下し隅田川の邊にて死す。出羽羽黒の忠圓、里人の請ひにより一塚を築きてその菩提を弔ひ梅若寺と名付く。のち梅若の梅字を分ちて本母寺と改む。境内に板本武揚の銅像・龜田鶴齋の碑あり。

【瀧泉寺(目黒不動)】目黒區下目黒三丁目にあり。天台宗。泰寂山。大同年中慈覺大師の草創に係る。清和天皇・後水尾天皇より勸願を賜ふ。のち徳川家光放鷹の本陣を本寺に置きより目黒不動の名汎く人口に膾炙するに至る。寛永十一年堂宇改築せられ、其壯麗俗に目黒御殿と稱せらる。本寺の裏手丘上に甘藷先生の墓・老農鈴木久太夫の墓・西川春洞の碑及び門前に往昔平井權八と小紫とを合葬せし比翼塚あり。

【輪王寺】上野公園内にあり。天台宗。承應三年後水尾天皇第三皇子守澄法親王が日光及び東叡二山を總攝し、輪王寺宮の勸稱を得させられて以來十三代に互りて法親王後を継ぎ給ふ。明治維新の際殿堂悉く彰義隊の兵火に罹りて一山廢滅に歸せしが、十六年一旦廢止されし輪王寺の舊號復稱せらるるに及び、初めて東叡山寛永寺の外に、東叡山の本坊として輪王寺の別立せらるるに至り、二十七年法親王の御墓の近くに寺宇を建立し、そののち三十九年に至りて更に現地にこれを移建す。歴代法親王の御墓及び變爪塔は

Table with columns for time intervals (時間別) and passenger counts (乗車人員) for various train lines (乗車人員降車人員乗車人員降車人員). Rows include morning (午前) and afternoon (午後) counts for different lines, and a total (合計) row.



人)なり。なほ時間別乗降人員を見れば前表の如く、午前七—一〇時及び午後三—六時に特に多く、乗降別に見れば乗車は午後四—五時に一六、六九九人にて最も多く、次で同五—六時の一四、〇八七人、降車は午前八—九時の一九、四四一人、九—一〇時の九、二二一人に次ぐ。【東京灣】 關東平野の南方にある海灣。房總・三浦兩半島に抱かれ、我が日本列島の太平洋岸に於ける最も深き灣人の一にて西方の伊勢海と相對す。灣の範圍は廣義にては浦賀水道も含み、觀音崎・富津洲間を結ぶ線以北とす。狹義の東京灣は南北約五〇軒、東西約二〇軒のものにて、南口は僅に八軒に過ぎず。灣岸は東京府・神奈川縣・千葉縣に亘る。一般に海深頗る淺く、二〇米以下の淺海廣く、五〇米より深き部分は極めて狭し。灣内には多摩川・隅田川・江戸川・養老川・小櫃川及び小糸川等が注入し、それぞれ大小の三角洲を形成し灣の海岸線を修飾す。注入水はまた灣内の鹽分の濃度を淡くす。淺海と鹽分濃度の低き海水とに影響され内灣式の漁業盛に行はる。最も價値の大なるものは海苔の原料紫菜の養殖にて、之に次ぎ給、淺網の養殖も盛なり。漁撈は主に打瀬網による鰯・鰯・鰯・鰯等の漁獲なり。沿岸に東京・横濱の大都市あり。我國の中核地域をなし、灣口は要塞地帯となる。古く洪積世中期頃に今

の關東地方東南部一帯に互り鹿島灣に向ひ開口し、房總・三浦を結ぶ陸地に抱かれしものと推定せらるる地質時代の海灣を古東京灣と呼稱す。従つて現在の東京灣は當時なかりしものと思はる。此の古東京灣内に堆積せし土砂は現在丘陵となす。即ち東南部に於ては常盤臺地及び房總臺地、西部の武蔵野臺地・多摩丘陵・比企丘陵・西北部の高崎丘陵縁邊、北部の那須野南部、東部の霞ヶ浦・北浦附近の丘陵等なり。主として東京層・成田層の分布範圍より古東京灣の範圍推定され、古東京灣の名稱は矢部長克博士により初めて提唱せらる。【東京港】 芝罘芝浦地先あり、港の區域は江戸川右岸端より羽根田燈臺の東南東約一・八五軒の點に引く一線と、この點と羽根田燈臺を貫く一線とによりて圍まれし範圍にして、約一・七〇〇萬平方米なるも、一般に東京港と稱せられ、主として出入船舶に關係ある部分は、假防波堤と舊御臺場にて圍まれし區域にして、其の面積は約八五九萬平方米なり。東京港は明治初年米の問題にして、古くは内務省備工師ムルドル氏・デレーケ氏の計畫、これに次いで明治三十三年の古市・中山兩博士の案、同四十四年の直木博士案、大正九年の田尻市長案等ありしも、何れも成立を見ず。其の實施は之等諸計畫の種々一部分を實現したるに過ぎず。本港は水深極めて深く船舶の航

行にも困難の状態なりしを、明治二十年より同二十七年に亘る八箇年繼續事業として隅田川口の浚渫を行ひしも、流送の土砂多く間もなくこれを埋没せり。更に一方都市の膨脹に伴ひ、出入貨物は半ごとに激増するに至りしため、明治三十九年より同四十四年の第一期隅田川改修工事、及びこれに引續き大正六年までに實施せし第二期工事で、川口の航路幅一二七米乃至一五五米を干潮面下三・六米に浚渫し、僅に五百噸以下の汽船・帆船の出入に資し、且つ芝罘地先と月島とに現在見る如き埋立地を設けしに過ぎず。依然として海苔の栽培場たり。然るに其の後千噸級の船舶が危險を冒し、右の航路を通航し芝罘地先に壟集するに至り、大正十一年工費六八〇萬圓を以て更に第三期隅田川改修工事を起し、初めて東京港の根幹を實現するに至る。この計畫にては假防波堤を設け、芝罘地先に六米乃至七米の本船溜四九萬平方米をつくり、沿岸に九二萬平方米の埋立をなし、その一部に九〇〇米の繫船岸壁を築造する事にせり。然るに同十二年の大震災直後に於ては、此の不備なる芝罘地先海面も極度に利用せられ千噸級の救護物資輸送船舶が壟集するに至り、第三期工事を擴張變更し、防波堤を第三臺場より越中島地先に設け、其の水域八五八萬平方米のうち、本船溜地を一九一萬平方米とし、臺場外の航路を七三米深の度と

す。然しこの工事も單に港内荷役をなし得る程度に止り、港灣機能を發揮すべき水陸連絡設備の如き全く欠くるを以て、別に昭和五年度より三三〇萬圓の工事に着手し目下工事中にして、既に千噸級の船舶の入港を見るに至る。之と關聯し横濱港と東京港を連絡する京濱運河開鑿事業あり。延長二六〇〇米、幅員七〇〇米の航路を開鑿し、沿岸に二〇七九萬平方米の工業地帯を造成せんとするものなり。神奈川縣に屬する生麥・鶴見・川崎地先まで既に開鑿せられ臨港工業地帯を形成す。而して東京港と横濱港との對立關係は、即ち横濱港は外國貿易を主とし、東京港に對しては外港たらしめ、東京港は専ら内國貿易を主とする内港たらしめ、兩者相俟ち其の繁榮を計らんとするものなり。東京港は横濱港に於て貯積換荷役をなす内航貨物を、直接東京港内に本船荷役とし運賃と時間との節約をなさんとするものなり。【東京横濱電鐵】 社線。東京市澁谷區上通二丁目の澁谷驛より川崎市を経て横濱市中區榎木町驛に至る二六・三軒。社線目黒浦田電鐵とは自由ヶ丘・田圃調布・多摩川國前にて、社線南武鐵道とは新丸子驛にて、社線京濱電氣とは神奈川驛にて、省線横濱線とは菊名驛にて、なほ横濱驛にては東海道本線・社線神中鐵道・京濱電氣に各接続す。軌間一・〇六七米、省線と連帶運轉。

トイゲ 峠 奥羽本線の一驛(明治三十二年設置)。山形縣南置賜郡山上村にあり。

トイゲ 手向村 山形縣羽前國東田川郡の東部。鶴岡市の東方約一軒。面積一四方軒餘。月山北方斜面麓川の山谷にて、東境に羽黒山(四一九米)聳え全村殆ど山地をなす。米・蕎麥を産すれどその産額多からず。羽黒山は羽前三山のひととして著はれ、本村は三山詣での表懸け(表口)をなし、参拜者多し。手向の聚落はその鳥居前町として發達せるものにて宿坊・旅館・商店等あり。戸數の約半數は直接間接に参拜者を相手として生活す。西方、省線羽越本線鶴岡驛及び北方省線陸羽西線狩川驛へ縣道通じ各バスの便あり。【出羽神社】 大字羽黒(羽黒山・頂)に御座。國幣小社。祭神、伊弉波神。一説、稻倉魂命・玉依姫。式内社。中世に羽黒山權現または羽黒權現ともいひ、月山・湯殿山と共に、三山或は三郷權現と稱せらる。修驗行者の道場とせらる。例祭、十月十五日。特殊神事に松例祭・山立祭・山揚祭・田面祭等。五重塔婆は桃山期の作にして、社寶の銅鏡と共に國寶なり。【黄金堂】 大字手向の中央、羽黒山一ノ島居北側にあり。堂は源賴朝、奥州藤原氏を討伐せし時に建立せしものと傳へ、構造様式全く唐様にして、細部の手法に鎌倉時代の特徴を存し、現に國寶たり。

トイゲ 豆溪 朝鮮忠清南道山郡豆磨面の里名。總督府鐵道湖南本線の豆溪驛(明治四十四年設置)あり。

トイゲ 東溪面 朝鮮全羅北道淳昌郡の東北部。南原邑の西北約一〇軒。もと赤城面の東部及び南原郡大山西の西北部を包含し、東西八一—一二軒、南北六一—一軒あり。西部に龍骨山(六四八米)・無量山等聳え、東方南原郡との境には露積峰・楓嶽山(五八五米)等連り、餘脈域内に延びて丘陵を起伏せしむ。西方山地を鑿津江(赤城江)侵入蛇曲して南流し、中部を東北・西南に貫流する支流槩樹川を南部に於て合せ、槩樹川の流域と、合流點以南の沿岸に低平地あり田畑拓く。産物は米・大豆・棉花・煙草・大麻・苧麻・苧草・苧草等の農産を主とし、工業に綿布・麻布等あり。道路は南原・光州間二等道路南原を走りバスを通じ、途中より岐れ槩樹川に沿うて槩樹に至る道路あり、交通不便ならず。

トイゲ 東原面 朝鮮咸鏡北道慶源郡の中部。郡邑慶源の南方約一五軒。豆滿江に沿ひ、西南境に烟頭峰聳えて西部は稍山地を成せども、漸次東方に緩斜し東半部は沃野を成す。産物は大小豆・粟・蕎麥・人蔘・大麻・砂金等あり、また古乾原炭礦の鐵礦の一部に當り褐炭を出す。東部江岸に近く鐵道總局北鮮東部線に通じ新乾驛(昭和五年設置)あり、道路は慶源・雄基街道東部を縱貫し、途中より西南折し古乾原を経て會寧に達する路線あり、後者にはバス通す。豆滿江には吃水淺き汽船通航し、貨物の運輸便なり。新乾は戸數約二百の江岸の寒村なれど、對岸間島との間に渡船の便あり、磐石礎のみを存す。東北部の中坪洞龍堂は穆祖肇基の地にして碑石等を遺存し、また此處と新乾原に城址あり。

トイゲ 桃源 朝鮮平安北道楚山郡の東南端。郡邑楚山の東南約七〇軒の僻地にあり。蓋馬高原の西縁に位置し、北境に寺徳山(一三五一米)・東境に角臺山等聳立し、南部には龍峯山(一一八三米)屹立し餘勢域内に重疊し平地極めて乏しく、ただ忠滿江の支流龍水江の溪谷に僅かに耕地を見るに過ぎず。住民は農耕を主業とし傍ら採薪日稼に従事す。産物は大豆・粟・麻・山蔘・蜂蜜等あり。道路は楚山邑より熙川邑に通ずる二等道路及び雲山に通ずる三等道路等あれども、面境に牛峴嶺(五三〇米)・韓城嶺(六五四米)等ありて坂路多く交通便ならず。【桃源面】 朝鮮黃海道松花郡の東南端。郡邑松花の東南約二〇軒。礪石山脈に屬する八峰山(四八一米)東境に聳え、中央には遠通山(三三九米)聳え、東半部は山地を成せども西半部は低平なる花崗岩丘陵地をなし、耕地よく發達す。農産物の主なるものは米・大豆・棉花・煙草等にて、工業品に麻布・明紗等あり。また泰源・三泉等の金銀ありて金・銀及び銅を出す。道路は何れも等外線にして外部との交通便ならず。聚落は主として西部に分布す。

トイゲ 鳥後 島根縣隱岐國を大別して、南なる島前、北を島後とす。島後は隱岐・周吉の二郡に分れ、島根縣の隱岐支廳は周吉郡西郷町に置く。

トイゲ 豆原面 朝鮮全羅南道高興郡の北部。高興面の北に接し、北方得頼灣に突出する半島部と、東南の陸地部とより成る。陸地部は東境に雲嵐山(四八七米)聳えて稍高地を成せども半島部は極めて小起伏の丘陵地帯をなし、海岸は干潮時は海岸遠く干潟を現はす。産

物には大豆・棉花・粟・陸稻・甘藷等、海産物には淺海海苔・貝類・鰯・鰯等あり。交通は慶全西部線棧橋驛(棧橋邑)より南方高興邑に達する三等道路は面の東部を縱貫し、バスの便もあるも半島部は陸上交通便ならず。聚落は半島部に發達す。雲嵐山中に修造庵の跡地あり。

トイゲ 東元 朝鮮平安南道成川郡大邱面の字。總督府鐵道平元西部線の東元驛(昭和十一年設置)あり。附近に成川耶馬溪の勝地あり。



トイコト 道後

【道後山】 中国山脈の一。鳥取縣日野郡福榮・多里の二村と廣島縣比婆郡小奴村の境上に跨り、標高一二六九米。山頂より西に陸奥可なり。南東に三國山、西に別半三國山、北西に三國山、野川を源として北東流す。

【道後】 愛媛縣伊豫國は地形上これを東豫・中豫・西豫に分ち、東豫は道前、中豫を道後、西豫を宇和と稱す。即ち道後は温泉・伊豫二郡と越智郡の一部に互る。

古浦は最も特色ある入江をなす。ただ潮汐干満の差大にして干潮時には全海岸干潟となり舟の出入頗る不便なり。住民は農を主とし沿海民は半農半漁なり。産物の主なるものは大麥・大豆・小豆・粟等に於て、工業作物として棉花・除蟲菊・煙草等あり。水産物には石首魚・鯛・鰯・鱈・鰒・貝類・食鹽等あり。面邑格琴里はまた交通上の核心をなし、此地より放射状に道路網發達し各村落を連絡し、而外へは北部に三等道路ありて東方海州邑、西方康朝里に連絡す。

トイコト 東光山

【東光山】 福島縣相馬郡福田村と宮城縣伊具郡大内村との境上にあり、標高三八六米。太平洋に面して時、洋上に朝日出づればまづこの山を照らす故に山名あり。また頂上に白山・羽黒山・山王・牛頭等の五社を祀る故に五社壇の別名あり。北方に地蔵森(三四八米)、南方に鹿狼山(四三〇米)續く。

トイコト 東江

【東江面】 朝鮮黃海道海州郡の南部。郡邑海州とは同名の灣を隔てて相對す。半島部を占め、西は地峽部により海南・松林の兩面に接し、西北は海州灣の支灣なる黃古浦に臨む。域内低平にして北に炸臺山、南に德岬山の丘陵起伏するに過ぎず。南岸は砂濱の單調なる海岸を成すも東岸及び北岸は頗る出入に富み殊に黃

【東江面】 朝鮮全羅南道高興郡の北端。高興半島の頸部を扼し郡邑高興よりも順天色・寶城等と緊密なる位置的關係にあり。北西部は山地を成せども東南部は低平にして海に臨み、地味肥沃、農業よく發達す。東部は汝自灣に臨み、鰯・鰒・鱈・竹島その他多數の小鰯群布す。海岸は泥濘にて良泊を缺き、海苔養殖行はる。産物は米・粟・大麥・棉花・大豆・粟等に於て、近時養蠶も盛になり良質の繭を産す。水産物には牡蠣・淺草海苔・食鹽等あり。また丸山嶺より金・銀を出す。鐵道慶全西部線は北境近く東西に通じ、近く筏橋驛(筏橋邑)ありて之より面の中央を縱貫し、南方高興に至る道路にバスを通じ交通不便ならず。街道に沿へる油毛里は面邑にして且つ陸曆一・六の日に開く市場あり、海産物・穀類・油・麻布等の取引行はる。

トイコト 東港

【東港郡】 臺灣高雄州二市七郡の一。州の東南部、下淡水溪左岸の沃野を占め、東北は坦々たる平野を以て屏東・潮州の兩郡に連り、西は下淡水溪を隔てて鳳山郡に對し、南は海洋に臨み西南海上八連に琉球嶼の一島を含む。地形は不規則なる梯形をなし下淡水溪左岸に平野展開し僅に小丘鯉魚山溪畔にあるのみ。河川は中央山脈に源を發する東港・林邊の二流郡内を貫流す。屏東平野の一部をなす本郡下の産業は農業を主とし、農家は住民の七割を占むるを以て斯業の消長は郡勢に大なる影響を與ふ。農産物は米三百萬圓、甘蔗四十萬圓、芭蕉五十萬圓、甘藷三十萬圓、蔬菜・果實等總計約四百五十萬圓、畜産は養豚を主とし生産額七十萬圓、其他牛・鶏・鶯等約三十萬圓、水産は郡下に好漁場を有し且また七百甲に餘る鹹水養魚地を有するため外洋の鱸・旗魚・鮪・鰻・太刀魚・魚苗等の他、養殖物の虱目魚・蝦・牡蠣等七十萬圓を産し、其他鱈・推糖・カラスミ等水産製造物十萬圓あり。本郡は下淡水溪に臨むを以て既に明末鄭氏時代より漢民族の移住開拓行はれ、先住の平埔蕃マカッサオ部族を退け主として農業を行ひたり。行政上鳳山縣下に屬し港東中里の大部、上・下里の一部、新園里・港西下里の大部、中里の一部を占む。領臺後鳳山縣・吳南縣・阿猴縣に各該郡に附せられたが、大正九年制度

改正と共に東港郡を置かれ、以て今日に至る。

【東港街】 臺灣高雄州屏東平野の南端、東港溪河口の左岸にあり。東は林邊庄、北は新園庄に接し、西は東港溪を隔てて新園庄に對し、南は臺灣海峽に面して琉球嶼と烟霞相望む。康熙年間、閩の漳泉人により東港溪西岸の地に移住行はれしが、東港溪・下淡水溪の連年の氾濫により常に被害少なからざりしかば遂に同治年間、街を擧げて現在の地點に移り以て今日の市街を形成す。農業中米作は一、二期を合し價格三十八萬圓、其他甘蔗・果實等あり。畜産は水牛・黄牛・豚・鶏・鶯・鵝等とし計八萬圓、水産はグナ・太刀魚・鰻・鰒・魚苗等二十二萬圓、其他魚鹽を利用して虱目魚・車鰻・鱈・鰒・牡蠣の養殖行はれ生産額二十萬圓、水産製造物には素干蝦・鱈・推糖・カラスミ・魚油等三萬五千圓あり。【海軍遺蹟】 倫仔頂海水浴場附近にあり。明治三十年五月十八日臺灣沿岸警備並に土匪討伐護衛の任務を有する軍艦海門が東港沖合に碇泊中、糧食補給の爲め海軍大尉松本彦次郎以下八名は怒濤中を東港と連絡を圖らんとして遂に全員殉職せり、現在記念碑を建て【外壘】 大字南屏にあり。一種帶狀の沖積砂層により圍まれたる淺海にて一部西港・烏樹・大安等魚鹽として利用せる部分以外を二百餘甲の外壘とす。一後の水道によりて外壘と連り、また連河

を以て東港街に通じ一大湖水をなす。魚貝の産と共に行樂の地となす。【東港】 下淡水溪と東港溪の兩河口にあり。また一に關帝港・中流の名あり、往時は打狗(高雄)、北の淡水と共に臺灣之可通大舟者、尙有南路之打狗及東港、北路之上淡水凡三處(理臺本議)と云はれ、或は「無大商船停泊、惟臺灣小商船往來貿易」(續修臺灣府志)と稱せられ、對岸諸港との貿易輻輳の區なりしが、領臺後、高雄の築港と共に水深淺く小蒸氣の出入も自由を缺くを以て漸次衰退す。現在は小琉球嶼を目前に控へ、附近は水産物多きを以て漁港として生命を有す。

【東港溪】 臺灣高雄州下の一河。源を中央山脈大武山附近蕃界に發し屏東・東港二郡内を貫流し、東港附近にて下淡水溪に合す。全長約三〇軒。舟筏の便なきも屏東平野内を流れて郡下産業に大惠澤を與ふ。

トイコト 東興面

【東興面】 朝鮮平安北道厚昌郡の東部を占むる大面に於て、優に南鮮地方の一部の境域を有し、東西二〇軒、南北四〇乃至五〇軒あり。北は鴨綠江を距てて滿洲國の長白縣と相對す。玄武岩の蓋馬岩層臺地を占め、土地頗る高峻にして西北境に西石山・東林峰(一六二三米)・松丈峰等連り、東南境には衝天山(一四六三米)・柴芝嶺・田地山・南社山(一七八七米)・黃野峰・稀峯(二一八五米)等聳立し、域内山岳重疊し殆ど平地

トイコト

なく周縁山地に發源せる諸水は中央に集りて厚州川となり、東北流して鴨綠江に合す。谷底に於て五〇〇乃至七〇〇米の高度を有し、急流にして灌溉・水運の利に乏し沿岸耕地極めて少し。山地は老樹喬木鬱蒼として繁茂し朝鮮第一の原生大森林地帯を成し營林署の所管に屬し、厚州川(南社水)流域に森林鐵道四八・三軒敷設せらる。氣候は寒氣酷烈にて七八月の候既に降霜するを例とし、盛夏なほ陶谷には氷を見る。道路は郡邑厚昌より鴨綠江岸に沿ひて上流に通ずるものは交通稍便なるも、その他は急峻にて坂路多く往來困難を極む。住民は農業とす

るも耕地少なく、生活程度裕かならず。産物は粟・大豆・燕麥・蜂蜜・山藜・藥草・生牛・砂金(上徳嶺山)あり。聚落は厚州川および鴨綠江沿岸に見出すに過ぎず、厚州古邑は厚州川と鴨綠江との合流點に發達せる國境聚落にして、李朝時代に僉使を置かれし所、城址を存す。内地人の居住者多く、金融組合・市場等あり。その他、羅竹洞・松田洞等も江岸の要地をなす。

トイコト 東郷

【東郷村】 千葉縣上總國長生郡の中部。茂原町の東北に接す。九十九里濱の西南邊に位す。西部には洪積層の臺地連り地は概ね東に傾き、東部は低き湖沼地帯に續く。東・西部には鉾栗樹林地は僅るも中部に耕地よく開け、水田發達し米・

麥を産し、養蠶・養蠶も盛なり。副業として臥、菓の産あり。街道は東部を南北に通じ、なほ省線房總東線の茂原驛に近く交通不便ならず。昭和十年國勢調査に人口四二〇〇人にて、一方軒人口密度は二四八人、全國平均密度の一八一人より多きも本郡の平均密度二八一人より少く、この地方にては比較的稀薄なる地なり。この地に寛文二年、安藝國廣島の人なる治右は幕府に上請し、その徒百五十人を率ゐ、茂原に來り開田の工を起す、三年にして成らる、治右は遂に自復す、のち開墾漸く成る。

【東郷村】 福井縣越前國足羽郡の中部。足羽川左岸に沿ひ、西北は福井市の東南界と酒生村の西部を隔つ。面積一〇方軒に滿たざるも東南部に低き丘陵横ばる外は福井平野の東南部に當り、土地平坦にて田地よく拓げ米の産多く、また機業地として染織物・人造絹織物の産多額に及ぶ。其他に酒・醬油の醸造、木製品等の工業行はる。福井市へは縣道通じバスの便あり。中世は殿下御庄の一たり。或は足羽御厨の加繁か。棉花養蠶に越前國東郷庄の代官は朝倉氏にして、朝倉氏はのち東郷氏を稱すと。【牧山城】 豊臣秀吉の柴田勝家を滅ぼして越前を併すや長谷川秀一を討じ一乘谷城を毀ちて當城を築く。文祿二年秀一朝鮮に發し、丹羽長秀の次子長昌これに代り五萬石を食む。長昌關原役に西軍に屬し除封せられ

トイコト

【水昌寺】 大字下東郷にあり。曹洞宗。天文元年朝倉教景の創建にて、爾來同家の菩提所たり。牧山城長谷川秀一、領主松平秀康等また本寺を崇敬し各寺地を寄す。【普門寺】 大字南山にあり。曹洞宗。安念和尚の開基に係る。正徳元年國主松平氏より花堂山八千坪の地を寄せられ堂宇を建立す。【嚴瑞寺】 大字圓成寺にあり。眞宗大谷派。朝倉山と號し國主朝倉氏の創建に係り、もと眞言宗。天正中朝倉氏落城の際に堂宇炎上、のち再建と同時に現宗に改む。

トイコト

【東郷村】 福井縣越前國教賀郡の東北部。教賀市の東に隣り、東は南條郡堺村及び滋賀縣伊香郡片岡村に接す。東境には五乃至七百米の山嶺連互し、北端に針伏山(七六二米)あり、山腹は西南に延び西北隣東浦村との境を限り教賀灣とも斷つ。針伏山の南斜面に發する笨川の支流は南流し教賀市に入りて本流に合す。本城は西南部に僅に低地ありて、教賀平野に連る外は山地に圍繞さる。平地には水田よく發達し米の外に薪炭を出す。針伏山の東に木ノ芽峠(六二八米)あり、こゝを境として氣候的に大なる差異あるを以て知らる。街道はこの木ノ芽峠より溪流に沿うて教賀市に入り、省線北陸本線またこれに沿ひ教賀縣(教賀市地内)に近し。昭和十年の人口は二六六五人、一方軒の密度は僅に六七人にて人口増加は著しからず。古くは和名抄、教賀郡與禰郡の地な



るべし。大字樫曲は福井・敦賀間の街道に當り堅曲あり。此地は延元二年(815)城主瓜生列官保、その弟義鑑と共に金ヶ崎城を授けんとて雪を犯して進み遂に敗死せし處なり。明治十一年明治天皇北陸東海御巡幸の御、御小休遊ばされし地にて、いま明治天皇木ノ芽峠御小休所附御勝水及び明治天皇樫曲御小休所として共に指定史蹟たり。(新保鐵泉)木ノ芽峠の南麓。泉質は炭酸泉にて加熱す。北部に聳ゆる鉢伏山に登れば、敦賀・若狭一帯より日本海を望み眺望佳なり。(新善光寺)大字井川にあり。時宗、鳳凰山と號し弘仁三年弘法大師の草創。信州善光寺如來の分身を安置せりといふ。嵯峨天皇の勅願所とせられ勅額を賜ふ。正安三年現宗に歸し、領主朝倉氏の歸依を受け寺領三百石並に山林を寄せらる。

【東郷村】愛知縣三河國南設樂郡の南部。豊川の右岸に沿ひて、東北は大野町(八名郡)との間に長篠村を隔て、西南は新城町に接し、東南は豊川を境に八名郡丹波村に對す。三河山地の東南縁に當り、北境は高度六百米を有すも南に傾斜し、東境は寒狭川南流し、豊川に合す。平地は西南部に開けて桑園・田地拓け、藪・蕨・米の産多く、麥・粟等また少からず。社線豊川鐵道東南部を横斷し、東新町驛(大正三年開業)・茶臼山驛(大正十五年開業)・川路驛・長篠驛(共に明治三十三年開業)を設け、長篠驛は社線鳳

來寺鐵道に連絡し、その鳥居驛(大正十二年開業)あり。縣道また豊川鐵道に並行し、同伊那街道は寒狭川に沿ひ北上す。この地は和名抄、設樂郡設樂郷の地なるべし。明治三十九年平井村・石座村・信樂村を廢し本村を置く。本村は天正三年長篠合戦の古戰場にして、大字川路は長篠古戰場に近きを以て武田方の戦死せる將士の墓あり。大字竹廣は長篠合戦の時徳川家康が本陣を置きし所。大字矢部の三神山は織田信忠の陣せし所。大字大海の清井田は武田勝頼が徳川勢に當りし地。大字有海も有海原と稱し長篠役の古戰場たり。大字大宮石座には石座神社あり。(石座神社)大字大宮に鎮座。郷社。祭神、天御中主神・天稚彦命。文徳天皇仁壽元年(五五下)に叙し、のち正三位に累進。式内社。古來近郷十四箇村の氏神たり。例祭、九月十五日。

【東郷村】愛知縣尾張國愛知郡の東部。鳴海町の東隣にて東は西加茂郡(三河國)に界しその界母町と三好村を挟む。面積一七方軒餘。愛知(尾張)丘陵東南部の地にて北部と西部には高さ一〇〇米内外の丘陵あり、中部より東南部は平坦にして、東南境を境川流れ耕地よく拓け、米を主とし藪・麥・粟等の産あり。名古屋より來る飯田街道は中部を、新街道は西南部を貫き共にパスの便あり。此地は和名抄、山田郡兩村郷の内なるべし。

大字矢部は天正三年五月、長篠の役に織田信長の陣せし所。明治三十九年に春木村・諸和村を廢し本村を置く。(福福寺)大字春木にあり。淨土宗西山派。嘉應元年達智賢上人の開創に係り、後奈良天皇の勅願御祈禱所。永享四年足利義教和歌を詠せし舊跡として名高し。

【東郷村】大阪府攝津國豐能郡の北部。池田町の北約一二軒、東は京都府南桑田郡西別院村に、西南は兵庫縣川邊郡東谷村に接し、面積一五方軒餘。丹波高地の南縁部に當り、南境に標高六六二米の龍勢の妙見山あり。中央より西部に狭き低地開けて能勢川西流し農産頗る多く、工業これに次ぎ外に林産・畜産・鐵産あり。縣道中部を縦貫し南方池田町に、東北は京都府南桑田郡魚町に通じパスの便あり。式内野間神社あり、古くより拓けし地なるを知るべし。文化年中に野間神社より發見の古文書によれば、安徳天皇は西海の波に隠れさせ給はず藤原經房供奉して此山中に隠れ、今の大字野間出野にて崩御すと云ふ。能勢山の山中に妙見堂あり、世に著聞す。(野間神社)大字地黃に鎮座。郷社。祭神、饒速日命・宇賀御魂神・菅原道真。推古天皇十三年大和國石上より遷祀せるに創るといふ。式内社。俗に布留宮・布留大明神ともいふ。例祭、十二月十五日。(龍勢妙見堂)大字野間中にあり。日蓮宗。長元年中多田滿仲三代の嫡孫能勢左馬頭頼國の開創

【東郷村】宮崎縣日向國東臼杵郡の南端。延岡市の西南約一二軒、富島町の西に隣り、南は兒湯郡都農町・木城村に接す。面積二一八・七方軒にて本郡第一の大村。八百乃至千米に及ぶ山地に圍繞され、南境に尾鈴山(四〇五米)・畑倉山(八四九米)・乙羽山、北境に加子山(八六七米)・珍神山(八二三米)等聳立し、耳川は東部を東南に流れ、西部の加子山・尾鈴山を連ねる小分水嶺より發し中部を東流する坪谷川を合し、また西部には小丸川が東南流し來る渡川を容れて南流す。山嶽重疊として低地に乏しく僅に坪谷川・耳川沿岸に低地ありて田畑開け、米・麥を産し薪炭も出す。街道は中部坪谷川沿ひに走るも交通便ならず。昭和十年の人口は八三三四人なるも山地多きため一方軒の密度は三八人にして、全國平均密度の一八一人に比し益かに少くなし。然れども低地にては稠密となる。(山陰神社)大字山陰に鎮座。郷社。祭神、大己貴命・伊弉諾命。創建年次詳ならずも、古來當村の産土神として村民の崇敬厚し。往時利國大明神と稱せしを、明治四年山陰村字小野田の若宮神社、同村字船戸の若宮神社を合祀して現稱に改む。例祭、十一月十八日。

【東郷村】宮崎縣日向國南那珂郡の東部。東は日向灘に臨む。飯肥町の東南に隣り、南は油津町との間に吾田村を距つ。東北

にはその戰場となる。

に係る。もと道家もしくは密家の修法を以て祀りし小祠なりしが、慶長年間、身延山第二十一代日乾來りて宗門を弘通するや、多田滿仲二十三世の裔頼次これに歸し再興して今日の隆盛に至らしむ。現に講社三百餘、信徒十萬を擁す。

【東郷村】鳥取縣因幡國氣高郡の東部。鳥取市の西南方に位し、これと大正村を隔て西北は豊實村・明治村、東南は美穂村・大和村・神戸村に挟まれ、東北は西南には狭長にて、長さ一〇軒を越ゆるも幅は漸く二軒内外に過ぎず。面積約一七方軒。高度三百米内外の二條の小山股東西兩境を限り、中央部に細長き平地を有し千代川の一支流東北に流る。米・麥・藪を産す。鳥取市へパスを通す。大正六年東郷村・福富村を廢し、その區域を以て新たに東郷村を建つ。

【東郷村】鳥取縣伯耆國東伯耆郡の東北部。東郷池の東南岸に位し、北は舍人村、西は花見村に隣り、東は氣高郡勝部村に界す。面積約一八方軒。東・南・西の三方は四一五米の高さを有する山地に圍まれ、東境には鉢伏山(五一四米)あり、中央部より西北東郷池畔にかけて平地展け耕地をなす。物産に米・藪・用材・牛・馬・酒・醬油・淡水魚等あり。池畔に倉庫山陰本線通じ、松崎驛(明治三十七年設置)あり。古くは和名抄、河村郡多駄郷に屬せるものか。中世は東郷莊に作る。東郷温泉あるを以て知らる。いま松崎村と組合

可村をなし役場を松崎村に置く。(東郷温泉)東郷湖畔にあり。浴含は湖の一部を埋めし上に建て、湖中に湧出する温泉を竹管にて導きて浴場を設く。泉質無色透明の單純泉。「大傳寺」大字引地にあり。曹洞宗。元品山と號し萬壽元年の開創。當時日本三所九品蓮臺の一に位し大伽藍たりき。その古址廣大にして古墳累累たる中に惡七兵衛景清の塔あり。應安四年領主南條伯耆守貞宗の再興なり。

【東郷池】鳥取縣東伯耆郡の北部にある淡水に近き汽水湖。同郡東郷村にあり。面積は近年縮少して四平方軒以下なり。注入河としては天神川が主にて、橋津川にて日本海とを連絡す。深さ約二米なるが橋津川附近は潮流のため掘られて四米程になり、また中央に温泉の湧出せる所あり、その孔中には七米に達するエビモが岸に繁茂せるも、中央にはなく、底は暗褐色の泥土にて被はる。底棲動物としては Chironomus plumosus が主にて、エビモが棲息し、鱒その他を産す。透明度は甚だ少し。湖畔の埋立地には温泉多く、南岸には東郷温泉、その東の松崎温泉、西岸淺津には新東郷温泉あり。

【東郷村】鳥取縣隱岐國(島)周吉郡の東海岸。島後の東部を占め西郷町の北東に隣り、北は布施村、西は中條村に界す。面積二四方軒餘。南に西郷灣を抱き、東は日本海に面す。西境に大満寺山(六〇八米)聳え山地多く、西郷海岸と、東岸

中部に小低地あるのみ。米・木炭・鹽・鰯魚・鱒等の産あり。古くは和名抄、周吉郡新野郷に屬せるもの如し。字宮田は島の家族隱岐氏(佐々木義清の裔)が京極氏の守護代となり築きし所にて、永祿の頃、尼子勝久の據りし城址あり。大字津井には男池・女池の二湯湖あり。附近海岸には馬蹄石(黒曜石)を産す。

【東郷町】福岡縣筑前國宗像郡の中央部。西は津屋崎町に接し、東は赤間町との間に南郷村を隔つ。面積一一方軒餘。南半部には低き丘陵起伏するもその間處々に小平地あり、東北部は東北境を西北流する釣川左岸の平坦地にて、田畑よく拓け米・麥を主産す。鹿兒島街道及び省線鹿兒島本線並行して東部を斜に通過し、大字田熊に後者の東郷驛(大正二年設置)ありて交通便ならず。この地古くは宗像社の社領たり。舊郡役所の所在地にして大正十四年町制を布く。

【東郷】福岡縣企救郡の東北部にありし村。昭和四年町制に編入せらる。

【東郷村】熊本縣肥後國玉名郡の東部。高瀬町と山鹿町(鹿本郡)との中間に位置し、前者の東北約七軒。全村丘陵波狀に起伏し南境にて約一六〇餘米の高度を示す。菊池川東北境を環流し西隣川沿村に出づ。丘陵の間と河岸の小低地に田畑拓けて米・麥・甘藷を産す。山鹿町・高瀬町を結ぶ道路南部を走りてパスを通す。古くは東郷庄と稱す。明治十年西南の役

部には二乃至四百米の山地あり。鳥居驛(四七〇米)・大ヶ城山(二五七米)・曳ヶ城山(一九六米)等聳立す。西南境には廣手川が分流をなして東南流し、沿岸には廣き低地あり。海岸は廣手川の河口に至る間には砂堆發達す。廣手川の沿岸及び谷地には田畑開け、米・麥・甘藷を産す。街道は飯肥町・油津町に通ずるも交通便なりとは云へず。(中の尾供養碑)指定史蹟。大字殿所字城ヶ平にあり。中ノ尾古城址の丘陵の頂上に近き林叢の傍に建つ。舟形光背形にして高さ約一・二米、中央に地藏菩薩立像を牛向彫し、表面の左右兩側に左の銘文あり。

逸作五道罪 當念地藏尊  
遊戯語地獄 大悲代受苦  
天文己酉八月十一日十六日  
また左右兩側に左の銘文あり。  
天文十八年卯月二日當陣政落  
山東軍兵三百餘人打死爲之尊容也  
これは天文十八年四月二日、鳥津・伊東兩軍合戦の後、島津方にて敵軍戦死者のため建設せし供養碑なり。

トコトコトコ 朝鮮全羅南道羅州郡の西南端。南海灘頭にあり、羅州邑の西南約二五軒。釜山江口左岸のデルタの地域を占むるを以て土地平坦、地味肥沃にて氣候また朝鮮地方中最適の地域に屬し較差他に比し小なり。住民は農を主とし養蚕を爲す者少ならず。産物



には米・大豆を主とし大豆・棉花等あり又果樹の栽培盛にして...

トココトコ 道高面

道高面 朝鮮全羅南道 道高面 朝鮮全羅南道 道高面...

トココトコ 銅郷面

銅郷面 朝鮮全羅北道 銅郷面 朝鮮全羅北道 銅郷面...

射状に通ずるも、境界周縁山地に各峠ありて車を通ずず、交通運輸便ならず...

トココトコ 東谷面

東谷面 朝鮮全羅南道 東谷面 朝鮮全羅南道 東谷面...

トココトコ 東國

東國 古く近畿地方の帝都の地より見て東方の諸國を指しての汎稱...

鐵掛山(三七五米)、南に海望山(三五六米)聳えて稍高地を成せども中央砥石川...

トココトコ 東古川面

東古川面 朝鮮全羅南道 東古川面 朝鮮全羅南道 東古川面...

トココトコ 道後湯之町

道後湯之町 愛媛縣伊豫國湯島郡の略中央部。松山市の東北に隣り、南に桑原村、東に湯山村あり...

朝鮮全羅南道 道高面 朝鮮全羅南道 道高面 朝鮮全羅南道...

トココトコ 道沙面

道沙面 朝鮮全羅南道 道沙面 朝鮮全羅南道 道沙面...

トココトコ 遠阪村

遠阪村 兵庫縣丹波國水上市の北西端。東南は佐治町に接し、西は朝來郡に界し...

大字は松山市に編入す。〔道後温泉〕泉質、アルカリ性単純温泉。四國に於ける唯一の温泉。道後は神代に於いて大己貴命・少彦名命の遺事を傳へ、少彦名命の足跡ありといふ玉の石は今に温泉の側にあり。上代に於ては熊襲の叛亂や三津との交渉事變のため景行天皇・仲哀天皇・神功皇后・聖德太子・舒明天皇・齊明天皇・中大兄皇子(天智)・大海人皇子(天武)など筑紫への途次ここに御入湯あらせられしことあり、日本の温泉中最も早く世に知らる。今は海岸より八軒餘離れ居るも、當時は瀬戸内海がこのあたりにまで寄せ入りしもの如く、齊明天皇の御製にも「熱田津に船乗せんと月待ては潮もかなひの今は清きてな」と詠ぜらる。熱田津はいまの道後附近のことにて日本書紀に「泊伊豫熱田津石湯行宮」と記せり。聖德太子行啓の折は湯の靈験を歎じて伊佐爾波阿に碑を建てられしが、のち震災の爲にその所在を失ふ。釋日本紀にその碑文見ゆ。附近に本温泉に因み深き大己貴命・少彦名命を祀りし冠山の湯神社、應神天皇を祀りし伊佐爾波神社、一遍上人誕生の舊蹟たる奥谷の寶殿寺、道後十六谷中幽邃第一の稱ある鴉渡等見るべき勝地多し。〔湯築城〕湯月城または道後城ともいふ。建武の頃河野通盛の築く所、子孫世々これに居る。のち小早川隆景を経て福島正則この城に入りしが間もなく國府城に移りて城廢す。〔道後

トココトコ トココトコ

伊豫の豪族河野氏の根拠地湯築城の地にて、天正十三年河野氏滅亡の後には小早川隆景・福島正則等の居城となりし事あり。明治十九年拓きて縣營の公園となせしもの。二重の深及び石疊の一部残存す。山頂展望はらげ園内に櫻樹多し。〔伊佐爾波神社〕縣社。主祭神、比賣大神・聖田別命外二神。下陣に東照大神を祀る。古く湯月八幡宮と稱し延喜の制式内小社に列す。のち數度の災上に舊記・古記録を失ひその創建・由緒を明かにせず。もと伊佐爾波阿に鎮座せしが河野氏築城の際に現地に遷座し、道後城の鎮守神となし累代の崇敬社とす。延久五年に河野親經社殿を造營、のち再建の事ありしと。慶長七年加藤嘉明松山城に主たるや社領寄進。のち久松氏入城。其四代の主定長は寛文七年に社殿(現社殿)を營み且つ家寶を獻す。社殿は山城男山八幡を模して善美を極む。下陣の東照大神は元和四年に加藤嘉明の勸請に係ると云ふ。例祭、十月六日。〔湯神社〕縣社。主祭神、大己貴命・少彦名命。相殿神素戔鳴命・稻田姫命(出雲國神社)。創建年代を景行天皇御宇とし舒明天皇御宇とも云ひ決し難し。延喜の制式内小社に列す。愛媛面影に據れば、もと温泉の東二町許りの山際にありしが、のち出雲國神社(創建年代不詳、式内小社)の坐す冠山に遷し、その舊地にいま小祠ありて、土人二神と稱すと云ふ。出雲國神社は後に當社の相

トココトコ トココトコ

殿として合祀せらる。兩社の祭神合せて四座あるを以て俗に四社明神の號あり。寶永五年に舊藩主久松氏は式内社を合殿に奉祀するを不可とし、一時、當社側に小祠を建立して出雲國神を奉斎せしも、明治四年再び當社に合祀せらる。例祭、十月六日。〔石手寺〕石手にあり。新義眞言宗豐山派。熊野山と號し四國八十八所第五十一番札所。寺傳に聖武天皇神龜五年、伊豫國司越智玉澄勅を奉じて創建せしことと傳へ、初め安養寺と稱し法相宗たりしが弘仁四年眞言宗に改む。のち寛平三年熊野十二社を勸請し之に六十六坊を附す。其後、白河天皇、堀河天皇、鳥羽天皇等の御崇信厚く、勅額を賜ひ、且つ勸願寺となし給ふ。慶長六年加藤嘉明寺領二百石を寄す。諸堂宇中本堂・塔婆・樓門・鐘樓及び寺寶中銅鐘一口は現に國寶たり。御詠歌「西方をよそとは見まじ安養の寺へ参りて受くる十樂」(寶殿寺)時宗。豐國山と號す。舊奥谷派の本山たり。齊明天皇の勸願により、天智天皇四年國司越智守興の草創と傳ふ。心の當寺に入りて一派をなし奥谷派と稱してより、當寺は時宗十二派中の本山たりしが、近世は別に派名は樹てざるに至る。一遍立像(木造)一軀は室町中期の骨像彫刻中の傑作として、いま國寶に指定せらる。國寶。

トココトコ 湯根如島

湯根如島 湯根如島 湯根如島...

トココトコ 堂崎村



一部にて緩く東南方に傾斜し、中部以南にては耕地拓げて米・麥・甘藷等を出し...

ト一サト 遠里 東山

【東山道】 我國八道の一。畿内の東に始まり東海・北陸二道の間の山地を経て東國に至る間の國々をいふ...

【東山道】 朝鮮平安北道龜城郡の東北部。龜城面に東隣す。北境に天津山(八四三米)...

大小豆・玉蜀黍・蕎麥・大麻等あり。また徳観・井興等の鐵山の鐵礦に當り金銀を出す...

【東山道】 朝鮮江原道春川郡の東南部。郡邑春川の東南約一〇軒。大白山脈に屬する大龍山(八九九米)...

【東山】 朝鮮全羅北道完州郡助村面の里名。總督府鐵道全羅線の東山驛(大正三年設置)あり。

【東山】 朝鮮全羅北道完州郡助村面の里名。總督府鐵道全羅線の東山驛(大正三年設置)あり。

ト一サ 陶山面

道安東郡の北部。郡邑安東の北約一五軒。北及び西の兩嶺山地を以て劃し、東南に向つて緩傾斜し、東部を貫流せる洛東江沿岸に至つて愈々低平となる...

る段丘の發達を見、耕地並に聚落はこの蛇曲帯に主として發達す。住民は農業を主とし、傍ら養蠶・興織に従ふ...

【東山道】 朝鮮全羅北道完州郡助村面の里名。總督府鐵道全羅線の東山驛(大正三年設置)あり。

ト一サ 冬山庄

羅東郡の南部。東は五結庄及び蘇澳郡蘇澳庄、南は蕃地、西は三星庄、北は羅東街及び三星庄に各々境を接す...

【東山道】 朝鮮全羅北道完州郡助村面の里名。總督府鐵道全羅線の東山驛(大正三年設置)あり。

至る軌道(手押臺車)あり。管内はもと紅水溝・清水溝・滑洲・羅東・利澤筋の五堡に分屬し、山脚に接する地方はもと平埔蕃...

ト一サ 道山面

道統營郡の北西部。統營半島の一部を占め統營邑及び固城邑の略中間にあり。東北境に本邦第一の高峰碧芳山(六三三米)聳え、餘勢南方に延び東境を劃し、南及び西に沈降して出入に富むりヤス式海岸を構成し、西に固城灣、南に東島灣を擁す...

ト一サ 塔山

阿里山脈の一驛(大正十五年設置)。臺灣臺南州嘉義郡番

ト一シ 答志

【答志(郡)】 志摩國(三重縣)の古郡名。萬葉集には季節に作る。續紀養老三三年の條に答志郡に作り伊勢國に隸す...

【答志島】 三重縣志摩郡にある島。鳥羽町の東北海上にて、南に菅島、東に神島あり。東西約六軒、南北約二軒。島は東北西南に細長く、西南日本外帯の構造線の方向と一致し、伊勢灣に於ける沈降島の残りしもの。答志・桃取の二村に分れ漁業を主生業とす...

【答志村】 三重縣志摩郡志摩部の東北部。鳥羽町の東北海上に横ばる答志島の東半を占む。面積四・四方軒。多く山地をなし低地乏し。海岸は屈曲に富める岩石海岸をなして沿岸所々に小平地僅に開く。古くより海女を以て知られたる地にて水産額最も多く、米・麥等の農産もある。その額多からず。鶏・鶺鴒の特産もあり。水産物の主なるものは玉筋魚・鰯・海魚・青魚・若布・天草・鰯・鮑にて、胎貝・伊勢海老・いたがきの特産あり。人口二・五九九人(昭和十年度)にして人口密度は五九一人に達す。鳥羽へは日々便船あり。南防波堤に答志港燈臺(昭和

八年設置)あり。燈質は不動燈光、光達距離一哩。古くは和名抄、志摩國答志郡答志郷の地にして、答志郡の郡家ありし處なるべし。

ト一シ 道志村

都留郡の東南部。相模川の支流道志川上流の溪谷を含む。土地西南より東北に長く、東南は神奈川縣津久井郡と足柄上郡とに界す。面積七九方軒餘あるも東南界には大群山(一五八八米)・加入道(一四一九米)等の脈連り、西北境に御正體山(一六八二米)・栗畑山(二二八四米)等の山嶺延互して殆ど山地をなし、その裾合を道志川東北に流れ谷沿に僅の耕地拓かれ聚落點在す。養蠶を主生業とし、林業行はれ、米・麥の産額は多からず。道路また谷に沿ひて通ずるも、交通は不便なり。

ト一シ 堂島

【堂島村】 福島縣岩代國耶麻郡の略中部の南偏。鹽川町の西に隣り、南は略日橋川によりて河沼郡の東北境に隣接す。面積約一三方軒。會津盆地の略中央部に位置し土地概ね平坦なり。東邦電力日橋川發電所あり。日橋川沿岸附近に桑園あり、その他には水田よく拓げ、米を主とし、蕎麥・大豆等を産す。喜多方・坂下間の縣道は中部と東北より西南に通じ、東南は省線磐越西線鹽川驛にも近く交通不便ならず。日橋川を此地に於て堂島川と呼ぶ。村名これに因む。舊廳郡に屬す。遠田

に遠田堰あり。此地は日川の沿岸なれど地形高くして水利悪しかりしかば、喜右衛門なるもの之を穿てりと云ふ。堂島の名は此處より官米を大阪に運漕せしより起りしならんか。

【堂島村】 福島縣岩代國河沼郡の東部。若松市の北方約六軒。北は日橋川を隔て耶麻郡形・磐梯二村に、南は北會津郡高野村に接す。會津盆地東縁の一部をなして土地殆ど平坦なり。水田よく拓げ、農産に米・蕎麥・大豆・馬鈴薯等あり。また本邦中唯一の紫斑石の産地たり。縣道西部を略南北に通じ北方鹽川町、南方若松市へはバスの便あり。省線磐越西線また之と並行し、大字郡山に堂島驛(昭和九年設置)を設け交通便なり。村内に七澤あり、高さ三〇米、幅一米。(八幡神社)大字大田原に鎮座。郷社。祭神、品陀和氣命。社傳に建久元年會津の守護佐藤十郎左衛門尉義進、相州鶴ヶ岡八幡を分靈して當地に勧請せるものといふ。例祭、十月十一日。(八葉寺)大字冬木澤にあり。新義眞言宗聖山派。諸法山。俗に會津高野と呼ぶ。康保元年光勝これを開創し、阿彌陀佛を安じ開伽非を掘りしに中に八葉を生ぜしを以て寺號これに因む。堂字中、阿彌陀堂は室町末期唐様建築の特徴を傳へ國寶たり。

【堂島】 大阪府北區の地名。もと中ノ島と號べる大川の一島にして、南は堂島川によつて中ノ島に對し、北は曾根崎川に

よつて曾根崎に對せしが、今は曾根崎川は埋立てられて曾根崎・梅田に續き、東は天滿、西は上福島に接す。濱通りにある堂島米穀取引所は、我國最初の米穀取引所として世に知られ、所謂「指先で百萬石や稻の花」の取引が行はるる所。其他、大阪商工會議所・中央電信局・中央電話局・大阪毎日新聞社・大學病院等あり。堂島川には大江橋・渡邊橋・田邊橋・玉江橋・堂島大橋の五大橋を架す。堂島の米穀取引は、初め流辰辰五郎、西國筋諸大名の積登米を引受け、之が賣捌きに當り、自家の門前に市中の米商人を集めその相場を定め、頗る大規模なる取引をなせるに起るといふ。元祿元年十一月、堂島新地開發せられ、流辰の没落後はその取引を此處に移し以つて今日に至る。

ト一シ 東下

【東下】 茨城縣鹿島郡にありし村。昭和三年波崎町と改稱す。【ト一シ ユーマチ 道修町】 大阪府の町名。いま東區、一丁目より五丁目に至る。東横堀川より東西に通じ、北は伏見町、南は平野町に隣接並行す。薬種問屋として甚だ著はる。大阪人は訛りてどしゆうまち・どしゆう町・どしよ町と呼ぶ。

ト一シ 東順金礦

朝鮮京畿道の南部。龍仁郡遠三面にあり。礦種は金・銀。鑛床は花崗片麻岩・雲母片麻岩及び此等を基盤とせる沖積層より成る。該層の最下底即ち基盤直上に砂金



を賦存し層厚平均四米。含金量は坪當り二・五―三瓦にて、品位は八二%を稱へ...

トシヨ 道所

遼東郡の北部。郡邑遼安の北約一五軒。東境に可徳山(八〇六米)、北境に冠峯(六六五米)...

トシヨ 東松

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。唐川面に北隣す。北境に蝶舞峰(三四〇米)...

等あるに過ぎず。道路は何れも等外路線にして坂路多く、大雅里目を除きては外部へは何れも視により連絡し交通不便なり...

トシヨ 東城

【東城村】千葉縣下總國香取郡の東部。東隣橋村・豊里村を隔て、利根川下流に近く、南は海上郡流郷村と隣す...

に蘆蓆・草鞋等あり。また平原・永福・平原七成等の各嶺山より金・銀を、光龍山金嶺より金・銀・鉛等を出す...

南部の長興里には孤石亭の勝あり。トシヨ 東上 【東上面】朝鮮咸鏡南道新興郡の北端。郡邑新興の北方約五〇軒...

【東松面】朝鮮江原道鐵原郡の南部。鐵原邑に東隣す。東は漢灘川の峡谷により葛木面に境し、西南部には金鶴山(九四七米)...

【東城町】廣島縣備後國比婆郡の東南部。高梁川に合する成羽川の上流東城川谷の山中に位置す。西は帝釋村、東は岡山縣阿野郡野馳村に界す...

封ざられ陣屋を置き、幾何もなくして伊豫松山の城主となる。【福養寺】大字小南にあり。黄葉宗、補陀落山と號し、延寶六年鐵牛禪師の創建に係り...

直徑半米乃至約一米、数は三、四十に及び、大多數は町の北端から東して岡山縣に通ずる街道に架設せる橋を挟み、約六〇〇米に亘る區域の右岸にあり...

トシヨ 東條

【東條】當陸國(茨城縣)の古地名。鎌倉時代に東條莊といひ、信太郡小野郷に屬し信太東條ともいひ、また私稱して東條郡ともいふ...

此線は一部インクラインとなる、成興より湖畔まで一〇六軒、昔日と全く景觀を異にするに至り、視察者、旅行者頗る多し。湖畔より北岸の漢俣まで汽船(一時間半)を通ず。

【東上面】朝鮮平安北道龍川郡の東北部。新義州府の東南二一軒。南部に秋山嶺山脈の西縁なる龍骨山(四七七米)聳えその山肢西及び北に延び、東南部には天頭山の餘脈ありて丘陵地を成せども、北部は概ね低平にして、且つ大正水利組合の水路を通じ、灌溉に便なる沃野横はる...

【東條村】千葉縣安房郡安房郡の東部。鴨川町の北、天津町の西に隣り、北は君津郡龜山村と界し、南は太平洋に臨む。面積二七方軒に近し。北境に清澄山(三八三米)、元清澄山の山地あり、村はその南斜面にて大部分は山林をなし、南部のみ加茂川地溝帯の東北部に於て土地平坦耕地よく拓く。農業行はれて米・麥を産し、また養蠶・養鶏も行はる。房總街道は海岸に沿ひ、保田に至る縣道これより岐れて西方に向ひ、保田と通じ、省線房總東線安房鴨川驛(鴨川町内)・安房天津驛(天津町内)に近く交通不便ならず。この地は和名抄、長狭郡伴部郷の内にて、神風抄に東條御厨とあるはここなるべし。鎌倉時代、日蓮を殺さんとせし東條景信の住せし地。【小松原】大字廣揚の字名。日蓮大法難の一に當る古蹟。文永元年十一月十一日、日蓮の故郷小湊に母の重忠を見舞うての歸途この小松原に差寄りしに、法政景信東條左衛門、數



百の軍兵を引連れて遊撃す。この時、門弟鏡忍房日鏡、横越工藤左近吉隆の兩人は奮闘力戦難に殉じ、日蓮も眉間に三寸の疵を蒙る。世にこれを小松原法難と稱す。〔鏡忍寺〕大字廣場小松原にあり。日蓮宗。日蓮宗四十四箇本山の一にして宗祖日蓮四度法難の遺蹟。日蓮、吉隆の子日隆をして本寺を造營せしむといふ。開山を鏡忍とす。のち里見・徳川兩氏より寺領若干を附せらる。〔掛松寺〕大字廣場にあり。日蓮宗。袈裟山と號し弘安九年日隆上人の創建に係る。文永元年宗祖日蓮、東條氏に遊撃されて、に負傷するや、天津町濱菰の北浦忠吾・同忠内の二人に扶げられ、血染の袈裟を此地の松樹に懸けて逃れ去る。のち日隆これを瑞祥の地なりとして一字を創す。

【東條村】大阪府河内國南河内郡の中部。富田林町の南方約一五軒。東は赤阪村。千早村に隣り、面積九萬軒餘。葛城山脈の北方斜面の末端部に當り土地緩かに北方に傾斜し、西部は山林、中部には田畑拓く。米を産して農産額最も多く、次で綿織物その他の工産額あり。赤坂・千早と共に楠氏の根據地にして、大字龍泉の上方に城址あり、楠氏の一族岸和田氏の根據地たり。正平二年八月、楠木正行こゝにありて攝津・河内の北軍を破り、同三年正月四條殿に戦死す。同七年閏二月、後村上天皇は八幡を遷きて此地に還幸し、同年五月、賀名生に渡御あり。正

平十四年冬、足利義隆・畠山國清等は兵を河内に出す。楠木正儀・和田正武ここに營を構へ、大和・河内の兵一千餘人を以て守備す。然れども賊兵の來らざるを以て、擬兵を設けて退く。翌年夏、城陷る。城址の下に眞言宗龍泉寺あり、後村上天皇の御駐蹕となりし處なり。楠木正成の夫人久子が正行戦歿後、草庵を結んで隱棲せる場所と云ひ、いま遺址と傳ふる處に石玉垣を繞らし、附近に近年新たに建てられし堂あり。夫人は正平十九年七月、六十一歳を以て示寂し、庵の附近にその五塔の墓を存す。また楠公夫人の婦徳を讃ふる楠母會の若楠寮あり。夫人の顯彰と日本婦徳修養の道場とす。〔龍泉寺〕大字龍泉にあり。古義眞言宗。牛頭山醫王院と號す。高野末。寺傳に、推古天皇二年に蘇我馬子勅を奉じて創建すといふ。弘仁十四年僧空海再興して、天長の初め眞如法親王本寺に兩を新りて驗あり、依りて同五年勅命を奉じて藤原各緒堂會を再營す。

【東津江】朝鮮全羅北道扶安郡の北端。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し漕漑用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にして、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繫留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大麦・大豆・棉・苧麻・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、蝦・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者にはバスを通じ交通便なり。

て、全國平均の一八一人より遙かに大なり。

【東津江】朝鮮全羅北道扶安郡の北端。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し漕漑用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にして、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繫留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大麦・大豆・棉・苧麻・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、蝦・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者にはバスを通じ交通便なり。

【東津江】朝鮮全羅北道扶安郡の北端。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し漕漑用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にして、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繫留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大麦・大豆・棉・苧麻・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、蝦・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者にはバスを通じ交通便なり。

【東津江】朝鮮全羅北道扶安郡の北端。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し漕漑用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にして、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繫留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大麦・大豆・棉・苧麻・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、蝦・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者にはバスを通じ交通便なり。

【東津江】朝鮮全羅北道扶安郡の北端。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し漕漑用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にして、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繫留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大麦・大豆・棉・苧麻・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、蝦・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者にはバスを通じ交通便なり。

【東津江】朝鮮全羅北道扶安郡の北端。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し漕漑用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にして、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繫留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大麦・大豆・棉・苧麻・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、蝦・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者にはバスを通じ交通便なり。

【東津江】朝鮮全羅北道扶安郡の北端。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し漕漑用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にして、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繫留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大麦・大豆・棉・苧麻・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、蝦・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者にはバスを通じ交通便なり。

【東津江】朝鮮全羅北道扶安郡の北端。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し漕漑用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にして、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繫留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大麦・大豆・棉・苧麻・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、蝦・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者にはバスを通じ交通便なり。

【東津江】朝鮮全羅北道扶安郡の北端。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し漕漑用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にして、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繫留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大麦・大豆・棉・苧麻・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、蝦・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者にはバスを通じ交通便なり。

【東津江】朝鮮全羅北道扶安郡の北端。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し漕漑用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にして、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繫留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大麦・大豆・棉・苧麻・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、蝦・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者にはバスを通じ交通便なり。



街道を岐ち中央を横断し何れもバスの便あり。而邑合井浦里に陰曆四・九の日に開く市場あれども取引活潑ならず。

ト一ジンホ 頭人埔

の一驛(大正十三年設置)。臺灣花蓮港臨大庄區頭人埔にあり。

ト一ジンボ 東尋坊

島村(福井縣)

ト一ジンリ 唐人里

畿道京城府の西部、漢江右岸にあり。いま唐人町と稱す。總督府鐵道龍山線の終點驛なる唐人里驛(昭和四年開業)設置あり。附近に京城電氣會社の唐人里發電所あり。

ト一セ 答世

大隅國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に桑原郡答世郷見ゆ。其地いま善かならず。いま給良郡に帖佐村あり、昔は答世と相近し、或はその遺名の訛ならんかと。後考を待つ。

ト一セ 塔世

三重縣安濃郡にありし村。明治四十二年津市に編入す。

ト一セ 遠妹

下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に芳賀郡遠妹郷あり、訓を缺くもトホセと訓むべし。いま芳賀郡内に地名遺存せず、或は那須郡荒川村・下江川村がその地ならんか。荒川村の大字高瀬は遠妹と音は相似たり。或はその轉訛ならんかといふも如何にや。

ト一セ 東勢

臺灣臺中州二市十一郡中の一。州の東北端に位置し、中央尖山に發源す

及び軌道(手押臺車)の通するありて交通網は整備し、理蕃上及び山地開發上利便尠からず。

【東勢街】臺灣臺中州東勢郡の北東部。大安・大甲二溪の間に介在し、東は蕃地に續き、西は豐原郡内埔庄に連る。廣大なる面積を擁するも管内は概ね山地にて平地は西南大甲溪及び中央部を灌溉する同溪支流の流域に僅かに展開するのみ。されば總面積の割合に農耕地乏しく、田一四四〇甲、畑八三〇甲に過ぎざるも、良質の米の他、芭蕉・鳳梨・甘蔗・蔬菜類・柑橘類を産出す。工業は見るべきものなきも、農家副業としての家内工業たる竹細工の製造盛に行はれ、産額尠からず。市街は大甲溪の右岸に臨み、現行制度以前は東勢角といひ、蕃地の入口として知られ、八仙山伐採開始後活氣を呈し最近にては蕃地の明治温泉の開發と共に之に到る通路として重きを爲し、風光明媚、氣候溫和なる小都邑なり。上水道・下水道の設備完成し、郡役所・法院出張所・專賣局監督詰所・芭蕉検査所等の官街あり。西方豐原との間には指定道路ありて乗合自動車の便を有し、また對岸の土手(石岡庄)より豐原驛に至る私設線あり。其他、北隣卓蘭庄(大湖郡)の卓蘭との間にも乗合自動車を通じ、且つ最近東方蕃地の明治温泉に至る自動車道路開鑿せられ、交通の便愈々備ふるに至る。管内はもと總て東上堡に屬し、大甲溪上

ト一セ——ト一セ

の大甲溪最上流域に沿ひ、東西に細長き狭長帯を爲す。北は大部分大湖郡(新竹州)、東邊の一部大湖郡(新竹州)及び羅東郡(臺北州)に、東は花蓮港臨に、南は龍高・大屯二郡に、西は豐原・大屯二郡に各境を接す。地勢甚だ峻險にして到る處高峯峻岳重疊として相連互し、北境には次高山を中心とし東西に桃山・大雪山・小雪山等の諸山より成る謂はゆる次高山系あり、東境には南湖大山・中央尖山・畢祿山等の中央山系、南境にはハック(白狗・白姑)大山・八仙山・パイパイ山・次郎山・黒田山等の諸山あるのみならず、内部には平岸山・嵯峨山・觀音山・横山・東卯山・ローアゴ山・觀音山等の連嶺起伏す。大甲溪は中央部を大體に於て西流し、西端の行政區域に入り、新庄の東南に至り北轉して東勢街及び新庄の境界を流れ、のち更に西轉して豐原郡に入る。他に大安溪ありて北境の西邊を流る。總面積約二二八〇方軒にて行政區域は西端の一部僅か二〇〇方軒に過ぎず他は總て街庄を置かざる蕃地なり。行政區域に分ちて東勢の一街及び新庄・石岡の二庄とし、郡役所を東勢街に置く。人口四萬四千餘、其の内、蕃人三千八百餘、總てアマラル族に屬し、昭和二年十二月サラマオ蕃の歸順を最後とし、同六年十一月佳陽社の不良蕃丁六名、突然ヒスマン駐在所を襲撃して警備員及び家族六名を斃したる事件ありしも、其後些

かの動搖なく民情平穩なり。北勢蕃(埋伏坪・ローアゴ山・雪山坑の三社)・南勢蕃(南勢・裡冷・久良栖・鳥來の四社)・サラマオ蕃(佳陽・サラマオの二社)・シカヤウ蕃(シカヤウ社)の四部族に分つ。本島人は總て廣東系のものにして全住民の九〇%餘を占む。全部殆んど山地帯にして地勢峻險、平坦を缺き、總面積の割合に農耕地狭少にして、行政區域内と雖も、耕地面積僅かに五千三百餘甲を有するに過ぎず、主として大甲溪流域に展開す。東勢街は大甲溪の右岸に、石岡庄は左岸に沿ひ、比較的水利の便よく水田開墾、地味概して肥沃なるも、新庄は同溪の左岸南方高臺に位し灌溉の便少く、如地多しと雖も酸性土壤にて地味瘠瘦、農作物の育成良好ならず。平地は概して米・甘蔗・甘藷その他の農作物に適し、山地は芭蕉・鳳梨その他の果樹栽培に適す。米は年産六萬四千餘石、百四十九萬餘圓あり、品質優良にて古來湖産米と稱せしものなり。芭蕉三十一萬餘圓、甘蔗・甘藷共に十三萬餘圓、蔬菜類九萬餘圓の他、鳳梨・柑橘・落花生とも一萬乃至二萬圓程度にて、以上重要農産物の年産額合計二百二十餘萬圓に上る。なほ新庄大南には殖産局苗圃養成所あり面積約一千甲、豐原郡内埔庄后里のものと共に甘蔗品種改良の根元地なり。林業にては管内林野面積一〇四七二一甲の内、官有林野一〇七一七甲にて、民有林野

流々城の縱谷一帯に互り、その地勢、東方に一境を開くを以て古來東勢角埔の稱あり。初め平埔蕃族のガイヤオアブル即ち模仔藤五社の分布區域にて山蕃アマラル族との接觸地點に當り、清領に歸せし後、漢人は長期間に互り蕃害と戦ひつづ開墾に従事し、漸次蕃人を驅逐して成豐年間に至り漸く大部分の開墾に成功し、光緒十二年は年東勢角撫局を設置するに至る。爾來、臺中方面に於ける東部一帯の林産物、殊に樟腦の集中市場として發達し、我が領臺後(理蕃の要衝として重きを爲せり。明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至りて、地方制度の根本的改革と共に、清領時代より存續し來りし堡なるを廢せられ、庄制を布く。昭和七年街となる。

【東石郡】臺灣臺南州二市十郡の一。州の西部中央に位置し、北回歸線は郡の略北港郡に接し、東は太保・鹿草の二庄に

【東石郡】臺灣臺南州二市十郡の一。州の西部中央に位置し、北回歸線は郡の略北港郡に接し、東は太保・鹿草の二庄に

は三七五四甲に過ぎず、前者の經營は營林所又は州これに當り、森林施業計劃に基き造林し、八仙山の伐採事業有名にして檜材・梅材等を多く産出す。民行造林は相思樹・油桐・廣葉杉等を主とし、近時栗の増殖を奨励しつゝありて逐年造林面積増加の趨勢にあり、年産額十萬圓内外に達す。畜産の首位は養豚にして、仔豚の生産地として知られ、年に一千餘頭を搬出す。之に反し肉豚は管内の需要を充たさず、年に六百頭を搬入す。畜牛は總額數二千九百餘、主として水牛および黄牛にして農耕及び運搬に使役せられ、鶏・鶩・鶯等の家禽類十萬餘羽あり、豚と共に一般農家に於て普く飼育せられ、農家經濟の有力なる一支柱をなす。水産は地勢上池沼の少きため見るべきものなきも本郡の特産たる次高鱒(サラマオ鱒)は特筆するに値し、水河時代の遺物として學界に著名なり。工業にては落花生油と瓦の製造が稍注目され、また家内工業たる竹細工製造は原料豊富なるため、農家の副業として盛に行はる。なほ蕃産品の主なるものは黃藤・魚藤・藤等の林産物及び狩獵物にて、工藝品及び農産品には未だ見るべきものなく、また專賣局經營に係る製糖事業盛なり。主要道路は東勢・豐原間の指定道路にして之に沿ひ、臺中輕鐵會社の經營に係る私設鐵道あり。また保甲道路の擴張及び東勢・明治温泉間道路の開鑿工事成り、内外に乗合自動車

【東石郡】臺灣臺南州二市十郡の一。州の西部中央に位置し、北回歸線は郡の略北港郡に接し、東は太保・鹿草の二庄に

【東石郡】臺灣臺南州二市十郡の一。州の西部中央に位置し、北回歸線は郡の略北港郡に接し、東は太保・鹿草の二庄に

【東石郡】臺灣臺南州二市十郡の一。州の西部中央に位置し、北回歸線は郡の略北港郡に接し、東は太保・鹿草の二庄に











これを堀江縣とし、間もなくこれを廢して濱松縣を濱松に置き、遠江一國を管す。明治九年に至り、濱松縣を廢して静岡縣に合して今日に至る。而して明治二十九年郡の大併合を行ひ、佐野・城東二郡を合して小笠郡とし、磐田・山名二郡と豊田郡の大部と長上郡の一部とを以て磐田郡とし、濱名郡と長上・豊田・敷知三郡の一部とを合せて濱名郡とし、引佐・龜玉二郡と敷知郡の一部とを以て引佐郡とす。明治四十四年濱松市濱名郡より獨立し一市六郡を以て今日に至る。

【遠江藩】 遠州藩ともいふ。静岡・愛知兩縣の南部にある海。廣義には志摩半島の大王崎より伊豆半島の石室(庵)崎に至る一帯の海をいひ、狹義には遠美半島の伊良湖より駿河灣西端御前崎までをいふ。天龍川河口附近に於て特に深海が陸に接近し、古來航海の難所として有名な。御前崎の附近には駿河灣西部の淺堆の連綿があり、漁場となる。海岸は天龍川口を頂點とする二つの圓弧に分れ、東に菊川・原野・谷川等が流入し、西には濱名湖が單調な破るのみにて、西方遠美半島は滑らかな砂濱海岸をなす。また天龍川口には流下せし土砂が海風により生ぜし砂丘嶺として走り、沿岸に於ける特殊の景觀を呈す。

トートー

【東内面】 朝鮮江原道春川郡の中南部。春川邑の東面に隣る。東境には大龍山(八九九米)聳立し東半部は山地を成せども、西半部は春川平野の一部を成し地味肥沃にして、北漢江に注ぐ幾多の小流これを灌漑し郡中重要な農業地を成す。物産は米を第一とし、其他、大麥・大豆・烟草・棉花・野菜等あり。又明細・綿布を産す。道路は春川より東南方洪川邑に通ずる二等道路西部を貫きバスの便あり、交通頗る便なり。

【島内】 朝鮮總督府鐵道白茂線の一驛(昭和九年設置)。成鏡北道茂山郡三社面延岩洞の南部にあり。【東南面】 朝鮮平安北道博川郡の東南端。博川面に南隣す。北境に鳳麟山(二一七米)聳え山肢西南に連りて丘陵起伏するも、北部の大寧江沿岸と南部の清川江沿岸には廣き平地がひろげ、地味肥沃にして農産に富む。産物には米・稗・粟・大小豆・烟草等あり。また黒鉛を出す。總督府鐵道京義本線は中部西寄り南北に通じ、孟中里驛(大正三年開業)あり、同驛より北方に博川線を出し、三・七軒にて博川邑に達す。尙ほ孟中里より博川・大榆洞・寧邊・熙川の各地へ何れもバスを通じ交通至便なり。粟落は主として臺

トートー

地の邊縁に分布し散村形態をなす。北部の鳳麟山中(孟中里驛より約八軒)に深源寺あり、本殿たる普光殿は約千三百年前新羅時代の名僧玄國の創建、城内の風光絶佳なり。

【東南面】 朝鮮黃海道豊津郡の略中央。豊津邑の南方に突出せる半島部を占む。半島頂部に連根山の屹立せる外は著しきものなく、城内は丘陵性にて其周縁は沈降して複雑なりヤス式海岸をなし、殊に東南の康湖江沿岸は頗る變化に富む。ただ湖沙干満の差大にして干潮時には干潟遙か沖合に達し船舶の出入便ならず。屬島多く、うち龍威島(龍湖島)・魚化島・飛鴨島は顯著なり。産物には米・大麥・大豆・烟草等にて、水産物に石首魚・鮭・鱈・烏賊・鰻・太刀魚・海苔・貝類等を産す。また金・銀の鑛産あり。道路は邑新村を中心として市内は勿論、北方豊津邑、南方龍湖島(沙串より渡船連絡)に三等道路を通じ、定期乗合自動車あり。龍湖島は龍威島の南端に位する漁港にして近海漁業の中心となし、公立水産實習學校・水産會社等あり。石首魚その他は此地にて加工處理するもの多く、總督府水産製品検査所出張所設けらる。

トートー

【東二面】 朝鮮忠清北道沃川郡の略中央。沃川面に東隣す。錦江の標式的狭入蛇曲帶の左岸を占め、城内は花崗山地の創削による老年期の高度二一三百米を有する臺地連り低地極めて

【唐丹村】 岩手縣陸前國氣仙郡の東北隅。北に釜石市と上閉伊郡甲子村に接し、東は太平洋に面し、東岸中部に唐丹灣を擁す。面積八一方軒餘。西北境上に五葉山(三四一米)あり、その東肢は北境上に延びて扇ノ峯・鶴倉山・松倉山・篠倉山等となり東岸の早坂時にて海に盡く。また荒金山(七五一米)・鐵臺山・物見山等の山嶺東に走り死骨崎となりて海に没す。唐丹灣は三陸リヤス式灣入の一にして、灣岸出入に富み至る所海崖をなす。ただ西北岸に注ぐ片岸川口に小白濱・片岸の聚落ありて諸地をなす。村内山地多く片岸川とその南を東流する熊野川の谷に幅狭き低地あり、麥・稗・馬鈴薯・米・大豆の農産物あるも産額多からず。近海に我國有数の好漁場たる三陸魚場にして、寒水性の鮎・鮭、暖水性の烏賊・鮪・鰻・鱈等の漁獲少からず。【東郷】 臺灣の舊稱。明の末年に鄭成功の本島に據るや、臺灣を改稱して東郷と呼びたり。ちち鄭經の

トートー

【遠野町】 岩手縣陸前國上閉伊郡の略中央部。花巻町(神貫町)と釜石市とのほぼ中間に位し、後者は東方約三二軒を隔つ。面積一八方軒餘。北上山地中央部の遠野盆地の南部を占め、西南境には物見山(九一七米)あるも北部は低平にして猿ヶ石川の支流ここに會流し附近に耕地拓く。米・麥・大豆・粟・稗・馬鈴薯を産す。釜石街道は東西に通じ、盛岡よりの遠野街道また此處に合し何れもバスを通じ、省線釜石線また釜石街道を略並走して遠野驛(大正三年設置)を設け、北上山地横斷の重要驛をなし、地方物資集散の中心地たり。此地は中世遠野保と稱し、戦國頃は遠野郡と汎稱せし事あり、天正年中、阿曾沼氏の居れる所なるが、近世は南部藩の一門八戸氏ここに移り治め、俗に遠野南部とも稱せらる。本町は遠野郡の中心にして、もと横田村と稱せしが、遠野の古名によりいま遠野町と改稱す。舊郡役所のありし所にて營林署・税務署・盛岡供託局支所・縣財務出張所・中學校・高等女學校あり。

【常尾村】 京都府山城國相樂郡の南部。北と西は加茂町に圍まれ東と南は奈良縣添上郡に接す。笠置高原の西北部に當り高度二〇〇米内外を有し山地廣し、中央には北流して木津川に入る小流ありて、その兩岸に小耕地拓く。加茂町に出づれば

トートー

身延山久遠寺を創めし因縁ありしを以て波木井山と號し、本尊は一塔兩尊にしてその脇に日圓上人(實長)の像を安置す。本像は代々南部家に安置しけるが、三十四代行義これを地方信徒に與へ、鍋倉城址址に三反歩の土地を寄せて一字を建立す。(常福寺)新町にあり。時宗。金圓山と號す。正平二十二年南部信光の創建なり。初め甲州神の郷にありしを、明德四年南部氏甲斐より八戸に移る時、本寺また從ひて現地に移る。(瑞應院)麓町にあり。臨濟宗妙心寺派。鳳徳山と號し、承應二年澤室和尚の開山に係り、南部直榮その愛女善拂の爲に建立せしものにして、本堂の構造堅固、欄間の彫刻美等郡内の珍たり。(善明寺)大工町にあり。淨土宗。金光山と號す。初め善明和尚隆興八戸に創建せしが、寛永四年南部直榮に從ひて現地に轉せり。(大慈寺)曹洞宗。福聚山。後小松天皇應永十八年左近衛將監長經の開基、龍傳惠金を開山とす。往時は大伽藍にして奥羽二州玉窓派の派頭たり。舊時領七十五石、南部家菩提所として同家の崇敬厚かりき。

【常尾村】 京都府山城國相樂郡の南部。北と西は加茂町に圍まれ東と南は奈良縣添上郡に接す。笠置高原の西北部に當り高度二〇〇米内外を有し山地廣し、中央には北流して木津川に入る小流ありて、その兩岸に小耕地拓く。加茂町に出づれば

トートー

は省線西本線加茂驛あり村内の交通はなほ便ならず。(石塔婆)國寶。大字辻小字三田にあり。臺石の銘文中「永仁六年戊辰八月十日」の年號あり。其建立年代明瞭なると同時に製作頗る精巧、且つ各部完全に保存され、鎌倉時代石造十三重塔として代表的名作の一なり。(淨瑠璃寺(九體寺))大字西小森にあり。眞言律宗。小田原山法雲院。天平年間、行基は聖武天皇の勅を奉じて創建、天元年中多田滿仲母の冥福を祈りて再興し現寺號に改む。のち永承二年中興の義明三度堂宇を修め四十九院を増建し、定朝作の彌陀九體を奉安せしが、二條・高倉二天皇の御歸依厚く共に額等を附し給ふ。また源實朝の歸依にて千石千貫の寺領を寄せらる。境内廣潤にして幽邃の趣深き中に蒼古の堂舎點在す。本堂・三重塔・吉祥天立像一軀(傳聖武天皇御作木造着色)・四天王立像四軀(傳運慶作木造)・地藏菩薩立像一軀(木造)・阿彌陀如來坐像一軀(木造)外五點は國寶たり。(岩船寺)大字岩船にあり。眞言律宗。淨瑠璃寺末。天平年間、行基の開創といふ。三重塔・阿彌陀如來坐像(木造)一軀は國寶。

【常尾村】 熊本縣肥後國下益城郡の西部。西北宇土郡不知火・花園二村に界す。東境に高さ一〇〇米臺の丘陵起伏する外は熊本・八代兩平野の接續部をなす平坦地にして田畑よく拓け米・麥・粟等の農産少からず。鹿兒島街道は西南部を掠め、

トートー

またより分れる縣道は南部を東方にせり、西隣不知火村にある省線鹿兒島本線松橋驛よりの自動車はこの國・縣道のいづれにも通じ交通不便ならず。村内に樟の巨樹あり。いま楠原の樟として指定天然記念物たり。

【多武峯村】 奈良縣大和國磯城郡の南部。櫻井町の南に接し東は宇陀郡松山町に南は吉野郡龍門村に、西南は高市郡高市村に界す。面積二二方軒餘。龍門山塊の西北部にて東境に香羽山(八五二米)、西部に破裂山(六一九米)・多武峯峯え、山地多く杉の産を以て著る。中央の峽谷を寺川北流しその谷に狭小の低地ありて、米・麥を産し賣薬の特産あり。河谷に沿ひて南北に縣道走り櫻井町方面と吉野の上市町方面とを



結び、北部の山谷には櫻井町より松山町に至る縣道、南西部には高市村へ至る縣道もあり各自動車を通ず。多武峯はもと倉橋山といひ、往昔、藤原鎌足がこの山に上り藤樹の陰にて中大兄皇子と蘇我氏討伐の謀議を議せる爲め談山と稱せりと傳へ、また談武峯・田身峯にも書き、いまま武峯に作る。山上に談山神社あり、社殿壯麗にして世に關西日光の稱あり。〔倉橋岡陵・倉橋岡陵・倉橋岡陵〕大宇倉橋にあり。崇峻天皇の御陵。その所在疾くより不詳。元祿の探査にも決定を見ず。明治二十二年に至り現地に御治定修治を加へらる。〔倉橋岡陵・倉橋岡陵〕大宇倉橋にあり。崇峻天皇の御陵。大宇倉橋宇金福寺を宮址とす。〔栗原寺址〕指定史蹟。持統天皇八年、皇太子草壁親王の御爲め中臣朝臣大島の大建立せる栗原寺址と稱せらる。堂塔の配置同時代の諸寺と趣を異にす。山腹に營まれ東面せしもの如し。近年礎石一部を移動したるも金堂及び塔の概規なほ見るべきものあり。〔花山塚古墳〕指定史蹟。栗原寺址の東二軒、栗原小谷にあり。栗原より松山に至る女寄峠の頂上に近き斜面に築かれし古墳群の一にして圓形の小墳なり。石柵の入口を南方に開き、壁面は石英粗面岩を磚狀になせし小形長方形の切石を以て伍の目に積み、更に漆喰土を施す。前室は破壊せられて兩壁を存するに過ぎざるも、奥室には天弁石を遺存し、且つ室の奥部に更

に小室をなし、その入口には石扉を嵌めたる軸穴を存し、向つて左側底部に敷ける板石と其上の棺石とに存し、その石扉も破片が発見さる。石室全体の構造頗る特異なり。尙この東南や、低き處に同様の磚狀切石を以て積める石室一箇を殘存す。〔談山神社〕大宇多武峯に鎮座。別格官幣社。祭神藤原鎌足。天智天皇二年鎌足の薨後、其子、僧定慧は唐より歸朝、攝津國高下郡阿成山に葬りし鎌足の遺骸を故人の遺志に因り多武峯に改葬し、その墓上に十三重の塔を建ててその南に小堂宇を建立し妙樂寺と號す。後その南に更に聖靈院を建立、鎌足の木像(二軀あり、大は造佛師千滿の作、小は近江國高男丸の作)を安置し多武峯靈廟と稱す。多武峯(談山)の名稱起因は、鎌足、中大兄皇子と共に大和國十市郡倉橋山の峯に登り社稷を祀さんとする蘇我入鹿誅戮を密かに策し且つ談せしに因り、其地を談峯(後に多武峯)と名づけしに始む。當社はもと汎く多武峯と稱せしが、中世に至り多武峯廟・多武峯靈廟・多武峯御廟等と稱す。後花園天皇御宇に大明神の神號を授けられ、依つて大織冠大明神または多武峯社と稱せり。天正年間、當社を郡山に遷せしが、慶長の頃に増田長盛郡山城に在りし時、當社を舊地に遷す。古來、國家大震災あらんとする際には鎌足の像破裂し或は鳥鳴動して止まず、此事しばしば天聽に達し之を占卜に問はしめ、使

を遣はして告文を奏し、祈禱奉幣せらるるを例とせり。明治元年神佛別遷の功に妙樂寺を廢し多武峯大明神を現社號に改稱し、同七年別格官幣社に列せらる。社殿完備し結構壯麗を極む。徳川氏の日光廟創建の時、鎌足當社に探ると云ふ、故に世呼んで關西の日光と唱ふ。現社殿は寛文年間(1761)の造営にして國寶に指定さる。なほ神廟なる十三重塔は定慧の唐より歸朝の時、彼地の清涼山寶地院の十三重塔を模し、その持參せし材料にて築成せしものにて我國唯一の塔にて國寶たり。其他數多の社寶中、洞窟盤(和銅八年の銘等)は六日の太刀・短刀と共に國寶なり。例祭、十一月十七日。〔觀音寺〕融通念佛宗。晉羽山。天智天皇御宇の創建、藤原鎌足の開基に係ると傳ふ。平安初頭一山を上・下院に分ち、寺運隆盛にして晉羽千坊の稱ありしが、貞觀十年水禍に遭ひて堂舎多く損亡す。本尊千手觀音は鎌足公の作と傳ふ。寺地は晉羽山中腹に位置し眺望絶佳たり。

で、縣の中部を占め、西に東伯郡、東は因幡國に屬する氣高郡、南は岡山縣美作國吉田・眞壁の二郡に界し、北は日本海に洗はる。面積約八一五方軒、いま倉吉・由良・赤崎・八幡の四町と四十一箇村を合み、人口一五千人餘人を擁し、縣下諸郡中面積は第二位なるも人口は首位を占む。中央部の南半は花崗岩より成りその南境には人形山・津黒山(一一八米)・佛ヶ山(七四四米)等中國山脈主軸に屬する諸山峰聳え、東部と西部は白山火山帯に屬して安山岩より成り、東境には三國山(一一五二米)・三徳山(九〇〇米)・鉢伏山(五一四米)等南北につづき、西部には山陰第一の高峰大山山(一七二三米)峯り、その東峰たる櫻葉山・鳥ヶ山・矢筈山、さては吉野時代の歴史に名高き船上山等南北に時つ。かくて地勢は南に高く北に低下し、中部の天神川(最大河)・由良川、西部の加勢川・勝田川等みな北流して、その沿岸に沖積平地を作り、郡の主要地域をなし、倉吉・由良・八幡・赤崎は各その流域に於ける中心都邑たり。農産に米・麥・蕎麥を始め甘藷・粟・雑穀等、工業には生糸を主とし織物・酒・醬油・素麵類あり、その他林産・水産もた少からず。交通には山陰街道(國道)は北部を海岸に近く東西に通じ、久世街道は長瀬村にてこれより岐れ倉吉を經て南境の大袂峠を越えて眞壁郡に出で、いづれも大部分はバスを通ず。省報山陰東部は山陰

街道に沿ひ、その上井野よりは倉吉線を岐ち、中部と北部は交通便なり。郡の東北部に東郷池(面積四・三二方軒)あり、三方山地に囲まれて西北に展げ風光の明媚と、湖畔に近く東郷温泉湧出するとを以て著はれ、また東部の三朝温泉はラザウム含有量の多きを以て開ゆ。本郡は明治二十九年河村・久米・八橋の三郡を合して遷てしもの。ト一ハク 苜蓿白 朝鮮江原道通川郡臨南面の日本海北海岸の里名。總督府鐵道東海北線の苜蓿白驛(昭和七年設置)あり。ト一バク 東幕 朝鮮京城府大興町附近の驛。總督府鐵道龍山線の東幕驛(簡易驛、昭和四年設置)あり。漢江々々の舟着場に近く、江運による木材・米・水産物等の取引あり。ト一ハツカコク 東八箇國 東八箇國ともいひ、後に關東八箇國または關八州とも稱す。即ち相模以東の東海道六箇國と東山道の上野・下野の二國を合せしもの。ト一ハル 唐原村 福岡縣豊前國榮上郡の東南部。北は南宮宮村に接し東部は山國川によりて大分郡下毛郡鶴居村・眞坂村と界し、中津市に近し。土地南北に狭長、面積約一三方軒。英彦山塊東端の山肢西境を北に低下し、その東斜面の山地多きも、東北部は北流する山國

川に沿ひて傾斜き沖積低地ありて田畑よく播げ米・麥を産し、山地は木材・薪炭を供給す。古くは和名抄、上毛郡多布都の内に於て、村名唐原は郷名の轉訛ならんか。ト一ヒ 東美鐵道 社線。美濃の東南部にあり。岐阜縣可兒郡今渡町の新廣見驛より中村の御嵩驛に至る六・八軒と、廣見町の伏見驛より錦津村の八百津驛に至る七・三軒より成る。電氣を動力とし軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸。ト一ビ 頭尾島 朝鮮慶尙南道統營郡最西端の島。東西三軒、南北二軒のほぼ楕圓形をなし、島頂は中央にありて海拔四六七米に達す。島周は險崖なり。島民は牛農半漁にして沿海に鱈・鯖・鰯・鰒等の漁獲あり。聚落は北岸の頭尾里を主とし、また東南岸の青石里は漁港を成す。行政上、遠東面に屬す。ト一フ 東府 江戸の異稱。東の都の義。

ト一ア 東武鐵道 社線。東京市淺草區の雷門驛に起り千葉・埼玉・群馬・栃木の諸縣に跨る。伊勢崎線を幹線とし日光線・上州線・龜戸線・桐生線・佐野線・東上線より成る。伊勢崎線は東京市淺草區花川戸町の淺草雷門驛より埼玉縣・栃木縣・足利市を經て群馬縣佐波郡伊勢崎町の省線南毛驛の伊勢崎驛に至る一一・四・五軒と東京市足立區栗原町の

【東部】 攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に百濟郡東部郷見ゆ。東大寺天平五年文書に住吉郡田邊郷見ゆ。また西大寺田園目録に住吉郡田邊郷見ゆ。百濟郡は歸化人の爲に住吉郡の東部に墜げ郡名にて、のち關郡とも稱し遂には住吉・東生二郡に分入せしもの。東部郷とは或は東田部の修略にして即ち田邊郷の東部の謂か。和名抄には西部郷・南部郷とも見ゆ。いま大阪市住吉區に田邊東ノ町の名残るを以て、東部郷の地は凡そこの邊ならんか。【東部面】 朝鮮黃海道瑞興郡の東南部。瑞興面の東に隣る。中央に武雲山(五二四)米聳えて北半部は山岳重疊し、南部も亦その餘勢により一般に山地を成し耕地少なし。住民は質朴勤勉なるも民度低し。産物の主なるものは大豆・大豆・粟・棉花・人蔘・藥等なり。また五雲金藏・銀積嶺山の嶺區の各一部に屬し、前者に金・銀・鉛、後者に銀・亞鉛の産あり。鐵道京義本線及び京義街道は面の南部を東西に掠れ新幕驛(采回面)に近きも面内の交通未だ便ならず。【東部面】 朝鮮京畿道廣州郡の北端。京城府東方約二〇軒、漢江左岸にあり。東部は山地を成せども西半部は漢江洪瀆地



にて土地低平地肥沃、灌漑の便よく農産物多し。産物は米を第一とし小麦・大豆・粟これに次ぎ蔬菜・果樹の栽培盛にして梨・白菜は良質を以て知らる。鐵産に金あり。陸路は京城より二等街道を通じ中部を横断して江陵邑に達し、乗合自動車あり。水路は漢江による舟楫の便ありて京城方面との物資集散を助くること大なり。

【東部面】朝鮮慶尙南道統營郡、巨濟島の南部に突出する半島部を占む。中央に老子山・加羅山・王助山等聳え山脚四方に延びて終に海に没す。従つて殆んど平地なく、海岸は岩石海岸にして多大灣・猪仇里灣・栗浦灣等の出入に富み、泊津に乏しからず。各灣頭に弓状の砂浜を有する特性を持ち、各灣頭に葉落分布す。朝鮮の陸地部とは稍異なる風習を有し、概して質朴頑固にして自尊心強く、牛農半漁にして、婦人の進んで勤勞に服する美風あり。農産物は裸麥・大麥・大豆・棉を主とし、粟・甘藷・苧麻・除蟲菊等あり。東部は巨濟鐵山の鑛區の一部に富み、銀・銅を産出す。水産物には鱈・鯧・鯉・鯛・石首魚・和布等あり、和布は内地にも移出す。陸路は北方巨濟邑より来る三等道路は北部を横断して東方一運面に通じ乗合自動車の便ある他、海岸に環狀道路ありて各灣頭葉落を連絡す。南部の芑串里に於て朝鮮海峡に突出せる岬は絶景にて巨濟海金剛の稱あり。因みに本

面は大部分寒地帯に編入せらる。西岸の加普灣・頭にある加普里は、古く鳥兒浦と稱し、初めて右水營統制使を置きし所、萬曆三十一年(三百三十四年前)その本營は今の統營の地に移され統制營と改められたり。

トーフク 同福面 朝鮮全羅南道順徳郡の東部、東南境に母后山(九一九米)、西北境に豊城山(五七三米)相對峙し、中部は丘陵起伏しその間を同福川南流し流域に水田拓く。耕地その他は丘陵上の平坦面及びその緩斜面に發達し畑作農業卓越す。産物は米・大豆・棉花・粟・大麥・煙草を主とし、其他竹細工・蜂蜜等あり。また和順炭田の一部を占め同福・袋の諸炭礦より無煙炭を多く出す。道路は面邑同福を中心として二等道路は東方順天邑、西方光州に通じ、和順・光州へパスの便あり交通不便ならず。同福は大正三年府郡合併前同福郡の郡邑たりし所に今なほ地方中心の實績を持ち、邑内の陰曆一・六の日に開く市場は面内は勿論、隣接各面を商團とし取引活發、年取引額十數萬圓に達す。其他郵便局・金融組合・警察署等あり。

トーフクジ 東福寺村 長野縣信濃國更級郡の東北部。川中島の南部に位し、西は篠ノ井町、南は埴科郡松代町との間に西寺尾村を隔て、南は青野村と界す。面積僅に四・三三方軒。南部を千曲川東流し土地低平にて水田桑園よく

拓げ、米・麥・繭の産少からず。篠ノ井町・松代町を結ぶ縣道に當りパスの便あり。省線信越本線篠ノ井驛、社線長野電鐵松代驛へ近く交通便なり。この地は和名抄、更級郡斗女郷の内なるべし。武田信玄の謀將として有名な山本勘助は此地の産なり。

トーフシ 遠節 樺太本斗郡本斗町の大字。西海岸線の遠節驛(大正九年設置)あり。

トーフチ 遠淵 樺太大泊支廳長濱郡の中部。西北部の大泊町との間に長濱村を距て、西は亞庭灣、東はオホツツク海に臨む。東部に偏し中知床山脈の脊梁走り、鷹泊山(四七三米)・尖岩山等聳え、東海岸に急に傾き、西方には傾斜緩く遠淵低地帯に續き、海岸には砂嘴發達す。この西部低地帯の大部分は遠淵湖に占められ、その周囲にはなほ濕地あるも湖に注ぐ日高川・一號川その他内川流域には農耕地あり。遠淵湖の南岸砂嘴の内側に遠淵の漁港ありて蟹その他の漁業盛なり。なほ湖よりは本島特産の寒天原料たる伊谷草を産し、牡蠣・蝦をも産す。街道は遠淵湖に沿つて走り大泊町にパスの便あり。

【遠淵湖】樺太大泊支廳長濱郡にある湖。鈴谷山脈と中知床山脈との間なる遠淵低地帯に於ける湖沼群の一湖。湖岸は遠淵村・長濱村に亘る。湖岸線の長さ三・二・三八軒、面積四〇・四三方軒。最深所

六・四米。日高川・一號川・二號川等の小河川これに注入し、西南部にて海に連る。湖よりは伊谷草・牡蠣・蝦等の産あり、殊に伊谷草は本湖特有のものにて石花菜に似て全く品種を異にせる海草、寒天材料として採取さる。湖の南岸砂嘴上には遠淵の葉落あり、殷盛な鱈漁場となる。

トーフツ 十弗 根室本線の一驛(明治四十四年設置)。北海道十勝國中川郡豊頃村にあり。

トーフツ 東湯湖 千島國國後島の南部にあり。湖岸には泊村・留夜別村に亘る。湖の西南麓に存するほぼ圓形の火成湖、東岸より東湯川を排出し海に注ぐ。河日に東湯港あり。湖岸線の長さ一五・三五軒、面積七一・四平方軒。水面の高度五米、最深所二・二米。

トーフツ 湯沸沼 北海道北見國網走支廳にある海成湖。湖岸は網走郡網走町と斜里郡小清水村に亘る。東西の長さ約八・五軒、南北は〇・八軒乃至二軒。湖岸線の長さ二七・六四軒、面積九・五五方軒。最深所三米。丸万・浦士別等の諸川南部平地を北流して之に注ぐ。西北湯沸村附近に湖口ありて海に注ぐ。西に郷寄原野を隔て、藻琴湖・オビオンツプ原野を隔てたる約一二軒に網走湖あり。

トーフン 頭分庄

改稱す。竹南郡の西北部。竹南庄の東に位置し、山脚地帯を占む。東は三灣庄、西は竹南庄、南は造橋庄、北は竹東部賣山庄に各境を接す。東部は丘陵性山地を爲し、中港溪本流は中央部を西流し、その一支流西南境を流れ、西部に平野展開し、謂ゆる竹南平野の一部にして水利の便に恵まれ、水田よく發達す。丘陵は概ね緩傾斜をなし、茶園及び果樹園として開發せらる。主要農産物は米・甘藷・粗製茶・蔬菜類・果樹類なり。山地の一部には廣葉杉の造林行はれ、用材の産出未だ見るべきものなきも、木炭の産出尠からず。養蠶は茶農家の有利なる副業として漸次隆盛に向ひつゝあり、牛・豚・家禽類の畜産と共に農家經濟の有力なる一支柱をなす。一般家庭にては婦女子の手により帽子編業普く行はれその生産高多し。工業としては製茶業注目せらる。縦貫道路は西部平野を縱走し、また西隣竹南より東隣三灣庄に至る道路は中央部を横切り軌道(手押臺車)の便を有す。管内はもと總て竹南一堡に含まれ、頭分(もと頭份に作る)附近は乾隆四年に泉人林耳順なる者、閩粵兩籍民三十餘人を合して興業となり、香山地方より進みて開拓を企て、蟠桃の部落成るも初めとし、同十六年に粵の嘉應州鎮平の人、林洪・吳永忠・温殿王・黃日新・羅德達等によりて開墾せら

れし頭分・中港(竹南庄)間の地方に田舎を造り居るもの五十餘戸二百餘人と稱せり。これも田舎の部落の位置にして、この地方開拓の根柢をなせしといふ。次いで頭份より二份・三份・四份・五份(份とは開拓せる土地股份の義なり)等の諸地を開き、三十年鎮平の人、吳有浩は頭分の北方なる茄菜坑を開きて東興の部落成り、同年同籍徐德來は頭份の北方に興隆の部落を建つ。東部山地方は嘉慶初年までなほ蕃地なりしが、十年の頃斗換坪は其の交易の地として開かれ、東方南庄方面開拓の基礎を爲す。明治二十八年帝國領以來數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的沿革と共に清領時代より存続し來りし堡を廢せられ、同時に頭份を頭分に改め、庄制を布く。

トーフツ 當別村 北海道石狩國石狩郡の一村。石狩支廳の管下。郡全城の大部分を占め、南は札幌郡江別町及び篠路村に接し、北は濱益郡に界し、東の大部分は樺戸郡に、西北は原田郡に隣る。南北約四五軒、東西は最狭部に於て四方軒、最廣部に於て約一四軒、面積約四二二〇米。嶺の外は大部分第三紀層より成り東境・西界共に最高五・六百米の丘陵性山地南北に延び、村の南端部のみ石狩平野の北部に當る。當別川北境に發し東西

兩山地より的小流を寄せつゝ、中部を南下して平野に出で南西境にて石狩川下流に合す。南部の平野と當別川に沿ふ幅狭き低地に耕地拓けて米・燕麥・小豆・南瓜等の農産あり。また石狩石油山の鑛區本村に跨がる。兩前本線桑園驛に起り留萌本線に連る省線札沼線南東部に通じ石狩太美・石狩當別・石狩金澤・本中小屋・中小屋の五驛を置き、道路また札幌より江別を経て南東部を過ぎ、月形村(樺戸郡)に出で、また月形より厚田に至るものは中部を横断し交通不便ならず。この地は仙臺支藩岩手山の城主伊達直正の家臣、吾妻謙(贈從五位)が主の志をうけて舊邑士民を第一回に百六十一名移住せしめ、翌年また百八十餘名を移せしが、その開拓に當るや艱難言ふべからず、草廬を結び之に起居せりと云ふ。

トーフツ 鑛別 弟子屈村(北海道川上郡) ↓ 鑛別

トーフ 童浦 愛知縣渥美郡にありし村。明治三十九年本村及び一町二村を廢し田原村を設く。

トーフ 東邦電力山田電車 三重縣宇治山田市の山田より内宮前に至り、また山田より度會郡二見町の二見ヶ浦に至る山田・内宮前・二見廻遊線(山田・内宮前六・八軒、山田・二見間八・二軒、内宮前・二見間九・六軒)及び度會郡四郷村の補部より朝熊岳に至る朝熊登山線・補部・平岩間の平田線四・二

トーフ 東北 邦領樺太の東北部にある山脈。所謂、樺太に於ける東部山地帯の北半にして、多來加灣頭より榮濱に至る間海中に没して南半の鈴谷山脈に連る。この山脈は露領樺太のツイエ河の東側をなす連脈が南下して邦領に入りしものにて、北緯五十度附近は幅最も廣し。主として結晶片岩と古生代の岩石より成り、樺戸山(一〇三四米)および附近の高峯を築きて、遂に多來加湖の北岸に没し、その支脈は北知床半島の低き丘陵地をなして北知床岬に没するも、その延長には岩礁・淺瀬が追跡され、臘腸形の繁殖地として著名なる海釣島となる。この山脈の西は幌内川のソンドラ地帯にて、東側は殆ど平地なくオホツツク海に臨む。蝦夷松・檜松の原始林が廣大な地域を占むるも、交通不便にて未だ殆ど放棄さる。

トーフ 省線 關東地方・東北地方(奥羽地方)にあり。東北本線・山手線・常磐線・水郡線・高崎線・上越線・十日町線・兩毛線・足尾線・水戸線・眞岡線・日光線・烏山線・川俣線・仙山東線・鹽竈線・大船渡線・横黒線・釜石線・橋場線・山田線・花輪線・八戸線・大湊線を含む。【東北本線】省線東北線の幹線。東京市麹町區丸の内一丁目の東海道本線・中央本



線東京驛より上野(下谷區上野山下町)・川口(川口市)・浦和(浦和市)・宇都宮(宇都宮市)・郡山(郡山市)・福島(福島市)・仙台(仙台市)・盛岡(盛岡市)を経て青森市古川の青森驛に至る七四〇・〇軒と、日暮里驛(東京市荒川區日暮里町)より王子區赤羽の赤羽驛に至る七・六軒、王子區王子町の王子驛より同區下十條町の北王子驛に至る一・二〇軒、王子驛より同區豊島町の須賀驛に至る二・五軒の貨物支線より成る。この線は東海道本線・山陽本線と共に本州縦貫鐵道の一にて、北海道に通ずる幹線、上野驛より青森驛には直通急行列車の運轉あり、約十三時間に達す。

**ト一六 當幌** 省線標津線の一驛(昭和十二年十月設置)。北海道根室國標津郡標津村にあり。

**ト一七 豆磨** 朝鮮忠清南道論山郡の東北端。郡邑論山と大田府との略中間なり。東北境に鷲龍山(八二八米)・冠岩山連り、西境には鷲龍山の支脈南に走り香積山(五七五米)等を起し、東南部は開けて稍廣き低地をなし地味肥沃にして農業盛なり。農産物は米・大豆を主とし、其他雜穀・蔬菜等に於てまた棗・柿・栗等の果實を産す。鐵道湖南本線は大田より來り、南内に入りて迂回し南下して論山に達し、東南部大徳郡との境に接し、豆磨驛(明治四十四年設置)ありて域内に連絡し交通便なり。栗谷密處は寺

に豆磨里附近に最も大なり。豆磨里は豆溪川右岸に在り。柿の中心産地として著る。また陰曆二・七の日に開く市場ありて附近賑賑を極む。その西北六軒の新都安(石巻里)は戸數約二千を有し、全朝建國の際、國都を此地に定めんと工を起せしも奇謀の便惡しきによりて中止せし遺蹟にして、今なほ附近に礎石等殘る。いま待天教支部あり當幌の地方的中心をなす。

**ト一八 當麻村** 北海道石狩國上川郡の略中央部。旭川市の東方に在り、これと永山村・東旭川村を隔て、面積二〇一方軒餘。上川盆地の東端に在り、東境には大雪山の一支脈南北に延びて米飯山(九二〇米)・安足山(八五一米)・東山(六九一米)等聳え、南境にも米飯山よりの山支西に連りて上米飯山・黒岩山等となり、東南部は山地深し。牛朱別川東南部に發して西北に下り東部より來る當麻川を合し、村の西北部なる上川盆地の東部を西南に流る。西北部には耕地拓げ、米・馬鈴薯・甜菜・除蟲菊・燕麥等の農産あり。省線石北線西部を北上し當幌・伊香牛の二驛(大正十一年設置)を置き、道路また旭川市に通じてバスの便あり。

**ト一九 當麻神社** 八百一畝地に鎮座。郷社。祭神、天照大神・八幡大神・春日大神。明治二十六年、當麻永山村に置かれし屯田兵の崇敬により一社を建立したるものなり。

**ト二〇 藤間** 埼玉縣北埼玉郡にありし村。明治三十四年太田村・眞名板村・岡根村と共に併合し太田村を置く。

**ト二一 玉米村** 秋田縣羽後國山形郡の中部東端。本莊町を距る東南約二五軒、矢島町の東に接し東及び南は雄勝郡明治村・田代村に界す。面積六八方軒餘。出羽丘陵中部の山地に在り、西南境には八龍山(六三八米)あるも一般には高さ二三百米の丘陵性の山地多く、本は子古川に合する石澤川の上流田代川南隣より中央部を北に貫流し、その沿岸に細長き低地ありて米を産し、山地より木炭・薪炭村を出す。また養駒行はる。本莊街道は村の東北部を東西に通じ、本莊へはバスの便あり。本村は一に到來・賜前に在り、應仁元年、山利十二黨の一入、小笠原式部少輔、信濃より來りて光元館に居り、元和年間に滅亡す。

**ト二二 堂前** 江戸時代、岡場所の一、淺草堂前、元三十三間堂前の意。深川の三十三間堂前と區別し、單に堂前と稱す、後には地名となる。但し最初深川のも堂前と云ひ區別なかりき。婦美車紫鹿子・淺草堂前、此淨土聖衣類人がらどぶ店におなじ、引車はなし。

**ト二三 堂前** 江戸時代、深川岡場所の一、元三十三間堂前の略にして、深川敷矢町をいふ。後には淺草堂前と區別し三間堂前と云ふに至る。辰巳之岡 西宮の嶺頭と

堂前のおぶらやいかせんせ。無理に長介をひつたて、船頭と一ツ所に堂前へやる。

**ト二四 唐松** 靱内線の一驛(昭和四年設置)。北海道石狩國空知郡三笠山村内に在り。村内に唐松炭礦あり。三笠山村。

**ト二五 塔岩丸** 剣山山脈の主峯、剣山(一九五五米)の西方約五軒に當り、徳島縣美馬郡祖谷山村に屬す。標高一七一八米。南東方剣山との場合より祖谷川發源して西流す。

**ト二六 堂満山** 比良連嶺の一峯。琵琶湖の西北岸、滋賀縣滋賀郡木戸村と小松村の境上に在り。標高一〇五六米。一に暮雪岳と呼ぶ。近江八景の一比良ノ暮雪とはこの附近を指す。山は森林を以て掩はれ、頂上の北側は特濃く朝られて怪奇なる山姿を呈す。

**ト二七 東海** 宮崎縣東臼杵郡にありし村。昭和十一年延岡市の一部となる。

**ト二八 燈明** 燈明崎(安曇村(三重縣志摩郡))  
【燈明岳】 ↓大鳴山(大阪府・和歌山縣境)

**ト二九 道明寺村** 大阪府河内國南河内郡の北西。大阪府住吉區界を去る東南約七軒、堺市の東方約一二軒、面積僅に四・四方軒餘。北は中河内國精華町、南は古市町に接す。北境を

西流する大和川と東境を北流する支流石川によりて挟まれ、土地低下にして田畑よく拓げ、米その他の農産多く、製綿その他の工業も少からず。東高野街道は南北に、長尾街道は東西に通じ、社線大阪鐵道南北に通じて道明寺驛(明治三十一年開業)あり。尙この附近電車四通して交通至便なり。此地は和名抄、志紀郡土師郷の地にて、野見宿禰の食邑たり。大字國府はもと河内國府の所在地、舊名を御香市といふ。欄に名高き道明寺や道明寺天神の稱ある土師神社あるを以て知らる。元和元年五月大坂夏の役の際、東西兩軍の先づ衝突せし處にして薄田兼相この地に討死す。明治二十三年薄田村を合併す。(仲津山陵) 大字澤田字仲津山にあり。應神天皇の皇后仲姫命の山陵。明治八年御治定され、修治を加へらる。(惠我長野北陵) 允恭天皇の山陵。大字國府にあり。書紀に長野原陵とあり、延喜諸陵式には惠我長北陵とある。中世に荒廢して所在を失ひ元祿年中判明す。(土師神社(天満宮)) 大字道明寺に鎮座。祭神、天穗日命・菅原道眞。同聲壽。垂仁天皇御宇、野見宿禰禰命を作りて殉死に代へんことを乞ふ、天皇これを嘉し給ひ、土師の姓を授け且つ當地を治めしめ給ふ。爾後この地を土師村といひ土師氏代々居住し、その祖神天穗日命を御祀す。聖德太子は當河内國に尼寺を創建せられし時、當地の土師八島はその郡

を寺院に改め、土師寺(現在名に道明寺)と稱す。其後、土師古人は菅原姓を賜り之より後は菅原氏を稱す。延喜元年、菅原道眞筑紫に左遷せらるるに方りて土師寺住職たる橘覺海に告別し、手彫の木像を遺す。道眞薨去後に覺海これを補修して現在地に祀る。これ當社の創建なり。また道眞の一名道明を探りて土師寺を道明寺と改め僧坊・伽藍ともに崇嚴を極めたり。戰國時代に兵火を蒙りて炎上したるも、のち織田信長・豊臣秀吉の崇敬に依り社勢再興す。明治五年に道明寺を境外に移し現社に改む。境内に道明寺五重塔の礎石・土師の靈跡・夏水井・八島塚・明治天皇行在所等あり、また附近に道明寺・國府遺蹟・允恭・應神二天皇の御陵・祭田八幡宮等を存す。社費中、銀装石帯一條・玲瓏裝牙櫛一枚は國寶たり。例祭、二月二十五日(春季例祭)・九月一日(秋季大祭)。(伴林氏神社) 村社。祭神、道臣命。式内社。例祭十月十八日。(道明寺) 大字道明寺にあり。古義眞言宗。推古天皇朝、土師八島連はその家を寺となし土師寺と稱せしに始まる。のち菅原道眞の伯母覺海尼出家して本寺に住持す。道眞筑紫へ左遷の時、こゝに一泊して別辭をなし影像を遺す。天慶四年傍に社殿を營み其像を移祀す。いまの道明寺天満宮これなり。道明の寺號は道眞の一名道明に因る。なほ古來有名なる道明寺欄は、大阪の夏の陣に寺尼が欄を將士

に與へて糧食とせしを以て知られ、今なほ境内の坊中に欄を築して諸者に鑑給す。寺寶中、十一面觀音立像(木造)一軀、同十一面觀音立像(木造)一軀、聖德太子十六歳御影立像の三軀、前二者は菅原道眞作と稱し、後者は鎌倉時代の作に係り共に國寶たり。(衣籠石器時代遺蹟) 大字國府衣籠にあり。如地に在り、大正六年以來約八十餘に近き石器時代人骨を發見せしが、その大部分は何れも手足を折り曲げて葬られ、謂ゆる屈葬の状態にて發掘せらる。瑛様石製耳飾及び白形土製耳飾を耳邊より伴出せしものもあり。大商・門商を抜除し、中に門商を銅商狀に人工變形を施せし珍奇なる人骨をも發見せり。これら之と前後して各地方にて發見せられたる同時代人骨と共に人類學上貴重なる資料たり。尙ほ各種の土器・石器類等豊富に發見せらる。

**ト三〇 ジナワテ 燈明寺** 燈明寺(中津島村(福井縣))

**ト三一 東明** 朝鮮慶尙北道漆谷郡の東部。大邱府の北方約一五軒。北に架山(九〇二米)、東に道徳山(六六〇米)、西南に明峰山(四〇二米)等聳立し、餘勢域内に及び殆んど山地を成し、耕地は緩傾斜面及び溪谷の間に點在するに過ぎず。住民は農業を主業とし質朴なれども向上心に乏しく民度低し。産物は大豆・大豆・人参・薪炭等あり、また鮮南・寶國・漆谷の各嶺山ありて金・銀・鉛等を

出ず。道路は京釜一等街道南北に縦貫し、南は漆谷及び大邱府に、北は長川・善山に通じ乗合自動車の便あり。粟落は前記街道沿線に最も多く分布す。北境なる架山は李朝時代の山城にして城壁周圍七軒餘、今なほ殘存す。南部の道徳山西麓に新羅時代の建造に係る互利松林寺あり。

**ト三二 百目木** ↓旭村(福島縣安達郡)

**ト三三 東門** 舞鶴線の一驛(大正八年設置)。京都府加佐郡舞鶴町にあり。

**ト三四 東野鐵道** 社線。下野の東部にあり。栃木縣那須郡那須野野町の東北本線西那須野驛より大田原町・川西町を経て那須村の那須小川驛に至る二四・四軒。軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸す。

**ト三五 洞爺** 北海道釧路支廳釧路國弘田郡の東南部。洞爺湖の北岸に在り東は有珠郡徳舜營村に、北は西流する貫氣別川によりて後志支廳管下の留壽都村に界す。面積約一〇九方軒、大部分は高度三三四百米臺の高原狀をなし、洞爺湖畔と東南部を西流して湖に注ぐホロベツ川に沿ひて沖積平野及び耕地あり、米・大豆・亞麻等を産す。村内また礦物資源に恵ま



れ金・銀・銅・鉛・亜鉛を採掘す。道路は中部を南北に通じ、南方省線至蘭本線...

【洞爺湖】 北海道釧路支庁洞爺湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠郡の伊達町・...

【洞爺湖電氣鐵道】 社線。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【洞爺湖電氣鐵道】 社線。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【洞爺湖電氣鐵道】 社線。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【洞爺湖電氣鐵道】 社線。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

トリーヤ 遠矢

【遠矢】 釧路線の一驛(昭和二年設置)。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【遠矢】 釧路線の一驛(昭和二年設置)。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【遠矢】 釧路線の一驛(昭和二年設置)。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【遠矢】 釧路線の一驛(昭和二年設置)。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【遠矢】 釧路線の一驛(昭和二年設置)。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【遠矢】 釧路線の一驛(昭和二年設置)。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

トリーヤ 洞爺湖電氣鐵道

【洞爺湖電氣鐵道】 社線。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【洞爺湖電氣鐵道】 社線。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【洞爺湖電氣鐵道】 社線。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【洞爺湖電氣鐵道】 社線。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【洞爺湖電氣鐵道】 社線。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

【洞爺湖電氣鐵道】 社線。北海道釧路支庁洞爺湖支庁洞爺湖村の室蘭本線洞爺湖駅より同村の洞爺湖南岸なる洞爺湖温泉町の湖畔駅に至る八・六軒。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸す。昭和四年開通。附近に電氣會社經營のゴルフ場あり、湯治・探勝・ゴルフ等の訪客によりて利用せらる。

トリーヤ 東陽

【東陽】 千葉縣下總國東陽郡の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て、西は山武郡横芝町に隣る。土地は一般に低平なるも中部に細長く乾草沼横はり、沼の西北部は臺地状をなして針葉樹林地をなし、南部の低地は耕地となり水田開く。米を産し養蠶・養鶏も行ふ。省線總武本線は北部を通じ横芝驛(横芝町地内)に近く、縣道またこれに沿うて通じ交通便なり。昭和十年國勢調査によれば人口二九九九人、一方軒の密度は二七四人にて全國平均密度の一八一人より大なるも、本郡平均の三八六人に比し少く郡中には稀薄なり。【熊野神社】 大字宮川に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命・速玉男命・事解男命。貞觀十八年の勸請と傳へ、もと宮川八領境ノ宮・熊野新宮大権現と稱し、古來近郷十八ヶ村の總鎮守たり。例祭、陰曆三月十五日。【東陽面】 朝鮮平安南道陽徳郡の西南部。郡邑陽徳の東南約二三軒。半島の香葉山脈に屬する山地にして、四境殆ど山を以て圍まれ、北境に戴雲山、東境に白雲山、また南部黃海道谷山郡との境には霞嵐山(一四八六米)等聳え、餘脈域内に延びて山岳重疊し平地に乏しく、大同江支流南江は中部を南北に蛇曲貫流し、この流域に狭き低地展開。住民は主として畑作農業に従ひ、大豆・小麦・粟・糠草等を産し、牧牛・養蠶行はれまた麻布・絹布等

【東陽】 千葉縣下總國東陽郡の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て、西は山武郡横芝町に隣る。土地は一般に低平なるも中部に細長く乾草沼横はり、沼の西北部は臺地状をなして針葉樹林地をなし、南部の低地は耕地となり水田開く。米を産し養蠶・養鶏も行ふ。省線總武本線は北部を通じ横芝驛(横芝町地内)に近く、縣道またこれに沿うて通じ交通便なり。昭和十年國勢調査によれば人口二九九九人、一方軒の密度は二七四人にて全國平均密度の一八一人より大なるも、本郡平均の三八六人に比し少く郡中には稀薄なり。【熊野神社】 大字宮川に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命・速玉男命・事解男命。貞觀十八年の勸請と傳へ、もと宮川八領境ノ宮・熊野新宮大権現と稱し、古來近郷十八ヶ村の總鎮守たり。例祭、陰曆三月十五日。【東陽面】 朝鮮平安南道陽徳郡の西南部。郡邑陽徳の東南約二三軒。半島の香葉山脈に屬する山地にして、四境殆ど山を以て圍まれ、北境に戴雲山、東境に白雲山、また南部黃海道谷山郡との境には霞嵐山(一四八六米)等聳え、餘脈域内に延びて山岳重疊し平地に乏しく、大同江支流南江は中部を南北に蛇曲貫流し、この流域に狭き低地展開。住民は主として畑作農業に従ひ、大豆・小麦・粟・糠草等を産し、牧牛・養蠶行はれまた麻布・絹布等

【東陽】 千葉縣下總國東陽郡の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て、西は山武郡横芝町に隣る。土地は一般に低平なるも中部に細長く乾草沼横はり、沼の西北部は臺地状をなして針葉樹林地をなし、南部の低地は耕地となり水田開く。米を産し養蠶・養鶏も行ふ。省線總武本線は北部を通じ横芝驛(横芝町地内)に近く、縣道またこれに沿うて通じ交通便なり。昭和十年國勢調査によれば人口二九九九人、一方軒の密度は二七四人にて全國平均密度の一八一人より大なるも、本郡平均の三八六人に比し少く郡中には稀薄なり。【熊野神社】 大字宮川に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命・速玉男命・事解男命。貞觀十八年の勸請と傳へ、もと宮川八領境ノ宮・熊野新宮大権現と稱し、古來近郷十八ヶ村の總鎮守たり。例祭、陰曆三月十五日。【東陽面】 朝鮮平安南道陽徳郡の西南部。郡邑陽徳の東南約二三軒。半島の香葉山脈に屬する山地にして、四境殆ど山を以て圍まれ、北境に戴雲山、東境に白雲山、また南部黃海道谷山郡との境には霞嵐山(一四八六米)等聳え、餘脈域内に延びて山岳重疊し平地に乏しく、大同江支流南江は中部を南北に蛇曲貫流し、この流域に狭き低地展開。住民は主として畑作農業に従ひ、大豆・小麦・粟・糠草等を産し、牧牛・養蠶行はれまた麻布・絹布等

【東陽】 千葉縣下總國東陽郡の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て、西は山武郡横芝町に隣る。土地は一般に低平なるも中部に細長く乾草沼横はり、沼の西北部は臺地状をなして針葉樹林地をなし、南部の低地は耕地となり水田開く。米を産し養蠶・養鶏も行ふ。省線總武本線は北部を通じ横芝驛(横芝町地内)に近く、縣道またこれに沿うて通じ交通便なり。昭和十年國勢調査によれば人口二九九九人、一方軒の密度は二七四人にて全國平均密度の一八一人より大なるも、本郡平均の三八六人に比し少く郡中には稀薄なり。【熊野神社】 大字宮川に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命・速玉男命・事解男命。貞觀十八年の勸請と傳へ、もと宮川八領境ノ宮・熊野新宮大権現と稱し、古來近郷十八ヶ村の總鎮守たり。例祭、陰曆三月十五日。【東陽面】 朝鮮平安南道陽徳郡の西南部。郡邑陽徳の東南約二三軒。半島の香葉山脈に屬する山地にして、四境殆ど山を以て圍まれ、北境に戴雲山、東境に白雲山、また南部黃海道谷山郡との境には霞嵐山(一四八六米)等聳え、餘脈域内に延びて山岳重疊し平地に乏しく、大同江支流南江は中部を南北に蛇曲貫流し、この流域に狭き低地展開。住民は主として畑作農業に従ひ、大豆・小麦・粟・糠草等を産し、牧牛・養蠶行はれまた麻布・絹布等

【東陽】 千葉縣下總國東陽郡の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て、西は山武郡横芝町に隣る。土地は一般に低平なるも中部に細長く乾草沼横はり、沼の西北部は臺地状をなして針葉樹林地をなし、南部の低地は耕地となり水田開く。米を産し養蠶・養鶏も行ふ。省線總武本線は北部を通じ横芝驛(横芝町地内)に近く、縣道またこれに沿うて通じ交通便なり。昭和十年國勢調査によれば人口二九九九人、一方軒の密度は二七四人にて全國平均密度の一八一人より大なるも、本郡平均の三八六人に比し少く郡中には稀薄なり。【熊野神社】 大字宮川に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命・速玉男命・事解男命。貞觀十八年の勸請と傳へ、もと宮川八領境ノ宮・熊野新宮大権現と稱し、古來近郷十八ヶ村の總鎮守たり。例祭、陰曆三月十五日。【東陽面】 朝鮮平安南道陽徳郡の西南部。郡邑陽徳の東南約二三軒。半島の香葉山脈に屬する山地にして、四境殆ど山を以て圍まれ、北境に戴雲山、東境に白雲山、また南部黃海道谷山郡との境には霞嵐山(一四八六米)等聳え、餘脈域内に延びて山岳重疊し平地に乏しく、大同江支流南江は中部を南北に蛇曲貫流し、この流域に狭き低地展開。住民は主として畑作農業に従ひ、大豆・小麦・粟・糠草等を産し、牧牛・養蠶行はれまた麻布・絹布等

の工業あり。北部に平壤・元山間に一等道路通じ、東陽に於て谷山街道を設ち、何れもバスの便あり交通不便ならず。主邑東陽は南江左岸に位し、市場・金融組合等あり。本面は大正十年までは陽徳面と稱し、古く李朝開國二十四年に東陽に陽徳縣の縣衙を置かれ、其後いまの陽徳(舊稱破邑)に邑を移し、復た東陽に移し、かくすること三度、大正十年八月に復た邑を破邑に移し同時に陽徳新邑と稱し、舊の陽徳は東陽と通稱するに至る。

【道陽面】 朝鮮全羅南道高興郡の西部。高興半島の西方に突出せる副半島部と屬島得根島とより成る。南端に鳳岩山(二二二米)聳えて航路の好標識を成せる外、西北部に丘陵の小起伏を見れども、概して土地低平耕地よく拓く。海岸は出入に乏しく西岸は深く干潟せざるも、南岸と北岸は干潮時に干潟が海中に達し船舶の繫留便ならず。大豆・棉花・粟・大麥等の農産物を出し、海産物には石首魚海苔等あり。東北方の高興邑より三等道路來り域内を縦貫し、南端の龍井里より對岸の小龍島へ渡航連絡あり。面色なる官里は中央部に位し、高興との間にバスの便あり、その東南方海岸に定期に開く市場を有す。

【東螺】 臺灣濁水溪下流域の北岸に沿ふ一帯地域の舊區劃名。員林・北斗二郡(臺中州)に互り、東螺東堡・東螺西堡に分

る。この二堡は清の康熙六十年代に建てられ、初め東西合して東螺堡と稱せしが乾隆年間二堡に分立し、我が領臺後も存置せしが、大正九年十月、前記二郡の郡に配屬す。【東螺街】 北斗街(臺灣) 郡の中央部。東北には公館庄に接し、東南部には大湖郡大湖庄に、西部は通霄庄に、南は三叉庄に、北部は苗栗街・西湖庄に各々隣す。管内は概ね山地にして、北部に若干の平地を見るのみ。従つて産業は不利なれば、農業は庄下の主要産業にして、住民の大半は斯業に従事す。その主産物は米、他に甘蔗・甘藷・蔬菜を若干生産す。また芭蕉・柑橘等の果實生産あり。山手方面よりは、木材の外、薪炭材・竹材等の林産物あり、野桑多く既設桑園五〇餘ヘクタールを有し、近年は養蠶額に盛となる。交通は、本島縦貫線(山線)の銅鑼驛(明治三十六年開業)の地に設けられ、また北隣苗栗街との間には大道路開かれて自動車便ありて管内貨客の搬出入に不便ならず。大字銅鑼の地は、もと銅鑼灣と稱し、清の嘉慶初年廣東の移民によつて開かれ、往時より通霄・苑里等の海岸地方に通ずる要路に當る。本庄の地は領臺以前には、光緒十四年に建てられし苗栗一堡に屬す。苗栗一堡は我領臺後にその行政區劃の一として用ひられしが、大正九年十月の大改正に

は和名抄、埴生郡山方郷の内なるべし。元弘八年の大徳寺文書に下總國遠山方御厨となるは此地なり。(三里塚牧場) 本村及び富里村に隣る。面積約三千四百ヘクタール。此地は文武天皇朝に創設せられ、往古の佐倉七牧の地にあるをもつて古くより我國有数の牧場地なりしが、多くの變遷を経て明治十八年御料地に編入せられ、宮内省下總御料牧場と稱し、海外より馬・牛・羊等の良種を輸入し、我國に於けるそれら畜類の改良に頗る貢獻せり。一方、附屬農園ありてアメリカ式の大農法により耕作せられ、放牧と共に、これ等の景は異國情調の濃厚なるものあり。また櫻の名所に於て、その數五萬本を超え、花季は遊覽者多し。【遠山村】 岐阜縣美濃國惠那郡の南部。岩村町の西南に隣る。北境に夕立山(七二七米)聳立し、南部にも八〇〇米に及ぶ山地連立し村域概ね山地なるも、中部を小里川西に流れ、谷地及び小里川流域に低地ありて田畑開け米を産し、副業として養蠶・養鶏・養豚を行ひ、また山間の高地を占むるを以て、氣温やや寒冷となり寒天製造をなす。街道は小里川に沿うて通ずるも交通便ならず。昭和十年國勢調査によれば人口二七八九人、一方軒の密度は八二人なり。此地は和名抄、惠那郡淡氣郷の内なるべし。東鑑文治元年の條に、美濃國遠山庄とあるは此地にして村名は庄名の遺稱なり。

際し、當時、新竹館に屬せし本堡中より十庄を割きて一庄を建て、銅鑼庄とす。【東菜江】 朝鮮平安北道の西部を流るる河。龜城郡の南部、秋陽嶺山脈の佳入峠南斜面に發源し、始め西南流し次いで定州・宣川二郡界を南流し、喇叭狀河口をなして西朝鮮海に注ぐ。流程四〇軒餘。下流域域には沃野ひらけ農産に富む。【東菜郡】 朝鮮慶尙南道二府十九郡の一。朝鮮半島の東南端にあり、北は蔚山・梁山の二郡に接し、西は洛東江を隔てて金海郡と相對し、東部一帯は朝鮮海峡に臨み對馬の北端齋浦と相距ること僅に三〇哩、面積五三六方軒。大白山脈の東端部に當るも、老年期の地勢をなす多くは丘陵性なり。ただ金井山塊はやや高く東北より西南に走つて全部を斜に中斷し、その東麓に名刹梵魚寺・東萊温泉あり。西部の洛東江沿岸は低平にして廣漠たる沃野長く連り、南部の水營江及び東北部の佐光川の流域にも平地横はる。海岸は比較的出入に富めるも、大船を繫泊すべき好適地は少く、漁港としては東岸の伊川灣及び大邊灣に見るべきものあり。總戸數一萬六千餘のうち、農業六四%、水産業八%、工業二%、商業及び交通業九%の割なり。耕地は畑に比し水田著しく多く米を第一として大麥・裸麥・陸地棉・大麻・甘藷等の農産あり。氣候温和なるを以て梨・葡萄・柿・苹果等の果樹栽培

行はる。牛・豚・鶏の飼養も盛なり。水産物に太刀魚(二二萬圓)を筆頭に鱈・石首魚・鱈・鱈・海鏡および和布・海苔・石花菜・岩海苔・食鹽等あり。工業は魚油・魚肥・綿織物・麻布・製糖・蠶工・蠶子等多し。域内の交通便にして、西部に總督府鐵道釜本線、南部及び東部に同じく東海南部線走り、前者に沙上・龜浦の二驛、後者に西面・東萊・水營・海雲臺・松亭・機張・三聖・佐川・月内の各驛あり、東萊・釜山間には電車及びバスの便あり。東萊邑を中心として北方梁山、東方海雲臺、東北蔚山等へも改修道路通じてバスの便あり。行政上、一邑十面に分ち、郡廳を東萊邑壽安洞に置く。人口密度一方軒當り二二〇人、道平均一八三人に比し頗る多く、統營・南海二郡に次ぎ第三位にあり。本郡は三韓以前既に襄山國と稱ふる一國を成せしが、新羅景徳王十五年に東萊郡となる。のち高麗顯宗の時に蔚州に屬せしめられ李朝に入り領を置く。其後幾多の變遷ありしが、明治四十三年日韓併合と同時に釜山府となり、大正三年府郡廢合及び府制實施に際し、釜山府を除く部分と機張郡とを合し東萊郡を設け、次で昭和十一年四月、西面一圓及び沙面一部を釜山府に譲り今日に及ぶ。【東萊邑】 朝鮮慶尙南道東萊郡の略中央。釜山府の東北に隣る。北に九月峰、東南に眞山・益山・金蓮山等相連り、西境には金井山脈東北より西南に走り、關嶽山地

【東萊邑】 朝鮮慶尙南道東萊郡の略中央。釜山府の東北に隣る。北に九月峰、東南に眞山・益山・金蓮山等相連り、西境には金井山脈東北より西南に走り、關嶽山地



トイラ トアハ

を以て圍繞するも、何れも高岳ならず低平にて水質の灌漑する肥沃の水田連り農業盛なり。住民は農を主とし傍ら養蠶を行ひ、商工業に従事する者また少なからず。産物は米・大麦・裸麥・大豆・烟草・棉・果實(梨・葡萄)等の農産及び生牛・油・綿布・麻布・清酒等の工産品あり、鐵道東海南部線は邑の中央を走り、東萊驛(昭和九年開業)あり、西部の東萊温泉(釜山より電車を通じ、また道路網よく發達して釜山・海雲臺(南面)・機張・梁山・蔚山の各地にバス通す。東萊は往時に兵馬使を控かれし所にして朝鮮征伐の時、小西行長の軍勢、城將宋象賢をここに破る。市街は東萊川畔に發達し、郡廳・郵便局・地方法院出張所・穀物検査出張所その他に金融組合・中學校等あり。また定期の開市にかゝる東萊市場あり。一ヶ年取引高四萬圓以上(昭和十一年)にて殷盛なること郡中第一なり。市街の北方なる東萊温泉場は朝鮮屈指の温泉町として聞え、弱懸温泉にて無臭透、釜山より僅か三〇分にて達す。設備完備の共同大浴場をはじめ大小旅館・料理店等あり。温泉の後方に金井山公園あり、風光絶佳にして、南朝鮮金剛の稱あり、そのうち約四九ヘクタールは東萊邑の經營に係る。

トイラン 荳蘭 東萊線の一驛(明治四十四年設置) 臺灣花蓮港臨平野區にあり。

トトリクマ 通熊

同縣の古地名。和名抄に長下郡通熊郷あり。正保利久萬と註す。中世には淺羽莊といふ。いま磐田郡幸浦村の地名に同堂あり、ドウリと訓するは郷名の遺稱の轉訛と見るべく、從つて郷城は前記幸浦村の外に上淺羽・東淺羽・西淺羽の諸村に互る地を稱するか。

トトリユー 頭流

【頭流山】 朝鮮咸鏡南・北道界を走る摩天嶺山脈の中の一峰。咸鏡北道吉州郡鳴社面と咸鏡南道端川郡北斗日面とに跨り、標高二三〇九米。北斜面に南大川上支、南斜面に北大川發し共に日本海に注ぐ。總督府鐵道惠山線の合水驛は東北約九軒にあり。

トトリユクツ 疎龍窟

朝鮮平安北道寧邊郡龍山面にある大鍾乳洞。總督府鐵道龍登線の龍窟驛はその東北約一軒にあり。龍山面

トトリヨウ 東良面

朝鮮忠清北道忠州郡の東端。忠州邑に東隣す。東半部は東嶺山脈に屬する山地にして珠峯山(六四三米)・人登山(六六七米)・冠墓山等聳え、漢江支流堤堤川川はこの山地中を派入蛇曲して南流し、城外に於て漢江

に合し、次で本流に面の南流を調して西流す。西部は丘陵起伏しその緩斜面に耕地あり。農を主とし副業に養蠶をなす。米・大豆・麻・棉花・荏を産し、殊に烟草は米國種の黄色烟草の栽培盛なり。道路は忠州より二等道路を通じ西部を縦貫して、のち東方堤堤川に達しバスの便あるも、東部は坂路多く交通便ならず。

トトリン 東林

朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛(明治四十一年設置) 平安北道宣川郡新府面にあり。

トトリレン 轄連島

關東州盤子高民政署管内嶺子島會の一屬島。嶺子島の東北約三軒、大靉岸の西北約一軒にあり、東西二島ありて中間なる細き岩礁によつて殆ど相連る。共に長さ約一軒、幅〇・五軒。山地に聳えて東西に傾斜し海岸に沿ひて所々小低地を存し、こゝに小聚落あり、相合して轄連島をなす。

トトリ 東魯面

朝鮮慶尙北道開慶郡の東北部。郡邑同慶の東方約一五軒。西境に文鏡峯(一一六二米)・功德峰、また西部中央には黃鶴山(一〇七七米)等聳えて平地無く、東部は溪谷に沿ひ小低地散在するに過ぎず、而も低地高度は尙三〇〇米を有す。産物は粟・大豆・大麦等に、米は少なく薪炭は重要な移出品をなす。聚落は僅に赤城里外に四五を數ふるのみ。面色赤城里は面の略中央に位置して、面内道路網の核心を成し、陰曆三八の日に開く市場あり。赤城里の南約三

軒に高麗末期の造なる結城の址あり。

トトリ 塔路炭礦

【塔路】 北海道釧路國川上郡標茶村の大字。釧網線の塔路驛(昭和二年設置)あり。驛の近くなる釧路湖は湖岸線の長さ一八・五軒、面積六・三二平方軒、水面高度八米、最深所七米。

トトリータン 東老灘會

關東州盤子高民政署管内の東部。盤子高の東方に位置し之と夾心子會を隔て、南は海に面す。北境に近く東西に低き丘陵起伏するも其他は土地平坦、南半には鹽田廣く東西に連りて天日製鹽盛に行はる。釧網線の夾心子驛・城子驛驛にも遠からず、道路また四通し交通不便ならず。

トア 社

臺灣高雄州屏東郡の蕃社。カウ社溪上流左岸の地に於て海抜約六六五米の山地。高砂族の部落にしてパイワン族中ラバルの系統に屬す。人口五九五。

トアカウ 社

臺灣臺東廳臺東郡の蕃社。大竹高溪上流の左岸、高砂族の中パイワン族バカロカロの系統に屬す部落。

トアサ 遠淺

北海道釧路國勇那郡安平村の大字。室蘭本線の遠淺驛(明治三十五年設置)あり。

トアハル 社

臺灣臺東廳臺東郡の蕃社。大竹高溪中流左岸の地。高砂族の部落にしてパイワン族中バカロカロの

トイ 土肥町

靜岡縣伊豆國田方郡の西南海岸。北は戸田村に、西南は西豆村に接し、南境東半は賀茂郡宇須村に界す。西北部は達磨火山の西南麓、東南は猫越火山の西北斜面にて全村殆ど山地をなす。西部駿河灣岸の中部に小低地あり。土肥嶺山ありて金・銀を産し、他に水産・林産あり。東北修善寺町方面より縣道通じバスの便ある外、沼津・宇久須へも船便あり。古くは和名抄那賀郡井田郷の内とす。土肥神社の舊記に伊豆國那賀郡、稻田庄土肥郷と見ゆ、稻田は井田の訛なるべし。北條俊高帳には西土肥を以て、即ち伊豆國の西浦なればなり。村名は一に土肥神社の祭神豐御玉姫命の豊より起れるならんといふ。古來、金山と温泉とを以て通稱著聞す。昭和十三年町制を施行す。(土肥温泉) 無色透明の食鹽泉。伊豆西海岸唯一の温泉場にして、達磨山・猫越岳を負ひ、前に駿河灣を控へ、遙に清見湯一帯の翠黛を翠む。(土肥嶺山) 町の海岸近くにある金銀嶺山。我國重要嶺山の一。嶺床に海岸より僅に五、六百米遙より横がり嶺區六三五、二〇〇坪に互る。附近は主として變質安山岩にて、その岩石中に石英脈として夾有存在す。當山の開發は古く天正五年にて寛永に至るまで約五十年間採掘せられしが、最盛時は慶長十年の頃といふ。其

トイ トイ

後衰退せしが明治三十六年頃より再び採行せられしも多額の産出なかりき。然るに近年金の需要により急に活氣を呈し、殊に昭和九年には六三〇尺銀富嶺帯(品位金二〇瓦、銀一五〇瓦)を見出す等の事あり、嶺山は事務所と云はず、社宅と云はず一變するに至る。同十年には鑿岩機インガールランド十五臺を新に入れられ、また従来の鑿坑其他の掘進もありて坑道及び切端が伸展したるを以て坑内運搬設備として新に電氣捲揚機を設置す。之に伴ひ坑外にも電氣捲揚機を新設す。當嶺山はもと一餘り高き處にあらざるが、漸次掘下げしため水準下になるものあり。其他、出水するものあるを以て排水用タービン五臺を新に設備する等發展著し。同十年には金銀嶺四八、三五四越、價額二二七萬餘圓、從業鐵夫は同年六月末現在にて四七四人。なほ當嶺山は土肥金山株式會社の經營に屬し、鐵石は四坂島住友製鐵所に製鍊せらる。

トイ 戸井村

北海道渡島國龜田郡の東南部。渡島支廳管下。津輕海峡の北岸に位置し函館の東方約二〇軒、東は尻岸内村、西は鏡池澤村に隣り、面積五三方軒餘。北境に笹積山・氣無山等ありて山肢南に延びて海に迫り、海岸中部に汐首岬、東部に日浦岬等を作る。全村山地多く原木川・戸井川等みな南流し此等の下流に小低地を作る。漁業益にて鮭・鱈・昆布・柔魚等の産多く、陸上には馬鈴薯・

大豆・米・木材等を出す。西は函館、東は根法華(バスの便あり) 村内に陸軍築城部戸井出張所あり。汐首岬は南方青森縣下北半島の西北角大間崎に相對し、津輕海峡の東口を成す。其間約一九軒、海峽中最も狭き所とす。岬の半腹に汐首岬燈臺あり、不動白色、光達距離一八・五里、また霧笛信號の設備ありて一分を隔て五秒吹鳴す。この附近一帯は要塞地帯たり。汐首の稱は、アイヌ語のシリボク(山下の義)と訛りしものといふ。

トイ 都井

【都井村】 宮崎縣日向國南那珂郡の最南端。東と南は太平洋に臨む。面積約三九方軒。北境に高畑山(五一三米)ありてその山嶺は東及び西南に延びて末は海に没し、中部の山肢は都井岬の半島となりて東南に突出すること約四軒、その南端を黃金洞といふ。この半島頸部の東西海岸その他沿岸處々に小低地あり。米・麥・甘藷等の農産あり。山嶺北境を限るため交通にして不便なり。中世は楠間院の内に屬す。「都井岬蘇鐵自生地」指定天然記念物。都井岬の南端の一角に位置する御崎神社境内及び附近原野にあり。數百數十本に及び概して小形なるも周圍九〇種に達するものも存し、高さは一米半乃至一米八に過ぎず。岬一帯の丘阜の半復以上には放牧場ありて幾百頭の馬群遊し、舊時藩主が馬追の時、徳を下りし籠立の邊は眺衆よく、附近に彌生式土器の包含地



トイ トウル

と省線豫本線北部の平地を横きり、省線に伊豫土居驛(大正八年設置)あり。また三島町方面へ乗合自動車の便あり。古くは和名抄字摩津根郷の内なるべし。また延喜式部式の近井驛も本村の邊なるべし。中世、村内に關を設け字摩關と稱す。今なほ字名に關川あり。此地は伊豫の名族土居氏の出でし所とす。土居氏は物部氏族河野氏の一族にして、元弘の忠臣土居通治最も顯る。

に「大社にて、社領五十貫、月次の神事ありたり」と見ゆ。例祭、十一月四日。〔報恩寺〕曹洞宗。應永二十二年當郷領主紀實平の創建にて、法燈國師を請じて開山とす。天文二十一年大寄和尙、甲ノ森城主長山伯耆守と圓りこれを再興す。天正中、長山氏亡ぶや本寺も焼滅せられ、明曆中に祖曉和尚の再建なり。

【土居村】愛媛縣伊豫國東宇和郡の東南部。地東北より西南に延び、東北は高知縣高岡郡檜原村に界し、西南は北宇和郡日吉村に接し、東南部は日吉村との間に高川村を隔つ。面積四四方新餘あるも四周山嶺を繞らし東北部の三瀧山は六四二米、西南境上の御在所山は九〇八米の標高を示し、全村殆ど山地にて森林多くなだ中部と西部には谷地ありて聚落は多くこゝに散在す。主生業は農にして米・蕎麥を産し、また酒・材木・薪炭を出すもその額多からず。省線宇和島線出目驛(北宇和郡泉村)より西隣魚成村へのバスの路線に當るも交通は便ならず。大字窪野に三瀧城址あり。北之川式部大輔紀實安の居城にして、天正年中、長曾我部氏と合戦數度に及びしが、同八年終に攻略せらるると云ふ。〔三島神社〕大字土居に鎮座。祭神、大雷神・大山祇命高靈神。白河天皇永保元年、越智郡大三島大明神を勧請せしに始まるといふ。舊記

【土居村】高知縣土佐國安藝郡の西部。安藝町とその北および東に接する井ノ口村・川北村の間に介在する面積二、五九方新の小村。東境を南流する安藝川の沖積地上に位し、全村耕地よく拓け米・蕎麥を産し、人口稠密なること郡内安藝町に次ぐ。古くは和名抄、安藝郡玉造郷の地にして、中世は安藝庄に入る。戦國時代安藝國虎の居城地たり。安藝氏は蘇我赤見大臣の末裔にして、平家滅亡の時、能登守教經と組み入水せし安藝太郎の後なり。數十代この地を領してその繁榮を極めしが、永祿六年に長曾我部元親のため滅ばされ、のち山内家々老五藤氏の所領となる。幕末の勤王家新井竹次郎(贈從五位)は此地の人とす。

トイウ 問究 蝦夷の古地名。書紀齊明天皇の五年、阿倍比羅夫の蝦夷を征せし時に問究蝦夷と見ゆ。問究はいま北海道の西南部の地なるべけれども明かならず。

トイカンベツ 問寒別 北海 道天鹽國天鹽郡延村の大字。宗谷本線

トイシ 砥石

【砥石】關東山脈大菩薩連嶺の高峰。大菩薩嶺(二〇五七米)の南西稜に横き、山梨縣東山梨郡神倉村に峙つ。標高一六・五米。甲斐より武蔵に至る大菩薩峠路はこの山の北山腹を越ゆ、その最高點を砥石峠と云ふ。

【砥石山】筑紫山脈の高峰。福岡市の東方約一五新、福岡縣糟屋郡須恵村と嘉穂郡大分村の境上に位す。標高八二六米。花崗岩より成る。南東稜に三郡山(九三七米)連る。筑紫風土記に依れば、此山より砥石を出すに因り山名出づと云ふ。その石は肥後天草砥石に似る。

トイヌ 戸石村 長崎縣肥前國北高來郡の西南部。千々石灣西北岸に沿ひ、長崎市の東北界より東方約六新、東は田結村、西は西彼杵郡矢上村に隣る。面積約七・六方新。村内山地起伏し西北境に行仙嶽(四五六米)・船石嶽(四五二米)そびえ、南部中央にやや低地開け南岸に近く牧場あり。米・蕎麥・甘藷・粟を栽培し水産も少からず。中央に縣道東西に貫きて自動車を通ず。

トイタ 戸板村 石川縣加賀國石川郡の北部。金澤市の西に接す。面積五・四方新餘の小村なるも、金澤平野の一部にて土地肥沃、水田よく拓け米の産多く、また梨・蓮根の他に野菜栽培行はる。金澤市に接するため交通便利なり。もと豊

トイテ 戸出町

富山縣越中國西礪波郡の東北部。高岡市の西南方約八新、西は石動町へ約一〇新、東は東礪波郡北般若村に界す。面積僅に五方新餘。礪波平野の略中央部に位し土地低平にして田地よく拓け米の産多し。また綿織物・麻織物の産額多く、薬品の製造も行はれ地方的商業の中心地をなす。省線中越線に沿ひて戸出驛(明治三十年設置)ありて縣道四通して、高岡市・石動町・出町等とはバスを通じ、交通至便なり。此地近世は庄下庄に屬す。〔永安寺〕曹洞宗。海雲山と號し明徳年間に瑞雲和尚の創建、明暦年間に大檀家中條村川合又左衛門の再建なり。〔報恩寺〕眞宗本願寺派。高龍山。東京報恩寺開祖性信房八代の孫運崇の開創。當時末寺十七箇寺を有せりと云ひ、現に當派二十四箇所の第一たり。

トイノクビ 土井首 長崎縣 西彼杵郡にありし村。昭和十三年長崎市に入る。

トイマキ 問牧 北海道北見國枝幸郡枝幸村の大字。興濱北線の問牧驛(昭和十一年設置)を設け。

トウルイ 社 臺灣臺北州縣東郡の舊社。宜蘭濁水溪の東岸トウルイ溪との合流點の地。高砂族の部落、アマヤ族中の溪頭番・カマガン番に屬す。

トガ 戸賀村

秋田縣羽後國南秋田郡男鹿半島の西端。北浦町の西に隣り、南は南磯村に接し、西は日本海に面す。地南北に狭長にして面積一八・八方新。東南境には北より南に火山岩より成る眞山(五七二米)・本山(七一六米)・毛無山(六七三米)あり。西方に急斜し、海岸は崖岸をなし、海蝕による洞窟・天然橋・懸崖等の奇景に富む。北方には火口壁の一部の陥没によりて成れる戸賀灣ありて、その岸には段丘の發達を見る。概ね山地にして農産物少く、住民多くは漁業に従事し、また出稼をなす者、全人口の三五%を占むといふ。交通は海陸共に不便にして、村の北部に東方北浦町に通ずる道路あり。戸賀灣内の戸賀港には現今も猶ほ獨木船浮び、交通機關をなす。

トガ 利賀村

富山縣越中國東礪波郡の東南部。主として庄川の支流利賀川及び神通川の支流百瀬川上流の山地にて、北は井波町・東山見村に、西は平村に接し、東は婦負郡山田村・大長谷村に、南は岐阜縣吉城郡河合村及び大野郡白川村と界す。南北約三二新、東西五一七新、面積約一六八方新を占むる大村。五箇山谷の東北部をなす山地にて、三條の山肢南北に長く横き、その間に東西の二谷をつくる。百瀬川は東谷を、利賀川はその西谷をいづれも北流し、利賀川は西北境に於て庄川に合す。聚落は各谷合に散在し、林業・製炭・養蠶等行はる。庄川は

トカ トカク

北隣東山見村の小牧サマのために人工湖をなし、右岸に大牧温泉の湧出あり、舟楫の便あり。小牧より青島村・井波町へバスの便あり。明治二十二年、町村制施行の際利賀山に因りて利賀村とす。村内に指定天然記念物二あり、懸谷のとのき、利賀のとのき即ち之にして、共に一株、代表的巨樹なり。

トガ 東河村

兵庫縣但馬國朝來郡の北東端。西南は和田山町に、南は梁瀬町に、東は京都府天田郡(丹波國)上夜久野村に隣る。面積一六・四方新。南北兩境に高度五百米の山地あるも中部には東西に低地あり圓山川の一支西流し、流域に耕地拓け米・蕎麥・茶等を産す。縣道東西に通じ、西南隣和田山町の省線山陰本線と播磨線の連絡點たる和田山驛に近く交通不便ならず。この地は和名抄、朝來郡東河郷(調、土加)の地なり。

トガ 戸内町

広島縣安藝國山縣郡の西部。面積一九一方新餘の廣きに互り、南は加計町・殿賀・上殿・筒賀の四村、北は中野・雄鹿原・八幡の三村に隣り、西は佐伯郡吉和村・島根縣美濃郡道川村と界す。中國山脈の支脈數條概ね東北―西南の方向をとりて斷續起伏し山地廣く、町の東北部は加計町の西北部と雄鹿原村の東南部との爲に縫れて自ら一區域をなし、瀧山川その中部を北より南に貫流し、また西南部は太田川の上流南流し、南部に至り東折して上殿村



質重塊岩より形成せらる。やや西南方なる西岳(二〇三五米)とその北東方なる戸隠山(一九一〇米)を前山または表山となし、裏山として戸隠山の北方に高妻火山群に属する五地蔵山(一九九五米)・高妻山(二三三三米)・乙斐山(二三一五米)の諸峰峙つ。高妻山は最高峰にて標式的トイア型火山なり。西岳より戸隠山を経て五地蔵岳に至る凡そ一〇軒の山嶺には懸崖・奇峰並び立ち、妙義山を想はしむるものあり。山頂よりは北方に妙高山・火打岳・焼山等の諸岳指呼の間に迫り、南東方近くに飯綱山、遠くには四阿山・淺間山・八ヶ岳等の山々を望み、西方には姫川の隘谷を隔てて崇巖なる白馬連嶺を眺め、南方には白馬以南の北アルプスの雄峰を見渡す。山中高山植物に富み、山頂部なるトカチシヨウマはこの山の特有植物なり。山下の戸隠村には國幣小社戸隠神社あり。山麓に中社、山上に奥ノ院あり。古來賽者夥からず。この山は神代、天照大神天岩戸に隠れさせ給ひし際、手力雄命岩戸を押し開きて投げ給ひしものが茲に落ちて山となれりと傳へらる。また平維茂が鬼女を退治せりと傳説も名高し。山中に天ノ岩戸・鬼女退治の古蹟・釜添岩・滑岩・木曾殿古蹟等の名所あり。紅葉期の探勝は興味深し。登路は信越本線長野より柏原驛よりと、二路あれど登降路を變ふるが興趣あり。長野驛より飯綱川の西麓飯綱高原の

中央部に位する戸隠中社まで約十六軒、自動車を通ず。更に七軒にして津頂す。柏原驛よりは飯綱山と黒姫山との結合谷を流るる鳥居川に沿うて行くこと約十九軒にして戸隠中社に着す。自動車の便あり。途中念佛池まで約十三軒、これより直接奥社まで六軒、山頂に登臨す。奥社より戸隠裏山への縦走は困難なれど面白し。戸隠奥社・中社及び中社の南西方一軒なる寶光社(院)は、いづれも静寂境にあり、宿泊することを得。なほ信州蕎麥はこの地の名物なり。

トカチ 渡嘉敷村 沖繩縣琉球國鳥尻郡にある村。鹿良間群島中の最大島なる渡嘉敷島を主島とし、前島・儀志布島・黒島等の小島嶼より成る。渡嘉敷島は南北約一〇軒、東西約三軒、面積八・五方軒。古生層より成る山勢は急峻にて北部の二三四米を最高とす。山上には常緑樹繁茂し鹿等の野獸棲息す。海岸は小灣人多く沈降性を示し原生珊瑚礁は見られず。甘蔗・甘蔗・馬鈴薯等を産し低地に僅か米作り行はれ、魚族も少からず。島内の交通は渡嘉敷部より阿波連部落に通ずるのみ、海上は那覇市との間に定期發動機船の便あり。聚落は東北岸に渡嘉敷、西南岸に阿波連、外に前島の東岸にあるのみ。家の周囲にはツゲ・フギ・アカギ・ケシマ・マル・クロ・マキ等を密植し、鳥尻の如く石垣を繞らさず、村落は恰も森林の裡を呈するを特色とす。

トカチ 十勝 松前島嶼にはとがの地名見ゆ。東から漁利に注意せし江戸時代に於ては、十勝沿岸に會所・番屋の設けは他に比して多からず、寛文九年の土人の叛亂以後は一般の内地人の入るを禁止せり。然るにロシヤの東漸政策が著功を奏し、遂に我が北邊に於て相接觸するに至り、天明年間以後幕府は屢々人を派して巡察せしめ、寛政十一年には近衛守重により、現在の廣尾郡下に於て留邊志別・鶴田貫の間に蝦夷地新道が初めて開鑿され、享和二年には東蝦夷地は舉げて幕府直轄地となり、箱館奉行に統轄せらる。文政四年蝦夷地はすべて松前氏に還付されしが、安政二年再び幕府の直轄地となり、十勝沿岸は仙臺藩伊達氏の警衛の一部に入り、同六年には現在の十勝郡附近は同藩の分領となり、開發に著手す。明治維新となり、明治二年開發使置かれ、蝦夷地は北海道と改稱され、國部名の新定せらるるに際し十勝國と命名され、廣尾・當麻・大津・中川・河東・河西・十勝の七郡に分割されしが、その後の郡の廢合によりて現在河内・河東・上川・中川・十勝・廣尾の六郡となる。明治五年札幌本廳及び五支廳の置かるるや本廳の管轄に屬し、同十五年開發使置かれて置懸るるや札幌縣に屬し、同十九年廢縣されて北海道廳の管轄に屬し、同十九年廢縣されて北海道廳の管轄に屬し、同二十年には根室支廳に移管され、明治三十年には明治十三年以後廢縣

爲役所廢止されて支廳の生るるや、十勝一國を以て河西支廳が形成され、昭和七年十勝支廳と改稱されて現在に及ぶ。【十勝郡】 北海道十勝支廳管内十勝國六郡の一。國の東南部を占め、北と西は中川郡、西南は廣尾郡に接し、東北は釧路國白糠郡と界し、東南は太平洋に面す。東北部の浦幌村、西南部の大津村を含み面積一〇一六方軒。地は東北より西南に延び、中部の十勝川下流の大濕地帯によりて、地勢は東北部と西南部に兩分せらる。東北部は十勝川の支流浦幌川の流域に屬し、東境にはウツタキヌプリ山(七四五米)の南嶺南方に連りて次第に低夷し、西境にも高さ二百米程の丘陵南北に延びて自ら分水界をなす。西南部の西北境にもカンカン山(二一五米)、その他の丘陵性山地ありて、地は東南太平洋岸に傾き沿岸には長節沼・澤湖ありて、いづれも西北境より下る小流を容れ、それら沼澤の間に低き丘陵を挟む。農産に大豆・小豆・菜豆・燕麥等あれど産額は多からず。牧畜また榮え、近海には鱈・鮭・鱒・昆布等の利あり。省線根室本線は郡の中部浦幌川の流域を横きりて東南海岸に出で、下頃部・浦幌・上厚内・厚内の四驛を設け、又バスの便もあり。十勝川口の天津港は釧路・函館間補助航路船の寄港地なるも、水浅く風波の防禦に不便にして、貨物の集散盛ならず。

トカチ 十勝 十勝平野 北海道本島東南部の一平野。十勝國に屬す。西は日高山地の東縁をなす高き斷崖を以て限られ、北境には石狩山地及び然別火山群聳立し、東は第三紀層の小起伏なる白糠丘陵に接し、東南は太平洋に臨む。西北より東南に最も長く約八〇米、東西の幅凡そ六〇軒。大部分は十勝川の流域に含まる。海岸平野は更に地勢上三帯に分くるを得。即ち、西部は背後の日高山地より流下する河流の運搬せし砂礫の堆積によりて形成さるる廣き複合扇狀地帯にして、東部は未だ凝固せざる砂と礫との互層より成る眞の海岸平野地域にて、既にその原表面の大部分は浸蝕によりて失はれたるが、最高點は海拔三二〇米に達す。次に十勝川本支流の自由蛇行によりて、前記の二面を刻みし樹枝狀の谷底平野あり。附近の海岸段丘の陸方連続と見做さるべきものをも含み、河岸段丘よく發達す。平野の北部なる帶廣市を中心として耕地開くも、臺地面には原野の部分少からず、谷底平野は水田に利用せらるるも、未だ沼澤地の部分多く、海霧の襲來を受くる沿岸地帯は殆ど未墾地に占めらる。然れども産業の大宗は農業にして、近時交通の發達に伴ひ工業も亦勃興しつつあり。工業は此地方の特産なる甜菜よりの製糖を主とす。なほ産馬は古き歴史を有するもまた編羊飼育も行はる。

トカチ 十勝 十勝岳 十勝山脈の雄峰。北海道十勝支廳上川郡新得町と上川支廳上川郡美瑛村・上富良野村・富良野町の境上に跨り聳ゆ。十勝山脈はこれより北東方に延互し、美瑛岳(二〇五二米)・美瑛富士(一八八一米)等を經、トムラウツ山(二一四一米)・忠別岳(一九六三米)を過ぎて遂に大雪山嶽に連る。南西方には上ホロカメツトク山(一八八七米)及び富良野岳(一九二二米)續き、上ホロカメツトク山の南東方に一脈分岐して下ホロカメツトク山を起す。北海道中部に於ける分水嶺をなし、東斜面より十勝川發源し多くの支流を併せて南流す。西斜面より石狩川支流美瑛川源流して北西流し、同じく石狩川支流空知川の枝川富良野川・布部川發

トカチ 十勝 十勝岳 十勝山脈の雄峰。北海道十勝支廳上川郡新得町と上川支廳上川郡美瑛村・上富良野村・富良野町の境上に跨り聳ゆ。十勝山脈はこれより北東方に延互し、美瑛岳(二〇五二米)・美瑛富士(一八八一米)等を經、トムラウツ山(二一四一米)・忠別岳(一九六三米)を過ぎて遂に大雪山嶽に連る。南西方には上ホロカメツトク山(一八八七米)及び富良野岳(一九二二米)續き、上ホロカメツトク山の南東方に一脈分岐して下ホロカメツトク山を起す。北海道中部に於ける分水嶺をなし、東斜面より十勝川發源し多くの支流を併せて南流す。西斜面より石狩川支流美瑛川源流して北西流し、同じく石狩川支流空知川の枝川富良野川・布部川發

トカチ 十勝 十勝岳 十勝山脈の雄峰。北海道十勝支廳上川郡新得町と上川支廳上川郡美瑛村・上富良野村・富良野町の境上に跨り聳ゆ。十勝山脈はこれより北東方に延互し、美瑛岳(二〇五二米)・美瑛富士(一八八一米)等を經、トムラウツ山(二一四一米)・忠別岳(一九六三米)を過ぎて遂に大雪山嶽に連る。南西方には上ホロカメツトク山(一八八七米)及び富良野岳(一九二二米)續き、上ホロカメツトク山の南東方に一脈分岐して下ホロカメツトク山を起す。北海道中部に於ける分水嶺をなし、東斜面より十勝川發源し多くの支流を併せて南流す。西斜面より石狩川支流美瑛川源流して北西流し、同じく石狩川支流空知川の枝川富良野川・布部川發

トカチ 十勝 十勝岳 十勝山脈の雄峰。北海道十勝支廳上川郡新得町と上川支廳上川郡美瑛村・上富良野村・富良野町の境上に跨り聳ゆ。十勝山脈はこれより北東方に延互し、美瑛岳(二〇五二米)・美瑛富士(一八八一米)等を經、トムラウツ山(二一四一米)・忠別岳(一九六三米)を過ぎて遂に大雪山嶽に連る。南西方には上ホロカメツトク山(一八八七米)及び富良野岳(一九二二米)續き、上ホロカメツトク山の南東方に一脈分岐して下ホロカメツトク山を起す。北海道中部に於ける分水嶺をなし、東斜面より十勝川發源し多くの支流を併せて南流す。西斜面より石狩川支流美瑛川源流して北西流し、同じく石狩川支流空知川の枝川富良野川・布部川發

トカチ 十勝 十勝岳 十勝山脈の雄峰。北海道十勝支廳上川郡新得町と上川支廳上川郡美瑛村・上富良野村・富良野町の境上に跨り聳ゆ。十勝山脈はこれより北東方に延互し、美瑛岳(二〇五二米)・美瑛富士(一八八一米)等を經、トムラウツ山(二一四一米)・忠別岳(一九六三米)を過ぎて遂に大雪山嶽に連る。南西方には上ホロカメツトク山(一八八七米)及び富良野岳(一九二二米)續き、上ホロカメツトク山の南東方に一脈分岐して下ホロカメツトク山を起す。北海道中部に於ける分水嶺をなし、東斜面より十勝川發源し多くの支流を併せて南流す。西斜面より石狩川支流美瑛川源流して北西流し、同じく石狩川支流空知川の枝川富良野川・布部川發

トカチ 十勝 十勝岳 十勝山脈の雄峰。北海道十勝支廳上川郡新得町と上川支廳上川郡美瑛村・上富良野村・富良野町の境上に跨り聳ゆ。十勝山脈はこれより北東方に延互し、美瑛岳(二〇五二米)・美瑛富士(一八八一米)等を經、トムラウツ山(二一四一米)・忠別岳(一九六三米)を過ぎて遂に大雪山嶽に連る。南西方には上ホロカメツトク山(一八八七米)及び富良野岳(一九二二米)續き、上ホロカメツトク山の南東方に一脈分岐して下ホロカメツトク山を起す。北海道中部に於ける分水嶺をなし、東斜面より十勝川發源し多くの支流を併せて南流す。西斜面より石狩川支流美瑛川源流して北西流し、同じく石狩川支流空知川の枝川富良野川・布部川發



トカチ——トカミ

ク・忠別岳を経て大雪山麓に至る連嶺を眺め、北東方は十勝川上源を距てて石狩山麓と對峙し、北海道中央部に於ける高岳巨峯を一眸に収め得らる。十勝岳附近は北海道に於ける代表的スキー地にして、冬季は北海道帝國大學山岳部員等のスキー合宿練習者にて賑ふ。十二月初旬より翌年三月まで二―三米の積雪あり、雪質は好適なる粉雪なり。硫黄岳の南西方に當る吹上温泉を中心として十勝岳第一次外輪山・三段山(一七二〇米)・上ホロメツトク山・富良野岳・美瑛岳等へ一日行程にて興味あるスキー登山をなし得らる。硫黄岳の南にはスキー練習場、西にはスキー小屋白銀荘・勝岳荘あり。數年前世界的スキー家シユナイダー氏も此地を訪れたり。登路は富良野線上富良野驛下車、吹上温泉まで約一八軒、自動車を通ず。吹上温泉は飛澤温泉または瀧ノ湯とも云ひ、針葉樹林中の静寂なる山の温泉にして、西方に富良野平野を望見す。温泉より山頂まで約六軒、登高比較的容易なり。針葉混生林を過ぐれば山頂部の熔岩礫地帯に出づ、ここには假松その他の高山植物を多く見る。東側、十勝川を廻行して登攀し得らるるも困難なり。またトムラツ山・大雪山方面への縦走も將來興味深きものたらん。

二六・九軒、帯廣市の新帯廣驛より帯廣大通驛に至る〇・五軒、藤野より河西郡芽室村の上美生驛に至る二〇・七軒、芽室村の常盤驛より川西村の八千代驛に至る二二・一軒、南太平驛より同村の戸島驛に至る三三・一軒の諸驛より成る。軌間は一〇・六七米と〇・七六二米を併用し、省線と連帯運輸。  
【十勝清水】 根室本線の一驛(明治四十年設置)にして河西鐵道の起點。北海道十勝國上川郡清水村にあり。  
トカノ 斗賀野村 高知縣土佐國高岡郡の東北部。北は佐川町に接し、南は須崎町との間に吾桑・多ノ郷二村を隔つ。面積二五・五九方軒。四周山地を繞らし、東南境には虚空藏山(六七五米)、西南境には蟻蛇森(七六九米)等時つ。中央北部と東北部には小平地ありて耕地をなす。瓦・葦の製造行はれ、また生絲を産し、農・林産に米・麥・繭・木材等あり。省線土讚線中部を南北に貫きて斗賀野驛(大正十三年設置)を置き、縣道ほほ之に沿ひ須崎・佐川兩町へバスを通ず。佐伯文書曆三年の條に度賀野又太郎入道あり。本村の人なるべし。大字永野の郷社龍巖神社境内に龍巖あり。神社の附近一帶は石灰岩脈にして、神社の背後に巨巖あり。其上部には飯に似た岩ありて、下部は疊々たる岩石が自然の壘の形をなせるを以て壘岩と稱せらる。其下の壘を成せる所は數間の空洞となりてこれ

をくぐることを得、俗に胎内くぐりと稱せらる。(龍巖神社) 大字永野に龍座。郷社。祭神、宇迦之御魂神。古來當村西組部落の産土神たり。例祭、七月八日・十一月八日。「白倉神社」 大字冷泉に龍座。祭神、冷泉天皇。古來當村の中組・西組・虹山・大平等各部落の産土神たり。例祭、四月十八日・十一月二十三日。  
トカノ 都賀野・蒐餓野 【都賀野・蒐餓野】 また刀我野・斗賀野にも作り、ツカノともいふ。之に就きては二箇所推定さる。一は仁徳天皇が八田皇后と共に鳴く鹿の聲を聞かせたまひし所、即ち今の大阪市天満の附近。一は應仁天皇の庶兄鹿坂・押熊の二王が九州より還啓の神功皇后を襲はんとて、斬殺をなして狩に出でし所。攝津風土記によれば今の神戸市の夢野の邊といふ。これは何れが一箇處ならんとの説もあれど、今假に定め難し。  
【都賀野】 兵庫縣武庫郡にありし村。明治二十八年西灘村と改稱し、次いで昭和四年神戸市に編入す。

トカノオ 梶尾 京都市右京區の山中、梅畑高尾町にある洛西紅葉の名所の一。高尾(高尾)・梶尾と共に觀楓三尾の勝と稱せらる。地は保津川に注ぐ清瀧川の清流の右岸に位し、明惠上人中興の高山寺あり。附近に擬寶珠關干の白雲橋あり、前室西が支那より傳來せる茶を植ふたりといふ茶畑あり。  
トカハマ 都賀濱 兵庫縣武庫郡にありし村。大正三年西灘町と改稱し、昭和四年には神戸市に編入す。  
トカミ 十福山 安來町(高根縣)にある山。  
トカミ 土甘・砥上 【土甘・砥上】 相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に高座郡土甘郷あり。源平盛衰記に佐佐木高綱が名馬池月を源頼朝より賜はり鎌倉を辭して西に向ふ條に片瀬川砥上原を經たりとある砥上も此の地を稱せしもの。當時、砥上原は多く河藻に入りり。西行物語「榮松のくすの茂みに妻こめてとかみか原にをしか鳴くなり。歌枕名寄「浦近きとかみか原に駒とめて片瀬の川の沙干をそ待つ 鴨長明」その地いま片瀬川(いま境川)の西岸藤澤町の邊をいふ。  
【砥上原】 ↓土甘・砥上 【砥上】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に三毛郡砥上郡あり。その地審かならざるも、いま三池郡銀水村・開村の邊ならんか。

トカミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡中津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、礫石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峻峻蒼翠可掬」とあり。西北麓は椿ヶ鼻を經て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トカラ 土噶喇

【土噶喇諸島】 ↓寶七島 【土噶喇島】 ↓寶島

トカリ 戸莉

【戸莉】 越前國(福井縣)の古地名。和名抄に足羽郡戸莉郷あり、止加利と註す。刊本は戸莉に作るも高山寺本によりて戸莉とす。其地いま何れの邊なるか不詳。  
【戸莉池】 書紀、推古天皇の十五年に河内國(大阪府)に掘られたる池の一。河内志には戸莉池は古市郡藏内村にありと見ゆ。藏内はいま南河内郡西浦村の大字藏之内なるべく、其地いま明らかならず。

トカリ 利刈

和名抄に群馬郡利刈郷あり、止加利と註す。延喜式左馬寮式に上野の九牧を擧げ利刈を筆頭に置く。其の地審かならざるもいま金島村・長尾村の邊ならんか。

トカリ 登利

和名抄に長岡郡登利郷見ゆ。鳥加里と訓ずれども、高山寺本には安賀利と註す。姑くトカリに從ふ。その地城詳かならざるも或はいま十市村・三里村の邊ならんか。

トカワ 砥川村

佐賀縣肥前國小城郡の南部。六角川支流牛津川の左岸に位し、東は牛津町に隣り、西と南は杵島郡江北村と界し、佐賀市を距る西方約一〇軒。面積八・三八方軒。西北部に低山地あるを除けば土地低平にして田畑よく拓げ、米・麥・菜種等を産し副業には養

トカラ——トキ

蠶行はる。長崎街道(國道)中部を南北に走りてバスを通じ省線長崎線またこれに並行し、その牛津驛・肥前山日驛(江北村内)にも近く交通便利なり。(常福寺) 大字上砥川にあり。臨濟宗妙心寺派。廣嚴山。俗稱、西山大師。平安朝初期の創建に係り、初め眞言宗なりしが、室町時代の末、住持古月の時より現宗に改む。本尊藥師如來坐像(木造)・帝釋天立像(木造)は共に國寶。  
トカワ 砥河 安房國(千葉縣)の古地名。和名抄に平郡砥河郷見ゆ。その地いま審かならざるも凡そ安房郡國府村・津田村の邊ならん。

トカワ 十川村

高知縣土佐國幡多郡の北部。四方十川(渡川)中流の山谷に位し、東は昭和村、西は江川崎村に隣り、北は愛媛縣北宇和郡日吉村と界す。面積五九方軒餘。南境には鷹ノ巣山(六五五米)の山嶺東西に延び、北境に長山(九四〇米)山地連り、それらの山脚村内に延びて殆ど山地をなし山林多し。四方十川大蛇行をなして中部を東西に貫流し其川岸と支谷に沿ひて狭小の低地あり、縣道は中部を東西に通じ、東は高岡郡窪川方面へ、西は愛媛縣に出で省線宇和島線吉野生驛へバスの便あるも、交通は不便なるを免れず。古くは上山郷の内とす。(星神社) 大字大野に龍座。郷社。祭神、北斗七星。日碑によれば、往古、當郡鳥村の東峰妙見の馬場なる地に怪し

トキ 土岐

岐阜縣十八郡の一。美濃國の一部にて、縣の南東部。土岐川の流域一帯を占め、東は惠那郡に、北は木曾川を境として加茂郡に、西は可見郡に接し、南は愛知縣西加茂郡(三河國)・東春井郡(尾張國)と界す。面積三二三方軒餘。木曾山脈の餘波を受け、謂はゆる東濃山地

トキ 土岐

き鼓笛の音聲を發し、夜に至れば星光照として現はるること數月、土人奇異の思ひをなし神託を乞ひしに、十川郷の鎮護神となるべしとの託宣ありしを以てこれを齋ひ祀りしに始るといふ。例祭、七月二十二日、十月十八日。  
トカワ 斗川村 香森縣陸奥國三戸郡の南部。三戸町の西に隣り、南は岩手縣二戸郡金田一村・斗米村に接す。面積四一方軒餘。村の中北部を馬淵川の支流熊原川東北に流れ、沿岸に耕地拓げ、南及び北の境目には高さ二百米臺の高原狀山地ありて、何れも熊原川の谷に緩斜す。純農村にして米・稗・大豆・麥・馬鈴薯を産し、また木炭を出す。毛馬内街道は低地の北縁を略東西に通じ、東方三戸町の省線東北本線三戸驛と西隣田子町間のバスの路線をなす。

トキ 刀岐

但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄に二方郡刀岐郷あり。其地いま明らかならずも或は美方郡照來村の邊を云ふか。蓋し照來、刀岐の音相近きを以てなり。

トキ 土岐

岐阜縣十八郡の一。美濃國の一部にて、縣の南東部。土岐川の流域一帯を占め、東は惠那郡に、北は木曾川を境として加茂郡に、西は可見郡に接し、南は愛知縣西加茂郡(三河國)・東春井郡(尾張國)と界す。面積三二三方軒餘。木曾山脈の餘波を受け、謂はゆる東濃山地

トキ 土岐

の南部に富り山地を懸すれども高度は東境の屏風山(七九四米)、南界の三國山(七〇一米)等を著しきものとし、平均三三四百米の高原性丘陵山地をなす處多し。中央を土岐川(上流は竹折川)東北より西南に貫流し、尾張國に入りて庄内川となり、その本支流の谷に幅狭き沖積平地ありて耕地は主としてここに拓く。農業は米・農産に米・繭・麥・甘藷等あるも産額多からず。然れども木曾山脈の花崗岩の分解流堆によりて成れる蛙目土・木節土等の良質陶土に恵まれ、多治見・土岐津兩町を中心に河川沿岸の諸町村には到る處窯業行はれ、謂はゆる美濃燒の産地として著はれ我國第一の窯業地帯をなし、年産千二百萬圓に及ぶ。交通には古く中山道ありて惠那郡より竹折川(土岐川上流)に沿ひて下り、郡の中央の瑞浪町より北折して可見郡御嵩町を經て岐阜市に向ひ、下街道こより岐れて土岐川谷を下りて愛知縣に出で名古屋市内に達し、その他に數條の縣道ありて何れもバスの便あり。また省線中央本線は中山道・下街道に並走して郡内を貫通し、その土岐津驛にては、東南方駄知町に通ずる社線駄知鐵道を、多治見驛にては、西北方に向ふ太多線と南方笠原町に至る社線笠原鐵道に連絡す。書紀天武五年の條に藤原郡と見ゆるは後の土岐郡にして、類聚國史延暦十九年の條に初めて土岐郡の名見ゆ。和名抄は日吉・繪原・異味・土岐の

トキ 土岐